

京都府遺跡調査報告集

第172冊

寺町旧域・法成寺跡

2018

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



墓地全景(西から)



土坑S K99全景(東から)



(1) 土坑 S K 80 出土遺物



(2) 墓穴 S T 215 出土遺物



(1) 墓穴 S T 191 出土遺物



(2) 墓穴 S T 195 出土遺物

序

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年4月に設立されて以来、37年間にわたって京都府内の各地域に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

これらの調査成果を広く府民の皆様方にお伝えし、我々の祖先の歩んできた跡を多くの方々に知っていただくよう努めることが責務だと考えております。

本書は、平成26年度から28年度に京都府教育委員会の依頼を受けて実施した、京都市寺町旧域・法成寺跡の発掘調査報告を収録したものです。本書を学術研究の資料として、また、地域の歴史や埋蔵文化財への関心と理解を深めるために、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された京都府教育委員会をはじめ、京都市文化市民局などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理 事 長 井 上 満 郎

例 言

1. 本書に取めた報告は下記のとおりである。

寺町旧域・法成寺跡

2. 遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	経 費 負 担 者	執 筆 者
寺町旧域・法成寺跡	京都市上京区寺町荒神口 下ル松蔭町 131 他	平成 26 年 6 月 9 日～平 成 28 年 8 月 2 日	京都府	中川和哉 綾部悠真 引原茂治 岡崎研一 清水早織

3. 上記 1 事業 2 遺跡は本部事務所(向日市寺戸町)で整理・報告作業を実施した。作業については、調査担当者の指示のもと調査課企画調整係が協力して実施した。

4. 本書で使用している座標は、世界測地系国土地標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

5. 土層断面等の土色や出土遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。

6. 本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

7. 現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、主として調査課企画調整係主査田中彰が行った。

本文目次

寺町旧域・法成寺跡発掘調査報告

1. はじめに	1
2. 位置と環境	2
3. 調査の経過・概要	5
4. 調査の方法	6
5. 北地区の調査	8
6. 南地区の調査	38
7. 京都府教育委員会立会調査出土遺物	206
8. 遺構・遺物の検討(総括)	207
付編1 寺町旧域・法成寺跡の自然科学分析	225
付編2 寺町旧域・法成寺跡出土の人骨資料	230

挿図目次

寺町旧域・法成寺跡

第1図	調査地及び周辺遺跡分布図	3
第2図	調査地周辺景観図	4
第3図	調査トレンチ配置図	6
第4図	調査地地区割り図	7
第5図	北地区断面実測位置図	9
第6図	北地区土層断面図(1)	10
第7図	北地区土層断面図(2)	11
第8図	北地区土層断面図(3)	12
第9図	北地区遺構配置図(1)	14
第10図	北地区遺構配置図(2)	15
第11図	北地区遺構実測図(1)	16
第12図	北地区遺構実測図(2)	17
第13図	北地区遺構実測図(3)	18
第14図	北地区遺構実測図(4)	20
第15図	北地区遺構実測図(5)	21
第16図	北地区遺構実測図(6)	23

第17图	北地区遺構実測図(7)	24
第18图	北地区遺構実測図(8)	25
第19图	北地区遺構実測図(9)	26
第20图	北地区遺構実測図(10)	27
第21图	北地区出土遺物実測図(1)	29
第22图	北地区出土遺物実測図(2)	30
第23图	北地区出土遺物実測図(3)	31
第24图	北地区出土遺物実測図(4)	32
第25图	北地区出土遺物実測図(5)	33
第26图	北地区出土遺物実測図(6)	34
第27图	北地区出土遺物実測図(7)	35
第28图	北地区出土遺物実測図(8)	36
第29图	南地区断面実測位置図	39
第30图	南地区土層断面図(1)	40
第31图	南地区土層断面図(2)	41
第32图	南地区土層断面図(3)	41
第33图	南地区土層断面図(4)	42
第34图	南地区土層断面図(5)	43
第35图	南地区土層断面図(6)	44
第36图	南地区遺構配置図(1)	44
第37图	南地区遺構配置図(2)	46
第38图	南地区遺構配置図(3)	47
第39图	南地区遺構実測図(1)	48
第40图	南地区遺構実測図(2)	49
第41图	南地区遺構実測図(3)	51
第42图	南地区遺構実測図(4)	52
第43图	南地区遺構実測図(5)	54
第44图	南地区遺構実測図(6)	56
第45图	南地区遺構実測図(7)	58
第46图	南地区遺構実測図(8)	60
第47图	南地区遺構実測図(9)	61
第48图	南地区出土遺物実測図(1)	63
第49图	南地区出土遺物実測図(2)	64
第50图	南地区出土遺物実測図(3)	65
第51图	南地区出土遺物実測図(4)	67

第52图	南地区出土遗物实测图(5)	68
第53图	南地区出土遗物实测图(6)	69
第54图	南地区出土遗物实测图(7)	71
第55图	南地区出土遗物实测图(8)	72
第56图	南地区出土遗物实测图(9)	74
第57图	南地区出土遗物实测图(10)	75
第58图	南地区出土遗物实测图(11)	76
第59图	南地区出土遗物实测图(12)	77
第60图	南地区出土遗物实测图(13)	78
第61图	南地区出土遗物实测图(14)	79
第62图	南地区出土遗物实测图(15)	80
第63图	南地区出土遗物实测图(16)	81
第64图	南地区出土遗物实测图(17)	82
第65图	南地区出土遗物实测图(18)	84
第66图	南地区出土遗物实测图(19)	85
第67图	南地区出土遗物实测图(20)	86
第68图	南地区出土遗物实测图(21)	86
第69图	南地区墓群配置图	87
第70图	墓群1 平面·断面图	88
第71图	墓群1 S T 381·91·94·95实测图	89
第72图	墓群2 平面·断面图	90
第73图	墓群2 S T 21·85·67·S K 66实测图	92
第74图	墓群3 平面·断面图	94
第75图	墓群3 S T 42·55·190·355·S K 78实测图	96
第76图	墓群4 平面·断面图	98
第77图	墓群4 S T 350·197·24实测图	100
第78图	墓群5 平面·断面图	102
第79图	墓群5 S K 30·S T 58·23·31实测图	103
第80图	墓群6 平面·断面图	104
第81图	墓群6 S T 48实测图	105
第82图	墓群7 平面·断面图	106
第83图	墓群6·7 S T 48·49实测图	107
第84图	墓群8 平面·断面图	108
第85图	墓群8 S K 40·S T 324实测图	108
第86图	墓群9 平面·断面图	109

第87图	墓群9	S T 29 · 321实测图	110
第88图	墓群10	平面 · 断面图	112
第89图	墓群10	S T 50实测图	113
第90图	墓群11	平面 · 断面图	114
第91图	墓群11	S T 69 · 70实测图	115
第92图	墓群12	平面 · 断面图	117
第93图	墓群12	S T 56 · 57 · 161 · 162 · 218 · 219实测图	118
第94图	墓群12	S T 54 · 195 · 63实测图	120
第95图	墓群12	S T 196 · 62实测图	121
第96图	墓群13	平面 · 断面图	122
第97图	墓群13	S T 127 · 415 · 416 · 230实测图	124
第98图	墓群13	S T 213 · 214 · 215 · 226 · 170 · 144实测图	126
第99图	墓群13	S T 140 · 141 · 158 · 205 · 242 · 241实测图	128
第100图	墓群14	平面 · 断面图	130
第101图	墓群14	S K 61 · S T 424 · 434 · 428 · 191实测图	132
第102图	墓群14	S T 222 · 221 · 207 · 201 · 202 · 189实测图	134
第103图	墓群15	平面 · 断面图	136
第104图	墓群15	S K 89 · S T 179 · 231 · 233实测图	138
第105图	墓群15	S T 235 · 444 · 446 · 192 · S K 167实测图	140
第106图	墓群16	平面 · 断面图	142
第107图	墓群16	S K 157 · S T 456 · 250 · 239 · 240 · 259 · 208 · 216实测图	144
第108图	墓群17	平面 · 断面图	146
第109图	墓群17	S T 81 · 469 · 199 · 385 · 388 · 243实测图	148
第110图	墓群17	S T 188 · 122实测图	149
第111图	南地区	S K 99实测图(1)	150
第112图	南地区	S K 99实测图(2)	151
第113图	南地区	S K 471 · S E 100实测图	153
第114图	南地区	SE 113实测图(1)	154
第115图	南地区	SE 113实测图(2)	155
第116图	南地区	S K 80 · 178 · 139实测图	157
第117图	南地区	S K 12 · 111 · S E 129实测图	158
第118图	南地区	墓地出土遺物实测图(1)	161
第119图	南地区	墓地出土遺物实测图(2)	162
第120图	南地区	墓地出土遺物实测图(3)	164
第121图	南地区	墓地出土遺物实测图(4)	165

第122図	南地区墓地出土遺物実測図(5)	166
第123図	南地区墓地出土遺物実測図(6)	168
第124図	南地区墓地出土遺物実測図(7)	170
第125図	南地区墓地出土遺物実測図(8)	172
第126図	南地区墓地出土遺物実測図(9)	173
第127図	南地区墓地出土遺物実測図(10)	174
第128図	南地区墓地出土遺物実測図(11)	175
第129図	南地区墓地出土遺物実測図(12)	176
第130図	南地区墓地出土遺物実測図(13)	177
第131図	南地区墓地出土遺物実測図(14)	178
第132図	南地区墓地出土遺物実測図(15)	179
第133図	南地区墓地出土遺物実測図(16)	180
第134図	南地区墓地出土遺物実測図(17)	182
第135図	南地区墓地出土遺物実測図(18)	183
第136図	南地区墓地出土遺物実測図(19)	184
第137図	南地区墓地出土遺物実測図(20)	186
第138図	南地区墓地出土遺物実測図(21)	187
第139図	南地区墓地出土遺物実測図(22)	188
第140図	南地区墓地出土鉄釘	189
第141図	南地区墓地出土銭貨(1)	190
第142図	南地区墓地出土銭貨(2)	191
第143図	石造物の計測名称図	193
第144図	墓標分類図	194
第145図	台座模式図	196
第146図	石造物実測図(1)	198
第147図	石造物実測図(2)	199
第148図	石造物実測図(3)	200
第149図	石造物実測図(4)	201
第150図	石造物実測図(5)	202
第151図	石造物拓本(1)	203
第152図	石造物拓本(2)	204
第153図	石造物拓本(3)	205
第154図	鴨沂高校グラウンドフェンス支柱工事出土瓦	206
第155図	寺町旧城復元図	209
第156図	寺町全体図及び調査地周辺拡大図	210

第157図	墓域復元図	212
第158図	紀年銘墓標の推移	215
第159図	紀年銘墓標の推移(1590~1609年)	215
第160図	墓標形式の変遷	216
第161図	戒名別使用数量	217
第162図	戒名の変遷	218
第163図	S K 99・S E 113における紀年銘墓標の推移	220

付 表 目 次

寺町旧域・法成寺跡

付表1	北地区近世瓦タイプ別個体数	37
付表2	南地区近世瓦タイプ別個体数	83
付表3	出土墓石総数一覧	192
付表4	台座の形式構成	219
付表5	主要遺構出土墓石の年代	221
付表6	墓穴一覧	236
付表7	土器・土製品観察表	250
付表8	瓦観察表	281
付表9	石製品観察表	283
付表10	鉄釘・青銅製品・ガラス製品観察表	283
付表11	銭観察表	285
付表12	墓石計測一覧	310

図 版 目 次

寺町旧域・法成寺跡

巻頭図版1	墓地全景(西から)
巻頭図版2	土坑S K 99全景(東から)
巻頭図版3	(1)土坑S K 80出土遺物 (2)墓穴S T 215出土遺物
巻頭図版4	(1)墓穴S T 191出土遺物 (2)墓穴S T 195出土遺物

- 図版第1 (1)北地区北西部(6トレンチ)全景(北西から)
(2)北地区北西部(6トレンチ)全景(南西から)
- 図版第2 (1)北地区北西部(6トレンチ)全景(南東から)
(2)北地区中央部(1トレンチ)全景(北から)
- 図版第3 (1)北地区溝SD18(南から)
(2)北地区溝SD18(北から)
- 図版第4 (1)北地区溝SD18断面(北から)
(2)北地区溝SD18(南西から)
- 図版第5 (1)北地区土坑SK20(東から)
(2)北地区土坑SK20(北から)
- 図版第6 (1)北地区土坑SK01・02(東から)
(2)北地区土坑SK03(西から)
- 図版第7 (1)北地区柱穴SP13~17、土坑SK10(西から)
(2)北地区土坑SK10断面(南から)
- 図版第8 (1)北地区土坑SK09・21(南から)
(2)北地区土坑SK21断面(南から)
- 図版第9 (1)北地区土坑SK08断面(南から)
(2)北地区土坑SK08(南から)
- 図版第10 (1)北地区井戸SE29(南から)
(2)北地区井戸SE29(北西から)
- 図版第11 (1)北地区溝SD12・23(西から)
(2)北地区土坑SK19断面(西から)
- 図版第12 (1)北地区土坑SK04(南から)
(2)北地区土坑SK04(北西から)
- 図版第13 (1)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)
(2)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)
- 図版第14 (1)北地区土坑SK01(南から)
(2)北地区柱穴SP15(南から)
(3)北地区柱穴SP11(南から)
- 図版第15 (1)北地区柱穴SP06(南から)
(2)北地区柱穴SP05(東から)
(3)北地区柱穴SP07(北から)
- 図版第16 (1)北地区柱穴SP17(南から)
(2)北地区柱穴SP17(南から)
(3)北地区柱穴SP16(西から)

- 図版第17 (1)北地区北東部(3トレンチ)全景(北西から)
(2)北地区北東部(3トレンチ)全景(南東から)
- 図版第18 (1)北地区柱穴S P31~33・土坑S K30・34・35検出状況(西から)
(2)北地区土坑S K36(南西から)
- 図版第19 (1)北地区溝S D37(南から)
(2)北地区土坑S K42・43、柱穴S P44・45(南東から)
- 図版第20 (1)北地区溝S D91、柱穴S P92・93(南東から)
(2)北地区土坑S K97・99、溝S D100(北西から)
- 図版第21 (1)北地区土坑S K96(南から)
(2)北地区土坑S K96断面(西から)
- 図版第22 (1)北地区土坑S K96礎石(南東から)
(2)北地区土坑S K96(西から)
- 図版第23 (1)北地区土坑S K96(南から)
(2)北地区土坑S K97・99(西から)
- 図版第24 (1)北地区土坑S K99断面(西から)
(2)北地区土坑S K97(西から)
- 図版第25 (1)北地区溝S D100(東から)
(2)北地区溝S D100断面(東から)
- 図版第26 (1)北地区土坑S K101(東から)
(2)北地区土坑S K101断面(東から)
- 図版第27 (1)北地区北西部(6トレンチ)断ち割り状況(南東から)
(2)北地区北西部(6トレンチ)断ち割り断面(東から)
- 図版第28 (1)北地区中央部(3トレンチ)断面(東から)
(2)北地区北東部(3トレンチ)断ち割り状況(西から)
- 図版第29 (1)北地区南部(8トレンチ)断ち割り状況(北西から)
(2)北地区西部(11トレンチ)断面(南から)
- 図版第30 (1)南地区北部(5トレンチ)全景(北から)
(2)南地区北部(5トレンチ)全景(東から)
- 図版第31 (1)南地区中央部(2トレンチ西半)(南から)
(2)南地区中央部(2トレンチ東半)(南から)
- 図版第32 (1)南地区櫛列S A01(東から)
(2)南地区中央部(2トレンチ東半)柱穴群(東から)
- 図版第33 (1)南地区建物S B01(西から)
(2)南地区瓦敷S X529(東から)
- 図版第34 (1)南地区瓦列S X629(西から)

- (2)南地区瓦列 S X 629(東から)
- 図版第35 (1)南地区瓦列 S X 630(南から)
(2)南地区瓦列 S X 630(北から)
- 図版第36 (1)南地区瓦列 S X 630(西から)
(2)南地区石室 S K 628断面(南から)
- 図版第37 (1)南地区石室 S K 628、瓦列 S X 629(南から)
(2)南地区石室 S K 628(南から)
- 図版第38 (1)南地区石室 S K 628(東から)
(2)南地区不明遺構 S X 609(南から)
- 図版第39 (1)南地区不明遺構 S X 631(西から)
(2)南地区土坑 S K 526東半(西から)
- 図版第40 (1)南地区土坑 S K 526東半(東から)
(2)南地区土坑 S K 526断面(東から)
- 図版第41 (1)南地区南西部(7トレンチ)(東から)
(2)南地区南西部(7トレンチ)(東から)
- 図版第42 (1)南地区溝 S D 738、磔敷 S X 739、溝 S D 741(南東から)
(2)南地区溝 S D 738、磔敷 S X 739(南東から)
- 図版第43 (1)南地区溝 S D 741(東から)
(2)南地区溝 S D 741(南東から)
- 図版第44 (1)南地区溝 S D 738断面(第42図 a - a'・西から)
(2)南地区溝 S D 741断面(第43図 b - b'・東から)
(3)南地区溝 S D 741断面(第43図 a - a'・東から)
- 図版第45 (1)南地区柱穴 S P 714、溝 S D 817(南東から)
(2)南地区溝 S D 817(南東から)
(3)南地区柱穴 S P 714(南東から)
- 図版第46 (1)南地区井戸 S E 711(南東から)
(2)南地区井戸 S E 711(南東から)
- 図版第47 (1)南地区井戸 S E 706・707(東から)
(2)南地区井戸 S E 128(南西から)
- 図版第48 (1)南地区溝 S D 124(北から)
(2)南地区溝 S D 124(北東から)
- 図版第49 (1)南地区溝 S D 124(北から)
(2)南地区南西部(7トレンチ)断面(南東から)
- 図版第50 (1)南地区北部(9トレンチ)全景(北西から)
(2)南地区北部(9トレンチ)断面(北西から)

- (3)南地区北部(10トレンチ)断面(東から)
- 図版第51 (1)南地区北東部(4トレンチ)検出状況(南西から)
(2)墓地完掘状況(北から)
- 図版第52 (1)墓地完掘状況(西から)
(2)墓地完掘状況(北西から)
- 図版第53 (1)墓地東壁断面(南西から)
(2)墓地東壁断面(西から)
- 図版第54 (1)墓地墓群2検出状況(北から)
(2)墓地墓群2墓穴S T 87付近断面(北東から)
- 図版第55 (1)墓地墓群2墓穴S T 85(北西から)
(2)墓地墓群2墓穴S T 85(北西から)
- 図版第56 (1)墓地墓群2墓穴S T 85遺物出土状況(北から)
(2)墓地墓群2墓穴S T 21人骨・遺物出土状況(北から)
- 図版第57 (1)墓地墓群2墓穴S T 47銭貨出土状況(北西から)
(2)墓地墓群2土坑S K 66墓石出土状況(北から)
- 図版第58 (1)墓地墓群3不明土坑S X 363断面(西から)
(2)墓地墓群3墓穴S T 55墓石出土状況(東から)
- 図版第59 (1)墓地墓群3墓穴S T 55甕棺出土状況(東から)
(2)墓地墓群3墓穴S T 55甕棺内墓石出土状況(東から)
- 図版第60 (1)墓地墓群3墓穴S T 55甕棺完掘状況(東から)
(2)墓地墓群3墓穴S T 355遺物出土状況(西から)
- 図版第61 (1)墓地墓群3墓穴S T 190墓石出土状況(西から)
(2)墓地墓群3土坑S K 78遺物出土状況(北から)
- 図版第62 (1)墓地墓群4墓穴S T 24墓石出土状況(東から)
(2)墓地墓群4墓穴S T 24断面(南から)
- 図版第63 (1)墓地墓群4墓穴S T 24断面(南から)
(2)墓地墓群4墓穴S T 24棺痕跡(南から)
- 図版第64 (1)墓地墓群4墓穴S T 197遺物出土状況(南から)
(2)墓地墓群4墓穴S T 197遺物出土状況(南から)
- 図版第65 (1)墓地墓群5土坑S K 30上層墓石出土状況(南から)
(2)墓地墓群5土坑S K 30下層墓石出土状況(東から)
- 図版第66 (1)墓地墓群5墓穴S T 31人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群5墓穴S T 31木質断面(北西から)
- 図版第67 (1)墓地墓群6・7墓穴S T 48・49断面(北から)
(2)墓地墓群7墓穴S T 49甕棺検出状況(北から)

- 図版第68 (1) 墓地墓群7 墓穴S T 49甕棺内断面(北から)
(2) 墓地墓群7 墓穴S T 49甕棺完掘状況(北から)
- 図版第69 (1) 墓地墓群8 土坑S K 40墓石出土状況(北から)
(2) 墓地墓群9 墓穴S T 29断面(北から)
- 図版第70 (1) 墓地墓群9 墓穴S T 29甕棺内断面(北から)
(2) 墓地墓群9 墓穴S T 29甕棺完掘状況(北から)
- 図版第71 (1) 墓地墓群10墓穴S T 50断面(西から)
(2) 墓地墓群10墓穴S T 50蔵骨器出土状況(西から)
- 図版第72 (1) 墓地墓群11墓穴S T 69木質出土状況(東から)
(2) 墓地墓群11墓穴S T 69漆器出土状況(東から)
- 図版第73 (1) 墓地墓群11墓穴S T 70木質・遺物出土状況(東から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 62付近断面(北東から)
- 図版第74 (1) 墓地墓群12墓穴S T 62人骨出土状況(東から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 54(東から)
- 図版第75 (1) 墓地墓群12墓穴S T 54甕棺検出状況(東から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 54甕棺内人骨出土状況(東から)
- 図版第76 (1) 墓地墓群12墓穴S T 54甕棺完掘状況(東から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 54断面(東から)
- 図版第77 (1) 墓地墓群12墓穴S T 63人骨出土状況(東から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 56・57断面(東から)
- 図版第78 (1) 墓地墓群12墓穴S T 56人骨・遺物出土状況(西から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 196付近断面(北西から)
- 図版第79 (1) 墓地墓群12墓穴S T 218人骨出土状況(西から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 219人骨・遺物出土状況(西から)
- 図版第80 (1) 墓地墓群12墓穴S T 162人骨出土状況(西から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 162人骨出土状況(西から)
- 図版第81 (1) 墓地墓群12墓穴S T 162人骨・遺物出土状況(西から)
(2) 墓地墓群12墓穴S T 174銭貨出土状況(南西から)
- 図版第82 (1) 墓地墓群12墓穴S T 164木質出土状況(東から)
(2) 墓地墓群13墓穴S T 414付近断面(北東から)
- 図版第83 (1) 墓地墓群13墓穴S T 144墓石出土状況(西から)
(2) 墓地墓群13墓穴S T 215・226遺物出土状況(西から)
- 図版第84 (1) 墓地墓群13墓穴S T 215断面(西から)
(2) 墓地墓群13墓穴S T 215遺物出土状況(西から)
- 図版第85 (1) 墓地墓群13墓穴S T 215遺物出土状況(北から)

- (2) 墓地墓群13墓穴 S T 226遺物出土状況(西から)
- 図版第86 (1) 墓地墓群13墓穴 S T 140・141人骨出土状況(北から)
(2) 墓地墓群13墓穴 S T 140人骨出土状況(東から)
- 図版第87 (1) 墓地墓群13墓穴 S T 141人骨出土状況(南東から)
(2) 墓地墓群13墓穴 S T 158遺物出土状況(東から)
- 図版第88 (1) 墓地墓群13墓穴 S T 158南側出土漆器碗(東から)
(2) 墓地墓群13墓穴 S T 158北側出土漆器碗(東から)
- 図版第89 (1) 墓地墓群14土坑 S K 61上層墓石出土状況(北から)
(2) 墓地墓群14土坑 S K 61下層墓石出土状況(南から)
- 図版第90 (1) 墓地墓群14墓穴 S T 424遺物出土状況(西から)
(2) 墓地墓群14墓穴 S T 191遺物出土状況(西から)
- 図版第91 (1) 墓地墓群14墓穴 S T 238蔵骨器出土状況(南から)
(2) 墓地墓群14墓穴 S T 224錢貨出土状況(東から)
- 図版第92 (1) 墓地墓群14墓穴 S T 221人骨・遺物出土状況(西から)
(2) 墓地墓群14墓穴 S T 207人骨・遺物出土状況(北東から)
- 図版第93 (1) 墓地墓群14墓穴 S T 201・202人骨・遺物出土状況(東から)
(2) 墓地墓群14墓穴 S T 201人骨出土状況(東から)
- 図版第94 (1) 墓地墓群14墓穴 S T 201人骨出土状況(北から)
(2) 墓地墓群14墓穴 S T 189人骨・木質出土状況(西から)
- 図版第95 (1) 墓地墓群15土坑 S K 89墓石出土状況(南から)
(2) 墓地墓群15墓穴 S T 148付近断面(北東から)
- 図版第96 (1) 墓地墓群15墓穴 S T 180人骨出土状況(西から)
(2) 墓地墓群15墓穴 S T 179断面(東から)
- 図版第97 (1) 墓地墓群15墓穴 S T 179蔵骨器出土状況(東から)
(2) 墓地墓群15墓穴 S T 179人骨出土状況(西から)
- 図版第98 (1) 墓地墓群15墓穴 S T 179南側人骨出土状況(西から)
(2) 墓地墓群15墓穴 S T 179北側人骨出土状況(西から)
- 図版第99 (1) 墓地墓群15墓穴 S T 231・232・234・235人骨出土状況(南西から)
(2) 墓地墓群15土坑 S K 167断面(南から)
- 図版第100 (1) 墓地墓群15墓穴 S T 192人骨出土状況(南から)
(2) 墓地墓群16土坑 S K 157墓石出土状況(北から)
- 図版第101 (1) 墓地墓群16土坑 S K 157下層断面(南西から)
(2) 墓地墓群16墓穴 S T 239・240人骨出土状況(西から)
- 図版第102 (1) 墓地墓群16墓穴 S T 239・240人骨出土状況(西から)
(2) 墓地墓群16墓穴 S T 208断面(東から)

- 図版第103 (1) 墓地墓群16墓穴 S T 208人骨出土状況(東から)
(2) 墓地墓群16墓穴 S T 456胎衣壺出土状況(西から)
- 図版第104 (1) 墓地墓群17墓穴 S T 81・469断面(南から)
(2) 墓地墓群17墓穴 S T 81・469人骨出土状況(西から)
- 図版第105 (1) 墓地墓群17墓穴 S T 81人骨出土状況(南から)
(2) 墓地墓群17墓穴 S T 81木質出土状況(西から)
- 図版第106 (1) 墓地土坑 S K 99上層(東から)
(2) 墓地土坑 S K 99中層(東から)
- 図版第107 (1) 墓地土坑 S K 99中層 2 (東から)
(2) 墓地土坑 S K 99下層(東から)
- 図版第108 (1) 墓地土坑 S K 99完掘状況(東から)
(2) 墓地井戸 S E 113上層(東から)
- 図版第109 (1) 墓地井戸 S E 113中層(東から)
(2) 墓地井戸 S E 113中層 2 (東から)
- 図版第110 (1) 墓地井戸 S E 113断面(東から)
(2) 墓地井戸 S E 113最下層(東から)
- 図版第111 (1) 墓地井戸 S E 113完掘状況(東から)
(2) 墓地土坑 S K 471・井戸 S E 100断面(西から)
- 図版第112 (1) 墓地土坑 S K 471・井戸 S E 100断面(西から)
(2) 墓地井戸 S E 100上層墓石出土状況(北から)
- 図版第113 (1) 墓地井戸 S E 100(北から)
(2) 墓地土坑 S K 139(西から)
- 図版第114 (1) 墓地土坑 S K 80断面(西から)
(2) 墓地土坑 S K 80遺物出土状況(東から)
- 図版第115 (1) 墓地土坑 S K 80遺物出土状況(西から)
(2) 墓地土坑 S K 111断面(東から)
- 図版第116 (1) 南地区(4・7トレンチ)断ち割り状況(東から)
(2) 南地区(4・7トレンチ)断ち割り状況(南西から)
- 図版第117 (1) 南地区中央部(2トレンチ東半)断ち割り断面(東から)
(2) 南地区中央部(2トレンチ西半)断ち割り断面(東から)
- 図版第118 出土遺物 1
- 図版第119 出土遺物 2
- 図版第120 出土遺物 3
- 図版第121 出土遺物 4
- 図版第122 出土遺物 5

- 図版第123 出土遺物 6
図版第124 出土遺物 7
図版第125 出土遺物 8
図版第126 出土遺物 9
図版第127 出土遺物10
図版第128 出土遺物11
図版第129 出土遺物12
図版第130 出土遺物13
図版第131 出土遺物14
図版第132 S K 99 一石五輪塔 1
図版第133 S K 99 一石五輪塔 2
図版第134 S K 99 板碑
図版第135 S E 113 一石五輪塔
図版第136 S E 113 墓標・板碑
図版第137 その他 一石五輪塔
図版第138 その他 板碑 1
図版第139 その他 板碑 2
図版第140 石仏その他

寺町旧域・法成寺跡発掘調査報告

1. はじめに

この発掘調査は、京都府立鴨沂高等学校校舎改築等工事に伴って、京都府教育委員会の依頼を受け実施した。

調査対象地は京都市上京区寺町通荒神口下松蔭町にあり、寺町旧域及び法成寺跡の範囲に含まれることから、建物の建て替え部分について全面的な発掘調査を行った。発掘調査は、校舎工事工程と並行して実施したため、平成26・27・28年の3年度にわたり、複数のトレンチを設けて実施した。調査の結果、墓地を伴う寺院跡などを検出することができた。

鴨沂高等学校と連携した総合的な学習の時間として平成26年6月21日、同年7月12日の2回にわたり鴨沂高等学校生徒約200名を対象に、現場体験授業を実施した。また、通常の現地説明会に加え鴨沂高等学校関係者向けの現地説明会を実施し、教員及び生徒約50名の参加を得た。

発掘調査に際しては、地元春日学区自治連合会、専念寺、常念寺、京都市文化市民局、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所のご指導とご協力をいただいた。記して感謝したい。

なお、調査にかかる経費は全額京都府教育委員会が負担した。

〔調査体制等〕

平成26年度調査

現地調査責任者	調査課長	石井清司
調査担当者	調査課第2係長	岩松 保
	同 副 主 査	引原茂治
	同 主 任	村田和弘
調査場所	京都府京都市上京区寺町荒神口下松蔭町131他	
現地調査期間	平成26年6月9日～9月3日	
調査面積	830㎡	

平成26・27年度調査

現地調査責任者	調査課長	石井清司
	調査課長	有井広幸
現地調査担当者	調査課課長補佐兼調査第1係長	細川康晴
	同 第2係長	中川和哉
	同 主 査	岡崎研一・村田和弘
	同 副 主 査	石尾政信・引原茂治

同 調査員 綾部侑真・福山博章・清水早織・竹村亮仁
 現地調査期間 平成27年2月3日～7月31日
 調査面積 3,670㎡

平成28年度調査及び整理

現地調査責任者 調査課長 森 正
 現地調査担当者 調査課第2係長 中川和哉
 同 主 査 岡崎研一
 同 副 主 査 引原茂治
 同 調 査 員 綾部侑真
 現地調査期間 平成28年6月6日～8月2日
 調査面積 710㎡

平成29年度(整理等)

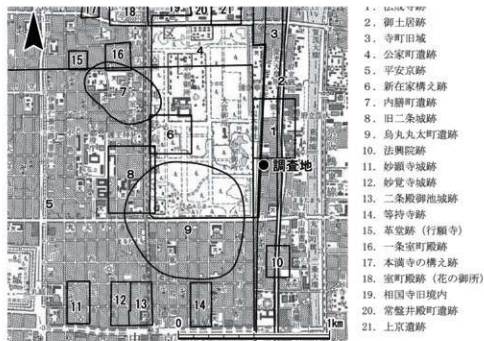
整理等責任者 調査課長 小池 寛
 整理等担当者 調査課課長補佐兼調査第2係長 中川和哉
 同 副 主 査 引原茂治・岡崎研一
 同 主 任 綾部侑真

2. 位置と環境

今回の発掘調査地は、現在の京都市上京区寺町通荒神口下松蔭町にあり、京都府立鴨沂高等学校の敷地内にあたる。

調査地の西側には寺町通が接し、東側には河原町通がある。宝暦12(1762)年発行の「京町鑑」によると、「天正まで寺町から東は河原であったことから河原町通と名付けられた」とある。これを証明するように調査トレンチ内に見られる寺町形成以前の地層は、河川起源の礫層が厚く堆積しており、調査地は鴨川の氾濫原に立地していることが分かる。河原町通に並行して流れる鴨川は古来洪水を多くもたらす川で、『平家物語』の中で、白河法皇が自分の意志で自由にできないものの1つとして挙げている。京都府教育委員会の実施した調査地北側の立会調査では、礫層中から平安時代中期の遺物が出土しており、11世紀以後に礫層が形成されたと考えられる。

寺町通は平安京の東京極通であり、発掘調査地は平安京外に位置している。平安時代中期には鴨沂高校の北東側、現在の京都御所の敷地内に土御門殿と呼ばれた2町(左京一条四坊十五・十六町)規模の藤原道長の邸宅があった。土御門殿と東京極通を挟んだ東側から鴨川までの地域に、京都盆地内最大の寺院である法成寺が建立された。法成寺は寛仁3(1019)年に九体阿弥陀堂の造営が開始され、当初は無量寿院と呼んでいたが、治安2(1022)年の金堂供養の際、法成寺と名付けられた。法成寺には阿弥陀堂、薬師堂、釈迦堂、五大堂、金堂、塔、西北院、東北院など



第1図 調査地及び周辺遺跡分布図(国土地理院1/25,000 京都東北部)

があったとされている。過去の発掘調査において法成寺の建物を復元できる遺構は見えていないが、昭和8(1933)年完成の鴨沂高等学校校舎建造に伴う工事で緑釉瓦が出土している。緑釉瓦が法成寺に葺かれていた様子は『栄花物語』においても描写されており、周辺に法成寺があったことを物語っている。平安時代の緑釉瓦は平安宮内の大極殿や豊楽殿、京内の神泉苑、東寺、西寺といった公的な場所での使用に限られていたが、私的な寺院である法成寺に緑釉瓦が用いられていることは、道長の権勢がいかに強大であったかを示している。法成寺は創建以後度重なる洪水などの災害で、その規模を縮小していき、『花園天皇宸記』によれば元弘元(1331)年の火災によって法成寺に関連した建物はなくなったとされる。

天下統一の目途が立った豊臣秀吉は、応仁の乱以降荒廃した京内に住居として、聚楽第の建築を天正14(1586)年から始め、翌年に完成させた。聚楽第から御所の間には大名屋敷が設けられ、聚楽第とともに金箔瓦が葺かれ、きらびやかな威風を誇っていたものと想定できる。秀吉は天正18(1590)年から京都の町の改造に着手する。平安時代以来の地割りである1町四方の町割を、道路に面した土地を増やす目的で、東西に2分するように道路を通す区画整備が上京を中心に実施された。また、京内に点在していた寺院のほとんどを寺町通の東側に強制的に移転させ、寺町を形成した。天正19(1591)年には当時の京都の市街地を取り囲むように南北8.5km、東西3.5km、総延長22.5kmの御土居と呼ばれる大規模な土塁と堀を築いた。御土居は江戸時代以後暫時取り壊され、現在はほとんど残されていないが、9か所が国史跡に指定され保存されている。高等学校敷地の北辺を東西に走る荒神口通は御土居の出入り口である荒神口に通じる道で、御所から比叡山に至る最短経路であった。

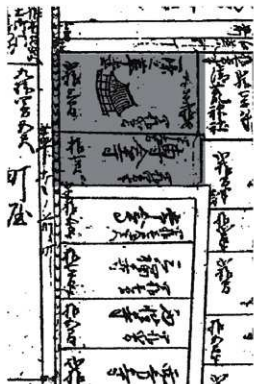
寛永14年洛中絵図(京都大学付属図書館蔵)には、鴨沂高等学校敷地に北から一条乃革堂(行願寺:天台宗)、専念寺(浄土宗)、常念寺(浄土宗)、三福寺(浄土宗)といった寺院が建ち並んでい

たことが描かれている。

江戸時代に入ると京都では多くの大規模な火災に見舞われる。調査地周辺も宝永の大火(1708)と天明の大火(1788)の2回の大火に見舞われることになり、甚大な被害を受けている。宝永の大火の被害を受けた後に、寺町はその形を変えることとなる。北側に展開する公家町の拡張を目的として、寺町の荒神口通から二条通までの寺院は草堂が寺町通竹屋町に、その他の寺院は二条川東及び仁王門通りに移転させられることになった。専念寺、常念寺、三福寺は西寺町通に面して現在も法灯を伝えている。

寺院の移転以後、公家の宅地へと変化していくが、その後の天明の大火により公家町も消失した。

明治5(1872)年、丸太町橋の西詰南側に所在した旧九条殿河原町邸に女子教育を目的とした新英学校及女紅場が設立され、翌年英女学校女工場、明治15(1882)年に京都高等女学校、明治20(1887)年に京都府高等女学校と改名した。同志社大学設立者である新島襄の妻山本八重が勤務していた学校としても知られている。明治33(1900)年に英女学校女工場は、現在の鴨沂高校の場所に移転し、同時に旧九条殿河原町邸にあった門と茶室が移築された。明治37(1907)年に府立第一女子高等学校、大正12(1923)年に京都府立京都第一高等学校と改名された後、昭和23(1948)年



寛永十四年洛中絵図 寛永 14 (1637) 年



新版増補京絵図 新地入 宝永 6 (1709) 年

調査地

第2図 調査地周辺景観図

(『慶長～昭和京都地図集成 1611 (慶長 16) 年～1940 (昭和 15) 年』

大塚隆編者 柏書房株式会社発行 1944)

に府立鴨沂高等学校として現在に至っている。戦前に建てられた校舎は、モダニズムを基調とした中に和風が加味されたコンクリートの建物群で、近代化遺産として高く評価されている。

(中川和哉・清水早織)

3. 調査の経過・概要

今回の調査は京都府教育委員会の依頼により実施したもので、府立鴨沂高校の新校舎建設に伴う埋蔵文化財調査である。調査地は、天正年間に豊臣秀吉が京都市中の寺院を移転させて形成した寺町にあたる。また平安時代には、藤原道長によって建立された法成寺の境内にあたることされる。調査は、工事の進捗状況と並行して平成26年度から平成28年度の3か年に渡って実施した。

1)平成26年度の調査

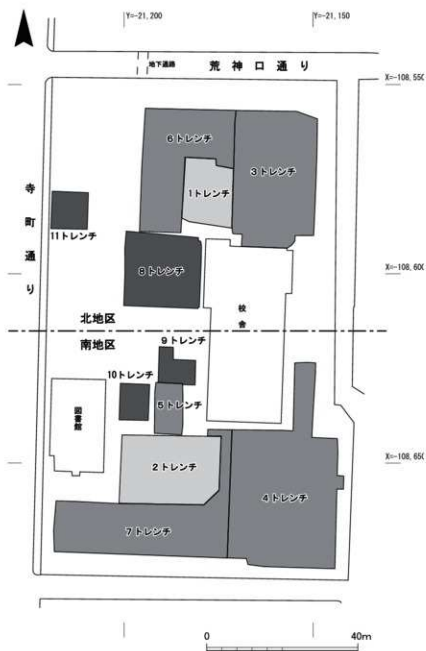
1・2トレンチの調査を実施した。校舎解体前の調査であり、土置き場の関係上、はじめに各トレンチの東側半分の調査を行い、調査終了後に反転して西側の調査を実施した。宝永5(1708)年の大火に伴う焼土層を確認し、その下面を寺町期の遺構面とした。平成26年6月21日と7月12日の2回、府立鴨沂高等学校の生徒を対象とした発掘体験を実施した。寺町期の調査成果がおおむね明らかとなった平成26年8月17日には現地説明会を実施し、209名の参加を得た。寺町の遺構面の調査終了後、下層の確認を行ったが、河川堆積であり遺構面は確認できなかった。その後、埋め戻し作業を行い平成26年9月3日に調査を終了した。調査面積は、830㎡である。

2)平成26～27年度の調査

校舎解体作業終了後の平成26年2月3日から調査を再開した。平成26年度から3・4トレンチの調査を開始し、平成27年度は5・6トレンチの調査を開始した。平成26年度調査で確認していた宝永の大火に伴う焼土層まで重機による掘削を行い、その後は人力により遺構面を検出した。3・6トレンチは校舎基礎による削平を大きく受けており、確認できた遺構面はわずかであった。第1面の調査終了後、重機によって下層の確認を行い、調査を終了した。南側では、比較的良好に遺構が残存しており、4トレンチでは墓地を検出した。墓穴が4トレンチの北辺と東辺付近にまで及んでいたため、墓地の範囲を把握するために、北側と東側の一部の拡張を行った。現地の公開は平成27年5月30日に実施し、287名の参加を得た。当日午後からは府立鴨沂高校の生徒を対象とした説明会を行った。その後、平成27年7月14日に高所作業車を使用した写真撮影を実施した。第1面の遺構面の調査終了後、重機を用いて下層の確認を行ったが、遺構面は確認できず壁面の写真撮影・図化作業を行い、平成27年7月31日に調査を終了した。調査面積は、3,670㎡である。

3)平成28年度の調査

平成28年6月6日から調査を開始し、工事の進捗状況に合わせて8～11トレンチの調査を実施した。工事と並行するため、各トレンチに矢板を打ち壁面の崩落を防いだ上での調査となった。いずれのトレンチも後世の攪乱による削平が大きく、検出できた遺構面はわずかであった。各トレンチの調査終了とともに順次引き渡しを行い、平成28年8月2日にすべての調査を終了した。調査面積は710㎡である。

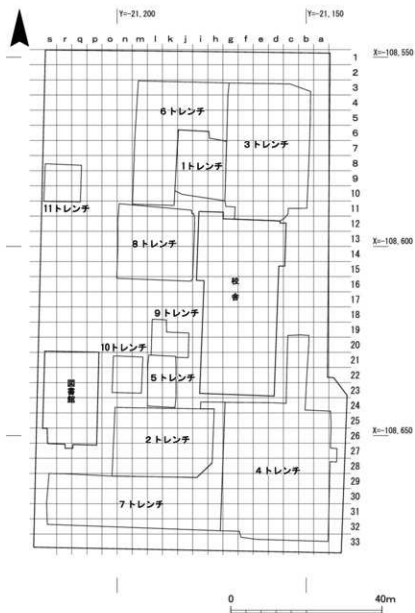


第3図 調査トレンチ配置図

4. 調査の方法

1) 調査の方法

調査の着手にあたっては、国土座標の基準点設置作業を実施し、トレンチの設定にあたっては、遺構面直上の焼土層まで重機によって掘削を行った。その後、人力による宝永の大火時の焼土層の掘削、その後精査作業によって遺構の検出を行った。遺構の掘削は順次行い、必要に応じて記録図面作成・記録写真撮影を実施した。遺構図面は、基本的に縮尺1/20で作成し、遺物出土状況



第4図 調査地区区割り図

など必要に応じて縮尺1/10ないしは1/5で作成した。4トレンチで検出した墓地については、縮尺1/10で墓地全体の平面図を作成し、下面から遺物が出土することに新しく図面を作成して対応した。墓地の調査に伴い、今回多くの人骨と墓石が出土している。人骨は脆弱なものが多く、現地でバインダー液の希釈したものを薄く塗布し取り上げを行った。また、頭蓋骨など個別に取り上げが不可能なものは周囲の土とともに取り上げ、スポンジで固定するなどして持ち帰った。墓石は現地に観察・計測を行い、遺物観察カードを作成した。また、並行して拓本作業を実施することで可能な限りすべての墓石の把握・集成に努めた。同時に、墓石の遺物写真撮影を現地に実施した。

2) 地区割りの設定について

今回の発掘調査を実施するにあたり、調査対象範囲を国土座標系(世界測地系)の座標値を基準に、東西・南北列を4m単位に分割し、1辺4mの正方形区割りを設定し遺物の取り上げを行った(第4図)。東西軸は小文字のアルファベット、南北軸は数字で呼称し、地区名はその組み合わせで呼称する。その際、南北・東西の順で表記する。例えば、「3a地区」は南北の3列(X=-108,556~60)、東西のa列(Y=-21,152~56)の交差する範囲を示す。

3) 遺構番号について

遺構番号は調査の進捗に伴って各年度、各トレンチで通し番号を付与した。

また、遺構掘削の過程で種類を特定できたものからSK・SXなど遺構の性格に応じた名称を付与した。使用した略号は、建物：SB、柱穴：SP、欄列：SA、土坑：SK、井戸：SE、溝：SD、墓穴：ST、不明遺構・その他：SXである。

報告にあたって各トレンチを北地区・南地区に区分して整理し、それぞれに通し番号を付与し直した。北地区はすべてを通し番号とし、南地区は最も遺構数の多かった4トレンチの遺構番号をそのまま用い、2トレンチは500番から、7トレンチは700番から、5トレンチに900番からの遺構番号を用いた。

4) 報告書作成作業について

平成28年度、平成29年度は、今回の調査で出土した遺物約997箱の整理作業ならびに、報告書作成作業を実施した。

出土遺物の整理作業は、平成26年度から調査と並行して洗浄・接合作業を実施しており、平成28年度からは、注記の終了した遺物から報告に必要な遺物を抽出し、実測・拓本を実施した。

実測したもののうち復元可能なものについては、石膏による復元を実施した。遺構に伴わない遺物でかつ重要性の高いものについては、包含層出土遺物として掲載した。銭貨・墓石については、一部主要なものの実測図・拓本を掲載するとともに、一覧表を作成し付表として掲載した。

遺構は、検索しやすいように種類別番号別に記述し、遺構の個別図面については近接したものを集めて図版を作成した。また遺物については、実測図を比較的近接した遺構ごとにまとめて掲載した。

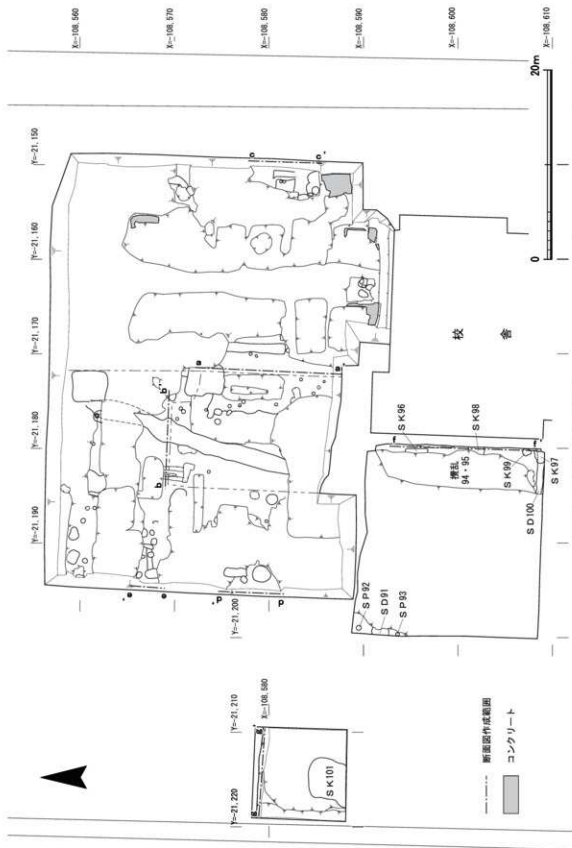
本報告では1・3・6・8・11トレンチを北地区、2・4・5・7・9・10トレンチを南地区とし報告を行う。また、検出遺構が最も集中する4トレンチの墓地については、別に項を設けて報告を行う。

(綾部侑真)

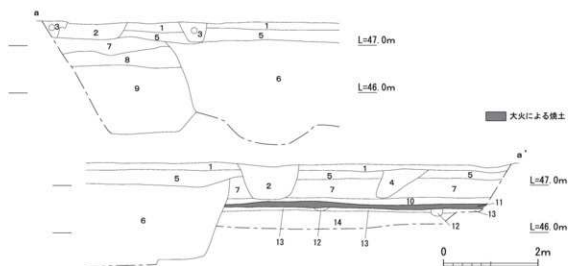
5. 北地区の調査

1) 基本層序と遺構の概要

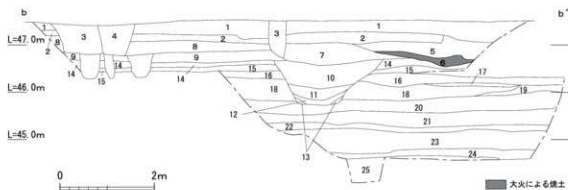
北地区は、調査対象範囲の北側に位置する。調査トレンチは、1・3・6・8・11トレンチが該当する。



第5図 北地区断面実測位置図

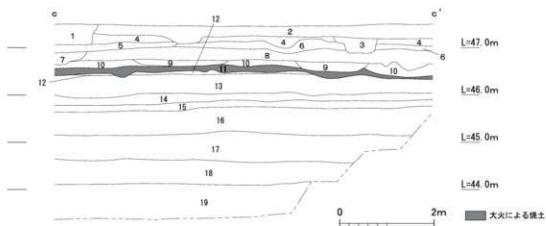


- | | |
|---|---|
| 1. 褐灰色 (7.5YR4/1) 粘質土 (3~5cm 大の礫多く含む) | 9. にぶい赤褐色 (2.5YR5/3) 粘質土 (多量に焼けた瓦含む: S K04) |
| 2. 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土 (樹木の根痕) | 10. にぶい赤褐色 (2.5YR5/4) 粘質土 (焼土・炭を多く含む) |
| 3. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 (流ビ排水管) | 11. にぶい黄褐色 (2.5Y6/3) 粘質土 |
| 4. 黄灰色 (2.5Y4/3) 粘質土 (土製排水管) | 12. にぶい赤褐色 (2.5YR5/4) 粘質土 |
| 5. 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂礫 (3~5cm 大の礫含む) | 13. にぶい褐色 (7.5YR6/1) 粘質土 (整地土か) |
| 6. 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂礫 (3~5cm 大の礫含む・S K04) | 14. 褐灰色 (7.5YR5/1) 砂礫 |
| 7. 褐色 (10YR4/1) 砂礫 (やや砂が多い) | |
| 8. 灰褐色 (10YR6/2) 砂質土 | |



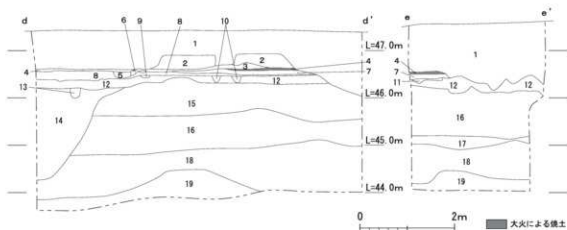
- | | |
|--|---|
| 1. 褐灰色 (7.5YR4/1) 粘質土 (盛り土) | 13. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂 (S D18) |
| 2. 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂礫 (盛り土) | 14. にぶい褐色 (7.5YR6/3) 粘質土 (整地土: 寺町の遺構面) |
| 3. 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (樹木の根痕) | 15. 褐灰色 (7.5YR5/1) 砂礫 (整地土か) |
| 4. 褐灰色 (5YR6/1) 粘質土 (水道管) | 16. 褐灰色 (7.5YR5/1) 砂礫 (0.1~0.2cm の砂礫) |
| 5. 褐色 (10YR4/1) 砂礫 (盛り土) | 17. にぶい褐色 (7.5YR5/4) シルト (流水砂) |
| 6. にぶい赤褐色 (2.5Y5/4) 粘質土 (焼土・炭混じる) | 18. 灰褐色 (7.5YR5/2) 砂礫 (3~5cm 大の礫含む) |
| 7. 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土 (2~3cm 大の礫含む) | 19. にぶい褐色 (7.5YR5/3) シルト (流水砂) |
| 8. 褐色 (10YR1/1) 粘質土 (3~5cm 大の礫含む) | 20. 褐灰色 (7.5YR6/1) 砂礫 (3~10cm 大の礫含む) |
| 9. 灰褐色 (10YR6/2) 砂質土 (3~5cm 大の礫含む) | 21. 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂礫 (3~10cm 大の礫含む) |
| 10. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土 (3~5cm 大の礫含む・S D18) | 22. 褐灰色 (10YR5/1) 粗砂 (0.05~0.1cm の砂礫) |
| 11. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 (3~5cm 大の礫含む・S D18) | 23. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂礫 (3~10cm 大の礫含む) |
| 12. 灰黄褐色 (10YR6/2) シルト (S D18) | 24. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂 (0.1~0.2cm の砂礫) |
| | 25. にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂礫 (3~1.5cm 大の礫混じる: 無遺物層) |

第6図 北地区土層断面図(1)



1. 基礎
2. 整地土
3. 基礎
4. オリーブ色 (5Y6/6) 細粒砂 (2~10cm大の礫含む)
5. 浅黄色 (5Y7/3) 極細粒砂
6. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 細粒砂
7. 擾乱
8. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土
9. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細粒砂
10. 明黄褐色 (2.5Y7/6) 極細粒砂

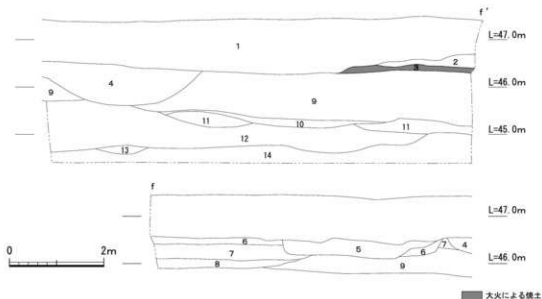
11. 橙色 (5YR6/6) 焼土 (炭混じり)
12. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 細粒砂
13. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 細粒砂 (礫含む)
14. 褐色 (7.5YR4/3) 粗砂 (拳大の礫多く含む)
15. 明黄褐色 (7.5YR5/6) 粗砂 (拳大の礫多く含む)
16. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 礫層
17. 砂礫 (頭大~拳大の礫・瓦わずかに出土)
18. 砂礫 (拳大以下の礫・瓦わずかに出土)
19. 砂礫 (頭大前後の礫・瓦わずかに出土)



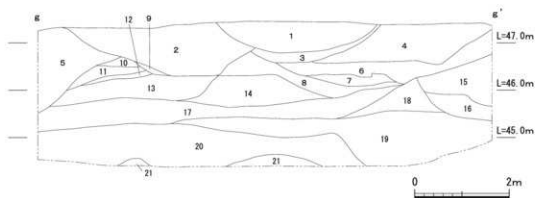
1. 擾乱
2. 擾乱
3. 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
4. 明赤褐色 (5YR5/6) 粘質土 (焼土層)
5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土
6. 褐色 (10YR4/4) 粘質土
7. 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
8. にぶい褐色 (7.5YR6/3) 粘質土
9. 褐色 (10YR4/4) 粘質土
10. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土

11. 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
12. 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土
13. 黄褐色 (2.5Y5/5) 粘質土
14. 擾乱
15. 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂礫層 (Ⅰ・土器含む・洪水砂)
16. 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂礫層 (Ⅰ・土器含む・洪水砂)
17. にぶい黄色 (2.5YR6/3) 砂礫層
18. 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂礫層
19. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂礫層

第7図 北地区土層断面図(2)



- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 擾乱 | 9. 褐灰色 (7.5YR5/1) 粗砂 (5~20cm大の礫含む) |
| 2. にぶい橙色 (5YR7/3) 粗砂 (5cm大の礫含む) | 10. 暗褐色 (10YR3/4) シルト |
| 3. 赤色 (10YR4/8) 細粒砂 (宝永の大火による焼土) | 11. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 (1~5cm大の礫多く含む) |
| 4. 砂礫 (擾乱) | 12. 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂 (5~15cm大の礫含む) |
| 5. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂 (10~20cm大の石多く含む) | 13. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 (1~5cm大の礫含む) |
| 6. にぶい褐色 (7.5YR5/4) 細粒砂 | 14. 黄褐色 (2.5YR5/4) 粘土 |
| 7. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 細粒砂 (5cm大の礫含む) | |
| 8. 灰褐色 (7.5YR6/2) シルト | |



- | | | |
|--|---|---------------------------------------|
| 1. オリーブ褐色 (2.5YR4/3) 細粒砂 (3~15cm大の礫多く含む) | 7. 暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3) 細粒砂 (5~20cm大の礫含む) | 14. 灰褐色 (7.5YR5/2) 細粒砂 (3~10cm大の礫含む) |
| 2. 暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3) 粗砂 (5~20cm大の礫多く含む) | 8. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 | 15. 褐色 (10YR4/4) 極細粒砂 (3~15cm大の礫多く含む) |
| 3. 褐色 (10YR4/4) 極細粒砂 | 9. 暗褐色 (10YR3/3) 極細粒砂 | 16. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 |
| 4. オリーブ褐色 (2.5YR4/3) 細粒砂 (3~15cm大の礫多く含む) | 10. オリーブ褐色 (2.5YR4/6) 細粒砂 (3~10cm大の礫含む) | 17. 明褐色 (7.5YR7/2) 極細粒砂 |
| 5. 黒褐色 (2.5YR3/2) 細粒砂 (1~15cm大の礫多く含む) | 11. オリーブ褐色 (2.5YR4/3) 細粒砂 | 18. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂 |
| 6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 (5~15cm大の礫多く含む) | 12. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 極細粒砂 | 19. 礫 |
| | 13. オリーブ褐色 (2.5YR4/4) 細粒砂 (1~10cm大の礫含む) | 20. 灰白色 (10YR7/1) 極細粒砂 |
| | | 21. 灰白色 (10YR8/2) 粘土 |

第8図 北地区土層断面図(3)

(1) 基本層序

各年度に設定した調査トレンチの壁面で断面図の作成を行った(第5～8図)。基準となる2層の焼土層を検出した。第1層はd-d'でのみ確認できた。標高約46.6mに厚さ3cm程度水平に堆積する。天明の大火に伴う焼土層と考えられる。

第2層は標高46.3m付近に堆積する。厚さはa-a'とc-c'で約16cm、d-d'では約2cmとなる。出土した遺物から、宝永の大火に伴う焼土層とみられる。この焼土層下面を第1面として調査を行った。焼土の下層は、調査区中央から西側にかけてにぶい褐色のシルトが厚さ10～20cm堆積する。検出した宝永の大火以前の遺構は、この層の直上から掘りこまれており、寺町形成時の整地層の可能性ある。

整地土の下層には砂礫⁽⁸¹⁾が堆積する。整地土下層に堆積する砂礫層は鴨川による自然堆積であり、各層の間には人工的に造成したような堆積層は確認できない。また、これらの層中に含まれる礫が比較的小さいことから、常時水が流れていたとは考えられ難い。よって、調査地周辺は鴨川の本流部分ではなく、その縁辺部に相当する河原のような場所であり、鴨川の氾濫によって水が溢れ出た際に、これらの砂礫が堆積したものとみられる。a-a'では、砂礫層が東から西へ向かって斜め方向に堆積していることから、北東から南西に向かって水が流れていることがわかる。b-b'の第16層と第18層を比較すると、上層にあたる第16層の方が礫の径が小さくなることから、寺町形成直前の新しい段階では、第18層の時期と比べて氾濫の頻度・規模が小さい環境下であったといえる。b-b'では23層まで遺物を包含する。

(2) 調査の概要

寺町形成時の整地面直上を第1面として調査した。北地区は後世の攪乱によって大きく削平されており、部分的に遺構面及び遺構を検出した。寺町に伴うと考えられる宝永の大火以前の遺構として、柱穴・溝・土坑を検出した。また、宝永の大火以後の遺構として、井戸・土坑を検出した。第1面の下層からは、法成寺に伴うとみられる瓦が出土した。

2) 検出遺構

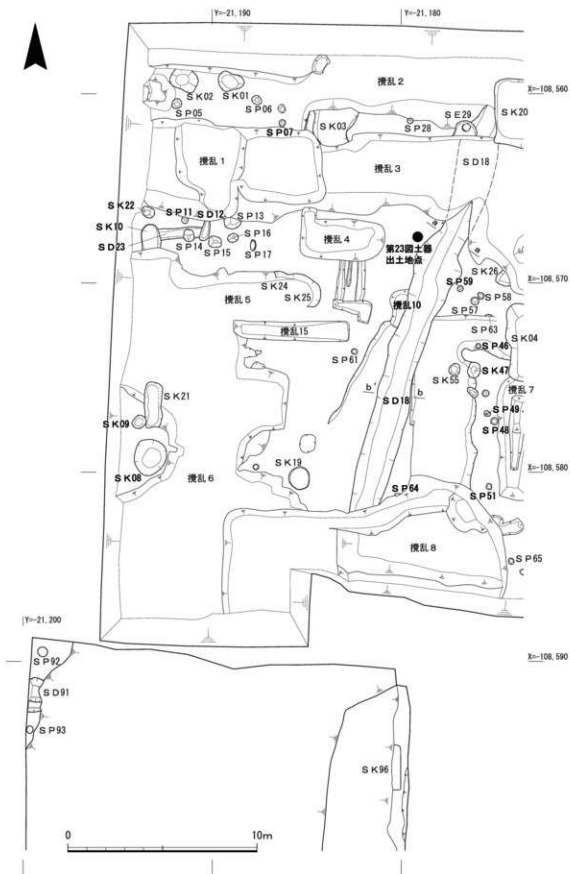
北地区で検出した遺構は、柱穴35か所、溝6条、土坑28基、井戸1基である(第9・10図)。

(1) 宝永の大火以前の遺構

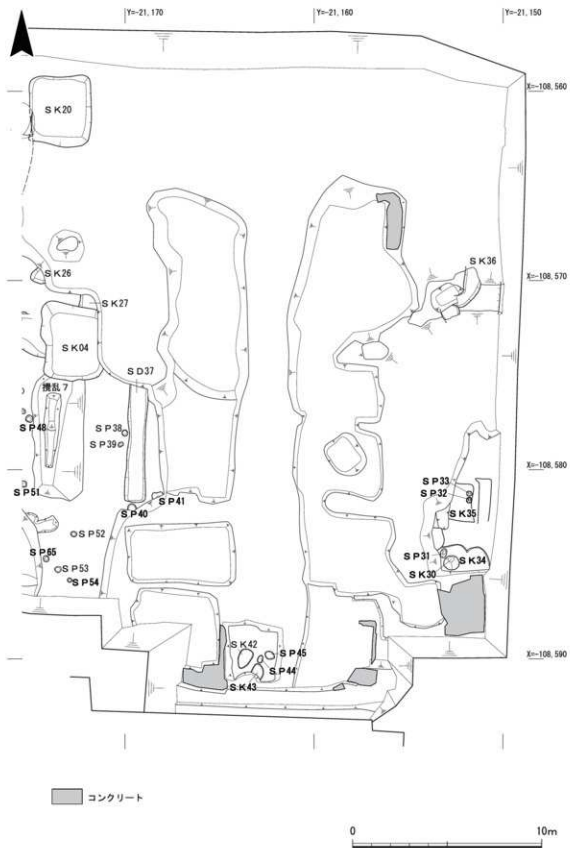
土坑SK01(第9・11図) 北地区北西隅で検出した。掘形の平面は、東端の一部が東に影らむ隅丸方形で、規模は長辺1.3m、短辺0.8mを測る。掘形底部東側に一辺0.25m前後の石が半円状に平らな面を内に向けて配されていた。元々円形とみられ、井戸の可能性が考えられる。掘形の両脇には褐灰色の砂質土が堆積し、裏込めとみられる。石の内側の埋土は黒色砂質土である。遺物は土師器皿などが出土した(第21図)。

土坑SK02(第9・11図) 北地区北西隅に位置し、SK01の西側で検出した。掘形の平面は隅丸方形で、規模は長辺1.4m、短辺1.1m、深さ0.3mを測る。

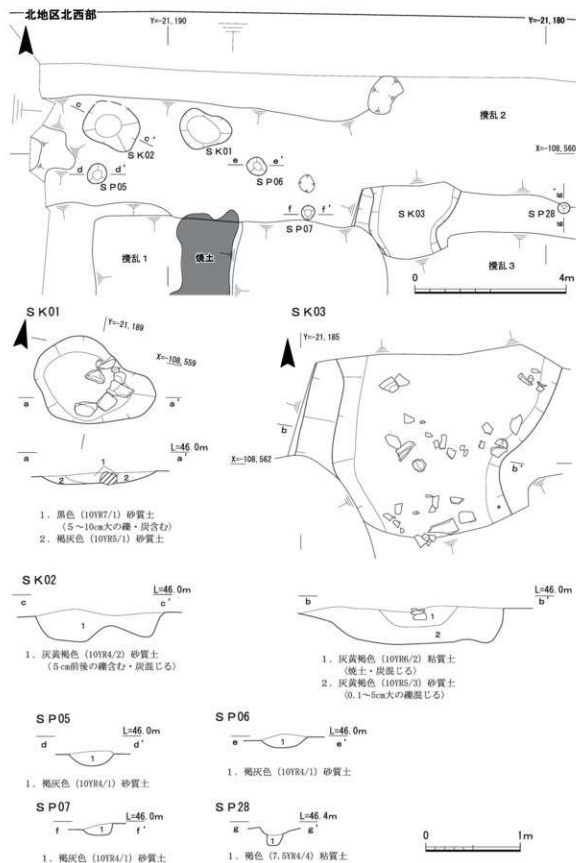
土坑SK03(第9・11図) 北地区北西で検出した土坑状の遺構である。北側と南側を攪乱によって削平され、その全容については不明である。掘形の規模は、東西2.2m、南北2.0m以上、



第9図 北地区遺構配置図(1)

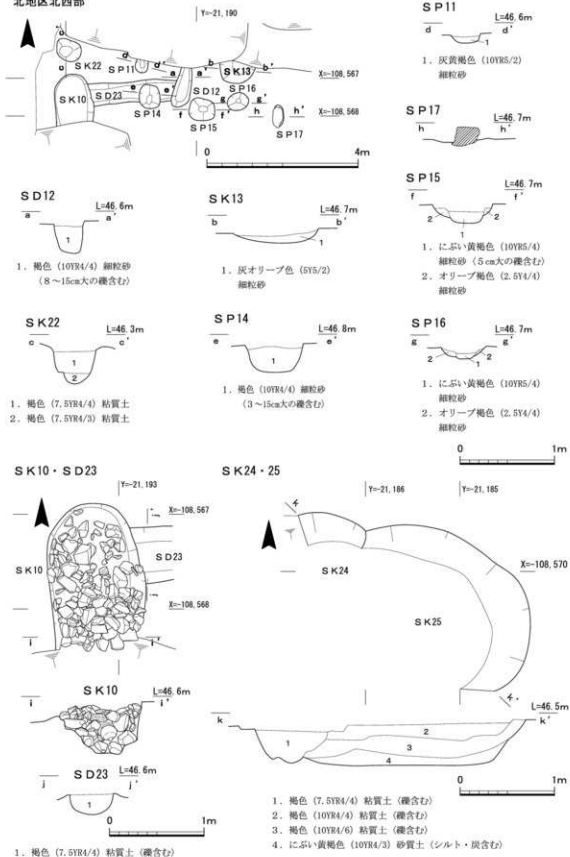


第10図 北地区遺構配置図(2)

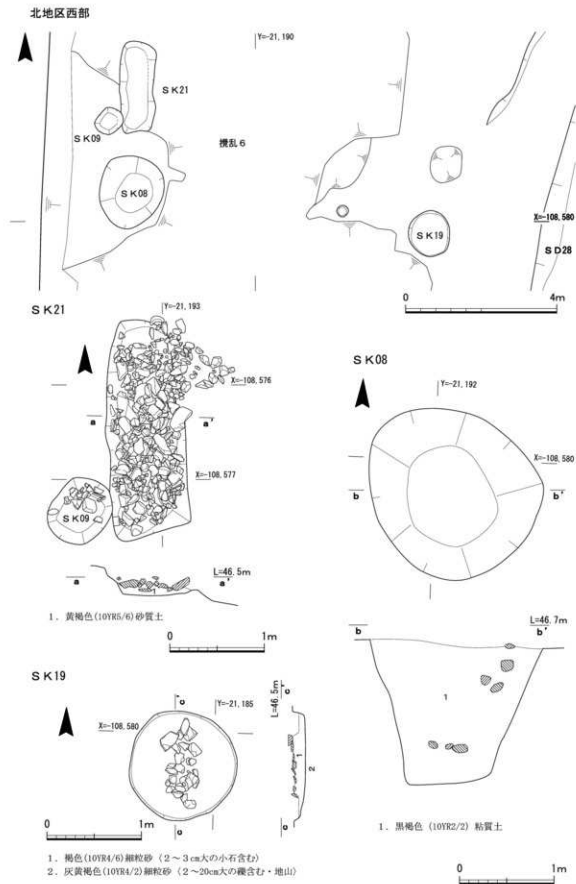


第11図 北地区遺構実測図(1)

北地区西北部



第12図 北地区遺構実測図(2)



第13図 北地区遺構実測図(3)

深さ0.4mを測る。埋土は灰褐色砂質土で、中央に灰褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器皿片や瓦片、硯などが出土した(第21図)。

土坑SK08(第9・13図) 北地区西側中央付近で検出した土坑である。掘形の平面は円形で、規模は径1.6m、深さ1.5mを測る。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は土師器小壺をはじめ、陶磁器類が出土した(第21図)。

土坑SK09(第9・13図) 北地区西側中央付近、SK21の西側で検出した土坑である。SK21をわずかに削平して掘られる。掘形の平面は楕円形で、規模は長辺0.7m、短辺0.6m、深さ0.2mを測る。

土坑SK10(第9・12図) 北地区北西隅で検出した。南側は攪乱によって削平される。掘形の規模は、長軸1.6m以上、短軸1.0m、深さ0.5mを測る。主軸方向は、北に対して西に5°振る。掘形内には、拳大～人頭大の自然石が充填される。また、組合式五輪塔の空風輪が2基、一石五輪塔が3基出土した。

土坑SK13(第9・12図) 北地区北西に位置し、SD12の東側で検出した。北側を攪乱によって削平される。検出した掘形の平面は半円形で、規模は東西1.0m、南北0.6m以上を測る。埋土は灰オリーブ褐色の細粒砂である。

土坑SK19(第9・13図) 北地区西側中央付近で検出した土坑である。掘形の平面は円形で、規模は径1.1m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色細粒砂で、埋土上面の掘形中央には、0.1～0.2m大の石が東西0.4m、南北0.9mの範囲に集中している。

石室SK20(第10・14図) 北地区北側中央付近で検出した。掘形の規模は、東西2.9m、南北2.9m、深さは最大で0.4mを測る。一辺0.2～0.4mの石が内側に面を揃えて方形に並べられ、石室と考えられる。石組は東辺の南半で二段、そのほかは一段が残る。北東と東側は石が残っていない。石組の内法は南北2.4mを測る。主軸方向は北に対して東に1°振る。裏込め土は暗褐色砂質土である。石組の中からは、宝永の大火に伴うとみられる2次焼成を受けた瓦がわずかに出土している。

土坑SK21(第9・13図) 北地区西側中央で検出した。上層を攪乱によって削平される。掘形の平面は南北に長い長方形で、規模は長辺2.3m、短辺0.85m、深さ0.3mを測る。主軸方向は、北に対して東に1°振る。埋土は黄褐色砂質土で、上層に3～25cm大の石が多量に埋まっていた。攪乱を挟んだ北側にはほぼ同軸上にSK10があり、同じ遺構の可能性が考えられる。

土坑SK22(第9・12図) 北地区の北西に位置し、東壁際で検出した。掘形の平面は楕円形で、規模は長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.4mを測る。埋土は褐色の粘質土である。

土坑SK24・25(第9・12図) 北地区中央西側で検出した土坑である。後世の攪乱によって南西を大きく削平される。SK25の掘形の規模は南北1.7m以上である。埋土はSK24が褐色粘質土、SK25が上層から褐色粘質土、にぶい黄褐色のシルト含む砂質土である。

土坑SK26(第10・15図) 北地区の北東で検出した。東側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.7m以上、南北0.9m以上、深さ0.2mを測る。埋土は暗褐色砂質土である。

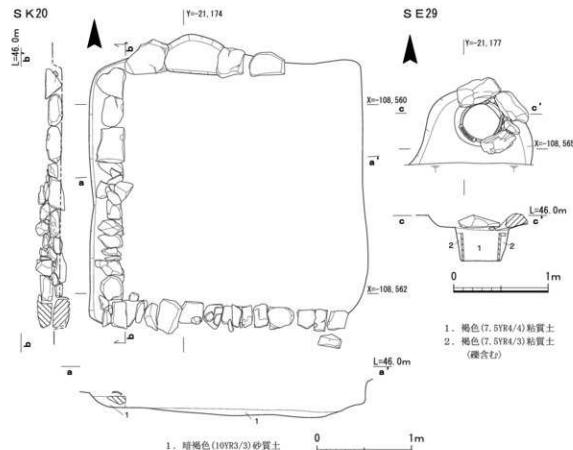
土坑SK27(第10図) 北地区の北東、SK26の南東で検出した。後世の攪乱とSK04によって大きく削平され、掘形の西屑のみを確認した。掘形の規模は、東西1.0m以上、南北0.5m以上、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰黄色砂質土である。

土坑SK30(第10・16図) 北地区南東の東壁付近に位置し、SK34を完掘後に土坑底部で検出した。掘形の平面は円形で、規模は径0.7m、深さ0.08~0.2mを測る。埋土は炭が混じる灰オリーブ色の砂質土である。

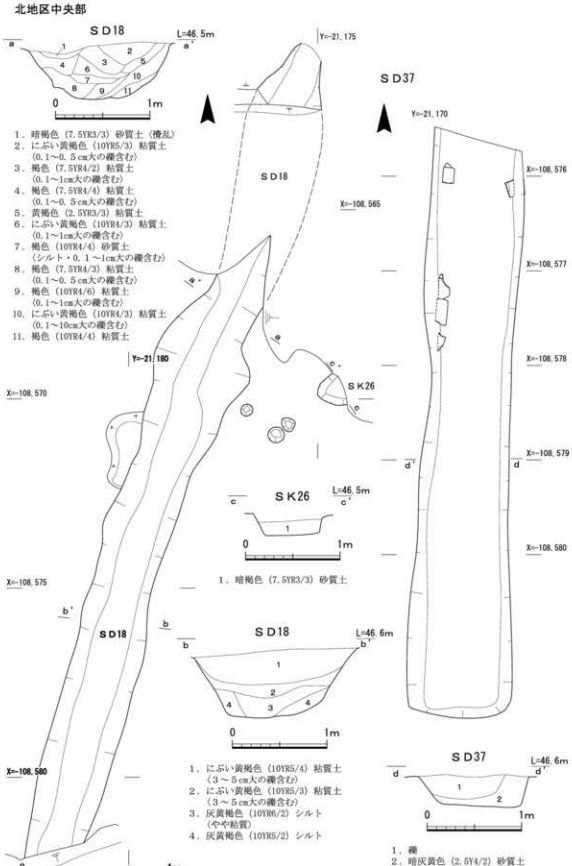
土坑SK34(第10・16図) 北地区南東で検出した。掘形の平面は不定形で、規模は東西2.6m以上、南北1.4m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。遺物は土師器皿が出土した(第21図)。

土坑SK35(第10図) SK34の北側で検出した土坑である。西側は後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は東側がへこむ方形で、規模は東西1.1m、南北2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。掘形の底部東側でSP32・33を検出した。遺物は土師器皿などが出土した(第21図)。

土坑SK36(第10・16図) 北地区北東の東壁付近で検出した。北側と南側を後世の攪乱によって削平され、遺構の全容は不明である。掘形の規模は東西3.1m、南北2.4m、深さ0.04~0.2mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。掘形底部は凹凸があり、西側が深くなる。異なる遺構



第14図 北地区遺構実測図(4)



第15図 北地区遺構実測図(5)

の可能性が考えられるが、遺物や埋土などから同一の遺構として判断した。掘形西側から土師器皿がまとまって出土した(第21図)。

土坑SK42(第10・16図) 北地区中央東側で検出した。掘形の平面は東側が細くなる楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は炭が混じる暗灰黄色の砂質土である。遺物は土師器皿などが出土した(第21図)。

土坑SK43(第10図) SK42の南東約1mで検出した。南側は後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は楕円形で、規模は長径0.7m以上、短径0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。

土坑SK96(第9・17図) 北地区の南西で検出した。西側を後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は長方形で、規模は東西0.6m以上、南北3.5m、深さ0.3~0.5mを測る。埋土は褐色の細粒砂である。検出した掘形の中心付近より上層には10~20cm大の石が密に含まれる。また、掘形南側の底部付近には一辺0.35m大の石が含まれる。掘形南端では、一辺0.4m程度の石が掘形南壁面に沿うように平らな面を上に向けて出土した。礎石の可能性が考えられる。

土坑SK97(第5・17図) 北地区南西で検出した土坑である。SD100埋没後に築かれた土坑である。掘形の平面は不定形で、規模は東西1.4m、南北1m以上、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色の極細粒砂である。遺構上面には、0.04~0.16cmの石や瓦が多数広がる。遺物は瓦片が出土した(第1図)。

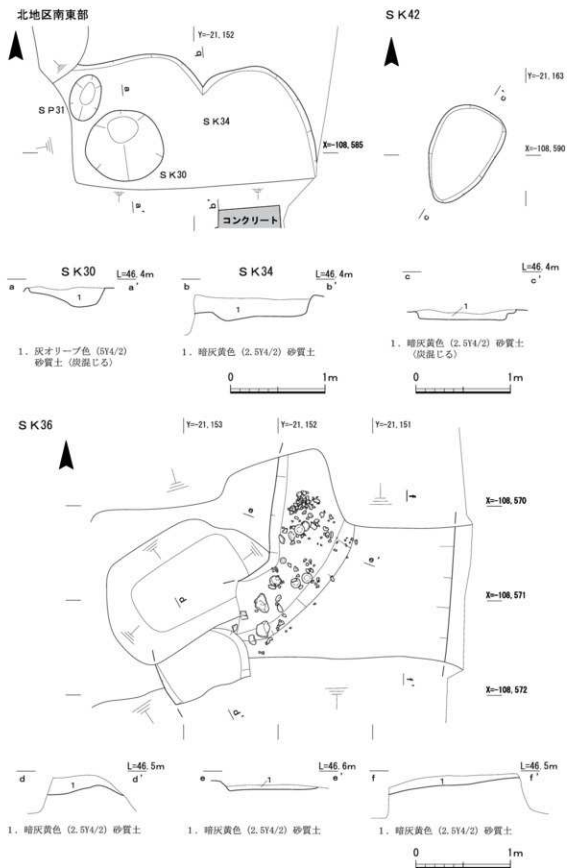
土坑SK99(第5・17図) SK97の北方約1m付近で検出した。掘形の平面は不定形で、規模は東西0.7m、南北0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色の細粒砂である。

溝SD12(第9・12図) 北地区北西で検出した南北方向の溝である。SD23を削平して掘削される。北側は後世の攪乱によって削平される。規模は検出長1.1m、幅0.3~0.5m、深さ0.35mを測る。埋土は褐色の細粒砂である。溝の北端は、攪乱の北側では確認できないため、掘形内で途切れるものと考えられる。主軸方向は、北に対して東に5°振る。

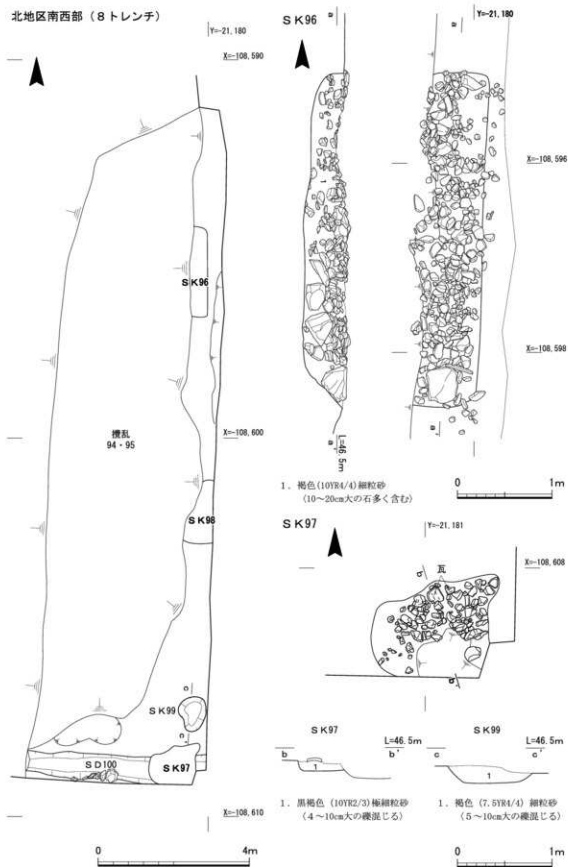
溝SD18(第9・15図) 北地区中央付近で検出した南北方向の溝である。規模は検出長22.2m、幅1.5~2.6m、深さ0.7mを測る。南北両端を後世の攪乱によって削平されるが、それぞれ調査地外へ延びると考えられる。主軸は北に対して17.5°東に振る。埋土は褐色やにぶい黄褐色の粘質土である。遺物は土師器皿などが出土しており、中世にさかのぼる可能性がある。

溝SD23(第9・12図) 北地区北西で検出した東西方向の溝である。東側をSD12によって削平される。規模は検出長2.4m、幅0.5~0.6m、深さ0.2mを測る。北に対して東に87°振る。埋土は褐色粘質土である。

溝SD37(第10・15図) 北地区中央付近で検出した南北方向の溝である。溝の規模は、検出長6.2m、幅0.9~1.1m、深さ0.3mを測る。主軸方向は北に対して東に5°振る。溝底部の東西脇から、東側で1点、西側で4点の丸瓦が出土した。いずれも凸面を上に向けて壁面に沿って置かれており、西側の2点は連続して置かれていた。瓦は溝に伴うものとみられ、元々溝底部の両脇に列状に並べられていたと考えられる。



第16図 北地区遺構実測図(6)

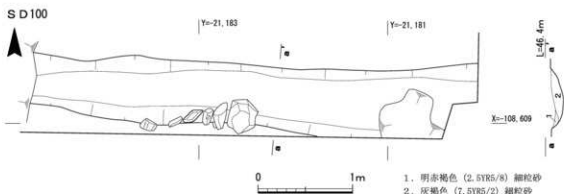


第17図 北地区遺構実測図(7)

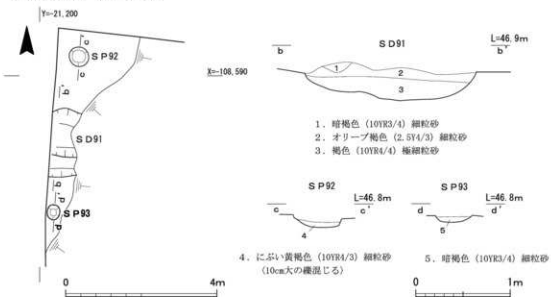
溝SD91(第9・18図) 北地区南側で検出した東西方向の溝である。溝の規模は、検出長0.8m、幅1.8m、深さ0.35mを測る。埋土は上層がオリーブ褐色の細粒砂、下層が褐色の極細粒砂である。遺物は土師器皿の破片が出土した。

溝SD100(第5・18図) 北地区南側で検出した東西方向の溝である。両側は掘乱によって削平され、東側は調査地外へと延びる。溝の規模は、検出長4.7m、幅0.6m、深さ0.1mを測る。主軸方向は北に対して西に86°振る。埋土は明赤褐色と灰褐色の細粒砂である。遺物は土師器片がわずかに出土した。

井戸SE29(第9・14図) 北地区北側中央付近に位置し、SD18の西屑上面で検出した。北半と上層を掘乱によって削平される。確認できた掘形の平面は歪んだ半円形で、規模は東西1.3m、南北0.8m以上を測る。掘形中央付近には、長軸0.35～0.45mの自然石3個が「コ」の字状なるように長軸を横に向けて置かれる。石の下側では、掘形底部が直径0.6mの円形に一段掘り下げられる。この中からは、軒平瓦3点と平瓦3点が円形に並んで出土した。軒平瓦と平瓦は交互に並び、軒平瓦はすべて瓦当面を上に向ける。埋土は褐色の粘質土で、裏込めと考えられる瓦の外側



北地区南西部(8トレンチ)



第18図 北地区遺構実測図(8)

の埋土は礫を含む。石列と瓦は井戸に伴うとみられ、それぞれ石組みの井戸枠の最下段と、水溜め部にあたると考えられる。

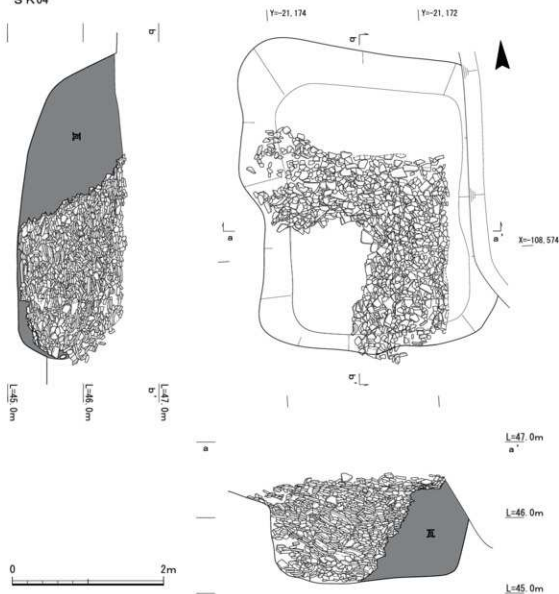
柱穴 S P 05 (第9・11図) 北地区北西隅で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.13mを測る。埋土は、褐灰色の砂質土である。

柱穴 S P 06 (第9・11図) 北地区北西に位置し、S P 05の東側で検出した。掘形の平面は楕円形で、規模は長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色の砂質土である。

柱穴 S P 07 (第9・11図) 北地区北西に位置し、S P 06の南東で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色の砂質土である。

柱穴 S P 11 (第9・12図) 北地区の北西に位置し、S K 22の東側で検出した。北側を攪乱によって削平される。掘形の規模は、東西0.3m、南北0.3m以上、深さ0.08mを測る。埋土は灰黄褐色の細粒砂である。

S K 04



第19図 北地区遺構実測図(9)

柱穴SP14(第9・12図) 北地区の北西に位置し、SD12の西側で検出した。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西0.5m、南北0.6m、深さ0.3mを測る。埋土は径0.03~0.15mの石を含む褐色の細粒砂で、柱痕は確認できない。

柱穴SP15(第9・12図) 北地区の北西に位置し、SD12の東側で検出した。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西0.7m、南北0.6m、深さは0.2mを測る。掘形埋土はオリーブ褐色の細粒砂である。掘形中央で、直径0.3mの柱痕を確認した。柱痕の埋土はにぶい黄褐色の細粒砂である。

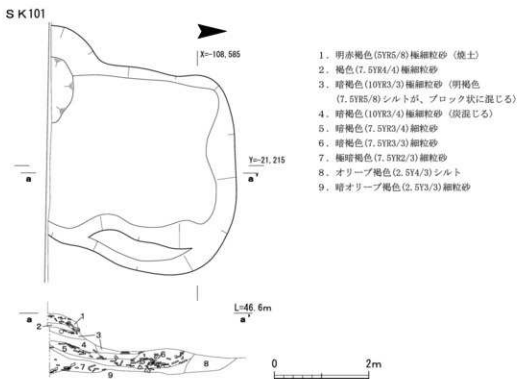
柱穴SP16(第9・12図) 北地区の北西に位置し、SP13の南側で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.1mを測る。掘形の埋土はオリーブ褐色の細粒砂である。掘形中央付近で柱痕を確認した。柱痕の埋土はにぶい黄褐色の細粒砂である。

柱穴SP17(第9・12図) 北地区の北西に位置し、SP16の東で検出した。長軸0.5m、短軸0.3m、高さ0.2mの石を平らな面を上に向けて置く。石に伴う明確な掘形は検出できなかったが、東側はわずかに掘り窪められており、柱穴に伴う根石もしくは礎石と考えられる。

柱穴SP28(第9・11図) 北地区中央付近、SE29の西側で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.3m、深さ0.11mを測る。埋土は褐色の粘質土である。

(2)宝永の大火以後の遺構

土坑SK04(第10・19図) 北地区中央付近で検出した土坑である。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西3.5m、南北4.2m、深さ1.4mを測る。大量の近世瓦が堆積しており、宝永の大火に伴う廃棄土坑と思われる。出土した瓦は種類別に個体数を計測した(付表1)。また、土器皿が出土した(第21図)。



第20図 北地区遺構実測図(10)

土坑 S K 30 (第10・16図) 北地区南東の東壁付近に位置し、S K 34を削平する。掘形の平面は円形で、規模は径0.8m、深さ0.08～0.2mを測る。埋土は炭が混じる灰オリーブ色の砂質土である。出土した遺物は、18世紀末以降の様相を呈する。

土坑 S K 101 (第5・20図) 北地区の西側にあたる11トレンチで検出した土坑である。土坑の北側を検出し、掘形の平面は歪んだ方形である。規模は一辺2.2m、深さ1.1mを測る。後世の攪乱によって土坑上部が削平される。瓦片が層をなして堆積していた。瓦には、棧瓦が含まれている。土坑埋土中から炭や焼土が出土していることから、18世紀後半期以降の火災に伴う廃棄土坑と考えられる。出土瓦については、種類別に個体数を計測した(第25図・付表1)。

(岡崎研一)

3) 北地区の出土遺物

(1) 土器・土製品

S K 34 (第21図) 1・2は土師器皿である。2は内面に沈線があり、17世紀以降のものとみられる。

S P 45 (第21図) 3は土師器皿である。内面口縁部と底部の境が窪んでおり、16世紀末頃のものともみられる。

S P 30 (第21図) 4は陶器水滴で、小形の土瓶形である。肩部に鉄軸で簡略化した笹文を描く。5は陶器土瓶である。外面に透明釉を施す。京信楽系の製品とみられる。18世紀末頃以降のものともみられる。

S K 42 (第21図) 6～8は土師器皿である。内面に沈線を持つものがあり、17世紀頃のものともみられる。

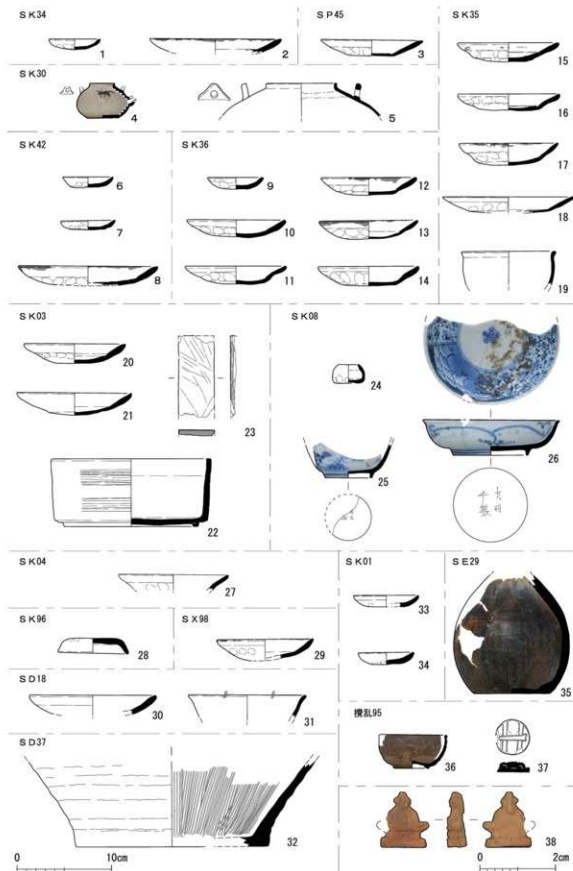
S K 36 (第21図) 9～14は土師器皿である。内面口縁部と底部の境が窪むものや沈線を持つものがあり、16世紀末から17世紀頃のものともみられる。

S K 35 (第21図) 15～18は土師器皿である。内面に沈線を持つものがあり、17世紀頃のものともみられる。19は陶器椀で、肥前系の製品とみられる。内湾気味の椀形で、口縁端部は外反し玉縁状となる。17世紀初頭頃の製品とみられる。

S K 03 (第21図) 20・21は土師器皿である。17世紀頃のものともみられる。22は陶器鉢で、外面に横方向の櫛目文が施文される。信楽系の製品と考えられる。23は石製硯である。上面が割がれたものとみられる。

S K 08 (第21図) 24は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。25は染付磁器椀である。外面には草花文を描き、高台内に「□明成□□製」銘がある。17世紀後半頃の肥前系の製品である。26は染付磁器皿である。内側面に花唐草文や波文を描き、見込み中央の五弁花文はコンニャク印判である。高台内に「太明年製」銘がある。17世紀末から18世紀前半頃の肥前系の製品である。

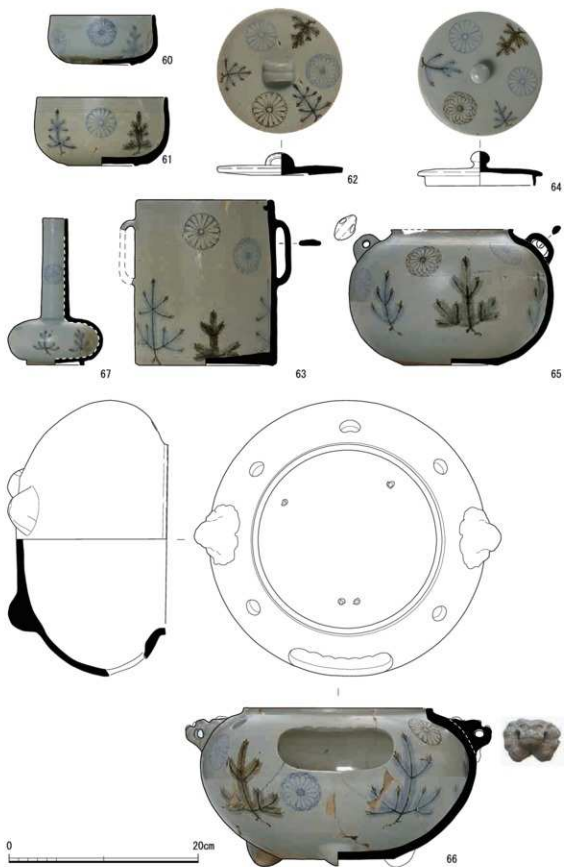
S K 04 (第21図) 27は土師器皿である。小片のため、時期等は不明である



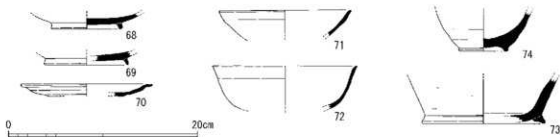
第21図 北地区出土遺物実測図(1)



第22図 北地区出土遺物実測図(2)



第23図 北地区出土遺物実測図(3)



第24図 北地区出土遺物実測図(4)

S K 96(第21図) 28は土師質の焼塩壺の蓋である。

S K 98(第21図) 29は土師器皿である。内面に沈線があり、17世紀頃のものと思われる。

S D 18(第21図) 30は土師器皿である。31は中国製の青磁碗である。口縁端部は反気味である。小片のため、詳細は不明であるが、龍泉窯系の製品とみられる。

S D 37(第21図) 32は陶器播鉢で、信楽系の製品とみられる。胎土に長石粒を含む。17世紀頃のものか。

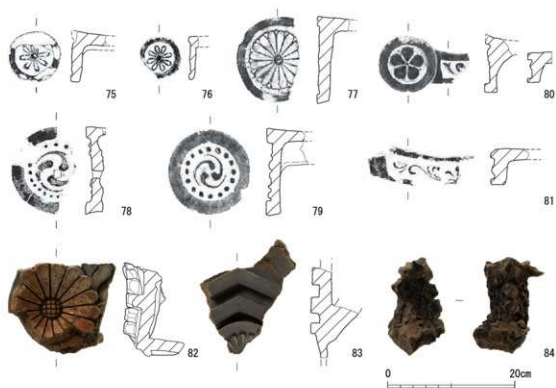
S K 01(第21図) 33・34は土師器皿である。小形品なので、明確な時期は不明であるが、近世前半頃のものか。

S E 29(第21図) 35は陶器徳利で、肥前系の製品である。前面に褐釉を施したあと、白色の灰釉を上掛けする。いわゆる「朝鮮唐津」と呼ばれるもので、16世紀末～17世紀初頭頃のものと思われる。

攪乱95(第21図) 36は型押し成形の土師質碗で、外面に唐草文を巡らす。外面に鉄釉を薄く施す。37は土師器のミニチュア土器釜の蓋である。玩具か。38は土製品の人形で、天神(菅原道真)像とみられる。いずれも京都系の製品とみられる。

攪乱1(第22図) 39は磁器箸置とみられ、2個の茄子を象る。肥前系とみられ、瑠璃釉を施す。底部は無釉である。楊枝立とみられる小穴がある。40は土師器のミニチュア土器片口で、内面に菊文がある。胡粉を塗った痕跡がある。41は陶器蓋で、京焼系とみられる。上面には、つまみを中心に二羽の鳳凰文を上絵付し、金彩を施す。

攪乱7(第22図) 43は肥前系もしくは九谷系の色絵磁器碗で、赤色顔料で文様などを描き、さらに金彩を施す。端反碗である。44～46・48は染付磁器碗である。端反碗が含まれており、18世紀末以降のものと思われる。48には焼継の痕跡が残る。47は染付磁器碗蓋で、肥前系とみられる。内面中央に簡略化された松竹梅文を描く。端反碗に伴うものとみられ、18世紀末以降の製品と考えられる。50は染付磁器植木鉢とみられ、型成形である。肥前系もしくは三田・王子山系の製品とみられる。平面形は六角と考えられる。51は肥前系の染付磁器鉢で、内面に草花文を描く。口縁端部は輪花形で、高台は蛇ノ目目形である。18世紀末以降の製品とみられる。口縁端部は端反り気味で、高台は細く高めである。52は青磁皿で、型成形である。高台の形状から隅入角形を呈するものとみられる。京都系の製品とみられ、三田青磁の可能性もある。



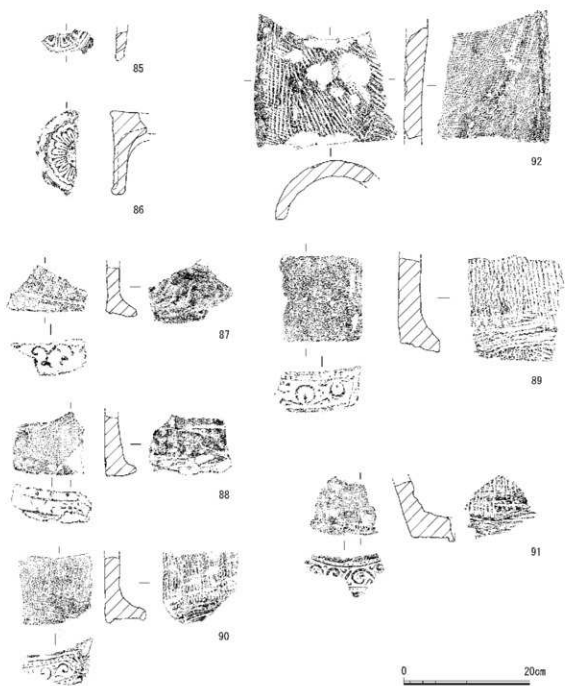
第25図 北地区出土遺物実測図(5)

攪乱8(第22図) 42は緑陶磁器皿で、高台は削り出しである。10世紀頃のものと思われる。49は染付磁器と考えられる鉢である。高台は細く高めである。焼継の痕跡がみられる。

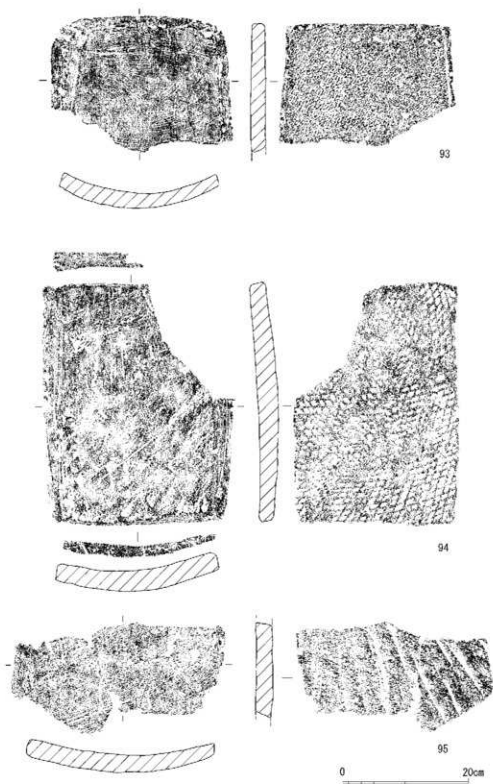
宝永焼土内(第22図) 53は須恵器壺の底部である。貼り付け高台をもつ。54は土師器皿で、内面に凹線状圏線をもつ。17世紀頃のものと思われる。55は染付磁器小碗で、外面に二本引きの網目文、内面に菊花文を描く。18世紀の肥前系磁器である。内面には「東山花陽」の文字を焼き付け、外面にも、判読できないが、文字を焼き付ける。

包含層(第22~24図) 56~58は土師器皿である。16世紀頃のものか。59は陶器播鉢で、丹波系の製品である。内面の播り目は一本引きである。16世紀頃の製品とみられる。

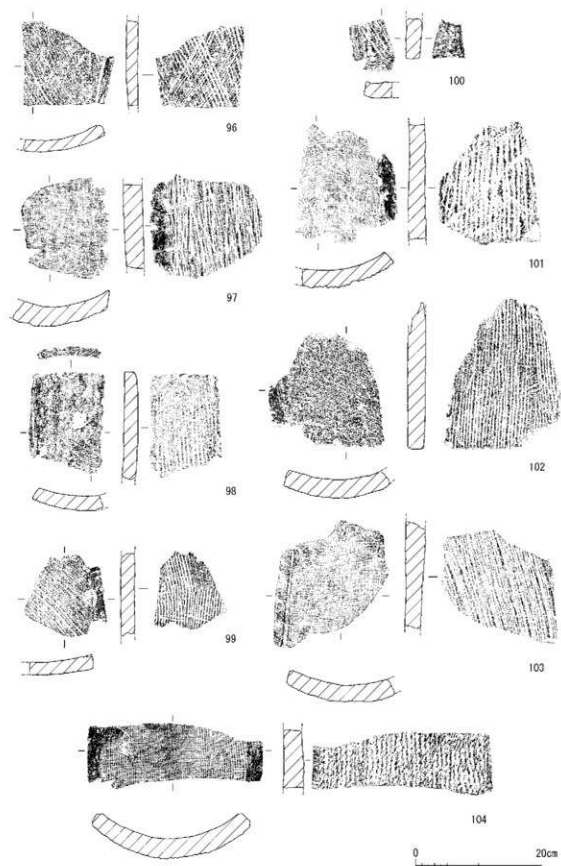
60~67は陶器の皆具である。いずれも青釉と褐釉で菊文と若松文を描く。口縁端部には櫛状工具による圏線が巡り、もともと一具のものである。菊文が多用されており、禁裏との関係が考えられるものである。18世紀後半頃以降の京都系の製品とみられる。60は浅鉢で、底部は萐筍状である。建水の可能性があるが、やや小形である。61は60とほぼ同様の形態で、やや大振りである。建水と考えられる。62・63は水指である。蓋(62)には中央に帯状のつまみがある。身(63)は円筒状の形態で、内面口縁端部に蓋受けをもつ。外面2方向に帯状の縦耳が付く。64・65は釜である。蓋(64)の中央には宝珠形のつまみが付く。身(65)は、肩部に扁平気味の頸座を2方向に付す。66は風炉である。肩部に獅子形の頸座を2方向に付す。底部には、丸をもった脚が3方向に付く。胴部上半に格座間形の風門を設ける。67は杓立である。胴部は低い扁平な球形で頸部は細長い筒状を呈する。底部には削り出しの輪高台をもつ。口縁端部には2方向に菊花の浮文をもつ。



第26図 北地区出土遺物実測図(6)



第27图 北地区出土遺物実測図(7)



第28図 北地区出土遺物実測図(8)

68・69は緑釉陶器皿である。高台は貼り付けである。70は土師器皿である。口縁端部が屈曲する、いわゆる「て」の字口縁の皿である。10世紀頃のものともみられる。71・72は灰釉陶器椀である。東海系のものともみられる。73は須恵器壺とみられる。底部外縁に「ハ」の字状に開く高台を付す。74は陶器椀で、肥前系の製品である。16世紀末～17世紀初頭頃のものともみられる。

(2)瓦(第25～28回)

75～84は近世瓦である。75・76は菊花文棟丸瓦で、棟の側面に装着される飾り瓦である。攪乱8から出土した。77は菊花文軒丸瓦で、S K 101から出土した。78は三巴文軒丸瓦で、中央に角釘で固定するための穿孔がある。S K 99から出土した。79は三巴文軒丸瓦で、S K 04から出土した。80は棧瓦の軒先瓦で、丸の部分が花文、平の部分が唐草文である。壁面精査中に出土した。81は唐草文軒平瓦である。攪乱8から出土した。82は鬼瓦もしくは獅子口の一部とみられ、菊文を配する。S K 101から出土した。83は獅子口の一部である。S K 101から出土した。84は鯉瓦もしくは獅子等の棟先飾瓦の一部とみられる。S K 101から出土した。

85～104は古代から中世にかけての瓦である。ほとんどのものが寺町調査後に実施した断ち割りて河川堆積層から出土したものである。85は複弁蓮華文軒丸瓦であるが、小片のため詳細は不明である。蓮華文の外周に1条の圏線が巡る。平安時代後期のものか。南北断ち割りから出土した。86も複弁蓮華文軒丸瓦である。平安時代後期のものとみられる。攪乱7から出土した。

87は唐草文軒平瓦である。平安時代後期のものとみられる。南北断ち割りから出土した。88は宝相華文軒平瓦とみられる。S D 18から出土した。89～91は瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、亀岡市篠栗業生産遺跡群子瓦瓦室で生産された11世紀の瓦とみられる。法成寺関係の瓦と考えられているものである。89は半截花文軒平瓦である。他の出土例から緑釉瓦と考えられるが、現状では緑釉は残存していない。90・91は唐草文軒平瓦である。

92は丸瓦で、凸面に交差する平行タタキ、凹面に粗い布目が認められる。北東部から出土した。93～104は平瓦である。94は凸面に斜格子タタキが残る。その他の瓦は凸面が縄タタキである。96・98・100は緑釉瓦であり、法成寺所用の瓦とみられる。

S K 04出土近世瓦(付表1) S K 04は、宝永5(1702)年の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。出土瓦3,631点について観察した。なお、点数は破片数であり、個体数ではないことを最初に記しておきたい。

付表1 北地区近世瓦タイプ別個体数

北地区 S K 04			
種別	個体数	コビキ	顔印
軒丸瓦	9	A	
		B	
丸瓦	1834	A	233
		B	86
軒平瓦	45	A	3
		B	
平瓦	1700	A	3
		B	11
鬼瓦	0		
		飾	4
その他	0	道具瓦	3
		不明	36
		菊花棟丸	0
		平安	0
		鳥フスマ	0
		合計	3631

北地区 S K 101			
種別	個体数	コビキ	
軒丸瓦	67	A	
		B	
丸瓦	1253	A	
		B	
軒平瓦	62	A	
		B	
平瓦	4291	A	
		B	
鬼瓦	17		
		飾	0
その他	0	道具瓦	0
		不明	51
		菊花棟丸	363
		平安	0
		鳥フスマ	0
		合計	6104

この土坑の出土傾向の特徴は、軒瓦を含む丸瓦・平瓦の出土割合が約99%の多数を占めることである。鬼瓦は含まれておらず、道具瓦などのその他の瓦も約1%と非常に少ない。出土頻度の高い菊花文棟丸瓦が含まれていないのも特徴と言える。

丸瓦・平瓦では、軒瓦の数が少ないのも特徴的である。丸瓦では、軒瓦の割合は1%以下、平瓦では、軒瓦の割合は3%弱と非常に少ない。つまり、出土瓦の約97%が通常の丸瓦・平瓦と言える。

丸瓦・平瓦については、コビキの痕跡が確認できるものがあるが、平瓦では凹凸面共に平滑に調整されているものが多く、確認できたのはわずかである。丸瓦では、通常の丸瓦1,834点のうち約13%の233点にコビキAの痕跡が確認できた。これは、観察した遺構出土の近世瓦では、かなりの高含有率である。コビキAの瓦は、豊臣秀吉の聚楽第築城まで使用されていた瓦で、聚楽第築城後に形成された大名屋敷街ではコビキBの瓦に替わる。今回の調査で出土した近世瓦の内では古様を示すものである。このことは、これらの瓦を使用していた建物が、寺町形成のごく初期の段階で建造されたもの、もしくは、旧地から寺町に移転した時に移築されたものの可能性が考えられる。また、コビキBの瓦も含まれており、宝永の大火までの間に補修されたことも考えられる。

S K101出土近世瓦(付表1) S K101は、宝永の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。出土瓦の破片6,104点を分類した。軒瓦を含む丸瓦・平瓦の割合は約93%である。コビキの観察は行っていない。

この土坑出土瓦で特徴的なのは、菊花文棟丸瓦が多数含まれていることである。他の遺構の出土傾向からみて、この土坑出土瓦は、寺町移転以後に建造された建物に使用されていた瓦と考えられる。(引原茂治)

6. 南地区の調査

1) 基本層序と調査の概要

南地区は、調査対象範囲の南側に位置し、調査トレンチは、2・4・5・7・9・10トレンチが該当する。

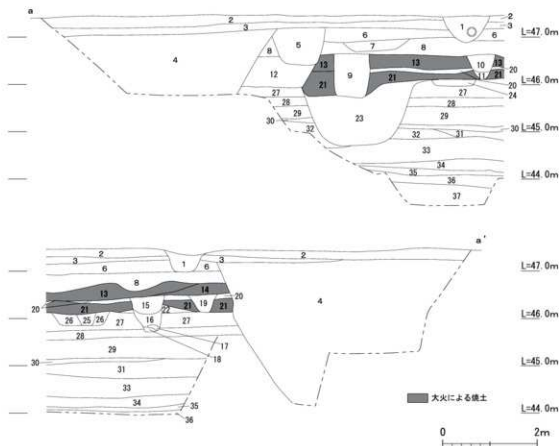
(1) 基本層序

各年度に設定した調査トレンチの壁面で断面図の作成を行った(第29図)。a-a'間では、攪乱による影響が少なく、北地区と同様に、宝永5年と天明8年それぞれの大火に伴う焼土層を確認した。天明の大火に伴う焼土層は暗褐色の中粒砂で、a-a'間のほかb-b'間で確認した。標高46.4m付近から20~30cmの厚さで堆積する。この焼土層の下層は黄褐色や灰黄褐色の細砂質シルトが10cm程度の厚さで堆積し、天明の大火以前の整地層とみられる。上層は砂礫層が水平に堆積しており、大火以降現代に至るまで繰り返し盛り土をして整地されたことがうかがえる。

宝永の大火に伴う焼土層は暗褐色の中粒砂で、調査地西側のa-a'では標高46.1m付近から10~30cmの厚さで堆積する。南地区東側のf-f'でも同じ高さに堆積するが、確認できる範

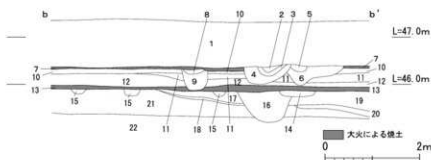


第29図 南地区断面実測位置図



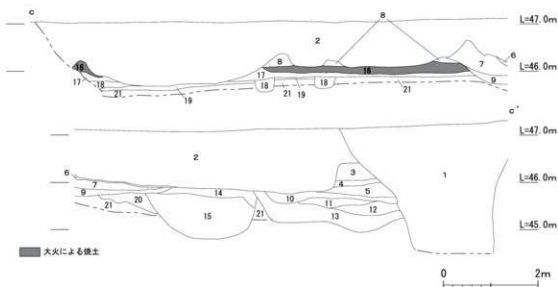
- | | |
|--|--|
| <p>1. 擾乱
 2. 黄褐色(2.5YS/3)シルト
 3. 黒褐色(2.5Y3/1)礫
 4. 擾乱
 5. 擾乱
 6. 褐色(7.5YR4/3)砂礫
 7. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
 8. 灰黄褐色(10YR4/2)砂礫
 9. 褐色(10YR4/1)砂質土
 10. 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土(焼土含む)
 11. 褐色(7.5YR4/4)砂質土(焼土含む)
 12. 黒褐色(10YR3/1)砂質土(焼土含む)
 13. 暗褐色(7.5YR3/3)砂質土(焼土含む)
 14. 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土(焼土含む)
 15. 黒褐色(10YR3/2)砂質土(焼土含む)
 16. 暗褐色(10YR3/3)砂質土
 17. 褐色(7.5YR4/1)粘質土
 18. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
 19. 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(焼土含む)</p> | <p>20. 黄褐色(2.5YS/4)細砂質シルト
 21. 褐灰色(5YR4/2)砂質土(焼土含む)
 22. 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(礫・土師器片含む)
 23. 瓦層まり
 24. 褐色(7.5YR4/3)砂質土(焼土含む)
 25. 暗灰褐色(10YR4/2)砂質土(礫含む)
 26. 褐色(7.5YR4/3)砂質土(焼土含む)
 27. オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土
 28. 暗赤褐色(5YR3/2)砂質土
 29. 褐灰色(2.5Y4/1)砂礫
 30. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂
 31. 黒褐色(10YR3/1)砂礫
 32. 黄褐色(2.5YS/4)細砂
 33. 暗褐色(10YR3/3)砂礫
 34. 黒褐色(5YR2/1)砂礫
 35. 黒色(10YR2/1)粗砂
 36. 黄褐色(2.5YS/4)礫(上面マンガン付着)
 37. 黄褐色(2.5YS/4)砂礫</p> |
|--|--|

第30図 南地区土層断面図(1)



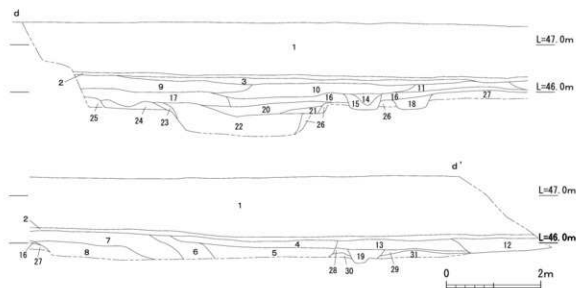
- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| 1. 盛り土 | 12. 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂 |
| 2. 赤褐色 (5YR4/8) 中粒砂 (焼土含む) | 13. 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂 (焼土層・土跡片含む) |
| 3. 褐色 (7.5YR4/6) 中粒砂 | 14. 暗褐色 (10YR3/4) 粗砂 |
| 4. 暗褐色 (7.5YR3/3) 中粒砂 | 15. 褐色 (10YR4/4) 中粒砂 (S D910・911) |
| 5. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂 | 16. 黒褐色 (10YR3/1) シルト含む中粒砂 (S D941) |
| 6. 褐色 (10YR4/6) 中粒砂 | 17. 褐色 (10YR4/4) 中粒砂 |
| 7. 褐色 (7.5YR4/3) 中粒砂 (焼土含む) | 18. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂 |
| 8. 黒褐色 (10YR2/3) 粗砂 | 19. 褐色 (10YR4/4) 中粒砂 |
| 9. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂 | 20. 褐色 (10YR4/4) 中粒砂 (寺町墓地面) |
| 10. 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト含む細粒砂 | 21. 黄褐色 (10YR5/6) 中粒砂 |
| 11. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂 | 22. 褐色 (10YR4/6) 中粒砂 |

第31図 南地区土層断面図(2)



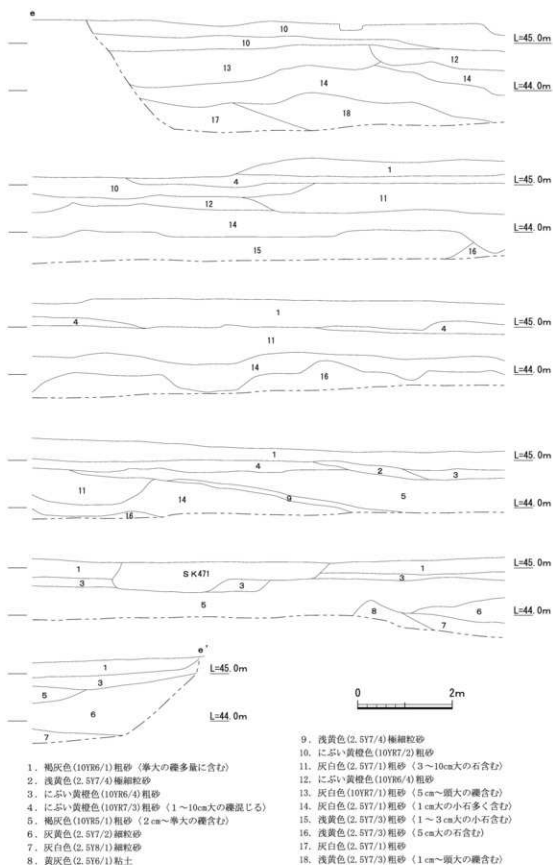
- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 井戸 (S E771) | 12. 暗褐色 (7.5YR3/4) 中粒砂含む細粒砂 (炭少量含む) |
| 2. 攪乱 | 13. 黒色 (10YR2/1) シルト質細粒砂 (炭多く含む) |
| 3. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 (炭多量に含む・焼土少量含む) | 14. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 (炭少量含む・焼土多く含む) |
| 4. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 (炭・焼土少量含む) | 15. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 (焼土多く含む) |
| 5. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂含む細粒砂 | 16. 橙色 (5YR7/8) 細粒砂 (炭混じる・宝水の大火による) |
| 6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂含む細粒砂 | 17. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂 (極細粒砂含む) |
| 7. 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂含む細粒砂 | 18. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂含む中粒砂 (炭混じる) |
| 8. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂含む細粒砂 (焼土少量含む) | 19. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂 (炭少量含む・整地面か) |
| 9. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂 (炭・焼土少量含む) | 20. 褐色 (10YR4/4) 中粒砂含む細粒砂 (炭少量含む) |
| 10. 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂含む細粒砂 (炭少量含む) | 21. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂含む中粒砂 (炭多く含む) |
| 11. 黒褐色 (10YR3/1) 中粒砂含む細粒砂 (炭少量含む) | |

第32図 南地区土層断面図(3)

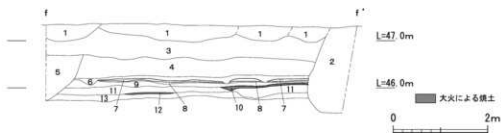


- | | |
|---|--|
| <p>1. 盛り土</p> <p>2. 暗褐色(10YR3/3)中粒砂</p> <p>3. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂</p> <p>4. 褐色(10YR4/6)中粒砂～粗砂
(2～5cm大の礫混じる)</p> <p>5. 暗褐色(10YR3/4)粗砂
(2～5cm大の礫混じる、瓦・土師器・陶器混じる)</p> <p>6. 暗褐色(10YR3/3)シルト含む中粒砂
(1～10cm大の礫混じる)</p> <p>7. 黒褐色(10YR2/2)シルト含む中粒砂～粗砂
(1～10cm大の礫・瓦・土師器混じる、炭化物も一部認めれる)</p> <p>8. 暗褐色(10YR3/3)粗砂
(5～10cm大の礫混じる)</p> <p>9. 黒褐色(10YR3/2)中粒砂～粗砂
(5～15cm大の礫・瓦混じる)</p> <p>10. 暗褐色(7.5YR3/3)シルト含む中粒砂
(5～10cm大の礫・瓦混じる)</p> <p>11. 黒褐色(10YR3/1)シルト若干含む中粒砂</p> <p>12. 暗褐色(10YR3/4)極粗粒砂</p> <p>13. 黒褐色(10YR3/1)シルト含む粗砂
(1～10cm大の礫混じる)</p> <p>14. 黒褐色(10YR2/2)シルト含む細粒砂
(土師器片・炭化物混じる)</p> | <p>15. 黒褐色(10YR2/2)シルト含む細粒砂</p> <p>16. 暗褐色(10YR3/4)シルト含む細粒砂</p> <p>17. 黒褐色(10YR3/1)中粒砂</p> <p>18. 暗褐色(10YR3/4)シルト含む中粒砂
(2～10cm大の礫混じる・S D99)</p> <p>19. 黒褐色(10YR2/2)粗砂～極粗粒砂</p> <p>20. 暗褐色(10YR3/3)シルト含む中粒砂
(2cm大の礫混じる)</p> <p>21. 暗褐色(10YR3/4)シルト含む細粒砂</p> <p>22. 暗褐色(10YR3/3)粗砂
(一部明赤褐色(2.5YR3/4)シルト質の土が混じる、土師器片多量に混じる)</p> <p>23. 黒褐色(10YR2/3)細～中粒砂
(土師器片混じる)</p> <p>24. 暗褐色(10YR3/3)粗砂
(2～5cm大の礫混じる、土師器片混じる)</p> <p>25. 暗褐色(10YR3/4)細粒砂</p> <p>26. 暗褐色(10YR3/4)細～中粒砂</p> <p>27. 褐色(10YR4/6)シルト含む粗砂
(2～10cm大の礫混じる)</p> <p>28. 暗褐色(10YR3/3)中粒砂～粗砂</p> <p>29. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂～粗砂</p> <p>30. 黒褐色(10YR2/3)シルト若干含む中粒砂</p> <p>31. 黒褐色(10YR2/2)粗粒砂
(2～5cm大の礫混じる)</p> |
|---|--|

第33図 南地区土層断面図(4)

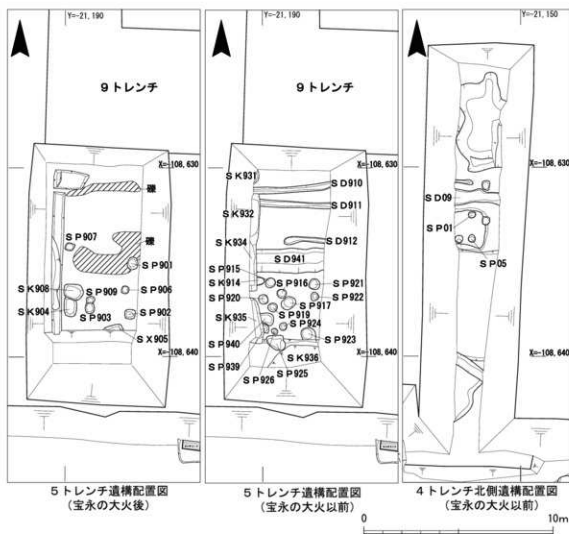


第34図 南地区土層断面図(5)



- | | |
|---|--|
| 1. 暗褐色(10YR3/3)粗砂混じり極細粒砂 (擾乱) | 8. にぶい赤褐色(2.5YR3/4)細粒砂含中粒砂 |
| 2. 擾乱 | 9. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂含中粒砂 |
| 3. 暗褐色(10YR3/4)粗砂混じり極細粒砂
(5~20cm大の礫多く混じる・擾乱) | 10. 褐色(2.5YR7/6)細粒砂含中粒砂 (焼土) |
| 4. 暗褐色(10YR3/4)細粒砂 (中粒砂含む・擾乱) | 11. 褐色(10YR4/6)シルト含む細粒砂
(13cm大の礫多く含む) |
| 5. 擾乱 | 12. 暗赤褐色(2.5YR3/3)極細粒砂含む細粒砂
(宝永の大火時の積土) |
| 6. 黄褐色(10YR8/8)細粒砂含中粒砂 | 13. 暗褐色(10YR3/3)極細粒砂含む細粒砂 |
| 7. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂 | |

第35図 南地区土層断面図(6)



第36図 南地区遺構配置図(1)

間はわずかで、厚さも4cmと薄くなる。北地区では標高46.5m付近で確認しており、調査対象地全体は北から南へ向かって緩やかに傾斜する地形であることがわかる。

宝永の焼土層より下層では、寺町形成に伴う整地層は確認できなかった。標高46.0m以下は、北地区と同様に鴨川による自然堆積である暗褐色や黒褐色の砂礫が堆積する。礫の大きさが北地区と比較して大きく、河川の本流部分にあたると考えられる。e-e'では、第5層・第9層が西から東へ向かって大きく傾斜しており、ある時期の河川西岸にあたとみられる。a-a'の第36層は上面にマンガンが付着する黄褐色の礫層で、時期は不明であるが、低位の段丘の上面である可能性がある。

(2) 調査の概要

宝永の大火に伴う焼土層の下面を第1面として調査を実施した。寺町に伴う遺構は、南地区北西で、礎石建物跡・柱穴列・瓦敷・礫敷・石列・溝・土坑・柱穴を検出した。南側と東側は後世の擾乱により上層を大きく削平され、遺構面は確認できなかったが、井戸・土坑・柱穴等を検出した。北東では、複数の墓穴を伴う墓地を検出した。宝永の大火後の遺構は、井戸・土坑・溝・瓦列・柱穴等を検出した。平成28年度調査の9・10トレンチにあたる範囲では、擾乱が全面に及び、遺構面及び遺構は検出できなかった。

2) 検出遺構

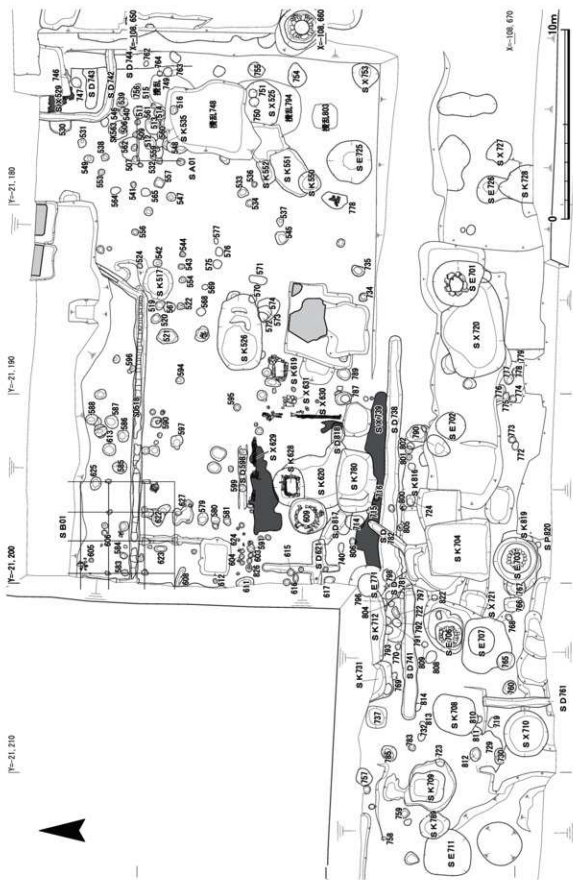
南地区からは、道路状遺構1か所、礎石建物跡1棟、柱穴列2条、溝15条、井戸13基・石室1基・礫敷1か所・瓦列2条・瓦敷1か所のほか、複数の土坑・柱穴を検出した(第37・38図)。これら検出状況は、第36～38図に示した。

(1) 宝永の大火以前の遺構

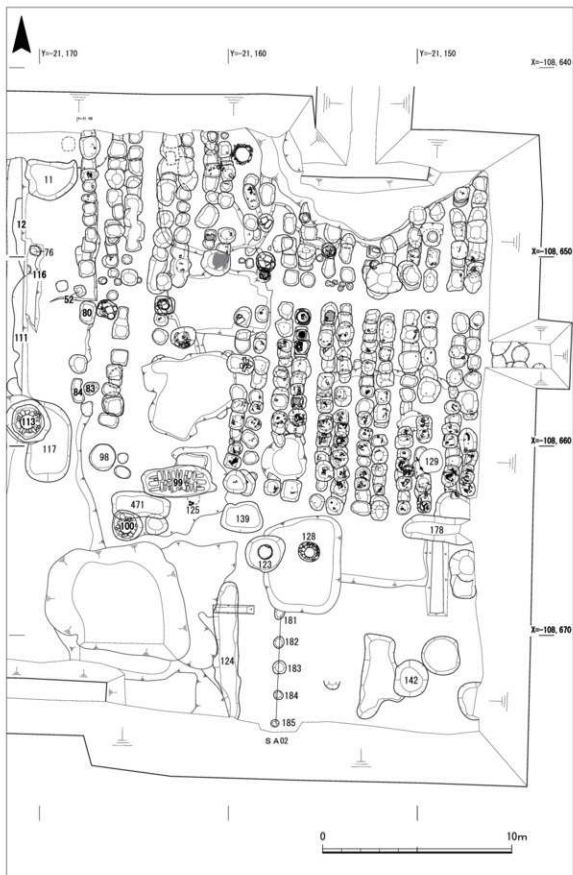
道路状遺構1(第36図) 南地区北西の5トレンチで、並行する東西方向の溝を4条検出した。北からS D910・911・912・941である。その上層にあたる宝永の大火直後の遺構面で礫敷を検出している。礫敷は2か所に分かれ、北側で東西4.0m、南北0.5m、南側で東西3.5m、南北2.2mの範囲に広がる。南北の礫敷間は固くしまっており、礫敷が存在していたとみられ道路跡の可能性が指摘できる。礫敷は北側ではS D910の範囲で分布し、南側ではS D941の範囲でほぼ分布する。このことから、宝永の大火以後の改修によってそれ以前にあった溝が埋められていることになり、大火以前には両方の溝は同時併存していた可能性が高いことがわかる。S D910とS D941の溝心間距離は約3.6mであり当時の2間に相当し、上層と同じく道路であった可能性がある。

S D910とS D941の内側にあるS D911とS D912は礫が含まれていなかったことから、S D910とS D941よりも古い並行する溝であり、同じく道路であった可能性がある。溝の心間距離は約1.8mであり当時の1間に相当する。これら一連の遺構が道であるならば、寺町移転時または初めごろに1間幅の道があり、宝永の大火前には2間に拡張され、宝永の大火以後にさらに拡張されたことがわかる。溝や礫敷の南側では、複数の柱穴を検出したが、塀として復原することはできなかった。

墓地の北側にあたる4トレンチ北西では、東西溝S D09を検出した。西側の溝とS D09が同一

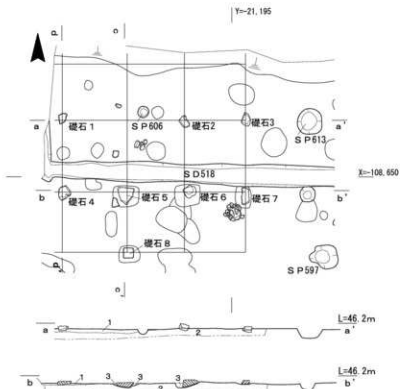
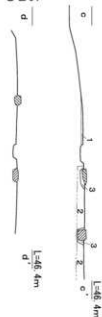


第37図 南地区遺構配置図(2)



第38図 南地区遺構配置図(3)

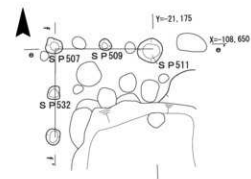
S B 01



1. にぶい赤褐色 (5YR5/4) 粘質土
(焼土・上層には室水の大火による焼土が堆積)
2. にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土
(3~6cm 大の礫含む)
3. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土 (砂粒混じる)



S A 01



1. 黒褐色 (10YR2/2) 砂礫
2. 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土
3. 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
4. 黒褐色 (10YR3/2) 礫混じり砂質土
5. 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
6. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂礫
7. 黄褐色 (2.5Y4/1) 礫混じり砂質土



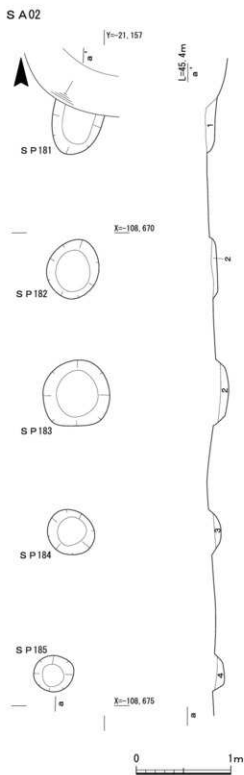
第39図 南地区遺構実測図(1)

のものかは不明であるが、溝の主軸はおおよそ真東を向くことから、連続する溝であればS D910に対応するものと考えられる。南側溝に対応する溝については後世の攪乱のため検出できなかった。

S D910・911の規模は検出長4.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測り、埋土は褐色の中粒砂である。S D912は、検出長2.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。S D941は検出長3.5m、幅1.2m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色のシルト含む中粒砂である。S D09の規模は、検出長2.4m、幅0.6~0.8m、深さ0.3mを測る。

建物S B01 (第37・39図) 南地区北西で検出した建物跡である。礎石建物で、規模は東西3間(4.8m)以上、南北2間(3.5m)以上を測る。柱間は、東西方向で1.6m、南北方向は南側で1.5m、北側で2.0mを測る。南側の柱間が狭いことから廂の可能性が考えられる。建物主軸は真北を向く。礎石は8基を検出した。礎石の大きさは、礎石1~3が0.3m、礎石4~8が0.3~0.5m大である。南辺で検出した礎石8は1辺0.3mの立方体に近い形をしており、石造物の転用と考えられる。礎石5~8には浅い掘形が伴っており、第1面より0.1m程度飛び出るように置かれる。掘形の平面は方形で、規模は一辺0.4~0.7mを測る。埋土は暗灰黄色の粘質土である。礎石1~4についても同様に、石の半分程度が埋没するが、明確な掘形は確認できなかった。

柱穴列S A01 (第37・39図) 南地区中央北側で検出した柱穴列である。6基の柱穴から構成され、南北2間(2.4m)以上、東西2間(2.6m)以上で、柱間距離は1.2~1.3mを測る。主軸はほぼ真北を向く。各柱穴の掘形規模は直径0.3~0.7m、深さ0.1~0.4mでややばらつきがある。S P507は北東隅に位置し、掘形の平面は方形を呈する。規模は一辺0.4m、深さ0.4mを測る。掘形の埋土は暗褐色や褐灰色の砂質土である。掘形の中央で直径0.3mの柱痕を確認



1. 暗褐色 (10YR3/3) 粗砂
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 (3~5cm 大の礫含む)
3. 暗褐色 (10YR3/3) 粗砂 (4cm 大の礫少し含む)
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 (2~3cm 大の礫含む)

第40図 南地区遺構実測図(2)

した。柱痕の埋土は黒褐色の砂礫である。S P 509は東西列中央に位置する。掘形の平面は円形で、直径0.3m、深さ0.3mを測る。掘形東側で直径0.2mの柱痕を確認した。掘形の埋土は暗褐色の砂質土で、柱痕の埋土は黒褐色の砂礫である。S P 511は東西列東端に位置する。掘形の平面は円形で、直径0.7m、深さ0.3mを測る。埋土は下層がにぶい黄褐色や黄灰色、上層が灰黄褐色の砂質土である。掘形中央に、上層の埋土が落ち込んでいる部分があり、柱痕の可能性が考えられる。

柱穴列 S A 02 (第38・40図) S D 124の約3.0m東で検出した南北4間(5.8m)以上の柱穴列である。北端で検出した S P 181の北側は攪乱によって削平される。柱間は不揃いで、S P 181・182間が約1.6m、S P 182・183間が1.3m、S P 183・184・185間は約1.5mとなる。柱穴の掘形は円形で、掘形の規模は、S P 185が最も小さく直径0.4m、S P 183が最も大きく直径0.7mを測る。柱穴の埋土は暗褐色やにぶい黄褐色の粗砂で、柱痕は確認できなかった。柱穴列の主軸は北に対して1°東に振る。

土坑 S K 142 (第38図) 南地区南東隅で検出した土坑である。掘形の平面は楕円形で、規模は、東西1.7m、南北2.0m、深さ0.8mを測る。遺物は土師器片や陶磁器類が出土した(第63図)。

土坑 S K 517 (第37図) 南地区中央西寄り検出した土坑である。S D 518の屈曲部南側にあたる。掘形の平面は円形で、規模は径1.6m、深さ0.18mを測る。遺物は土師器皿などが出土している(第48図)。

土坑 S K 535 (第37図) 南地区中央で検出した土坑である。S A 01の東側に位置する。南側をS K 548に削平される。掘形の規模は、東西0.6m以上、南北0.3m以上、深さ0.3mを測る。遺物は土師器片がわずかに出土している(第50図)。

土坑 S K 548 (第37図) 南地区中央で検出した土坑である。S A 01の東側に位置する。土坑南東側を攪乱によって削平される。北側はS K 535と重複しており、S K 535埋没後に掘削される。掘形の規模は、東西0.5m以上、南北1.0m以上、深さ0.4mを測る。遺物は土器片がわずかに出土した(第52図)。

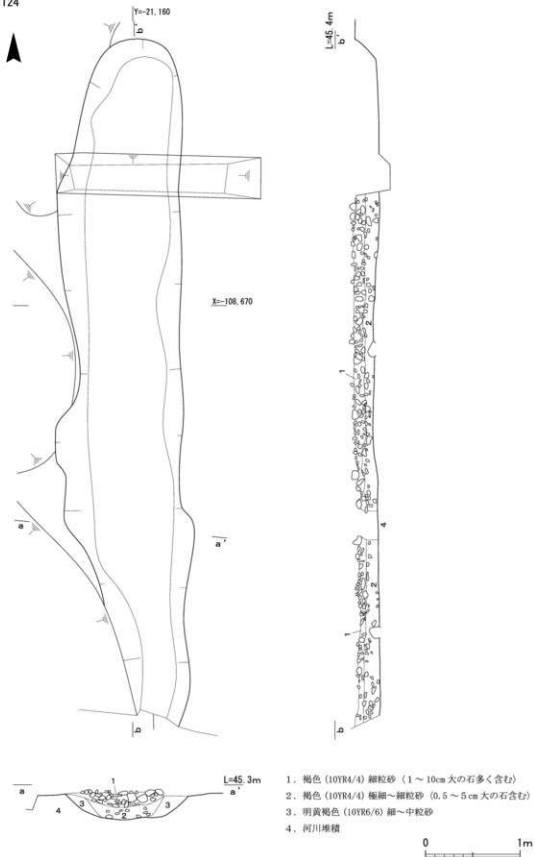
土坑 S K 550 (第37図) 南地区中央で検出した土坑である。S K 551を削平して掘削された。掘形の平面は円形で、規模は径1.1m、深さ0.2mを測る。遺物は土師器片がわずかに出土した(第50図)。

土坑 S K 551 (第37図) 南地区中央で検出した土坑である。北側をS K 552、南側をS K 550によって削平される。掘形の平面は楕円形で、規模は長径2.7m、短径1.7m、深さ0.17mを測る。遺物は土師器皿、天目碗が出土した(第48図)。

土坑 S K 552 (第37図) 南地区中央で検出した土坑である。S K 551埋没後に掘削される。掘形の平面は楕円形で、規模は長径1.3m、短径0.7m、深さ0.18mを測る。遺物は土器片がわずかに出土した(第53図)。

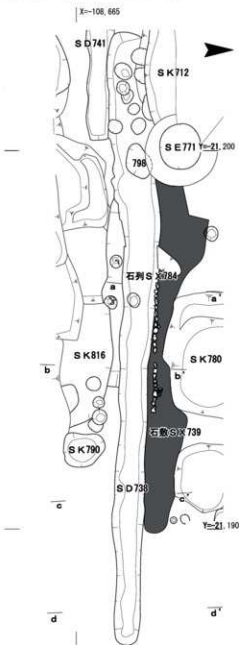
土坑 S K 562 (第37図) 南地区中央部で検出した土坑である。S A 01の北西の柱穴によって部分的に削平される。掘形の平面は方形で、規模は東西1.3m、南北1.0m、深さ0.1mを測る。遺物は土師器皿が出土した(第50図)。

SD124



第41図 南地区遺構実測図(3)

SD738・SK816・SX739・784



1. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂泥 (土器片含む)
3. 暗褐色 (10YR3/3) 砂泥
4. にぶい黄褐色 (10YR4/2) 砂泥



1. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥 (1~5cm大の礫少量混じる)
3. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂
4. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (土器片含む)
5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥 (1~5cm大の礫混じる)

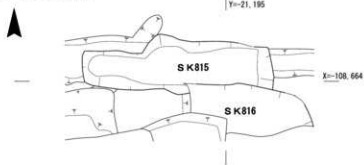


1. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥 (粗砂混じる)
3. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (1~3cm大の礫混じる・河川堆積)
4. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥 (1~5cm大の礫混じる・河川堆積)
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (1~3cm大の礫混じる・河川堆積)



1. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (2~14cm大の礫混じる)
2. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (1~3cm大の礫混じる・河川堆積)
3. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (1~5cm大の礫混じる・河川堆積)
4. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥 (1~5cm大の礫混じる・河川堆積)
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂泥 (1~10cm大の礫混じる・河川堆積)

SK815 (SD738下層)



第42図 南地区遺構実測図(4)

土坑 S K 574 (第37図) 南地区中央西寄りで見出した土坑である。S K 526の南東側に位置する。掘形の平面は垂んだ円形で、規模は長径1.3m、短径1.2m、深さ0.1mを測る。遺物は土師器皿などが出土した。

石室 S K 619 (第37・47図) 南地区中央西側で見出した。S X 630の北東に位置する。方形に石組みされた石室である。掘形の規模は、長軸1.02m、短軸1.00mを測る。検出した石組は1段で、内法は長辺0.79m、短辺0.42m、深さ0.3mを測る。石組の主軸は、東に対して北に2°振り、長辺を東西に向ける。遺物は、土師器皿をはじめ多数の土器が出土した(第51図)。

石室 S K 628 (第37・46図) 北地区西側で見出した石室である。S X 609の北東に位置し、掘形南西部をS X 609によって削平される。掘形の平面は方形で、規模は東西2.09m、南北1.7m、深さ1.8mを測る。掘形の埋土は黄灰色の粘質土である。掘形中央に0.1~0.4m大の石を方形に組み上げる。石組の内法は、東西0.8m、南北0.7m、深さ1.5mを測る。石組の主軸方向は、長辺が東に対して北に5°振る。検出状況から、石室の可能性が考えられる。遺物は土師器皿、染付碗などが出土した(第53図)。

土坑 S K 704 (第37図) 南地区南西部で見出した。S D 738の南側に位置する。掘形の平面は方形で、規模は東西3.0m、南北3.5m、深さ0.5mを測る。遺物は、土師器皿、磁器碗や土師器皿などが出土した(第49図)。遺物が多く出土しており、廃棄土坑と考えられる。

土坑 S K 708 (第37図) 南地区南西部で見出した土坑である。S D 741から約2m南に位置する。掘形の平面は楕円形で、規模は東西2.0m、南北2.2m、深さ0.2mを測る。遺物は、土師器や陶磁器類、伏見人形などが出土した(第50図)。

土坑 S K 709 (第37図) 南地区南西で見出した土坑である。S K 708から約4m西に位置する。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西1.7m、南北1.8m、深さ0.63mを測る。遺物は土器片が出土した(第52図)。

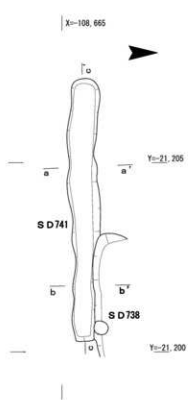
土坑 S K 728 (第37図) 南地区南端中央付近で見出した。南側は調査地外に及ぶため、全容は不明である。掘形の規模は、東西2.0m、南北1.7m以上、深さ0.25mを測る。遺物は、土師器片や陶磁器類が出土した(第58図)。

土坑 S K 815 (第42図) 南地区南西で見出した土坑である。上層の大半をS D 738によって削平される。掘形の平面は東西に長い不定形で、その規模は東西5.0m、南北1.5m、深さ0.25mを測る。遺物は、土師器皿や陶磁器類が出土した(第49図)。遺物から、寺町形成期頃の遺構とみられる。

土坑 S K 816 (第37・42図) 南地区南西で見出した土坑である。遺構の大部分を攪乱によって削平され、北側のみを確認した。掘形の規模は南北1.3m以上、東西3.1m以上を測る。埋土は1~5cm大の石を含む、にぶい黄褐色の砂泥である。

溝 S D 124 (第38・41図) 南地区南東で見出した南北方向の溝である。検出長は7.2mで、幅0.86~1.3m、深さ0.24mを測る。埋土は、溝の両脇に明黄褐色の細~中粒砂(第3層)が堆積し、その後中央に褐色の細粒砂(第1・2層)が堆積する。褐色の細粒砂は2層に分かれ、上層は1~

S D 741



1. にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂泥 (2~10cm大の石多く含む)
2. にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂泥 (河川堆積)
3. にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂泥 (河川堆積)



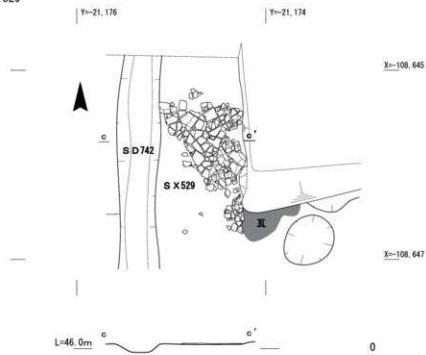
1. にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂泥
2. 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂泥 (河川堆積)
3. にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂泥 (河川堆積)
4. にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂泥 (河川堆積)



1. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂泥 (1~14cm大の石多く含む)
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂泥 (2~12cm大の石多く含む)
3. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂 (2~15cm大の石少し含む)
4. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂 (1~12cm大の石多く含む)



S D 742・S X 529



第43図 南地区遺構実測図(5)

10cmの石が充填される。下層は砂の粒子が上層に比べて細くなり、0.5～5cmの石をまばらに含む。堆積状況から、第2・3層によって溝が埋まった後、石を入れたとみられる。

溝SD738(第37・42図) 南地区の南西で検出した東西方向の溝である。規模は、検出長16.2m、幅0.6～1.0m、深さ0.2～0.5mを測る。主軸は東に対して南に2°振る。東側は攪乱によって削平されるが、さらに東へ延びると考えられる。溝北側には、礎敷SX739が広がり、通路側溝の可能性が考えられる。埋土はふい黄褐色やふい黄橙色の砂泥である。遺物は、土師器皿や陶磁器が出土した(第60図)。

溝SD741(第37・42図) 南地区南西で検出した東西方向の溝で、SD738の南西に位置する。北東部をSD738によって削平される。規模は、検出長7.0m、幅0.9m、深さ0.2mを測る。主軸方向はほぼ真東を向く。埋土は2～10cm大の石を多く含むふい黄褐色の砂泥である。

溝SD742(第37・43図) 南地区中央北側で検出した「L」字状の溝である。溝の規模は、幅0.5m、深さ0.13mを測り、総検出長は7mである。北端は調査地外へ延びると考えられる。東側は攪乱に削平され、検出できなかった。溝の主軸は南北方向と東西方向それぞれ正方位を向く。

溝SD743(第37図) 南地区中央北側で検出した東西方向の溝である。東端はSD744によって削平される。溝の規模は、検出長2.1m、幅0.6～0.8m、深さ0.1mを測る。主軸は真東を向く。

溝SD744(第37図) 南地区中央北側で検出した南北方向の溝である。SD742と交差し、SD742の下層にあたる。溝の規模は、検出長6.5m、幅0.8m、深さ0.1mを測る。

溝SD761(第37図) 南地区南西の南壁付近で検出した南北方向の溝である。溝の規模は、検出長3.6m、幅0.5m、深さ0.2mを測る。主軸は真北を向く。

溝SD817(第37図・図版第45) 南地区中央西側から検出した斜行する溝である。SK780の北西に位置する。溝の規模は、検出長2.0m、幅0.7m、深さ0.3mを測る。主軸方向は北から56°西に振る。遺物は、土師器鍋・陶器挿鉢が出土した。

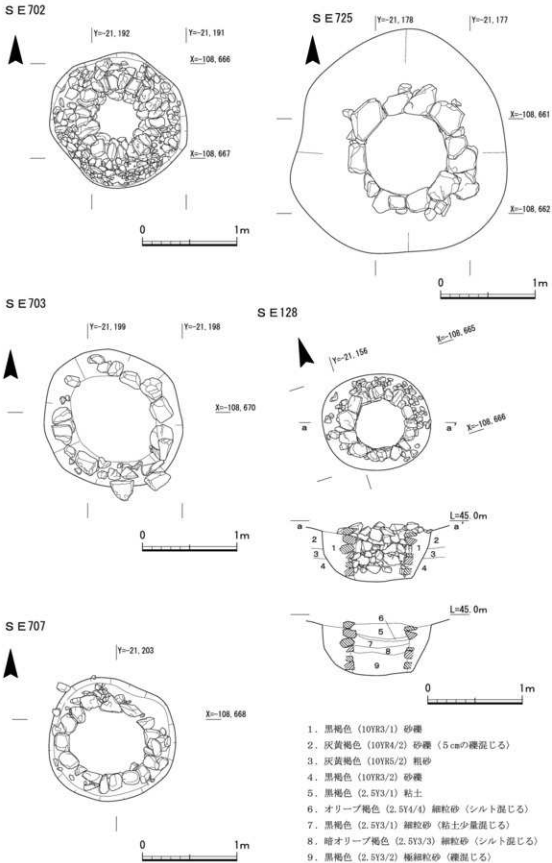
井戸SE123(第38図) 南地区南東で検出した井戸である。瓦を井戸枠に用いる。掘形の平面は円形で、規模は直径1.0mを測る。井戸枠に用いられた瓦は長辺0.28m、短辺0.25m、厚さ0.03mで、井戸枠専用に焼かれたものである。9枚の瓦を用いて、掘形とはほぼ同規模の円形に隙間なく並べられる。

井戸SE128(第38図・44図) 南地区南東で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.2m、深さ0.6mを測る。石組は0.1～0.2m大の石で円形に積み上げられる。掘形の埋土は黒褐色の砂礫で、径5cm大の石を含む。

井戸SE701(第37図) 南地区中央付近で検出した石組井戸である。掘形の平面は南東が影らむ円形で、規模は直径2.5mを測る。石組は0.4m大の石で円形に積み上げられ、内径は0.8mを測る。

井戸SE702(第37・44図) 南地区南側西寄りで検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.45mを測る。石組は0.2m大の石で円形に積み上げられ、内径は0.4～0.5mを測る。裏込めには5～10cm大の石が密に詰められる。遺物は陶磁器類が出土した(第62図)。

井戸SE703(第37・44図) 南地区南西で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規



第44図 南地区遺構実測図(6)

横は直径1.45m、深さ0.5mを測る。石組は0.2m大の石で円形に組まれ、内径は0.8mを測る。検出した石組は一段のみで、西側は石の残りが悪くまばらである。遺物は土師器皿が出土した(第62図)。

井戸 S E 706(第37・45図) 南地区南西で検出した石組井戸である。S E 707の北側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径1.4mを測る。石組は0.1~0.2m大の自然石で円形に積み上げられ、内径は0.6mを測る。石組底部中央は、水溜めとして直径0.7m、深さ0.5m以上を素掘りする。地山が軟弱なため、検出面から1.5m掘り下げて掘削を断念した。掘形の埋土は上層からオリブ褐色の粗砂、暗灰黄色の粗砂、灰オリブ色の粗砂である。

井戸 S E 707(第37・44図)南地区南西で検出した石組井戸である。掘形の平面は歪んだ円形で、規模は直径1.3m、深さ0.3mを測る。石組は0.1~0.2m大の石で円形に組まれ、内径は0.6~0.8mを測る。一段のみを検出した。

井戸 S E 711(第37・45図) 南地区南西隅で検出した石組井戸である。掘形の平面は不定形で、規模は長軸2.3m、短軸2.2mを測る。石組は0.2~0.3m大の石で、平らな面を内側に向けて円形に積み上げられ、内径は0.7mを測る。石組の最下段は、長辺0.3m、短辺0.1m前後の石が長軸を立てて隙間なく組まれる。掘形中央は水溜めとして直径0.6mを掘り下げる。検出面から2mまで掘削を実施した。水溜め壁面ではわずかに木質が遺存しており、桶などが据えられた可能性がある。掘形の埋土は灰黄褐色や褐色の粗砂、水溜めの埋土は黄褐色の粗砂で、底部付近には黄褐色のシルトが混じる細砂が堆積する。

井戸 S E 725(第37・44図) 南地区中央西側で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径2.3mを測る。石組は0.2~0.4m大の石で円形に組み上げられ、内径は0.8mを測る。

井戸 S E 726(第37・45図) 南地区南側中央付近で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.3m、深さ0.7mを測る。石組は0.1~0.2m大の石で円形に組まれ、内径は0.8mを測る。掘形の埋土はオリブ褐色や暗オリブ褐色の粗砂である。

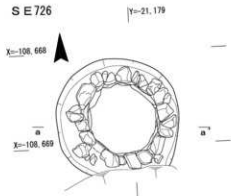
瓦敷 X S 529(第37・43図) S D 742の東側で検出した瓦敷である。一辺0.05~0.2m大の平瓦片をモザイク状に敷き詰める。瓦は東西0.9m、南北1.3mの範囲の中に不定形に敷かれるが、元々は、さらに広がっていたと考えられる。東側は擾乱によって削平される。瓦敷の西端はS D 742を境に西側には見られないことから、S D 742に伴う可能性が考えられる。

礫敷 X S 739(第37・42図) S D 738の北側で検出した礫敷である。東西9.3m、南北1.2mの不定形な範囲に直径0.01m程度の石が厚さ0.05~0.08mで敷かれていた。通路と考えられる。西側はS E 771によって削平される。南側はS D 738に沿うように広がりS D 738の南側では確認できない。北限と東限については不明であるが、その範囲はさらに広がる想定される。

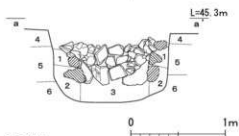
石列 X S 784(第42図) S D 738の北側で検出した。S X 739の上に、0.06~0.16m大の自然石が直線的に1列に並ぶ。検出長は1.85mを測る。主軸は、東に対して南に2°振る。掘形や裏込めは確認できなかった。S X 739やS D 738に伴うと考えられる。

不明遺構 X S 519(第37図) 南地区中央で検出した。S K 517の西側に位置する。掘形の平面

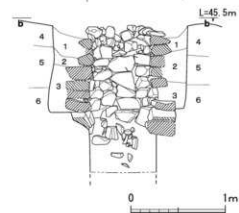
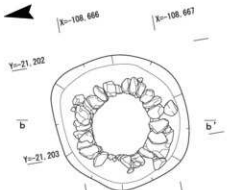
SE726



1. 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粗砂
2. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粗砂
3. 褐灰色 (10YR6/1) 砂礫
4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂
(5~10cm 大の礫含む)
5. 礫層
6. 粗砂

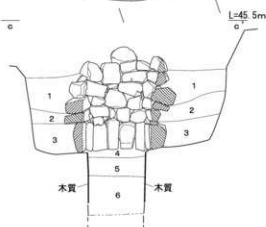
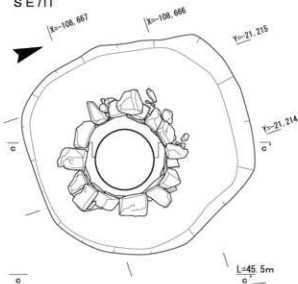


SE706



1. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粗砂 (小石含む)
2. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂 (小石含む)
3. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粗砂
4. 灰色 (5Y4/1) 粗砂
5. 灰色 (5Y4/1) 粗砂 (オリーブ色 (5Y6/6) シルト混じる)
6. 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粗砂

SE711



1. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂
(5~30cm 大の礫多量を含む)
2. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂 (5cm 大の礫含む)
3. 褐色 (10YR4/4) 粗砂 (30cm 大の礫含む)
4. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂
5. 黄褐色 (2.5Y5/2) 粗砂
6. 黄褐色 (10YR7/6) シルト混じる細砂



第45図 南地区遺構実測図(7)

は不定形で、規模は径0.45m、深さ0.5mを測る。遺物は土師器皿などが出土した(第52図)。

不明遺構 S X 525 (第37図) 南地区中央で検出した。掘形の北側は、後世の擾乱によって削平されていた。掘形の規模は、一辺2.3m以上、深さ0.3mを測る。遺物は、土師器や陶磁器類が出土した(第52図)。

不明遺構 S X 729 (第37図) 南地区南西で検出した。S K 708の南西に位置する。北側は後世の擾乱で削平される。掘形の規模は、東西1.5m、南北1.2m以上、深さ0.2mを測る。遺物は、土師器や磁器碗が出土した(第53図)。

不明遺構 S X 737 (第37図) 南地区南西で検出した。S K 731の西側に位置する。掘形の平面は方形で、規模は径1.1m、深さ0.45mを測る。遺物は土師器片が出土した(第53図)。

柱穴 S P 921 (第36図) 南地区北西で検出した柱穴である。S D 941の南側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色の中粒砂である。柱痕は確認できなかった。

柱穴 S P 915 (第36図) 南地区北西で検出した柱穴である。S P 921の西側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.15mを測る。埋土は褐色の中粒砂である。柱痕は確認できなかった。

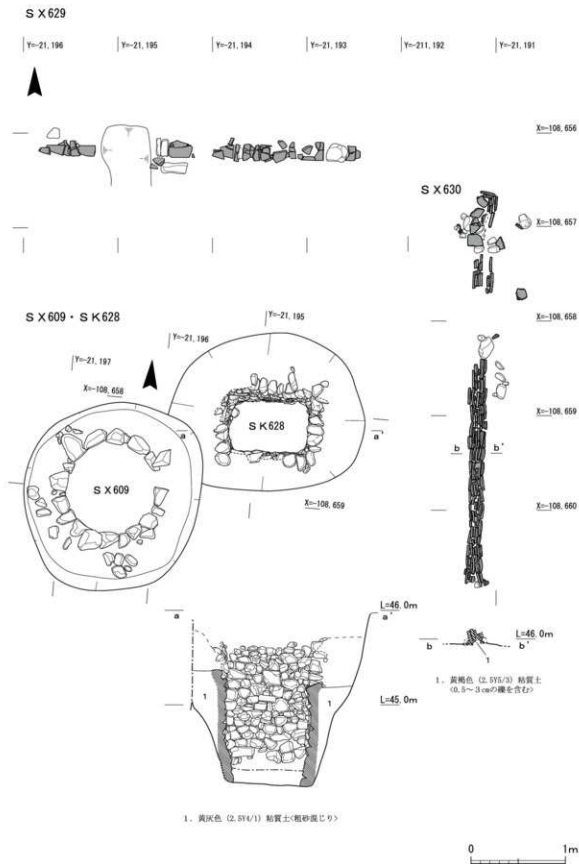
柱穴 S P 916 (第36図) 南地区北西で検出した柱穴である。S P 921の西側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色の細～中粒砂である。

(2) 宝永の大火以後の遺構

瓦列 S X 629 (第46図) 南地区西側で検出した。S X 609の北側に位置する。検出した瓦列は、東西方向に一列に並べられ、丸瓦の凸面を上に向ける。検出長は3.4mを測る。瓦は玉縁を東に向けており、それぞれが組み合わさっていたとみられる。2か所で瓦列が途切れており、石が据えられる。それぞれの石は、瓦列の東端から西に0.1mと2.0mを測る場所に位置する。東側は0.2m大、西側は0.1～0.5m大の石が平らな面を上に向けて置かれる。検出状況から、礎石の可能性が考えられる。主軸方向はほぼ真東を向く。瓦列の南側では、瓦が平面不定形な範囲に広がって出土した。その範囲は、東西3.4m、南北0.31mを測り、掘形は確認できなかった。瓦の大半は平瓦であるが、S X 529のように面を揃えないことから廃棄されたと考えられる。

瓦列 S X 630 (第46図) 南地区西側で検出した。S X 629の南東に位置する。検出した瓦列は、平瓦を立てて南北方向に並べられる。規模は、検出長4.2m、幅0.2mを測る。主軸方向は北に対して9°東に振る。瓦は東西方向に4枚程度を配置し、内側の瓦が互い違いとなるように並ぶ。瓦列北端で検出した2枚の平瓦は、長辺を東西に向けて瓦列の北東に角をつくることから、瓦列の北限と考えられる。北端から1.0～1.5mの間は瓦列が途切れる。遺構の全容は不明であるが、北東で角をもつことから、瓦列はさらに西側に広がるとみられ、S X 629と一連の遺構となる可能性が考えられる。

土坑 S K 526 (第37・47図) 南地区中央西側で検出した土坑である。S K 619の南西に位置する。掘形の平面は東西に長い長方形で、規模は東西4.0m、南北2.3m、深さ1.2mを測る。土坑の掘形



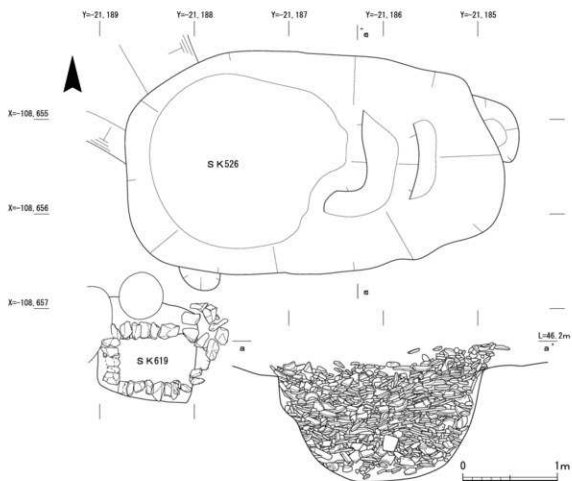
第46図 南地区遺構実測図(8)

全体から大量の瓦が密に堆積した状態で出土した。埋土には、焼土が混じるほか、瓦には2次焼成を受けた痕跡があり、宝永の大火後に廃棄されたと考えられる。そのほかの遺物は、土師器皿や陶磁器類が出土した(第51図)。

土坑 S K 620 (第37図) 南地区中央で検出した土坑である。S X 609の東に位置する。掘形の平面は不定形で、規模は、東西3.0m、南北3.2m、深さ0.8mを測る。遺物は、土師器のほか多量の近世瓦が出土した(第52図・付表2)。

土坑 S K 712 (第37図) 南地区南西で検出した土坑である。北側は調査地外へと広がる。掘形の規模は東西3.6m以上、南北0.8m以上、深さ0.8mを測る。埋土は黒褐色や暗褐色の中粒砂含む細粒砂である。底部付近には、炭化物を多く含む黒色のシルト質細粒砂が0.2~0.4mの厚さに堆積する。遺物は、土師器皿や多くの陶磁器類が出土した。宝永の大火直後に廃棄されたものと考えられる。

土坑 S K 731 (第37図) 南地区南西で検出した。S K 712の西側に位置する。掘形の規模は東西1.0m以上、南北1.1m以上、深さ1.0mを測る。多量の瓦が出土した。埋土は、にぶい黄褐色の細粒砂である。瓦は2次焼成を受けており、宝永の大火に伴うと考えられる。壁面で観察した堆積状況から、S K 712より前に掘削されており、大火後にまず瓦を廃棄し、その後土器類を片付



第47図 南地区遺構実測図(9)

けたことがわかる。

土坑 S K 780 (第37図) 南地区中央西側で検出した土坑である。掘形の平面は東西に長い長方形で、規模は東西3.3m、南北2.2m、深さ1.2mを測り、掘形底部は段をもつ。大量の瓦が出土した。宝永の大火の片付けに伴って廃棄されたと考えられる。そのほかの遺物は、土師器皿や陶磁器類が出土した(第58図)。

溝 S D 518 (第37図) 南地区北西で検出した、「L」字状に屈曲する溝である。西壁から東へ向かって15m直線的に延び、S K 517の北側で北東へ折れる。規模は幅0.4～0.6m、深さ0.15～0.2mを測り、総検出長は17.8mである。東西方向の主軸は東に対して1°南に振る。南北方向の主軸は、北に対して34°東に振る。溝の底面には2～3cmの厚さで粘土が貼られており、水を流すことを目的としたと考えられる。宝永の大火による焼土を掘り込む形で検出したことから、宝永大火以降の遺構であると考えられる。

溝 S D 781 (第37図) 南地区南西で検出した斜行する溝である。南西端を攪乱によって削平される。溝の規模は検出長1.7m、幅0.7m、深さ0.1mを測る。主軸は北に対して33°東に振る。

溝 S D 782 (第37図) 南地区南西部で検出した斜行する溝である。S D 781の西側に位置する。南東端を攪乱によって削平される。溝の規模は検出長2.4m、幅0.5m、深さ0.15mを測る。主軸は北に対して42°東に振る。

不明遺構 S X 609 (第37・46図) 南地区中央で検出した円形の石組遺構である。S K 628と重複する形で検出したが、この遺構の掘形がS X 628の掘形を掘り込んでおり、それより新しいものである。掘形の規模は、径2.0m、深さ0.25m、石組の内法は径0.9mを測る。石組は一段分が残存しており、石を縦に積む。上部の石組については不明であるが、あまり深い遺構ではないものとみられる。石組の床面には、漆喰を貼っていることから、池状の遺構の可能性も考えられる。遺物は、18世紀末から19世紀にかけての陶磁器類が出土した。

不明遺構 S X 631 (第37図) 南地区の西側中央付近で検出した。0.2～0.4m大の石がまとまって出土した。石は平面が方形になるようにまとまって出土し、その範囲は南北0.7m、東西0.6mを測る。石はそれぞれ平らな面を上に向ける。一段のみを検出した。石塔や灯籠などの基礎構造とみられる。宝永の焼土層上で検出した。遺物は出土していない。

不明遺構 S X 750 (第37図) 南地区中央で検出した。S X 525埋没後に設けられた遺構である。掘形の規模は、径0.5m、深さ0.2mを測る。遺物は、土器片や陶磁器類などが出土した(第53図)。

(岡崎研一)

3) 南地区の出土遺物

(1) 土器・土製品

S K 517(第48図) 105～117は土師器皿である。16世紀から17世紀にかけてのものともみられる。118は土師器鉢である。119は黄瀬戸向付で、瀬戸美濃系の陶器である。内面口縁端部に蔓文状の線刻がある。16世紀末頃のものか。

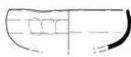
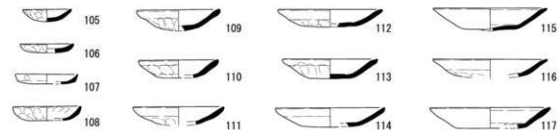
S K 551(第48図) 120は土師器皿である。121は天目碗で、瀬戸美濃系の陶器である。16世紀のものか。

S K 574(第48図) 122～124は土師器皿である。122はコースター形で、12世紀頃のものともみられる。そのほかは16世紀末から17世紀にかけてのものか。

S X 815(第49図) 125～133は土師器皿である。134・135は土師器焼塩壺の蓋と身である。印銘等はない。136～142は陶器碗である。137・142は瀬戸美濃系、それ以外は肥前系の製品である。137は志野、142は褐釉である。16世紀末から17世紀前期頃のものともみられる。

S K 704(第49図) 143～148は土師器皿である。149は陶器碗で、瀬戸美濃系の小碗である。150は土師器の小壺で、いわゆる「つまつま」である。151・152は陶器灯明皿で、152には口縁端部に灯芯受けが付く。薄くサビ軸を施した焼締で、底部は糸切である。いずれも、焼締である。153・154は染付磁器碗で、肥前系の製品である。153には一本引きの網目文、154には花文を描く。17世紀中葉から後半にかけてのものともみられる。155は陶器皿で、肥前系の製品である。折縁皿で、灰釉を施す。17世紀前半のものか。156は陶器向付で、肥前系の製品である。白土を刷毛塗りする、いわゆる「三島手」である。17世紀後半のものともみられる。157は白磁碗で、肥前系の磁器である。外面胴部中央に細い突帯が巡る。17世紀のものか。158は陶器皿で、京都系の製品ともみられる。

S K 517



S K 551

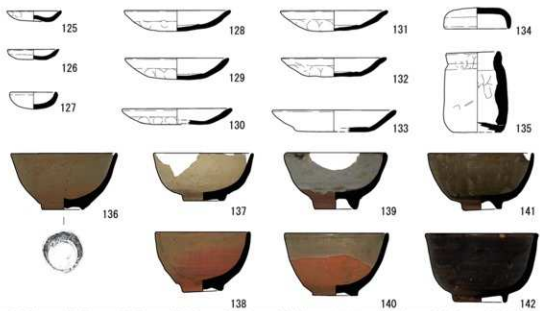


S K 574

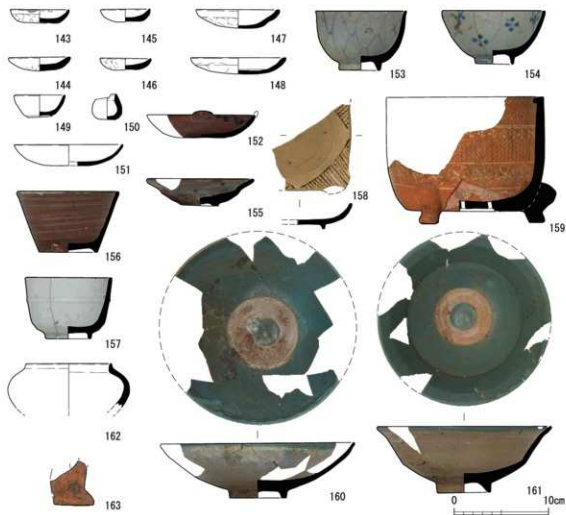


第48図 南地区出土遺物実測図(1)

S X 815



S K 704



第49図 南地区出土遺物実測図(2)



第50図 南地区出土遺物実測図(3)

丸く成形した器の四方を切り落として四隅突出の方形に仕上げる。159は陶器風炉で、京信楽系の製品とみられる。線刻や印花で三島手の施文を施す。獸脚状の三脚が付く。160・161は陶器鉢で、肥前系の陶器である。銅緑釉を施す。見込みは軸を蛇の目状に掻き取り、重ね焼きの痕跡が残る。17世紀後半頃のものである。162は土師器壺である。163は土製品の人形である。

S K 562(第50図) 164～168は土師器皿である。17世紀頃のものともみられる。

S K 535(第50図) 169・170は土師器皿である。17世紀頃のものともみられる。

S K 550(第50図) 171・172は土師器皿である。17世紀頃のものともみられる。

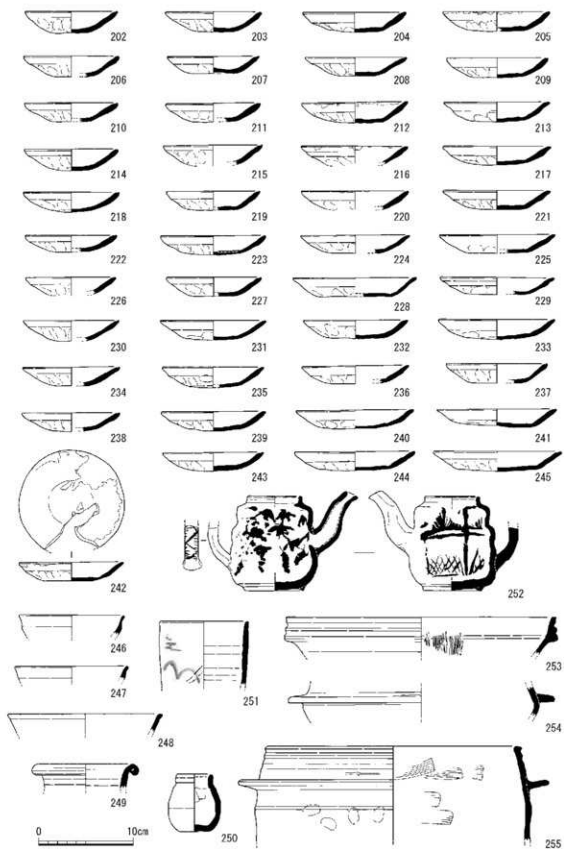
S K 708(第50図) 173～177は土師器皿である。178は土師器のミニチュア土器で、把手付カップ形である。179は土師質の土鈴である。180は瓦質土器の蓋で、瓶などに伴うものか。181は白磁小瓶で、肥前系の製品である。17世紀前半頃のものである。182は染付磁器小椀で、肥前系の製品である。17世紀のものである。183は白磁小椀で、中国製のものともみられる。184は陶器小椀で、肥前系の製品である。褐釉を施す。17世紀前半のものである。185は白磁椀で、肥前系の製品とみられる。器胎は半磁胎である。186は陶器椀で、肥前系の製品である。外面に山水文を描き、高台内に「雲」の印銘を持つ。いわゆる京焼風肥前陶器で、17世紀後半のものである。187は白磁椀で、肥前系の製品である。口縁端部に鉄軸(口紅)を施す。188は染付磁器椀で、肥前系の製品である。外面には青磁釉を施す。見込みには圏線と飛雁文を描く。口縁端部に鉄軸(口紅)を施す。189は染付磁器皿で、肥前系の製品である。平面形は隅入方形で、型打ち成形とみられる。17世紀中葉頃のものである。190は瑠璃釉磁器香合の蓋である。肥前系の製品とみられる。上面に花文を型押しする。191は白磁仏飯器で、肥前系の磁器である。脚部は中実で、底部は浅く平滑に削り込む。192は陶器皿で、肥前系の製品である。銅緑釉を施す。17世紀後半頃のものである。193・194は青磁香炉で、肥前系の製品である。ともに、三脚が付く。195は陶器鉢で、肥前系の製品である。見込みは軸を蛇の目状に掻き取り、重ね焼きの痕跡が残る。17世紀後半頃のものである。196は陶器椀で、朝鮮王朝期の粉青沙器とみられる。刷毛目椀で、高台畳付にも施釉する。16世紀のものか。197は土師器鍋で、口縁部が鐮状になる。198は土師器焙烙である。199は土製品の人形で、猿を象る。200は土製品の人形で、天神(菅原道真)を象るものとみられる。201は土製品の人形で、緑釉と褐釉で彩る。

S K 619(第51図) 202～245は土師器皿である。16世紀末頃から17世紀にかけてのものともみられる。205・212・216・242には口縁部に煤が付着しており、灯明皿と考えられる。

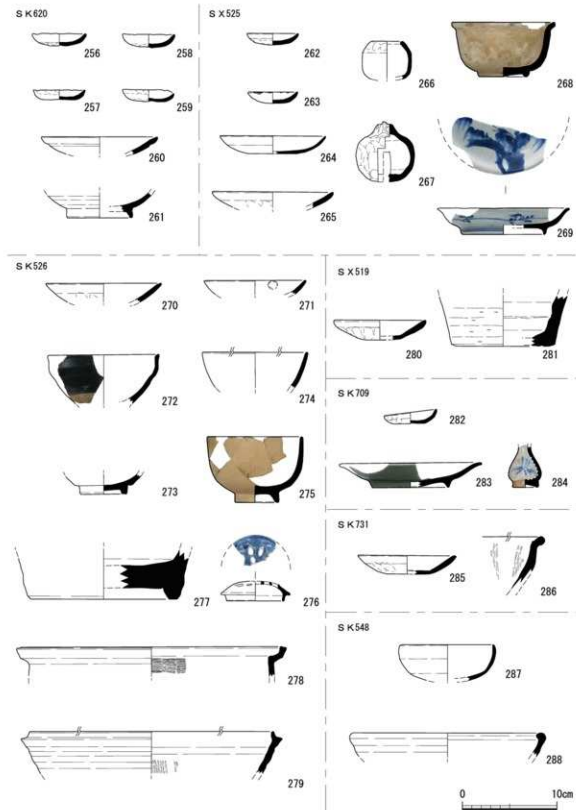
246・247は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。16世紀頃のものか。248は中国製の白磁椀で、12世紀頃のものともみられる。249は中国製の白磁壺である。12世紀頃のものともみられる。250は土師器焼壺である。251は陶器向付で、瀬戸美濃系の陶器である。いわゆる志野である。外面に鉄軸で施文する。16世紀末から17世紀初頭頃の製品である。252は陶器水注で、瀬戸美濃系の陶器の志野である。外面には間垣文と枝垂文を鉄軸で描く。16世紀末から17世紀初頭頃の製品である。253は陶器挿鉢で、備前系の焼締陶器である。254・255は瓦質土器の羽釜である。

S K 620(第52図) 256～260は土師器皿である。261は灰釉陶器椀である。東海系のものともみ

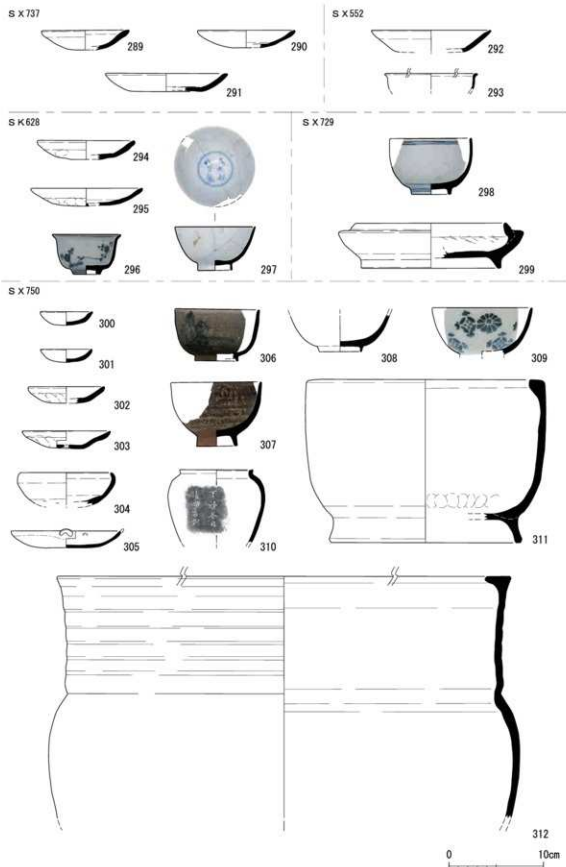
SK619



第51図 南地区出土遺物実測図(4)



第52図 南地区出土遺物実測図(5)



第53図 南地区出土遺物実測図(6)

られる。高台は貼り付けである。見込みに重ね焼きの痕跡が残る。

S X 525 (第52図) 262・265は土師器皿である。263は土師器灯明皿である。264は陶器皿である。266は土師器の小壺で、いわゆる「つぼつぼ」とみられるが、やや大振りである。267は土師質の土鈴である。268は陶器碗で、瀬戸美濃系の陶器である。黄色味を帯びた軸が施されており、いわゆる黄瀬戸とみられる。16世紀末頃のものか。269は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。内面にはいいねいな筆致の鳥文を描く。17世紀後半頃のものである。

S K 526 (第52図) 270は土師器皿である。271は陶器灯明皿で、京信楽系のものとみられる。272・273は陶器天目碗で、瀬戸美濃系の陶器である。17世紀頃のものともみられる。274・275は陶器碗で、肥前系の製品である。17世紀後半頃のものである。276は青花磁器香炉の蓋で、中国製の磁器である。杏仁形の透かしがある。277は青磁壺で、中国製の磁器である。大型の製品である。278は瓦質土器の鍋である。279は陶器播鉢で信楽系の焼締陶器である。

S X 519 (第52図) 280は土師器皿である。281は須恵器壺である。

S K 709 (第52図) 282は土師器皿である。283は青磁皿で、肥前系の製品である。内面に雲文状の浮彫文様がある。284は染付磁器小瓶で、肥前系の製品である。外面に笹文を描く。

S K 731 (第52図) 285は土師器皿である。286は陶器播鉢で、信楽系の焼締陶器である。16世紀後半頃のものか。

S K 548 (第52図) 287は土師器鉢である。288は須恵器鉢である。10世紀末から11世紀にかけてのものともみられる。

S X 737 (第53図) 289～291は土師器皿である。16世紀末から17世紀にかけてのものともみられる。

S K 552 (第53図) 292は土師器皿である。293は陶器碗で、肥前系の陶器である。口縁端部が外反気味になる。17世紀前半頃のものか。

S K 628 (第53図) 294・295は土師器皿である。296は青花磁器小碗で、中国製の磁器である。外面に梅枝文を描く。297は青花磁器碗で、中国製の磁器である。見込みに圏線と「大明成化年製」銘がある。見込みがやや盛り上がる「饑頭心」の碗である。16世紀末頃のものか。

S X 729 (第53図) 298は染付磁器碗で、肥前系の磁器である。17世紀後半頃のものか。外面口縁端部と高台に圏線が巡る。299は土師器平仄である。

S X 750 (第53図) 300～303は土師器皿である。304は土師器鉢である。305は陶器灯明皿である。306・307は陶器碗で、肥前系の陶器である。306は灰釉を施した、いわゆる「斑唐津」である。307は褐釉を施す。308は白磁碗で、肥前系の製品である。器胎は半磁胎である。309は染付磁器碗で、肥前系の製品である。型紙刷りで花文を施しているものとみられる。310は陶器壺で、胴部に印銘をもつ。311は土師器風炉で、やや高めの高台を貼り付ける。312は陶器甕で、信楽系の陶器である。18世紀中頃以降のものともみられる。

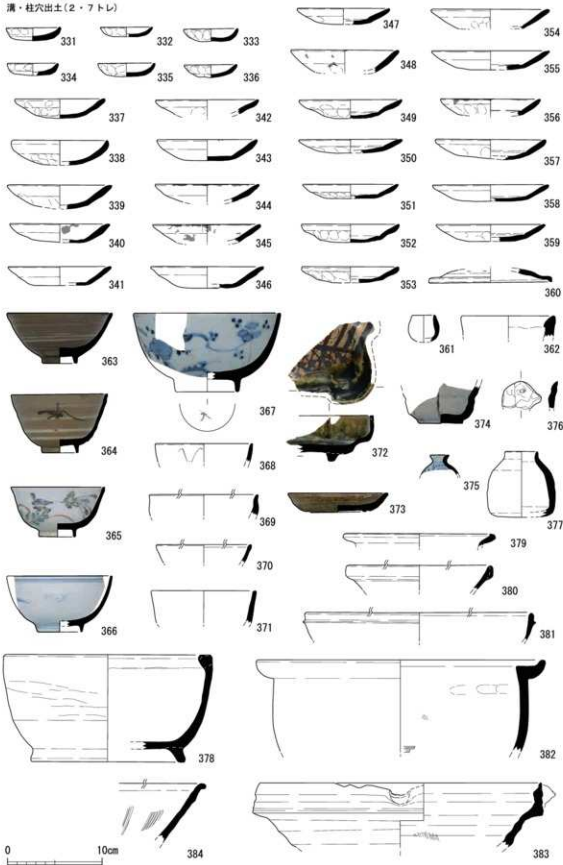
S X 609 (第54図) 313は土師器皿である。314～317は染付磁器碗で、肥前系の磁器である。外面に草花文や山水文を描く。317のように口縁部が外反気味のものもあり、18世紀末～19世紀

S x 609



第54図 南地区出土遺物実測図(7)

溝・柱穴出土(2・7トレ)



第55図 南地区出土遺物実測図(8)

にかけてのものとみられる。318は陶器碗で、萩系の陶器である。白濁釉の上から褐釉を掛け流す。319は染付磁器皿で、瀬戸系の磁器とみられる。内面に山水文を描き、口縁端部に鉄袖(口紅)を施す。19世紀のものとみられる。320は染付磁器皿で、内面に芭蕉樹を配した山水文、外面に源氏香文を巡らす。高台内は蛇の目凹形である。

321・322は陶器土鍋の蓋で、京都系の陶器とみられる。321は上面に筒引で花文を描く。323は陶器土瓶の蓋で、京信楽系の陶器とみられる。上面に鉄絵を描く。324は陶器瓶で、信楽系の陶器とみられる。胴部中央に横方向の飾目文が巡る。325～327は陶器鍋で、京都系の陶器とみられる。いずれも外面に飛びカナで爪状文を施す。325は半環状の把手が付く。326は注口が付く。327は注口と筒状把手が付く、いわゆる「行平」である。328は陶器土瓶で、京都系の陶器である。外面に鉄袖で菊文を描く。

329は陶器鉢で、肥前系の製品である。印花文に白土を象嵌した三島手である。17世紀後半のものである。330は土師器鍋である。

溝・柱穴(第55・56図) 今回の調査では、小規模な溝や柱穴からも遺物が出土しているが、各遺構からの出土量はわずかである。そのため、このような少数の遺物については、概要を列記することとし、出土遺構名などについては、観察表を参照していただきたい。

331～359は土師器皿である。おおむね、16世紀から17世紀にかけてのものとみられる。360は須恵器杯蓋である。口縁端部が屈曲しており、9世紀頃のものともみられる。361は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。362は土師器塩壺とみられる。小片であるため詳細は不明であるが、胎土が粗く厚手であり、古代の遺物の可能性もある。

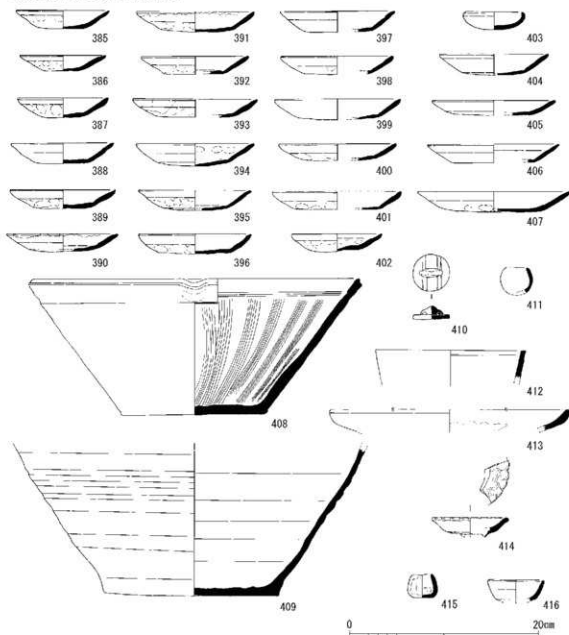
363・364は陶器碗で、肥前系の陶器である。白土刷毛塗の三島手碗で、364は刷毛塗の上に鉄袖で山水文を描く。17世紀後半頃の製品とみられる。365は色絵磁器碗で、肥前系の磁器である。外面に赤や緑の顔料で草花文を上絵付する。18世紀後半以降の磁器とみられる。366～368は染付磁器碗で、肥前系の磁器である。366は飛雁文を描いており、薄手で、17世紀後半頃のものとみられる。367は花文を描いており、厚手で、いわゆる「くらわんか手」の碗である。18世紀のものである。368は一本引きの網目文を描いており、17世紀中葉のものである。369は陶器天目碗で、瀬戸美濃系の陶器である。370は陶器碗で、肥前系の陶器である。17世紀初頭頃のものか。371は陶器碗で、萩系の陶器である。372は陶器向付で、瀬戸美濃系の陶器である。いわゆる青織部で、17世紀前半頃のものである。373は陶器皿で、瀬戸美濃系の陶器である。大窯期の灰軸丸皿である。374は陶器向付で、肥前系の陶器である。いわゆる絵唐津で、17世紀初頭頃のものである。375は染付磁器小瓶で、肥前系の磁器である。外面に蛸唐草文を描く。いわゆる御神酒徳利で、18世紀末頃以降のものとみられる。

376は土製品の人形で、鳥の頭部を象る。京都系のものとみられる。377は土師器焼塩壺である。378は土師器風炉で、京都系のものとみられる。379は土師器甕の口縁部である。口縁端部を折り返す。380は白磁碗で、中国製の磁器である。口縁端部を折り返して玉縁状にする。12世紀のものとみられる。381は土師器焙烙である。382は土師器鍋である。383は陶器播鉢で、備前系の焼

縮陶器である。16世紀後半頃のものか。384は陶器搦鉢で、信楽系の焼締陶器である。16世紀後半のものか。385～407は土師器皿である。405～407のような大型で15世紀後半頃のものもあるが、大半は内面見込み外周に沈線を持つ17世紀頃のもの为主体である。

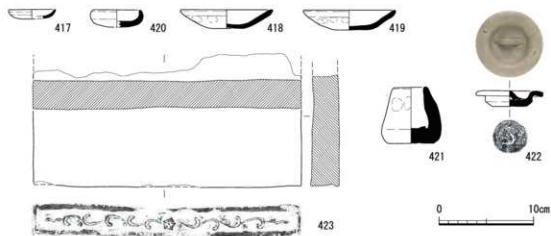
408は陶器搦鉢で、丹波系の焼締陶器である。櫛状工具でまばらに揺り目を引いており、17世紀前半頃のものともみられる。409は陶器甕で、信楽系の焼締陶器である。410は土師器のミニチュア土器で鍋の蓋である。411は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。412は軟質の施釉陶器で、鉛系の緑釉を施す。器形器種ともに不明である。413は土師器鍋もしくは焙烙の

道路上遺構ならびに南側遺構群



第56図 南地区出土遺物実測図(9)

5 トレ寺町整地面・包含層・攪乱



第57図 南地区出土遺物実測図(10)

口縁部とみられる。414は青磁皿で、型成形で輪花形である。中国製で15世紀頃のものともみられる。415は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。416は陶器小椀で、瀬戸美濃系の陶器で、灰釉を施す。

寺町整地面・包含層・攪乱(第57図) 417~420は土師器皿である。16世紀末頃のものともみられる。421は土師器焼塩壺である。422は陶器急須の蓋で、信楽系の陶器とみられる。18世紀後半頃以降のものともみられる。423は陶器敷瓦で、瀬戸美濃系の陶器である。織部釉(銅緑釉)を施す。17世紀前半頃のものか。

S K 780(第58図) 424は土師器灯明皿である。425は磁器椀で、肥前系の磁器である。外面口縁端部に簡略化した雨降文を巡らす。426は土師器鉢である。ロク口整形である。427は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。17世紀のものである。428は陶器椀で、京都系のものとみられる。429は土師器甕である。

S K 728(第58図) 430・431は土師器皿である。431は17世紀のものともみられる。432は土師器焼塩壺である。433は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。外面に松樹文を描く。厚手であり、18世紀のものともみられる。434は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。コンニャク印判で菊文を施す。輪花形に型成形したものと考えられ、高台は貼り付けともみられる。18世紀のものである。

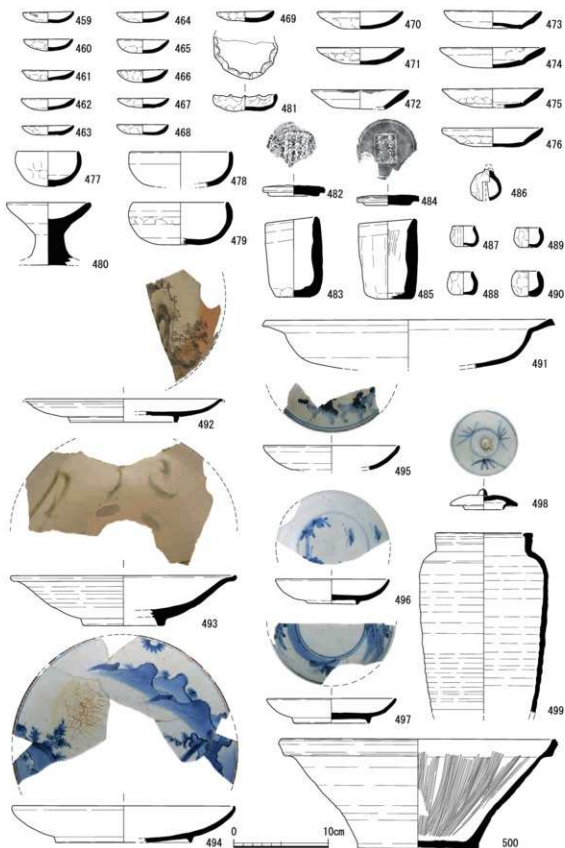
S K 712(第58~60図) 435は陶器天目小椀で、瀬戸美濃系の陶器である。内面及び外面上半に鉄釉を施す。436~440は陶器椀で、肥前系の陶器である。436は鉄釉を、439は灰釉を施したもので、17世紀前半のものともみられる。437は青緑色の銅緑釉を施しており、17世紀後半のものである。440はいわゆる京焼風肥前系陶器で、高台内に「木下弥」の印銘をもつ。438は灰釉の上に鉄釉を重ね掛けしており、高取の可能性もある。

441~456は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。外面に一本引きの網目文、草花文、蔓草文、矢羽文、半裁菊花文、团扇文などを描く。内面に菊花文、草文などを描くものもあり、455のよ



第58図 南地区出土遺物実測図(11)

S K 712



第59図 南地区出土遺物実測図(12)

うに高台内に「寛徳年製」などの銘をもつものもある。また、448のように、胴部下半に墨弾きの流水文帯を巡らすものもある。器胎は薄手のものが多く、17世紀中葉から後半にかけての肥前磁器の様相を示すものである。長吉谷窯を中心に生産された磁器とみられる。

457は白磁小碗で、高台は細く高目で、中国製の磁器とみられる。458は粉青沙器碗である。刷毛目碗で、器胎はごく薄い。高台内は呉器手茶碗のように丸く削り込まれている。17世紀前半頃の朝鮮半島産とみられ、日本からの注文品の可能性もある。

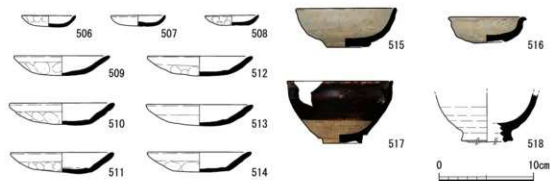
459～476は土師器皿である。中型の皿の見込み外周に沈線が巡っており、17世紀頃のものともみられる。477～479は土師器鉢である。480は瓦質土器の平仄である。481は土師器花塩壺である。

口縁部を花形に成形する。482～485は土師器焼塩壺である。482・484は蓋で、484には上面に「奈んばん七度本やき志本」の印銘をもつ。472も印銘をもつ。483・485は筒型の器形である。486は土師質の土鈴である。487～490は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。491は土師器鍋で、口縁部は鋸状である。

S K712



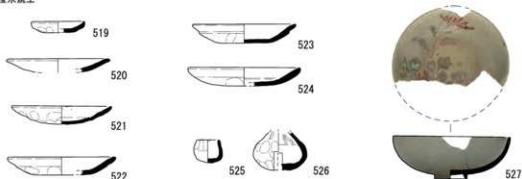
S D738



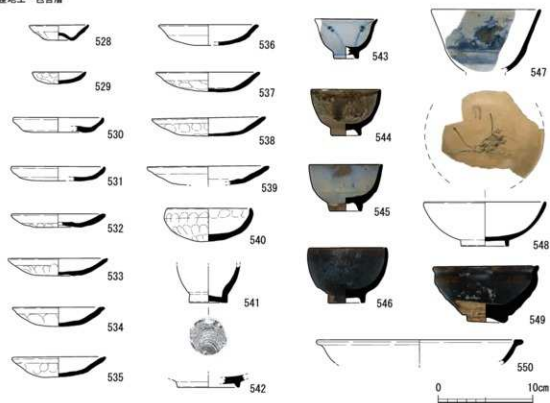
第60図 南地区出土遺物実測図(13)

492は陶器皿で、肥前系の陶器である。内面に本格的な水墨画風の楼閣山水図を描く。17世紀中葉から後半にかけての頃のものか。493は陶器鉢で、肥前系の陶器である。口縁部が外反する皿状の形状で、見込みには砂目の目痕が残る。内面外周に「花」「月」の文字を、呉須で書く。時計回りに「花鳥風月」と書かれていた可能性がある。17世紀中葉から後半にかけての頃のものか。494~497は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。山水文や花文などを描く。498・497は口径に対して高台径が大きく、17世紀後半のものである。498は染付磁器壺蓋とみられ、肥前系の磁器である。499は陶器壺で、ヴェトナム産の焼締陶器の長胴壺である。南蛮貿易による輸入品を納めたコンテナとしてもたらされたものとみられる。同形の壺が、茶道具の「切溜み入」として見立てられ、伝世している。この壺も、茶道具に見立てられたものか。京都市内では平安京内膳町跡からも出土している。国内では、福岡県博多遺跡群や大阪府大阪城下町跡・堺環濠都市遺跡

宝永焼土



整地土・包含層



第61図 南地区出土土遺物実測図(14)

などからも出土している。500は陶器搦鉢で、信楽系の陶器である。17世紀頃のものと思われる。501は陶器灯明皿である。502は陶器のミニチュア土器の搦鉢である。

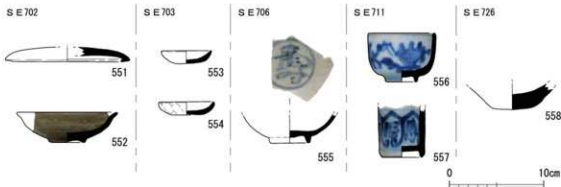
503は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。内面に鶉文を描き、口縁端部に鉄釉(口紅)を施す。「藍九谷」様式とされるものか。17世紀後半頃のものである。504は染付磁器鉢で、肥前系の磁器である。口縁端部は輪花形で、鉄釉(口紅)を施す。内測面には牡丹唐草文が巡り、見込みに手描きの五弁花文を描く。焼成、絵付けともに精品である。17世紀後半頃のものである。505は色絵磁器鉢で、肥前系の磁器である。外面には蔓牡丹文を、見込みには二重圏線内に牡丹花文を描く。文様の輪郭を黒線で描いており、余白の多い絵付けなどから、いわゆる「柿右衛門」様式のものと思われる。17世紀後半頃のものである。

SD738 (第60図) 506~514は土師器皿である。見込み外周に沈線をもつものがあり、17世紀のものと思われる。515・516は陶器小椀で、瀬戸美濃系の陶器である。いわゆる志野である。17世紀初頭頃のものか。517は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。17世紀のものか。518は陶器椀で、肥前系の陶器である。灰釉を施す。

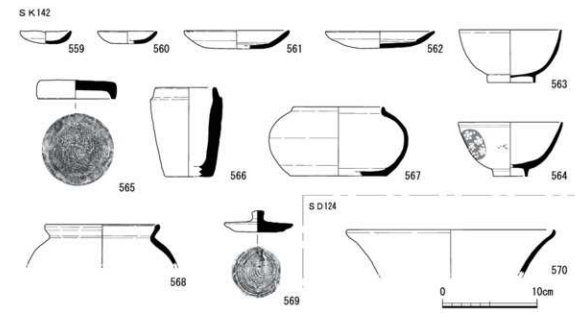
宝永焼土 (第61図) 519~524は土師器皿である。17世紀のものと思われる。525は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。526は土師質の土鈴である。527は陶器椀で、京都系のものである。内面に上絵付で花文を描く。

整地層・包含層 (第61図) 528~539は土師器皿である。528はいわゆる「へそ皿」で、15世紀頃のものと思われる。536のような12世紀のもの、537・538のような15世紀後半頃のものも含まれる。540は土師器鉢である。541は須恵器壺で、小型のものである。底部糸切りで、9世紀頃のものと思われる。542は緑釉陶器の皿である。

543は染付磁器小椀で、肥前系の磁器である。外面に簡素な草花文を描く。17世紀中葉頃のものである。544~546は陶器椀で、肥前系の陶器である。544は灰釉小椀、545は薰灰釉を施した斑唐津小椀、546は鉄釉椀である。17世紀前半頃のものである。547は陶胎染付椀で、肥前系の陶器である。白土化粧した下地に呉須で楼閣山水文を描く。17世紀後半頃のものである。548は陶器椀で、肥前系の陶器である。内面に山水文を描く、京焼風肥前系陶器で、17世紀後半頃のものである。549は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。550は青磁鉢で、中国製のものである。15



第62図 南地区出土遺物実測図(15)



第63図 南地区出土遺物実測図(16)

世紀頃のものか。

S E 702(第62図) 551は陶器蓋で、上面に鉄軸を施す。552は陶器皿で、肥前系の陶器である。17世紀前期頃のものである。

S E 703(第62図) 553・554は土師器皿である。小型のものであり、時期等は不明である。

S E 706(第62図) 555は青花磁器椀で、中国製の磁器である。見込みがやや盛り上がった、いわゆる「饅頭心」であり、その部分に寿字文を描く。16世紀末頃のものである。

S E 711(第62図) 556は染付磁器椀で、山水文などを描く。19世紀頃のものか。肥前系の磁器とみられるが、各地で磁器生産が行われている時期であり、産地の特定はできない。557は青花磁器であるが機種・器形は不明である。上部に透かしの痕跡があるが、形状は不明である。

S E 726(第62図) 558は弥生土器の底部である。弥生時代後期のもものとみられる。

S K 142(第63図) 559～562は土師器皿である。見込み外周に沈線が巡るものがあり、17世紀頃のものともみられる。563・564は磁器椀で、564は染付で円花文を手描きする。肥前系の磁器である。器胎は薄手であり、17世紀後半頃のものである。565・566は土師器焼塩壺である。565は蓋で、内面に布目が残る。566は筒状の身で、口縁端部に蓋受をもつ。567は土師器壺である。568は陶器甕で、信楽系の陶器である。569は陶器蓋で、瀬戸系のもものとみられる。

S D 124(第63図) 570は白磁鉢で、肥前系の磁器である。胴部は外反して立ち上がり、口縁端部を上方につまみ上げる。17世紀中葉頃のものともみられる。

(2)瓦(第64～66図)

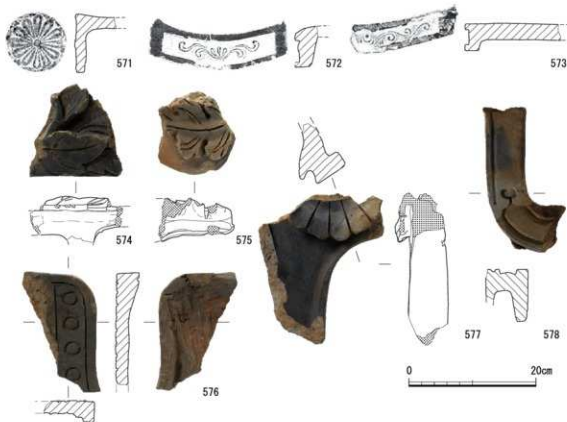
571～578は近世瓦である。571は菊花文軒丸瓦で、棟の側面に装着される飾り瓦である。S K 704から出土した。572は唐草文軒平瓦で、攪乱713から出土した。573は唐草文軒平瓦で、中央に角釘で固定するための穿孔がある。宝珠を中心模様とする。東半部から出土した。574～578は鬼

瓦もしくは獅子口の一部とみられる。574がS E 703から、575・577・578はS K 526から、576はS D 744から出土した。

579～597は古代から中世にかけての瓦である。ほとんどのものが北地区同様、寺町調査後に実施した断ち割りで河川堆積から出土したものである。579は複弁蓮華文軒丸瓦で、中房が二巴文である。12世紀初頭の平等院改修時に使用された軒平瓦と同文で、河内向山窯（とよ）で生産された瓦である。墓群12から出土した。580は複弁蓮華文軒丸瓦で、中房の周囲に菱を現す。平安時代後期のものとみられる。墓群14のS T 256から出土した。581は複弁蓮華文軒丸瓦で、蓮華文の周囲に圈線と珠文が巡る。平安時代後期のものとみられる。582・583は緑釉丸瓦である。法成寺所用の瓦とみられる。582・583は中央部から出土した。584は丸瓦である。断ち割り南部から出土した。

585は唐草文軒平瓦である。瓦当裏に横方向の縄タキがみられ、亀岡市篠窯業生産遺跡群王子瓦窯で生産された11世紀の瓦とみられる。法成寺関係の瓦と考えられているものである。断ち割り東部から出土した。586も585と同文の唐草文軒平瓦である。S K 139から出土した。587は唐草文軒平瓦である。2トレ3層以下から出土した。588・589は緑釉平瓦である。法成寺所用の瓦と考えられる。

590～597は平瓦である。凸面のタキは、590は正格子タキ、592は鋸歯文タキ、595は斜格子タキであり、その他は縄タキである。また、594・596は緑釉瓦であり、法成寺所用の瓦とみられる。



第64図 南地区出土遺物実測図(17)

付表2 南地区近世瓦タイプ別個体数

南地区 S X 526				
種別	個体数	コビキ	刻印	
軒丸瓦	231	A		
		B	21	
丸瓦	2802	A	7	2
		B	637	1
軒平瓦	294	A		
		B	1	
平瓦	1731	A		1
		B		1
その他	鬼瓦	18		
	磚	0		
	道具瓦	0		
	不明	173		
	菊花棟丸	171		
	平安	4		
	鳥フスマ	1		
	合計	5425		

南地区 S X 529				
種別	個体数	コビキ	刻印	
軒丸瓦	0	A		
		B		
丸瓦	0	A		
		B		
軒平瓦	0	A		
		B		
平瓦	228	A		3
		B		
その他	鬼瓦	0		
	磚	0		
	道具瓦	0		
	不明	5		
	菊花棟丸	0		
	平安	0		
	鳥フスマ	0		
	合計	233		

南地区 S X 609				
種別	個体数	コビキ	刻印	
軒丸瓦	0	A		
		B		
丸瓦	105	A		1
		B	14	
軒平瓦	1	A		
		B		
平瓦	236	A		
		B		
その他	鬼瓦	0		
	磚	0		
	道具瓦	0		
	不明	20		
	菊花棟丸	7		
	平安	1		
	鳥フスマ	0		
	合計	370		

南地区 S X 629				
種別	個体数	コビキ	刻印	
軒丸瓦	9	A		
		B		
丸瓦	296	A		
		B		
軒平瓦	9	A		
		B		
平瓦	795	A		1
		B	1	
その他	鬼瓦	7		
	磚	0		
	道具瓦	0		
	不明	12		
	菊花棟丸	13		
	平安	0		
	鳥フスマ	0		
	合計	1141		

南地区 S X 620				
種別	個体数	コビキ	刻印	
軒丸瓦	9	A		
		B		
丸瓦	69	A		
		B	14	
軒平瓦	11	A		
		B		
平瓦	40	A		
		B		
その他	鬼瓦	2		
	磚	0		
	道具瓦	0		
	不明	150		
	菊花棟丸	10		
	平安	0		
	鳥フスマ	0		
	合計	291		

南地区 S X 630				
種別	個体数	コビキ	刻印	
軒丸瓦	4	A		
		B	1	
丸瓦	92	A		
		B	26	
軒平瓦	4	A		
		B		
平瓦	186	A		
		B		1
その他	鬼瓦	0		
	磚	0		
	道具瓦	0		
	不明	6		
	菊花棟丸	5		
	平安	0		
	鳥フスマ	0		
	合計	297		

S X 526出土近世瓦(付表2) S X 526は、宝永の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。出土瓦の破片5,425点について観察を行った。やはり丸瓦・平瓦の出土割合が高く、約93%を占める。軒瓦も、丸瓦で約8%、平瓦で約14%含まれている。

この土坑出土瓦で特徴的なのは、丸瓦でコビキBの痕跡をもつ瓦が多いことである。平瓦では凹凸面共に平滑に調整されているものが多く、確認できたのは1点にすぎない。コビキBの瓦は、聚楽第築城後に形成された大名屋敷街に使用された瓦で、聚楽第に使用されたコビキAの瓦よりも新しいものとされる。

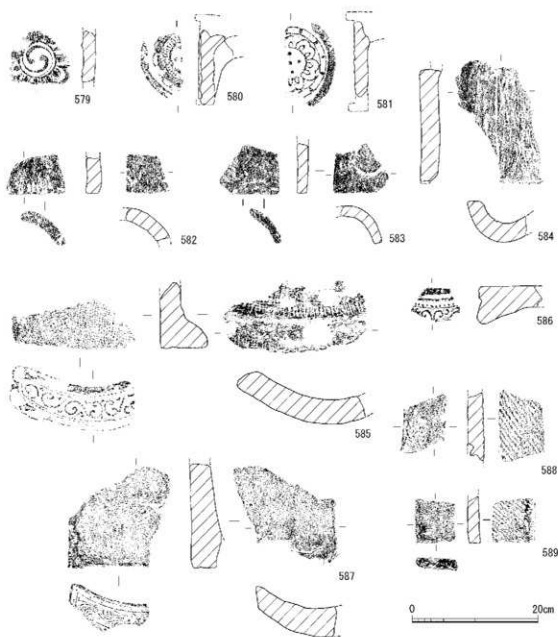
軒瓦を含む丸瓦で、コビキBの痕跡が確認できたのは約22%である。コビキAの痕跡をもつ瓦もあるが、ごく少数であり、コビキBのほうがはるかに多い。この土坑出土の瓦を使用していた建物は、寺町移転後に建造された可能性が高い。

丸瓦・平瓦のほかにも、鬼瓦や鳥袋も出土しており、不明ながら道具瓦に属するとみられる瓦や菊花棟丸瓦も多数出土している。これらの瓦を使用していた建物が1棟であるのか複数棟で

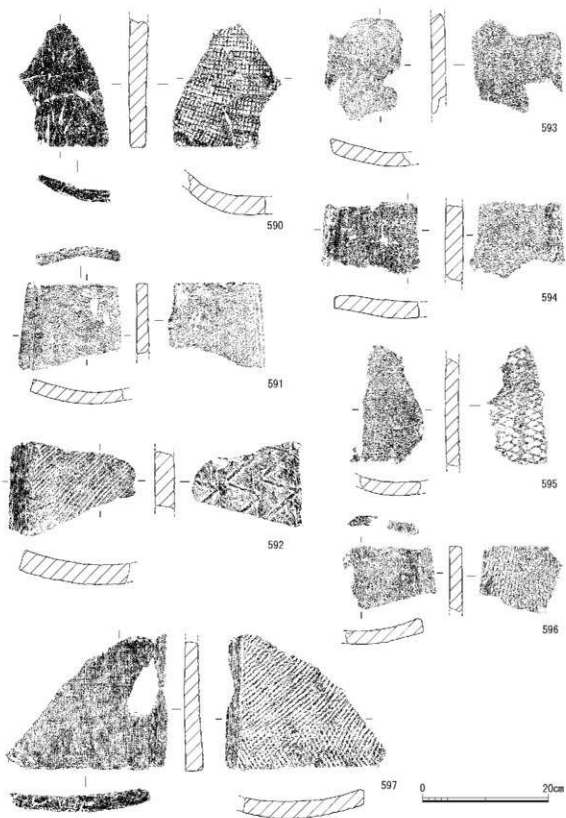
あるのかは別にして、使用された瓦の種類がほぼそろっているといえる。平安時代の瓦については、下層に包含されていたものが混入したものと考えられる。

S X 529出土近世瓦(付表2) S X 529は寺院関係の建物に伴うとみられる瓦敷遺構である。観察した233点の破片は、ほとんどが平瓦である。コビキの痕跡がみられるものはなかった。

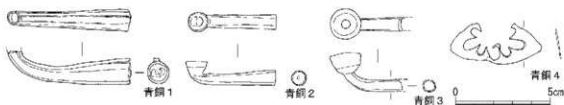
S X 609出土近世瓦(付表2) S X 609は円形石組遺構で、床面に漆喰を張った遺構である。出土した陶磁器から、18世紀末～19世紀にかけての遺構とみられる。観察した破片数は370点である。丸瓦・平瓦が多い。建物に用いられる瓦の種類がほぼそろっていると言えるが、軒瓦の点数が少ない。丸瓦に14点のコビキBの瓦が含まれる。丸瓦の13%を占める。コビキAは認められなかった。



第65図 南地区出土遺物実測図(18)



第66図 南地区出土遺物実測図(19)



第67図 南地区出土遺物実測図(20)

S X 629出土近世瓦(付表2) S X 629は建物周辺の地業として敷かれたと考えられる遺構である。宝永の大火以後のものと考えられる。観察した破片数は1,141点である。丸瓦・平瓦をはじめ、建物に用いられる瓦の種類がほぼそろっているとと言える。平瓦が丸瓦の約2.7倍を占めるが、これは遺構の性格によるものであろう。コビキの痕跡が確認できる瓦はほとんどなかったが、平瓦で1点のみコビキBのものを確認した。

S K 620出土近世瓦(付表2) S K 620は、宝永の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。なお、この土坑の過半は調査地外となるため、全容が調査できてはいない。観察した破片数は291点である。

用途不明の瓦が多いが、建物に用いられる瓦の種類がほぼそろっているとと言える。丸瓦に14点のコビキBの瓦が含まれている。丸瓦の20%を占める。コビキAは認められなかった。

S X 630出土近世瓦(付表2) S X 630は、瓦を列状に並べた土留めの遺構である。遺構の性格上、板状の瓦が多く、利用しにくい鬼瓦や飾り瓦はほとんど用いられない。主に丸瓦・平瓦である。観察した破片数は297点である。

この遺構の瓦では、軒瓦を含む平瓦では、コビキの痕跡は確認できなかった。丸瓦では、軒瓦で1点、通常の瓦で26点のコビキBの瓦を確認した。軒瓦を含む丸瓦では、約28%を占める。コビキAの瓦は含まれていない。

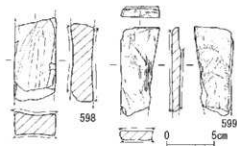
(3) 青銅製品(第67図)

青銅1～3は煙管である。青銅2・3は首の立ち上がりが短い。青銅1はS X 750、青銅2はS K 712、青銅3はS K 704出土である。青銅4は飾り金具とみられるが、用途は不明である。S K 712から出土した。

(4) 石製品(第68図)

598・599は砥石である。長方形の形状で、両面に使用痕がある。S K 708から出土した。

(引原茂治)

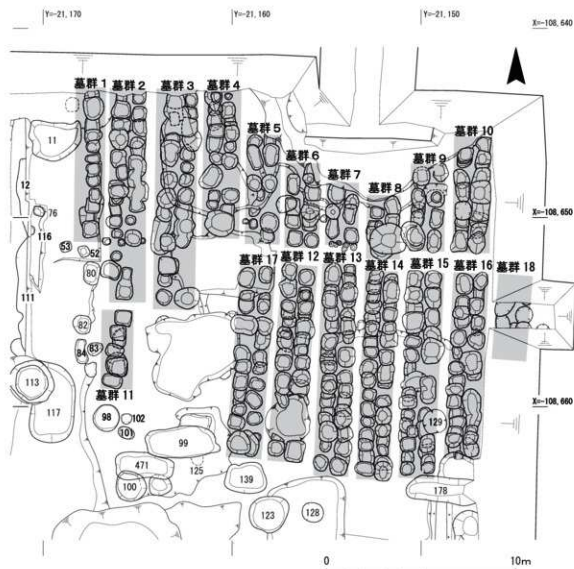


第68図 南地区出土遺物実測図(21)

4) 墓地

南地区の東側で墓地を検出した(第69図)。検出した墓地の中で、墓穴の展開する範囲は、東西27.0m以上、南北約20.0m以上に及ぶ。墓穴は南北方向の列状に並び、2列1組で1つの区画を形成する。報告では、この1区画を墓群と呼称する。また、墓群の東側の墓穴列をa、西側の墓穴列をbとした。それぞれの墓穴列には最大15基程度の墓穴が並ぶ。墓群は南北2段に分かれ、北側と南側が対称となるように等間隔に並ぶ。北側で10列、南側で8列の墓群を検出した。隣り合う墓群と墓群の間は約0.5m、南北間は約1.0m空間が空く。

今回検出した墓穴の総数は337基である。埋葬方法には、土葬と火葬があり、その大半が土葬である。埋葬施設の種類は、直葬・木棺・木棺+粘土・甕棺と不明のものがある。木製品の遺存状態は非常に悪く、木棺は釘のみが出土した例が多い。遺存状態が比較的良いものでも、底材とみられる木質が掘り底部にわずかに残る程度で、取り上げは不可能であった。今回、木質が遺存



第69図 南地区墓群配置図

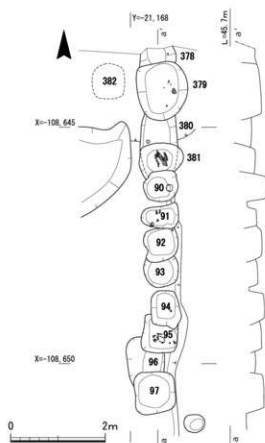
していなくても5本以上の釘が出土した墓穴については、木棺が利用されていたとして整理している。また、人骨の遺存状態も木製品と同様に悪く、埋葬姿勢がわかる墓穴はわずかであった。

墓穴は重なり合って掘られており、平面観察で墓穴の新旧を把握することが難しく、堆積状況や、遺物や人骨の出土状況、遺物の新旧などから総合的に判断した。調査時はa・bの墓穴列ごとに半掘を行い、断面観察を試みたが、人骨の出土状況などから一度に半掘できないものも多くあり、その場合は平面的な人骨の出土状況を捉えることを優先して調査を行った。埋土は、褐色や黄褐色の砂礫層で墓穴ごとに大きな違いはみられない。

(1) 墓群1

墓地の北東で検出した墓群である。13基の墓穴を確認した。確認した墓穴列は1列である。墓群の上層と西側を学校校舎基礎によって大きく削平される。確認した墓穴列の西側でも細かな人骨片を確認しており、他の墓群と同様に東西2列の墓群であったと考えられる。埋葬施設の明確な墓穴は確認できなかった。墓群北端の墓穴は調査地外へ広がり、墓群は北へ延びると想定される。墓群の検出長は南北7.71mを測る。

墓穴 S T 382 (第70図) 墓群北側 S T 379 の西側で検出した。明確な掘形は確認できなかったが、骨片がまとめて出土しており、墓穴があったと想定される。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。



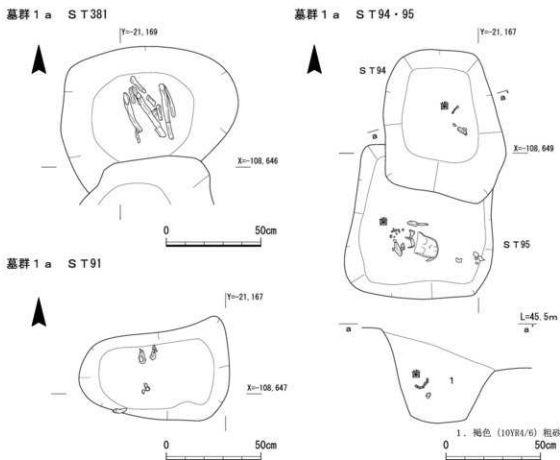
第70図 墓群1 平面・断面図

墓穴 S T 378 (第70図) 墓群の北端で検出した。南側を S T 379 によって削平される。北側は調査地外へと広がる。掘形の規模は東西0.75m、南北0.31m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は念仏銭が出土した。

墓穴 S T 379 (第70図) 墓群の北側で検出した。S T 378・380を削平して掘られる。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.08m、南北1.22mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付碗のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 380 (第70図) 北側を S T 379、南側を S T 381 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.65m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付碗が出土した。

墓穴 S T 381 (第71図) 南側を S T 90に



第71図 墓群1 ST381・91・94・95実測図

よって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北0.60m以上で、平面は歪んだ方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、長管骨が残る。長管骨は立った状態で出土しており、埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は鉄釘が3本出土しており、掘形壁面と人骨の間に空間があることから、埋葬施設に木棺が使用されたと考えられる。

墓穴ST90 (第70図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.65mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で、頭蓋骨のみが出土した。頭蓋骨は掘形東側中央に位置する。遺物は土師器皿、新寬永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ST91 (第71図) 墓群1aの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.45mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ST92 (第70図) 掘形の規模は東西0.72m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は染付碗、寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ST93 (第70図) 北側をST93によって削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.54m以上を測り、平面は円形ないしは方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿などが出土した。

墓穴ST94 (第71図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.60m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

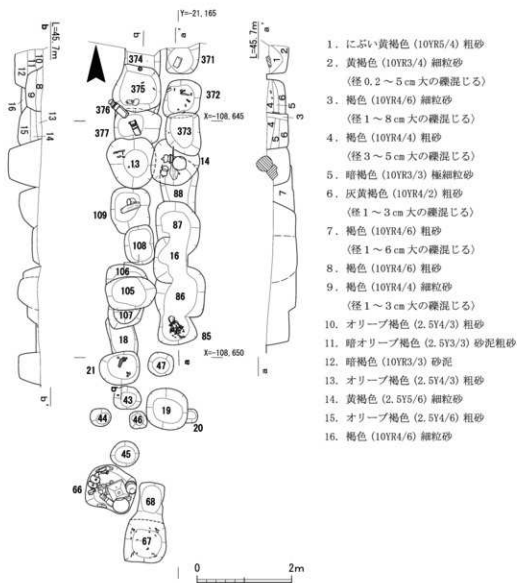
墓穴 S T 95 (第71図) 北側を S T 94 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。頭蓋骨とみられる骨は掘形中央よりやや南に位置する。

墓穴 S T 96 (第70図) 北側を墓穴 S T 95、南側を S T 97 によって削平される。掘形の規模は東西0.78mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 97 (第70図) 墓群の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.86mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

(2) 墓群 2

墓地の北側に位置し、墓群 1 の東側で検出した墓群である。北側は調査地外へと広がる。東西 2 列の墓群で、東側で 13 基、西側で 14 基、計 27 基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用するものは 2 基、不明が 25 基である。検出した墓群の東西幅は 1.97m、検出長は南北 10.87



1. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂
2. 黄褐色 (10YR3/4) 細粒砂
(径 0.2 ~ 5 cm 大の礫混じり)
3. 褐色 (10YR4/6) 細粒砂
(径 1 ~ 8 cm 大の礫混じり)
4. 褐色 (10YR4/4) 粗砂
(径 3 ~ 5 cm 大の礫混じり)
5. 暗褐色 (10YR3/3) 極細粒砂
6. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂
(径 1 ~ 3 cm 大の礫混じり)
7. 褐色 (10YR4/6) 粗砂
(径 1 ~ 6 cm 大の礫混じり)
8. 褐色 (10YR4/6) 粗砂
9. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂
(径 1 ~ 3 cm 大の礫混じり)
10. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂
11. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂泥粗砂
12. 暗褐色 (10YR3/3) 砂泥
13. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂
14. 黄褐色 (2.5Y5/6) 細粒砂
15. オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粗砂
16. 褐色 (10YR4/6) 細粒砂

第72図 墓群 2 平面・断面図

mを測る。

墓穴 S T 374 (第72図) 墓群 2 b の北端で検出した。南側を S T 375 によって削平され、北側は調査地外へと延びる。掘形の規模は東西0.75mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 375 (第72図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.99m、南北0.95mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘が出土しており、埋葬施設には木棺が使用されたと考えられる。人骨の残存状態はやや不良で、頭蓋骨がわずかに残る。頭蓋骨は掘形の南側中央付近に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は漆器椀、煙管が出土した。

墓穴 S T 376 (第72図) S T 375・377によって上層を大きく削平されており、掘形の形状は不明である。人骨は確認できなかった。

墓穴 S T 377 (第72図) 南側を S T 13 によって削平される。掘形の規模は東西0.97m、南北0.62m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺構上面から一石五輪塔(3・4)が出土したが、墓穴との関係性は不明である。人骨は出土していない。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 13 (第72図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.04m、南北1.03mを測り、平面は南西が膨らむ長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 109 (第72図) 南側を S T 108 によって削平される。掘形の規模は東西0.81m、南北0.98mで、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 108 (第72図) 墓群 2 b 中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.61m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 106 (第72図) 南側の大部分を S T 105 によって削平される。掘形の規模は東西0.85mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 105 (第72図) S T 106・107を削平する。掘形の規模は東西1.05m、南北0.70mを測り、平面は東側が膨らむ方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 107 (第72図) 北側を S T 105 によって削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.52m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土している。

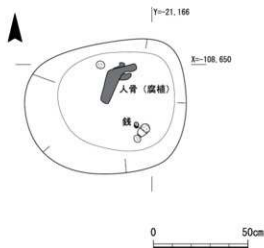
墓穴 S T 18 (第72図) 北側を S T 107、南側を S T 21 によって削平される。掘形の規模は東西0.56m、南北0.39m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は陶器壺、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 21 (第73図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.69mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は入子になる白磁小杯、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

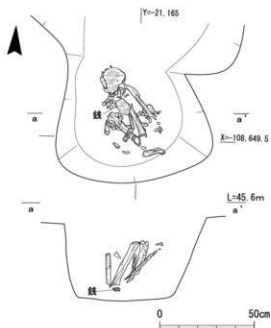
墓穴 S T 43 (第72図) 掘形の規模は東西0.58m、南北0.48mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 45 (第72図) 掘形の規模は直径0.6m程度を測り、平面は円形を呈する。人骨や遺物

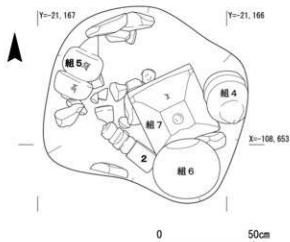
墓群2 b ST21上層



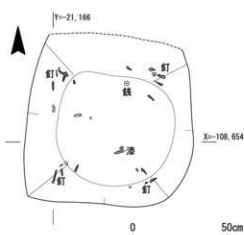
墓群2 a ST85



墓群2 b SK66



墓群2 ST67



第73図 墓群2 ST21・85・67・SK66実測図

は出土しなかったが、墓群西側の墓穴列上にあり、墓穴の可能性が高い。

墓穴ST371(第72図) 墓群2 aの北端で検出した。掘形北側は調査地外へと広がる。遺構上面で一石五輪塔の地輪(1)が出土したが、墓穴との関係性は不明である。掘形の規模は東西0.68m、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ST372(第72図) 南側をST373によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.80m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は漆片のほか、新寬永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ST373(第72図) 掘形の規模は東西0.72m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨は確認できなかった。

土坑SK14(第72図) 墓群2aの中央付近で検出した。ST373に削平され、ST88を削平する。掘形の規模は東西0.92m以上、南北1.00mを測り、平面は方形を呈するとみられる。埋土中からは、組合式五輪塔の空風輪・水輪が出土した。空輪の形状は頂部が突出し、新しい様相を呈する。また空風輪が2基出土していること、火輪や地輪といったその他の部位が出土していないことから、廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかった。遺物は、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ST88(第72図) 北側をSK14、南側をST87によって削平される。掘形の規模は東西0.73m、南北0.93m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ST87(第72図) 南側をST16によって削平される。掘形の規模は東西0.93m、南北0.75m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は陶器碗が出土している。

墓穴ST16(第72図) 掘形の規模は東西0.72m、南北0.90m程度を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ST86(第72図) 北側をST16によって削平される。掘形の規模は東西1.06m程度、南北1.06m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は青磁皿が出土している。

墓穴ST85(第73図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.66m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の残存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬である。頭蓋骨は掘形の北側に位置する。鉄釘・木質などは出土しておらず、埋葬施設は不明であるが、人骨と掘形壁面との間に空間があり、鉄釘を用いない木棺や早桶などが使用された可能性が考えられる。遺物は磁器碗、数珠が出土している。

墓穴ST47(第72図) 掘形の規模は東西0.6m、南北0.50mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ST19(第72図) 墓群2の南側で検出した。掘形の規模は東西0.87m、南北0.87mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿のほか、鉄釘がわずかに出土している。

土坑SK66(第73図) ST68の西側で検出した土坑である。掘形の規模は東西1.05m、南北0.91mを測り、平面は方形を呈する。組合式五輪塔の空風輪・火輪・水輪のほか、一石五輪塔が出土した。空輪の形状は頂部が突出し、新しい様相を呈する。組合式五輪塔の地輪が出土していないことや、空風輪が2点出土していることから墓石の廃棄土坑と考えられる。人骨や銭貨は出土していない。

墓穴ST68(第72図) ST19の南側で検出した。掘形の規模は東西0.50m、南北0.75m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は確認できなかった。遺物は土師器皿が出土している。

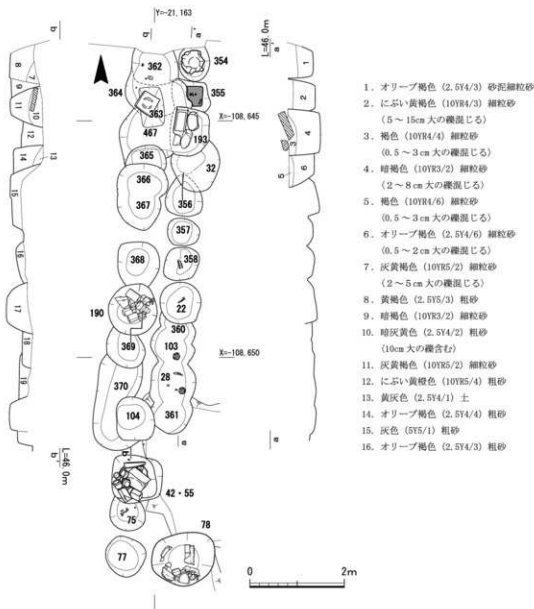
墓穴ST67(第73図) 墓群2の南端、ST68の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.90m以上を測り、平面は方形を呈する。鉄釘が方形に並んで出土しており、木棺が使用されたと考えられる。鉄釘の出土状況から木棺は一辺0.5m程度の方形と想定される。人骨の遺存状態は不良である。遺物は寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(3) 墓群3

墓地の北側に位置し、墓群2の東側で検出した墓群である。墓群の北側は調査地外へと広がる。東西2列の墓群で、西側で17基、東側で13基、計30基の墓穴を確認した。埋葬施設に木棺を使用しているものが4基、甕棺が2基、不明が24基である。検出した墓群の東西幅は1.72~2.30m、南北長は11.41mを測る。

墓穴 S T 362 (第74図) 墓群3bの北端で検出した。掘形北側は調査地外へと広がる。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.96m、南北0.67m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨の遺存状態は不良である。

不明土坑 S X 363 (第74図) 墓群3bの北側で検出した。S T 364・467を削平する土坑である。掘形の規模は東西0.50m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。埋



第74図 墓群3 平面・断面図

土中から台座7が出土した。台座を廃棄した土坑、もしくは台座の落ち込みに伴う土坑と考えられる。

墓穴 S T 364 (第74図) 上層を S T 364によって削平される。掘形の規模は東西0.94m以上、南北0.65m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は鉄釘、銭貨が出土した。

墓穴 S T 467 (第74図) 上層を S T 363、南側を S T 365によって削平される。掘形の規模は東西1.00m以上、南北0.88m以上を測る。遺物は鉄釘のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 365 (第74図) 南側を S T 366によって削平される。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は鉄釘や古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 366 (第74図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.06m、南北0.70m以上を測り、平面は方形ないしは楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、染付椀、銭貨が出土している。

墓穴 S T 367 (第74図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.90m、南北0.73m以上を測り、平面は方形ないしは円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 368 (第74図) 南側を S T 190によって削平される。掘形の規模は東西0.88m、南北0.89m以上を測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は青銅製品が出土した。

墓穴 S T 190 (第75図) 墓群3bの中央付近で検出した。S T 368・369を削平して掘られる。掘形の規模は東西1.03m、南北1.08mを測り、平面は円形を呈する。埋土中から、一石五輪塔をはじめとする墓石が8基出土した。墓石には一石五輪塔の地輪部のみや、舟形墓標の頂部のみのように破片の出土もあり、廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかったが、墓群西側の墓穴列上に掘られており、落ち窪んだ墓穴を廃棄土坑として利用したと想定される。遺物は土師器皿、銭貨などが出土した。

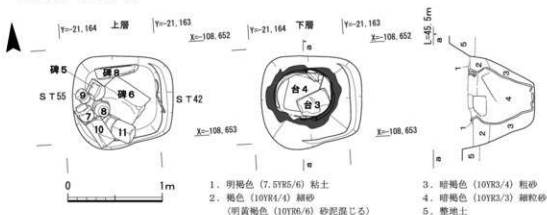
墓穴 S T 369 (第74図) 北側を S T 190によって削平される。掘形の規模は東西0.85m、南北0.72m以上を測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 370 (第74図) 北側を S T 369、南側を S T 104によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.91m、南北1.76m以上を測り、平面は南北に長い楕円形を呈するが、地山が軟弱な砂層のため壁面が崩落しており、輪郭は明確でない。底部の形状から、複数の墓穴が結合していると考えられる。人骨の遺存状態は不良で、掘形内全体から骨片が出土した。

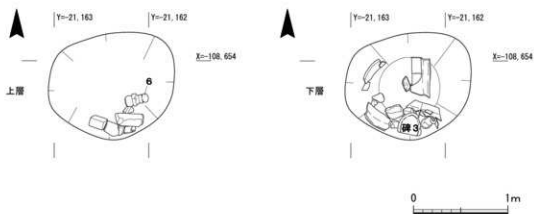
墓穴 S T 104 (第74図) 墓群3の南側で検出した。墓群東側と西側の中央付近に位置し、S T 361・370を削平して掘られる。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.91mを測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 42 (第75図) 埋葬方法は土葬である。大部分を S T 55によって削平されており、東側の一部のみを確認した。掘形の規模は東西0.90m以上、南北0.87m以上を測り、平面は方形を

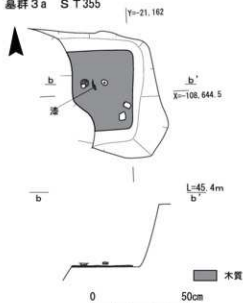
墓群3b ST42・55



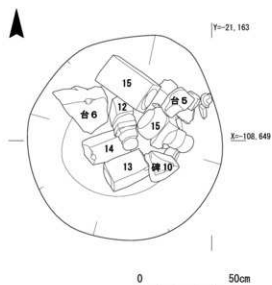
墓群3 SK78



墓群3a ST355



墓群3b ST190



第75図 墓群3 ST42・55・190・355・SK78実測図

呈すとみられる。人骨の遺存状態は不良で、わずかに長管骨が遺存していた。

墓穴 S T 55 (第75図) 墓群3の南側で検出した。埋葬方法は不明である。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.92mを測り、平面は方形を呈する。上層から一石五輪塔・板碑などの墓石が8基まとまって出土した。また甕棺の内部には台座が落ち込んでいる。台座が2基出土していることや、上層の墓石の数に対して隣接する墓穴が少ないことなどから、甕棺埋葬後しばらくして廃棄土坑として利用されたと考えられる。掘形の埋土は明黄褐色の砂泥が混じる褐色細砂である。甕棺内の埋土は暗褐色の細粒砂で、甕棺底部付近と台座周囲の埋土に違いがみられず、墓石廃棄の際に流入した可能性が高い。甕棺の口縁部の周囲には明褐色の粘土が残存しており、蓋を固定していたと考えられる。甕棺の蓋には円形の板が用いられたと考えられるが、埋土中から木質等は出土していない。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 75 (第74図) 北側を S T 55によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.74m、南北0.57m以上の円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 77 (第74図) 墓群3の南端で検出した。掘形の規模は東西0.82m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

土坑 S K 78 (第75図) 墓群3の南端、S T 77の東側で検出した。掘形の規模は東西1.31m、南北1.01mを測り、平面は楕円形を呈する。埋土中から、墓石のほか甕棺の破片、瓦片などが出土した。甕棺は廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 354 (第74図) 墓群3 aの北端で検出した。掘形の北側は一部調査地外へと広がる。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.65m、南北0.70m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。上層を後世の攪乱により削平されており、甕棺は底部付近のみが遺存する。人骨は出土しなかった。遺物は、土師器皿やミニチュア土器が出土した。

墓穴 S T 355 (第75図) 西側を S T 364、南側を S T 355によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.46m以上、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。掘形底部に東西0.35m程度、南北0.4mの方形の範囲に木質が遺存しており、木棺の底板とみられる。鉄釘は出土していない。人骨の遺存状態は不良である。遺物は漆細片、銅製品、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。いずれも木質上から出土しており棺内遺物とみられる。

土坑 S K 193 (第74図) S T 32・355を削平する。掘形の規模は東西0.71m以上、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈する。埋土中から櫛形墓標が1基出土したほか、台座の破片とみられる長辺0.35m大の石が出土した。墓石廃棄に伴う土坑と考えられるが、墓群東側墓穴列上にあり、落ち窪んだ墓穴を利用した可能性が考えられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 32 (第74図) 北側を S K 193によって削平される。掘形の規模は東西1.03m、南北1.03m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 356 (第74図) 北側を S T 32によって削平される。掘形の規模は東西0.76m、南北0.80m以上を測り、平面は不定形である。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 357 (第74図) 掘形の規模は東西0.68m、南北0.57mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

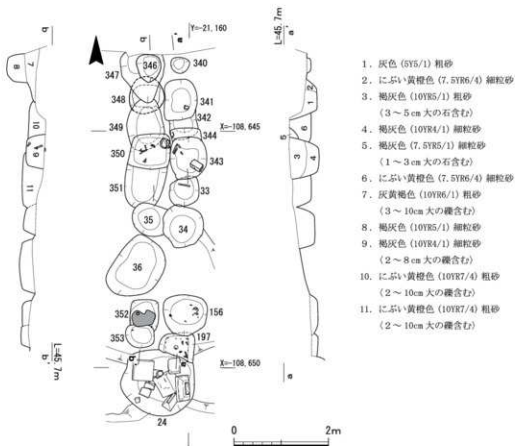
墓穴 S T 358 (第74図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 22 (第74図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.88mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 360・103・28・361 (第74図) 掘形の規模は東西0.69～0.95mを測る。掘形が崩落しており、それぞれの明確な輪郭を確認できなかった。人骨の出土状況や、掘形の平面形などから4基の墓穴が重なりあって存在するとみられる。北端の S T 360は S T 22によって削平される。埋葬方法はすべて土葬である。人骨の遺存状態はやや不良である。S T 103・28からは頭蓋骨が出土した。出土した頭蓋骨はそれぞれの掘形の東寄りに位置する。埋葬姿勢は不明である。S T 360からは、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(4) 墓群4

墓地の北側に位置し、墓群3の東側で検出した墓群である。墓群の北側は調査地外へ広がる。東西2列の墓群で、東側で10基、西側で9基、計19基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に木棺を使用するものは3基、木棺直下に粘土を敷くものが1基、不明が15基である。検出した墓群



第76図 墓群4 平面・断面図

の東西幅は1.68m、南北長は7.64mを測る。

墓穴 S T 346 (第76図) 墓群 4 b の北端に位置し、S T 347の上層で検出した。掘形の規模は東西0.5m、南北0.57mを測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 347 (第76図) 墓群 4 b の北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形北側は調査地外へ広がる。掘形の規模は東西0.92m、南北1.05m以上を測り、平面は不定形である。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 349 (第76図) 北側の一部を S T 348、南側を S T 350によって削平される。掘形の規模は東西0.75m、南北0.97m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 350 (第77図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.74mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。掘形上面北東隅から陶器壺が出土した。壺の上部は欠損する。中には火葬骨が納められる。壺に伴う掘形は確認できなかったが、S T 350を削平する上層の遺構と考えられる。

墓穴 S T 351 (第76図) 埋葬方法は土葬である。北側を S T 350によって削平される。掘形の規模は東西0.84m、南北0.84m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 35 (第76図) 東側を S T 34によって削平される。掘形の規模は東西0.65m以上、南北0.68mを測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿、銭貨が出土している。

墓穴 S T 36 (第76図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.00m、南北1.32mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 352 (第76図) 南側を S T 353によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.60m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈する。掘形底部で東西0.5m、南北0.3m程度の不定形な範囲に木質が遺存していた。木棺の底板と考えられるが、鉄釘は出土していない。人骨の遺存状態は不良である。遺物は白磁小杯のほか新寛永通寶を含む銭貨が出土した。白磁小杯は底板直上から出土しており、棺内に納められたと考えられる。

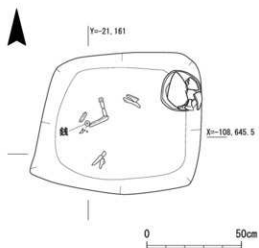
墓穴 S T 353 (第76図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.60m、南北0.48m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 340 (第76図) 墓群 4 a の北端で検出した。掘形の規模は東西0.39m、南北0.35mを測り、平面は円形を呈する。検出した掘形は他の墓穴と比べて小さいが、墓穴列上に位置するため墓穴と考えられる。人骨は出土しなかった。

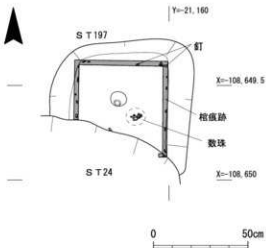
墓穴 S T 341 (第76図) 掘形の規模は東西0.68m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は陶器碗が出土した。

墓穴 S T 342 (第76図) 北側を S T 341、南側を S T 344によって削平される。掘形の規模は東西0.57m、南北0.42m以上を測る。人骨は出土しなかった。

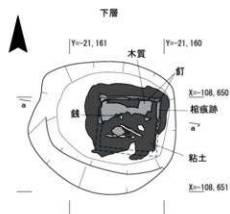
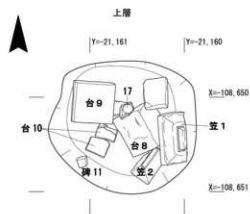
墓群4 b S T350



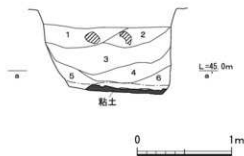
墓群4 a S T197



墓群4 S T24



1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂
(1 cm 程度の石含む)
2. 暗褐色 (10YR3/4) 細～中粒砂
(0.5～3 cm 程度の石含む)
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト混じる細粒砂
(0.5～1 cm の石多く含む)
4. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質中粒砂
(1～5 cm の石含む)
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 中粒砂
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂
(0.5～1 cm の石多く含む)



第77図 墓群4 S T350・197・24実測図

墓穴 S T 344 (第76図) 南側を S T 343によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.63m、南北0.19m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 343 (第76図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.87mを測り、平面は南側が歪んだ方形を呈する。埋土上面から一石五輪塔の地輪(18)が出土した。人骨の遺存状態は不良である。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 33 (第76図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.63m、南北0.58mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 34 (第76図) 掘形の規模は東西0.84m、南北0.85mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿、磁器小杯のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

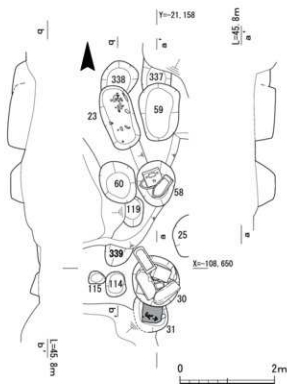
墓穴 S T 156 (第76図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.86mを測り、平面は南側が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 197 (第77図) 掘形南側を S T 24によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.52m以上を測り、平面は方形を呈する。掘形底部に方形の棺痕跡が残る。棺痕跡に沿うように鉄釘が方形に並んで出土した。木棺の規模は一辺0.5m程度とみられる。人骨の遺存状態は不良である。棺痕跡内中央付近から白磁碗・木製の数珠が出土したほか、古寛永通寶を含む銭貨や青銅製品が出土している。

墓穴 S T 24 (第77図) 墓群 4 の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.56m、南北1.40mを測り、平面は方形を呈する。掘形上層から台座や笠部などの墓石がまともに出土した。墓石は笠部や台座がそれぞれ複数基出土しており、廃棄されたものとみられる。掘形底部の中央よりやや東寄りに粘土が敷かれる。粘土は明褐色で、東西0.65～0.9m、南北0.8mの方形の範囲に、厚さ5～10cmにわたって堆積していた。粘土の上面には東西0.60m、南北0.55mに木棺の痕跡が残る。棺痕跡上から鉄釘が並んで出土した。人骨の遺存状態は不良で、棺痕跡の内側にわずかに遺存する。掘形埋土には黄褐色または暗褐色の細～中粒砂である。第1・2層は墓石の破片を含み、墓穴埋没後に掘られた墓石廃棄土坑の埋め土とみられる。第3～6層は木棺埋葬時の掘形埋土と、木棺が腐植し墓穴が落ち窪んだ後の埋め土と考えられる。粘土郭を持つ埋葬施設と考えられるが、上層の埋土には粘土塊は含まれず、底部のみに粘土を敷いていた可能性が高い。粘土郭直上木棺痕跡内から古寛永通寶を含む銭貨が出土したほか、土師器皿や陶器碗が出土している。

(5) 墓群 5

墓地の北側に位置し、墓群 4 の東側で検出した墓群である。墓群の北側は後世の擾乱によって削平される。墓群 4 と同様に、北側へ広がると考えられる。東西 2 列の墓群で、東側で 5 基、西側で 6 基、計 11 基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に木棺を使用するものは 1 基、不明が 10 基である。検出した墓群の東西幅は 1.70m、南北長は 5.75m を測る。



第78図 墓群5 平面・断面図

墓穴 S T 338 (第78図) 墓群5 bの北端で検出した。南側を S T 23によって削平される。掘形の規模は東西0.56m、南北0.58m以上を測り、平面は円形ないしは方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 23 (第79図) 墓群5 bで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.68m、南北1.28mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。人骨は掘形内全体で出土しているが、掘形北側に長管骨のまとまりがみられる。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 60 (第78図) 墓群5 bの中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.74m、南北0.86mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 119 (第78図) 西側を後世の攪乱に、北側を S T 60によって削平される。掘形の規模は東西0.36m以上、南北0.60m以上を測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 339 (第78図) 北側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.54m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 114 (第78図) 墓群5 bの南端で検出した。掘形の規模は東西0.40m、南北0.54mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

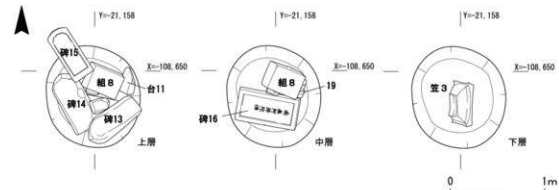
墓穴 S T 337 (第78図) 墓群5 aの北端で検出した。北側を後世の攪乱に、南側を S T 59によって削平される。掘形は東西0.62m、南北0.60m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 59 (第78図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北1.10mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は、土師器皿や鉢、陶器椀が出土している。

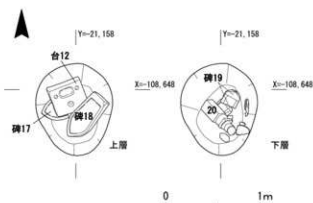
墓穴 S T 58 (第79図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.42m、南北0.47mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良で、掘形底部東側にわずかに遺存する。掘形内から台座や舟形墓標、一石五輪塔などの墓石5基が出土した。墓群内のその他の墓穴と掘形規模が大きく違わないことから、墓穴の落ち窪みを利用して廃棄されたと推定される。その他の遺物として、古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

土坑 S K 30 (第79図) 墓群5 aで検出した。掘形の規模は東西0.50m、南北0.56mを測り、平

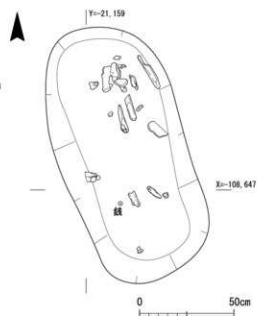
墓群 5 a S K30



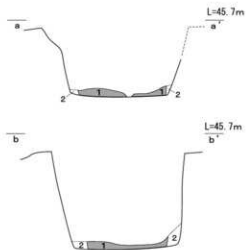
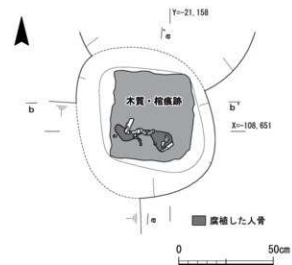
墓群 5 a S T58



墓群 5 b S T23



墓群 5 a S T31



1. 黒褐色 (10YR3/1) 土 (木質・棺痕跡)
2. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂
(0.5cm 大の石含む・棺周囲の埋土)

第79図 墓群 5 S K30・S T58・23・31実測図

面は円形を呈する。掘形内からは笠部、笠塔婆、舟形墓標などの墓石が重なり合って9基出土した。一石五輪塔の破片や組合式五輪塔の地輪部のみが出土していることから、廃棄されたものとみられる。人骨は出土しなかった。

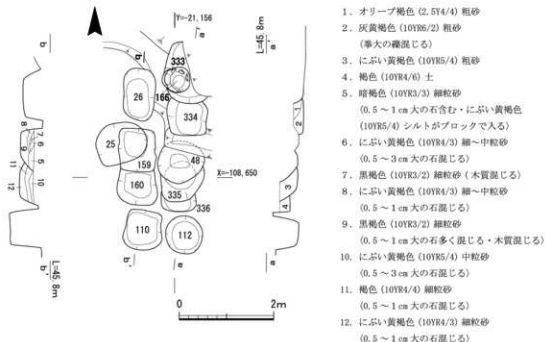
墓穴 S T 31 (第79図) 墓群5 aの南端で検出した。南側を後世の攪乱に、北側の一部を S K 30によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.72m程度、南北0.80m以上を測り、平面は方形を呈する。掘形底部中央に木質が遺存していた。木質は東西0.44m、南北0.47m、厚さ0.05mの方形を呈する。木棺の底板と考えられる。その直上の人骨がわずかに遺存していた。鉄釘は出土しておらず、木棺の構造は不明である。遺物は土師器皿が出土した。

(6) 墓群6

墓地の北側、墓群5の東側で検出した墓群である。墓群の北側は後世の攪乱によって削平され、北端を確認することはできなかったが、さらに北へ広がるものと考えられる。東西2列の墓群で、東側で7基、西側で5基、計12基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に甕棺を使用するものは1基、不明が10基である。検出した墓群の東西幅は1.79m、南北長は4.48mを測る。

墓穴 S T 26 (第81図) 墓群6 bの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.65m、南北1.09mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は白磁碗、銭貨が出土した。

土坑 S K 25 (第80図) S T 159の上層で検出した。S T 159の上面を一部削平して掘られる。掘形の規模は東西1.07m、南北0.85mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿や箱庭道具、泥面子などが出土した。寺院移転後の遺構と考えられる。



第80図 墓群6 平面・断面図

墓穴 S T 159 (第80図) SK25の下層で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 160 (第80図) 北側を S T 159によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 110 (第80図) 墓群 6 b の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 333 (第80図) 墓群 6 a の北端で検出した。東側の大半を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.81m以上、南北1.30m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 166 (第80図) S T 333の上層で検出した。埋葬方法は土葬とみられる。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.58m、南北0.53mを測る。平面は円形を呈し、S T 333を切り込んで掘られる。甕棺の上部は削平されており、底部のみを検出した。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 334 (第80図) 北側を S T 333によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 48 (第81・83図) 北側を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.98m、南北0.72m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。掘形上面からは一石五輪塔が3基(21~23)並んで出土している。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨のほか、土師器皿が出土した。

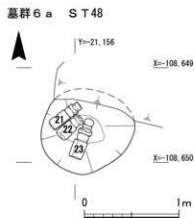
墓穴 S T 335 (第80図) 北側を S T 48によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 336 (第80図) 北側を S T 335によって削平される。掘形の規模は東西0.73m、南北0.21m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

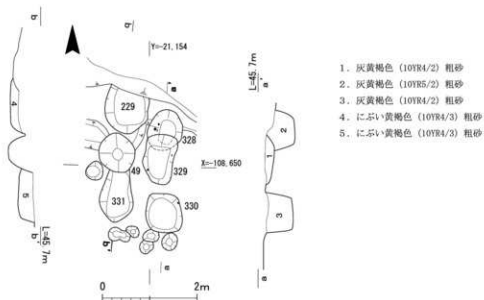
墓穴 S T 112 (第80図) 墓群 6 a の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.80mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

(7) 墓群 7

墓地の北側、墓群 6 の東側で検出した墓群である。墓群北側は後世の攪乱によって削平されるが、さらに北へ広がるものとみられる。東西2列の墓群で、東側で3基、西側で3基、計6基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に甕棺を使用するものは1基、不明が5基である。検出した墓群の東西幅は1.68m、南北長は3.14mを測る。



第81図 墓群 6 S T 48実測図



第82図 墓群7 平面・断面図

墓穴 S T 229 (第82図) 墓群7 bの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。北側を後世の擾乱によって削平される。掘形の規模は東西0.91m、南北0.89m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。

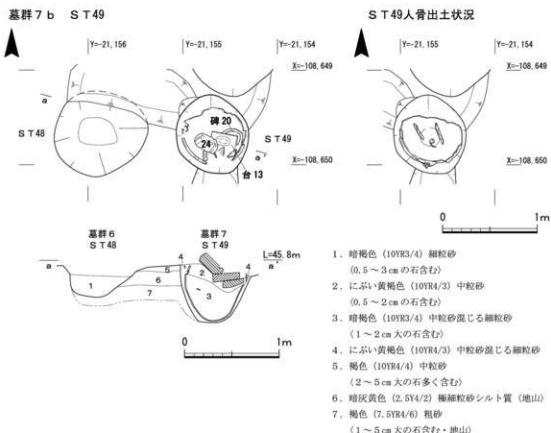
墓穴 S T 49 (第83図) 埋葬方法は土葬である。埋葬施設には甕棺が使用される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.81mを測り、平面は円形を呈する。掘形埋土はにぶい黄褐色の中粒砂混じる細粒砂である。甕棺内の堆積は2層に分かれ、上層ににぶい黄褐色細粒砂、下層に中粒砂混じる暗褐色細粒砂が堆積する。上層からは一石五輪塔、台座、舟形墓標が各1基ずつ出土した。これらの墓石がS T 49に伴うかは不明であるが、舟形墓標が一番下に位置しており、自然に落ち込んだとは考え難い。甕棺底部には腐敗した人骨が遺存していた。

墓穴 S T 331 (第82図) 墓群7 bの南端で検出した。北側をS T 49によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.66m、南北1.05m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 328 (第82図) 墓群7 aの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。南側をS T 329によって削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.52m以上を測り、平面は不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。鉄釘が3本出土しており、埋葬施設に木棺が使用された可能性がある。そのほかには、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 329 (第82図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.62m、東西1.05mを測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 330 (第82図) 墓群7 aの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。



第83図 墓群6・7 S T 48・49実測図

(8)墓群8

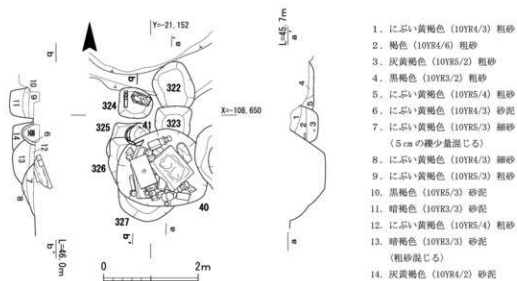
墓地の北側、墓群7の東側で検出した墓群である。墓群北側を後世の擾乱によって削平され北端を確認することはできなかったが、さらに北へ広がるとみられる。墓群南側をS K 40によって大きく削平される。東西2列の墓群で、東側で4基、西側で2基、計6基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に甕棺を使用するものが1基、不明が5基である。検出した墓群の東西幅は1.63m、南北長は3.37mを測る。

墓穴 S T 324 (第84・85図) 墓群8 bの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.64mを測り、平面は東辺がやや影らむ方形を呈する。掘形埋土上層から一石五輪塔と舟形墓標が出土した。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

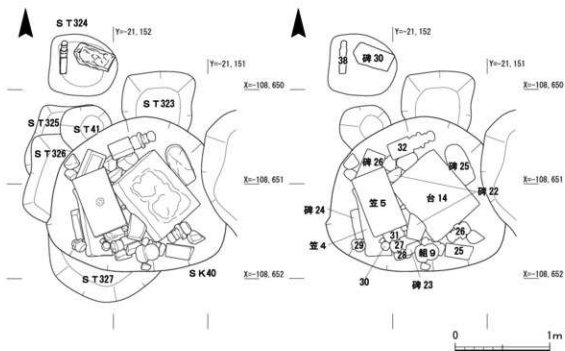
墓穴 S T 326 (第84・85図) 墓群8 bで検出した。掘形南側の大部分をS K 40によって削平される。掘形の規模は東西0.4m以上、南北1.0m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 41 (第84・85図) 南側をS K 40によって削平される。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.43m、南北0.30mを測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 327 (第84・85図) 墓群8 bの南端で検出した。S K 40によって北側を削平される。掘形の規模は東西1.20m、南北0.60m以上を測る。人骨は出土しなかった。



第84図 墓群8 平面・断面図



第85図 墓群8 SK40・ST324実測図

墓穴 S T 322 (第84図) 墓群 8 a の北端で検出した。南側を S T 323 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北1.04m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

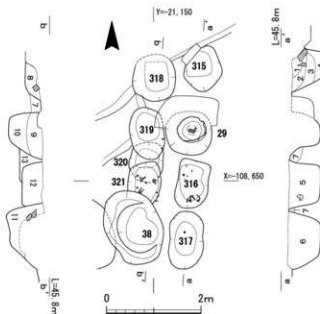
墓穴 S T 323 (第84・85図) 南側を S K 40 によって削平される。掘形の規模は東西0.76m、南北0.63m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨のほか、白磁椀が出土した。

土坑 S K 40 (第84・85図) 墓群南側で検出した墓石の廃棄土坑である。墓群中央付近に墓穴を削平して掘られている。東側は墓群 9 の S K 38 によって削平される。掘形の規模は東西1.9m以上、南北1.65mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形内から17基の墓石が出土した。一石五輪塔や笠塔婆、台座など多様な墓石が重なり合って出土した。台14や笠5のように今回墓地内で出土した墓石の中でも特に大型の墓石が出土している。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿、陶器椀、大形土製品のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

(9) 墓群 9

墓地の北側、墓群 8 の東側で検出した墓群である。墓群北側を後世の攪乱によって削平されるが、さらに北側に広がるとみられる。東西2列の墓群で、東側で4基、西側で4基、計8基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に木棺を使用するものは2基、甕棺が1基、不明が5基である。検出した墓群の東西幅は1.74m、南北長は4.74mを測る。

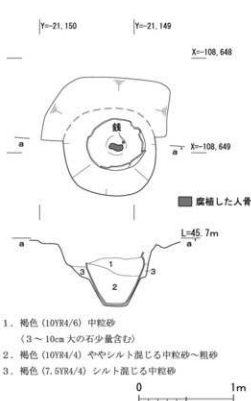
墓穴 S T 318 (第86図) 墓群 9 b の北端で検出した。北側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.90m、南北0.80m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。



1. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂
2. 褐色 (10YR4/4) 粗砂
(5~10cm 大の礫混入)
3. 褐灰色 (10YR4/1) 粗砂
(頭大の礫多く含む)
4. 褐灰色 (10YR4/1) 細砂
5. 褐色 (10YR4/4) 粗砂
(5~10cm 大の礫混入)
6. 褐色 (10YR4/4) 粗砂
(5~10cm 大の礫混入)
7. にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粗砂
8. 黒褐色 (10YR3/2) 土
9. にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂
10. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂
11. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂
(5~15cm 大の礫混入)
12. にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂
13. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粗砂

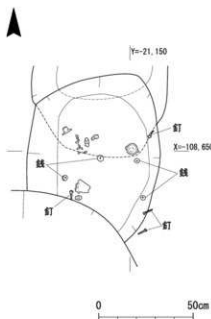
第86図 墓群 9 平面・断面図

墓群9 a ST29



1. 褐色 (10YR4/6) 中粒砂
(3~10cm 大の石少量含む)
2. 褐色 (10YR4/4) ややシルト混じる中粒砂~粗砂
3. 褐色 (7.5YR4/4) シルト混じる中粒砂

墓群9 b ST321



第87図 墓群9 ST29・321実測図

墓穴ST319(第86図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北1.10mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ST320(第86図) 北側をST319、南側をST321によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71mを測る。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ST321(第87図) 南側をSK38によって削平される。埋葬方法は土葬である。鉄釘が4本出土しており、埋葬施設には木棺が使用された可能性がある。掘形の規模は東西0.70m、南北0.89m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、ミニチュア土器、新寛永通寶を含む銭貨などが出土した。遺物は掘形底部付近に散乱し、まとまりがみられない。

土坑SK38(第86図) 墓群9bの南端で検出した土坑である。掘形の規模は東西1.17m程度、南北1.63m程度を測り、平面は歪んだ楕円形を呈する。埋土にはぶい黄褐色の粗砂である。舟形墓標や台座が出土しており、廃棄されたとみられる。人骨は出土しなかった。そのほかの遺物は土師器皿、仏飯器などが出土している。

墓穴ST315(第86図) 墓群9aの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.90m以上を測り、平面は不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器鉢、磁器椀のほか、銭貨が出土している。

墓穴ST29(第87図) 墓群9aで検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は堊棺である。

掘形の規模は東西0.98m、南北0.93m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。甕棺上層部は後世の攪乱によって削平を受ける。掘形埋土はシルト混じる褐色の中粒砂である。棺内には上層に褐色中粒砂、下層にシルト混じる褐色中粒砂～粗砂が堆積する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は甕棺底部から新寛永通寶を含む銭貨が出土したほか、土師器皿や小壺が出土している。

墓穴 S T 316 (第86図) 墓群 9 a で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.64m、南北1.02mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良であるが、掘形南側に頭蓋骨が遺存していた。埋葬姿勢は不明である。掘形北西側から鉄釘が出土しており、埋葬施設には木棺が使用されたと考えられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 317 (第86図) 墓群 9 a の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.69m、南北1.22mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形中央よりやや北側で古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(10) 墓群10

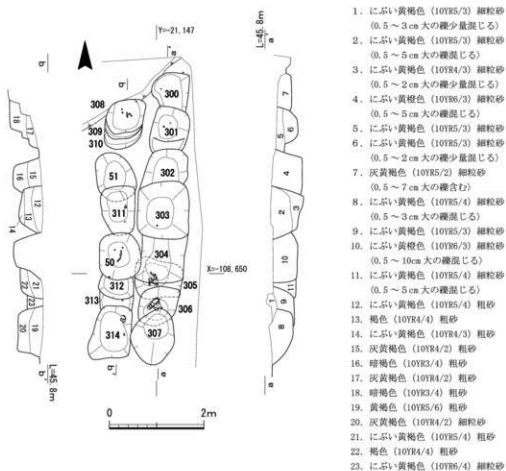
墓地の北側、墓群 9 の東側で検出した墓群である。今回墓地北側で検出した墓群の中で、最も東に位置する。墓群の北側は調査地外へ広がるとみられる。東西2列の墓群で、東側で8基、西側で9基、計17基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものは1基、不明が16基である。墓群の検出長は東西1.85m、南北6.18mである。

S T 308・309・310 (第88図) 墓群10b北端で検出した。明確な輪郭は確認できなかったが、掘形南側は2段のテラス状になり、3基の墓穴が重なり合うと判断した。断面から S T 308 が最も古く、S T 310 が最も新しいとみられる。S T 308 の掘形の規模は東西0.79m、南北0.68mを測る。S T 310 は東西0.8m、南北0.8m以上を測る。それぞれの埋土は灰黄褐色や黄褐色の粗砂で、S T 308 と 309 に明確な埋土の違いはみられなかった。S T 308 の埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は不良で、遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 51 (第88図) 墓群10bで検出した。南側を S T 311 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.88m以上を測り、平面は歪んだ楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 311 (第88図) S T 51 の南側で検出した。南端を S T 50 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北1.03m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が1枚出土している。

墓穴 S T 50 (第89図) S T 311 の南側で検出した。掘形の規模は東西0.87m、南北0.98mを測り、平面は方形を呈する。掘形中央から一辺0.1m大の自然石のほか、墓石8基がまとまって出土した。墓石には一石五輪塔のほかに、破片や笠部、組合式五輪塔の空風輪も含まれており、廃棄されたものと考えられる。掘形南側からは陶器壺が出土した。壺は正位置を保っており、蓋がされた状態であった。壺の中には火葬骨が納められている。埋土は暗褐色の中粒砂含む細粒砂で、壺と墓石の周囲で埋土の違いは確認できなかった。これらを除き掘形底部からは人骨と新寛永通寶を含む銭貨、鉄釘が出土している。既存の墓穴を削平、もしくは落ち窪んだところを利用して墓



第88図 墓群10 平面・断面図

石を廃棄したと考えられる。壺の埋納時期は不明であるが、正位置を保っていることから墓石と同時期の可能性が高い。そのほかには土師器皿、陶器碗も出土している。

墓穴 S T 312 (第88図) 北半を S T 501 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.73m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良で、遺物は銭貨が出土した。

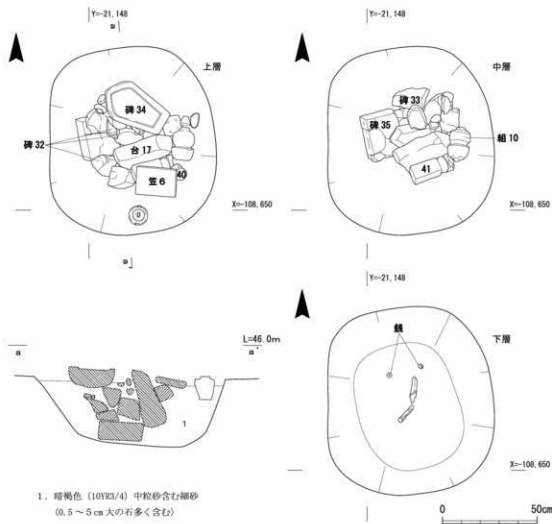
墓穴 S T 313 (第88図) 北側を S T 312、南側を S T 314 によって削平される。掘形の規模は東西0.70m、南北0.40m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は、大観通寶が1枚出土している。

墓穴 S T 314 (第88図) 墓群10bの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北1.01mを測り、平面は南西の膨らんだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良で、掘形北東から頭蓋骨が出土している。

墓穴 S T 300 (第88図) 墓群10aの北端で検出した。南側を S T 301 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.79m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 301 (第88図) S T 300の南側で検出した。南側を S T 302 によって削平される。埋葬

墓群10b S T50



1. 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂含む細砂
(0.5~5cm 大の石多く含む)

第89図 墓群10 S T50実測図

方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北1.01m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T302 (第88図) S T301の南側で検出した。南側を S T303によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.87m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T303 (第88図) 墓群10aの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.08m、南北1.21mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、陶器椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T304 (第88図) S T303の南側で検出した。北端を S T303によって削平される。掘形の規模は東西0.82m、南北0.83m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T305 (第88図) 北側を S T304、南側を S T306によって大きく削平される。掘形底部中央付近のみを検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.99mを測る。人骨の遺存

状態は不良で、掘形中央付近から頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は不明である。遺物は白磁碗、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 306 (第88図) 南側を S T 307によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.82m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。墓穴上面から一石五輪塔が1基出土しているが、S T 306に伴うものかは不明である。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は銭貨が出土した。

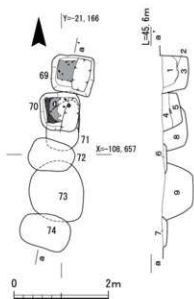
墓穴 S T 307 (第88図) 墓群10 aの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北1.20mを測り、平面は不定形である。人骨の遺存状態は不良である。

(11) 墓群11

南側の墓群の西端で検出した墓群である。他の墓群と異なり、墓穴は1列に並ぶ。墓群11の中心軸は墓群2の中央付近に位置し、当初から1列の区画として計画された可能性が高い。4基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが2基、不明が2基である。そのほか土坑2基を検出した。墓群の東西幅は、0.84～1.55m、南北長は4.16mを測る。

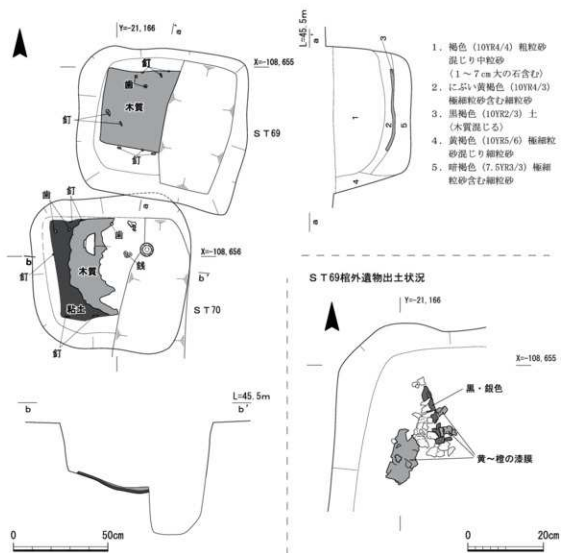
墓穴 S T 69 (第91図) 墓群11の北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.89m、南北0.81mを測り、平面は方形を呈する。掘形の埋土は細～粗粒砂で、掘形底部に墓穴掘削時の置土とみられる暗褐色の極細砂含む細粒砂が堆積する。この置土の上面には一辺0.4mの方形に木質が遺存しており、木棺の底板とみられる。また、その直上や周囲から鉄釘が出土した。そのほかには陶器碗が出土している。置土直下からは、漆製品が出土した。漆の被膜のみが遺存しており、製品の形状は不明である。出土位置から納棺前に納められたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 70 (第91図) S T 69の南側で検出した。南東隅を一部 S K 71によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.79mを測り、



1. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂～粗砂
(土器片多く含む)
2. 木質
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂
(2～13cm 大の石多く含む)
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂～粗砂
(0.5～3cm 大の石多く含む)
5. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂含む中粒砂
(0.5cm 大の石含む)
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂
(1～5cm 大の石含む)
7. 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂～粗砂
(1～5cm 大の石少量含む)
8. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂～中粒砂
(1～3cm 大の石多く含む)
9. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂～粗砂
(0.5～3cm 大の石含む)

第90図 墓群11 平面・断面図



第91図 墓群11 S T 69・70実測図

平面は方形を呈する。掘形埋土は上層ににぶい黄褐色の細～粗砂、その下に褐色の細粒砂含む中粒砂が堆積する。掘形底部には方形に黄褐色粘土が敷かれる。粘土上にはわずかに木質が遺存していた。また、粘土の外周に沿うように鉄釘が出土しており、掘形底部にのみ粘土を貼りつけていたとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付碗・蓋、陶器壺のほか、銭貨などが出土した。

土坑 S K 71 (第90図) S T 70の南側で検出した。北側大半を S T 70によって削平される。掘形の規模は東西0.68mを測る。人骨は出土していない。

墓穴 S T 72 (第90図) 墓群11の中央で検出した。掘形の規模は東西0.96m、南北0.63m、深さ0.1mを測り、平面は東西に長い長方形を呈する。人骨は出土していないが、S T 74と同規模の掘形であり、墓穴である可能性が高い。

土坑 S K 73 (第90図) 墓群の南側で検出した。北側を S T 72、南側を S T 74によって削平される。掘形の規模は東西1.15m、南北1.28m以上を測り、平面は円形を呈する。遺物はわずかに

鉄釘が出土している。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 74 (第90図) 墓群11の南端で検出した。掘形の規模は東西1.07m、南北0.72m程度、深さ0.1mを測り、平面は東西に長い長方形を呈する。人骨は出土していないが鉄釘が出土しており、埋葬施設に木棺を使用した墓穴と考えられる。そのほか、元豊通寶が1枚出土している。

(12) 墓群12

墓地の南側、墓群17の東で検出した墓群である。墓群南側の一部を後世の擾乱により削平される。東側で14基、西側で13基、計27基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが6基、甕棺が2基、不明が19基である。検出した墓群の東西幅は1.5～1.8m、南北長は約10.5mを測る。

墓穴 S T 56 (第93図) 墓群12bで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.92mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。掘形東側面と底部にわずかに木質が遺存しており、埋葬施設には木棺や早桶が使用されたとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物として銭貨、染付小椀・陶器椀、天目椀などが出土した。

墓穴 S T 57 (第93図) S T 56の南側で検出した。S T 56によって北側を削平される。埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は不良である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.97mを測り、平面は方形を呈する。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 196 (第95図) 墓群12bで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.65mを測り、平面は長方形を呈する。掘形埋土上層から一石五輪塔など4基の墓石が出土した。完形品を含むが、複数点出土していることから廃棄された可能性が高い。埋土中からは古寛永通寶を含む銭貨が出土したほか、人骨がわずかながら遺存しており、既存の墓穴を削平して墓石廃棄の土坑が掘削された可能性がある。しかし、断面観察では明確な遺構の切り合い関係は確認できなかった。遺物は染付椀・蓋が出土した。

墓穴 S T 400 (第92図) S T 196の南側で検出した。S T 196によって北側を削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 401 (第92図) S T 400の南側で検出した。S T 400によって北側を削平される。掘形の規模は東西0.68m、南北0.56m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

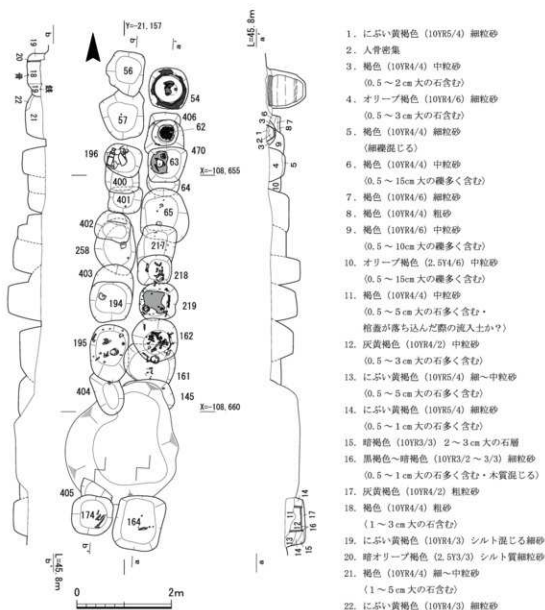
墓穴 S T 402 (第92図) 墓群12bの中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.75m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 258 (第92図) 墓群12bの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北1.00m以上を測り、平面はやや楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 403 (第92図) 墓群12bの中央付近で検出した。南半をS T 194によって削平される。掘形の規模は東西0.82m、南北0.37m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

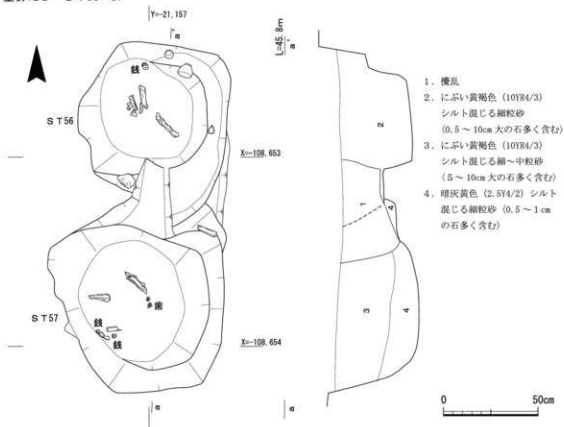
墓穴ST194(第92図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.99m、南北0.83mを測り、平面は方形を呈する。遺物は、新寛永通寶が出土した。人骨の遺存状態はやや不良で、掘形の西側から頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は不明である。

墓穴ST195(第94図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北1.20mを測り、平面は南北に長い長方形を呈する。掘形北側3分の2程度から人骨や遺物がまともに見つかっており、当初の掘形は正方形に近かった可能性が考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、中央付近から頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は不明である。遺物は土師器小壺・人形・ミニチュア土器のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。これらの遺物は、掘形中央や側壁に近い位置から出土し、まとまりがみられない。

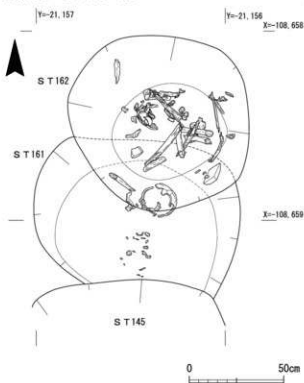


第92図 墓群12 平面・断面図

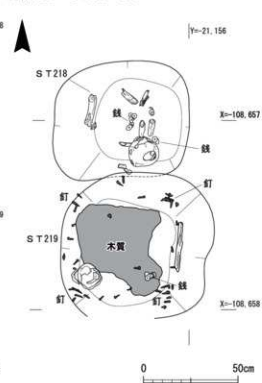
墓群12b S T56・57



墓群12a S T161・162



墓群12a S T218・219



第93図 墓群12 S T56・57・161・162・218・219実測図

墓穴 S T 404 (第92図) 近代の攪乱により、南側を大きく削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.58m、南北0.96m以上を測り、平面は長方形ないしは楕円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 405 (第92図) 近代の攪乱により、北側を大きく削平される。掘形の規模は、東西0.68mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 174 (第92図) 葛群12bの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で、出土した人骨は掘形の南西に集中する。遺物は新寛永通寶が出土している。

墓穴 S T 54 (第94図) 葛群12aの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.86mを測り、平面は楕円形を呈する。掘形埋土は、灰黄褐色と黄褐色の粗砂である。甕口縁端部上面とその周囲には明褐色粘土が貼られる。S T 55と同様に棺蓋を固定したものとみられる。人骨の遺存状態は不良で甕棺底部にわずかに遺存する。遺物は甕棺内埋土上層から土師器皿が出土した。

墓穴 S T 406 (第92図) S T 62・470iによって南側の大半を削平される。掘形の規模は東西0.64m、南北0.12m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物は底部付近から銭貨が出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 470 (第92図) 北側をS T 62、南側をS T 63iによって削平される。掘形の規模は東西0.80m、南北0.55m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 62 (第95図) S T 470の上層で検出した。埋葬方法は火葬である。埋葬施設は甕棺である。後世の攪乱により上層は削平されており、甕棺の底部のみが遺存する。掘形の規模は東西0.55m、南北0.54mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形埋土は褐色中粒砂である。人骨の遺存状態は良好で、ほぼ全身の人骨が甕棺の底部に堆積していた。

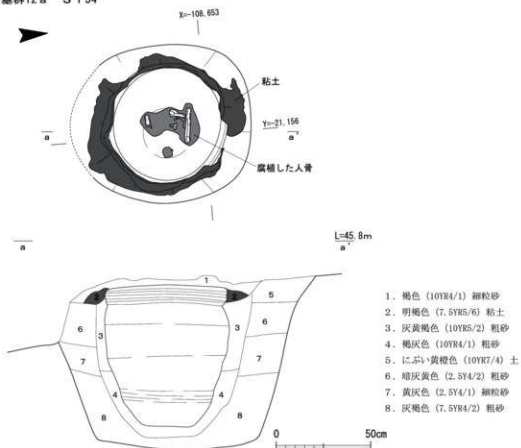
墓穴 S T 63 (第94図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。掘形底部に木質が遺存しており、木棺が使用されたとみられる。木質は東西0.35m、南北0.47mの楕円形に近い範囲に広がる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 64 (第92図) 北側をS T 63、南側をS T 65により削平される。掘形の規模は東西0.78m、南北0.36m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿が出土している。

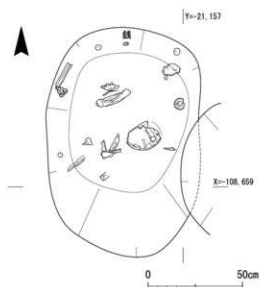
墓穴 S T 65 (第92図) 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西1.01m、南北1.09m以上を測り、平面は方形に近い不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨のほか、染付桶や一石五輪塔の水輪部が出土した。

墓穴 S T 217 (第92図) S T 218によって南側を削平される。埋葬施設は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.64m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態

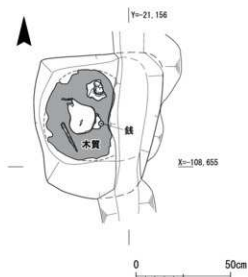
墓群12a ST54



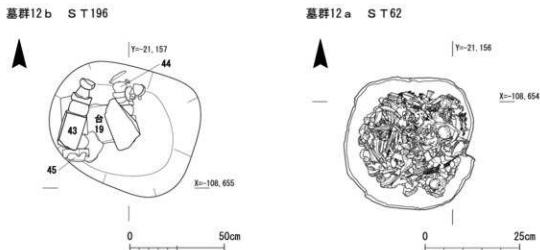
墓群12b ST195



墓群12a ST63



第94図 墓群12 ST54・195・63実測図



第95図 墓群12 S T 196・62実測図

は不良である。

墓穴 S T 218 (第93図) 墓群12 aの中央付近で検出した。S T 217を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.62m程度を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬とみられる。頭蓋骨は掘形南に位置する。人骨と掘形壁面との間に隙間が空くため、棺に納められていた可能性が考えられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨は掘形中央付近からまともって出土しており、棺内に納められていたと考えられる。

墓穴 S T 219 (第93図) S T 218の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.77mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘が掘形に沿うように方形に並んで出土しており、その内側の掘形底部には棺底とみられる木質が遺存していた。鉄釘の出土状況から木棺の規模は一辺0.5m程度の正方形とみられる。人骨の遺存状態はやや良好で、頭蓋骨は棺内の南西隅付近に位置していた。埋葬姿勢は不明である。遺物は土師器小壺、古寛永通寶が出土した。銭貨は棺内南東隅からまともって出土した。

墓穴 S T 162 (第93図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.94m、南北0.92mを測り、平面は方形または円形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬とみられる。頭蓋骨は南側に位置する。遺物は染付小杯のほか、古寛永通寶が出土した。

墓穴 S T 161 (第93図) 北側をS T 162によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.12m、南北0.78m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

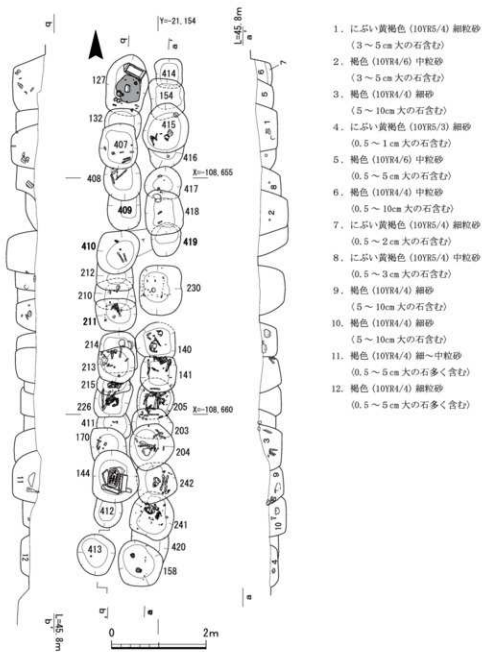
墓穴 S T 145 (第92図) 埋葬方法は土葬である。攪乱により大きく削平され、掘形は北東のみの検出に留まった。掘形底部に木質が遺存しており、木棺が使用されたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 164 (第92図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.98m、南北1.14mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

(13) 墓群13

墓地の南側に位置し、墓群12の東側で検出した墓群である。東西2列の墓群で、東側で17基、西側で18基、計35基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが8基、不明が27基である。墓群の東西幅は1.6～1.8m、南北長は約11.2mを測る。

墓穴ST127(第97図) 墓群13bの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.86m、南北1.28m以上を測り、平面は北側がやや尖る長方形を呈する。検出面で板碑が倒れた状態で出土したが、墓穴との関係は不明である。板碑に刻まれた紀年は「文祿2年」である。掘形底部中央やや南寄りの東西0.5m、南北0.7mの範囲に木質が遺存していた。



第96図 墓群13 平面・断面図

また、その周囲から鉄釘が方形に並んで出土している。鉄釘の出土状況から木棺は一辺0.5mの正方形を呈するとみられる。棺内の南西隅にあたる位置からは土師器皿・染付椀・銭貨がまともって出土している。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 132 (第96図) 南側を S T 407 によって削平される。掘形の規模は東西0.76m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 407 (第96図) 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.95mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 408 (第96図) 埋葬方法は土葬である。北側を S T 407 によって削平される。掘形の規模は東西0.79m、南北0.80m以上を測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 409 (第96図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北0.73m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 410 (第96図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.91mを測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 212 (第96図) 埋葬方法は土葬である。北側を S T 410 によって削平される。掘形の規模は東西0.77m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土製品の人形が出土している。

墓穴 S T 210 (第96図) 埋葬方法は土葬である。北側を S T 212、南側を S T 211 によって削平される。掘形の規模は東西0.86m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付小杯、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

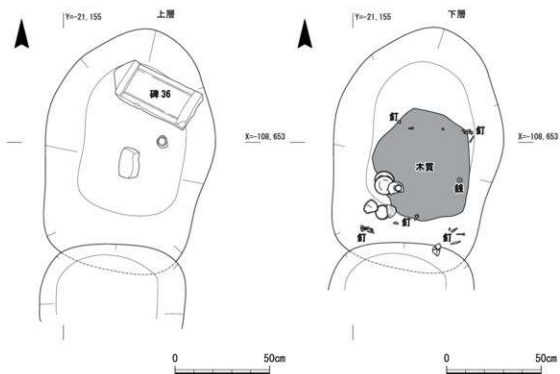
墓穴 S T 211 (第96図) 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.68mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや良好である。S T 210との境界付近から土師器皿、陶器椀が出土している。

墓穴 S T 214 (第98図) 埋葬方法は土葬である。南西側を S T 213 によって削平される。掘形の規模は東西0.80m、南北0.86m程度を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺存していた頭蓋骨は掘形北東に位置する。埋葬姿勢は不明である。

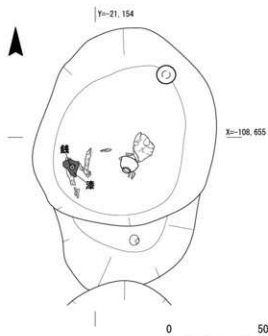
墓穴 S T 213 (第98図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.77m、南北0.75mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好である。頭蓋骨は掘形北西に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は陶器椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭は、掘形の北側と南側で分かれて出土しており、S T 214の遺物が混入している可能性がある。

墓穴 S T 215 (第98図) S T 213の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。北側を S T 213に大きく削平される。掘形の規模は東西0.69m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の上層から複数の土師器小壺、土鈴、ミニチュア土器などが縦方向に重なって出土

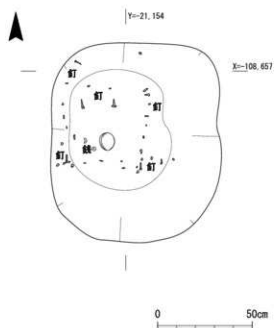
墓群13b S T127



墓群13a S T415・416



墓群13a S T230



第97図 墓群13 S T127・415・416・230実測図

した。そのうち、ミニチュア火鉢の中には土鈴・土師器小壺が詰められた状態で出土している。また、ミニチュアの磁器碗の中から、オランダ製のガラス片が出土している。土器群の北側からはわずかに金糸が出土した。出土状況から、これらの遺物は箱や袋などの容器に納められていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態は不良で、埋葬姿勢は不明である。

墓穴 S T 226 (第98図) S T 215の南側で検出した。北側を S T 215によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.73m、南北0.79m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。人骨の上層で木製品が出土した。板状の製品で、大きく4片に分かれる。最大のものは長辺20.4cm、短辺11.5cmを測り、南東側の長辺中央付近に銅製の縹番がつく。遺存状態は悪く、正確な形状は不明であるが、箱形の製品と考えられる。そのほかの遺物としては、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 411 (第96図) 埋葬方法は土葬である。北側を S T 226に、南側を S T 170によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.55m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 170 (第98図) 埋葬方法は土葬である。南側を S T 144によって削平される。掘形の規模は東西0.74m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 144 (第98図) S T 170の南側で検出した。掘形の規模は東西0.96m、南北1.01mを測り、平面は歪んだ楕円形を呈する。埋土から舟形墓標や台座、笠塔婆が7基出土した。完形品が多いが複数の重なり合って出土しており、廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかったが、掘形底部付近からは古寛永通寶を含む銭貨が出土しており、既存の墓穴を削平、もしくは再利用する形で墓石が廃棄された可能性が高い。

墓穴 S T 412 (第96図) 北側を S T 144によって削平される。掘形の規模は東西0.58m、南北は0.54m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

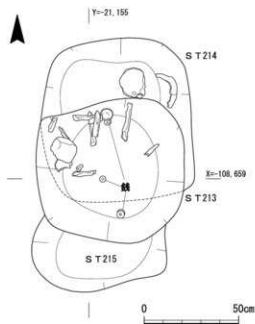
墓穴 S T 413 (第96図) 墓群13bの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.87mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 414 (第96図) 墓群13aの北端で検出した。南側を S T 154によって削平される。掘形の規模は東西0.54m、南北0.62m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

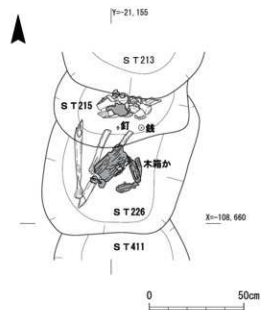
墓穴 S T 154 (第96図) 南側を S T 415によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.81m程度を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 415 (第97図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.94m、南北1.03mを測り、平面は円形ないしは方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、染付碗のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土している。銭貨は掘形南西から5枚まとまって出土しており、

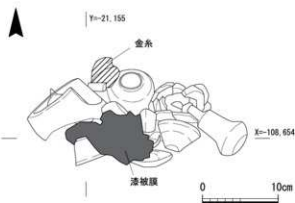
墓群13b S T 213・214



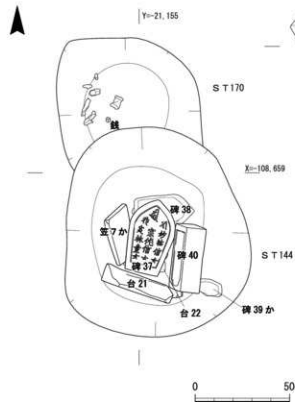
墓群13b S T 215・226



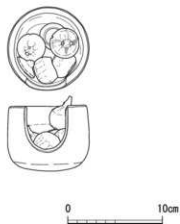
S T 215遺物出土状況



墓群13b S T 170・144



S T 215ミニチュア土器内遺物収納状況



第98図 墓群13 S T 213・214・215・226・170・144実測図

その直下にはわずかに漆器の被膜が遺存していた。

墓穴 S T 416 (第97図) 北側を S T 415、南側の一部を S T 417によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.36m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付椀が出土した。

墓穴 S T 417 (第96図) 南側を S T 418によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.69m程度を測り、平面は歪んだ円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、漆片のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 418 (第96図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.92mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。出土した頭蓋骨は掘形の北西に位置する。埋葬姿勢は不明である。

墓穴 S T 419 (第96図) 北側を S T 418によって削平される。掘形の規模は東西0.61m、南北0.7m程度を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 230 (第97図) 墓群13 a の中央付近で検出した。埋葬方法は土葬とみられる。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.87m、南北1.06mを測り、平面は方形を呈する。掘形のやや西寄り鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は一辺0.4m程度の方形とみられる。遺物は白磁椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。これらの遺物は、方形に並ぶ鉄釘の内側から出土しており、棺内に納められたと考えられる。

墓穴 S T 140 (第99図) 南側の一部を S T 141によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.74m程度を測り、平面は歪んだ方形を呈する。鉄釘は出土していないが、人骨と掘形壁面の間に隙間があり、木棺に納められていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は掘形中央よりやや南西に位置する。埋葬姿勢は不明である。

墓穴 S T 141 (第99図) S T 140の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.74mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、頭蓋骨は掘形北側に位置する。長管骨が立った状態で出土しており、埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 205 (第99図) 北側を S T 141、南側を S T 203によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.86m以上を測る。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬とみられる。人骨の周囲に鉄釘が並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は一辺0.5m程度の方形とみられる。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨のすぐ脇から出土しており、棺内に納められた副葬品と考えられる。

墓穴 S T 203 (第96図) 南側を S T 204によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 204 (第96図) S T 203の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.94m、南北0.93mを測り、平面は北西が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、

出土した頭蓋骨は掘形中央に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 242 (第99図) 北側を S T 204に、西側を S T 144によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は一辺0.82m程度を測り、平面は方形を呈する。掘形の北東と南東から鉄釘が出土している。その距離から一辺0.5m程度の木棺が使用されたと考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は掘形中央付近に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 241 (第99図) 北側を S T 242によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.92m程度を測り、平面は北側が膨らむ方形を呈するとみられる。人骨の周囲で鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は長辺0.47m、短辺0.42m程度の方形と推定される。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は棺内の中央よりやや北西に位置する。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨の多くは人骨の脇から出土しており、棺内に納められた六道銭と考えられる。1枚のみ棺外にあたる掘形南西隅から出土しているが、これは S T 420の混入品である可能性が考えられる。そのほか、掘形中央から、漆片が出土している。

墓穴 S T 420 (第96図) 北側を S T 241、南側を S T 158によって削平される。掘形の規模は東西0.78mを測る。人骨は出土しなかった。

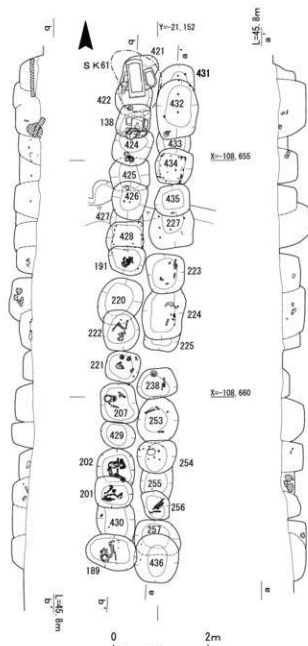
墓穴 S T 158 (第99図) 墓群13 aの南端で検出した。埋葬方法は土葬とみられる。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.96mを測り、平面は方形を呈する。副葬品として漆器椀が2点出土している。漆器椀内からは北側のものから5枚、南側のものから6枚の銭貨が出土した。北側の漆器椀付近で1枚銭貨出土しており、当初は銭貨6枚ずつが漆器椀内に納められていたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

(14) 墓群14

墓地の南側、墓群13の東側で検出した墓群である。東西2列の墓群で、東側で17基、西側で18基、計35基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが6基、不明が29基である。墓群の東西幅は約1.6m、南北長は約11.0mを測る。

土坑 S K 61 (第101図) 墓群14 bの北端で検出した土坑である。掘形の規模は長辺1.30m、短辺0.84mを測り、平面は不定形を呈する。S T 421・422を切り込んで掘られており、掘形内からは台座4基と、一石五輪塔・舟形墓標などが4基、計8基の墓石が出土した。墓標と台座が同数出土しているが、セット関係にあるかは不明である。墓石は二段に重なり、下段に櫛形墓標や一石五輪塔があり、その上に台座が乗る状態で出土している。寺院移転後の墓石の廃棄に伴う土坑と考えられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 421 (第100図) 墓群14 bの北端で検出した墓穴である。上面を S K 61によって削平される。掘形の規模は東西0.68m、南北0.75m程度を測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨は出土しなかった。



第100図 墓群14 平面・断面図

形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 426 (第100図) 埋葬方法は土葬である。掘形は東西0.73m、南北0.79m以上の西側が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿・鉢、白磁碗のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 427 (第100図) 北側を S T 426、南側を S T 428によって削平される。掘形の規模は東西0.69m、南北0.37m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 428 (第101図) 南側を S T 191によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.77m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈する。鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は長辺0.61m、短辺0.54m程度の方角と想

墓穴 S T 422 (第100図) 上層を S K 61、北側を S T 421によって削平される。掘形の規模は東西0.77m、南北0.70m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は陶器の蓋が出土した。

墓穴 S T 138 (第100図) 北側を S T 422によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は一辺0.70m程度を測り、平面は方形を呈する。掘形の南側から人頭大の自然石のほか、台座や一石五輪塔の地輪部が出土している。墓穴埋設後に廃棄されたと考えられるが、それに伴う明確な掘形は確認できなかった。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨のほか、土師器皿、染付碗などが出土している。

墓穴 S T 424 (第101図) 北側を S T 138によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.82m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形内南側から染付碗・小杯、人形が出土した。

墓穴 S T 425 (第100図) 北側を S T 424、南側を S T 426によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.72m以上を測り、平面は方

定される。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 191 (第101図) 墓群14bの中央付近で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬とみられる。掘形の規模は東西0.73m、南北0.61mを測り、平面は方形を呈する。掘形内中央から染付碗・皿、ミニチュア土器、人形、新寛永通寶を含む銭貨などがまとまって出土した。これらの遺物の下にはわずかに木片が遺存しており、箱状の木製品に納められていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 220 (第100図) 南側を S T 222によって削平される。掘形の規模は東西0.90m、南北1.04m程度を測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 222 (第102図) S T 220の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。鉄釘が3本出土しており、埋葬施設には木棺が使用された可能性がある。掘形の規模は東西0.76m、南北0.88mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、掘形中央南寄りで頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は座葬と考えられる。

墓穴 S T 221 (第102図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北0.65mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は3点の漆器が出土した。北側から出土した2点は碗の形状を残していたが、東側で出土したものは被膜のみで形状は不明である。掘形北側で出土した2点のうち、西側の漆器碗の内部から白磁碗が出土している。また、東側の漆器碗の近くでも銭貨が出土しており、西側と同様に、当初は漆器碗の中に銭貨を納めていたと考えられる。

墓穴 S T 207 (第102図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.85mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は掘形北西に位置する。埋葬方法は座葬とみられる。遺物は銭貨が出土している。

墓穴 S T 429 (第100図) 掘形の規模は東西0.73m、南北0.55mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。

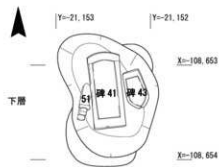
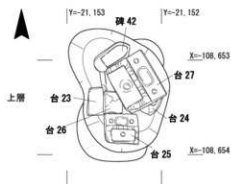
墓穴 S T 202 (第102図) 南側を S T 201によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.78m以上を測り、平面は方形ないしは円形を呈するとみられる。人骨と掘形壁面の間には約0.15m隙間が空いており、木棺が使用された可能性がある。人骨の遺存状態は良好で、掘形中央付近からまとまって出土した。頭蓋骨は北西に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。

墓穴 S T 201 (第102図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.66mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘がわずかに出土しており、埋葬施設には木棺が使用されていた可能性がある。人骨の遺存状態はやや不良である。南西の人骨の下側から漆の被膜が出土している。

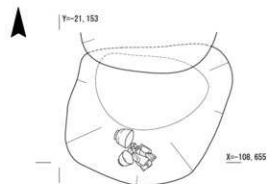
墓穴 S T 430 (第100図) 北側を S T 201、南側を S T 189によって削平される。掘形の規模は東西0.81m、南北0.80m以上を測る。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 189 (第102図) 墓群14bの南端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.09m、南北0.75mを測り、平面は楕円形を呈する。掘形中央から人骨の東側で、

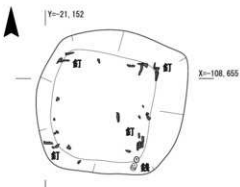
墓群14b S K61



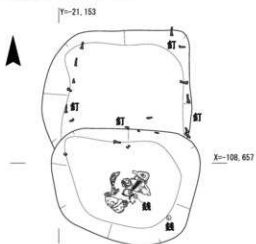
墓群14b S T424



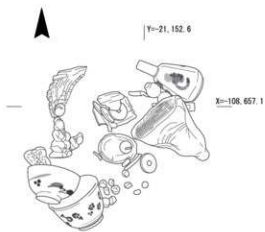
墓群14a S T434



墓群14b S T428・191



S T191遺物出土状況



第101図 墓群14 S K61・S T424・434・428・191実測図

鉄釘が人骨を囲うように「コ」の字状に並んで出土した。鉄釘の出土状況から埋葬施設は木棺と考えられ、その規模は一辺0.5m程度と推定される。人骨の遺存状態は良好で、頭蓋骨は木棺の南側に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は、棺内の西側にあたる位置から漆片や銭貨が出土した。

墓穴 S T 431 (第100図) 墓群14 a の北端で検出した墓穴である。南側を S T 432 によって削平される。掘形の規模は東西0.74m、南北0.60m以上を測る。人骨は出土していない。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 432 (第100図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北1.17mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形内南西隅から染付碗が出土したほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 433 (第100図) 北側を S T 432、南側を S T 434 によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.47m以上を測る。人骨は出土していない。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 434 (第101図) 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.76mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は一辺0.5m程度の方形とみられる。人骨の遺存状態は不良である。棺外にあたる掘形内の南東隅から、銭貨が出土した。

墓穴 S T 435 (第100図) S T 227 を削平して掘られる。掘形の規模は東西0.75m、南北0.71mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 227 (第100図) 北側を S T 435 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北0.88m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。埋葬施設は木棺である。掘形底部から鉄釘が出土した。鉄釘の出土状況から、木棺の規模は一辺0.5m前後とみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は陶器碗、染付碗のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

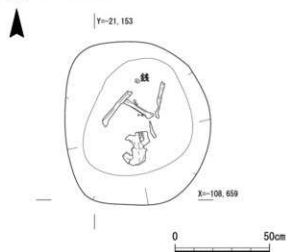
墓穴 S T 223 (第100図) 墓群14 a の中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は陶器碗、犬形土製品のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 224 (第100図) 北側を S T 223 によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北1.04m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨のほか、漆片が出土した。銭は掘形内東側で3か所に分かれて出土しており、最も点数がまとまった銭の下にはわずかではあるが木片が遺存していた。

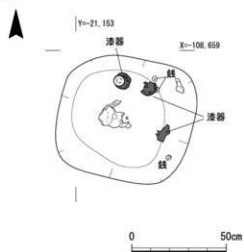
墓穴 S T 225 (第100図) 北側を S T 224 によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.41m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 238 (第100図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.62mを測り、平面は西側が膨らむ方形を呈する。墓穴上面から、陶器壺が出土している。壺の内容物は確認で

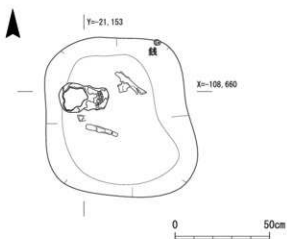
墓群14b S T222



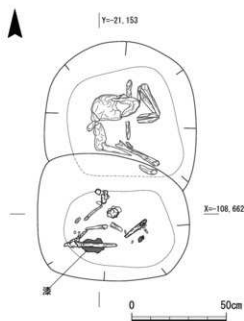
墓群14b S T221



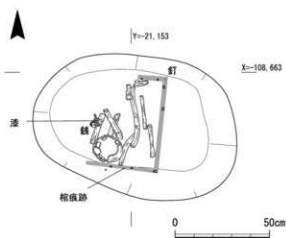
墓群14b S T207



墓群14b S T201・202



墓群14b S T189



第102図 墓群14 S T222・221・207・201・202・189実測図

きなかったが、蔵骨器と考えられる。壺に伴う掘形は確認できなかった。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶が出土している。

墓穴 S T 253 (第100図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.98m程度を測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 254 (第100図) 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。出土した頭蓋骨は掘形中央やや北西に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 255 (第100図) 北側を S T 254、南側を S T 256によって削平される。掘形の規模は東西0.68m、南北0.70m以上を測り、平面は楕円形または長方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 256 (第100図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.55m、南北0.63mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。

墓穴 S T 257 (第100図) 南側を S T 436によって削平される。掘形の規模は東西0.92m、南北0.72m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 436 (第100図) 墓群14aの南端で検出した。西側の一部を S T 189により削平される。掘形の規模は東西0.94m以上、南北1.03mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

(15) 墓群15

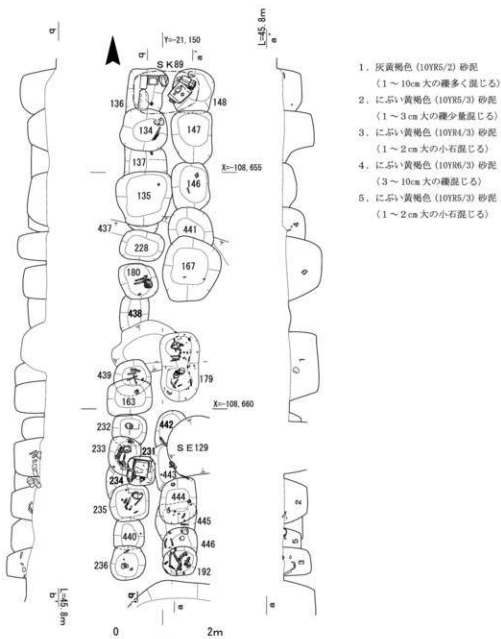
墓地の南側、墓群14の東側で検出した墓群である。墓群中央付近は、一部後世の攪乱によって削平される。東側で12基、西側で17基、計29基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが2基、不明が27基である。墓群の東西幅は1.8～2.2m、南北長は約10.7mを測る。

土坑 S K 89 (第104図) 墓群の北端の S T 136・148の上層で検出した土坑である。明確な掘形は確認できなかった。台座、一石五輪塔が4基出土した。北西側では、地輪や台座が面を揃えて置かれる。出土した台座と一石五輪塔はセット関係となるものがなく、下層の墓穴に伴うものではなく、廃棄されたと考えられる。

墓穴 S T 136 (第103図) 墓群西側の北端で検出した墓穴である。南側を S T 134によって削平される。掘形の規模は東西0.75m、南北0.95m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。遺物は漆器の漆被膜がわずかに出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 134 (第103図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.00m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で、頭蓋骨や長管骨の一部が出土した。頭蓋骨は掘形内北東に位置する。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 137 (第103図) 北側を S T 134、南側を S T 135によって削平される。掘形の規模は東西0.89m、南北0.64m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。



第103図 墓群15 平面・断面図

墓穴 S T 135(第103図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.12m、南北1.15mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 437(第103図) 掘形の大半を S T 135によって削平される。掘形の規模は東西0.63m、南北0.22m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 228(第103図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.64mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付碗のほか、念仏銭を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 180(第103図) 墓群15 b の中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規

横は東西0.77m、南北0.76mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は土師器皿が出土した。

墓穴 S T 438 (第103図) 北側を S T 180、南側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.61m、南北0.75m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 439 (第103図) 北側上層を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.74m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良である。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 163 (第103図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.95m、南北0.72mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付蓋のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 232 (第103図) 南側を S T 233によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良で、遺存していた頭蓋骨は掘形中央に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は染付椀が出土した。

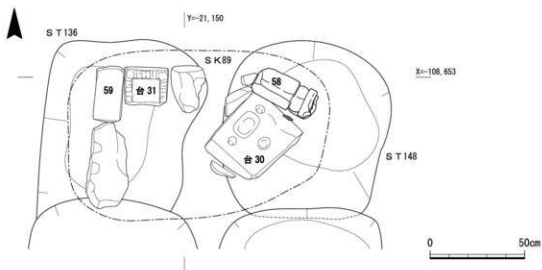
墓穴 S T 233 (第104図) 南東隅を S T 231によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.68m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、出土状況から座葬と考えられる。頭蓋骨は掘形北側中央に位置する。掘形北側から人骨と銭貨が出土しているが、頭蓋骨を含む掘形中央の人骨のまとまりとは離れるため、S T 232に伴う可能性が考えられる。

墓穴 S T 231 (第104図) 墓群の南側、東の墓穴列と西の墓穴列の中央付近で検出した墓穴である。S T 233・234・235・443を削平して掘られている。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.59m、南北0.61mを測り、平面は方形を呈する。埋葬施設は木棺である。台座・板碑・一石五輪塔が出土した。それらを取り外した掘形の底部でわずかな人骨片と方形に並んだ鉄釘が出土した。出土状況から木棺は長辺0.48m、短辺0.46m程度の規模とみられる。出土した墓石は多様であることから廃棄された可能性が高い。また、平面的にみると墓石は並んだ釘の中におよそ収まっており、木棺が腐植して盛り土とともに落ち窪んでできた穴に廃棄されたものと想定される。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

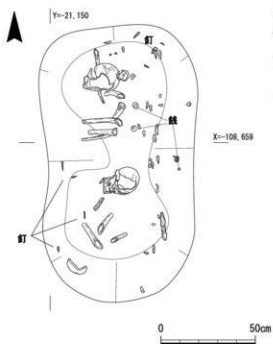
墓穴 S T 234 (第103図) 掘形の大部分が S T 233・235によって削平されている。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.45m以上、南北0.72m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 235 (第105図) 埋葬方法は土葬である。北側の一部を S T 231によって削平される。掘形の規模は東西0.88m、南北0.77mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好である。頭蓋骨は掘形北側に位置する。埋葬姿勢は崩れているが、座葬と推定される。人骨は掘形中央に位置し、掘形壁面と0.15m程度空間が空くことから、木棺に納められていたと考えられる。遺物はミニチュア土器、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨は、長管骨の付近からまとまって出土した。

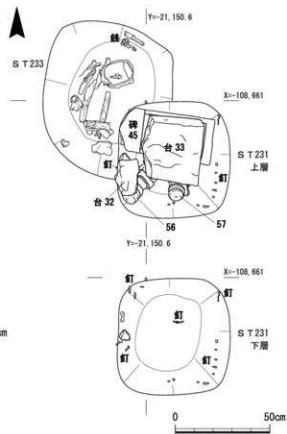
墓群15 S K 89 (S T 136・148上層)



墓群15 a S T 179



墓群15 b S T 231・233



第104図 墓群15 S K 89・S T 179・231・233実測図

墓穴 S T 440 (第103図) 北側を S T 235、南側を S T 236によって削平される。掘形の規模は東西0.64m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は元豊通寶が出土した。

墓穴 S T 236 (第103図) 墓群15bの南端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.74m、南北0.72mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状況は不良で、遺存していた頭蓋骨は掘形中央に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 148 (第103図) 墓群東側の北端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.94m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良で、掘形北側で頭蓋骨を一部検出した。遺物は掘形中央付近から古寛永通寶を含む銭貨が出土しており、銭貨の直下に漆片が遺存していた。

墓穴 S T 147 (第103図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北1.13m程度を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 146 (第103図) 南側を S T 441によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.95m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土している。

墓穴 S T 441 (第103図) 南側を S T 167によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北0.85m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

土坑 S K 167 (第105図) 墓群15aの中央付近で検出した土坑である。掘形の規模は東西1.15m、南北1.35mを測り、平面は方形を呈する。埋土はシルト含む灰黄褐色細粒砂である。埋土中から一石五輪塔の空風輪、笠塔婆の笠部が出土した。また、骨片や鉄釘が出土しており、既存の墓穴を壊して掘られた墓石廃棄のための土坑と考えられる。

墓穴 S T 179 (第104図) 墓群15aの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.76m、南北1.45mを測り、平面は長方形を呈する。上面から磁器壺が出土した。壺は正位置を保っており、中には火葬骨が納められていた。壺に伴う掘形は確認できなかったが上層の遺構とみられる。墓穴に伴う人骨の遺存状態は良好で、被葬者は2体である。2体は北側と南側に分かれて埋葬されており、2基の墓穴の可能性が高い。鉄釘が掘形内全体から出土しており、その平面形は方形を呈する。鉄釘の出土状況から木棺は一辺0.5mの方形とみられる。埋葬姿勢はどちらも座葬とみられ、2体の被葬者が別々の木棺に納められていたと考えられる。頭蓋骨は木棺の北側に位置する。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 442 (第103図) 南側を S T 443に削平された後、東側を S E 129によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.57m以上、南北0.65m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

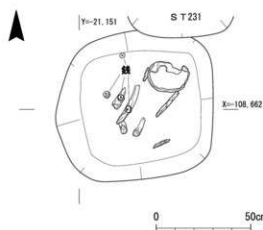
墓穴 S T 443 (第103図) 南側を S T 444、東側を S E 129によって削平される。埋葬方法は土

葬である。掘形の規模は東西0.43m以上、南北0.90m以上を測り、平面は方形を呈すると考えられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨出土した。

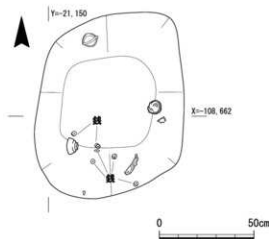
墓穴 S T 444 (第105図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.92mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物はミニチュア土器、磁器色絵蓋が出土している。

墓穴 S T 445 (第103図) S T 444に北側を、S T 446に南側を削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.75m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物

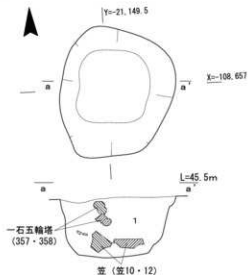
墓群15b S T 235



墓群15a S T 444

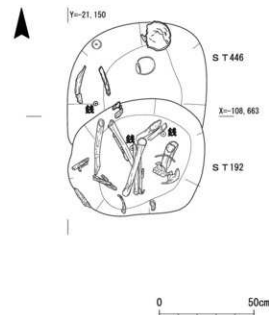


墓群15a S K 167



1. 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト含む細粒砂
(炭化物多く含む・0.5～3cm 大の石少量含む)

墓群15a S T 446・192



第105図 墓群15 S T 235・444・446・192・S K 167実測図

は志野椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 446 (第105図) 南側を S T 192によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.73m、南北0.59m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。頭蓋骨は掘形北側に位置する。遺物は土師器皿のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 192 (第105図) 墓群15 aの南端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形は東西0.70m、南北0.60mの方形を呈する。人骨の遺存状態は良好である。埋葬姿勢は崩れていたが、長管骨が立った状態で出土したことから座葬と推測される。頭蓋骨は掘形中央よりやや東側に位置する。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(16) 墓群16

墓地の南側、墓群15の東側で検出した墓群である。東西2列の墓群で、東側で13基、西側で16基、計29基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが2基、不明が27基である。墓群の東西幅は1.64～1.80m、南北長は約10.0mを測る。

土坑 S K 157 (第107図) 墓群16 bの北端で検出した土坑である。掘形は東西1.12m以上、南北2.31m以上を測る。埋土は褐色の細粒砂～粗砂である。埋土中から墓石が19基出土した。一石五輪塔や舟形墓標、笠部などの墓石が重なり合って出土している。下層で S T 447～449を検出しており、これらの墓穴を削平して掘られた、廃棄土坑と考えられる。

墓穴 S T 447 (第106図) 墓群16 bの北端で検出した。上層を S K 157によって削平される。掘形の規模は東西0.90m、南北1.04mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土していない。遺物は土師器皿、磁器青磁椀のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 448 (第106図) 南側を S T 449によって削平される。掘形の規模は東西0.75m、南北0.75m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

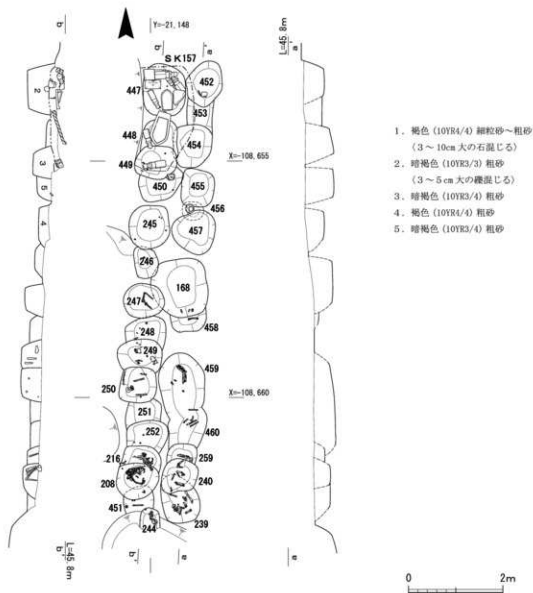
墓穴 S T 449 (第106図) S T 448・450の上層で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北0.70mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 450 (第106図) 北側を S T 449によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.95m、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良で、遺存していた頭蓋骨は掘形北東に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 245 (第106図) 掘形の規模は東西0.86m、南北0.91mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は鉄釘がわずかに出土したほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 246 (第106図) 墓群16 bの中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.50m、南北0.68mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 247 (第106図) 墓群16 bの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規



第106図 墓群16 平面・断面図

横は東西0.87m、南北0.73mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨のほか、青銅製品が出土した。

墓穴 S T 248 (第106図) 南側を S T 249によって削平される。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。掘形底部西側から鉄釘が「L」字状に並んで出土している。鉄釘は主軸の北に対して30°東に振る。鉄釘の出土状況から、木棺規模は一辺0.45m程度と推定される。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 249 (第106図) 南側を S T 250によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.68m以上を測り、平面は方形ないしは円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良である。

墓穴 S T 250 (第107図) S T 249・251を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東

西0.78m、南北0.75mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で長管骨のみが残る。遺物は陶器碗のほか、念仏銭を含む銭貨が出土した。銭貨の下に木片がわずかながら遺存しており、銭貨は何らかの容器に納められていたと推測される。

墓穴 S T 251 (第106図) 北側を S T 250、南側を S T 252によって削平される。掘形の規模は東西0.73m、南北0.70m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 252 (第106図) 南側を S T 216によって削平される。掘形の規模は東西0.82m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 216 (第106図) 南側を S T 208によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.38m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好である。座葬と推定される。頭蓋骨は掘形北東に位置している。

墓穴 S T 208 (第106図) S T 216・451を削平して掘られる。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.78mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬である。立膝を腕で抱えた姿勢と考えられる。頭蓋骨は掘形北側中央に位置する。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 451 (第106図) 北側を S T 208、南側を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.64m、南北0.37m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付小碗、銭貨が出土した。

墓穴 S T 244 (第106図) 掘形の大部分を後世の攪乱によって削平される。掘形の底部付近のみを検出した。埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は不良で、頭蓋骨が一部出土した。

墓穴 S T 452 (第106図) 葛群16 aの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.98mを測り、平面は不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 453 (第106図) 北側を S T 452、南側を S T 454によって削平される。掘形の規模は東西0.53m、南北0.75m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 454 (第106図) S T 453を削平する。掘形の規模は東西0.82m以上、南北0.91mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

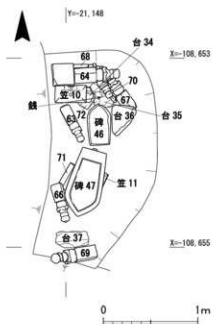
墓穴 S T 455 (第106図) 掘形の規模は東西0.68m、南北0.78mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶のほか、土師器皿、ミニチュア土器が出土している。

墓穴 S T 456 (第107図) S T 455と457の間で検出した。明確な掘形は確認できなかったが、土師質の壺が出土している。壺の中には、割れた蓋が落ち込む。そのほかの内容物が入っていないかった。

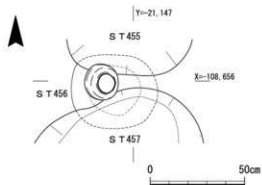
墓穴 S T 457 (第106図) 掘形の規模は東西0.91m、南北0.94mを測り、平面は不定形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 168 (第106図) 葛群16 aの中央付近で検出した。西側を S T 246・247によって一部削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西1.17m、南北

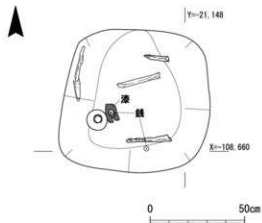
墓群16 b S K157



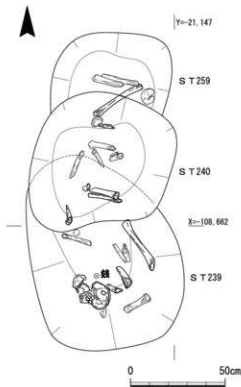
墓群16 a S T456土師質壺出土状況



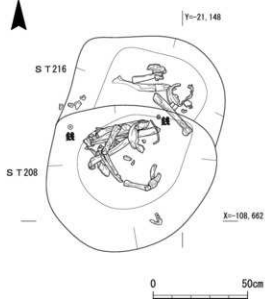
墓群16 b S T250



墓群16 a S T239・240・259



墓群16 b S T208・216



第107図 墓群16 S K157・S T456・250・239・240・259・208・216実測図

1.23mを測り、平面は西側が影らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、染付碗、青銅製の座金具が出土した。

墓穴 S T 458 (第106図) 北側を S T 168によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.45m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴 S T 459・460 (第106図) S T 458の南側で検出した。明確な輪郭は不明であるが、人骨の出土状況から、2基の墓穴と考えられる。埋葬方法はそれぞれ土葬である。人骨の遺存状態は不良で、長管骨がわずかに出土した。遺物は、S T 460の埋土上層から一石五輪塔の地輪が出土したほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 259 (第107図) 南側を S T 240によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.62m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好である。

墓穴 S T 240 (第107図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.72m、南北0.77mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状況は比較的良好である。遺物は掘形上層から笠部が出土したほか、古寛永通寶を含む銭貨、染付碗、青銅製の鉾が出土した。

墓穴 S T 239 (第107図) 墓群16aの南端で検出した。北側を S T 240によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.90m以上を測り、平面は楕円形ないしは方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好である。出土状況から座葬と推定される。頭蓋骨は掘形南西に位置する。遺物は新寛永通寶が出土した。

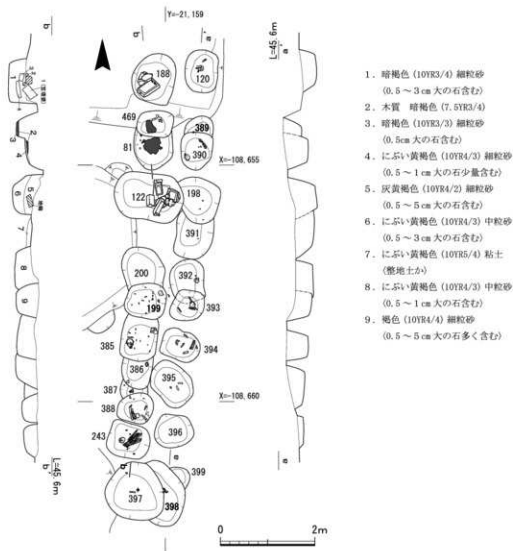
(17) 墓群17

墓地の南側、墓群12の西側で検出した墓群である。東西2列の墓群で、東側で12基、西側で12基、計24基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが6基、不明が18基である。墓群の東西幅は1.6～1.8m、南北長は約10mを測る。

墓穴 S T 188 (第110図) 墓群17bの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.89m、南北1.06mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形内上層から墓石が出土した。笠塔婆・台座があり、廃棄されたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 469 (第109図) S T 81の北側で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。南側で S T 81と重なり合うが前後関係は不明である。掘形の規模は東西0.58m、南北0.55m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は崩れているが座葬とみられる。頭蓋骨は掘形北側に位置していた。掘形底部にわずかに木質が遺存する。

墓穴 S T 81 (第109図) S T 469の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.55m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。埋葬施設は木棺である。人骨の遺存状態は良好で、姿勢は崩れているが座葬とみられる。頭蓋骨は掘形西側に位置する。掘形底部に木質が遺存していた。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。



第108図 墓群17 平面・断面図

墓穴 S T 122 (第110図) 墓群17 a の S T 198 を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.46m、南北1.00mを測り、平面は方形を呈する。掘形内東側から墓石が出土した。墓石は複数がまとめて出土しており、廃棄されたとみられる。また、掘形内からは骨片が出土しており、既存の墓の掘形は削平されている可能性が高い。

墓穴 S T 200 (第108図) 南側を S T 199 によって削平される。掘形の規模は東西0.88m、南北0.77m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物は銭貨が出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 199 (第109図) S T 200・385 を削平する。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.75mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨、青銅製品が出土した。

墓穴 S T 385 (第109図) 北側を S T 199 によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設

設は木棺である。掘形の規模は東西0.76m、南北1.00m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好である。頭蓋骨は掘形南西に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 386 (第108図) 北側を S T 385によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.64m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は漆器椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 387 (第108図) 北側を S T 386、南側を S T 388によって削平される。掘形の規模は東西0.59mを測る。人骨は出土しなかった。遺物は漆片、古寛永通寶 1枚が出土している。

墓穴 S T 388 (第109図) S T 387を削平する。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.72m、南北0.66mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや良好で、長管骨が出土した。遺物は土師器皿、銭貨が出土した。

墓穴 S T 243 (第109図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.90m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好である。埋葬姿勢は崩れていたが、座葬と想定される。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨は掘形内で複数か所から出土しており、そのうち南側 2か所で見出した銭貨の下にはわずかながら木質が遺存していた。漆器などの容器に納められていたと考えられる。

墓穴 S T 397 (第108図) 墓群17bの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.24m、南北1.20mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形中央付近から古寛永通寶を含む銭貨が出土した。また銭貨のすぐ東から漆片が出土した。

墓穴 S T 120 (第108図) 墓群17aの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.69m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴 S T 389 (第108図) 南側を S T 390によって削平される。掘形の規模は東西0.61m、南北0.35m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

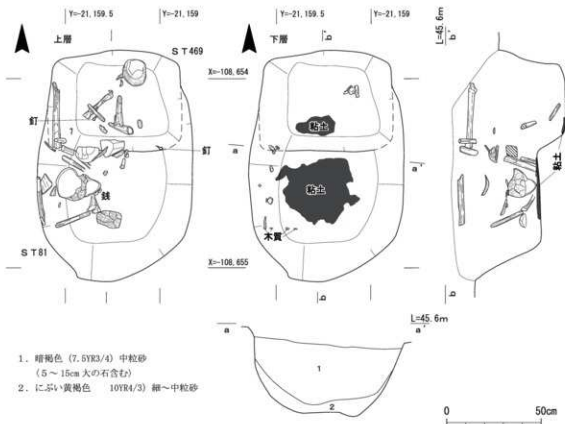
墓穴 S T 390 (第108図) S T 389を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.65m、南北0.78mを測り、平面は南が膨らんだ方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 198 (第108図) 西側を S T 122によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西約0.76m以上、南北0.98mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

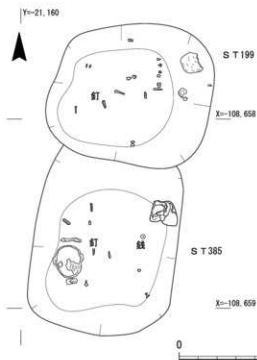
墓穴 S T 391 (第108図) 北側を S T 198によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北1.0m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴 S T 392 (第108図) 南側を S T 393によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.87m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、古

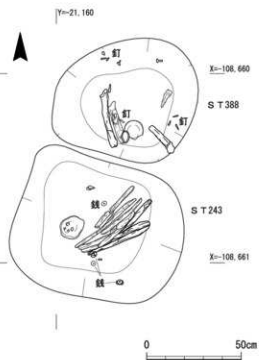
墓群17b ST81・469



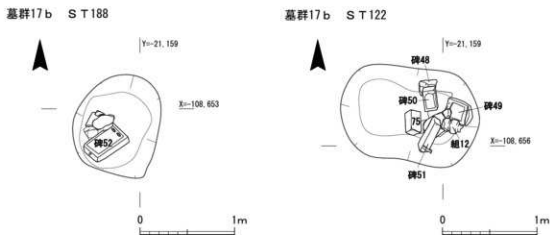
墓群17b ST199・385



墓群17b ST388・243



第109図 墓群17 ST81・469・199・385・388・243実測図



第110図 墓群17 S T 188・122実測図

寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴 S T 393 (第108図) S T 392を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.68m、南北0.65mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨や長管骨が出土した。頭蓋骨は、掘形中央付近に位置する。

墓穴 S T 394 (第108図) 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.62mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。

墓穴 S T 395 (第108図) 墓群17 a で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.0m、南北0.74mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

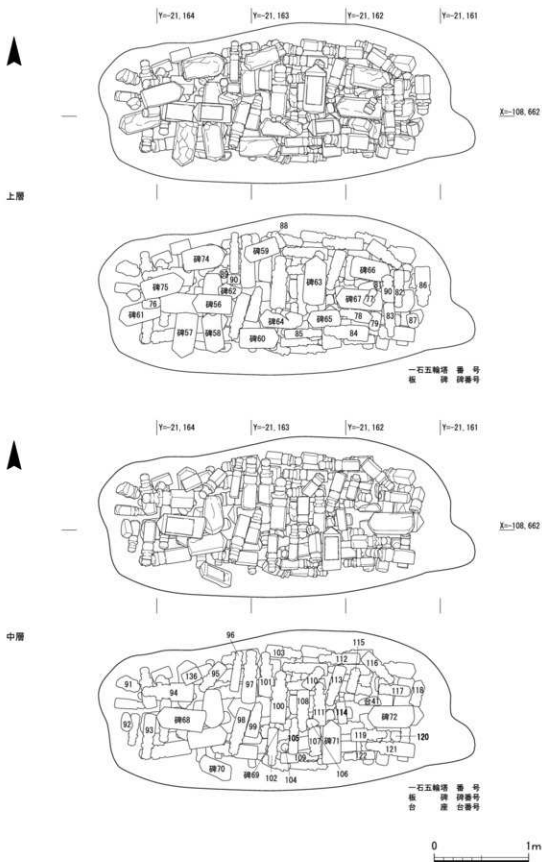
墓穴 S T 396 (第108図) 掘形の規模は東西0.83m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴 S T 398 (第108図) 西側を S T 397によって大きく削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は南北1.0m程度を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

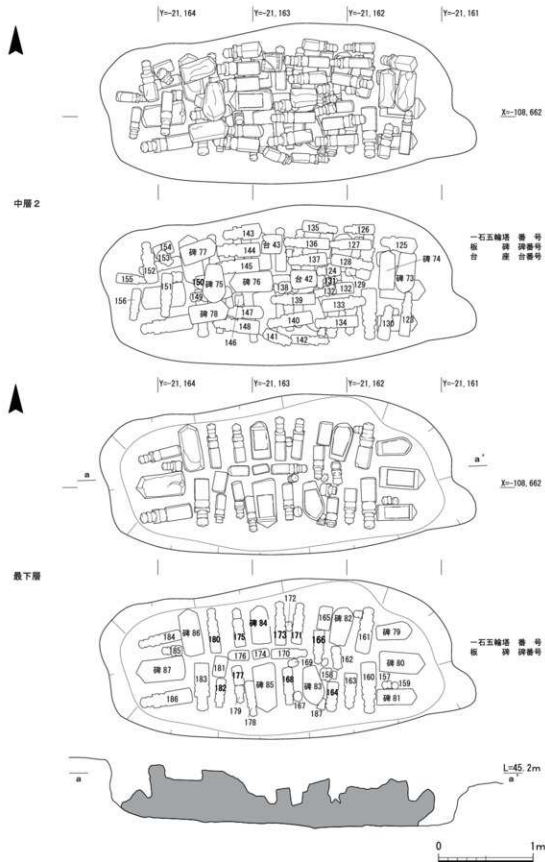
墓穴 S T 399 (第108図) 西側を S T 398によって大きく削平される。掘形の規模は東西0.25m以上、東西0.49m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(18) 墓群18 (第69図)

墓場を確認するため、墓群16の東側で南北約3.6m、東西約4.4mの範囲を一部東側へ拡張を行い検出した墓群である。これまでの墓群と同様に東西2列1組の墓群となる。拡張範囲内で、東側で3基、西側で2基の墓穴を検出した。墓群の東西幅は約1.9mである。今回検出した墓地は、東西墓道を中心として南北に対称に墓群を配しており、これまでの墓群と同様に墓群18の北側にも別の墓群があるものと推測される。また、寺境となる施設を確認できなかったことから、墓地はさらに東側へ広がる可能性が高い。なお、墓地の範囲確認に留まり、墓穴の掘削作業は実施していない。



第111図 南地区S K99実測図(1)



第112図 南地区S K 99実測図(2)

(19) その他の埋葬施設

墓穴 S T 52 (第69図) 墓群1北端の S T 97から約0.5m南に位置する。掘形の規模は東西0.5m、南北0.6mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土していないが、銭貨が12枚出土しており、墓穴と考えられる。

墓穴 S T 76 (第69図) 南地区の中央付近北側で検出した。墓群1から約2m西側に位置する。掘形の規模は東西0.5m、南北4.7mを測り、平面は方形を呈する。埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は比較的良好である。

(20) その他の遺構

土坑 S K 99 (第111・112図) 墓群17の西側で検出した土坑である。掘形の規模は東西3.7m、南北1.5～1.7m、深さ0.4～0.6mを測り、平面は長方形を呈する。土坑内からは破片を含め149基の墓石が出土した。出土した墓石の大半が完形品で、4段に積み重なる。無縁となったものや古くなった墓石を整理したものと考えられる。

最下層では破片を含め42基の墓標が出土した。内訳は一石五輪塔が33基、舟形墓標が3基、板碑が6基である。東西に長い長方形の掘形に墓標を横にして並べる。4辺には完形の墓石が、いずれも頂部を外側に向けて約10cmを空けて等間隔に並び、その隙間や中央に一石五輪塔の空輪部や地輪部などの破片が置かれる。北辺に9基、南辺に10基が並び、東西辺には3基が並ぶ。一石五輪塔の正面は様々な方向を向き、それ以外の墓標は2基が裏向き、1基が表向きである。

中層2では43基の墓石が出土した。内訳は一石五輪塔が35基、舟形墓標が2基、板碑が4基、台座が2基である。個々の墓石は東側と西側で南北方向、中央では東西方向になり、下段の墓石と互い違いになるように置かれる。頂部の方向に規則性はみられない。板碑・舟形墓標は1点を除き裏向きで置かれる。

中層では39基の墓石が出土した。内訳は一石五輪塔が33基、板碑が5基、台座が1基である。中層2と互い違いに置かれ、東側と西側では東西方向、中央では南北方向に墓石が置かれる。

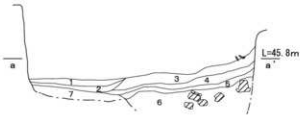
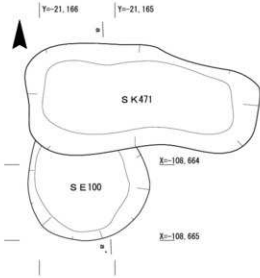
上層では29基の墓石が出土した。内訳は一石五輪塔が15基、舟形墓標が1基、板碑が13基である。互い違いを意識して墓石を置くが、これまでに生じた高さなどのズレから、下層ほどの規則性は薄まる。石が安定する場所を選んで置いたようである。

出土した記年銘のある墓石で最も新しいものは寛永5(1628)年で、遺構の時期も1628年以降にあたる。

土坑 S K 471 (第113図) 墓地の南側、S K 99の南西で検出した土坑である。掘形の規模は東西3.0m、南北1.4mを測り、平面は長方形を呈する。深さは1.1mを測る。埋土は黄褐色や暗褐色の細～中粒砂で、北側の埋土は炭化物を多く含む。

井戸 S E 100 (第113図) S K 471の南西で検出した井戸である。北側上面をS K 471によって削平される。井戸の上層南側で一石五輪塔20基、組合式五輪塔2基がまとまって出土した。一石五輪塔は1基を除いて、水輪より上部の破片である。接合する地輪部は出土していない。地輪部はS E 113のように転用され、転用に向かない部位を廃棄した可能性が考えられる。井戸は円形

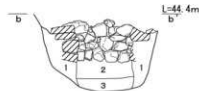
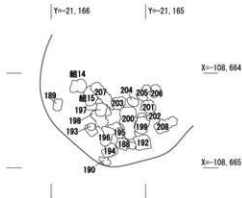
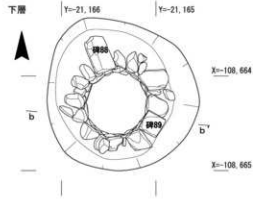
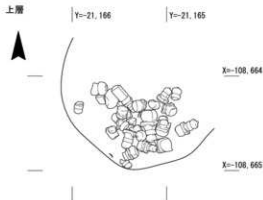
S K 471



1. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂含む中粒砂 (0.5~2cmの石多く含む)
2. 黒褐色 (7.5YR3/1) シルト混じる細粒砂 (0.5~2cmの石含む)
3. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂含む中粒砂 (0.5~2cmの石多く含む)
4. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト混じる細粒砂
5. 褐色 (7.5YR4/4) シルト混じる極細砂 (焼土多く含む)
6. 褐色 (10YR4/6) 極細粒砂含む中粒砂 (1~3cmの石含む)
7. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂



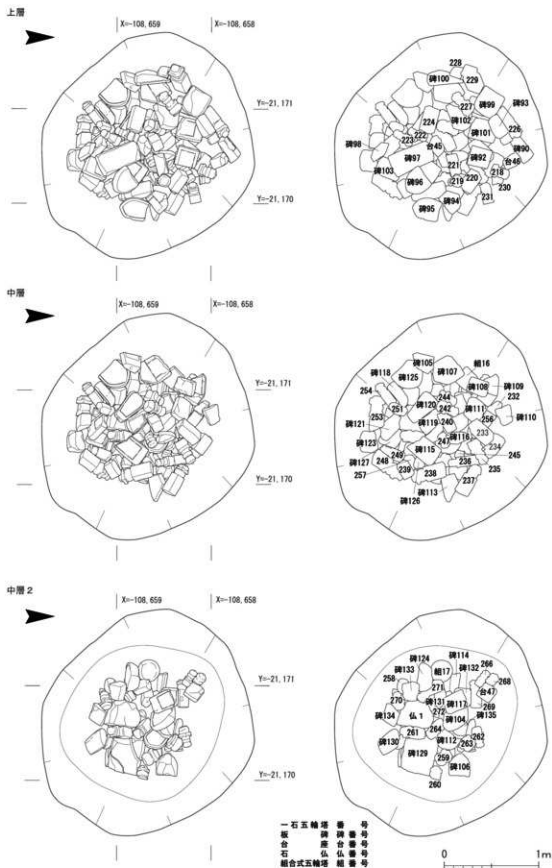
S E 100



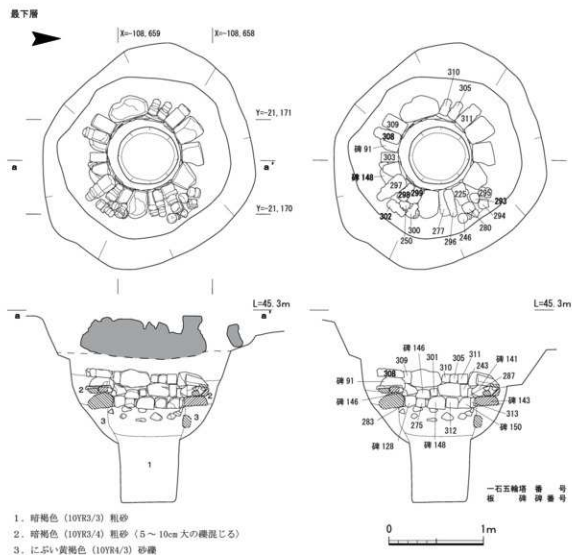
1. 褐色 (10YR4/4) 細砂含む粗砂 (0.5~2cmの石多く含む)
2. 暗褐色 (10YR3/4) 礫 (河川堆積層と近似)
3. にがい黄褐色 (10YR4/3) 細砂含む粗礫 (0.5cm程度の石多く含む)



第113図 南地区SK471・SE100実測図



第114図 南地区SE113実測図(1)



第115図 南地区SE113実測図(2)

の石組の井戸枠を持つ井戸で、井戸枠は四段確認した。井戸枠から水溜め部を約0.3m掘り窪める。掘形の規模は直径約1.6m、深さ0.8mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形埋土は褐色の細砂含む粗砂で、水溜め部には暗褐色の礫、ぶい黄褐色の粗砂含む粗礫が堆積する。井戸枠の一部に墓石が転用される。転用された墓石は2基で、1基は板碑形墓標の完形品で、もう1基は板碑を中央で割りその下半が用いられる。それぞれ文祿3(1594)年、天正17(1589)年の紀年が刻まれる。

井戸SE113(第114・115図) 墓地の西側、南地区の中央付近で検出した。上面を学校校舎基礎によって大きく削平される。上層に多数の墓石が円形の範囲に集中し、その下層の井戸から形成される。上層の掘形の規模は直径約2.2mを測り、平面は円形を呈する。掘形中央付近に直径約1.5m、高さ約0.3mの範囲で破片を含め132基の墓石がまとめて出土した。出土した墓石には、一石五輪塔や組合式五輪塔のような石塔、舟形墓標・板碑などの墓標、台座、石仏など様々な種類がある。完形のものは含まれず、部位が欠損しているものや半分程度に割れているものばかり

が出土した。出土状況に規則性はみられず、廃棄されたものと考えられる。

下層の井戸は、円形に石組された井戸枠をもつ。掘形の規模は直径約0.7mを測り、平面は円形で、埋土は暗褐色粗砂、にぶい黄褐色砂礫である。上層の墓石集中か所と井戸枠上面との間には暗褐色の砂層が約0.2m堆積する。井戸枠は三段遺存しており、水溜め部を深さ1.0m程度掘り窪める。水溜め部の埋土は暗褐色の粗砂である。

井戸枠には、自然石のほかには墓石を転用している。転用された墓石は、一石五輪塔や舟形墓標などで、台座・笠部は転用されていない。多くの墓石は割れており、碑96・98のように楔痕が残るものが多くあることから、井戸枠に転用しやすい大きさ・形に人為的に割ったようである。墓標の多くはその中央付近で割られているものがほとんどで、その断面を内側へ向けて組まれる。一石五輪塔は、地輪と水輪のように細くなる各部位の境界で割られており、地輪のように面を持つものは井戸枠として、空・風輪のような小さな破片は栗石として転用されている。一石五輪塔には楔痕は確認できない。井戸枠として転用された墓石は62基である。

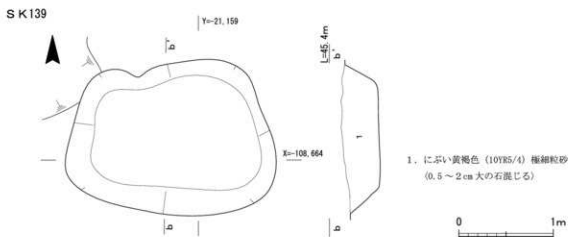
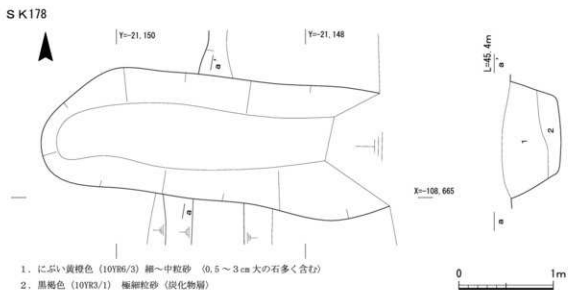
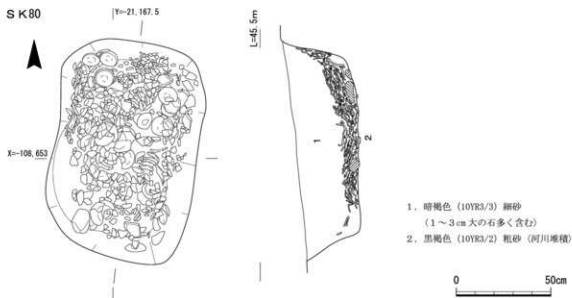
SE113から出土した紀年銘のある墓石で最も古いものは天正6(1578)年、新しいものは万治3(1660)年である。井戸の築造も1660年以降といえる。井戸枠をすべて除去後、井戸枠に転用された墓石と、上層の墓石で接合するものを確認した。碑90・91、碑92・93など37組に及ぶ。上述したように、墓標は中央付近で割り、その断面を利用する。上半と下半両方を利用していたと考えるのが自然であり、上層で出土した破片も当初井戸枠を構成していたと考えられる。南地区西側で確認した寺町期の遺構面は標高46.0mであり、井戸検出面より1.2m近く高い。そのため、元々井戸枠は上層で出土した墓石などを利用して検出高より高く積まれており、その後上部が削平を受け転用石材が廃棄されたと考えられる。

土坑SK80(第116図) 墓地の西側、墓群1の南側で検出した土坑である。掘形の規模は東西0.7m程度、南北1.1m程度、深さ0.35m程度を測る。埋土は暗褐色細砂である。掘形底部で厚さ0.1m前後の範囲に、土師器皿をはじめとする遺物がまとまって出土した。人骨や銭貨は出土しておらず、廃棄土坑とみられる。出土した遺物はコンテナ6箱に及ぶ。土器の組成は、破片点数で、土師器鉢27点、瓦片4点、瓦質土器2点、陶器26点、磁器9点で、そのほかはすべて土師器皿である。土師器皿のうち1点のみが灯明皿であった。土師器鉢は12点に墨書がある。

内面のみ墨書があるもの、外面のみ墨書があるもの、内外面共に墨書があるものがあり、外面の墨書の多くは「休榮」と書かれる。内面には「往之妙生信女」や「妙宝信女」など戒名が確認できる。これらの墨書土器は葬送儀礼に使用したと考えられる。

土坑SK178(第116図) 南地区東端、墓群16の南側で検出した。掘形の規模は南北1.1m程度、東西3.5m以上、深さ0.6m程度を測り、平面は東西に長い歪んだ長方形である。東端は調査地外へと延びる。埋土はにぶい黄褐色の細～中粒砂、黒褐色の極細粒砂で17世紀中頃～後半の遺物が出土した。

土坑SK139(第116図) 墓地の南側、墓群17の南側で検出した。掘形の規模は東西2.1m程度、南北1.6m程度、深さ0.4m程度を測り、平面は歪んだ方形を呈する。埋土はにぶい黄褐色の極細

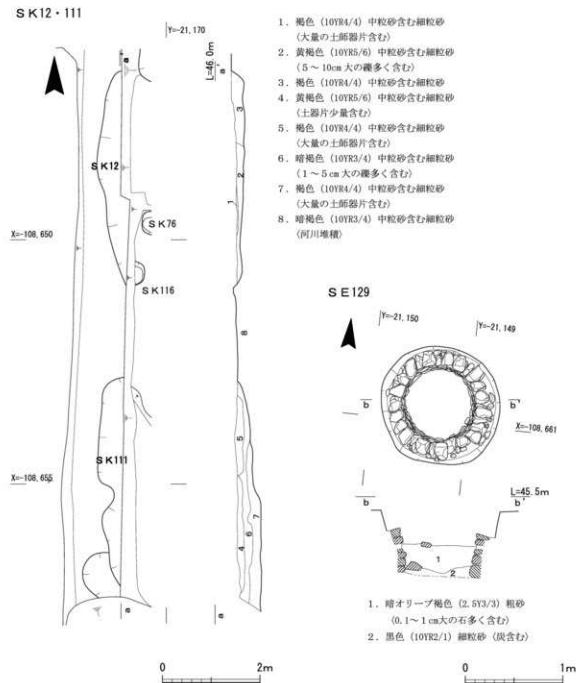


第116図 南地区 S K 80・178・139実測図

粒砂である。17世紀中頃の遺物が出土した。

土坑SK125(第69図) 墓地の南側、SK99の南で検出した。上層を後世の掘乱により大きく削平されており、明確な掘形は不明である。17世紀中頃の遺物が出土した。

土坑SK98(第69図) 墓地の西側、墓群11の南側で検出した。掘形の規模は直径1.8m程度、深さ0.6m程度を測り、平面は円形を呈する。埋土は褐色の細粒砂や、暗褐色の細粒砂混じる粗粒砂などである。土師器皿や肥前磁器碗など、17世紀の遺物が出土した。人骨は出土していない。



第117図 南地区SK12・111・SE129実測図

土坑 S K 84 (第69図) 墓地の西側、墓群11の西で検出した。掘形の規模は東西1.1m程度、南北1.3m、深さ0.4m程度を測り、平面は中央が窪んだ長方形を呈する。埋土は暗褐色の細粒砂である。17世紀中頃～後半の遺物が出土した。人骨は出土していない。

土坑 S K 117 (第69図) 墓地の西側、S E 113の東で検出した。掘形北西をS E 113によって削平される。掘形の規模は東西2.2m程度、南北4.3m、深さ0.2m程度を測り、平面は長方形を呈する。埋土は暗褐色の細粒砂混じる粗粒砂である。17世紀後半の遺物が出土した。

土坑 S K 111・12 (第117図) 南地区の中央付近、墓地の西側で検出した廃棄土坑である。東側を後世の攪乱によって大きく削平され、掘形の西側のみを検出した。S K 12の掘形の規模は東西0.5m以上、南北4.1m以上を測り、S K 111は東西1.0m以上、南北6.0m以上を測る。埋土は、褐色または暗褐色の中粒砂含む細粒砂が水平に堆積し、大量の土師器皿が含まれる。

土坑 S K 11 (第69図) 南地区の北端、墓群1の西側で検出した。掘形の規模は東西2.5m以上、南北2.0m以上、深さ0.2m程度を測り、平面は不定形を呈する。埋土は褐色粗粒砂である。17世紀後半頃の遺物が出土した。

井戸 S E 129 (第117図) 墓群15 a で検出した石組井戸である。S T 442・443を削平して掘られる。掘形の平面形は円形で、直径1.3mを測る。石組は0.1～0.2m大の石を円形に組み上げ、内径は0.7mである。遺物は花塩壺、磁器皿、土瓶などが出土した。18世紀中頃～後半のものともみられ、寺院移転後の建物に伴うと考えられる。

5) 墓地出土の遺物

(1) 墓穴出土の遺物

① 墓群1 (第118図)

S T 90 600・601は土師器皿である。器高は2.3cmとやや深く、底部の圏線はあまり明確ではない。17世紀前半頃とみられる。

S T 93 602は土師器皿である。内面に明確な圏線が廻る。17世紀中頃とみられる。603は肥前系陶器椀で腰の張る椀形で、腰部まで釉がかかる。

S T 92 604は肥前系磁器染付椀である。やや丸みを帯びた椀形で外面に草花文を描く。高台内に1本の圏線と「太明年製」銘がある。17世紀中頃とみられる。

S T 379 605は肥前系磁器染付椀である。腰部から直線的に体部が伸びる。外面に窓を設け、その中に草花文を描く。高台に2本の圏線が廻る。

S T 380 606は肥前系磁器染付小椀である。外面にコンニャク印判で襷を描く。

② 墓群2 (第118図)

S T 45 607は土師器皿である。器壁はやや厚く、内湾する。

S T 19 608は土師器皿である。明瞭な圏線が廻る。

S T 377 609・610は土師器皿である。

S T 109 611・612は土師器皿である。どちらも明瞭な圏線をもつ。613は中国製とみられる青花杯である。腰部から直線的に器壁が立ち上がり、高い高台を持つ。体部外面に草花文を描き、高台は櫛目文である。呉須はやや滲んでいるものの発色は鮮やかである。

S T 68 614～621は土師器皿である。いずれも明瞭な圏線をもつ。17世紀後半頃とみられる。

S K 14 622・623は土師器皿である。624は肥前系陶器向付である。体部中央付近で器壁が外反し屈曲する。17世紀中頃とみられる。

S T 21 625～628は肥前系磁器白磁小杯である。4点が入子となる。いずれも口縁部が端反りし、低い高台をもつ。17世紀後半とみられる。

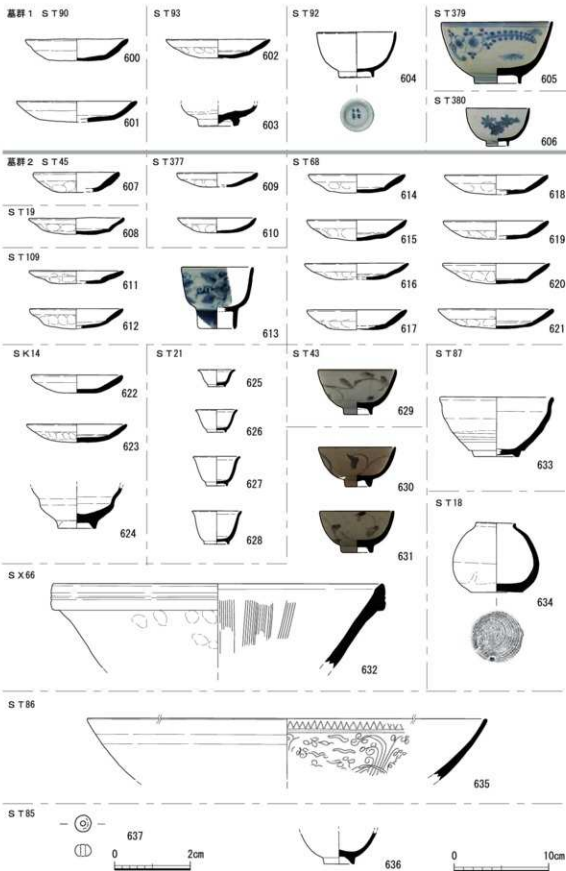
S T 43 629は肥前系磁器椀で、外面に草花文を描く。高台に砂が付着する。17世紀後半の製品と考えられる。

S K 66 630・631は肥前系磁器染付椀である。陶胎で、外面に草花文を描く。631は高台に砂が付着する。630が631に対してやや腰部が張るが、同種の文様を施しており、同じ窯で生産された可能性が高い。632は信楽焼播鉢である。口縁部は外側下部に向かって肥大し、断面三角形を呈する。内面に8条1組の播り目がへら書きされる。

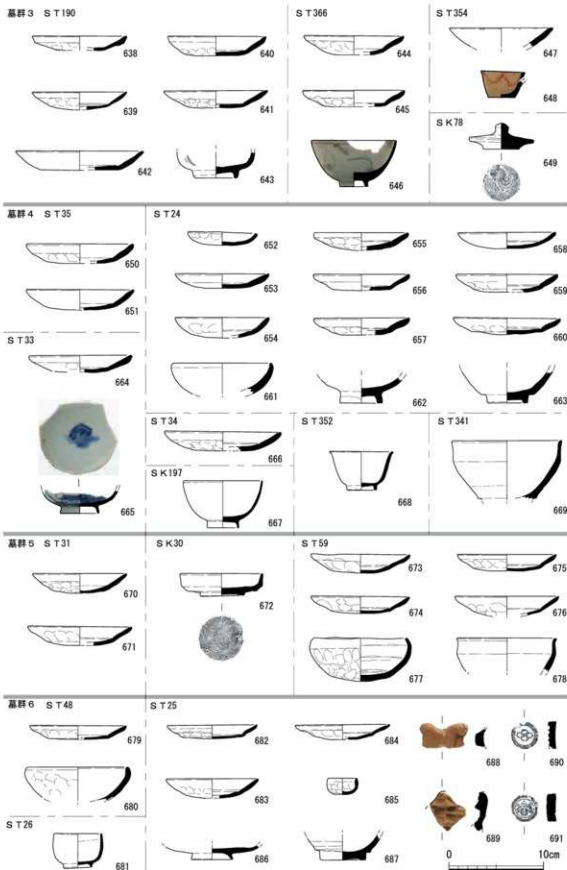
S T 87 633は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

S T 18 634は瀬戸美濃系陶器壺である。丸い体部で口縁部がわずかに立ち上がる。ロクロ成形し底部を糸切りする。体部下半まで灰釉が施される。

S T 86 635は中国製青磁盤である。外面は無文で、内面は口縁部に鋸歯文、体部に草花文が



第118図 南地区墓地出土遺物実測図(1)



第119図 南地区墓地出土遺物実測図(2)

除刻される。

S T 85 636は肥前系磁器白磁碗である。内面底部が盛り上がり、断面三角形を呈する高台が付く。637は数珠である。直径0.45cmで中央に両側穿孔される。材質は貝とみられる。

③墓群3(第119図)

S T 190 638～642は土師器皿である。643は肥前系陶器碗である。腰が張り、体部は直線的に立ち上がる。全面に長石釉を施した後、鉄絵を施す。高台には砂が付着する。

S T 366 644・645は土師器皿である。646は肥前系磁器染付碗である。外面に草花文を描き、高台に砂が付着する。17世紀後半頃の製品とみられる。

S T 354 647は土師器皿である。648は銚子のミニチュアである。土製品で透明釉をかけた後、緑色の釉で口縁部に連続する半円を描く。

S K 78 649は瀬戸美濃系陶器壺蓋である。ロクロ成形し、底部を糸切りする。上面に鉄釉が掛かる。

④墓群4(第119図)

S T 35 650・651は土師器皿である。内面底部に明確な圏線が廻る。

S T 24 652～660は土師器皿である。661は土師器鉢である。662は肥前系陶器碗である。663は瀬戸美濃系陶器天目碗である。17世紀後半の様相を呈する。

S T 33 664は土師器皿である。665は肥前系磁器染付碗である。腰の張る碗形で、外面に山水文を描く。17世紀後半頃の製品とみられる。

S T 34 666は土師器皿である。

S K 197 667は肥前系白磁碗である。17世紀後半頃の製品である。

S K 352 668は端反の口縁を持つ肥前系白磁小杯である。

S T 341 669は瀬戸美濃系陶器天目碗である。

⑤墓群5(第119図)

S T 31 670・671は土師器皿である。17世紀後半頃とみられる。

S T 30 672は陶器碗である。腰が張り、低い体部が直線的に立ち上がる。ロクロ成形し、高台を糸切りする。赤橙の胎土で瀬戸美濃系とみられる。

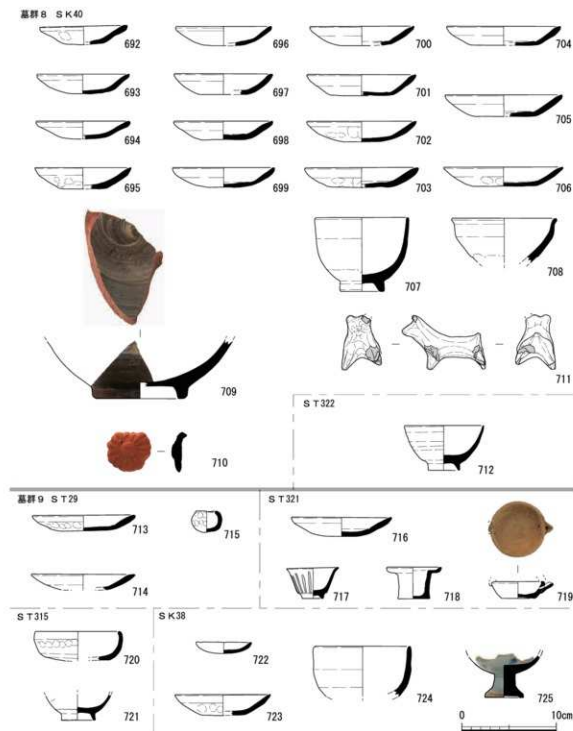
S T 59 673～676は土師器皿である。底部に明瞭な圏線が廻り、器壁はやや外反する。677は土師器鉢である。外面をユビオサエ、内面をヨコナデ成形する。678は瀬戸美濃系陶器天目碗である。これらの遺物は17世紀後半とみられる。

⑥墓群6(第119図)

S T 48 679は土師器皿、680は土師器鉢である。

S T 26 681は白磁碗のミニチュアである。口縁内部の3分の1程度を釉刺する。

S T 25 682～684は土師器皿である。685は土師器の小壺である。686は肥前系磁器白磁皿である。腰が張り、やや外側に開く低い高台が付く。687は瀬戸美濃系陶器碗である。高台脇まで灰釉が施される。688・689は土製品である。どちらも型押し成形される。688の形状は不明である。



第120図 南地区墓地出土遺物実測図(3)

689は家形で、箱庭道具と考えられる。690・691は泥面子である。690は四つ輪違い文、691は桐文が型抜きされる。

⑦墓群8(第120図)

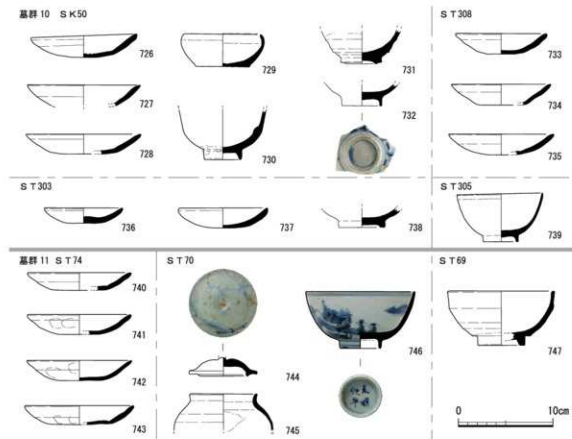
SK40 692~706は土師器皿である。707・708は瀬戸美濃系陶器碗である。707は直線的な体部と口縁部をもち、腰部付近まで鉄釉を施す。708は天目碗である。709は肥前系陶器鉢である。内外面に刷毛目模様を施す。17世紀初頭から中頃の製品とみられる。710は土製品である。菊花形に型成形し、上部がやや裏側へ折れる。711は大形土製品である。瓦質土器状に外面は黒色を呈する。

ST322 712は肥前系白磁碗である。軸はやや濁っており、灰色を呈する。高台に砂が付着する。

⑧墓群9(第120図)

ST29 713・714は土師器皿である。713の内面底部に明瞭な圏線が廻る。715は土師器小壺である。

ST321 716は土師器皿である。717は肥前系陶器の端反小杯である。外面に縦方向のヘラ描き沈線を施す。718はミニチュア土製品である。外面にわずかに胡粉が残る。719は土製品銚子の



第121図 南地区墓地出土遺物実測図(4)

ミニチュアである。全面に胡粉を塗布する。

S T 315 720は土師器鉢である。器高は低く、底部は平坦になる。721は肥前系磁器染付椀である。高台に砂が付着する。

S K 38 722・723は土師器皿である。724は肥前系陶器椀である。腰の張る椀形で直立する口縁をもつ。725は肥前系磁器仏飯器である。これらの遺物は17世紀後半頃の製品とみられる。

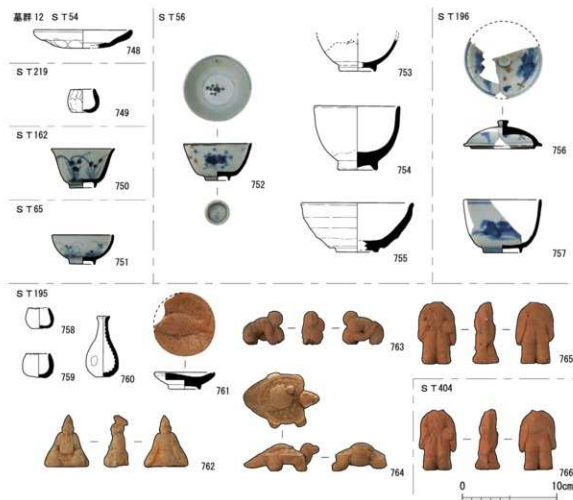
⑨墓群10(第121図)

S T 50 726～728は土師器皿である。729は土師器鉢である。内外面をヨコナデし、底部を糸切りする。730・731は肥前系陶器椀である。730は丸い腰部で高い高台を持ち、高台脇まで鉄袖を施す。17世紀後半頃の製品とみられる。731は削り出しによる低い高台をもつ。16世紀末～17世紀初頭頃の製品と考えられる。732は肥前系磁器染付椀で、外面に草花文を描き、高台内に一条の染付圏線が廻る。

S T 308 733～735は土師器皿である。

S T 303 736・737は土師器皿である。738は肥前系陶器椀である。内面に鉄袖を施す。

S T 305 739は肥前系の白磁椀である。直線的な体部をもつ椀形を呈する。高台に砂が付着する。



第122図 南地区墓地出土遺物実測図(5)

⑩墓群11(第121図)

S T 74 740～743は土師器皿である。

S T 70 744・745は肥前系磁器である。744は壺蓋で、草花文を描く。745は椀で外面に山水文を描く。口縁部と高台外面にそれぞれ2本の圏線が廻る。高台内には一本の圏線と「天明化年」銘をもつ。746は瀬戸美濃系陶器壺である。内外面に鉄軸を施す。

S T 69 747は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

⑪墓群12(第122図)

S T 54 748は土師器皿である。

S T 219 749は土師器小壺である。

S T 162 750は肥前系の磁器である。端反の染付小杯で外面に草花文を描く。

S T 65 751は肥前系磁器染付小杯である。外面に草花文を描く。高台に砂が付着する。

S T 56 752・753は肥前系磁器染付椀である。752は外面と見込みに草花文を描き、高台内に一条の圏線と「天明」銘をもつ。754は肥前系陶器椀である。腰部付近まで鉄軸を施す。755は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

S T 196 756・757は肥前系の磁器である。756は染付の壺蓋で、外面に山水文を描く。つまみは頂部が潰れ、断面逆台形を呈する。757は染付椀で直線的な体部に低い高台が付く。外面に山水文を描く。

S K 195 758・759は土師器小壺である。760は瓶のミニチュアである。底部を糸切りし、外面全体に褐色の釉を施す。761は土製品である。型成形により、皿に乗った鯛を象る。ままごと道具と考えられる。762～765は土製品人形である。それぞれ型成形で762は菅原道真、763は組相撲をする猿、764は亀を象る。765は頭部が欠損しているが、西行像とみられる。

S T 404 766は土製品人形である。765と同じく型成形しており、西行像とみられる。

⑫墓群13(第123図)

S T 415 767は土師器皿である。768は肥前系磁器染付椀である。全面に青磁釉を施し、見込に2本の染付圏線とその中にコンニャク印判で五弁花を施す。18世紀初頭の製品とみられる。

S T 127 769～771は土師器皿である。772～774は肥前系磁器染付椀である。いずれも外面に草花文を描く。772は高台に砂が付着する。775は瀬戸美濃系陶器椀である。細やかな貫入が入る。これらの遺物は17世紀後半の製品とみられる。

S T 210・211 776・777は土師器皿である。778は肥前系陶器椀である。779は肥前系磁器染付小杯である。口縁部は直立し、低い高台が付く。外面に花文を描くが、描かれた花文は線が途切れるなどやや雑で、塗りは輪郭から大きくはみ出す。17世紀末頃の製品とみられる。

S T 215 780～782は土師器小壺である。783～792、796はミニチュア土器である。783～787は肥前系磁器のミニチュアである。783・784は白磁椀である。785は染付椀で外面に網目文を描き、高台に砂が付着する。786は染付皿で、輪花形の体部に低い高台が付き、見込みに草花文を描く。高台に砂が付着する。787は端反の小杯である。高台内に1本の染付圏線とその内に銘をもつ。

銘は呉須がかすれており判読不能である。788は陶器播鉢のミニチュアである。片口の播鉢で4条の播り目を4組ヘラ描きする。内外面に透明釉を施す。789は陶器瓶である。腰部が丸く、外反する体部を持つ。底部はヘラ切りで、外面に褐釉を施す。790・791は瓦質土器羽釜のミニチュアである。791の外面はていねいにミガキが施される。792は瓦質土器風炉のミニチュアである。790・791と1組となるもので、791と同様に内外面をていねいに磨く。793～799は792の内側に取



第123図 南地区墓地出土遺物実測図(6)

まった状態で出土した土器である。793～795は土師器小壺である。796は瓦質土器蓋のミニチュアである。797～799は土鈴である。いずれも紐通しの孔が穿孔される。798は3本、799は4本の曲線が頂部から体部にかけて左回りに墨書きされる。800は土師器壺のミニチュアである。口縁内側に鉄分が付着しており、内部は確認できない。

ST417 801は土師器皿である。

SK416 802は肥前系磁器染付椀で、口径5.3cmと小振りりでミニチュアの可能性がある。外面に草花文を描く。口縁に1本、高台脇に2本の染付圏線を廻らす。

ST230 803は肥前系磁器白磁椀である。

ST213 804は肥前系陶器椀である。腰部付近まで鉄釉を施す。

ST212 805は土製品人形である。全面に胡粉を塗布し、胸付近を緑色の釉で彩色する。

⑬墓群14(第124図)

ST426 806・807は土師器皿である。808・809は土師器鉢である。810は白磁椀である。体部は直線的で外側へ開き、径の小さい高台が付く。口唇部に鉄釉(口紅)を施す。これらの遺物は17世紀後半の製品とみられる。

ST138 811は土師器皿である。812は肥前系磁器染付椀である。外面に草文を施す。口縁に1本、高台脇に2本の染付圏線が廻る。813は肥前系陶器椀である。見込みは深く、低い高台が付く。

ST424 814は肥前系磁器染付小杯である。口縁部は外反し、見込みは深く低い高台が付く。外面に草花文を描く。815は肥前系磁器染付椀である。器壁は直線的で、細い高台が付く。外面に花文を描き、高台に2本、高台脇に1本の染付圏線が廻る。816は土製品の西行像である。前面と背面をそれぞれ型成形し、貼り合わせて作る。中空で、指圧痕が残る。

ST227 817は肥前系陶器椀である。京焼風の肥前陶器で外面に松を描く。818は肥前系磁器染付椀である。器壁は直線的で、外面に草花文を描く。口縁の外面に2本、内面に1本の染付圏線が廻る。

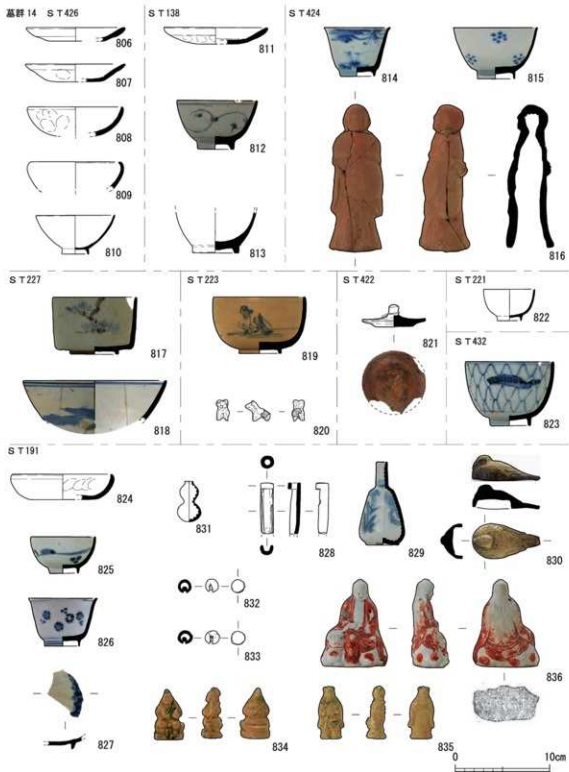
ST223 819は京焼風の肥前系陶器椀である。外面に山水文を描く。高台内に「小松吉」の印銘をもつ。820は犬形土製品である。全長2.6cmで、今回出土した犬形土製品の中で最も小型のものである。

ST422 821は瀬戸美濃系陶器蓋である。壺蓋とみられる。つまみに銅線が1重に巻き付いた状態で遺存していた。壺と蓋を繋ぎ合わせていたと考えられる。底部を糸切りし、墨書で「梵字(キリークカ) 蓮生□ 妙□ □」と書かれる。

ST221 822は肥前系磁器白磁小椀である。

ST432 823は肥前系磁器染付椀である。外面は網目に魚文を描く。高台に2本の染付圏線が廻る。高台に砂が付着する。

ST191 824は土師器鉢である。825～827は肥前磁器である。825は小椀で外面に草花文を描く。826は罐状の小杯で、外面に五弁花を描く。箱状の漆製品が中に入った状態で出土した。827



第124図 南地区墓地出土遺物実測図(7)

は皿で見込みを輪花に押し押す。828は土製品である。割竹形を呈し、片側端部は筒状になる。前面に褐色の釉を薄く塗布する。829は肥前系磁器染付瓶である。直立する頸部と腰部から肩部にかけてすぼまる体部で、低い高台が付く。体部外面に稜線で4つの窓を作り、それぞれに草花文を描く。830は鳥を象った陶器で、底部が方形に窪む。合子の蓋と考えられる。831は瓢箪形を呈する白磁である。832・833は小型の土鈴である。834・835は土製の人形である。いずれも全面に胡粉を塗布し、部分的に緑釉で彩色する。834は並びずである。835は女性で左手にかごを持つ。836は肥前磁器赤絵人形で、文殊菩薩である。型成形で、前面左脇付近と右側の首の付け根に焼成時の割れを防ぐ空気抜き穴が開けられる。底部には布目が残る。

④墓群15(第125図)

S T 444 837～839はミニチュア製品である。837は肥前系磁器白磁碗である。高台脇まで施釉し、高台に砂が付着する。838・839は土製品鉢子である。前面に胡粉を塗布し、口縁端部と取手部を緑色釉で斑点状に彩色する。840は肥前系磁器色絵蓋である。彩釉はすべて剥がれており、絵付けの痕跡が残る。841は瓦質土器の底部である。ロクロ成形し、外面にミガキを施す。底部はヘラ切りする。792のような風炉のミニチュアとみられる。

S T 445 842は瀬戸美濃系陶器志野碗である。腰部付近まで長石釉が掛かる。

S T 446 843は土師器皿である。

S T 180 844は土師器皿である。

S T 228 845は肥前系磁器染付碗である。器壁は弓なりで低い高台が付く。外面に柳を描く。高台に3本、高台内に2本の染付圏線が廻る。

S T 163 846は肥前系磁器染付蓋である。つまみはわずかに外側に開く。外面に草花文を描く。つまみ内に1本の染付圏線が廻り、その中に「太明成化年製」銘をもつ。

S T 235 847はミニチュア土器である。型成形された菱形の皿で、見込みに八弁の花文をもつ。口縁端部はヘラケズリにより面をつくる。全面を透明釉で施釉した後、花文のうち四隅を指す花卉を緑色釉で彩色する。

S T 232 848は肥前系磁器染付碗である。外面に草文を描く。高台に砂が付着する。

その他 849は墓群15の精査中に出土した土製品の人形で、座した老人である。右手に蓮を持つ。全面に透明釉を施す。

⑤墓群16(第125図)

S T 168 850～854は土師器皿である。855は肥前系磁器染付碗である。腰の張る碗形で、やや広い高台がつく。外面は窓の中に山水文を描く。窓の外には網目を描く。高台内には1本の圏線と、その中に「四角に福」を描く。856は灰白色と暗灰黄色の紋胎の碗である。低い高台が付く。高台内に「元秋」と墨書される。857は肥前系磁器染付碗である。口縁部は直立し、外面に花文を描く。

S K 157 858は土師器皿である。

S K 451 859は肥前系磁器染付小碗である。外面に草花文を描く。



第125図 南地区墓地出土遺物実測図(8)

S T 455 860は土師器皿である。墓群 18

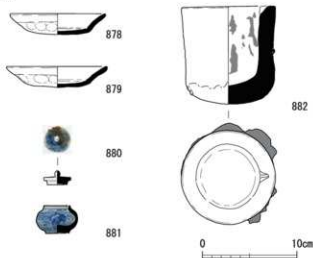
861は土製品で銚子のミニチュアである。

S T 447 862・863は土師器皿である。864は肥前系磁器青磁椀である。高台脇まで青磁釉がかかる。高台内に直径5mm程度の石が付着する。波佐見の製品とみられる。

S T 240 865は肥前系磁器染付椀である。高台に砂が付着する。

S T 250 866は肥前系陶器刷毛目椀である。

その他 867はグリッド a・b 28から出土した椀のミニチュアで肥前系磁器染付である。高台に砂が付着する。



第126図 南地区墓地出土遺物実測図(9)

⑯墓群17(第125図)

S T 81 868～873は土師器皿である。17世紀後半の様相を呈する。

S T 385 874・875は土師器皿である。

S T 388 876は土師器皿である。

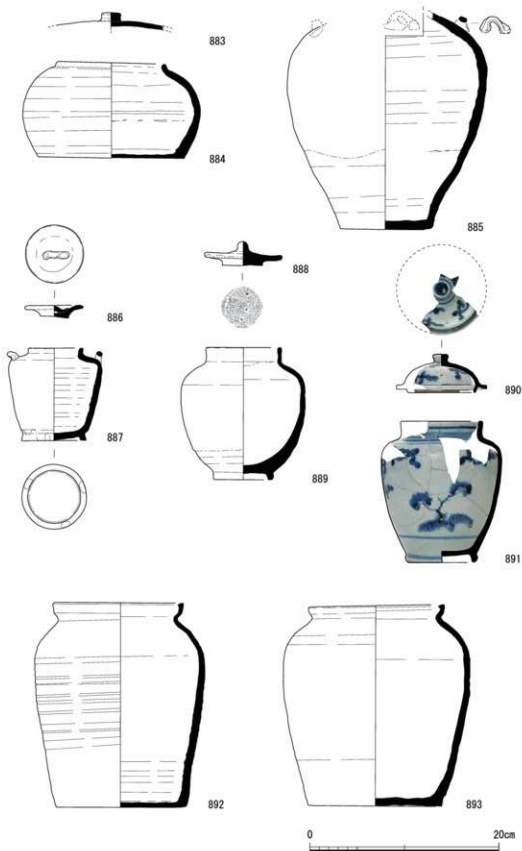
S T 392 877は肥前系磁器染付椀である。器壁は弓なりで、低い高台が付く。外面に山水文を描き、高台外面に2本の染付圏線を廻らせる。高台内に1本の染付圏線と、その中に「天明成化年製」銘をもつ。

⑰墓群18(第126図)

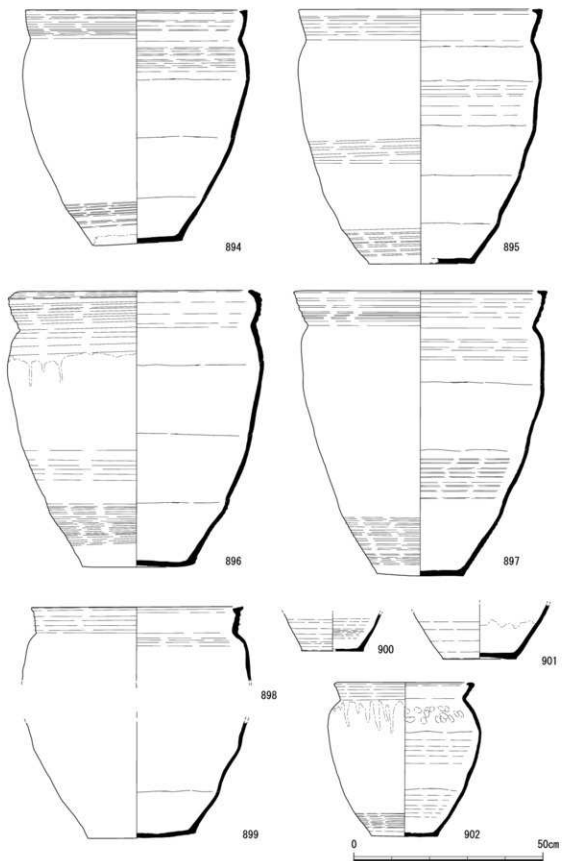
878～882は調査区を東に拡張後、精査中に出土した遺物である。878・879は土師器皿である。880・881は肥前系磁器染付壺のミニチュアである。それぞれ外面に唐草文を描く。882は埴壇である。器壁は厚く筒状を呈し、口縁部に注ぎ口がつく。内面には銅が部分的に付着する。外面下部には鉄とみられる金属が付着するが、内面との金属に違いが生じるため、土中で付着した可能性が考えられる。

⑱蔵骨器(第127図)

883～893は墓地から出土した蔵骨器と考えられる遺物である。883・884はS T 456から出土した土師質土器の蓋付壺で、いわゆる胞衣壺である。885はS T 350から出土した瀬戸美濃系陶器壺である。肩部に上向きの耳を貼り付ける。耳は1か所のみ残存していたが、四耳壺であるとみられる。胴部中央付近まで自然釉が掛かる。886・887はS T 50から出土した瀬戸美濃系陶器蓋付壺である。887の口縁部の立ち上がりは小さく、肩部が張り2か所に上向きの耳が付く。胴部は直線的で広い高台をもつ。高台脇まで施釉される。高台はやや外側に開き、畳付に目跡が3か所残る。886は蓋で、上部中央を窪ませ、中央につまみを貼り付ける。底部は平坦で糸切りする。



第127図 南地区墓地出土遺物実測図(10)



第128図 南地区墓地出土遺物実測図(11)

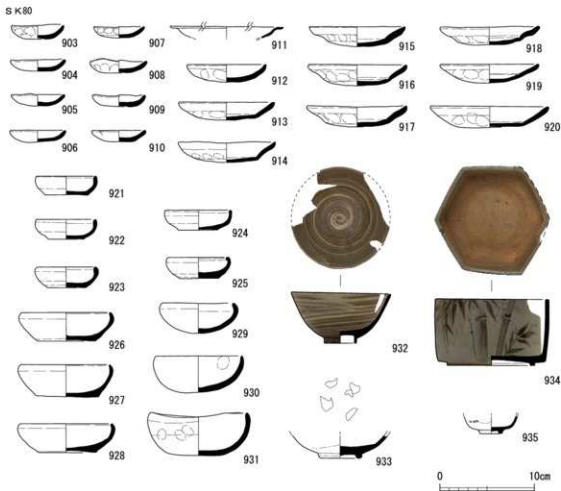
888・889はS T 238出土の瀬戸美濃系陶器蓋付壺である。889の口縁部は直立し、肩が張り弓なりの胴部をもつ。胴部下半まで鉄軸を施す。888は蓋で、上部に鉄軸を施す。底部は糸切りする。890・891はS T 179の上層から出土した肥前系磁器染付蓋付壺である。891の胴部は緩やかに湾曲し広い高台が付く。外面に雲と松を描く。高台は断面三角形を呈する。890は蓋で外面に雲文を描く。17世紀中～後葉にかけての製品と考えられる。892・893はそれぞれ墓群18拡張中とS T 109に出土した信楽焼壺である。

㊤ 甕棺(第128図)

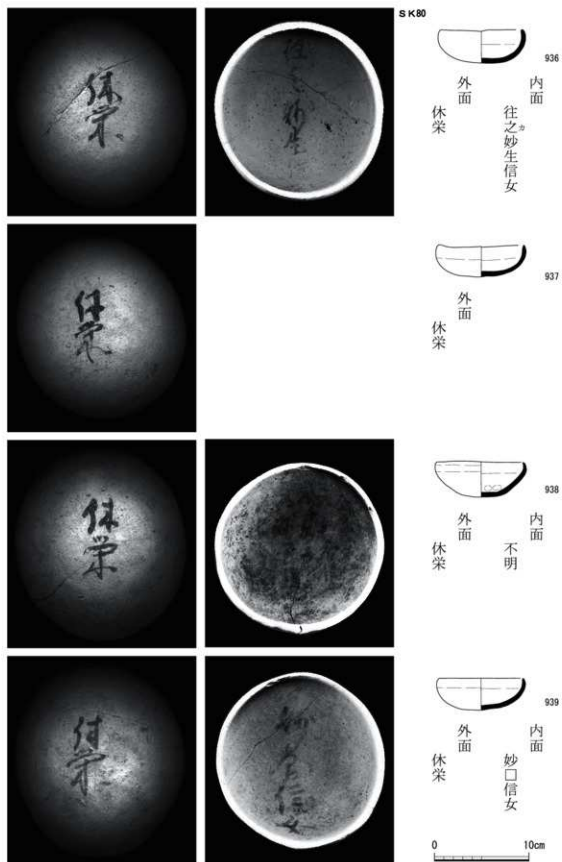
894～902は墓地から出土した甕棺である。894はST29、895はST55、896はST54、897はST49、898はST78、899はST354、900はST240、901はST62、902はST41からそれぞれ出土した。896は備前焼、そのほかは信楽焼とみられる。894・895・897の口縁部は内湾しながら外側上方に伸び、端部を内側に拡張して上方に面をつくる。これらはおよそ17世紀頃の様相を呈する。

(2) その他の遺構出土の遺物

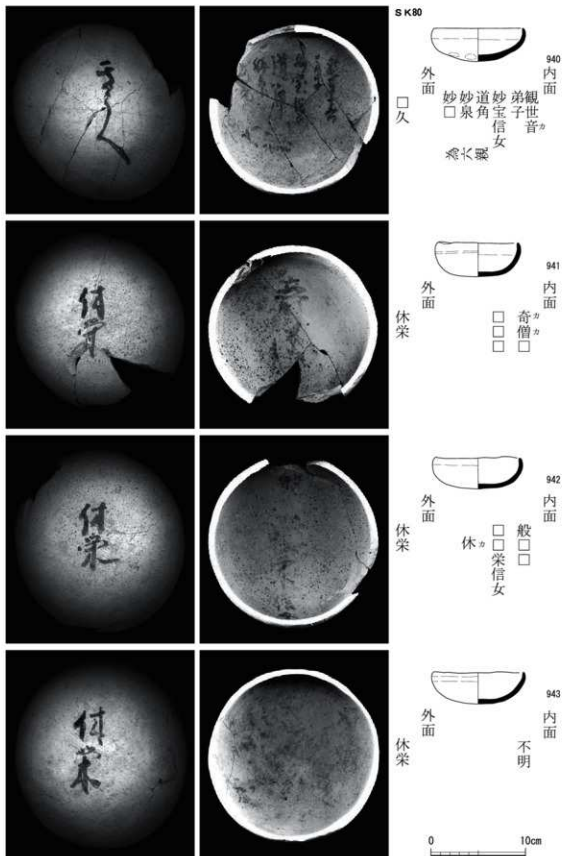
S K 80 (第129～132図) 903～947はS K 80から出土した遺物である。903～920は土師器皿である。911は「て」の字皿で12世紀初頭のものであり、混じり込みとみられる。921～931は土師



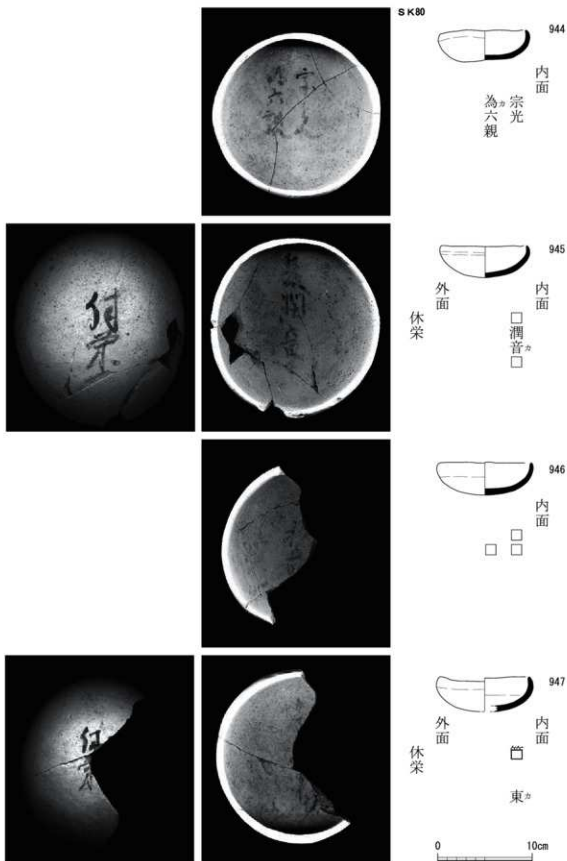
第129図 南地区墓地出土遺物実測図(12)



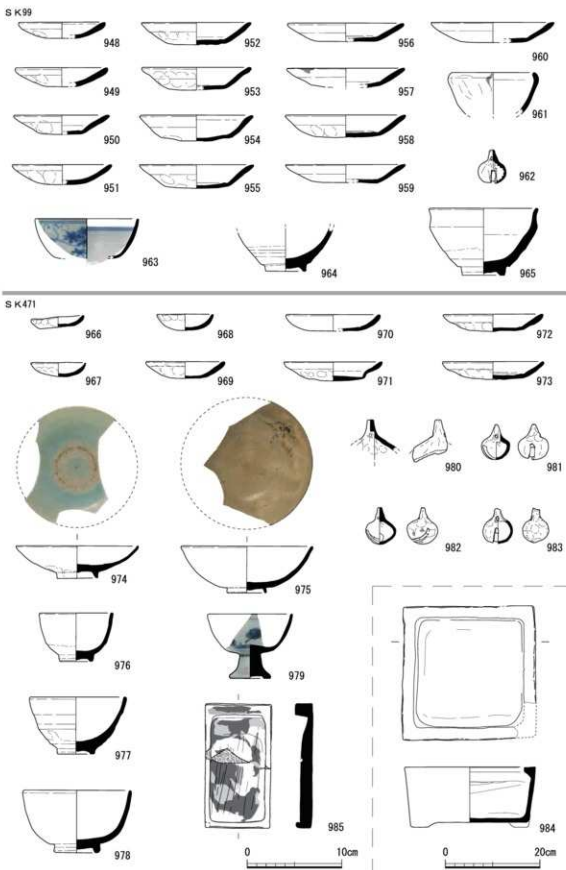
第130図 南地区墓地出土遺物実測図(13)



第131図 南地区墓地出土遺物実測図(14)



第132図 南地区墓地出土遺物実測図(15)



第133図 南地区墓地出土遺物実測図(16)

器鉢である。921～928は口口口成形し、底部を糸切りする。器壁は底部から直線的に立ち上がり、口縁部付近で内湾する。929～931は丸底で、ユビオサエで成形し、口縁部をヨコナデする。932は肥前系陶器刷毛目椀である。933は肥前系陶器椀である。低い高台が付き、見込みに4か所の砂目の痕跡が残る。934は肥前系陶器椀である。六角形の京焼風肥前陶器で、器壁は直立し、低い高台が付く。外面に竹を描き、見込みは蛇の目に軸割ぎされる。935は肥前系磁器染付椀である。腰が張る椀形で、やや内を向く低い高台が付く。

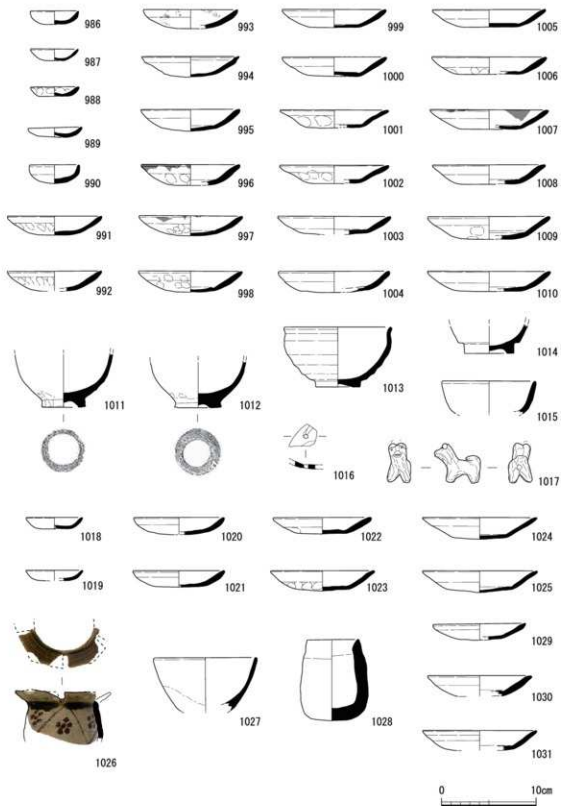
936～947は墨書土器である。器形はいずれも土師器鉢で、丸底のものである。936、938～943、945、947は内外面共に墨書がある。外面の墨書は940を除きすべて「休榮」である。937は外面のみ、944・946は内面のみ墨書される。936は内面中央に「往之妙生信女」と書かれる。938は内面に6行程度墨書されることがずれており解説できない。939の内面は「妙□信女」と書かれる。940は外面に「□久」、内面上方に左から「観世音・弟子・妙宝信女・道角・妙泉・妙□」と横並びで書き、その下に横向きで左側から「為六親」と書く。941は内面中央に「奇僧□」[○]と記し、その横に3文字ほど墨書されるが解説できない。942は右から「般□□」「□□榮信女」「休」[○]と書く。943の内面には不定方向に墨書されるが解説できない。944の内面は右から「宗光」「柄六親」と書く。945は「□潤□□」と書く。946は中央に2文字その左に1文字確認できるが解説できない。947は「□東」[○]と書く。

S K 99 (第133図) 948～965はS K 99から出土した遺物である。948～960は土師器皿、961は土師器鉢である。962は土師質の土鈴である。963は肥前系磁器染付椀である。外面に草文を描く。口縁部内面と外面にそれぞれ2本の染付圏線が廻る。964は肥前系陶器椀である。965は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

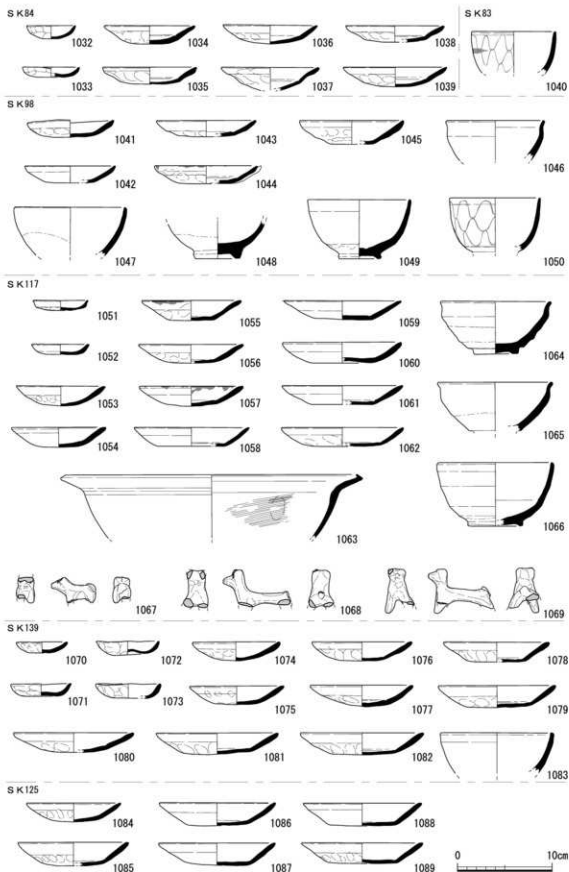
S K 471 (第133図) 966～984はS K 471から出土した遺物である。966～973は土師器皿である。974は肥前系磁器青磁椀である。高台脇まで施釉され、見込みには重ね焼き痕が残る。975は肥前系陶器椀である。京焼風肥前陶器で口縁部はわずかに外反し、低い高台がつく。見込みに鳥を描き、目跡が1か所確認できる。976～978は肥前系陶器椀である。979は肥前系磁器染付仏飯器である。外面に草花文を描く。980～983は土鈴である。いずれも紐通しの孔を持つ。984は土師質の火鉢である。985は石製硯である。視面に墨が付着する。

S E 113 (第134図) 986～1031はS E 113から出土した遺物である。1029～1031は上層の墓石除去中に出土した遺物、1018～1028は下層井戸内掘削中、986～1017は井戸枠除去中に出土した遺物である。986～1010は土師器皿である。そのうち993・996・997は灯明皿で、口縁部に煤が付着する。1011～1013は肥前系陶器椀である。1011・1012は高台を糸切りする。1014・1015は瀬戸美濃系陶器椀である。1016は土師器皿底部の破片である。体部が立ち上がる辺りに焼成後に内側から穿孔される。1017は犬形土製品である。1018～1025は土師器皿である。1026は瀬戸美濃系陶器青織部向付である。口縁部は花卉状で、体部から外側へ大きく開く。体部筒形で、外面を三角形に区画しその中に五弁花を描く。1027は肥前系陶器椀である。1028は焼塩壺である。1029～1031は土師器皿である。

SE113

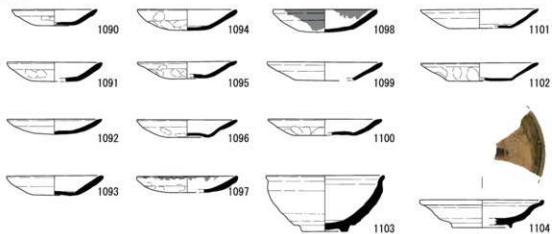


第134図 南地区墓地出土遺物実測図(17)

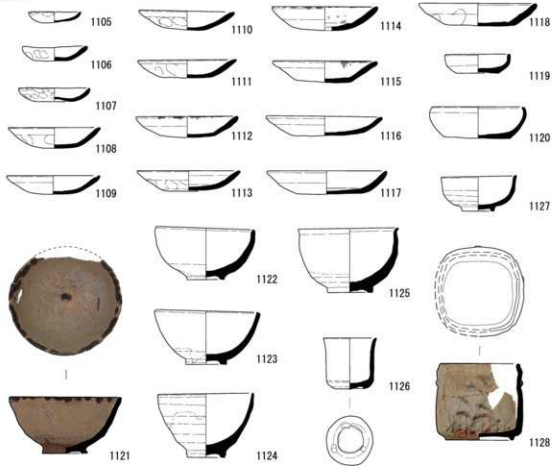


第135図 南地区墓地出土遺物実測図(18)

SK11



SK111



第136図 南地区墓地出土遺物実測図(19)

S K 84 (第135図) 1032～1039はS K 84から出土した土師器皿である。1034～1039には明瞭な圈線が廻る。

S K 83 (第135図) 1040はS K 83から出土した肥前系磁器染付椀である。外面に網目文に魚を描く。

S K 98 (第135図) 1041～1050はS K 98から出土した遺物である。1041～1045は土師器皿である。1046は瀬戸美濃系陶器天目椀である。1047～1049は肥前系陶器椀である。1050は肥前系磁器染付椀で外面に網目文を描く。

S K 117 (第135図) 1051～1069はS K 117から出土した遺物である。1051～1062は土師器皿である。1063は土師器焙烙である。1064～1065は瀬戸美濃系陶器天目椀である。1066は肥前系陶器椀である。1067～1069は犬形土製品である。1068・1069は1067よりひと回り大きい製品である。1067は刺突によって目を表現するが、1068・1069にはみられない。

S K 139 (第135図) 1070～1083はS K 139から出土した。1070～1082は土師器皿、1083は肥前系陶器椀である。

S K 125 (第135図) 1084～1089はS K 125から出土した土師器皿である。17世紀前半の様相を呈する。

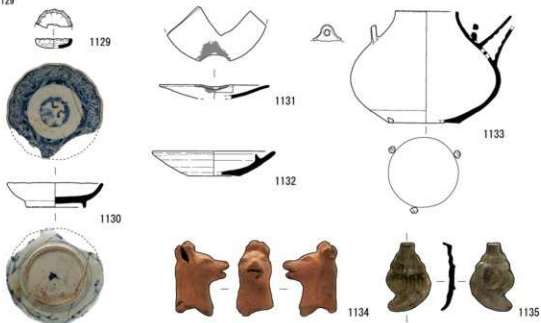
S K 11 (第136図) 1090～1104はS K 11から出土した遺物である。1090～1102は土師器皿である。そのうち1097・1098は灯明皿で口縁部に煤が付着する。1103は瀬戸美濃系陶器天目椀である。1104は瀬戸美濃系陶器青織部折縁皿である。

S K 111 (第136図) 1105～1128はS K 111から出土した遺物である。1105～1118は土師器皿である。1119・1120は土師器鉢で、1120は底部を寛切りする。1121～1125は肥前系陶器椀である。1121は「皮鯨手」の椀で高台脇まで長石軸を施し、口縁部に斑点状に鉄釉を施す。16世紀末～17世紀初頭の製品である。1125は口縁部が外反する。体部は丸みを持つ椀形で低い高台が付く。体部下半までにぶい黄褐色の釉を施す。1126～1128は瀬戸美濃系陶器である。1126は志野椀で高台脇まで長石軸を施す。1127は志野杯で、わずかに外反する口縁部と見込の深い体部をもつ。底部は基筒底で目跡が3か所に残る。1128は志野向付である。平面は四角形で、体部上部に列点を配する。外面には草花文を描く。

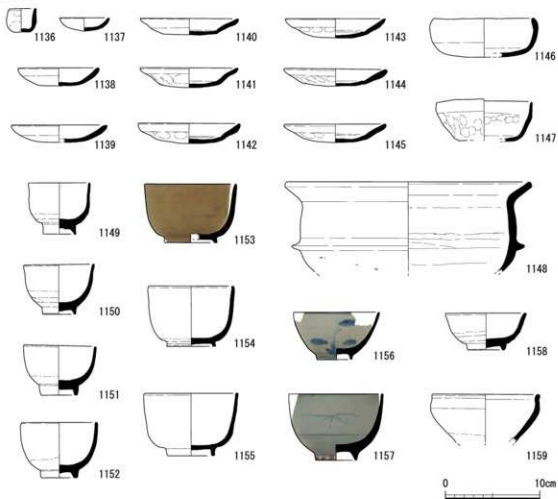
S E 129 (第137図) 1129～1135はS E 129から出土した遺物である。1129は花壇壺である。1130は肥前系磁器染付輪花皿である。内面には見込みに松竹梅、口縁付近に唐草文を描き、外面は唐草文を描く。焼きつきされる。1131・1132は京信楽系の陶器灯明皿である。1131は灯芯受に煤が付着する。1133は青彩の土瓶である。底部付近に円錐状の突起が3か所付く。1134は土製品の狐である。前面と背面をそれぞれ型成形し、貼りあわせる。中空で指圧痕が残る。1135は陶器皿である。型成形し、低い高台がつく。全面に透明釉を施す。これらの遺物は18世紀後半以降の様相を呈する。

S K 178 (第137図) 1136～1159はS K 178から出土した遺物である。1136は土師器小壺である。1137～1145は土師器皿である。1146・1147は土師器鉢である。1147は外面のエピオサエが顕著に

S E 129



S K 178



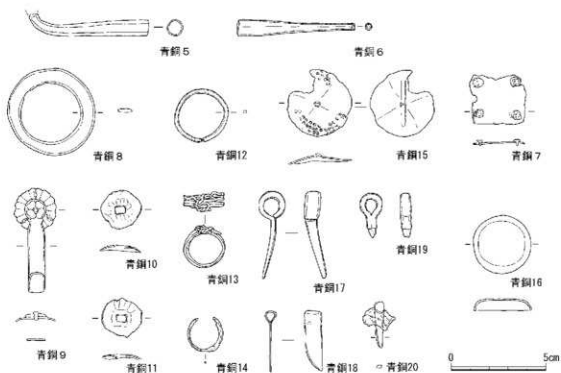
第137図 南地区墓地出土遺物実測図(20)

残り、口縁部は大きく歪む。1148は土師質の羽釜である。1149～1155は肥前系陶器碗である。1149～1152は体部下半まで鉄釉を施す。1153～1155は京焼風陶器である。1153・1154の口縁部は直立し、腰の低い体部に外に開く低い高台が付く。1156・1157は肥前系磁器染付碗である。1158・1159は瀬戸美濃系陶器である。

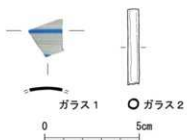
(3) 青銅製品(第138図)

墓地からは複数の青銅製品が出土した。後世の攪乱に伴うものも多く、これらのうち墓穴から出土し副葬品として考えられるものを優先して保存処理を行った。また、報告にあたっても同様な遺物を掲載するようにした。

青銅5・6は煙管である。青銅5は首の長い雁首で火皿が欠損している。青銅6は吸口である。いずれもS T 375から出土しており、同一の煙管と考えられる。17世紀後半の製品とみられる。青銅7は方形の留め金具である。四隅に鉤を打つ。鉤の長さ3mm程度で方形の金具からわずかに突き出る。鉤の頂部は打つ際に潰れて扁平になる。青銅8は断面楕円形の環状の製品である。青銅9は座金具である。16弁の菊花文の金具と4弁の花形金具で、板状金具を挟み込み鎮留する。板状金具の端部は鉤状に折り曲げられる。青銅8・9はS T 193から青銅8に青銅9が入った状態で出土している。青銅10・11は座金具である。中央に方形の穴を穿つ。風化が著しいが、菊花文を表すとみられる。青銅12は断面円形の棒状の製品を環状に丸めたものである。青銅13は銅線で、何かを束ねていたものとみられる。4重に巻き付けたあと両端を振じり合わせて留める。青銅14は「U」字状に曲げられた断面円形の棒状製品である。青銅15は座金具で、上面に魚々子を打ち、中央に円形の穴を穿つ。裏面中央には幅2mm程度の直線の溝が刻まれる。青銅16は釘



第138図 南地区墓地出土遺物実測図(21)



第139図 南地区墓地出土
遺物実測図(22)

隠である。表面は平坦で意匠はみられない。青銅17～19は環状の鋏である。板状の製品で頂部を環状にし、先端が尖る。青銅20は座金具と鋏である。座金具は風化により不定形であるが、円形であったと考えられる。鋏の頂部は平坦で、先端が尖る。

(4) ガラス製品(第139図)

ガラス製品は2点出土しており、いずれも墓地内の遺構から出土している。ガラス1はS T215でミニチュア磁器椀(第123図784)の内側から出土したガラス片である。透明なガラスの外側に白色と青色の板ガラスを横方向に巻き付けたスラッド装飾の製品である。体部はわずかにカーブしており、グラス状であったと考えられる。オランダでヴェネチアングラスを模倣して製造されたいわゆる「ファソン・ド・ヴェニス」である。17世紀前半頃の製品とみられる。ガラス2はS K82から出土したガラス製ホッピンの吹き竿部分である。緑透明の鉛ガラスで、片側端部がわずかに広がる。日本で製造されたガラスである。

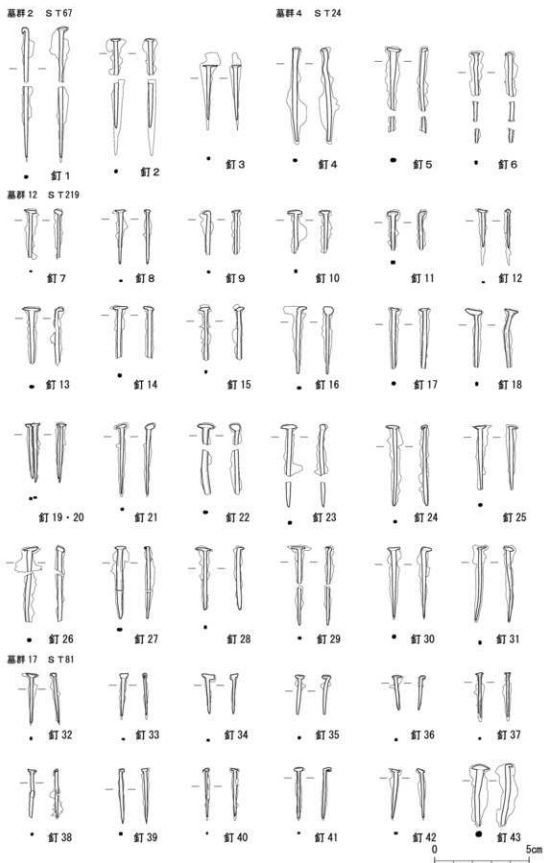
(5) 鉄釘(第140図)

今回の調査で墓地から鉄釘が多数出土した。これらの多くは墓穴から出土しており、木棺に使用されていたと考えられる。そのうち、墓穴のなかで方形に並んで出土し、木棺の形状が復元できるものを優先して保存処理を行った。報告にあたっては、同様に出土状況にまとまりがあり、形状が異なるものを掲載した。また、釘に木質が付着しているものも確認でき、その一部の樹種同定をバリノ・サーヴェイ株式会社へ依頼した(付編1)。

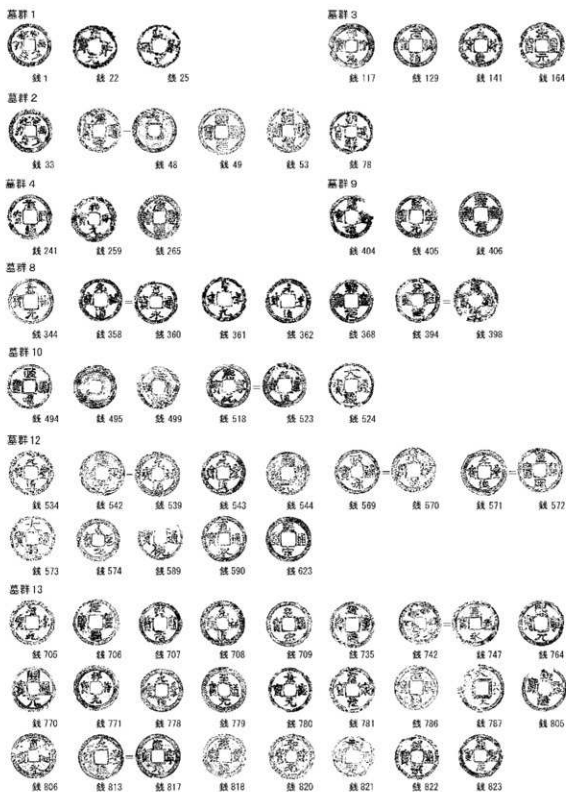
釘1～43は墓地から出土した鉄釘である。いずれも頂部を叩き潰した頭巻釘で、断面は方形である。釘1～3はS K67から出土した鉄釘である。釘1は3寸以上、釘2は2寸以上、釘3は約2寸である。釘4～6はS K24から出土した。先端が欠けるが2寸以上の釘である。釘7～31はS K219から出土した。釘7～22は1寸以上2寸未満で、釘23～31は約2寸以上の製品である。釘32～43はS K81から出土した。釘32～42は1寸以上2寸未満である。釘43は先端部を欠損するが2寸以上になるとみられる。同じ遺構から出土した他の釘と比べて長く、また断面径も大きいため使用したか所が異なるか、混ざり込みの可能性が考えられる。

(6) 銭貨(第141・142図)

墓穴に伴って多数の銭貨が出土した。いわゆる六文銭で、一つの墓穴から複数枚出土するものが多数を占める。銭同士が固着しているものも多く、すべての銭貨の判別は不可能であったが、新・古寛永通寶の他に念仏銭(銭1・33ほか)や渡来銭が含まれる。ひとつの墓穴に5枚ないしは6枚の銭貨を出土する例が多く、少数ではあるが、S T432やS T352のように10枚以上を出土するものも確認できる。念仏銭は7枚が出土しており、そのうち3枚が同じ墓穴から、4枚はそれぞれ別の墓穴から出土した。また、銭1を除き他の銭貨と組み合わせられて出土している。銭貨同士が固着しているものは銭帯で束ねられていた可能性が考えられるが、織維などは確認できなかった。墓穴から出土した銭貨のうち、寛永通寶を除いた念仏銭と渡来銭の保存処理を実施した。報告に

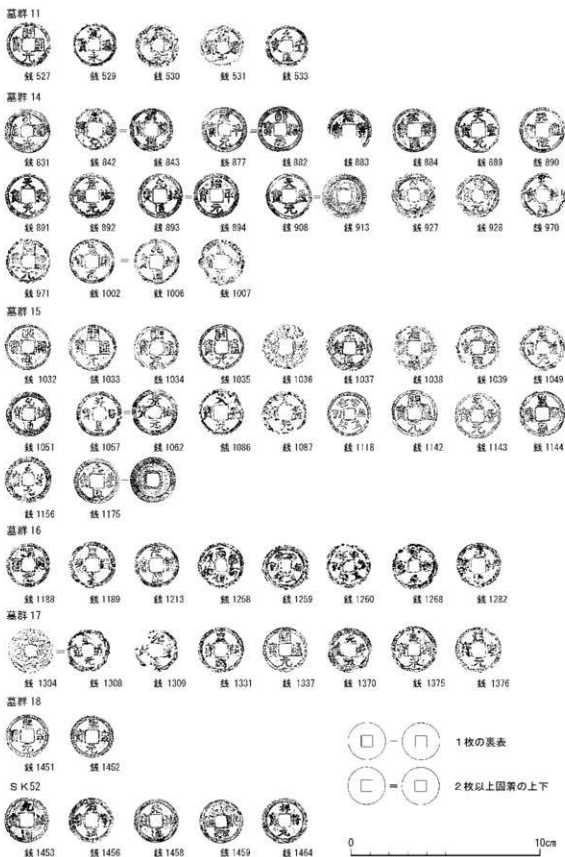


第140図 南地区墓地出土鉄釘



0 10cm

第141図 南地区墓地出土銭貨(1)



第142図 南地区墓地出土銭貨(2)

付表3 出土墓石総数一覧

種類	出土点数
一石五輪塔	408
板碑	74
舟形墓標	78
楕形墓標	11
笠塔婆	27
笠塔婆(笠のみ)	17
舟形五輪塔	3
組合式五輪塔	37
台座	69
石仏	5
不明	29
合計	758

あたっては、墓穴から出土した銭貨の一覧を遺物観察表にて掲載を行った。また、念仏銭と渡来銭のうち保存状態が良好なもの拓本を掲載する。

(7) 墓石

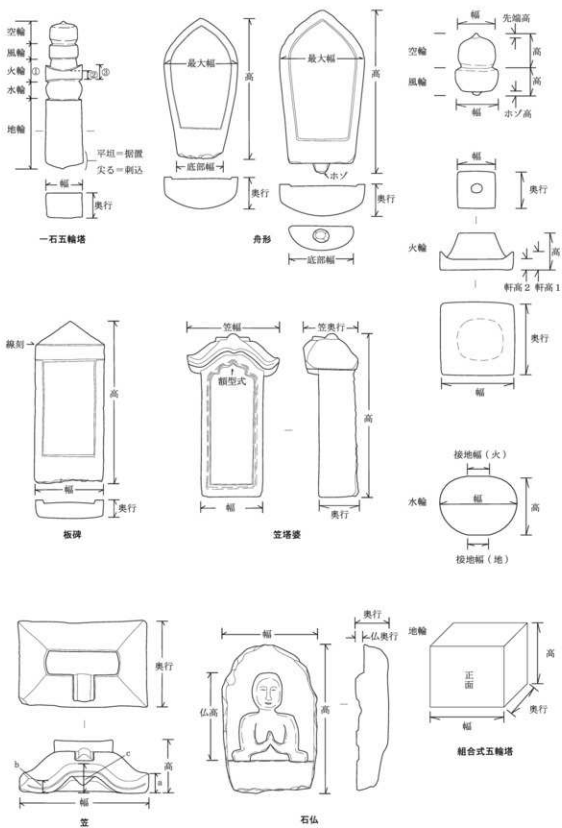
今回の調査で南地区の墓地を中心として、多くの墓石が出土した。墓石には、一石五輪塔・組合式五輪塔・板碑・舟形墓標などの墓標に加え、台座・石仏があり、これらを含めて「墓石」と呼称する。これら墓石の破片を含めた総点数は758基を数える。出土した墓石の内訳は付表3の通りである。これらの墓石は、現地で計測・拓本を行い、一覧表を作成した(付表12)。計測部位については第143図を参照されたい。墓石の多くは、盛り土や土坑中から出土しており、原位置を保っていたものは皆無である。ST127(墓群13)の板碑のように1基のみが墓穴上層から出土した例も見られるが、墓石と墓穴の関係性は不明である。土坑からは複数基がまとまって出土する例が多く、廃棄されたと考えられる。出土した墓石の特徴としてそのほとんどに銘文が刻まれる。刻まれた元号で最も多いのは「慶長」である。年代がわかるもので最も古いものは永禄9(1566)年、新しいものは元禄6(1693)年で、寺院の存続年とおおよそ一致している。銘文の標記方法は、右から左へ向かって元号、戒名、月日と並ぶものが大半を占め、額上や側面に元号・月日を刻むもののみ、元号・月日を縦方向に連続して刻む。戒名の上部に「逆修」を刻む逆修塔は71基出土している。また、銘文に金箔や漆が残存しているものもみられた。

① 墓標の分類

次に墓標の分類について述べる。出土した墓標は外面の形態から、組合式五輪塔・一石五輪塔・板碑・舟形墓標・楕形墓標・笠塔婆に分類した。報告番号として、組合式五輪塔は組、板碑・舟形墓標・楕形墓標・笠塔婆は碑、石仏は仏、台座・水鉢は台を略号として通し番号の前に付与した。それぞれの特徴は以下のとおりである。

組合式五輪塔 空・風・火・水・地輪をそれぞれ別石で加工したものである。各部位合わせて37基が出土した。各部位がばらばらに出土しており、組合せがわかるものはない。石材はすべて花崗岩系である。各部4面共にていねいに成形されており、正面に東方発心門の梵字を刻むものが多いが、四面に梵字を刻むものや梵字を持たないものも認められる。地輪には複数の戒名が刻まれるものがあり、その場合には「三界万霊」や「六親眷属」を合わせて刻むものが多く、家族墓の墓標として利用されたとみられる。最も多いものは8名の戒名を刻む(組20)。戒名が1人のもは第153図組8・組24の2基で、組8に刻まれた戒名は「定秀院休道徳(カ)居士」である。組合式五輪塔で最も古いものは慶長19(1614)年(組8)、新しいものは正保3(1646)年(組19)の銘をもつ。

一石五輪塔 一つの石材で、五輪塔を彫り出したものである。破片を含め408基が出土した。



第143図 石造物の計測名称図

各部の正面に東方発心門の梵字が刻まれる。97のみ漢字で「空・風・火・水・地」を刻む。地輪底部は、地面または台座に据え置いたとみられる平らなものと、地面に刺し込み固定したとみられる成形が粗く尖り気味になるものを確認した。背面の成形は荒く、未調整のものが多い。各部位の形状は様々である。石材は花崗岩系、砂岩系、閃緑岩系が多く、2点のみ笏谷石製が出土している。第146図175は、S K99から出土した笏谷石製の一石五輪塔である。風輪がそろばん石形を呈することや、火輪の軒が明確に表現されないなど、福井県でみられる笏谷石製の一石五輪塔の特徴と一致する。刻まれた紀年は天正20(1592)年である。一石五輪塔で最も古いものは天正6(1578)年(299)、新しいものは元和4(1691)年(67)の銘をもつ。

板碑 頂部の形状は山形で、正面を長方形に彫り下げ額を作る。多くは肩部に1条線ないしは2条線を刻む。背面の成形は荒いものが多い。74基が出土した。頂部は、側面が直線的なもの(第148図碑57)と、大きく反るものがみられる。反るものは肩部から頂部にかけて緩やかに弧を描くもの(第148図碑1)と、肩部直上で強く反り肩部が尖り気味なるもの(第148図碑74)がある。条線は肩部の角と角を結ぶように刻み、2条線の場合はその下側に刻むが、碑74のように肩部角よりやや下側に条線を刻むものもわずかにみられた。側面は、直立するものと、下部が広がるのがみられ、後者が古い様相である。第149図碑87は額内に五輪塔を2基浮彫りし、その中にそれぞれ東方発心門と戒名を刻み、右側の五輪塔に元号、東側の五輪塔に月日を刻む。石材は砂岩系、閃緑岩系がある。板碑で最も古いものは永祿9(1566)年(碑54)、新しいものは寛永13(1636)年(碑168)の銘をもつ。

舟形墓標 平面が舟形を呈するものである。78基が出土した。背面は船底状に丸く成形される。表面を側面と同形状に一段彫り下げて額をつくり内側に銘文を刻むものと、輪郭を持たず、五輪塔を浮彫りするものがある。額内は均一に彫り下げ平坦になるものと、額際に対して中央付近の



第144図 墓標分類図

彫りが浅く、湾曲するものがある。頂部の形状は、肩部が丸みを帯び頂部が突起状に尖るものと、肩部が張り頂部が尖形になるものがあり、また前傾するものと直立するものがみられる。底部は、荒い剝離痕を残し未調整のものと、ホゾが付くものがあり、後者は花崗岩系の石材の製品にのみ見られる。舟形墓標で、最も古いものは天正15(1587)年(碑173)、最も新しいものは元禄6(1693)年(碑171)の銘をもつ。

櫛形墓標 体部は角柱状で側面が直立し、頂部がかまぼこ形を呈するものである。11基が出土した。側面に戒名や年号を刻むものがみられる。正面を1段または2段に彫り下げる。額形式は単純なものと、上部に意匠をこらすものがある。額上部の形式は様々で、一覧表中に図号化して示した。第153図碑41は、頂部の額が1段高くなり、前方につき出る。4人の戒名を刻み、左右額上に2種類の年号を刻む。櫛形墓標で最も古いものは元和1(1621)年(碑15)、新しいものは元禄3(1690)年(碑14)の銘をもつ。

笠塔婆 角柱状の体部に別石で加工した笠部がつくものである。体部は27基、笠部が17基出土した。体部と笠部が別々に出土しており、組合せ関係が判ったものはわずかである。多くが体部上面にホゾ、笠部底面にホゾ穴を設ける。ホゾを持たない体部は笠を伴わない可能性が考えられるが、ホゾ穴をもたない笠部も出土しており、笠塔婆として分類した。第150図碑51のみ体部と笠部が一体となる。笠部は寄棟造りの屋根を表しており、唐破風を表現したもの(第149図笠14)や全体を簡略化したもの(第150図笠15)がある。第152図碑21のように側面に年号を刻むものもある。笠塔婆で最も古いものは寛永9(1632)年(碑92)で、新しいものは元禄5(1692)年(碑27)の銘をもつ。

②台座・水鉢の分類

台座と墓標は別々に出土しているため、セット関係については不明である。また、水鉢部のみの石造品も単体で出土している。台座と水鉢部は合わせて71基が出土した。

出土した台座および水鉢を形式から第145図のように分類を行った。

まず外面の形態からA～Gの7類に分類する。

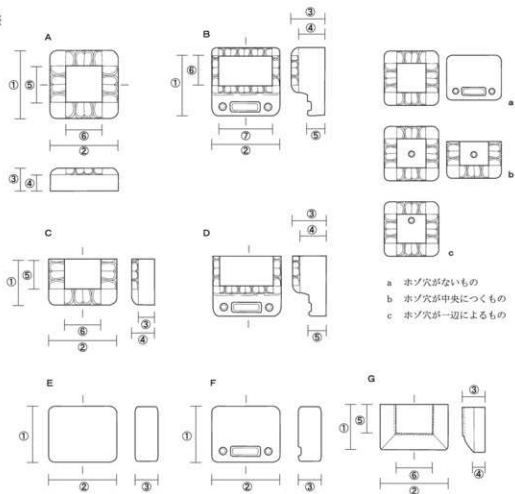
A・B類は4面に反花が施される反花座である。A類の平面は正方形を呈しており、台7・32・48・54が相当する。B類はA類の前面に台座部より一段低い水鉢が付き一体となるもので、台座部の平面は長方形を呈する。台8・27・52がこれに相当する。

C・D類は反花座で、前方及び両側面の3面に反花が施される。背面は直立し、荒い鑿成形に留まる。D類はC類の前面に台座部より一段低い水鉢が付くものである。Cは台3・26・39～44・47・49・55・59・63・64、D類は台14・25・53・56・61・62・69が相当する。

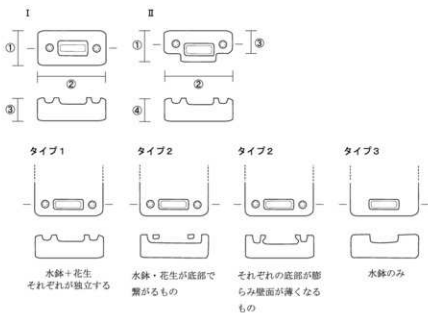
E類は平面・断面ともに長方形となる。意匠がなく最も単純な造形である。中央よりやや長辺寄りにホゾ穴をもつ台16がある。

F類は平面が長方形の台座で、E類の片側長辺寄りに水鉢を設ける。断面は長方形を呈する。前面背面の成形方法は同じであり、水鉢を彫る前段階においては、台座の前後の区別はつけていないと考えられる。台9・12・13・17・18・21・23・24・30・33・50・57・58・60・65・66・

台座



水鉢・花生



第145図 台座模式図

68・70・71が相当する。

G類は前方及び側面3面の椽形座である。上面から前方3面に向かって傾斜する。背面の成形は荒く直立する。断面は台形を呈する。台9・12・13・17・18・21・23・24・30・33・50・57・58・60・65・66・68・70・71が相当する。

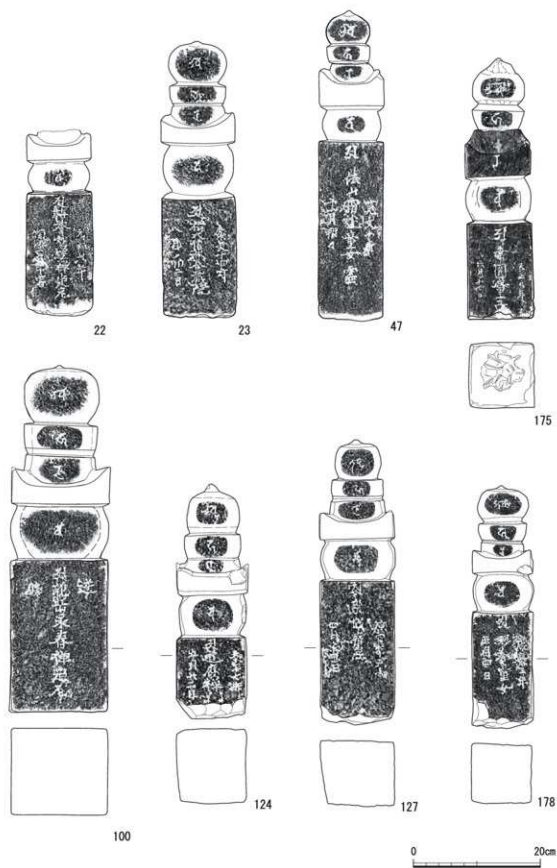
以上が外面の形態からの分類であるが、台座上面にホゾ穴がないものをa類、ホゾ穴が台座部中央に位置するものをb類、ホゾ穴が一辺に寄るものをc類として細分化した。

水鉢・花入のみで構成される石造品は、墓標の前面に直接置くか、台座A・Cの前面に置き利用したと考えられる。これについては、平面が長方形のものをI類(台20・28・34・35)と、花入れに対して水鉢が前面に飛び出し平面が凸形になるものをII類(台51)とした。

また、水鉢・花生は断面の形態から水鉢の両側に花生が付き、それぞれ独立して彫られるものをタイプ1、水鉢の両側に花生が付き、穴の底部付近で互いが繋がるものをタイプ2としたが、水鉢の断面が底部の影らむフラスコ状になり、水鉢・花生間の器壁が薄くなるものもこのタイプに含めた。これらは水鉢と花生で水を共有する目的があったと考えられる。なお、タイプ3は水鉢のみのものである。

③石仏

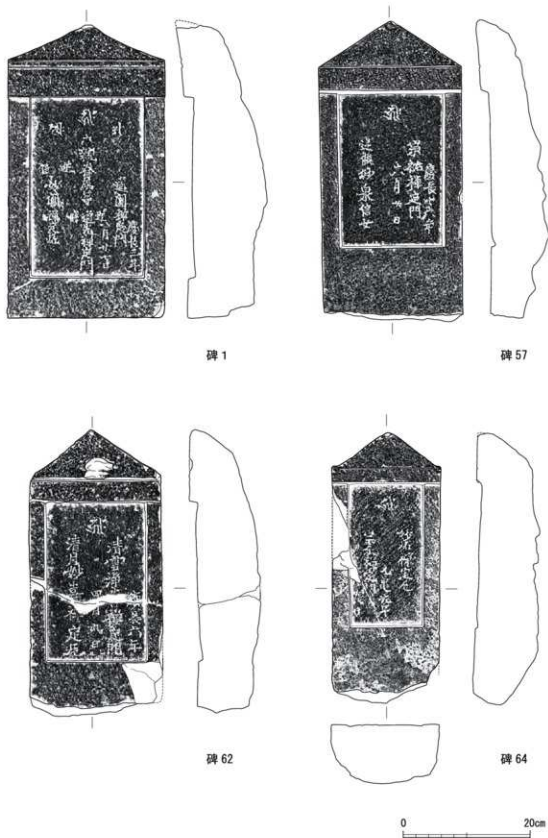
石仏は5基が出土した。仏1は上部のみが出土した。剃髪の像を浮き彫りし、像の口には朱が塗られる。背面は荒い剝離痕を残す。仏4は頭部のみが残る。剃髪の像を浮き彫りする仏2は、中央を方形に彫り窪め、その中に定印を結ぶ阿弥陀像を浮き彫りする。摩滅により顔の表現は不明である。正面下部には額を作らず、台座が表現されていたとみられる。仏3は定印の阿弥陀像を浮き彫りする。像の定印より下部は表現されない。(綾部侑真)



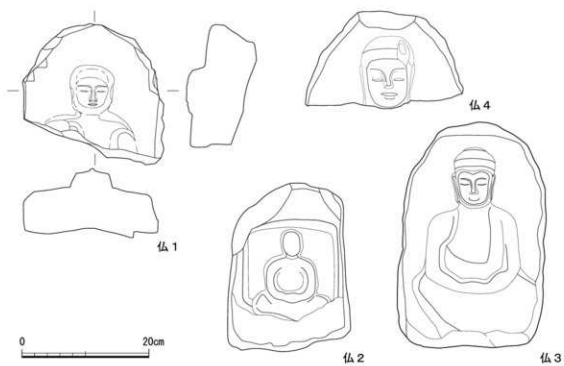
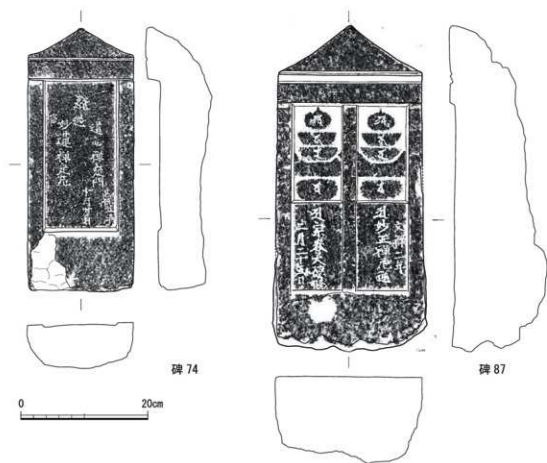
第146図 石造物実測図(1)



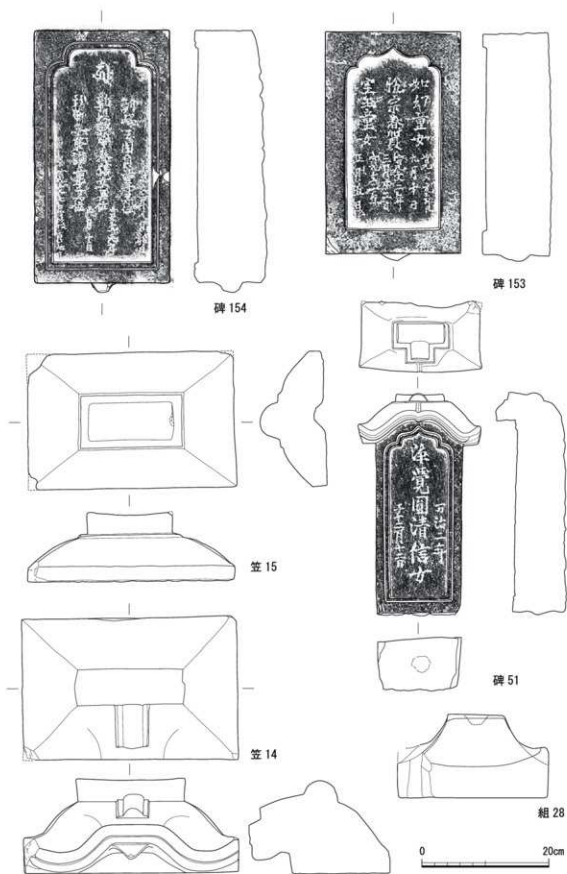
第147図 石造物実測図(2)



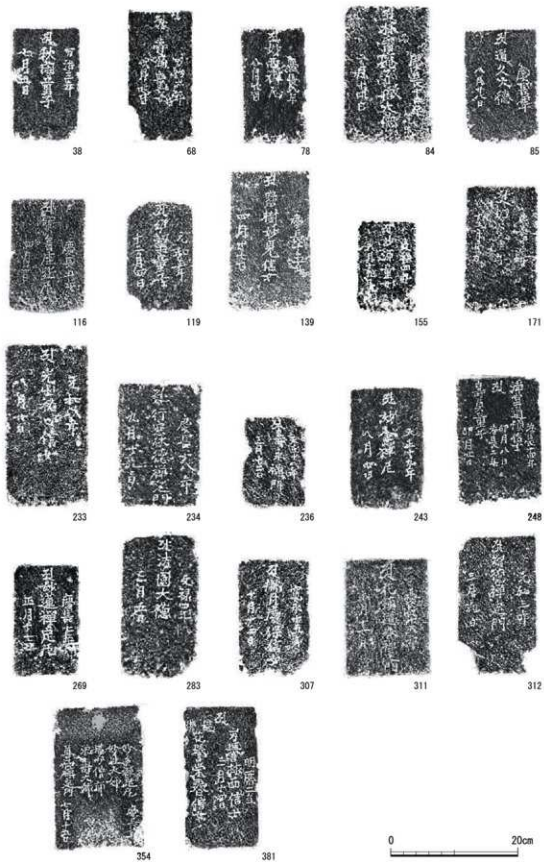
第148図 石造物実測図(3)



第149図 石造物実測図(4)



第150図 石造物実測図(5)



第151図 石造物拓本(1)



碑 26



碑 54



碑 60



碑 63



碑 86



碑 97



碑 148・149



碑 82



碑 83



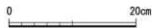
碑 105・106



碑 103・104



碑 142・143



第152圖 石造物拓本(2)



碑 21



組 8



碑 41



組 24



組 30



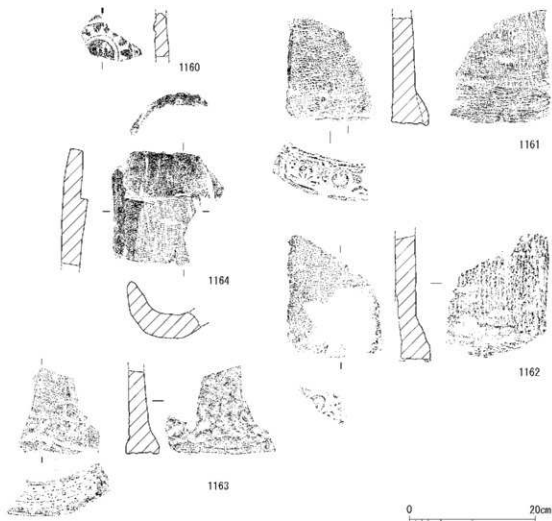
第153図 石造物拓本(3)

7. 京都府教育委員会立会調査出土遺物

京都府立鴨沂高校のグラウンドである北校地において、防球ネット建設工事に伴う立会調査が、京都府教育委員会によって、平成26年7月23日に実施された。当調査研究センター調査地とは、荒神口通を挟んで、北側に位置する。この調査で、法成寺に関連すると考えられる緑軸瓦などが出土した。

1160は複弁蓮華文軒九瓦である。瓦当中央の中房は、蓮子の周囲に圏線が廻る大きめのもので、その周囲を団子状の蓮弁が廻る。さらにその周囲を珠文が廻る。法成寺の瓦を焼成したとされる亀岡市の篠王子瓦窯出土瓦に同文のものがある。この瓦も、法成寺所用の瓦とみられる。焼成は須恵質である。

1161は緑軸半截花文軒平瓦である。瓦当面に一重の圏線を巡らし、その内側に半截花文を上下交互に配している。花文間には珠文を付す。凸面は縄目タタキで、凹面には粗い布目の圧痕が残る。凸面の縄目タタキは縦方向であるが、瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、丹波産の瓦特有のものであることを示す。亀岡市篠王子瓦窯生産出土瓦に同文・同技法のものがあり、同窯で生



第154図 鴨沂高校グラウンドフェンス支柱工事出土瓦

産された瓦とみられる。法成寺関係の瓦と考えられているものである。緑釉は、瓦当面と凹凸両面の瓦当付近に施されている。須恵質の焼成である。1162は緑釉半截花文軒平瓦で、大部分が欠失しているが、1161と文様構成は同じとみられる。凸面には1161と同様の縄目タタキ、凹面には布目瓦痕が残る。同じく亀岡市篠窯業生産遺跡群の王子瓦窯で生産された法成寺関係の瓦とみられる。緑釉は瓦当面と凹面及び側面に施されている。焼成は土師質である。緑釉半截花文軒平瓦については、「法成寺の古瓦」⁽⁸²⁾で、花卉が丸みをもつ9Aと花卉が瘦せた9Bの2種あることが指摘されている。文様形態から、今回出土した1161は9A、1162は9Bにあたるものと考えられる。

1163は唐草文軒平瓦である。瓦当面の周縁内に珠文が巡り、その内側のやや狭目の圏縁内に唐草文を配す。凹面にはやや粗い布目瓦痕が見られ、凸面はタタキをナデ消している。瓦当下面と瓦当裏下半はヘラケズリで、上半はユビオサエのちナデである。1161・1162とは技法が異なっているが、丹波産の可能性も考えられる。時期的にはほぼ同時期と考えられる。焼成は須恵質である。

1164は緑釉丸瓦である。凸面は平滑に調整されるが、焼成前に付いた工具痕が多く残る。凹面には粗い布目瓦痕が残り、屋根葺時に下方の瓦を受けるための段が設けられる。焼成は土師質である。

(引原茂治)

8. 遺構・遺物の検討(総括)

豊臣秀吉は、京都の都市改造のひとつとして、洛中に散在していた寺院を鴨川の西岸に強制移転させ、天正19(1591)年にはほぼ移転が終了し寺町が形成される。その規模は、鞍馬口付近から大仏橋通南側の下寺町までの南北約5kmに及ぶ。その範囲に117を数える寺院が存在した。また、同年に御土居も造営され、このような大改造によって、鴨川から現在の寺町通の間が大きく変貌する。今回の調査地は、寺町旧域の中間付近にあたり、一寺院の詳細が判明するなどの大きな調査成果を得ることができた。以下、項目ごとに検討する。

1) 調査成果と寺町の景観

(1) 調査地内の土地利用について

鴨沂高校敷地内の調査では攪乱の大きく及んでいた北地区においては、土地利用の様子を示す遺構がほとんど存在しなかったことと、南地区の墓域に当たる北地区東側において、墓穴と考えられる遺構を検出することができなかった。また、墓石などの石造物も南地区に比べると包含層中においても極端に出土数が少ない。性格の異なる空間使用が想定される。

中央部の8トレンチ付近は攪乱が多く、寺町期の遺構がほとんど残されていないことと、保存された校舎の下になりその空間利用を明らかにすることができない。

南地区の5トレンチでは時期に渡る真東西方向の道路状遺構1を検出している。長期間道路として機能していたと考えられる。道路の南側では、東部で墓域、西部で建物跡などを検出しており、ここでも土地利用の違いが考えられる。

上記の小規模な道路と調査地北側にある秀吉の築いた御土居の出入り口に通ずる道である荒神口通と寺町通を手掛かりに、絵図との対比を行いたい。

寺町形成後から宝永の大火(1708年)までの時期に当たる寛永14(1637)年の「洛中絵図」では、寺院の敷地規模などが詳細に描かれている。洛中絵図は、江戸幕府京都大工頭中井家によって製作されたもので、寺町・禁裏などの実測は直接中井家が担当したが、他は町方絵図や聞き取り作図などの既成図を収集して書き上げた⁽²³⁾とされている。こうしたことから、絵図は江戸時代前期の信用できる資料として位置づけられる。

第156図は洛中絵図を荒神口通、寺町通を起点に調査地周辺に重ね合わせたものである。鴨沂高校東側の道はその角度とともに絵図と符合する。また、4トレンチで検出した道路も描かれている。絵図によると道幅は2間であり、発掘調査結果と同じ規模を持っている。この道路は学校敷地東側の道路(新島丸通)と交わるが、現道においてもその痕跡を示すようにクランク状に屈曲しており、不自然な景観を呈している。

こうしたことから、第156図で示したように北部地域の場所に草堂(行願寺)があったと考えられる。草堂跡想定地の多くの面積を調査したにもかかわらず、墓穴が確認できないことや出土石造物も少ないのは、草堂が天台宗の寺院で西国三十三所十九番札所であることから、近世になって三十三所巡礼が盛行したため経済基盤が安定し、墓地を経営していなかったことが考えられる。

浄土宗の寺院である専念寺跡想定域では、調査トレンチが小規模で攪乱により遺構がほとんど残っていなかったことや、墓域のあった可能性がある東部が未発掘であるため、寺院の構造などは不明である。専念寺は、天正16(1589)年に開基するが、寺町に移る前の場所などについては不明で、宝永の大火以後に鴨川対岸の西寺町通に移転した。

東西方向の道路を挟んで常念寺跡に当たる部分があり、その南に三福寺がある。常念寺は、永禄8(1566)年に開基した浄土宗の寺院で、その後寺町に移り、宝永の大火以後に鴨川対岸の西寺町通に移転した。三福寺は、五条宮ガ辻から天正年間に寺町に移り、他の浄土宗寺院と同じく宝永の大火以後に鴨川対岸の西寺町通に移転した。

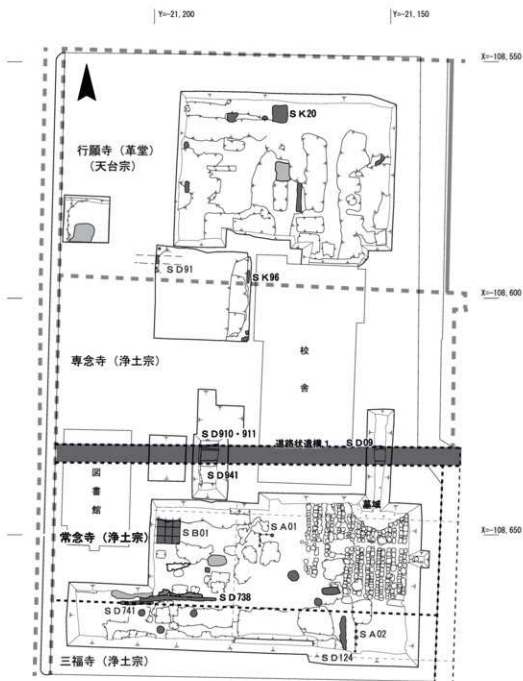
常念寺跡は検出遺構から敷地の東側に墓地、中央部から西に建物のある構造をしていたと考えられる。詳細は次項で検討したい。

三福寺跡は明確な土地区画は認められないが、おおむね墓群の南側では、井戸や土坑が中心で柱穴などが少なく、墓穴がないなど常念寺中心部と異なる遺構分布を示すことから、この地域に三福寺が想定できる。

(2) 常念寺の構造と築造計画

検出遺構平面図に江戸時代の尺度である1間に合わせ、1.8m単位で方眼を切り重ね合わせた。道路状遺構1は主軸が真東西方向であるが、方眼を真東西に合わせると常念寺推定域の遺構の主軸と異なっていることが分かる。

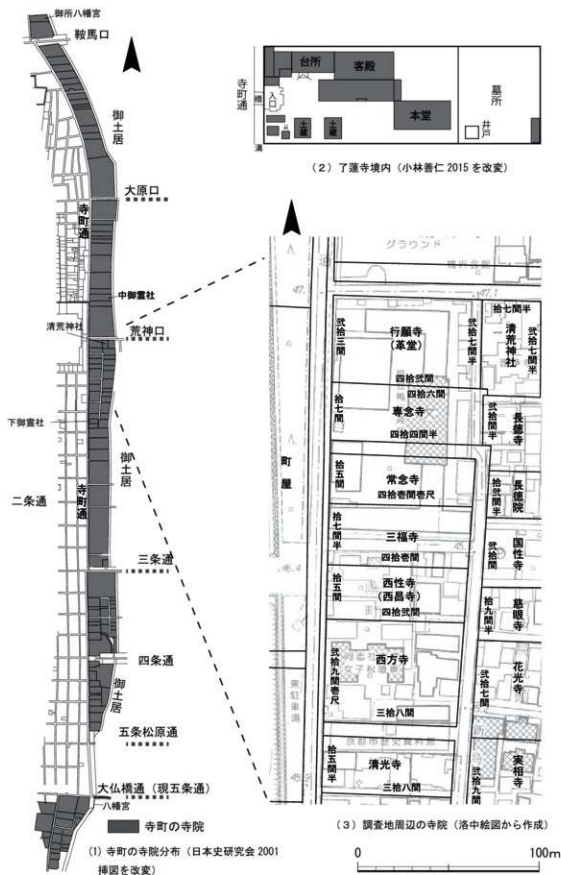
方向が異なることを明確に示す2対の墓穴からなる墓群の中軸に方向に合わせて方眼を掛けた。その結果、多くの遺構が墓群の主軸と同じ東で南に約25°振る軸線やそれと90°で交わる北



- 寺町旧域関連遺構
- 宝永の大火後の片付け土坑
- 落中輪郭
- 遺構配置から復元

0 20m

第155図 寺町旧域復元図



第156図 寺町全体図及び調査地周辺拡大図

で東に2.5°振る軸線上に沿って分布することが分かる。この真北に対して傾きを持つ軸線は新河原町通の傾きと同じである。正式な門があったと考えられるのは真南北を向く寺町通ではなく、寺院の裏側にあたる新河原町通が基準線になっていたことがわかる。

この軸線に沿って各遺構をみていくと、宝永の大火以前の遺構である東西方向に長いS D738やその北側の礎敷S X739やS D741もまた同じ主軸を持っており、寺院敷地西部の建物域においても同じ計画軸が用いられていた可能性が高い。

前項で取り上げた「洛中絵図」に記載されている常念寺の寺町通側の間口を15間で復原すると、道路状遺構1と墓群の南端が15間を超え、矛盾する結果となる。しかしながら、三福寺との境界も新河原町通と同じ振角と同じであれば、寺町に面した間口が15間、新川原町通側が17間程度となり、墓域をすべて包含することになる。

こうした復原案を元にする、S D738またはS D741の付近に寺院境界があり、その境界の北側に通路とも考えられる礎敷S X739が存在する。

寺院の建物については墓域より西側の建物域に想定されるが、S B01や建物の可能性もあるS A01をはじめ柱穴が北側に多くあることから、建物域においても北側に多く建物があつたものと考えられる。

第156図に示した絵図は、明治34(1901)年まで寺町にあった同じ浄土宗の了蓮寺の文久4(1861)年時点の敷地絵図である。同絵図は明治元年に作られ、文久4年の火事以前の建物配置が反映されたものである。江戸時代末期と時期は離れるが、その構造を見ると墓地の位置など共通する点が多い。まず、墓域にはその入り口付近に井戸があり、井戸に通ずる場所には通路状の空地が建物との間に残されている。建物は西側にまつまり、その中でも主要建物が北側に寄っている。こうした共通点の多さは、墓地経営を伴う小規模寺院の構造が江戸時代を通じて大きく変化しなかったことを示していると考えられる。

(中川和哉・岡崎研一)

2) 墓地について

今回検出した墓地は常念寺に付属するものである。墓穴から出土した遺物の多くは、17世紀中頃以降の様相を示し、この地に寺院が建立されたと考えられる16世紀末頃の墓穴を特定することはできなかった。また、墓穴すべてに遺物を伴うわけではなく、墓地の形成された時期を明らかにすることは困難である。しかし、墓穴に先行するような遺構は確認できず、寺院建立時にはすでに境内の裏手を墓地として利用することを想定していたと考えられる。

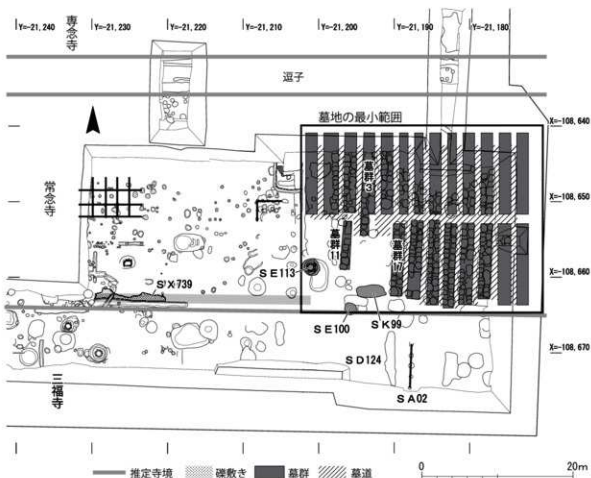
(1) 墓地の規模

今回墓地を区画する施設は確認できなかった。前項で述べたように、墓地は新河原町通を基準線にして計画されたこととみられることから、墓地の東限は鴨沂高校の東堀付近と考えられる。今回最も東側で検出した墓群18と堀の間は約4.0mあり、墓群18の東側にもう1組の墓群を想定することができる。北端は返子付近まで広がる可能性があるが、墓地北側の墓群に南側と同数の墓穴が南北に並ぶと想定した場合、 $X = -108.640$ 付近に求めることができる。墓地の西側は、上層の

削平が大きく残存状況が悪く遺構が明確ではないが、墓群1の西側でも骨片が出土しているほか、ST67を南地区中央付近で検出しており、この付近まで墓地が広がることがわかる。ST67の南側には墓石を転用したSE113があり、SE113までを墓地に含むのが妥当であろう。墓地の南側は、墓石を転用したSE100を南限として想定できる。南側で検出したSD124やSA02の性格は不明であるが、墓群と同じ主軸方位を向いており、墓地に属する施設とは考え難い。

以上のように墓地を復原(第157図)すると、墓地の細小範囲は東西約31m、南北約27mに想定され、22の墓群が存在していたと考えられる。なお、墓群2西端で検出したST67と68については、東西に隣接する墓穴が確認できないことや、ST68と北側のST19の間に約1.0mの距離が開くことから墓群2の南側に位置する墓群11として再構成した。

今回の調査で、337基の墓穴を検出した。上層は削平を受けていたが、墓群12北側では上層遺構とみられるST62を検出した。ST62で出土した甕の底部の標高は、北側に位置するST54に納められた甕の口縁部付近に位置する。このことから墓地は一度盛土をして整理したと考えられる。墓群13では35基の墓群を確認したが、盛土による整理後の墓穴が攪乱により削平されていた可能性が高く、墓地に掘られた墓穴の数は大きく増えると考えられる。



第157図 墓域復元図

(2) 墓地の景観について

第157図で示した墓地の最小範囲内には北側に13、南側に9の墓群が想定される。墓群は北側と東側に固まり、墓群17以西の墓地南西部の南北約10m、東西約11.5mの範囲は比較的遺構が希薄になる。この範囲には井戸SE113・100や墓石埋納土坑SK99があり、墓穴が並ぶ北側や東側とは異なる土地利用の様子がうかがえる。墓地に属する井戸については、水鉢が付属する台座が出土していることから17世紀には墓前に水や花を供える習慣が一般化しているとみられ、墓参りの人のための施設と考えられる。墓地内では、南西部でのみ井戸を検出しており、墓地内の動線を考えると墓群が密集する北側よりも、南側へ入口を設けた可能性が高く、墓地南西部を入口として想定することができる。また、南地区西側で検出した礎敷SX739を東側へ延長すると、ちょうど墓地南西角付近に及び、墓地へ通じる通路と考えられる。墓地内では、各墓前へ向かうためには墓群と墓群の間の墓道を通ることになる。墓道は墓地中央を通る東西方向の墓道を起点として北と南へ枝分かれする。墓道幅は東西方向で約1.0m、南北方向で約0.5mを測るが、後述のように南北方向の墓道はもう少し幅が広がると考えられる。

墓群の配置をみていくと、墓群は基本的に東西墓道を軸として北と南に対称に展開する。同時に墓群も東西墓道をそれぞれの北限・南限とするわけであるが、墓群3のみが東西墓道を塞ぐように南側へ延びる。墓道上に掘られる墓穴は3基で、墓群3西側の墓穴列に沿う。これによって墓道は東西へ分断される形となり、墓地を東西に区画しているとも考えられるが、埋葬方法や出土遺物からは東西で大きな違いを見出すことはできない。それぞれの墓群の造成時期が明確でないため明言はできないが、墓地東側に墓群が集まることや、墓地が寺院裏手から基準線を引いて計画した可能性を考えると、墓群3の西側にある時期の墓地の西限として想定することができる。また、井戸SE113やSE100が設置された時期は17世紀後半以降と考えられるため、このことから17世紀前半段階では墓域が一回り小さく、その後西へ拡張した可能性が考えられる。

墓地南西部入口付近には、墓群11のみが他の墓群から外れて位置している。墓群11は他の墓群が2列1組で構成されるのに対し、1列のみである。出土した遺物からは被葬者の階層を読み取ることにはできないが、墓地入口付近に位置し他の墓群と隣接しないことから、墓群11は特別な区画であったことがうかがえる。入口付近の敷地は墓群11によって2分されるが、墓群11より西側については、今後の墓群造成予定地である可能性が考えられる。

(3) 埋葬の方法

今回検出した埋葬施設としては、木棺、甕棺、蔵骨器を確認した。木棺は遺存状態が極めて悪く、その形状は分からないものが多い。木質や鉄釘が遺存し、木棺が使用されたと考えられるものは50基を数える。鉄釘が出土しているものはいずれも方形の木棺とみられ、鉄釘の状況から木棺の大きさは一辺45cm程度のものと、一辺50cm程度のものが確認できる。木棺の痕跡が確認できなかった墓穴についても、出土した人骨と掘形壁面との間に隙間がみられるものがあることや、墓穴掘形の平面が方形を呈するものが多く規模が一定であることなどから、木棺が使用された可能性が高いと想定される。ST42・70は掘形底部に粘土を貼り、その上に木棺を納めていた。副

葬品に身分を示すものではなく、またその種類もほかの墓穴と差異が認められないため、粘土を敷くことが被葬者の階層差によるものかは不明であるが、S T42は墓群のやや中央付近、S T70は1列で構成される墓群に位置するように、立地に若干の特徴を見出すことができる。

甕棺は7基を確認した。その多くは、人骨の遺存状態は悪く、わずかに遺存するのみであったが、甕棺という大型の容器を用いるため土葬と考えられる。甕棺に納められる副葬品は、銭貨のみが出土するものが多く、陶磁器の碗皿類は認められない。

火葬骨を納めた蔵骨器は、4点出土した。信楽焼甕、瀬戸美濃系陶器壺、肥前系磁器染付壺がある。容器はS T62・350の大型のものと、S T50・179のような小型のものに分けられる。大型の蔵骨器には成人、小型のものには小児が納められており、被葬者の年齢によって器種が使い分けられたと考えられる。また、成人はほぼ全身の骨が納められるのに対し、小児は頭蓋骨のみが納められており、小児の場合は取骨の際に部位の選別されたことが伺える。大型の容器のうちS T63では信楽焼の甕を用いる。底部のみが残存していたが、器高を复原すると0.6m程度になり、甕棺として使用された甕と同器種とみられる。そのほか、蔵骨器として使用されたと考えられる土師質の壺がある。

(4) 副葬品

副葬品には、土師器・陶磁器・人形・ガラス製品・ミニチュア製品・喫煙具・数珠・漆器・銭貨などがある。陶磁器は碗類が多く、日常的な器が多い。木棺の遺存状態が悪く、納めたときの様子は不明なものが多いが、S T195からは縦方向に遺物が重なって出土しており副葬品を何らかの容器に納めていたことが推測される。人骨の間隙や、木棺の底板上から出土する例が多くあり、副葬品の多くは棺内に納められていたと考えられる。一方、S T70では棺外とみられる掘形底部から漆器が出土しており、これは納棺前の葬送儀礼に伴うものとみられる。

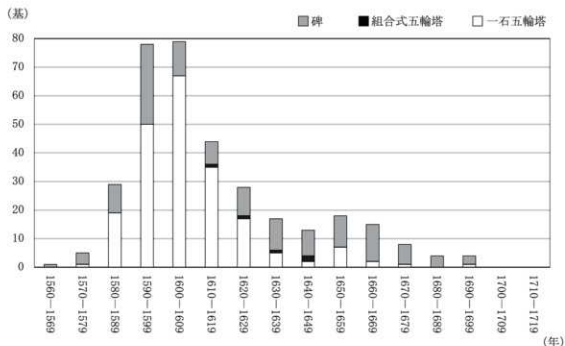
(5) 墓石

今回の発掘調査で出土した墓石の総数は758基である。石仏や、墓標とセット関係が不明な台座・笠部を除くと665基である。また、破片同士が接合したものを1点とし、一石五輪塔の地輪以外の部位の破片を除いた墓石の絶対数は455基である。なお組合式五輪塔はもっとも多く出土した部位の数を絶対数とした。

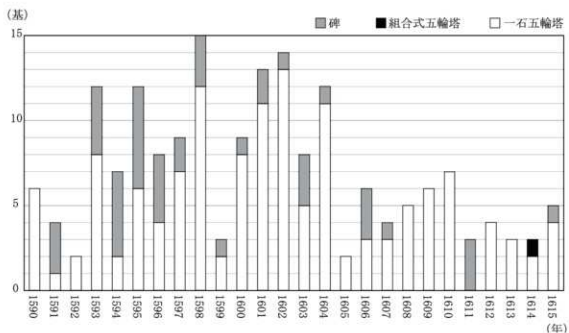
墓石の構成 この455基のうち、紀年銘のあるものは404基を数える。紀年が判別できたもので10年ごとの数量変化を示したものが第159図である。複数の紀年を持つものは、新しい紀年を造立年として用いた。年代がわかるもので最も古いものは永禄9(1566)年、新しいものは元禄6(1693)年である。常念寺が当地へ移転してきた直後と考えられる1590年～1609年までの20年間で最多となり、70基を超える。このことから寺院の移転直後には、寺院内に墓地が付属していたことがわかる。その後造立数は急激に減り、10年後の1620年には30基を下回る。その後はわずかなばらつきがあるものの、時代が下るにつれて徐々に減少していく。造立数の最も多かった1590～1609年の各年の数量変化を表したものが第160図である。1593～1604年までのものがピークで毎年10基程度造立される。この間には文禄5(1596)年に慶長伏見地震、慶長5(1600)年には伏見の

戦いなどが起きているが、それらに起因するような大きな数の変化はみられなかった。

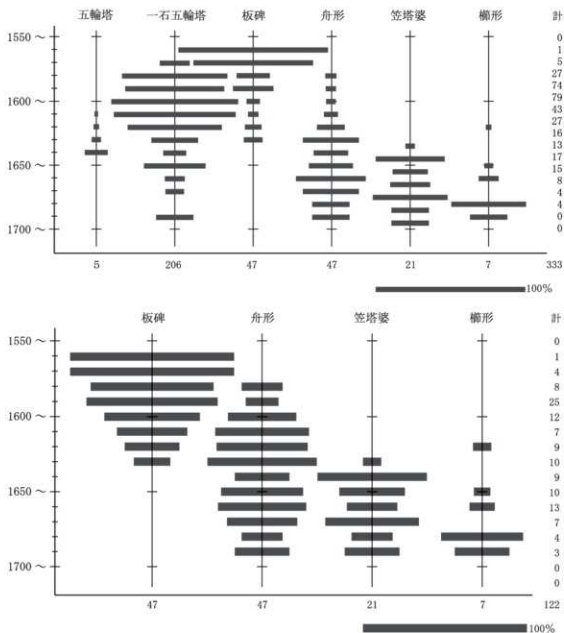
関口慶久氏によると、京都市本圀寺や奈良市元興寺の墓石数は、慶長年間から宝永年間にかけて増加しており、今回のように時期が下るにつれて減少する数量変化が京都や全国における墓石造立数の傾向と一致しているとは言いがたい。異なる理由としては、1620年以降の墓石の多くは、宝永8年の移転時に新しい墓地へと運ばれたため出土しなかったと考えるのが自然である。



第158図 紀年銘墓標の推移



第159図 紀年銘墓標の推移(1590～1609年)



第160図 墓標形式の変遷

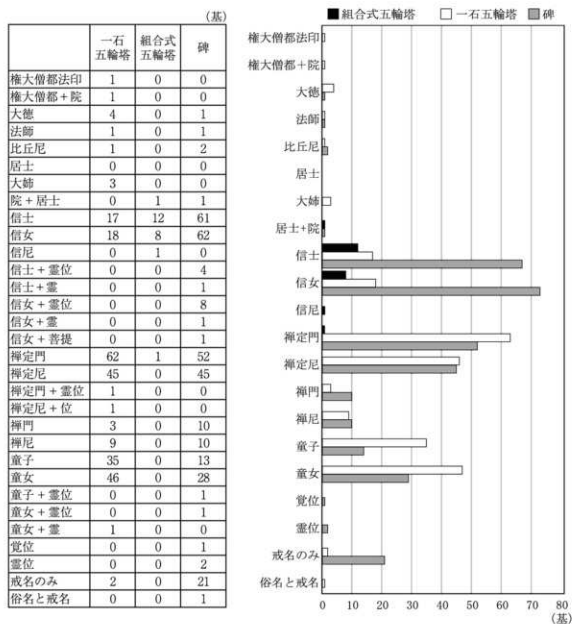
寺町が形成されたとされる天正19年以前の紀年が刻まれた墓石は45基出土している。常念寺が当地へ移転してきた時期は不明であるが、これらの墓石は寺町への移転の際に、以前の墓地から運ばれたと考えられる。したがって、常念寺はもっとも古い永禄9(1566)年ごろには、寺院に墓地が付属していたか、墓地を管理していた可能性が高い。

墓石の変遷 次に墓石の形式とその変遷について述べる。今回確認した石塔・墓標は、組合式五輪塔・五輪塔・板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆の6種類である。それぞれの変遷をセリエーショングラフ化したものが第160図になる。紀年をもつ組合式五輪塔は5基であり、造立は17世紀前半に限られる。一石五輪塔は16世紀後半から確認でき、17世紀末まで存続する。造立数の最盛期は17世紀初頭である。板碑は最も古く1560年代から確認できるが、1570年代からは徐々に

減少していき、17世紀半ばには消滅する。17世紀からは板碑に替わり、舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆が隆盛する。それぞれの出現期は舟形墓標が最も古く16世紀後半から、次いで櫛形墓標・笠塔婆は17世紀前半から確認できる。出土数が少ないものの、17世紀半ば以降はほぼ同比率で出土している。

戒名 出土した墓石に刻まれた戒名は604人分を確認した。それらのうち、位号を中心として若干の考察を試みる。今回出土した墓石は、先述したように、その多くが浄土宗の常念寺に属するものと考えられる。確認できた位号は大きく以下の6通りに分類される。

- ・僧侶の位号(権大僧都・大徳・法師・比丘尼)
- ・居士・大姉



第161図 戒名別使用数量

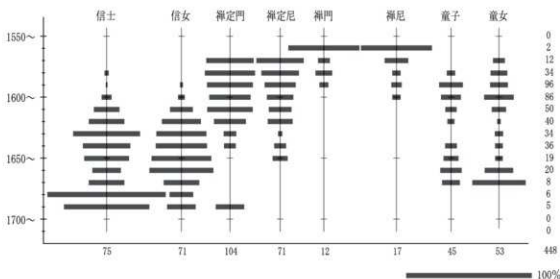
- ・ 信士・信女(信尼)
- ・ 禪定門・禪定尼
- ・ 禪門・禪尼
- ・ 童子・童女

その他、覚位・靈位のような下置字のみのもの、戒名のみ、俗名と戒名の両方を刻むものがみられた。

それぞれの位号の出土数量と墓石の種別ごとに用いられた位号を数値化したものが第161図である。出土量は禪定門・禪定尼の207点(34%)、信士・信女が194点(32%)とほぼ同数で出土量が多く、全体の7割近くを占める。次いで童子・童女が125点(21%)、禪門・禪尼が32点(5%)、僧侶が12点(2%)、居士・大姉が5点(1%未満)である。院号の付くものは僧都と居士があり、その点数は3点と非常に少ない。位号の後に靈位や靈など下置字が続くものは信士・信女に多くみられる。

次に童子・童女、その他を除いた全体の男女比をみてみると、男性が235名、女性が215名ではほぼ同じ比率である。戒名ごとにみると、法師・大徳他9名：比丘尼3名、居士2名：大姉3名、信士95名：信女99名、禪定門116名：禪定尼91名、禪門13名：禪尼19名、童子49名：童女76名である。僧侶や子供でわずかに人数の違いがあるが、その他の戒名では男女比に大きな差はみられない。

位号の変遷 第162図は、最も多い被葬者層である禪定門・禪定尼、信士・信女、禪門・禪尼、童子・童女をセリエーショングラフにしたものである。禪門・禪尼が最も早く、永禄11(1568)年のものが出土している。16世紀前半は禪門・禪尼が主流であったことがうかがえる。その後、16世紀末には消滅する。続いて禪定門・禪定尼が16世紀後半ごろから出現し、17世紀初頭まで主流となる。17世紀に入ると減少し後半に一度消滅するが、17世紀末までは使用が確認される。信士・信女は16世紀末頃から出現し始め、17世紀半ば以降から寺院移転まで主流となる。



第162図 戒名の変遷

今回出土した墓石の紀年はおよそ150年間のもので各戒名の出現期と消滅期を正確に捉えることはできていないが、禪定門・禪定尼、信士・信女においては使用される戒名が短期間に替わるのではなく、半世紀ほど2つの戒名を併用しながら緩やかに入れ替わっていたことが確認できた。

台座 出土した台座は大きく7類に分類した(第145図)。台座のタイプごとの出土量を示したものが付表4である。それぞれの大きさは奥行の平均で、A類：40.8cm、B類：50.1cm、C類：22.8cm、D類：42.5cm、E類：21.2cm、F類：21.5cm、G類：20.9cmを測る。検出した墓穴の掘形規模は70～80cmで、台座はそれよりも一回り小さくなる。出土量が多いものはC・F類で、奥行が短いものが多く使用されていたことがわかる。今回の調査では墓地の遺構面そのものは削平されていたため、正確な墓道幅は不明であるが、検出した隣接する墓群と墓群の間は約50cmと狭く、それを墓道幅と考えるのは難しい。墓道を圧迫しないために、小さな台座を使用していたと考えられる。墓群中央付近に背面を設置するように置くことで、掘形上も墓道として利用していた可能性が高い。

(6) 墓石の片付けについて

遺構に伴う墓石の出土状況は大きく・土坑中にていねいに埋納されたもの、・転用されたもの、・廃棄されたものの3つに分けられる。

ていねいに埋納されたものはS K99がある。S K99からは墓石が4段に組まれた状態で出土した。転用されたものはS E113・100にみられ、いずれも石組の井戸枠に転用されていた。S K99とS E113それぞれから出土した墓石に刻まれた紀年の10年ごとの数量変化を第163図に示した。

S K99から出土した年代がわかる墓石で、最も古いものは永禄9(1506)年、新しいものは寛永5(1628)年である。1600～1609年までのものが最も多く、次いで1590～1599年、1610～1619年と続く。

S E113から出土した年代がわかる墓石で、最も古いものは天正6(1578)年、新しいものは万治3(1660)年である。1590～1599年までと1600～1609年までがそれぞれ10基を超えるが、それ以外は10基を下回り、1基や2基のみの時期もある。S K99が出土量の多い1600～1609年以降は急激に出土数が減るのに対し、大きな数量変化がなく幅広い年代のものが出土している。

S K99とS E113のいずれも、無縁となった墓石の片付けに伴うと考えられるが、S K99から出土した墓石の傾向は墓地全体の出土傾向と類似しており、寺町形成後すぐに造立された墓石のおよそ半数程度を納めたことがわかる。17

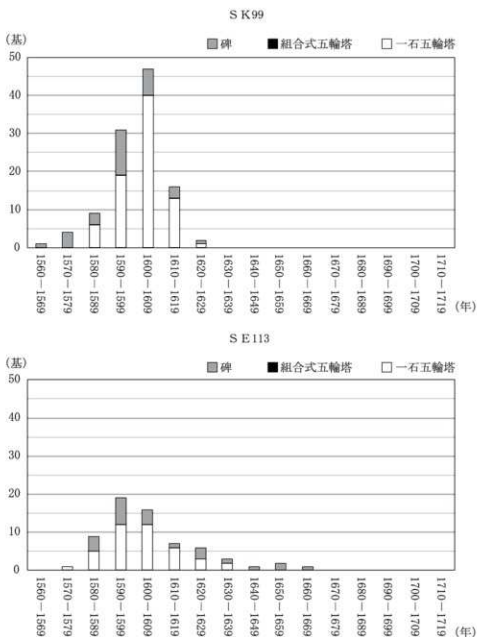
付表4 台座の形式構成

種別	型式	個体数	小計
台座	A	a	4
		b	0
		c	0
	B	a	1
		b	2
		c	0
	C	a	8
		b	3
		c	3
	D	a	3
		b	4
		c	0
	E	a	0
		b	1
c		0	
F	a	7	
	b	11	
	c	0	
水鉢	G	1	1
	I	0	0
	II	0	0

世紀半ば以降のある時期に古くなった墓石の半数程度を計画的に抽出して片づけたことがうかがえる。1560～1579年までの墓石のほとんどはSK99から出土しており、移転に伴って移動した墓石もこのときにまとめて片付けたと思われる。

墓石が廃棄された土坑は、a. 墓群の墓穴列上に掘られ、掘形は墓穴と同規模のもの、b. 墓群を無視し、墓穴を大きく削平して掘られるものがある。aにはSK30・ST50・144・190・42・58などが相当し、2～9基の墓石が廃棄される。掘形底部から人骨や銭貨が出土し墓穴を利用して廃棄された可能性が考えられる。bにはSK42・157・61が相当する。

廃棄に伴う土坑は複数確認できるが、紀年が刻まれる墓石が少なく傾向をとらえるのは難しい。



第163図 SK99・SE113における紀年銘墓標の推移

S K99・SE113を含む主要な土坑から出土した墓石のうち最も新しい紀年をまとめたものが付表5である。bを除くと1630年頃と1660年頃に2つのまとまりを捉えることが出来る。出土した墓標の紀年が遺構の実年代に揃うとはいえないが、寺院における墓石整理の間隔とみる事ができるのではないだろうか。また、この30年間の間に墓石の片付けの方法が埋納から廃棄へと大きく変化すると考えられる。SE113は1660年頃のまとまりに含まれることから、墓石の転用は廃棄と同じ意識で行われていた可能性が高い。時代が下るにつれて増加する一方の墓石に対応して、その処理の片付け方を変化させたと考えられる。

付表5 主要遺構出土墓石の年代

遺構名	紀年	西暦	タイプ
ST190	元和9年	1623	a
SK99	寛永5年	1628	
SK30	明暦4年	1658	a
ST42	万治元年	1658	a
ST58	万治	1658～1660	a
SE113	万治3年	1660	
ST144	寛文12年	1672	a
SK50	延宝7年	1679	a
SK61	元禄3年	1690	b
SK157	元禄	1688～1703	b
SK40	元禄5年	1692	b

(綫部侷真)

3) 出土緑釉瓦と法成寺

法成寺は、藤原道長が、自邸の土御門殿の東側に創建した寺院で、二町四方の広大な寺域であったとされる。北は土御門大路の東側延長部にあたる現在の広小路通、南は近衛大路の東側延長部にあたる現在の荒神口通、西は東京極大路、東は鴨川に面していたと想定されている。当調査研究センターの調査地である京都府立鴨沂高校南校地は、荒神口通より南側であり、推定寺域の外側にあたる。京都府教育委員会の立会調査地である京都府立鴨沂高校北校地は、推定寺域内となる。

法成寺の造営は、受領階級の私的な寄進によって進められたといわれる。藤原道長を頂点とする藤原摂関家との結び付きを深め、成功や加階、重任などの見返りを期待したものである。その一端を示す資料が、丹波で生産された法成寺関係の瓦である。

緑釉半截花文軒平瓦(第154図1161・1162)は、瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、丹波産の瓦特有のものであることを示す。亀岡市篠窯業生産遺跡王子瓦窯出土瓦に同文・同技法のものがあり、同窯で生産された瓦とみられる。同種の瓦は、京都府立鴨沂高校校地内や京都御苑内の京都和風迎賓館建設地などの法成寺推定寺域近辺からも出土しており、法成寺関係の瓦と考えられているものである。半截花文軒平瓦(第26図89)も同種の瓦と考えられる。このほか、緑釉丸瓦(第154図1164)や緑釉を施した瓦片なども出土しており、法成寺所用瓦と考えられる。

唐草文軒平瓦(第26図90・91、第65図585・586)は、背向する「C」字形文を中心とする均整唐草文軒平瓦で、瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、亀岡市篠窯業生産遺跡群王子瓦窯で生産された瓦とみられる。この瓦も法成寺関係の瓦と考えられているものである。この軒平瓦に対になるとみられるものが、複弁蓮華文軒丸瓦(第154図1160)である。瓦当面中央の中房は、蓮子の周囲に圓縁が巡る大きめのもので、その周囲を団子状の蓮弁が巡る。さらにその周囲を珠文が巡る。法成寺の瓦を焼成したとされる亀岡市篠窯業生産遺跡王子瓦窯出土瓦に同文のものがある。

このような丹波産の瓦は、丹波国司等が藤原摂関家との結び付きを求めて法成寺造成に関わったことを物語るものと言えよう。

出土瓦には、12世紀初頭の藤原忠実による宇治平等院の改修時に使用されたと考えられる河内向山窯系の瓦が含まれている。複弁蓮華文軒丸瓦(第65図579)がそれにあたり、中房が二巴文である。その頃に法成寺でも修復作業等が行われたことを物語るものか。両寺とも、藤原摂関家と関わりの深い寺であり、使用瓦にも共通するものがあるとみられる。ちなみに、宇治市平等院旧境内遺跡でも、上記の丹波産と考えられる唐草文軒平瓦と複弁蓮華文軒丸瓦が出土している^(注5)。

以上の法成寺関係遺物でやはり注目されるのは緑軸瓦であり、緑軸瓦の使用が法成寺の大きな特色と言えよう。平安京内で緑軸瓦が重用されたのは、宮内の大極殿や豊楽殿などの主要施設、京内の官寺である東寺・西寺、宇多天皇の仁和寺円堂などで、いずれも朝廷や天皇関連の施設である。藤原道長が天皇の外戚であり、法成寺が大寺であるとはいえ、その性格は、あくまで臣下の私寺である。そのような寺院に緑軸瓦を使用したということは、当時の藤原道長の権勢がいかに大きかったかを物語るものである。

法成寺関係の遺構については、まったく残存していなかった。豊臣秀吉の寺町設置に伴う整地層以下は、河川や河川敷に伴う砂礫の堆積であり、遺構面は認められなかった。当調査研究センター理事の同志社大学教授増田富士雄氏のご教示によると、砂礫の堆積は人工的な盛り土等ではなく、自然堆積ということである。当時の鴨川の河原は単純な平坦地ではなく、大小の張り出しがあったと考えられる。法成寺は今回の調査地より北側の、そのような低位段丘上に位置していたのではないかということであった。

(引原茂治)

注1 この砂礫の堆積状況については当センター増田理事にご教授を得た。

注2 福山敏男・大塚ひろみ「法成寺の古瓦」(『佛教芸術』68 毎日新聞社) 1968

注3 石田孝喜「近世初期の洛中絵図に就いての考察(五)」(『月刊古地図研究』通巻9) 1978

注4 関口慶久「戒名・法名考…奈良・京都の墓標資料から」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第111集 国立歴史民俗博物館) 2004

注5 「平等院旧境内遺跡発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告書』第165冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2016

＜参考文献＞

- 小林善仁「明治初年における京都「寺町」の景観とその変化－『社寺録』『寺地画図』を資料として－」（『佛
教大学総合研究所紀要』第22号）2015
- 京都府立総合資料館所蔵『社寺録』下京之部 1890
- 大槻洋二「京都・新京極の成立母胎としての寺町－伝統都市の近代における歓楽街形成に関する史的研
究その1」（『日本建築学会計画系論文集514』）1998
- 佐藤重聖「伊丹市内一石五輪塔の編年・有岡城跡・伊丹町遺跡第316・317次調査出土花崗岩製一石五輪
塔の評価」・（『有岡城跡発掘調査報告書XⅧ・第316次調査1区・』伊丹市教育委員会）2014
- 日本石造物辞典編集委員会『日本石造物辞典』吉川弘文館 2012
- 福岡孝雄「差別戒名」問題について」（『現代密教』第4巻 智山伝法院）1992
- 白石太一郎・村木二郎編『国立歴史民俗博物館研究報告』第111集 国立歴史民俗博物館 2004
- 土生田純之編『事典 墓の考古学』吉川弘文館 2013
- 西口圭介『近畿の中世墓』（『日本の中世墓』高志書院）2009
- 狭川真一・松井一明編『中世石塔の考古学 五輪塔・宝篋印塔の形式・編年と分布』高志書院 2012
- 池上悟『石塔供養塔論攷』ニューサイエンス社 2007
- 畑中英二「近世信楽における陶器生産」（『湖国21世紀記念事業・陶芸の森解説10周年記念 研究集会「近
世信楽焼をめぐって」報告書』滋賀県立陶芸の森）2002
- 江浦洋「大阪城跡出土の犬型土製品考」（『大阪文化財研究』第18号（財）大阪府文化財調査研究センター）
2000
- 小川望「出土遺物から見る江戸の「タバコ」（『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館）2000
- 安芸徳子「掘り出された人形」（『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館）2000
- 谷川章雄「江戸の墓の埋葬施設と副葬品」（『墓と埋葬と江戸時代』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館）2004
- 嶋谷和彦「出土六道銭からみた近世・堺の墓地と火葬場」（『墓と埋葬と江戸時代』江戸遺跡研究会編 吉
川弘文館）2004
- 江戸遺跡研究会編『図説江戸考古学研究辞典』柏書房 2001
- 井阪康二「六文銭考」（『出土銭貨』4 出土銭貨研究会）1995
- 鈴木公雄「念仏銭・題目銭と六道銭」（『史学』63-3 三田史学会）1994
- 九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』2000
- 『ギヤマン展—あこがれの輸入ガラスと日本』神戸新聞社 2014
- 瀬戸市『瀬戸市史 陶磁史編6』瀬戸市史料編纂委員会 1998
- 小森俊寛「京から出土する土器の編年の研究－日本律令的土器様式の成立と展開、7世紀～19世紀－」（有）
京都編集工房 2005
- 小野晃嗣「京都の近世都市化」（『日本経済史学』）1940
- 新谷尚紀・関沢まゆみ編『民俗小事典 死と葬送』吉川弘文館 2005
- 京都市『京都の歴史4 桃山の開花』京都市史編さん所 1980
- 下中邦彦『京都市の地名』日本歴史地名大系第27集 平凡社 1979
- 中村武夫「豊臣政権の京都都市改造」（『豊臣秀吉と京都－聚楽第・お土居と伏見城』日本史研究会）2001
- 小林善仁「明治初年における京都「寺町」の景観とその変化－『社寺録』『寺地画図』を資料として－」（『佛
教大学総合研究所紀要』22 佛敎大学）2015
- 『仙台城本丸跡1次調査－石垣修復工事に伴う発掘調査報告書－ 第3分冊 出土遺物編』（『仙台市文化財

- 調査報告集第282集」仙台市教育委員会) 2005
- 「南護岸石垣発掘調査報告書」(「国指定史跡 出島和蘭商館跡 - 南側護岸石垣発掘調査・修復復元工事報告書-」第1分冊 長崎市教育委員会) 2010
- 「史跡小田原城跡 御用米曲輪 発掘調査概要報告書」(「小田原市文化財調査報告書第179集」小田原市教育委員会) 2016
- 「伏見城跡」(「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-27」(財)京都市埋蔵文化財研究所) 2007
- 「平安京左京北辺四坊」(「京都市埋蔵文化財研究所調査報告書 第22冊」(財)京都市埋蔵文化財研究所) 2004
- 「堂島蔵屋敷跡—1998年度大阪第5地方合同庁舎建設に伴う福島1丁目所在遺跡発掘調査報告書—」(財)大阪市文化財協会 1999
- 「京の公家町と武家屋敷—同志社女子中・高校静和館地点・校友会新烏会館別館地点の発掘調査—」同志社埋蔵文化財委員会調査報告Ⅰ 学校法人同志社 1994
- 「根来寺坊院跡—剣道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う根来区発掘調査報告書—」(財)和歌山県文化財センター 1997
- 「寺町旧城—真安前之町における埋蔵文化財発掘調査報告書—」(株)イビソク関西支店 2014

付編 1 寺町旧域・法成寺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

本報告では、墓穴内から検出された壺内の堆積物の花粉分析を行うことで、散花などの葬送儀礼の有無が確認できるものと考えた。棺材を留めた鉄釘が出土し、付着した木質部分の樹種同定を実施することで、棺材を特定できるものと考えた。

2. 花粉分析

1) 試料

分析試料は、墓穴である S T 31、S T 49、S T 51 から検出された壺内の堆積物である。試料は、一部に小土塊が含まれる崩れた碎屑物の状態であった。

2) 分析方法

試料 10g について、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mm の篩による篩別、重液(臭化亜鉛、比重 2.2) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 の混合液) 処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンゼリーで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman (1952, 1957)、Faegri & Iversen (1989) などの花粉形態に関する文献や、高倉 (1973)、中村 (1980)、藤木・小澤 (2007)、三好ほか (2011) 等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

3) 結果

産出した花粉化石は、そのほとんどがマツ属である。その他、エノキ属—ムクノキ属、ツガ属、ヤマモモ属、クルミ属、コナラ属コナラ亜属、カエデ属、イネ科を含む。

4) 考察

今回得られた花粉化石群集は、当時の周辺植生を反映しており、供物等に含まれるなど局地的な群集は反映していないと考えられる。従って、今回の結果からは、分析目的である散花などの葬送儀礼の確認について言及することができないと認識される。

3. 樹種同定

1) 試料

試料は、4 トレンチの墓群より出土した棺材に伴う木質が付着する鉄釘 13 点である。試料の詳細(出土遺構、遺物番号など)は、同定結果とともに表 1 に併記したので参照されたい。

2) 分析方法

実体顕微鏡で鉄釘付着の木質について木取り等を観察・記録する。各試料から木片を採取し、

木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を製作する。走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、高地・伊東(1982)やRichter他(2006)を参考にする。

3) 結果

樹種同定結果を表1に示す。1)木取りは、釘が打ち込まれた面を示す。

No.1309には異なる2方向の部材が確

認できた。これら木質は、全て針葉樹で、3分類群(マツ属・スギ近似種・ヒノキ科)に同定された。なお、No.1961、1348、1833の3点と、No.1309の釘頭側の木質は、実体顕微鏡観察で針葉樹であることは確認できたが、木質が少なく、鉄釘と完全に癒着しており、木片が採取できなかったため、種類は不明である。また、No.1834も針葉樹で、小片が採取できたが、保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

(1) マツ属(Pinus) マツ科

軸方向の仮道管は、晩材部の幅が広い。放射組織のうち、柔組織の分野壁孔は窓状となる。柔組織の上下には放射仮道管が認められるが、保存状態が悪く、内壁の鋸歯の有無は不明である。放射組織は単列。

(2) スギ近似種(cf. *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみである。放射組織は柔組織のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列。

以上の特徴からスギが最も近い組織を有するが、樹脂細胞が確認できないなど、組織観察が不十分のため、近似種とした。

(3) ヒノキ科(Cupressaceae)

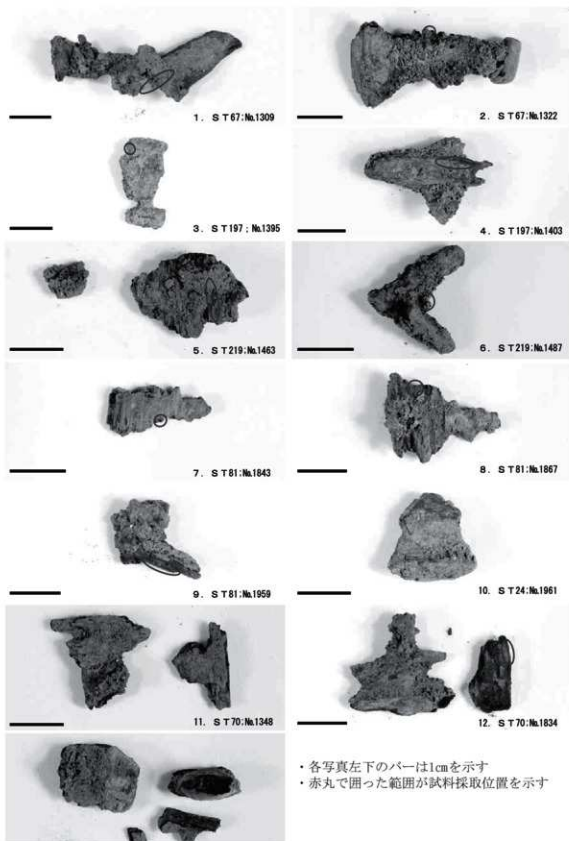
軸方向組織に樹脂細胞と思われる組織が確認できる。放射組織は柔組織のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型と考えられ、1分野に2～3個。

4. 考察

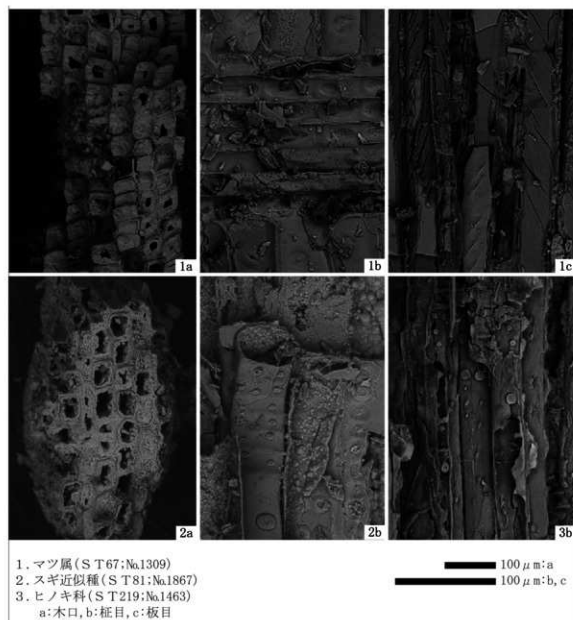
今回の分析試料は、棺材の痕跡(木質)が残る鉄釘である。これらの木質の観察時に鉄釘の刺さる面を確認したところ、木口、柀目、板目の各面に打ち込まれていることが確認された。なお、棺を組み立てる際の鉄釘であれば、2枚の部材が残存している可能性がある。今回の観察では、S T 67のNo.1309に2方向の木質が確認でき、釘頭側が柀目面、先端側が木口面に刺さっている

表1 釘付着木質の観察・同定結果

出土遺構	遺物番号	位置	木取り	種類
S T 67	No.1309	釘頭側	柀目?	針葉樹
		先端側	木口	マツ属
	No.1322	-	柀目	マツ属
S T 197	No.1395	-	板目	スギ近似種
	No.1403	-	木口	スギ近似種
S T 219	No.1463	-	柀目	ヒノキ科
	No.1487	-	木口	ヒノキ科
S T 81	No.1843	-	板目	スギ近似種
	No.1867	-	柀目	スギ近似種
	No.1959	-	板目	スギ近似種
S T 24	No.1961	-	板目	針葉樹
S T 70	No.1348	-	板目	針葉樹
	No.1834	-	板目	針葉樹
S T 69	No.1833	-	柀目	針葉樹



第1図 鉄釘付着木質の全景と試料採取位置



第2図 木質の顕微鏡写真

状況が確かめられた。

このことから、No.1309については、釘頭側が側板、先端側が小口板に由来する可能性がある。また、この状況から、側板、小口板ともに柃目板であった可能性がある。鉄釘の長さとも木質の遺存状況を考慮すると、側板は厚さが約2cmであったと考えられる。この他の木質では、2方向の木質は確認できなかつた。

一方、木質の樹種では、マツ属、スギ近似種、ヒノキ科が認められ、少なくとも3種類の木材が利用されたと考えられる。このうち、マツ属は強度と保存性が高い。スギとヒノキ科は耐水性が高い。いずれも、近世の木棺に利用が確認できる樹種である(伊東・山田,2012)。遺構と樹種との対応関係のみをみると、遺構間において木材利用の傾向は異なるものの、遺構単位では樹種が共通する傾向が指摘される。

引用文献

- Erdtman G. Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I) .Almqvist&Wiksell 1952 539p.
- Erdtman G. Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology, II).Almqvist&Wiksell 1957 147p.
- Faegri K. & Iversen J. Textbook of Pollen Analysis.The Blackburn Press 1989 328p.
- 藤木利之・小澤智生『琉球列島産植物花粉図鑑』アタアコーラル企画 2007 155p.
- 伊東隆夫・山田昌久(編)『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社 2012 449p.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子『日本産花粉図鑑』北海道大学出版会 2011 824p.
- 中村純『花粉分析』古今書院 1967 232p.
- 中村『純日本産花粉の標徴 I II (図版) 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集』1980 91p.
- 小椋純一『京都近郊山地の植生史 植生史研究 5』1990 39-47p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編)『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 2006 70p.
- [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 島地謙・伊東隆夫『図説木材組織』地球社 1982 176p.
- 島倉巳三郎『日本植物の花粉形態 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集』1973 60p.

付編2 寺町旧域・法成寺跡出土の人骨資料

京都大学大学院理学研究科・理学部
中務真人、川田美風、張玉齡、木村奎

鴨沂高校敷地内から発掘された人骨資料は、ほとんどの出土例において骨質が脆弱で、緻密骨表面が剝離している骨が多い。完形で残っている骨はなく、計測に用いることが可能な資料数は限定的である。残された骨の多くは、大腿骨、脛骨など比較的頑丈な四肢骨の骨体部分である。関節が部分的にせよ保存されている資料は非常に少ない。椎骨、肋骨、寛骨、その他手根骨、足根骨、指骨は、骨片としてもほとんど認められなかった。歯牙についても遊離歯のほとんどは歯根、象牙質が失われている。

この報告書には、同定可能な骨の部位、修復前の状態で観察可能な特徴のみを記した。性別については、寛骨、頭蓋骨から判別可能であった個体はほとんどなく、基本的に四肢骨の頑丈性、大腿骨の粗線など筋付着部の発達などから判定した。骨の遺存状態が悪く、発掘調査時に土ごとブロックで取り上げたため、未成年骨と女性人骨の判別など、ブロックから骨の取り上げ後に、見直しがされる点もありうる。

出土人骨には成人が多く、中には著しく大柄な男性個体も見られる。

1) 土葬された人骨

(1) 墓群1

S T 90 成人・性別不明

脆弱な頭蓋骨破片のみ。破断面が破損しているため、接合は不可能と考えられる。

S T 94 成人・性別不明

上下顎の永久歯遊離歯が多数認められる。

S T 95 成人か・性別不明

上顎大白歯のみ。

(2) 墓群2

S T 85 老年・男性

頭蓋骨と四肢骨が残されている。頭蓋骨は、左右の眼窩上部から前頭部を残している。側頭蓋骨、後頭蓋骨が頭蓋内腔に崩れ落ちて、破片として密着している。他に左の下顎体が残されており、下顎体の高さ、切歯の歯槽骨の吸収の程度などから老年と考えられる。側頭蓋骨などの小片が複数あるが、骨質がもろく、断面が崩れており多くは接合不可能である。四肢骨が伴っており、左上腕骨骨体、左大腿骨筋部骨体、左脛骨骨体、右脛骨の骨体が認められる。他は破片骨である。いずれも大型で、男性と思われる。

(3) 墓群3**ST28 成人・性別不明**

頭蓋冠全体を一括して取り上げている。骨質は非常にもろく、土のブロックから取り上げができていない。下顎片が残っており、左側は切歯2本、右側は第2大臼歯の歯槽までを残している。その他、上下の遊離歯が認められ、片側が失われているものもあるが、歯種は揃っていない。四肢骨は伴っていない。

(4) 墓群4**ST197 成人・男性**

四肢骨だけが残されている。上腕骨体、大腿骨体破片が認められるが、計測値をとることはできない。他に同定可能な骨はない。

(5) 墓群5**ST23 成人・男性**

四肢骨と右下顎大臼歯が含まれる。大臼歯については1本しかなく、顎骨の破片も認められないことから、混入している可能性が考えられる。左右大腿骨の他、脛骨の骨体の破片が残されている。他には同定可能な四肢骨片は存在しない。大腿骨のおおよそ中央部(完形の大腿骨は存在しないため。以下、中央と省略して記す。)での前後径30.7mm、横径28.1mmである。頑丈性が強い。頭蓋骨は、頭蓋冠が残されている。骨質が脆弱になっているため、取り上げても接合はできないと考えられる。保存部位はおそらく頭蓋冠のみと思われる。

(6) 墓群6**ST112 成人・性別不明**

頭蓋骨の破片らしい骨片が土に埋もれている。他、遊離歯には、上顎小臼歯と大臼歯が認められる。

(7) 墓群12**ST54 成人・性別不明**

上顎、下顎の遊離歯が多数認められる。同定不能な四肢骨破片しか残されていない。

ST63 成人・男性か

頭蓋骨は一括で取り上げられているが、断片化している。左大腿骨近位部が認められる。他に多くの破片骨があるものの、いずれも同定不能である。大腿骨頭の大きさから、男性の可能性が大きいと考えられる。

ST162 成人・男性か

前歯列、右大腿骨骨体、上腕骨骨体が認められる。その他に多数の骨片が存在するが、断片化しており同定不能である。大腿骨は比較的小さく、中央部の径は、前後径21.4mm、横径24.9mmである。しかし、粗線の発達などから、男性の可能性が高いと考えられる。

ST217 成人・男性

この個体には大型の大腿骨骨体のみが含まれている。骨質が脆弱で破損がひどく、計測値は得

られない。全体的な大きさから男性と考えられる。

ST218 成人・性別不明

四肢骨の骨体のみが残されている。左右の脛骨、左右の判別ができないほど壊れた大腿骨骨体が認められる。断片化が著しい。

(8) 墓群13

ST140 成人・性別不明

二つのブロックに取り上げられている。ひとつは頭蓋骨のみで、顔面部を含む。圧迫を受けつぶれている。上顎左小臼歯2本と大臼歯1本が認められる。もうひとつは頭蓋冠と四肢骨を含むブロックである。この状態では四肢骨の種類を同定できないが、大型の骨が複数含まれている。

ST141 成人・性別不明

頭蓋骨と四肢骨が残されている。頭蓋骨は断片化しており、前頭部、側頭部などが認められるものの、接合は不可能と予想される。その他、下顎骨片、遊離歯が伴う。

四肢骨はいずれも骨体のみで左右の区別がつかないものが多い。上腕骨骨体、大腿骨骨体片、脛骨片が認められる。他は同定できない。

ST205 成人・男性

頭蓋骨と四肢骨が残されている。下顎骨と上顎の一部、四肢骨が埋まった未整理のブロックがある。他に、下顎骨の破片がある。右上腕骨遠位部が残されている。橈骨と尺骨遠位骨体がともに取り上げられているが、断片化が顕著である。右大腿骨骨体と骨頭の一部、右大腿骨骨体が残っている。骨頭が残された大腿骨は珍しいが、骨質がもろく壊れている部分が大いいため、修復は困難と予想される。粗線が著しく発達し、頑丈性が高いことから男性と考えられる。大腿骨の中央径は、前後が27.5mm、横径が28.3mmである。左大腿骨骨体、左脛骨骨体、右脛骨と腓骨の骨体が認められる。他に同定可能な骨片はない。

(9) 墓群14

ST207 成人・性別不明

頭蓋骨は一括して取り上げられているが、その後、2つに割れている。頭蓋底は破損している。写真左のブロックには後頭部と側頭部が残されている。顔面頭蓋は蝶形骨の部分で割れ、右のブロックに含まれている。骨口蓋がほぼ完全な状態で観察されるため、内部には上顎歯列が残っていると予想される。

四肢骨は比較的点数が少ない。大腿骨、脛骨の骨体部破片しか同定できない。

ST201 年齢層不明・性別不明

頭蓋骨と四肢骨の破片が残されている。頭蓋骨片は頭蓋冠の一部だと考えられる。上腕骨体破片は、やや小ぶりである。その他、橈骨骨体破片、大腿骨体破片の骨片が認められるが、破損が激しく断定はできない。

ST202 成人・性別不明

頭蓋と大腿骨を含んだブロック。頭蓋骨は、頭頂部を下に向けた状態で、頭蓋底が破損し頭蓋

冠に向かって落ち込んでいる。下顎骨が関節しているが、下縁に沿って削られた状態で破損している。顔面部は残っていないが、歯列は保存されていると考えられる。大腿骨は2本が残され、骨体中央付近で折れ、近位部が下向きの状態で埋まっている。

ST238 若年か・性別不明

頭蓋骨の破片多数が残されている。骨口蓋が保存されている。歯は大半が失われ、一部歯根のみ残っている。下顎骨左側が残っているが、外側の緻密骨の大部分が破損している。比較的小さく、女性あるいは若年者と考えられる。

(10) 墓群15

ST179 成人・女性

頭蓋骨と四肢骨が残っている。頭蓋骨は小さく断片化している。破片には、側頭蓋骨、蝶形骨などが認められる。比較的大きな断片は右側頭蓋骨と思われる。下顎骨の破片には、後ろから4本の頬歯が残っている。左の頬歯列は、上下とも残っているが、上顎骨は壊れて完全に失われている。成人で、頭蓋骨の大きさなどから、女性と思われる。四肢骨には尺骨の破片、左右の大腿骨骨体破片、左右の脛骨骨体破片が認められる。他の小骨片は同定不可能である。

ST180 小児か・性別不明

四肢骨の骨体破片が認められるが、いずれも断片化が著しく同定不能である。骨のサイズは小さく、これらが比較的残りやすい大腿骨・脛骨などの下肢長骨であるとしたら、小児である。

ST192 成人・女性

頭蓋骨と四肢骨が残されている。頭蓋骨は土に埋もれたままの状態で見つけられている。この状態で保存部位を確認することは難しいが、頭蓋底の一部と頭蓋冠ではないかと考えられる。しかし、観察される部位において断片化、断面の破損が認められることから、多くの断片は接合困難と予想される。四肢骨には、上腕骨骨体の破片、左右大腿骨骨体、右脛骨骨体、左脛骨が認められる。他には同定可能な四肢骨はない。大腿骨の中央径は、前後径26.4mm、横径 24.9mmである。華奢な印象から女性と考えられる。

ST233 成人・性別不明

四肢骨の骨体のみが残されている。脛骨は同定できるが、他は断片化と表面の骨質剥離のため、確実には同定することはできない。いずれも骨質が脆弱である。大きさから成人と判断される。

ST235 成人・男性

四肢骨のみが残っている。骨質はきわめて脆弱で表面が剥がれかかっている。左大腿骨骨体、右大腿骨骨体、左脛骨が認められる。大腿骨の中央径は、前後系が26.3mm、横径が31.1mmである。

(11) 墓群16

ST208 男性・成人

この骨格は、例外的に骨質状態が良好な資料である。頭蓋骨は壊れているものの、下顎骨を含み、多くの成分が残っている。どの程度の接合が可能かは処理がなされていないためまだ不明である。

顔面部は、左右の眼高上縁のやや下から壊れている。上肢骨には、左肩甲骨、左鎖骨、左上腕骨、右上腕骨、それぞれ一緒に取り上げられている左右の桡骨と尺骨、中手骨らしい長骨2本が含まれる。下肢骨では、近位骨端から残った左大腿骨、右大腿骨と腓骨、大腿骨遠位骨端、左右の脛骨骨体、脛骨の骨端、左腓骨、右距骨と立方骨が含まれる。土を落としくリーニングしなければ確認できないが、交連した腰椎、あるいは仙骨のような骨が認められる。大腿骨の中央径は前後が27.8mm、横径が24.1mmである。

S T 239 成人・女性か

頭蓋骨を含む未クリーニングブロックと四肢骨が残っている。四肢骨には、左上腕骨骨体、右上腕骨近位部、左大腿骨骨体片、右大腿骨、左脛骨の骨体、右脛骨の骨体、腓骨骨体が含まれる。右上腕骨の骨頭が癒合せずに失われている。右大腿骨中央径は前後径が25.7mm、横径が26.1mmである。全体的に華奢である。頭蓋骨は、大腿骨骨体片と同じブロックに埋もれている。下顎骨と交連した状態で埋まり、頭蓋の後部がこわされて、口腔を後方から除くような状態で埋まっている。右の歯列はほぼ完全に残っている。第3大臼歯が萌出している。

S T 240 成人・女性

下顎骨片と四肢骨が残されている。下顎骨には大臼歯2本が残っている。四肢骨では、鎖骨、左右の大腿骨骨体、左右の脛骨骨体、右腓骨骨体が認められる。大腿骨の中央径は、前後系が22.3mm、横径が24.0mmである。成熟しているものの、全体的に小ぶりであることから、成人女性と考えられる。

S T 259 未成年あるいは女性

大腿骨骨体破片と小型の脛骨骨体片が含まれる。その他の骨は同定不能な破片のみである。

S T 250 成人・性別不明

脛骨片一つのみが含まれる。

(12) 墓群17

S T 469 成人・女性か

頭蓋骨と四肢骨を含む。頭蓋骨は頭蓋冠を含むブロックと顔面部を含むブロックがある。後者は土に埋もれた状態で確認できないものの、頭蓋底を残しているかもしれない。多数の四肢骨片が伴うものの、小片化したものが多く、同定できるものは少ない。大腿骨破片、脛骨破片、大腿骨骨体、脛骨などが認められる。遊離歯には、上顎切歯、小臼歯、大臼歯が含まれる。四肢骨は小ぶりなもので、女性の可能性が高いと考えられる。

S T 243 成人・性別不明

歯は上顎永久歯の遊離歯のみだが、歯列のほぼ全てが残っている。数本の四肢骨が重なった状態で一括で取り上げられている。骨質は脆弱で表面の破損がひどく、現状では同定は不能である。

(13) 墓群なし

S T 76 成人・性別不明

取り上げ時のブロックに埋まったままの四肢骨(同定不能)が残っている。大臼歯も観察され、

他にも遊離歯が残っている可能性がある。その他、遊離歯として、上顎小臼歯が1本認められる。また、乳臼歯1本が混入している。四肢骨が伴うものの、いずれも骨片であり、同定できるものは無い。

2) 火葬された人骨

墓群4 ST350出土蔵骨器内 成人・性別不明

全身の骨が認められる。顕著な加齢変化は認められない。

墓群10 ST50出土蔵骨器内 小児・性別不明

乳歯列を持つ小児である。頭蓋骨破片が認められる。四肢骨は確認できなかった。

墓群12 ST62 成人・性別不明

全身の焼骨で、老化に伴う骨変形が腰椎などに認められない。頭蓋骨の縫合も比較的明瞭である。成人だが、若いと考えられる。

墓群15 ST179上層出土肥前磁器壺内 子供・性別不明

頭蓋骨破片が認められる。四肢骨は確認できなかった。

付表6 墓穴一覧

(凡例)

・掘形規模の記号 () : 残存長

・埋葬施設の記号 () : 復原長

・釘の記号

・ - : 不明

△ : 出土点数が5本未満 ○ : 出土点数が5本以上

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
382	1b	-	-	-	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (6枚)			不良		
378	1a	-	方形か	0.75 × (0.31)	-	念仏銭 (1枚)			-		
379	1a	土葬	方形	1.08 × 1.22	-	古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (4枚)、染付椀	△		不良		
380	1a	土葬	不明	0.75 × (0.65)	-	染付椀			不良		
381	1a	土葬	方形か	0.93 × (0.60)	木棺		△		やや良好		
90	1a	土葬	円形か	0.71 × 0.65	-	新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)、土師器皿			やや不良	不明	成人
91	1a	土葬	長方形	0.80 × 0.45	-				不良		
92	1a	-	方形	0.72 × 0.70	-	寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (6枚)、染付椀			-		
93	1a	-	円形か 方形	0.71 × (0.54)	-	土師器皿、陶器椀			-		
94	1a	土葬	方形	0.60 × 0.70	-	治平元寶 (1枚)、不明銭貨 (3枚)			不良	不明	成人
95	1a	土葬	方形	0.75 × 0.82	-		△		不良	不明	成人か
96	1a	-	不明	0.78 × (1.00)	-				-		
97	1a	土葬	方形	0.85 × 0.86	-				不良		
374	2b	-	不明	0.75 × (0.51)	-		△		-		
375	2b	土葬	方形	0.99 × 0.95	木棺	漆器椀、燵管 (雁首・吸口)	○		やや不良		
376	2b	-	不明	-	-				-		
377	2b	-	方形か	0.97 × (0.62)	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (3枚)、不明銭貨 (8枚)、土師器皿	△	墓石出土	-		
13	2b	土葬	長方形か	1.04 × 1.03	-		△		不良		
109	2b	-	方形	0.81 × 0.98	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (3枚)、染付椀	△		-		
108	2b	-	方形	0.61 × 0.82	-	朝鮮通寶 (1枚)、拌符通寶 (1枚)、不明銭貨 (3枚)			-		
106	2b	-	不明	0.85 × (0.39)	-				-		
105	2b	-	方形か	1.05 × 0.70	-				-		
107	2b	-	不明	0.71 × (0.52)	-	不明銭貨 (5枚)			-		
18	2b	-	方形か	0.56 × (0.39)	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)、陶器壺			-		
21	2b	土葬	方形	0.85 × 0.69	-	新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)、白磁小杯	△		不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
43	2b	-	円形	0.58 × 0.48	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)、柴付椀			-		
45	2b	-	円形	(0.60) × (0.60)	-				-		
371	2a	-	方形	0.68 × (0.57)	-			墓石出土	-		
372	2a	土葬	方形	0.79 × (0.80)	-	念仏銭 (1枚)、古寛永通寶 (2枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)、漆器			やや不良		
373	2a	-	方形	0.72 × 0.90	-		△		-		
14	2a	-	方形	(0.92) × 1.00	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)		廃棄土坑	-		
88	2a	-	不明	0.73 × (0.93)	-				-		
87	2a	-	不明	0.93 × (0.75)	-	天目椀			-		
16	2a	-	方形	0.72 × (0.90)	-	不明銭貨 (1枚)			-		
86	2a	-	不明	1.06 × (1.06)	-	青磁皿			-		
85	2a	土葬	方形	0.82 × (0.66)	木棺	数珠、磁器椀			良好	男性	老年
47	2a	-	方形	0.60 × 0.50	-	紹定通寶 (1枚)、明道元寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)			-		
19	2a	-	方形	0.87 × 0.87	-	土師器皿	△		-		
66	2a	-	方形	1.05 × 0.91	-			廃棄土坑	-		
68	2a	-	方形	0.50 × (0.75)	-	土師器皿			-		
67	2a	土葬	方形	0.87 × (0.90)	木棺 (0.5) × (0.5)	古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (4枚)	○		不良		
362	3b	土葬	方形	0.96 × (0.67)	木棺	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (1枚)、元祐通寶 (1枚)、不明銭貨 (9枚)	○		不良		
363	3b	-	方形	0.50 × 0.84	-			墓石出土	-		
364	3b	-	不明	(0.94) × (0.65)	-	元符通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)	△		-		
467	3b	-	不明	(1.00) × (0.88)	-	古寛永通寶 (2枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)	△		-		
365	3b	-	方形	0.83 × (0.40)	木棺	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)	○		-		
366	3b	土葬	方形 楕円形	1.06 × (0.70)	-	宋通元寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)、土師器皿、柴付椀	△		不良		
367	3b	土葬	方形 円形	0.90 × (0.73)	-				不良		
368	3b	-	方形	0.88 × (0.89)	-	青銅製品 (座金具)			-		
190	3b	-	円形	1.03 × 1.08	-	不明銭貨 (6枚)、土師器皿		墓石出土	-		
369	3b	-	楕円形	0.85 × (0.72)	-				-		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (数値はm)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
370	3b	土葬	楕円形か	0.91 × (1.76)	-				不良		
104	3b	土葬	方形か	0.79 × 0.91	-				不良		
42	3b	土葬	方形か	(0.90) × (0.87)	-				不良		
55	3b	-	方形	0.92 × 0.92	薬棺			墓石出土	-		
75	3b	土葬	円形か	0.74 × (0.57)	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (3枚)、不明銭貨 (2枚)			不良		
77	3b	-	方形	0.82 × 0.73	木棺	新寛永通寶 (1枚)、□寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (1枚)	○		-		
78	3a	-	楕円形	1.31 × 1.01	-	信楽甕、瓦片			廃棄土坑	-	
354	3a	-	円形か	0.65 × (0.70)	薬棺	土師器皿、ミニチュア土器			-		
355	3a	土葬	方形か	(0.46) × (0.57)	木棺 (0.35) × (0.4)	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (3枚)、不明銭貨 (1枚)、青銅製品、漆細片	-	底部に木質遺存	不良		
193	3a	-	方形	(0.71) × (0.68)	-				廃棄土坑	-	
32	3a	-	不明	1.03 × (1.03)	-				-		
356	3a	-	不定形	0.76 × (0.80)	-				-		
357	3a	-	方形	0.68 × 0.57	-				-		
358	3a	土葬	方形	0.70 × 0.70	-				不良		
22	3a	土葬	円形	0.87 × 0.88	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (3枚)、祥符元寶 (1枚)、不明銭貨 (2枚)			不良		
360	3a	土葬	不明	0.69 × (0.32)	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			やや不良		
103	3a	土葬	不明	0.95 × (0.75)	-				やや不良		
28	3a	土葬	不明	0.94 × (0.85)	-				やや不良	不明	成人
361	3a	土葬	不明	0.82 × (0.80)	-				やや不良		
346	4b	-	円形	0.50 × 0.57	-				-		
347	4b	土葬	不定形	0.92 × (1.05)	-				不良		
348	4b	-	不明	不明	-				-		
349	4b	-	楕円形か	0.75 × (0.97)	-				-		
350	4b	土葬	方形	0.83 × 0.74	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			不良		
		火葬	-	-	戴骨器			上層遺構か	良好	不明	成人
351	4b	土葬	楕円形か	0.84 × (0.84)	-				不良		
35	4b	-	円形	(0.65) × 0.68	-	不明銭貨 (6枚)、土師器皿			-		
36	4b	土葬	楕円形	1.00 × 1.32	-	古寛永通寶 (2枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (3枚)			不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
352	4b	土葬	方形	0.60 × (0.65)	木棺 (0.5 × 0.3)	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (1枚)、元祐通寶 (1枚)、不明銭貨 (15枚)、白磁小杯	-	底部に木質遺存	不良		
353	4b	土葬	方形	0.60 × (0.48)	木棺	祥符元寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)	○		不良		
340	4a	-	円形	0.39 × 0.35	-				-		
341	4a	-	方形	0.68 × 0.84	-	天目碗			-		
342	4a	-	不明	0.57 × (0.42)	-				-		
344	4a	土葬	方形小	0.63 × (0.19)	-	不明銭貨 (6枚)			不良		
343	4a	土葬	方形小	0.78 × 0.87	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (9枚)		墓石出土	不良		
33	4a	土葬	方形	0.63 × 0.58	-	土師器皿、染付碗			不良		
34	4a	-	円形小	0.84 × 0.85	-	古寛永通寶 (2枚)、□寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (3枚)、土師器皿、磁器小杯			-		
156	4a	土葬	方形小	0.92 × 0.86	-	古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (4枚)、漆器	△		不良		
197	4a	土葬	方形	0.75 × (0.52)	木棺 (0.5) × (0.5)	古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (8枚)、数珠、白磁碗、青銅製品	○		不良	男性	成人
24	4b	土葬	方形	1.56 × 1.40	木棺 (0.60) × (0.55)・ 粘土	古寛永通寶 (3枚)、元豊通寶 (1枚)、不明銭貨 (2枚)、土師器皿、陶器碗	○	底部に粘土を敷く 墓石出土	不良		
338	5b	-	円形小 方形	0.56 × (0.58)	-				-		
23	5b	土葬	長方形	0.68 × 1.28	-	古寛永通寶 (5枚)、不明銭貨 (2枚)			全々 不良	男性	成人
60	5b	-	方形	0.74 × 0.86	-				-		
119	5b	-	円形	(0.36) × (0.60)	-	古寛永通寶 (1枚)			-		
339	5b	-	不明	(0.54) × (-)	-				-		
114	5b	-	方形	0.40 × 0.54	-				-		
337	5a	-	不明	0.62 × (0.60)	-						
59	5a	土葬	長方形	0.84 × (1.10)	-	土師器皿・鉢、天目碗			不良		
58	5a	土葬	円形	0.42 × 0.47	-	古寛永通寶 (8枚)		墓石出土	不良		
30	5a	-	円形	0.50 × 0.56	-	陶器皿		廃棄土坑	-		
31	5a	土葬	方形	(0.72) × (0.80)	木棺 (0.44 × 0.47)	土師器皿	-	底部に木質遺存	不良		
26	6b	土葬	長方形	0.65 × 1.09	-	不明銭貨 (1枚)、白磁碗			不良		
159	6b	土葬	方形	0.75 × 0.90	-				不良		
160	6b	土葬	方形	0.82 × 0.70	-				不良		

遺構番号	基群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
110	6b	土葬	方形	0.75 × 0.84	-				不良		
333	6a	土葬	不明	(0.81) × (1.30)	-				不良		
166	6a	土葬	円形	0.58 × 0.53	襖棺				-		
334	6a	土葬	方形	0.85 × (0.68)	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			不良		
48	6a	土葬	円形か	0.98 × (0.72)	-	古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (4枚)、土師器皿		上層で墓石出土	不良		
335	6a	土葬	方形か	0.88 × (0.65)	-				不良		
336	6a	-	方形か	0.73 × (0.21)	-				-		
112	6a	土葬	円形	0.78 × 0.80	-				不良	不明	成人
229	7b	土葬	不明	0.91 × (0.89)	-				不良		
49	7b	土葬	円形	0.71 × 0.81	襖棺			上層で墓石出土	不良		
331	7b	土葬	方形	0.66 × (1.05)	-				不良		
328	7a	土葬	不定形	0.71 × (0.52)	木棺か	古寛永通寶 (2枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (9枚)	△		不良		
329	7a	土葬	方形か	0.62 × 1.05	-	不明銭貨 (6枚)	△		不良		
330	7a	土葬	方形	0.76 × 0.82	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (1枚)			不良		
324	8b	土葬	方形か	0.71 × 0.64	-	不明銭貨 (6枚)		上層で墓石出土	不良		
325	8b	-	不明	(0.36) × (0.77)	-				-		
326	8b	-	不明	(0.40) × (1.00)	-	古寛永通寶 (2枚)、新寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (1枚)			-		
41	8b	-	円形	0.43 × 0.30	襖棺				-		
327	8b	-	円形か	1.20 × (0.60)	-				-		
322	8a	土葬	方形	0.82 × (1.04)	-	古寛永通寶 (4枚)、新寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (6枚)			不良		
323	8a	-	方形か	0.76 × (0.63)	-	古寛永通寶 (1枚)、景祐元寶 (1枚)、不明銭貨 (3枚)、白磁碗			-		
40	8	-	円形か	(1.90) × 1.65	-	古寛永通寶 (4枚)、新寛永通寶 (1枚)、元豊通寶 (1枚)、熙寧元寶 (1枚)、不明銭貨 (1枚) 土師器皿。陶器碗、犬形土製品		魔楽土坑	-		
318	9b	-	方形か	0.90 × (0.80)	-				-		
319	9b	土葬	楕円形	0.71 × 1.10	-		△		不良		
320	9b	土葬	不明	0.71 × (-)	-				不良		
321	9b	土葬	方形か	0.70 × (0.89)	木棺	新寛永通寶 (3枚)、不明銭貨 (7枚)、土師器皿、ミニチュア土器	○		不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
38	9b	-	楕円形 か	1.17 × 1.63	-	土師器皿、染付仏飯器	△	廢棄土坑	-		
315	9a	土葬	不定形	0.80 × (0.90)	-	不明錢貨 (5枚)、土師器鉢、 磁器碗			不良		
29	9a	土葬	円形か	0.98 × (0.93)	襖棺	新寛永通寶 (1枚)、熙寧元 寶 (2枚)、不明錢貨 (10枚)、 土師器皿・小壺			不良		
316	9a	土葬	長方形	0.64 × 1.02	木棺	古寛永通寶 (4枚)	○		不良		
317	9a	土葬	楕円形	0.69 × 1.22	-	古寛永通寶 (1枚)、□寛永通 寶 (1枚)、不明錢貨 (4枚)			不良		
308	10b	土葬	方形	0.79 × 0.68	-	古寛永通寶 (4枚)、新寛永通 寶 (1枚)、政和通寶 (1枚)、 不明錢貨 (19枚)			不良		
309	10b	-	不明	0.80 × (0.12)	-				-		
310	10b	-	不明	0.75 × (0.21)	-				-		
51	10b	土葬	楕円形 か	0.78 × (0.88)	-				不良		
311	10b	土葬	方形	0.70 × (1.03)	-	不明錢貨 (1枚)	△		不良		
50	10b	土葬	方形	0.87 × 0.98	木棺	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通 寶 (2枚)、不明錢貨 (9枚)、 土師器皿、陶器碗	○	墓石出土	不良		
		火葬	-	-	藏骨器				良好	不明	小児
312	10b	土葬	方形か	0.73 × (0.40)	-	元豊通寶 (1枚)、熙寧元寶 (1 枚)、不明錢貨 (10枚)	△		不良		
313	10b	-	不明	0.70 × (0.40)	-	大観通寶 (1枚)			-		
314	10b	土葬	方形か	0.78 × 1.01	-		△		不良		
300	10a	土葬	方形か	0.78 × (0.79)	-	不明錢貨 (8)	△		不良		
301	10a	土葬	長方形 か	0.79 × (1.01)	-	新寛永通寶 (4枚)、不明錢貨 (7枚)			不良		
302	10a	土葬	方形か	0.79 × (0.87)	-				不良		
303	10a	土葬	方形	1.08 × 1.21	-	古寛永通寶 (2枚)、不明錢貨 (4枚)、土師器皿、陶器碗			不良		
304	10a	-	方形か	0.82 × (0.83)	-				-		
305	10a	土葬	不明	0.99 × (-)	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通 寶 (2枚)、不明錢貨 (3枚)、 白磁碗	△		不良		
306	10a	土葬	方形か	0.79 × (0.82)	-	宣徳通寶 (1枚)、不明錢貨 (5 枚)		墓石出土	やや 不良		
307	10a	土葬	不定形	0.93 × 1.20	-				不良		
69	11	土葬	方形	0.89 × 0.81	木棺 (0.4) × (0.4)	陶器碗、漆器	○	底部木質残存	不良		
70	11	土葬	方形	0.84 × 0.79	木棺・粘 土	古寛永通寶 (3枚)、新寛永通 寶 (1枚)、□寛永通寶 (1枚)、 開元通宝 (1枚)、染付碗・蓋、 陶器壺	○	底部木質残存	不良		
71	11	-	不明	0.68 × (-)	-				-		
72	11	-	長方形	0.96 × 0.63	-				-		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
73	11	-	円形	1.15 × (1.28)	-		△		-		
74	11	-	長方形	1.07 × (0.72)	木棺	元豊通寶 (1枚)	○		-		
56	12b	土葬	方形か	0.79 × 0.92	木棺か	古寛永通寶 (2枚)、□寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (9枚)、染付小椀、陶器碗		底部木質遺存	不良		
57	12b	土葬	方形	0.87 × 0.97	-	不明銭貨 (11枚)			不良		
196	12b	土葬	長方形	0.79 × 0.65	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)、染付碗・蓋		墓石出土	不良		
400	12b	-	方形	0.71 × (0.57)	-				-		
401	12b	-	方形	0.68 × (0.56)	-	不明銭貨 (3枚)			-		
402	12b	-	方形	0.75 × (0.60)	-				-		
258	12b	土葬	楕円形か	0.87 × (1.00)	-	皇宋通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			不良		
403	12b	-	方形か	0.82 × (0.37)	-				-		
194	12b	土葬	方形	0.99 × 0.83	-	新寛永通寶 (2枚)			やや不良		
195	12b	土葬	長方形 (方形か)	0.80 × 1.20	-	古寛永通寶 (1枚)、新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)、土師器小壺、人形、ミニチュア土器			やや良好		
404	12b	土葬	長方形か楕円形	0.58 × (0.96)	-				不良		
405	12b	-	不明	0.68 × (-)	-				-		
174	12b	土葬	方形	0.88 × 0.82	-	新寛永通寶 (3枚)			やや不良		
54	12a	土葬	楕円形	0.84 × 0.86	襖棺	土師器皿			不良	不明	成人
406	12a	-	方形か	0.64 × (0.12)	-	元豊通寶 (1枚)、不明銭貨 (4枚)			-		
470	12a	-	方形か	0.80 × (0.55)	-	古寛永通寶 (4枚)、元豊通寶 (3枚)、元祐通寶 (1枚)、開元通寶 (1枚)、不明銭貨 (8枚)			-		
62	12a	火葬	円形か	0.55 × 0.54	襖棺			襖棺底部のみ	良好	不明	成人
63	12a	土葬	方形	0.76 × 0.73	木棺 (0.35) × (0.47)	新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)		底部木質遺存	不良	男性か	成人
64	12a	-	円形か	0.78 × (0.36)	-	土師器皿			-		
65	12a	土葬	不定形	1.01 × (1.09)	木棺	古寛永通寶 (4枚)、大観通寶 (1枚)、祥符通寶 (1枚)、至道元寶 (1枚)、皇宋通寶 (1枚)、元豊通寶 (2枚)、政和通寶 (1枚)、不明銭貨 (7枚)、染付碗	○	墓石出土	不良		
217	12a	土葬	長方形か	0.79 × (0.64)	木棺	不明銭貨 (6枚)	○		不良	男性	成人
218	12a	土葬	方形	0.71 × (0.62)	木棺か	古寛永通寶 (2枚)、□寛永通寶 (1枚)			良好	不明	成人
219	12a	土葬	方形	0.80 × 0.77	木棺 (0.5) × (0.5)	古寛永通寶 (4枚)、土師器小壺	○	底部木質遺存	やや良好		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨 遺存 状態	性別	年齢
162	12a	土葬	方形 凹形	0.94 × 0.92	-	古寛永通寶 (1枚)、染付小杯			良好	男性か	成人
161	12a	土葬	長方形 か	1.12 × (0.78)	-				不良		
145	12a	土葬	不明	(0.20) × (0.56)	木棺		△	底部木質残存	不良		
164	12a	土葬	方形	0.98 × 1.14	-	新寛永通寶 (1枚)、大観通寶 (1枚)	△		不良		
127	13b	土葬	長方形 か	0.86 × (1.28)	木棺 (0.5) × (0.5)	元豊通寶 (1枚)、土師器皿、 染付碗	○	底部木質残存、 墓石出土	不良		
132	13b	-	方形 か	0.76 × (0.60)	-		△		-		
407	13b	土葬	方形	0.80 × 0.95	木棺	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			不良		
408	13b	土葬	楕円形 か	0.79 × (0.80)	-	新寛永通寶 (1枚)、念仏銭 (1 枚)、不明銭貨 (4枚)			不良		
409	13b	土葬	長方形 か	0.70 × (0.73)	-				不良		
410	13b	土葬	方形 か	0.84 × 0.91	-	古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (2枚)			不良		
212	13b	土葬	方形 か	0.77 × (0.60)	-	人形	△		不良		
210	13b	土葬	方形 か	0.86 × (0.40)	-	新寛永通寶 (5枚)、不明銭貨 (2枚)、染付小杯			不良		
211	13b	土葬	方形	0.83 × 0.68	木棺	古寛永通寶 (3枚)、熙寧元寶 (1枚)、不明銭貨 (7枚)、土 師器皿、陶器	○		やや 良好		
214	13b	土葬	方形	0.80 × (0.86)	-				やや 不良		
213	13b	土葬	方形	0.77 × 0.75	-	新寛永通寶 (1枚)、□寛永通 寶 (1枚)、元豊通寶 (1枚)、 聖宋元寶 (1枚)、開元通寶 (1 枚)、祥符元寶 (1枚)、至道 元寶 (1枚)、景德元寶 (1枚)、 不明銭貨 (8枚)、陶器碗			良好		
215	13b	土葬	方形 か	0.69 × (0.40)	-	古寛永通寶 (1枚)、元祐通寶 (1枚)、□六太□ (1枚)、不 明銭貨 (1枚)、土師器小壺、 土鈴、ミニチュア土器、ガラ ス片、座金具	△		不良		
226	13b	土葬	方形	0.73 × (0.79)	-	新寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (2枚)、木製品	△		やや 不良		
411	13b	土葬	不明	0.72 × (0.55)	-	古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			不良		
170	13b	土葬	方形 か	0.74 × (0.68)	-	古寛永通寶 (3枚)、不明銭貨 (3枚)			不良		
144	13b	-	楕円形 か	0.96 × 1.01	-	古寛永通寶 (3枚)、元豊通寶 (1枚)、天聖元寶 (1枚)、熙 寧元寶 (1枚)、不明銭貨 (7枚)		墓石出土	-		
412	13b	-	楕円形 か	0.58 × (0.54)	-				-		
413	13b	土葬	凹形 か	0.78 × 0.87	-	元豊通寶 (1枚)、聖宋元寶 (1 枚)、皇宋通寶 (1枚)、景定 元寶 (1枚)、紹聖元寶 (1枚)、 不明銭貨 (1枚)			不良		
414	13a	-	方形 か	0.54 × (0.62)	-				-		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模(m)	埋葬施設(数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
154	13a	土葬	方形か	0.71 × (0.81)	-	古寛永通寶(1枚)、不明銭貨(3枚)			不良		
415	13a	土葬	円形か方形	0.94 × 1.03	-	古寛永通寶(2枚)、不明銭貨(10枚)、土師器皿、染付碗、漆器			不良		
416	13a	土葬	不明	0.75 × (0.36)	-	染付碗			不良		
417	13a	土葬	円形か	0.76 × (0.69)	-	新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)、土師器皿、漆器			不良		
418	13a	土葬	方形	0.80 × 0.92	-				やや不良		
419	13a	-	方形か	0.61 × (0.70)	-				-		
230	13a	土葬	方形	0.87 × 1.06	木棺(0.4) × (0.4)	古寛永通寶(2枚)、□寛永通寶(1枚)、不明銭貨(10枚)、白磁碗	○		不良		
140	13a	土葬	方形か	0.85 × (0.74)	木棺か		-		やや良好	不明	成人
141	13a	土葬	方形	0.75 × 0.74	木棺	古寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)	○	出土した釘は205の遺物の可能性あり	良好	不明	成人
205	13a	土葬	方形か	0.78 × (0.86)	木棺(0.5) × (0.5)	古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(2枚)、不明銭貨(3枚)	○		良好	男性	成人
203	13a	土葬	方形か	0.87 × (0.60)	-	不明銭貨(12枚)			不良		
204	13a	土葬	方形か	0.94 × 0.93	-	古寛永通寶(2枚)、不明銭貨(4枚)			やや良好		
242	13a	土葬	方形	(0.82) × (0.82)	木棺(0.5) × (0.5)	不明銭貨	○		やや良好		
241	13a	土葬	方形か	0.92 × (0.92)	木棺(0.42) × (0.47)	古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(3枚)、不明銭貨(9枚)、漆片	○		やや良好		
420	13a	-	不明	0.78 × (0.60)	-				-		
158	13a	土葬	方形	0.92 × 0.96	木棺	古寛永通寶(1枚)、不明銭貨(11枚)、漆器碗	○		不良		
61	14b	-	不定形	1.30 × 0.84	-			廢棄土坑			
421	14b	-	方形か	0.68 × (0.75)	-				-		
422	14b	-	方形か	0.77 × (0.70)	-	陶器蓋	△		-		
138	14b	土葬	方形	0.70 × 0.70	-	不明銭貨(4枚)、土師器皿、染付碗、陶器碗	△	墓石出土	不良		
424	14b	土葬	方形	0.78 × (0.82)	-	染付碗・小杯、人形			不良		
425	14b	土葬	方形か	0.83 × (0.72)	-				不良		
426	14b	土葬	方形か	0.73 × (0.79)	-	古寛永通寶(2枚)、新寛永通寶(1枚)、○寛永通寶(2枚)、不明銭貨(7枚)、土師器皿・鉢、白磁碗			不良		
427	14b	-	不明	0.69 × (0.37)	-				-		
428	14b	土葬	方形	0.77 × (0.65)	木棺(0.61) × (0.54)	新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)	○		不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模(m)	埋葬施設(数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
191	14b	土葬	方形	0.73 × 0.61	-	古寛永通寶(4枚)、新寛永通寶(3枚)、天禧通寶(1枚)、開元通寶(1枚)、不明錢貨(5枚)、染付碗・皿、ミニチュア土器、人形			不良		
220	14b	-	楕円形	0.90 × (1.04)	-				-		
222	14b	土葬	方形	0.76 × 0.88	木棺か		△		やや良好		
221	14b	土葬	方形	0.70 × 0.65	-	古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(2枚)、□寛永通寶(1枚)、不明錢貨(14枚)、白磁小碗、漆器			やや不良		
207	14b	土葬	方形	0.75 × 0.85	-	不明錢貨(6枚)			やや良好	不明	成人
429	14b	-	楕円形	0.73 × 0.55	-				-		
202	14b	土葬	方形小 凹形	0.80 × (0.78)	木棺か				良好	不明	成人
201	14b	土葬	方形	0.80 × 0.66	木棺か	漆器	△		やや不良	不明	不明
430	14b	-	不明	0.81 × (0.80)	-	古寛永通寶(1枚)、元祐通寶(1枚)、聖宋元寶(1枚)、皇宋通寶(1枚)、不明錢貨(8枚)			-		
189	14b	土葬	楕円形	1.09 × 0.75	木棺(0.5) × (0.5)	漆片、不明錢貨	○		良好		
431	14a	-	不明	0.74 × (0.60)	-	古寛永通寶(2枚)、不明錢貨(4枚)			-		
432	14a	土葬	長方形	0.88 × 1.17	-	古寛永通寶(4枚)、新寛永通寶(1枚)、□寛永通寶(1枚)、元豊通寶(1枚)、至道元寶(1枚)、熙寧元寶(1枚)、不明錢貨(31枚)、染付碗			不良		
433	14a	-	不明	0.72 × (0.47)	-	古寛永通寶(2枚)、不明錢貨(4枚)			-		
434	14a	土葬	方形	0.78 × 0.76	木棺(0.5) × (0.5)	咸平元寶(1枚)、明道元寶(1枚)、不明錢貨(4枚)	○		不良		
435	14a	-	方形	0.75 × 0.71	-				-		
227	14a	土葬	方形小	0.93 × (0.88)	木棺(0.5) × (0.5)	古寛永通寶(2枚)、元豊通寶(2枚)、天聖元寶(3枚)、景祐元寶(1枚)、元祐通寶(1枚)、治平元寶(1枚)、不明錢貨(9枚)、陶器碗、染付碗	○		不良		
223	14a	土葬	方形	0.78 × 0.84	-	古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(2枚)、不明錢貨(3枚)、陶器碗、犬形土製品	△		不良		
224	14a	土葬	長方形小	0.87 × (1.04)	-	古寛永通寶(2枚)、天聖元寶(1枚)、不明錢貨(9枚)、漆器			不良		
225	14a	土葬	不明	0.72 × (0.41)	-				-		
238	14a	土葬	方形小	0.82 × 0.62	-	新寛永通寶(1枚)			不良	不明	若年小
253	14a	土葬	凹形	0.85 × (0.98)	-	藏骨器			-		
253	14a	土葬	凹形	0.85 × (0.98)	-	不明錢貨(6枚)			不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模(m)	埋葬施設(数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
254	14a	土葬	方形	0.82 × 0.70	木棺	古寛永通寶(5枚)、治平元寶(1枚)、至道元寶(1枚)、不明銭貨(14枚)	○		やや不良		
255	14a	-	楕円形か長方形	0.68 × (0.70)	-		△		-		
256	14a	土葬	方形か	0.55 × 0.63	-				不良		
257	14a	-	方形	0.92 × (0.72)	-		△		-		
436	14a	-	方形	(0.94) × 1.03	-		△		-		
89	15b	-	不明	(- × -)	-			上層廃棄土坑	-		
136	15b	-	長方形か	0.75 × (0.95)	-	漆器			-		
134	15b	土葬	方形	1.00 × 0.90	-	古寛永通寶(3枚)、不明銭貨(3枚)			やや不良		
137	15b	-	方形か	0.89 × (0.64)	-	古寛永通寶(2枚)、□寛永通寶(1枚)、不明銭貨(2枚)			-		
135	15b	土葬	方形か	1.12 × 1.15	-	祥符通寶(1枚)、元豊通寶(1枚)、元祐通寶(1枚)	△		不良		
437	15b	-	不明	0.63 × (0.22)	-				-		
228	15b	土葬	方形	0.92 × 0.64	-	念仏銭(1枚)、不明銭貨(5枚)、染付腕			不良		
180	15b	土葬	方形	0.77 × 0.76	-	土師器皿	△		やや不良	不明	小児か
438	15b	-	不明	0.61 × (0.75)	-				-		
439	15b	土葬	方形か	0.78 × (0.74)	-	古寛永通寶(1枚)			やや不良		
163	15b	土葬	長方形	0.95 × 0.72	-	古寛永通寶(7枚)、新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(9枚)、染付蓋			不良		
232	15b	土葬	方形か	0.71 × (0.65)	-	染付腕			やや不良		
233	15b	土葬	方形	0.68 × 0.82	-				良好	不明	成人
231	15b	土葬	方形	0.59 × 0.61	木棺(0.48) × (0.46)	新寛永通寶(2枚)	○	墓石出土	不良		
234	15b	土葬	不明	(0.45) × (0.72)	-				不良		
235	15b	土葬	方形	0.88 × 0.77	木棺か	新寛永通寶(3枚)、至道元寶(1枚)、不明銭貨(15枚)、ミニチュア土器			やや良好	男性	成人
440	15b	-	方形	0.64 × (0.68)	-	元豊通寶(1枚)			-		
236	15b	土葬	方形	0.74 × 0.72	-	古寛永通寶(2枚)、不明銭貨(4枚)			不良		
148	15a	土葬	方形	0.85 × (0.94)	-	古寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)、漆器			不良		
147	15a	土葬	長方形か	0.84 × (1.13)	-				不良		
146	15a	土葬	方形か	0.78 × (0.95)	-	不明銭貨(6枚)			不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模(m)	埋葬施設(数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
441	15a	土葬	円形か	0.93 × 0.85	-				不良		
167	15a	-	方形	1.15 × 1.35	-		△	廃棄土坑	-		
179	15a	土葬	長方形	0.76 × 1.45	木棺(0.5 × 0.5)	古寛永通寶(2枚)、元豊通寶(1枚)、政和通寶(1枚)、開元通寶(3枚)、元祐通寶(1枚)、皇宋通寶(1枚)、不明銭貨(8枚)	○	被葬者2体	良好	女性	成人
		火葬	-	-	戴骨器			上層で出土	-	不明	子供
442	15a	土葬	楕円形か	(0.57) × (0.65)	-				不良		
443	15a	土葬	方形	(0.43) × (0.90)	-	古寛永通寶(1枚)、至元通寶(1枚)			不良		
444	15a	土葬	方形	0.78 × 0.92		色絵蓋、ミニチュア土器			不良		
445	15a	土葬	方形か	0.84 × (0.75)		古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(1枚)、祥符通寶(1枚)、元祐通寶(1枚)、皇宋通寶(1枚)、景祐元寶(1枚)、不明銭貨(20枚)、陶器碗		銭は一部ST444のものが混じる	不良		
446	15a	土葬	方形か	0.73 × (0.59)		古寛永通寶(2枚)、天聖元寶(2枚)、不明銭貨(7枚)、土師器皿			不良		
192	15a	土葬	方形	0.70 × 0.60		古寛永通寶(1枚)、不明銭貨(9枚)			良好	女性	成人
157	16b	-	不明	(1.12) × (2.31)		元符通寶(1枚)、土師器皿		上層廃棄土坑	-		
447	16b	-	方形	0.90 × 1.04		古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(1枚)、元豊通寶(1枚)、不明銭貨(6枚)、土師器皿、青磁碗			-		
448	16b	-	方形か	0.75 × (0.75)					-		
449	16b	土葬	方形か	0.88 × 0.70		古寛永通寶(2枚)、不明銭貨(3枚)			不良		
450	16b	土葬	方形か	0.95 × (0.57)		古寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)			やや不良		
245	16b	-	方形	0.86 × 0.91		古寛永通寶(3枚)、聖宋元寶(1枚)、祥符□□(1枚)、不明銭貨(6枚)	△		-		
246	16b	-	方形	0.50 × 0.68		新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)			-		
247	16b	土葬	円形	0.87 × 0.73		古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)、青銅製品			不良		
248	16b	-	方形か	0.84 × (0.68)	木棺(0.45) × (0.45)		○		-		
249	16b	土葬	方形か 円形	0.92 × (0.68)			△		やや不良		
250	16b	土葬	方形	0.78 × 0.75		□寛永通寶(1枚)、念仏銭(3枚)、不明銭貨(8枚)、陶器碗			やや不良	不明	成人
251	16b	-	不明	0.73 × (0.70)					-		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模(m)	埋葬施設(数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
252	16b	-	方形か	0.82 × (0.65)		元祐通寶(1枚)、不明銭貨(17枚)			-		
216	16b	土葬	方形か	0.82 × (0.38)					やや良好		
208	16b	土葬	方形	0.84 × 0.78		新寛永通寶(1枚)、□寛永通寶(1枚)			良好	男性	成人
451	16b	土葬	不明	0.64 × (0.37)		不明銭貨(8枚)、染付小碗			不良		
244	16b	土葬	不明	(-) × (-)					不良		
452	16a	土葬	不定形	0.76 × 0.98					不良		
453	16a	-	長方形か	0.53 × (0.75)					-		
454	16a	-	方形か	(0.82) × 0.91		熙寧元寶(1枚)、皇宋通寶(2枚)、不明銭貨(9枚)			-		
455	16a	-	方形	0.68 × 0.78		新寛永通寶(2枚)、土師器皿、ミニチュア土器			-		
456	16a	-	不明	(-) × (-)	隠衣蓋か				-		
457	16a	-	不定形	0.91 × 0.94					-		
168	16a	土葬	方形か	1.17 × 1.23	木棺	土師器皿、染付碗、青銅製品(座金具)	○		不良		
458	16a	土葬	方形か	0.75 × (0.45)					不良		
459	16a	土葬	不明	0.93 × (-)					不良		
460	16a	土葬	不明	0.70 × (-)		新寛永通寶(3枚)		墓石出土	不良		
259	16a	土葬	方形か	0.62 × (0.40)					やや良好		未成年か
240	16a	土葬	方形	0.72 × 0.77		古寛永通寶(2枚)、□寛永通寶(1枚)、不明銭貨(7枚)、染付碗、青銅製品(鉾)		上層から墓石出土	やや良好	女性	成人
239	16a	土葬	楕円形か方形	0.79 × (0.90)		新寛永通寶(1枚)			やや良好	女性か	成人
188	17b	土葬	円形か	0.89 × 1.06	木棺	古寛永通寶(2枚)、新寛永通寶(1枚)、□寛永通寶(1枚)	○	上層から墓石出土	不良		
469	17b	土葬	方形	0.58 × (0.55)	木棺			底部木質遺存	良好	女性か	成人
81	17b	土葬	方形か	0.75 × (0.55)	木棺	新寛永通寶(4枚)、□寛永通寶(1枚)、不明銭貨(1枚)、土師器皿	○	底部木質遺存	良好		
122	17b	土葬	方形	1.46 × 1.00				墓石出土	不良		
200	17b	-	方形か	0.88 × (0.77)		不明銭貨(6枚)			-		
199	17b	土葬	方形	0.85 × 0.75	木棺	新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(5枚)、青銅製品	○		不良		
385	17b	土葬	方形	0.76 × (1.00)	木棺	古寛永通寶(1枚)、新寛永通寶(1枚)、不明銭貨(15枚)、土師器皿	○		やや良好		
386	17b	土葬	方形か	0.64 × (0.68)		古寛永通寶(3枚)、不明銭貨(3枚)、漆器			不良		
387	17b	-	不明	0.59 × (-)		古寛永通寶(1枚)、漆器			-		
388	17b	土葬	方形	0.72 × 0.66	木棺	不明銭貨(7枚)、土師器皿	○		やや良好		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模 (m)	埋葬施設 (数値はm)	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
243	17b	土葬	方形	0.90 × 0.73		新寛永通寶 (3枚)、不明銭貨 (7枚)	△		やや良好	不明	成人
397	17b	土葬	円形か	1.24 × 1.20		古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (4枚)、漆器			不良		
120	17a	土葬	方形	0.69 × 0.90		古寛永通寶 (3枚)、聖宋元寶 (1枚)、至道元寶 (1枚)、元豊通寶 (1枚)、不明銭貨 (6枚)			不良		
389	17a	-	方形か	0.61 × (0.35)					-		
390	17a	土葬	方形か	0.65 × 0.78		不明銭貨 (6枚)	△		やや不良		
198	17a	土葬	方形か	(0.76) × 0.98		古寛永通寶 (1枚)、皇宋通寶 (1枚)、不明銭貨 (10枚)	△		不良		
391	17a	土葬	長方形か	0.76 × (1.00)		開元通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)	△		不良		
392	17a	-	方形か	0.72 × (0.87)		古寛永通寶 (2枚)、不明銭貨 (4枚)、染付椀			-		
393	17a	土葬	方形	0.68 × 0.65					やや良好		
394	17a	土葬	方形	0.82 × 0.62					やや不良		
395	17a	土葬	方形	1.00 × 0.74		古寛永通寶 (1枚)、不明銭貨 (5枚)			不良		
396	17a	-	方形	0.83 × 0.73					-		
398	17a	土葬	不明	(1.00) × (1.07)		古寛永通寶 (2枚)、新寛永通寶 (2枚)、元豊通寶 (1枚)、熙寧元寶 (1枚)、不明銭貨 (12枚)	△		不良		
399	17a	-	不明	(0.25) × (0.49)		古寛永通寶 (5枚)、元豊通寶 (1枚)、不明銭貨 (3枚)	△		-		
461	18b	-	-	-					-		
462	18b	-	-	-		熙寧元寶 (2枚)			-		
463	18a	-	-	-					-		
464	18a	-	-	-					-		
465	18a	-	-	-					-		
466	18a	-	-	-					-		
52	-	-	方形	0.50 × 0.60		祥符通寶 (1枚)、元祐通寶 (2枚)、元豊通寶 (1枚)、不明銭貨 (8枚)			-		
76	-	土葬	方形	0.50 × 4.70					やや良好	不明	成人

付表7 土器・土製品観察表

(凡例)

- ・口径欄の記号 () : 復元径
- ・器高欄の記号 () : 残存高
- ・小数点第2位を四捨五入、第1位で表示
- ・- : 該当部位なし

北・南地区

報告番号	種類	器形	遺構名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (赤地)	釉薬		
1	土師器	皿	S K 34	5.4	1.2	-	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
2	土師器	皿	S K 34 (13.8)	(1.4)	-	2/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	灯明皿	
3	土師器	皿	S P 45 (10.7)	1.7	-	3/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
4	陶器	水滴	S P 30	2.5 (3.7)	3.2	ほぼ定形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰白 (7.5YR8/2)			
5	陶器	土瓶	S P 30 (7.4)	(3.6)	-	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰白 (7.5Y7/2)			京・信 楽系
6	土師器	皿	S K 42	5.3	1.1	-	定形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
7	土師器	皿	S K 42	5.7	1.0	-	ほぼ定形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
8	土師器	皿	S K 42 (14.6)	(2.1)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	灯明皿	
9	土師器	皿	S K 36	5.8	1.1	-	定形	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	
10	土師器	皿	S K 36	10.3	1.9	-	ほぼ定形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
11	土師器	皿	S K 36	10.6	2.2	-	10/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	灯明皿
12	土師器	皿	S K 36	10.0	1.9	-	定形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	灯明皿
13	土師器	皿	S K 36	10.3	2.0	-	ほぼ定形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	灯明皿
14	土師器	皿	S K 36	10.5	2.1	-	11/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
15	土師器	皿	S K 35	10.6	2.0	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	灯明皿
16	土師器	皿	S K 35	10.6	1.8	-	7/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
17	土師器	皿	S K 35	10.4	2.4	-	定形	密	橙 (5YR6/6)		在地	灯明皿
18	土師器	皿	S K 35 (13.9)	(1.7)	-	1/12	やや密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
19	陶器	碗	S K 35 (9.8)	(3.6)	-	2/12	密	灰白 (7.5Y7/1)			肥前系	
20	土師器	皿	S K 03	10.6	2.1	-	ほぼ定形	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
21	土師器	皿	S K 03	12.0	2.3	-	ほぼ定形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
22	陶器	鉢	S K 03 (16.8)	7.2	14.2	1/12	やや密	灰 (5Y6/1)			信楽系	
24	土師器	小壺	S K 08 (20)	2.0	-	1/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地		
25	染付	碗	S K 08	- (3.5)	4.9	底) 6/12	精良	白 (N9/0)			肥前系	高台内「□明 底□製」
26	染付	皿	S K 08	14.4	3.8	7.9	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台内「太明 年製」
27	土師器	皿	S R 04	11.5	(1.6)	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
28	土師器	塩密蓋	S K 96	7.2	1.6	-	10/12	やや密	明赤褐 (2.5YR5/6)			
29	土師器	皿	S K 98	10.2	(2.3)	-	10/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
30	土師器	皿	S D 18 (13.2)	(2.0)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	内面全体に薬 付着	
31	青組	碗	S D 18 (12.4)	(2.4)	-	1/12以下	密		オリープ灰 (10Y6/2)		中国	
32	陶器	福鉢	S D 37	- (9.0)	(20.3)	底) 7/12	粗	にぶい黄 (2.5Y6/3)			信楽系	

報告 番号	種類	器形	通称名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考	
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬			
33	土師器	皿	SK 01	6.8	(1.2)	-	4/12	密	にぶい黄緑 (10YR7/4)		在地		
34	土師器	皿	SK 01	5.8	1.3	-	6/12	密	にぶい黄緑 (10YR7/4)		在地		
35	陶器	德利	SE 29	-	(12.6)	8.0	底)	完形	やや密	浅黄 (25Y8/3)		肥前系	朝鮮唐津
36	土師器 (施釉)	椀	襷乱 95	6.9	3.6	3.7	4/12	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		灰褐 (5YR5/2)		
37	土師器	ミニチ ュア土 器	襷乱 95	3.8	1.1	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)				釜の蓋
38	土製品	人形	襷乱 95	長 (2.1)	2.9	幅 0.85	ほぼ完形	密	橙 (7.5YR6/6)			京都系	天神
39	磁器	箸置	襷乱 1	長 3.7	1.2	幅 2.5	完形	精良	白 (N9/0)	紺		肥前系	
40	土師器	ミニチ ュア土 器	襷乱 1	(6.0)	2.0	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)				内面に菊形押 文、片口
41	陶器	蓋	襷乱 1	(6.9)	2.4	-	2/12	密	灰白 (25Y8/1)			京焼系 か	
42	緑釉陶 器	皿	襷乱 8	-	(1.5)	5.5	底) 3/12	やや密	浅黄 (25Y7/3)				
43	色絵	椀	襷乱 7	(6.9)	4.6	3.0	3/12	密	灰白 (25Y8/1)			肥前系	
44	染付	椀	襷乱 7	8.6	(3.6)	-	4/12	密	白 (N9/0)				
45	染付	椀	襷乱 7	-	(3.8)	3.8	底) 6/12	精良	灰白 (5Y8/1)				
46	染付	椀	襷乱 7	-	(3.8)	5.7	底) 12/12	密	白 (N9/0)				高台内「卍」
47	染付	蓋	襷乱 7	8.9	3.0	3.4	完形	密	白 (N9/0)			肥前系	
48	染付	椀	襷乱 7	10.3	5.6	3.7	完形	精良	白 (N9/0)				
49	染付	鉢	襷乱 8	-	(4.0)	(12.1)	3/12	密	白 (N9/0)				八角形か
50	染付	楕木鉢	襷乱 7	幅 (9.6)	9.3	-	不明	密	白 (N9/0)			肥前系	六角形か
51	染付	鉢	襷乱 7	(14.6)	4.6	(9.1)	3/12	密	灰白 (5Y8/2)			肥前系	口縁輪花状
52	青磁	皿	襷乱 7	-	(1.8)	4.6/4.9	底) 完形	密	白 (N9/0)			京都系	高台に朱
53	須恵器	杯	宝水焼土 内	-	(2.1)	6.8	3/12	やや密	灰黄 (25Y7/2)				
54	土師器	皿	宝水焼土 内	10.4	(2.1)	-	4/12	やや密	にぶい黄緑 (10YR6/3)			在地	
55	染付	小椀	宝水焼土 内	7.3	3.9	2.4	12/12	密	灰白 (N8/1)			肥前系	内面に「東山 花鳥」
56	土師器	皿	南斬ち割 りシルト層 裡層	5.4	1.2	-	6/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)			在地	
57	土師器	皿	南斬ち割 りシルト層 下層裡層	10.0	(2.0)	-	6/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR6/4)			在地	
58	土師器	皿	南斬ち割 りシルト層 下層裡層	9.2	2.2	-	11/12	やや密	橙 (7.5YR7/6)			在地	
59	陶器	深鉢	南斬ち割 りシルト層 下層裡層	(41.1)	(11.3)	-	2/12	密	暗赤褐 (10R3/3)			丹波系	
60	陶器	浅鉢	包含層 (地点は 第9区)	10.8	5.3	6.5	完形	精良	灰白 (10YR8/2)	灰白 (5Y7/2)		京都系	京焼
61	陶器	建水	包含層 (地点は 第9区)	13.7	7.3	7.4	完形	精良	灰白 (10YR8/2)	灰白 (5Y7/2)		京都系	京焼
62	陶器	水指蓋	包含層 (地点は 第9区)	13.0	2.4	-	完形	精良	灰白 (25Y8/2)	灰白 (5Y7/2)		京都系	京焼
63	陶器	水指	包含層 (地点は 第9区)	14.1	17.6	14.2	11/12	精良	灰白 (25Y8/2)	灰白 (5Y7/2)		京都系	京焼
64	陶器	釜蓋	包含層 (地点は 第9区)	11.5	3.7	-	ほぼ完形	精良	灰白 (25Y8/2)	灰白 (5Y7/2)		京都系	京焼

報告 番号	種類	器形	遺構名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
65	陶器	釜	包含層 (地点は 第9区)	129	144	99	ほぼ完形	精良	灰白 (25Y8/1)	灰白 (5Y7/2)	京都系	京焼
66	陶器	風炉	包含層 (地点は 第9区)	21.0	16.9	-	12/12	精良	灰白 (25Y8/2)	灰白 (5Y7/2)	京都系	京焼
67	陶器	杓立	包含層 (地点は 第9区)	2.4	15.6	6.0	完形	精良	灰白 (25Y8/2)	灰白 (5Y7/2)	京都系	京焼
68	緑釉陶 器	皿	6トレ断 ち割り	-	(1.7)	7.5	底) 6/12	密	灰白 (7.5Y7/1)			
69	緑釉陶 器	皿	6トレ断 土	-	(1.4)	(8.8)	底) 2/12	密	灰白 (5Y7/2)			
70	土師器	皿	6トレ断 ち割り西 側	(13.8)	(1.3)	-	1/12	やや粗	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
71	灰釉陶 器	椀	6トレ東 西断ち割 り	(13.9)	(2.8)	-	2/12	密	灰白 (5Y7/1)		東海系	
72	灰釉陶 器	椀	6トレ断 ち割り西 側	(15.2)	(4.6)	-	2/12	やや密	灰白 (25Y7/1)		東海系	
73	須恵器	壺	6トレ東 西断ち割 り	-	(4.6)	(12.9)	2/12	やや密	灰白 (25Y7/1)			
74	陶器	椀	6トレ南 北断ち割 り	-	(4.2)	5.4	底) 6/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		肥前系	
105	土師器	皿	S K 517	5.1	1.3	-	5/12	密	褐灰 (7.5YR4/1)		在地	
106	土師器	皿	S K 517	5.6	(1.0)	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
107	土師器	皿	S K 517	6.6	1.1	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR6/4)		在地	
108	土師器	皿	S K 517	7.2	1.5	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
109	土師器	皿	S K 517 (8.7)	(2.3)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
110	土師器	皿	S K 517	8.4	(1.9)	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
111	土師器	皿	S K 517 (9.6)	(1.9)	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
112	土師器	皿	S K 517 (11.0)	1.9	-	1/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地		
113	土師器	皿	S K 517	9.8	2.1	-	4/12	密	褐灰 (10YR5/1)		在地	
114	土師器	皿	S K 517	11.4	2.0	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
115	土師器	皿	S K 517 (12.0)	(2.4)	-	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
116	土師器	皿	S K 517 (12.1)	(1.9)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
117	土師器	皿	S K 517 (12.6)	(2.2)	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
118	土師器	鉢	S K 517 (12.6)	(4.3)	-	3/12	密	灰白 (25Y8/2)		在地		
119	陶器	向付	S K 517 (12.6)	(1.5)	-	1/12	密	浅黄橙 (2.5Y7/4)		瀬戸・ 美濃系	黄瀬戸	
120	土師器	皿	S K 551	10.1	1.9	-	5/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
121	陶器	椀	S K 551 (1.5)	3.7	-	1/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)	黄褐 (2.5Y5/3)	瀬戸・ 美濃系	大目椀	
122	土師器	皿	S K 574 (11.8)	1.0	-	1/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	コースター形	
123	土師器	皿	S K 574	11.0	2.3	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
124	土師器	皿	S K 574	10.6	2.3	-	10/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	灯明皿
125	土師器	皿	S X 815	5.7	1.2	-	ほぼ完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
126	土師器	皿	S X 815	5.3	1.1	-	ほぼ完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
127	土師器	皿	S X 815	4.8	1.9	-	10/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	

報告 番号	種類	器形	通稱名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
128	土師器	皿	S X 815	11.0	2.2	-	完形	密	にぶい・櫻 (7.5YR7/4)		在地	
129	土師器	皿	S X 815	10.8	2.3	-	完形	密	浅黄櫻 (7.5YR8/4)		在地	
130	土師器	皿	S X 815 (11.4)	(1.7)	-	3/12	密	にぶい・櫻 (7.5YR7/4)			在地	
131	土師器	皿	S X 815	11.1	2.2	-	完形	密	櫻 (7.5YR7/6)		在地	
132	土師器	皿	S X 815	10.8	2.0	-	完形	密	櫻 (7.5YR7/6)		在地	
133	土師器	皿	S X 815 (12.9)	(2.3)	-	3/12	密	にぶい・櫻 (7.5YR7/4)			在地	
134	土師器	瓠密蓋	S X 815	6.6	2.3	-	10/12	密	内) 浅黄櫻 (10YR8/4) 外) にぶい・櫻 (5YR6/4)			
135	土師器	瓠密	S X 815	5.6	(8.5)	-	9/12	やや密	赤 (10R5/6)			
136	陶器	椀	S X 815	11.1	6.0	4.2	9/12	精良	灰黄 (2.5Y7/2)	灰オリーブ (7.5Y6/2)	肥前系	
137	陶器	椀	S X 815	10.4	5.1	4.3	4/12	精良	灰白 (2.5Y8/2)	浅黄 (2.5Y7/3)	瀬戸・美濃系	志野
138	陶器	椀	S X 815	9.9	6.5	4.1	10/12	密	櫻 (7.5YR6/6)	浅黄 (2.5Y7/3)	肥前系	
139	陶器	椀	S X 815	10.4	6.0	-	4/12	精良	にぶい・櫻 (7.5YR5/4)	灰 (7.5Y6/1)	肥前系	
140	陶器	椀	S X 815	10.8	6.6	4.6	10/12	精良	櫻 (7.5YR7/6)	オリーブ黄 (5Y6/3)	肥前系	
141	陶器	椀	S X 815	11.0	6.1	-	8/12	精良	にぶい赤褐 (5YR5/4)・灰 白 (5Y7/1)	暗オリーブ (5Y4/4)	肥前系	
142	陶器	椀	S X 815	11.6	7.3	5.3	6/12	精良	浅黄櫻 (10YR8/3)	黒褐 (7.5YR2/2)	瀬戸・美濃系	釉種
143	土師器	皿	S K 704	6.2	1.5	-	完形	密	櫻 (5YR7/6 ~ 6/6)		在地	灯明皿
144	土師器	皿	S K 704	6.4	1.5	-	8/12	密	にぶい・櫻 (7.5YR7/4)		在地	
145	土師器	皿	S K 704	5.2	1.4	-	12/12	密	にぶい黄櫻 (10YR7/3)		在地	灯明皿
146	土師器	皿	S K 704	5.2	1.3	-	12/12	密	にぶい黄櫻 (10YR7/3)		在地	
147	土師器	皿	S K 704	8.7	2.0	-	7/12	密	浅黄櫻 (10YR8/3)		在地	
148	土師器	皿	S K 704	9.9	1.8	-	8/12	密	浅黄 (2.5Y7/3)		在地	
149	陶器	小椀	S K 704	5.3	2.4	2.3	7/12	密	浅黄櫻 (10YR8/3)		瀬戸・美濃系	
150	土師器	小壺	S K 704	2.2	2.7	-	完形	密	にぶい・櫻 (5YR7/4)		在地	
151	陶器	皿	S K 704 (11.4)	2.3	-	2/12	精良	内) 灰 (N 4.0 ~ 3.0) 外) 灰 (10Y4/1)				灯明皿
152	陶器	皿	S K 704	11.4	2.4	-	5/12	精良	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)			灯明皿、底部 赤切り痕、一 か所に取手
153	染付	椀	S K 704	9.5	6.3	4.3	11/12	精良	灰白 (N8/0)	明オリーブ灰 (2.5G7/1)	肥前系	露胎部砂目痕
154	染付	椀	S K 704	10.7	5.7	3.8	8/12	精良	灰白 (N8/0)		肥前系	
155	陶器	皿	S K 704	11.0	2.8	3.9	10/12	精良	にぶい・櫻 (7.5YR5/4)	黄灰 (2.5Y6/1)	肥前系	灰種
156	陶器	向付	S K 704	10.6	6.5	6.2	8/12	精良	明赤褐 (5YR5/8)	褐 (7.5YR4/3)・ にぶい黄櫻 (10YR7/3)	肥前系	
157	白磁	椀	S K 704	9.0	6.5	(4.6)	5/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
158	陶器	皿	S K 704	-	-	-	不明	精良	浅黄 (2.5Y8/3)		肥前系	京都系
159	陶器	風印	S K 704 (16.4)	13.3	-	3/12	精良	淡櫻 (5YR8/3)	櫻 (7.5YR6/6)	京・信 濃系	御縁輪	
160	陶器	鉢	S K 704	20.4	5.9	6.0	6/12	精良	灰白 (N8/0)	淡青緑	肥前系	御縁輪
161	陶器	鉢	S K 704	18.4	7.0	5.6	8/12	精良	灰白 (10YR8/2)	淡青緑	肥前系	御縁輪

報告 番号	種類	器形	通称名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
162	土師器	壺	S K 704	(8.9)	(4.7)	-	1/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)・ 黄灰 (2.5Y4/1)			
163	土製品	人形	S K 704	長 (3.6)	(4.7)	-	破片	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		京都系	お福さんか
164	土師器	皿	S K 562	5.7	1.3	-	ほぼ定形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
165	土師器	皿	S K 562	5.6	1.4	-	ほぼ定形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
166	土師器	皿	S K 562	5.7	1.3	-	定形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
167	土師器	皿	S K 562	(9.8)	1.7	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
168	土師器	皿	S K 562	(10.6)	1.9	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
169	土師器	皿	S K 535	5.3	1.3	-	ほぼ定形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
170	土師器	皿	S K 535	10.4	2.3	-	6/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
171	土師器	皿	S K 550	(13.0)	(2.0)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
172	土師器	皿	S K 550	(11.1)	(1.9)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	灯明皿小
173	土師器	皿	S K 708	6.5	(1.6)	-	定形	密	橙 (5YR7/6)		在地	灯明皿
174	土師器	皿	S K 708	5.4	1.1	-	ほぼ定形	密	橙 (5YR7/6)		在地	
175	土師器	皿	S K 708	6.0	1.6	-	定形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
176	土師器	皿	S K 708	8.7	1.8	-	10/12	密	にぶい橙 (5YR7/3)		在地	
177	土師器	皿	S K 708	12.0	2.0	-	定形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	灯明皿
178	土師器	ミニチュア土師	S K 708	2.5	2.6	3.2	10/12	密	明黄褐 (10YR7/6)			手付カップ形
179	土製品	鈴	S K 708	長3.6	幅3.2	-	ほぼ定形	密	浅黄 (2.5Y8/3)		在地	
180	瓦質土器	蓋	S K 708	上部径 4.7	2.8	下部径 3.7	8/12	密	黒 (N2/0)			
181	白磁	小瓶	S K 708	-	(5.4)	-	不明	精良	白 (N9/0)		肥前系	
182	染付	小碗	S K 708	7.6	5.2	3.5	4/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
183	白磁	小碗	S K 708	(7.0)	(3.8)	-	3/12	精良	白 (N9/0)		中国	
184	陶器	小碗	S K 708	6.8	5.3	(3.1)	8/12	精良	橙 (7.5YR6/6)	黒褐 (2.5Y3/1 ~ 3/2)	肥前系	梅輪
185	白磁	碗	S K 708	10.4	6.0	4.2	9/12	精良	灰白 (5Y8/1 ~ 7/1)		肥前系	
186	陶器	碗	S K 708	9.3	6.2	5.4	9/12	精良	灰白 (2.5Y8/1)		肥前系	高台内「雲」、 京焼風
187	白磁	碗	S K 708	9.8	5.3	4.4	8/12	精良	白 (N9/0)	灰白 (N8/0) ~ 暗褐 (7.5YR3/4)	肥前系	
188	染付	碗	S K 708	10.5	5.4	4.2	9/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
189	染付	皿	S K 708	3.6	3.2	(6.3)	11/12	精良	白 (N9/0)	灰白 (2.5GY8/1)	肥前系	
190	磁器	香合蓋	S K 708	5.5	1.3	-	7/12	精良	灰白 (7.5Y8/1)		肥前系	
191	白磁	仏像器	S K 708	6.0	4.8	3.0	5/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
192	陶器	皿	S K 708	13.2	3.6	-	8/12	精良	灰白 (2.5Y8/2)	青緑~萌黄 (5GY7/1)	肥前系	銅緑釉
193	青磁	香炉	S K 708	10.7	7.6	-	11/12	精良	橙 (5YR6/6)	明オリーフ灰 (5GY7/1)	肥前系	三脚
194	青磁	香炉	S K 708	10.8	8.7	-	11/12	精良	灰白 (5Y8/1)	明緑灰 (7.5GY8/1)	肥前系	三脚
195	陶器	鉢	S K 708	18.5	7.3	5.8	8/12	精良	灰黄 (2.5Y7/2)	灰白 (7.5Y7/1)	肥前系	唐津
196	陶器	碗	S K 708	-	(3.2)	4.8	底)	定形	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰白 (2.5Y8/2)	朝鮮	
197	土師器	鍋	S K 708	28.6	(5.2)	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)			
198	土師器	焙烙	S K 708	27.0	(5.4)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)			
199	土製品	人形	S K 708	幅1.8	4.1	厚さ 1.3	定形	密	灰白 (2.5Y8/2)	黄褐 (10YR5/6)	京都系	猿
200	土製品	人形	S K 708	幅2.8	3.0	厚さ 1.1	定形	密	灰白 (5Y8/1)	浅黄 (5Y7/4)	京都系	天神

報告 番号	種類	器形	通標名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
201	土製品	人形	S K 708	幅62	(49)	厚さ 22	一部欠損	密	灰白 (5Y8/1)	三彩・淡黄 (5Y8/1)・暗赤 褐 (5YR3/6)・ オリーブ灰 (10Y5/2) より 明るい緑	京都系	
202	土師器	皿	S K 619	9.7	24	-	10/12	密	橙 (5YR6/6)		在地	
203	土師器	皿	S K 619	10.1	22	-	7/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
204	土師器	皿	S K 619	10.9	22	-	11/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
205	土師器	皿	S K 619	11.2	21	-	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	灯明皿
206	土師器	皿	S K 619	10.0	22	-	7/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
207	土師器	皿	S K 619	9.7	1.8	-	5/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
208	土師器	皿	S K 619	10.6	21	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
209	土師器	皿	S K 619	10.6	21	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
210	土師器	皿	S K 619	9.8	(21)	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	
211	土師器	皿	S K 619	9.8	20	-	5/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
212	土師器	皿	S K 619	11.1	23	-	ほぼ定形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	灯明皿
213	土師器	皿	S K 619	11.1	21	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	煤付着
214	土師器	皿	S K 619	9.8	24	-	11/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
215	土師器	皿	S K 619	10.4	(21)	-	4/12	密	橙 (7.5YR6/6)		在地	
216	土師器	皿	S K 619	11.1	(20)	-	5/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	灯明皿
217	土師器	皿	S K 619	(11.2)	20	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
218	土師器	皿	S K 619	(10.0)	22	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
219	土師器	皿	S K 619	9.8	20	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
220	土師器	皿	S K 619	11.3	(20)	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
221	土師器	皿	S K 619	11.3	21	-	7/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
222	土師器	皿	S K 619	9.6	18	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
223	土師器	皿	S K 619	11.0	21	-	5/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	少量煤付着
224	土師器	皿	S K 619	11.4	19	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
225	土師器	皿	S K 619	(12.1)	20	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
226	土師器	皿	S K 619	(9.5)	(19)	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
227	土師器	皿	S K 619	10.0	20	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
228	土師器	皿	S K 619	13.0	21	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
229	土師器	皿	S K 619	12.0	18	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
230	土師器	皿	S K 619	(10.1)	(22)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
231	土師器	皿	S K 619	11.1	21	-	11/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
232	土師器	皿	S K 619	(11.0)	20	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
233	土師器	皿	S K 619	12.2	22	-	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
234	土師器	皿	S K 619	(10.1)	(20)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
235	土師器	皿	S K 619	10.6	22	-	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
236	土師器	皿	S K 619	11.2	(19)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	通標名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
237	土師器	皿	S K 619	10.7	2.1	-	4/12	密	橙 (5YR6/6)		在地	
238	土師器	皿	S K 619	10.3	2.0	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
239	土師器	皿	S K 619	10.9	2.1	-	11/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
240	土師器	皿	S K 619	12.3	2.0	-	4/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
241	土師器	皿	S K 619	12.6	2.0	-	7/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
242	土師器	皿	S K 619	11.0	2.1	-	10/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	灯明皿
243	土師器	皿	S K 619 (100)	10.0	2.0	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
244	土師器	皿	S K 619	12.7	2.0	-	5/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
245	土師器	皿	S K 619 (134)	13.4	2.1	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
246	陶器	碗	S K 619 (110)	(110)	(23)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)	黒 (7.5YR17/1)	瀬戸・美濃系	天目碗
247	陶器	碗	S K 619 (118)	(118)	(16)	-	1/12以下	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)	暗褐 (7.5YR3/3)	瀬戸・美濃系	天目碗
248	白磁	碗	S K 619 (162)	(162)	(21)	-	1/12以下	密	淡黄 (2.5Y8/3)		中国	
249	白磁	壺	S K 619 (100)	(100)	(27)	-	2/12	密	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/2)	中国	
250	土師器	壺	S K 619	3.6	6.1	3.0	5/12	密	橙 (5YR6/6)			
251	陶器	向付	S K 619 (92)	(92)	(69)	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)	灰白 (2.5YR8/1)	瀬戸・美濃系	志野
252	陶器	水注	S K 619	5.6	10.0	6.0	6/12	密		灰白 (10YR8/1)	瀬戸・美濃系	志野
253	陶器	襦鉢	S K 619 (284)	(284)	(41)	-	1/12以下	密	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)		備前系	
254	瓦質土器	羽釜	S K 619	-	(34)	-	不明	密	内) 灰黄 (2.5Y7/2) 外) 黄灰色 (2.5Y5/1)			
255	瓦質土器	羽釜	S K 619 (258)	(258)	(10.1)	-	3/12	密	内) 灰 (N 5/0) ~ 灰白 (5Y7/1) 外) 暗灰 (N 3/0) ~ 灰 (N 4/0)			
256	土師器	皿	S K 620	5.6	1.3	-	4/1	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
257	土師器	皿	S K 620	5.4	1.0	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
258	土師器	皿	S K 620	5.4	1.3	-	10/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
259	土師器	皿	S K 620	5.4	1.3	-	10/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
260	土師器	皿	S K 620 (122)	(122)	(19)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
261	灰釉陶器	碗	S K 620	-	(27)	(66)	底) 3/12	精良	灰白 (2.5Y7/1)		東海系	
262	土師器	皿	S X 525	5.4	1.3	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
263	土師器	皿	S X 525	5.2	1.2	-	定形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	灯明皿
264	陶器	皿	S X 525 (111)	(111)	1.9	-	3/12	精良	にぶい赤 (7.5R4/4)			
265	土師器	皿	S X 525 (127)	(127)	(17)	-	2/12	密	浅黄 (5Y7/3)		在地	
266	土師器	小壺	S X 525 (32)	(32)	(40)	-	3/12	密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
267	土製品	鈴	S X 525	長6.4	幅6.2	-	半分程度	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
268	陶器	碗	S X 525	10.8	5.8	-	6/12	密	淡黄 (2.5Y8/3)	浅黄 (2.5YR7/4)・灰白 (2.5YR8/3)	瀬戸・美濃系	黄瀬戸
269	染付	皿	S X 525 (136)	(136)	2.8	8.6	2/12	精良	灰白 (10Y8/1)		肥前系	
270	土師器	皿	S K 526 (122)	(122)	(20)	-	1/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
271	陶器	皿	S K 526 (107)	(107)	1.5	-	1/12	密	灰白 (5Y7/2)		京・信楽系	灯明皿小

報告 番号	種類	器形	通稱名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
272	陶器	碗	S K 526	(11.6)	(5.3)	-	1/12	密	灰白 (10YR8/2)	黒 (10YR17/1)	瀬戸・美濃系	天目碗
273	陶器	碗	S K 526	-	(2.2)	4.7	7/12	密	灰白 (10YR8/2)	黒 (10YR17/1)	瀬戸・美濃系	天目碗
274	陶器	碗	S K 526	(11.0)	(3.3)	-	1/12以下	密	淡黄 (2.5Y8/3)		肥前系	
275	陶器	碗	S K 526	10.0	7.0	4.5	6/12	密	淡黄 (2.5Y8/4)		肥前系	
276	青花	香炉蓋	S K 526	(6.0)	(2.1)	-	2/12	密	白 (N9/0)		中国	
277	青磁	密	S K 526	-	(5.3)	(15.6)	底) 2/12	密	灰白 (5YR/1)		中国	
278	瓦質土器	鍋	S K 526	(27.5)	(3.2)	-	1/12以下	密	灰 (10YR7/1)			破片
279	陶器	襷鉢	S K 526	-	-	-	不明	密	灰白 (2.5Y8/1) + 極細半濁 (5YR2/3)		信楽系	
280	土師器	皿	S X 519	(9.6)	2.1	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)			
281	須恵器	密	S X 519	-	(5.3)	(9.8)	3/12	やや粗	内) 灰黄 (2.5Y6/2) 外) 黄灰 (2.5Y6/1)			
282	土師器	皿	S K 709	5.0	1.5	-	12/12	密	にぶい橙 (5YR6/4)		在地	
283	青磁	皿	S K 709	(14.3)	2.6	8.0	1/12	精良	灰白 (7.5Y8/1)	青緑	肥前系	
284	染付	小瓶	S K 709	-	(4.4)	2.7	底) 12/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
285	土師器	皿	S K 731	10.4	2.0	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
286	陶器	襷鉢	S K 731	-	(5.5)	-	不明	密	浅黄橙 (10YR8/3)		京・信楽系	
287	土師器	鉢	S K 548	9.7	(3.8)	-	5/12	密	淡黄 (2.5Y8/3)		在地	
288	須恵器	鉢	S K 548	(20.1)	(2.5)	-	1/12以下	密	褐灰 (10YR6/1)			
289	土師器	皿	S X 737	(9.2)	2.1	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
290	土師器	皿	S X 737	10.2	(1.9)	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
291	土師器	皿	S X 737	(12.6)	1.9	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
292	土師器	皿	S K 552	(12.6)	(2.3)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
293	陶器	碗	S K 552	(9.6)	(1.8)	-	1/12	密		灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
294	土師器	皿	S K 628	(10.2)	(2.0)	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
295	土師器	皿	S K 628	11.8	1.9	-	9/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
296	青花	小碗	S K 628	7.2	4.3	2.7	11/12	密	白 (N9/0)		中国	
297	青花	碗	S K 628	8.5	4.7	(3.5)	10/12	密	白 (N9/0)		中国	見込みに「大明成化半製」
298	染付	碗	S X 729	(8.6)	6.0	4.0	3/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
299	土師器	平仄	S X 729	(15.6)	3.8	(14.6)	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
300	土師器	皿	S X 750	5.4	1.5	-	11/12	密	にぶい橙 (5YR6/4)		在地	
301	土師器	皿	S X 750	5.3	1.4	-	9/12	密	橙 (7.5YR6/6)		在地	
302	土師器	皿	S X 750	7.9	1.8	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
303	土師器	皿	S X 750	9.2	1.9	-	7/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/3)		在地	口縁採付着。 底部穿孔あり
304	土師器	鉢	S X 750	9.6	3.5	-	8/12	密	浅黄橙 (2.5Y7/3)・ にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
305	陶器	皿	S X 750	11.6	1.8	-	6/12	精良	にぶい橙 (7.5YR7/4)	赤褐 (2.5YR4/6)		飾り取っ手付き、灯明皿
306	陶器	碗	S X 750	(8.8)	(5.5)	(4.6)	3/12	精良	灰白 (2.5Y8/2)	淡茶・濃茶	肥前系	斑唐津
307	陶器	碗	S X 750	(9.5)	6.8	(4.3)	1/12	精良	橙 (5YR6/8)	黒褐 (5YR2/2)・灰白 (5YR8/1)	肥前系	梅輪
308	白磁	碗	S X 750	-	(3.9)	4.5	底) 8/12	精良	灰白 (5Y8/1)	明緑灰 (7.5GY8/1)	肥前系	

報告 番号	種類	器形	遺構名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
309	染付	椀	S X 750	(10.4)	(5.0)	-	3/12	精良	灰白 (5Y8/1)		肥前系	
310	陶器	壺	S X 750	(7.6)	7.7	-	1/12以下	精良	明赤褐 (5YR5-6)・ にぶい赤褐 (5YR5-3)			体部に線刻 「丁子冬日・ 非池古式」
311	土師器	風車	S X 750	(22.2)	17.3	20.0	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)			
312	陶器	壺	S X 750	47.8	(25.5)	-	6/12	密	灰白 (2.5Y7/1)		信楽系	
313	土師器	皿	S X 609	(12.0)	(2.0)	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
314	染付	椀	S X 609	7.9	3.2	2.3	6/12	精良	灰白 (5Y8/1)		肥前系	
315	染付	椀	S X 609	9.8	5.1	3.4	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
316	染付	椀	S X 609	10.8	5.2	4.4	6/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
317	染付	椀	S X 609	10.8	5.5	3.6	2/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
318	陶器	椀	S X 609	8.3	4.7	3.0	ほぼ定形	精良	灰黄 (2.5Y7/2)	灰白 (7.5Y7/1)・ オリーブ灰 (7.5Y3/1)	秩系	
319	染付	皿	S X 609	10.1	2.5	6.2	ほぼ定形	精良	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (N8/0)・ 白緑) に ぶい赤褐 (2.5YR4/4)	瀬戸系	
320	染付	皿	S X 609	14.5	4.7	8.8	11/12	精良	白 (N9/0)	明緑灰 (7.5GY8/1)		
321	陶器	土鍋蓋	S X 609	11.3	3.7	-	10/12	精良	にぶい褐 (7.5YR5-3)	にぶい赤褐 (5YR4-3)		
322	陶器	土鍋蓋	S X 609	18.2	4.3	-	9/12	精良	浅黄 (2.5Y8-3)	にぶい褐 (7.5YR5-4)	京都系	
323	陶器	土瓶蓋	S X 609	6.5	2.8	-	ほぼ定形	精良	褐 (7.5YR4-3)	灰オリーブ (5Y5-2)・灰褐 (7.5YR4-2)	京・信 楽系	
324	陶器	瓶	S X 609	-	(11.8)	5.8	底) 定形	密	灰白 (5Y7/1)		信楽系	
325	陶器	鍋	S X 609	18.6	(5.2)	-	4/12	精良	灰黄 (2.5Y6-2)	褐 (7.5YR4-3)	京都系	
326	陶器	鍋	S X 609	14.3	8.0	6.2	11/12	精良	橙 (5YR6-6)		京都系	
327	陶器	鍋	S X 609	14.2	6.0	5.4	7/12	精良	褐 (7.5YR4-4)		京都系	
328	陶器	土瓶	S X 609	7.3	8.4	5.4	11/12	密	淡黄 (2.5Y8-3)		京都系	
329	陶器	鉢	S X 609	33.5	(9.3)	-	5/12	やや密	にぶい赤褐 (5YR5-4)		肥前系	
330	土師器	鍋	S X 609	(25.4)	(7.7)	-	1/12	やや密	内) にぶい黄 橙 (10YR7-3) 外) 灰黄褐 (10YR4-2)			
331	土師器	皿	S D 742	5.6	1.4	-	9/12	密	にぶい黄橙 (10YR7-4)		在地	
332	土師器	皿	S P 796	(5.5)	1.1	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR6-4)		在地	
333	土師器	皿	S P 560	5.6	1.4	-	7/12	密	にぶい褐 (7.5YR6-4)		在地	
334	土師器	皿	S P 723	5.3	1.3	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7-3)		在地	
335	土師器	皿	S P 509	6.0	1.4	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7-4)		在地	
336	土師器	皿	S P 560	5.5	1.4	-	ほぼ定形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
337	土師器	皿	S D 817	9.4	2.1	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7-4)		在地	
338	土師器	皿	S D 518	10.0	(2.7)	-	5/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
339	土師器	皿	S P 789	10.7	2.5	-	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
340	土師器	皿	S P 789	10.4	2.0	-	12/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	灯明皿
341	土師器	皿	S P 576	(10.6)	(2.0)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
342	土師器	皿	S P 512	10.8	(1.6)	-	5/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
343	土師器	皿	S D 817	10.4	2.2	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	灯明皿
344	土師器	皿	S P 545	(10.9)	(1.9)	-	2/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR6-4)		在地	灯明皿

報告 番号	種類	器形	通稱名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
345	土師器	皿	S P 509	(11.2)	(1.9)	-	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	灯明皿
346	土師器	皿	S D 518	(11.8)	(2.3)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
347	土師器	皿	S D 744	(9.6)	1.7	-	3/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
348	土師器	皿	S P 509	(11.4)	(2.4)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
349	土師器	皿	S D 742	10.8	2.0	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
350	土師器	皿	S P 539	(10.7)	(1.5)	-	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
351	土師器	皿	S P 559	(10.1)	1.5	-	3/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	
352	土師器	皿	S P 560	10.2	2.0	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
353	土師器	皿	S P 559	10.2	(1.7)	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
354	土師器	皿	S P 575	12.1	(2.1)	-	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
355	土師器	皿	S P 533	12.3	2.0	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
356	土師器	皿	S P 513	(10.5)	(1.8)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	灯明皿
357	土師器	皿	S P 789	11.5	2.1	-	7/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
358	土師器	皿	S P 723	12.1	1.8	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
359	土師器	皿	S P 512	(13.4)	1.8	-	1/12以下	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
360	須恵器	杯蓋	S P 560	(12.9)	(1.4)	-	1/12	やや密	黄灰 (2.5Y6/1)			
361	土師器	小壺	S P 723	2.2	(2.8)	-	3/12	密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
362	土師器	壺	S P 534	(9.6)	(2.3)	-	1/12以下	やや粗	にぶい橙 (5YR7/4)			
363	陶器	椀	S P 560	11.0	5.4	3.5	10/12	精良	灰褐 (7.5YR5/2)		肥前系	
364	陶器	椀	S P 559	10.1	6.3	3.8	6/12	精良	にぶい黄 (2.5Y6/3)		肥前系	
365	色絵	椀	S P 603	9.8	5.3	3.7	11/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
366	染付	椀	S D 744	11.0	6.0	4.6	4/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
367	染付	椀	S P 625	15.4	8.4	(6.4)	8/12	密	白 (N9/0)		肥前系	高台内に文字 (不明)
368	染付	椀	S P 511	(10.2)	2.0	-	1/12	密	白 (N9/0)	明オリブ灰 (2.5GY7/1)	肥前系	
369	陶器	椀	S P 507	(11.4)	(2.2)	-	1/12以下	密	褐 (7.5YR4/3)	黒褐 (7.5YR3/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
370	陶器	椀	S P 513	(10.0)	(2.0)	-	1/12	密	灰黄 (2.5Y6/2)	灰オリブ (5Y6/2)	肥前系	
371	陶器	椀	S P 512	(11.0)	(3.5)	-	2/12	密	灰白 (2.5Y8/1)		萩系	
372	陶器	向付	S D 782	-	(4.9)	-	不明	精良	灰白 (10YR8/2)	暗赤褐 (5YR3/4)・濃 緑	瀬戸・美濃系	青織部
373	陶器	皿	S P 826	10.4	2.1	5.6	(ほぼ) 完形	精良	灰白 (10YR9/1)	灰オリブ (7.5Y5/3)・ にぶい黄褐 (10YR5/4)	瀬戸・美濃系	
374	陶器	向付	S D 744	-	(4.0)	43.6	(底) 12/12	精良	灰白 (10YR7/1)		肥前系	
375	染付	小瓶	S D 755	28	(2.1)	-	12/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	鉄輪? (縦線) あり。粘着津
376	土製品	人形	S P 509	幅 (4.2)	(3.0)	-	不明	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		京都系	鳥形頭部か
377	土師器	壺	S P 789	(3.3)	(7.0)	-	1/12	密	橙 (7.5YR7/6)			
378	土師器	風炉	S P 560	22.6	11.4	16.2	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/4) ~黄橙 (10YR8/6)		京都系	
379	土師器	壺	S P 545	(15.1)	(1.4)	-	1/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)			
380	白磁	椀	S P 714	(15.0)	(2.7)	-	1/12以下	精良	灰白 (7.5Y7/1)		中国	
381	土師器	焙烙	S D 518	(23.8)	(2.9)	-	1/12以下	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)			
382	土師器	鍋	S D 817	(30.0)	(9.7)	-	2/12	密	オリブ照 (5Y3/1)			

報告 番号	種類	器形	通標名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	輪軸		
383	陶器	襷鉢	S D 817	30.0	(6.9)	-	8/12	密	灰赤 (2.5YR4/2)		備前系	片口
384	陶器	襷鉢	S D 744	(29.0)	(6.3)	-	1/12以下	やや粗	にぶい褐 (7.5YR5/4)		丹波系	
385	土師器	皿	S D 941	(9.8)	1.9	-	3/12	やや密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
386	土師器	皿	S P 920	9.1	1.7	-	4/12	やや粗	橙 (7.5YR7/6)		在地	
387	土師器	皿	S D 941	9.5	2.1	-	11/12	やや密	橙 (5YR6/6)		在地	
388	土師器	皿	S P 920	(10.4)	2.2	-	3/12	密	橙 (2.5YR6/6)		在地	
389	土師器	皿	S D 941	(11.1)	2.0	-	3/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
390	土師器	皿	S D 941	(13.6)	(1.9)	-	3/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
391	土師器	皿	S D 941	12.4	2.2	-	6/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
392	土師器	皿	S D 941	(11.3)	(1.9)	-	3/12	やや密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
393	土師器	皿	S D 941	(13.0)	(2.0)	-	3/12	密	にぶい橙 (5YR6/4)		在地	
394	土師器	皿	S D 941	12.5	2.5	-	6/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
395	土師器	皿	S P 925	(11.9)	(2.1)	-	2/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
396	土師器	皿	S D 941	(11.8)	2.1	-	3/12	密	内) 浅黄橙 (7.5YR8/4) 外) にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
397	土師器	皿	S D 941	(12.0)	(2.2)	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
398	土師器	皿	S D 941	(11.8)	(2.0)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
399	土師器	皿	S D 941	(13.2)	(2.2)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
400	土師器	皿	S D 941	(12.4)	(1.8)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
401	土師器	皿	S D 941	(13.6)	(2.0)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
402	土師器	皿	S D 941	9.5	2.0	-	6/12	やや密	橙 (5YR6/8)		在地	
403	土師器	皿	S P 921	(6.0)	1.9	-	1/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
404	土師器	皿	S P 919	(11.4)	(2.3)	-	2/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
405	土師器	皿	S P 924	(13.0)	(1.6)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
406	土師器	皿	S P 922	(13.9)	(2.0)	-	2/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
407	土師器	皿	S P 920	16.2	2.3	-	7/12	密	橙 (2.5YR6/6)		在地	
408	陶器	襷鉢	S P 917	34.3	14.4	15.0	7/12	やや密	内) にぶい褐 (7.5YR5/3) 外) 褐 (7.5YR4/6)		信楽系	丹波系
409	陶器	釜	S P 906	-	(15.3)	(18.4)	底) 完形	やや粗	橙 (5YR6/4)		信楽系	
410	土師器	ミニチュア土器	S K 935	3.8	1.5	-	完形	密	にぶい黄 (2.5Y6/3)			鍋蓋
411	土師器	小壺	S K 935	2.2	(2.8)	-	6/12	やや密	浅黄 (2.5Y7/3)		在地	
412	陶器	不明	S K 935	(15.9)	(3.1)	-	1/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰オリーブ (7.5Y5/3)		
413	土師器	鍋か 焙烙	S P 924	(25.0)	(2.4)	-	1/12	密	黄灰 (2.5Y4/1)			
414	青磁	皿	S P 01	(8.1)	2.1	-	3/12	密	灰白 (10Y8/1)	青灰	中国 (明)	脚3か所か
415	土師器	小壺	S K 05	2.1	2.5	1.7	完形	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
416	陶器	小椀	S K 05	(5.8)	(2.3)	-	3/12	密	灰白 (2.5Y8/2)	浅黄 (2.5Y7/4)	瀬戸・ 美濃系	灰輪
417	土師器	皿	第2面精査	(5.0)		-	3/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
418	土師器	皿	第2面精査	(9.8)	2.0	-	3/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
419	土師器	皿	第2面精査	9.6	2.1	-	完形	やや密	橙 (7.5YR7/6)		在地	

報告 番号	種類	器形	通称名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
420	土師器	皿	第2面精 査	(48)	1.9	-	2/12	やや密	橙 (75YR7/6)		在地	
421	土師器	塩壺	-	3.4	6.0	4.8	8/12	密	内) 灰白 (10YR8/2) 外) におい橙 (5YR7/4)		在地	
422	陶器	急須蓋	-	7.1	1.7	-	完形	精良	灰白 (25Y8/2)	灰白 (25Y7/1)	信楽系	
424	土師器	皿	S K 780	5.6	1.3	-	ほぼ完形	密	橙 (75YR6/6)		在地	灯明皿小
425	磁器	碗	S K 780	6.2	2.8	2.1	ほぼ完形	精良	灰白 (N8/0)		肥前系	
426	土師器	鉢	S K 780	(8.8)	3.4	6.3	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
427	陶器	碗	S K 780	(10.8)	7.0	5.0	3/12	精良	灰白 (25Y8/2)	におい赤褐 (5YR4/3)・黒 (5YR17/1)	瀬戸・ 美濃系	天目碗
428	陶器	碗	S K 780	(11.6)	4.1	4.0	3/12	精良	灰白 (25Y8/1 ~8/2)	明オリブ灰 (25GY7/1)	京都系	
429	土師器	甕	S K 780	(21.8)	(6.7)	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
430	土師器	皿	S K 728	5.0	1.0	-	11/12	密	橙 (5YR6/8)		在地	
431	土師器	皿	S K 728	10.2	1.7	-	5/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
432	土師器	塩壺	S K 728	-	(5.6)	(4.5)		密	におい橙 (7.5YR6/4)		在地	
433	染付	碗	S K 728	10.0	4.6	3.9	11/12	精良	灰白 (5Y8/1)		肥前系	
434	染付	皿	S K 728	9.4	1.95 ~ 2.5	4.9	9/12	精良	灰白 (N8/0)	明緑灰 (7.5GY8/1)	肥前系	輪花
435	陶器	小碗	S K 712	7.3	3.9	3.7	ほぼ完形	密	淡黄 (25Y8/3)	暗褐 (10YR3/4)	瀬戸・ 美濃系	天目碗
436	陶器	碗	S K 712	8.8	(6.2)	-	12/12	精良	におい橙 (5YR6/4)	暗褐 (10YR3/3)	肥前系	唐津、鉄軸
437	陶器	碗	S K 712	(11.2)	6.2	4.0	3/12	精良	灰黄 (25Y7/2)	緑灰 (5G5/1) より明るい	肥前系	唐津、銅鉄軸
438	陶器	碗	S K 712	(11.8)	6.4	(5.9)	1/12	精良	灰白 (25Y8/2)	モスグリーン	肥前系	
439	陶器	碗	S K 712	(11.8)	6.3	5.2	3/12	やや粗	におい褐 (7.5YR5/3)	モスグリーン	肥前系	唐津、灰軸
440	陶器	碗	S K 712	-	(3.1)	4.7	底) 完形	精良	灰白 (25Y8/2)		肥前系	高台内「木下 弥」、京焼風
441	染付	碗	S K 712	(9.9)	6.8	4.1	2/12	精良		灰白 (10Y8/1)	肥前系	
442	染付	碗	S K 712	9.8	6.4	4.3	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
443	染付	碗	S K 712	10.7	5.6	4.2	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
444	染付	碗	S K 712	10.3	5.0	4.2	9/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
445	染付	碗	S K 712	9.5	5.5	4.0	10/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
446	染付	碗	S K 712	10.6	5.9	3.6	4/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
447	染付	碗	S K 712	11.1	6.0	4.2	11/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
448	染付	碗	S K 712	10.9	5.6	4.4	8/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
449	染付	碗	S K 712	10.2	5.6	4.2	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
450	染付	碗	S K 712	9.8	5.6	4.3	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
451	染付	碗	S K 712	(10.8)	5.7	4.4	5/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
452	染付	碗	S K 712	10.4	5.9	4.2	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
453	染付	碗	S K 712	(10.8)	6.2	4.3	3/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
454	染付	碗	S K 712	(10.4)	6.4	4.4	2/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台内「寛真 年製」
455	染付	碗	S K 712	-	(5.4)	4.7	底) 完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台内「寛徳 年製」
456	染付	碗	S K 712	11.5	5.9	4.9	7/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台内「□□」
457	白磁	小碗	S K 712	7.3	5.0	3.5	8/12	精良	白 (N9/0)		中国	
458	粉青沙 器	碗	S K 712	12.0	5.8	4.7	9/12	精良	灰 (N6/1)	灰白 (N8/0・ 7/0)	朝鮮	
459	土師器	皿	S K 712	5.2	1.2	-	ほぼ完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)・ 明赤褐 (5YR5/6)		在地	灯明皿
460	土師器	皿	S K 712	5.0	1.3	-	ほぼ完形	密	におい橙 (7.5YR7/4)		在地	
461	土師器	皿	S K 712	5.4	1.1	-	完形	密	におい橙 (5YR6/4)		在地	

報告 番号	種類	器形	遺構名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬		
462	土師器	皿	S K 712	5.6	1.3	-	10/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
463	土師器	皿	S K 712	5.4	1.0	-	10/12	密	にぶい橙 (5YR6/4)		在地	
464	土師器	皿	S K 712	5.4	1.1	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
465	土師器	皿	S K 712	5.4	2.5	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
466	土師器	皿	S K 712	5.2	1.4	-	ほぼ完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	口縁に煤付着
467	土師器	皿	S K 712	5.3	1.0	-	ほぼ完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
468	土師器	皿	S K 712	5.3	1.1	-	11/12	密	にぶい赤褐 (5YR5/4)		在地	
469	土師器	皿	S K 712	6.0	1.2	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
470	土師器	皿	S K 712	8.8	1.9	-	7/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
471	土師器	皿	S K 712	9.2	1.8	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
472	土師器	皿	S K 712	10.2	2.1	-	10/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
473	土師器	皿	S K 712	10.2	2.1	-	完形	密	橙 (7.5YR6/6)		在地	
474	土師器	皿	S K 712	11.0	2.2	-	完形	密	灰白 (10YR8/2)		在地	口縁付近に煤 付着
475	土師器	皿	S K 712	10.6	2.1	-	10/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
476	土師器	皿	S K 712	10.6	2.1	-	完形	密	橙 (5YR7/6)		在地	
477	土師器	鉢	S K 712	6.5	3.7	-	9/12	密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
478	土師器	鉢	S K 712 (106)	(37)	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地		
479	土師器	鉢	S K 712 (100)	45	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地		
480	瓦質土 器	平灰	S K 712	8.6	6.6	-	10/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/3)		在地	
481	土師器	花壇壺	S K 712	6.6	1.8	-	6/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	口縁を裝飾
482	土師器	塩壺蓋	S K 712	5.1	1.1	-	9/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		上面に刷印	
483	土師器	塩壺	S K 712	5.1	8.9	-	完形	密	橙 (5YR6/6)			
484	土師器	塩壺蓋	S K 712	4.6	1.1	-	9/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)			上面に刷印 「金んぼん七 度本やき志 本」
485	土師器	塩壺	S K 712	5.8	8.5	-	7/12	密	橙 (5YR6/6)			
486	土製品	鈴	S K 712	長 (3.3)	幅 (3.3)	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/2)		在地	
487	土師器	小壺	S K 712	2.3	2.2	-	ほぼ完形	密	淡黄 (2.5Y8/3)		在地	
488	土師器	小壺	S K 712	2.2	2.5	-	完形	密	淡黄 (2.5Y8/3)		在地	
489	土師器	小壺	S K 712	2.4	2.1	-	完形	密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
490	土師器	小壺	S K 712	2.3	2.7	-	完形	密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
491	土師器	鍋	S K 712 (31.0)	(5.2)	-	2/12	密	にぶい褐 (7.5YR6/3)		在地	内外に煤付着	
492	陶器	皿	S K 712	-	(25)	(11.4)	底) 3/12	密	灰黄 (2.5Y7/2)	浅黄 (2.5Y7/3)	肥前系	唐津
493	陶器	鉢	S K 712 (23.6)	5.4	(8.3)	1/12	密	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	肥前系	伊万里	
494	染付	皿	S K 712	23.4	3.9	14.2	7/12	精良	白 (N9/0)	肥前系	伊万里	
495	染付	皿	S K 712	14.2	(2.6)	-	4/12	精良	淡黄 (2.5Y8/3)	灰白 (5Y7/1)	肥前系	
496	染付	皿	S K 712	12.0	2.6	5.2	5/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	
497	染付	皿	S K 712	13.6	2.7	7.8	4/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台内「宣徳 年製」
498	染付	壺蓋	S K 712	4.1	2.3	-	ほぼ完形	精良	灰白 (10YR8/2)		肥前系	
499	陶器	長胴壺	S K 712	9.9	(19.1)	-	4/12	密	内) 褐灰 (7.5YR5/1) 外) 褐 (7.5YR4/4)		ヴェト ナム	

報告 番号	種類	器形	通稱名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考		
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬				
500	陶器	擂鉢	S K 712	292	116	126	4/12	密	にぶい赤褐 (25YR4/3)		信楽系	重ね焼きの痕 有か		
501	陶器	皿	S K 712	-	(1.9)	-	底) 3/12	精良	明赤褐 (5YR6/6)	明赤褐灰 (5YR5/8)		灯明皿		
502	陶器	ミニチ ニア土 器	S K 712	9.8	2.7	-	5/12	密	黒褐 (5YR3/1)・ にぶい赤褐 (5YR4/4)			擂鉢		
503	染付	皿	S K 712	9.3	2.0	4.1	4/12	精良	灰白 (5Y8/1)			肥前系		
504	染付	鉢	S K 712	19.9	8.0	10.4	6/12	精良	灰白 (5Y8/1)			肥前系	古伊万里、花 唐草文、口サ ビ輪化	
505	色絵	鉢	S K 712	21.5	8.3	8.3	6/12	精良	灰白 (25Y8/1)			肥前系	柿右衛門	
506	土師器	皿	S D 738	5.7	1.3	-	10/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)				在地	
507	土師器	皿	S D 738	5.7	1.2	-	11/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)				在地	
508	土師器	皿	S D 738	5.7	1.1	-	11/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)				在地	
509	土師器	皿	S D 738	10.0	2.1	-	12/12	密	橙 (7.5YR7/6)				在地	
510	土師器	皿	S D 738	10.8	2.4	-	完形	密	橙 (7.5YR7/6)				在地	
511	土師器	皿	S D 738	10.8	2.3	-	完形	密	橙 (7.5YR7/6)				在地	
512	土師器	皿	S D 738	10.9	2.1	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)				在地	
513	土師器	皿	S D 738	11.1	2.3	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4) - 浅黄橙 (7.5YR8/4)				在地	
514	土師器	皿	S D 738	10.9	2.2	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)				在地	
515	陶器	碗	S D 738	10.4	4.2	4.4	6/12	精良	灰白 (25Y8/2)			瀬戸・ 美濃系	志野	
516	陶器	小碗	S D 738	7.6	2.8	3.2	ほぼ完形	精良	灰白 (25Y8/2)			瀬戸・ 美濃系	志野	
517	陶器	碗	S D 738	11.7	6.9	4.8	7/12	精良	淡黄 (25Y8/3)	黒 (10YR2/1)		瀬戸・ 美濃系	天目碗	
518	陶器	碗	S D 738	-	(5.2)	(3.8)	1/12以下	精良	灰白 (5Y7/2)	灰オリーブ (7.5Y6/2)		肥前系	灰輪	
519	土師器	皿	西半 宝水焼土	5.5	(1.2)	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)・ 灰黄褐 (10YR5/2)				在地	
520	土師器	皿	西半 宝水焼土	(10.4)	(1.4)	-	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)				在地	
521	土師器	皿	西半 宝水焼土	10.5	2.0	-	7/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)				在地	
522	土師器	皿	西半 宝水焼土	(11.2)	1.9	-	3/12	密	内) にぶい黄 (5Y6/3) 外) にぶい黄 橙 (10YR7/4)				在地	
523	土師器	皿	西半 宝水焼土	(10.7)	2.0	-	2/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)				在地	
524	土師器	皿	西半 宝水焼土	11.6	2.0	-	4/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)				在地	
525	土師器	小壺	西半 宝水焼土	2.2	2.5	-	完形	密	淡黄 (25Y8/3)				在地	
526	土製品	鈴	西半 宝水焼土	長 (4.1)	幅 5.7	-	半分程度	密	浅黄橙 (10YR8/3)				在地	
527	陶器	碗	西半 宝水焼土	12.2	4.6	3.4	7/12	精良	淡黄 (25Y8/3)				京都系	
528	土師器	皿	東半部 2層以下	6.1	1.6	-	6/12	密	灰白 (25Y8/1)				在地	へそ皿
529	土師器	皿	断ち割り I	5.5	1.3	-	7/12	密	橙 (5YR6/6)				在地	
530	土師器	皿	西半部西 側断ち割 り	(9.4)	(1.6)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)				在地	
531	土師器	皿	上部砂漉	(9.0)	(1.5)	-	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)				在地	

報告 番号	種類	器形	遺構名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考	
				口径	器高	底径			露胎部 (表地)	釉薬			
532	土師器	皿	整地土	(9.4)	(1.4)	-	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
533	土師器	皿	整地土	(10.2)	1.8	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
534	土師器	皿	西半 南 西側寺町 整地土	9.6	2.0	-	6/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地		
535	土師器	皿	西半 南 西側寺町 整地土	9.7	2.2	-	9/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
536	土師器	皿	西半上部 砂礫	(10.1)	(2.2)	-	3/12	やや粗	にぶい褐 (7.5YR6/4)		在地		
537	土師器	皿	西半 寺 町整地層	10.7	2.1	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
538	土師器	皿	西半南東 部寺町整 地土	12.0	2.0	-	完形	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地		
539	土師器	皿	整地土	(12.6)	(2.1)	-	3/12	精良	橙 (7.5YR7/6)		在地		
540	土師器	鉢	断ち割り 1	8.7	3.5	-	7/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地		
541	須恵器	壺	整地土礫	-	(3.9)	3.9	底)	完形	密	灰白 (5Y7/2)			
542	緑釉陶器	皿	東半 断 ち割り 1	-	(1.4)	(6.4)	底)	3/12	密	白 (N9/0)			
543	染付	小碗	不明	6.5	4.2	2.5	4/12	精良	白 (N9/0)		肥前系		
544	陶器	小碗	東半 断 ち割り 1	7.2	4.9	3.0	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		肥前系	灰焼	
545	陶器	小碗	東半 断 ち割り 1	7.7	5.0	3.3	7/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR5/3)		肥前系	斑唐津	
546	陶器	碗	西半 瓦 敷下層礫	8.1	5.9	3.9	5/12	精良	にぶい橙 (7.5YR6/4)		肥前系	鉄釉	
547	陶胎染 付	碗	東半 断 ち割り (11.4)	(6.5)	-	2/12	密	灰白 (2.5Y7/1)			肥前系		
548	陶器	碗	東半 断 ち割り (12.6)	4.7	5.0	2/12	密	浅黄 (2.5Y7/4)			肥前系	京焼風	
549	陶器	碗	西半 南 西側寺町 整地土	10.8	6.0	4.1	9/12	精良	浅黄橙 (10YR8/3)		瀬戸・ 美濃系	天目碗	
550	青磁	鉢	断ち割り 礎石4下	(21.6)	(2.5)	-	2/12	精良	灰白 (5Y8/1)	オリーブ灰 (10Y6/2)	中国		
551	陶器	蓋	S E 702	11.4	1.6	-	5/12	精良	灰白 (2.5Y7/1)	暗褐 (7.5YR3/4)			
552	陶器	皿	S E 702	(10.4)	3.1	3.2	3/12	精良	橙 (5YR6/6)	灰オリーブ (5Y5/2)	肥前系	トナリ痕有	
553	土師器	皿	S E 703	5.2	1.4	-	8/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
554	土師器	皿	S E 703	5.8	1.4	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
555	青花	碗	S E 706	-	(3.0)	3.9	底)	12/12	精良	灰白 (2.5Y8/2)		中国	
556	染付	碗	S E 711	7.0	5.2	3.2	11/12	精良	白 (N9/0)		肥前系		
557	青花	不明	S E 711	-	(5.4)	4.2	底)	12/12	精良	白 (N9/0)			
558	弥生土 器	不明	S E 726	-	(2.8)	4.3	底)	12/12	密	内) 橙 (5YR7/6) 外) 浅黄橙 (2.5Y7/3)			
559	土師器	皿	S K 142	5.3	1.3	-	11/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地		
560	土師器	皿	S K 142	(6.2)	2.3	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
561	土師器	皿	S K 142	11.0	2.9	-	5/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地		
562	土師器	皿	S K 142	11.5	1.8	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地		
563	磁器	碗	S K 142	(10.8)	5.6	5.0	6/12	精良	白 (N9/0)		肥前系		
564	染付	碗	S K 142	(11.0)	5.7	3.6	2/12	精良	白 (N9/0)		肥前系		
565	土師器	塩釜蓋	S K 142	8.0	2.0	-	11/12	密	橙 (5YR6/6)			布庄痕 (塩釜 蓋か)	
566	土師器	塩釜	S K 142	(6.1)	9.4	3.0	1/12以下	やや粗	にぶい橙 (7.5YR8/4)			17 c 中以降	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(表地)	釉薬		
567	土師器	甕	S K 142	(100)	7.3	(101)	2/12	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)			
568	陶器	甕	S K 142	(120)	4.2	-	2/12	密	灰白 (7.5Y7/1)	内) 褐 (7.5YR4/3) 外) にぶい褐 (7.5YR5/4)	信楽系	
569	陶器	蓋	S K 142	7.2	2.3	-	ほぼ定形	密	にぶい赤褐 (5YR5/3)	褐 (7.5YR4/4)	瀬戸系	底部糸切り
570	白磁	鉢	S D 124	(21.8)	(4.7)	-	1/12	緻密	灰青 (2.5Y7/2)		肥前系	

南地区墓地

報告番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(表地)	釉薬		
600	土師器	皿	1	S T 90	108	23	-	完形	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
601	土師器	皿	1	S T 90	127	22	-	5/12	やや密	内) にぶい黄 (2.5Y6/3) 外) 黄灰 (2.5Y4/1)		在地	
602	土師器	皿	1	S T 93	(110)	20	-	2/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
603	陶器	椀	1	S T 93	-	(2.3)	4.2	底) 12/12	密	にぶい黄緑 (10YR7/2)		肥前系	
604	染付	椀	1	S T 92	8.2	4.8	3.5	完形	精良	白		肥前系	高台内「太 明年製」
605	染付	椀	1	S T 379	11.7	6.5	4.9	完形	精良	灰白 (7.5Y8/1)		肥前系	
606	染付	小椀	1	S T 380	6.7	4.0	2.3	完形	精良	白		肥前系	
607	土師器	皿	2	S T 45	(9.0)	2.1	-	3/12	密	明黄緑 (10YR6/6)		在地	
608	土師器	皿	2	S T 19	100	1.8	-	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
609	土師器	皿	2	S T 377	(8.2)	1.5	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
610	土師器	皿	2	S T 377	8.3	1.6	-	10/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
611	土師器	皿	2	S T 109	(9.8)	(1.4)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
612	土師器	皿	2	S T 109	9.8	2.4	-	6/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
613	青花	杯	2	S T 109	(7.4)	6.5	3.7	3/12	緻密	白 (N9/0)		肥前系	
614	土師器	皿	2	S T 68	(10.1)	2.0	-	2/12	密	浅黄緑 (7.5YR8/3)		在地	
615	土師器	皿	2	S T 68	10.4	2.2	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
616	土師器	皿	2	S T 68	(10.8)	(1.7)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
617	土師器	皿	2	S T 68	10.4	2.1	-	6/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
618	土師器	皿	2	S T 68	10.8	2.1	-	4/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
619	土師器	皿	2	S T 68	11.0	(1.9)	-	5/12	やや密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
620	土師器	皿	2	S T 68	11.2	(2.5)	-	8/12	やや密	浅黄緑 (10YR8/4)		在地	
621	土師器	皿	2	S T 68	12.1	2.1	-	完形	やや密	橙 (5YR7/6)		在地	
622	土師器	皿	2	S K 14	9.4	1.9	-	4/12	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		在地	
623	土師器	皿	2	S K 14	10.4	1.9	-	7/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
624	陶器	向付	2	S K 14	-	(4.3)	(4.0)	底) 8/12	密	橙 (5YR6/6)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	肥前系	
625	白磁	小杯	2	S T 21	3.8	1.8	1.8	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
626	白磁	小杯	2	S T 21	4.2	2.4	2.0	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
627	白磁	小杯	2	S T 21	4.8	3.1	2.2	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
628	白磁	小杯	2	S T 21	5.0	3.5	2.6	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
629	染付	椀	2	S T 43	8.2	4.8	2.9	完形	精良	灰白 (N8/0)		肥前系	高台砂付着
630	染付	椀	2	S K 66	8.0	4.2	2.5	5/12	精良	灰黄 (2.5Y6/2)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
631	染付	椀	2	S K 66	7.8	4.4	3.2	8/12	精良	灰白 (5Y7/1)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	高台砂付着

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考	
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬			
632	陶器	福鉢	2	S K 66	(34.7)	(8.9)	-	1/12	やや粗	椀 (7.5YR7/6)		信楽		
633	陶器	椀	2	S T 87	11.8	6.3	4.7	3/12	精良	淡黄 (2.5Y8/4)	陶脚 (10YR3/3)	瀬戸・ 美濃系	天目椀	
634	陶器	甌	2	S T 18	4.1	7.4	5.5	11/12	精良	灰白 (5Y7/2)	灰オリーブ (7.5Y6/2)	瀬戸・ 美濃系	底部糸切り	
635	青磁	盤	2	S T 86	(42.0)	(6.4)	-	1/12 以下	密	灰白 (7.5Y7/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1) より明るい緑	中国		
636	白磁	椀	2	S T 85	-	(3.5)	3.0	底) 12/12	精良	灰白 (N8/0) ～にふい椀 (5YR6/4)	乳白	肥前系		
637	磁珠	-	2	S T 85	径0.45	高0.3	穴口径 0.15			浅黄椀 (10YR8/3)			素材:貝か、 穿孔	
638	土師器	皿	3	S T 190	(9.9)	(1.5)	-	1/12	やや密	にふい椀 (7.5YR6/4)			在地	
639	土師器	皿	3	S T 190	(10.0)	(1.9)	-	3/12	やや密	にふい黄椀 (10YR7/3)			在地	
640	土師器	皿	3	S T 190	10.2	2.1	-	10/12	やや密	椀 (5YR7/6)			在地	
641	土師器	皿	3	S T 190	(10.9)	(1.8)	-	2/12	密	浅黄椀 (10YR8/4)			在地	
642	土師器	皿	3	S T 190	(13.4)	2.0	-	1/12	やや密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	
643	陶器	椀	3	S T 190	-	(2.8)	4.3	底) 12/12	密	灰黄 (2.5Y7/2)		肥前系	高台砂付着	
644	土師器	皿	3	S T 366	10.5	(2.0)	-	4/12	やや密	椀 (7.5YR7/6)			在地	
645	土師器	皿	3	S T 366	(10.6)	(1.7)	-	2/12	やや密	浅黄椀 (10YR8/4)			在地	
646	染付	椀	3	S T 366	8.8	4.9	2.9	4/12	密	灰白 (2.5Y8/1)		肥前系	高台砂付着	
647	土師器	皿	3	S T 354	10.2	(2.0)	-	10/12	密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	灯明皿
648	陶器	ミニチュア土器	3	S T 354	4.6	2.8	2.8	6/12	密	浅黄椀 (10YR8/3)				鏡子
649	陶器	蓋	3	S K 78	6.7	2.8	-	9/12	密	にふい黄椀 (10YR7/2)		瀬戸・ 美濃系	底部糸切り	
650	土師器	皿	4	S T 35	11.2	2.1	-	4/12	密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	
651	土師器	皿	4	S T 35	(11.3)	2.2	-	2/12	密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	
652	土師器	皿	4	S T 24	7.1	1.4	-	7/12	密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	
653	土師器	皿	4	S T 24	(9.8)	1.6	-	1/12	密	浅黄椀 (10YR8/4)			在地	
654	土師器	皿	4	S T 24	9.7	(2.1)	-	4/12	密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	
655	土師器	皿	4	S T 24	9.8	1.9	-	8/12	密	にふい椀 (7.5YR7/4)			在地	
656	土師器	皿	4	S T 24	10.0	(1.7)	-	4/12	密	椀 (7.5YR7/6)			在地	
657	土師器	皿	4	S T 24	9.9	1.8	-	5/12	密	椀 (7.5YR7/6)			在地	
658	土師器	皿	4	S T 24	10.2	1.7	-	4/12	密	椀 (7.5YR6/6)			在地	
659	土師器	皿	4	S T 24	10.5	1.9	-	4/12	密	浅黄椀 (7.5YR8/4)			在地	
660	土師器	皿	4	S T 24	11.2	1.8	-	4/12	密	浅黄椀 (10YR8/3)			在地	
661	土師器	鉢	4	S T 24	(10.3)	(3.3)	-	3/12	密	浅黄椀 (10YR8/3)			在地	
662	陶器	椀	4	S T 24	-	(2.7)	4.4	底) 完 形)	精良	灰白 (5Y8/1)	灰白 (10Y7/1)	肥前系		
663	陶器	椀	4	S T 24	-	(3.4)	4.1	底) 12 は完形	密	灰白 (2.5Y8/2)	灰黄椀 (10YR4/2)	瀬戸・ 美濃系	天目椀	
664	土師器	皿	4	S T 33	10.6	(2.0)	-	8/12	密	椀 (5YR7/6)			在地	
665	染付	椀	4	S T 33	-	(2.5)	4.0	底) 14 は完形	精良	白 (N9/0)		肥前系		
666	土師器	皿	4	S T 34	(12.2)	2.1	-	1/12	密	椀 (7.5YR7/6)			在地	
667	白磁	椀	4	S T 197	8.2	5.0	3.3	完形	密	白 (N9/0)	灰白 (5Y8/1)	肥前系		
668	白磁	小杯	4	S T 332	6.7	4.1	2.9	完形	密	灰白 (5Y8/1)		肥前系		

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
669	陶器	碗	4	S T 341	115	(63)	-	5/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)	赤黑 (2.5YR2/1)	瀬戸・美濃系	天目碗
670	土師器	皿	5	S T 31	(98)	21	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
671	土師器	皿	5	S T 31	108	20	-	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
672	陶器	碗	5	S K 30	85	24	45	10/12	密	赤橙 (10R6/6)		瀬戸・美濃系	底部糸切り
673	土師器	皿	5	S T 59	103	20	-	9/12	やや粗	橙 (2.5YR7/8)		在地	
674	土師器	皿	5	S T 59	(102)	18	-	3/12	やや粗	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
675	土師器	皿	5	S T 59	103	18	-	5/12	やや粗	淡橙 (5YR8/4)		在地	
676	土師器	皿	5	S T 59	109	20	-	5/12	やや粗	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
677	土師器	鉢	5	S T 59	9.8	4.6	-	完形	密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
678	陶器	碗	5	S T 59	(102)	(36)	-	1/12	やや粗	浅黄橙 (7.5YR8/3)		瀬戸・美濃系	天目碗
679	土師器	皿	6	S T 48	(101)	1.5	-	3/12	やや粗	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
680	土師器	鉢	6	S T 48	(104)	(35)	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
681	白磁	ミニチュア土器	6	S T 26	5.0	3.7	28	11/12	密	白 (N9/0)		肥前系	碗
682	土師器	皿	6	S T 25	9.4	1.5	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
683	土師器	皿	6	S T 25	(9.6)	2.1	-	3/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
684	土師器	皿	6	S T 25	(9.8)	1.6	-	3/12	密	橙 (2.5YR6/6)		在地	
685	土師器	小壺	6	S T 25	29	1.8	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
686	白磁	皿	6	S T 25	-	(1.5)	42	破) 完形	密	白 (N9/0)		肥前系	
687	陶器	碗	6	S T 25	-	(2.7)	48	破) 完形	やや粗	浅黄橙 (10YR8/3)		瀬戸・美濃系	
688	土製品	-	6	S T 25	長 (5.0)	幅 (2.7)	厚0.6 ~0.9	不明	密	にぶい橙 (7.5YR7/3)			人形か
689	土製品	家形	6	S T 25	長 (4.5)	幅 (4.1)	厚0.5 ~1.3	不明	やや粗	浅黄橙 (7.5YR8/3)			箱庭道具か
690	土製品	泥面子	6	S T 25	径29	厚0.9	-	ほぼ完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)			四つ輪遣い文
691	土製品	泥面子	6	S T 25	径29	厚1.0	-	ほぼ完形	やや粗	にぶい橙 (5YR7/4)			樹文
692	土師器	皿	8	S K 40	9.3	1.9	-	5/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
693	土師器	皿	8	S K 40	9.8	2.1	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
694	土師器	皿	8	S K 40	(10.0)	1.9	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
695	土師器	皿	8	S K 40	(10.2)	2.2	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
696	土師器	皿	8	S K 40	(10.2)	(2.0)	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
697	土師器	皿	8	S K 40	10.4	(2.2)	-	4/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
698	土師器	皿	8	S K 40	10.5	2.0	-	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
699	土師器	皿	8	S K 40	10.8	2.1	-	5/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
700	土師器	皿	8	S K 40	(11.0)	(2.0)	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
701	土師器	皿	8	S K 40	11.6	2.2	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
702	土師器	皿	8	S K 40	(11.6)	2.2	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
703	土師器	皿	8	S K 40	12.0	2.1	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
704	土師器	皿	8	S K 40	(12.1)	2.0	-	2/12	密	灰白 (10Y8/2)		在地	
705	土師器	皿	8	S K 40	12.4	(2.3)	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
706	土師器	皿	8	S K 40	(12.6)	2.0	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
707	陶器	碗	8	S K 40	10.0	7.8	4.5	4/12	密	橙 (5YR6/6)		瀬戸・美濃系	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考	
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(表土)	釉薬			
708	陶器	碗	8	S K 40	(112)	(47)	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		瀬戸・美濃系	大日輪	
709	陶器	鉢	8	S K 40	-	(60)	(94)	5/12	密	赤褐 (10R5/4)		肥前系	瀬戸目	
710	土製品	不明	8	S K 40	長4.2	幅47	厚06 ~11		完形	密	明赤褐 (5YR5/6)			
711	土製品	大形土製品	8	S K 40	長8.9	5.8	幅35		足一部欠	密	内) 浅黄 (25Y7/4) 外) 黄灰 (25Y4/1)			
712	白磁	碗	8	S T 323	8.4	4.8	3.2		ほぼ完形	密	灰 (N8/0)	肥前系	高台砂付着	
713	土師器	皿	9	S T 29	10.7	1.7	-		ほぼ完形	やや密	橙 (7.5YR7/6)	在地		
714	土師器	皿	9	S T 29 (109)	(17)	-	1/12		やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
715	土師器	小壺	9	S T 29	2.0	2.3	-		完形	やや密	浅黄橙 (10YR8/3)	在地		
716	土師器	皿	9	S T 321	10.5	2.0	-	6/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
717	陶器	小杯	9	S T 321	5.4	3.3	2.2	9/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		肥前系		
718	土製品	ミニチュア土器	9	S T 321	(5.6)	3.3	3.3	2/12	密	淡黄 (25Y8/3)				
719	土製品	ミニチュア土器	9	S T 321	5.5	1.8	3.5		取手欠	密	淡黄 (25Y8/3)		鏡子	
720	土師器	鉢	9	S T 315	8.7	(3.1)	-	11/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
721	染付	碗	9	S T 315	-	(2.7)	3.5		底) 12/12	密	灰白 (5Y7/1)	肥前系	高台砂付着	
722	土師器	皿	9	S K 38	5.8	1.2	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
723	土師器	皿	9	S K 38 (10.0)	(10.0)	2.2	-	2/12	密	にぶい褐 (7.5YR6/3)		在地		
724	陶器	碗	9	S K 38 (10.0)	(10.0)	(5.5)	-	1/12 以下	やや密	にぶい黄褐 (10YR5/3)		肥前系		
725	細器	仏飯器	9	S K 38	-	(4.4)	4.0		底) 12/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	肥前系		
726	土師器	皿	10	S T 50-312	11.2	2.3	-		ほぼ完形	密	橙 (7.5YR7/6)	在地		
727	土師器	皿	10	S T 50 (12.0)	(12.0)	(2.2)	-	1/12	密	橙 (5YR7/6)	在地			
728	土師器	皿	10	S T 50 (12.2)	(12.2)	(2.1)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)	在地			
729	土師器	鉢	12	S T 50	8.0	3.5	5.7	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	底部糸切りか	
730	陶器	碗	10	S T 50 (4.0)	(5.4)	3.8	底) 6/12		密	にぶい黄橙 (10YR6/3)	オリーブ黒 (5Y2/2)	肥前系		
731	陶器	碗	10	S T 50	-	(3.5)	3.1	6/12	密	橙 (5YR6/6)	暗オリーブ (5Y4/3)	肥前系		
732	染付	碗	10	S T 50	-	(23.0)	(4.2)		完形	密	白 (N9/0)	肥前系	高台砂付着	
733	土師器	皿	10	S T 308	9.7	2.2	-		ほぼ完形	密	橙 (7.5YR7/6)	在地		
734	土師器	皿	10	S T 308 (1.5)	(2.2)	-	2/12		密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
735	土師器	皿	10	S T 308 (11.1)	(11.1)	(2.2)	-	1/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地		
736	土師器	皿	10	S T 303	8.2	1.6	-	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
737	土師器	皿	10	S T 303	9.5	2.1	-		完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)	在地		
738	陶器	碗	10	S T 303 (4.8)	(2.1)	4.9	底) 12/12		密	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	肥前系		
739	白磁	碗	10	S T 305	9.1	5.1	3.7		完形	釉薬	白 (N9/0)	肥前系	高台砂付着	
740	土師器	皿	11	S T 74	10.7	(1.9)	-	9/12	密	淡橙 (5YR8/4)		在地		
741	土師器	皿	11	S T 74 (10.8)	(10.8)	(2.2)	-	2/12	やや密	橙 (5YR7/6)		在地		
742	土師器	皿	11	S T 74 (11.0)	(11.0)	2.2	-	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
743	土師器	皿	11	S T 74 (11.4)	(11.4)	(2.0)	-	3/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地		

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
744	染付	蓋	11	S T 70	50	(19)	-	ほぼ定形	精良	灰白 (25Y8/2)	明青灰	肥前系	
745	陶器	壺	11	S T 70	(70)	(39)	-	2/12	密	灰黄緑 (10YR6/2)	黒褐 (10YR2/3)	瀬戸・美濃系	
746	染付	椀	11	S T 70	115	60	42	12/12 (底部欠)	精良	白 (N9/0)	明緑灰 (7.5GY8/1)	肥前系	高台内「太明化年」
747	陶器	椀	11	S T 69	(110)	58	49	1/12	密	浅黄緑 (10YR8/3)	黒褐 (7.5YR3/3)	瀬戸・美濃系	天日椀
748	土師器	皿	12	S T 54	103	(19)	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
749	土師器	小壺	12	S T 219	25	25	-	完形	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
750	染付	小杯	12	S T 162	6.7	4.2	26	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
751	染付	小杯	12	S T 65	6.4	3.2	26	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
752	染付	小椀	12	S T 56	7.1	3.9	24	ほぼ定形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台内「太明」。高台砂付着
753	染付	椀	12	S T 56	-	(34)	3.8	底) 4/12	精良	灰白 (5Y8/1)	明オリープ灰 (5GY7/1)	肥前系	
754	陶器	椀	12	S T 56	8.9	6.8	4.1	ほぼ定形	密	にぶい赤褐 (5YR5/4)	黒褐 (25Y3/1)	肥前系	
755	陶器	椀	12	S T 56	(117)	5.2	(44)	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/3)	褐 (7.5YR4/4)	瀬戸・美濃系	天日椀
756	染付	蓋	12	S T 196	6.5	3.5	-	8/12	密	白 (N9/0)		肥前系	
757	染付	椀	12	S T 196	(80)	5.6	3.9	1/12	密	白 (N9/0)		肥前系	
758	土師器	小壺	12	S T 195	2.1	2.2	-	完形	密	浅黄緑 (10YR8/3)		在地	
759	土師器	小壺	12	S T 195	2.5	2.6	-	完形	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		在地	
760	土製品	ミニチュア土器	12	S T 195	1.2	6.5	20	ほぼ定形	密	浅黄緑 (7.5YR8/3)			瓶
761	土製品	ミニチュア土器	12	S T 195	6.3	1.8	3.1	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)			皿
762	土製品	人形	12	S T 195	幅4.8	5.5	-	完形	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		京・伏見系	天神(香原道真)
763	土製品	人形	12	S T 195	長4.1	(3.4)	幅2.3	一部欠	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		京・伏見系	旗
764	土製品	人形	12	S T 195	長7.9	2.8	幅5.6	一部欠	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		京・伏見系	亀
765	土製品	人形	12	S T 195	幅3.9	(6.4)	-	顔部欠	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		京・伏見系	西洋像か
766	土製品	人形	12	S T 404	幅3.9	(6.2)	-	顔部欠	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		京・伏見系	
767	土師器	皿	13	S T 415	9.4	2.1	-	完形	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		在地	
768	染付	椀	13	S T 415	9.7	5.7	4.2	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
769	土師器	皿	13	S T 127	10.2	(1.7)	-	4/12	密	橙 (2.5YR6/8)		在地	
770	土師器	皿	13	S T 127	10.4	1.8	-	完形	密	にぶい黄緑 (10YR7/3)		在地	
771	土師器	皿	13	S T 127	9.8	1.9	-	10/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
772	染付	椀	13	S T 127	8.4	4.8	-	4/12	密	灰白 (5Y8/1) より白い		肥前系	高台砂付着
773	染付	椀	13	S T 127	9.5	5.2	3.3	完形	密	白 (N9/0)	明緑灰 (7.5GY8/1)	肥前系	
774	染付	椀	13	S T 127	8.7	5.2	3.4	完形	密	灰 (7.5Y6/1)		肥前系	
775	陶器	椀	13	S T 127	-	(2.1)	4.2	底) ほぼ定形	密	淡黄 (2.5Y8/3)	灰白 (2.5Y8/3)	瀬戸・美濃系	志野
776	土師器	皿	13	S T 210・211	(9.9)	(1.8)	-	2/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
777	土師器	皿	13	S T 210・211	(110)	2.3	-	3/12	やや密	浅黄緑 (10YR8/3)		在地	
778	陶器	椀	13	S T 210・211	(121)	(4.4)	-	1/12 以下	密	淡黄 (2.5Y8/3)		肥前系	
779	染付	小杯	13	S T 210	7.5	5.5	4.1	12/12	精良	白 (N9/0)		肥前系	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(表地)	釉薬		
780	土師器	小壺	13	S T 215	21	27	17	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
781	土師器	小壺	13	S T 215	23	20	-	完形	やや密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
782	土師器	小壺	13	S T 215	22	28	19	完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
783	白磁	ミニチュア土器	13	S T 215	30	22	16	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	碗
784	白磁	ミニチュア土器	13	S T 215	29	21	15	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	碗
785	染付	ミニチュア土器	13	S T 215	26	18	14	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	碗、高台砂付着
786	染付	ミニチュア土器	13	S T 215	60	14	25	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	皿、輪花、高台砂付着
787	磁器	ミニチュア土器	13	S T 215	42	32	18	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	小杯
788	陶器	ミニチュア土器	13	S T 215	5.3	30	23	完形	密	明赤褐 (2.5YR5-8)			摺鉢
789	陶器	ミニチュア土器	13	S T 215	12	8.5	29	ほぼ完形	密	ややくすんだ白	暗赤褐 (7.5R3/2)		瓶
790	瓦質土器	ミニチュア土器	13	S T 215	29	09	-	完形	密	黒 (N1.5/0)			羽釜蓋
791	瓦質土器	ミニチュア土器	13	S T 215	29	4.7	46	完形	密	黒 (N1.5/0)			羽釜
792	瓦質土器	ミニチュア土器	13	S T 215	8.7	6.4	7.3	完形	密	暗灰 (3/0)			風炉
793	土師器	小壺	13	S T 215	2.2	2.4	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
794	土師器	小壺	13	S T 215	2.3	2.5	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
795	土師器	小壺	13	S T 215	2.3	2.6	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
796	瓦質土器	ミニチュア土器	13	S T 215	29	1.4	-	完形	密	暗灰 (N3/0)			蓋
797	土製品	鈴	13	S T 215	長40	幅3.3	厚0.25	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
798	土製品	鈴	13	S T 215	長45	幅3.4	-	ほぼ完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	墨書3小所
799	土製品	鈴	13	S T 215	長43	幅3.4	厚0.2	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	墨書4小所
800	土師器	ミニチュア土器	13	S T 215	12	1.8	-	完形	密	浅黄 (2.5Y7/3)			壺、口縁内側に鉄付着
801	土師器	皿	13	S T 417	9.8	2.1	-	4/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
802	染付	碗	13	S T 416	5.3	3.0	2.4	ほぼ完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
803	白磁	碗	13	S T 230	10.0	5.4	3.7	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
804	陶器	碗	13	S T 213	6.8	5.3	3.8	完形	密	橙 (2.5YR6/6)	暗褐 (10YR3/3)	肥前系	
805	土製品	人形	13	S T 212	幅27	5.2	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)	オリーブ灰 (10Y4/2)		京・伏見系
806	土師器	皿	14	S T 426	(10.3)	(1.5)	-	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
807	土師器	皿	14	S T 426	(10.4)	1.9	-	1/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
808	土師器	鉢	14	S T 426	(9.8)	(3.1)	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
809	土師器	鉢	14	S T 426	(9.3)	(2.9)	-	2/12	密	灰黄褐 (10YR6/2)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			基群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(表地)	釉薬		
810	白磁	碗	14	S T 426	8.3	4.1	2.8	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	口サゼ
811	土師器	皿	14	S T 138 (108)	1.8	-	3/12	やや密	やや密	黄 (7.5YR7/6)		在地	
812	染付	碗	14	S T 138	8.3	5.2	3.7	6/12	密	灰白 (5Y8/1)		肥前系	高台砂付着
813	陶器	碗	14	S T 138	-	(4.3)	4.8	底) 12/12	密	にぶい赤褐 (5YR5/4)	灰 (5Y4/1)	肥前系	
814	染付	小杯	14	S T 424	7.0	5.2	3.5	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
815	染付	碗	14	S T 424	8.8	5.4	3.9	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
816	土製品	人形	14	S T 424	幅5.0	15.1	厚さ5.3	ほぼ完形	密	にぶい黄 (7.5YR7/4)		京・伏見系	西行像
817	陶器	碗	14	S T 227	8.7	6.1	4.8	10/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)	灰白 (10Y7/1)	肥前系	京焼風
818	染付	碗	14	S T 227 (150)	(4.2)	-	3/12	精良	白 (N9/0)		肥前系		
819	陶器	碗	14	S T 223	9.6	6.0	4.5	完形	密	灰白 (2.5Y8/2)	浅黄 (2.5Y7/4)	肥前系	京焼風、高台内「小松吉」
820	土製品	大形土製品	14	S T 223	幅2.6	2.1	厚さ1.3	足一部欠	密	浅黄 (2.5Y7/3)			
821	陶器	蓋	14	S T 422	6.7	2.4	-	10/12	密	にぶい赤褐 (2.5YR5/3)		瀬戸・美濃系	つまみ部に銅線色きつく。墨書有
822	白磁	小碗	14	S T 221	5.4	3.4	2.5	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
823	染付	碗	14	S T 432	9.2	6.8	4.1	11/12以上	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
824	土師器	鉢	14	S T 191 (10.3)	2.7	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地		
825	細器	小碗	14	S T 191	6.7	3.9	3.0	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
826	細器	小杯	14	S T 191	7.2	5.1	3.7	ほぼ完形	密	白 (N9/0)		肥前系	
827	細器	皿	14	S T 191	-	1.4	-	底) 3/12	密	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
828	土製品	不明	14	S T 191	長5.4	幅1.4	-	欠損有	密	にぶい黄 (5YR6/4)			
829	染付	瓶	14	S T 191	1.1	8.8	3.2	完形	密	白 (N9/0)		肥前系	
830	陶器	鳥形蓋か	14	S T 191	幅7.1	2.5	厚さ3.7	完形	密	灰赤 (10R5/2)			
831	白磁	ミニチュア土器	14	S T 191	0.9	4.3	-	完形	密	白 (N9/0)			瓢箪
832	土製品	鈴	14	S T 191	長1.4	幅1.4	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
833	土製品	鈴	14	S T 191	長1.4	幅1.6	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
834	土製品	人形	14	S T 191	幅3.0	5.1	厚さ2.4	完形	密	灰白 (10YR8/2)	浅黄 (5Y7/4) - 緑	京・伏見系	まびす
835	土製品	人形	14	S T 191	幅2.7	5.3	厚さ2.0	ほぼ完形	密	灰白 (2.5Y8/2)	浅黄 (5Y8/3) - 緑	京・伏見系	
836	赤絵	人形	14	S T 191	幅7.6	9.8	厚さ4.5	完形	精良	白 (N9/0)	赤 (10R4/8)	肥前系	伊万里、2ヶ所穿孔、文殊菩薩
837	白磁	ミニチュア土器	15	S T 444	3.0	1.2	1.3	完形	密	白 (N9/0)			碗、高台砂付着
838	土製品	ミニチュア土器	15	S T 444	5.7	1.8	4.1	完形	密	淡黄 (2.5Y8/3)	黄橙 (10YR7/8)		鏡子
839	土製品	ミニチュア土器	15	S T 444	5.8	3.0	3.4	ほぼ完形	密	灰白 (2.5Y8/2)	明黄褐 (10YR7/6)		鏡子
840	色絵	蓋	15	S T 444	4.2	1.9	-	完形	密	白 (N9/0)			
841	瓦質土器	ミニチュア土器か	15	S T 444	-	(2.4)	5.8	底) 完形	密	暗灰 (N3/0)			風印か
842	陶器	碗	15	S T 445	8.6	4.0	4.5	完形	密	灰白 (2.5Y8/2)		瀬戸・美濃系	志野
843	土師器	皿	15	S T 446	9.3	1.6	-	完形	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
844	土師器	皿	15	S T 180	10.5	2.4	-	10/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(表地)	釉薬		
845	染付	椀	15	S T 228	9.0	4.7	3.8	完形	密	灰白 (75Y8/1)		肥前系	
846	染付	壺	15	S T 163	9.8	3.1	-	ほぼ完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	つまみ内「大明成化年製」
847	土製品	ミニチュア土器	15	S T 235	6.9	2.9	-	9/12	密	淡黄 (25Y8/3)	明黄釉 (25Y7/6)		皿
848	染付	椀	15	S T 232	8.3	5.0	3.6	完形	密	灰白 (10YR8/1)		肥前系	高台砂付着
849	土製品	人形	15	精査	幅2.1	3.9	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)			
850	土師器	皿	16	S T 168	(8.0)	1.5	-	3/12	密	橙 (75YR7/6)		在地	
851	土師器	皿	16	S T 168	9.7	(1.5)	-	12/12	やや密	オリーブ黒 (75Y3/1)		在地	
852	土師器	皿	16	S T 168	10.7	1.9	-	ほぼ完形	やや粗	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	灯明皿
853	土師器	皿	16	S T 168	10.5	2.3	-	完形	やや粗	橙 (5YR6/6)		在地	灯明皿
854	土師器	皿	16	S T 168	10.3	2.0	-	完形	粗	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	灯明皿
855	染付	椀	16	S T 168	10.4	5.4	4.4	9/12	密	白 (N9/0)		肥前系	高台内「福」
856	磁器	椀	16	S T 168	-	(1.7)	(4.3)	5/12	密	暗灰黄 (25Y4/2)・灰白 (25Y8/2)	灰白 (5Y8/2)	京・御業系	高台内「元秋」
857	染付	椀	16	S T 168	11.1	6.2	3.7	7/12	密	白 (N9/0)		肥前系	
858	土師器	皿	16	S K 157	10.0	1.7	-	7/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
859	染付	小椀	16	S T 451	(5.6)	3.7	2.4	3/12	密	灰白 (5Y8/1)		肥前系	高台砂付着
860	土師器	皿	16	S T 455	(9.9)	(1.8)	-	2/12	密	浅黄橙 (75YR7/3)		在地	
861	土師器	ミニチュア土器	16	S T 455	4.3	4.2	3.5	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)			鏡子
862	土師器	皿	16	S T 447	9.8	1.6	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
863	土師器	皿	16	S T 447	(9.8)	(1.8)	-	1/12	密	橙 (75YR7/6)		在地	
864	青磁	椀	16	S T 447	-	(1.7)	4.3	底) 完形	密	白 (N9/0)		肥前系	高台石付着、高台無釉(波佐見)
865	染付	椀	16	S T 240	-	(3.5)	4.0	底) 完形	密	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
866	陶器	椀	16	S T 250	10.4	5.6	4.0	完形	密	にぶい黄橙 (10YR5/4)		肥前系	刷毛口縁、高台砂付着
867	染付	ミニチュア土器	16	a・b 28	2.8	1.2	1.3	完形	密	灰白 (5Y8/1)			椀、高台砂付着
868	土師器	皿	17	S T 81	(7.4)	(1.8)	-	1/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
869	土師器	皿	17	S T 81	(9.0)	(1.5)	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
870	土師器	皿	17	S T 81	(9.6)	(1.3)	-	1/12	密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	
871	土師器	皿	17	S T 81	(9.9)	(1.5)	-	1/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
872	土師器	皿	17	S T 81	(10.3)	(1.5)	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
873	土師器	皿	17	S T 81	(10.9)	(2.3)	-	2/12	密	にぶい橙 (75YR6/4)		在地	
874	土師器	皿	17	S T 385	(12.2)	1.8	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
875	土師器	皿	17	S T 385	(12.4)	1.7	-	2/12	密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	
876	土師器	皿	-	S T 388	10.4	2.2	-	9/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
877	染付	椀	17	S T 392	9.9	5.0	4.2	7/12	密	灰白 (5Y8/1)		肥前系	高台内「大明成化年製」
878	土師器	皿	18	-	(9.5)	2.2	-	11/12	密	橙 (75YR7/6)		在地	
879	土師器	皿	18	-	(10.5)	2.3	-	11/12	密	にぶい橙 (75YR6/4)		在地	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考	
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部 (素地)	釉薬			
880	染付	ミニチュア土器	18	-	29	15	-	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	蓋	
881	染付	ミニチュア土器	18	-	27	30	25	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	蓋	
882	土製品	埴塼	18	-	9.8	10.4	-	完形	粗	灰赤 (7.5R4/2)				
883	土師器	蓋	16	S T 456	-	(19)	-	5/12	密	にぶい 橙 (7.5YR7/4)		在地	惣衣蓋	
884	土師器	壺	16	S T 456	11.1	10.3	15.5	完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	惣衣壺	
885	陶器	四耳壺	4	S T 350	-	(22.8)	9.7	底形	完形	密	にぶい黄 (2.5Y6/3)	暗オリーブ (5Y4/3)	瀬戸・美濃系	磁骨器
886	陶器	蓋	10	S T 50	6.2	1.4	-	ほぼ完形	密	浅黄 (2.5Y7/3)	黄褐 (2.5Y5/6)	瀬戸・美濃系	磁骨器	
887	陶器	二耳壺	10	S T 50	5.5	8.9	6.8	完形	密	浅黄 (2.5Y7/3)	黄褐 (2.5Y5/6)	瀬戸・美濃系	磁骨器、砂目跡3ヶ所	
888	陶器	蓋	14	S T 238	8.2	2.6	-	9/12	密	にぶい赤褐 (5YR4/4)	オリーブ黒 (5Y2/2)	瀬戸・美濃系	磁骨器、底部糸切り	
889	陶器	壺	14	S T 238	7.7	14.0	6.1	完形	密	にぶい赤褐 (5YR4/4)	オリーブ黒 (5Y2/2)	瀬戸・美濃系	磁骨器	
890	染付	蓋	15	S T 179	(7.0)	4.1	-	2/12	密	白 (N9/0)		肥前系	磁骨器	
891	染付	壺	15	S T 179	(8.1)	15.0	6.9	3/12	密	白 (N9/0)		肥前系	磁骨器	
892	陶器	壺	18	-	13.4	21.6	13.6	6/12	密	黄灰 (2.5Y6/1)		信楽	磁骨器	
893	陶器	壺	2	S T 109	14.1	21.4	14.1	8/12	密	灰白 (10YR7/1)		信楽	磁骨器	
894	陶器	壺	9	S T 29	(57.9)	61.8	23.8	2/12	密	内) 暗赤褐 (5YR3/4) 外) にぶい 橙 (5YR6/4) ～暗赤褐 (5YR3/4)		信楽	壺棺	
895	陶器	壺	3	S T 55	63.3	67.2	26.7	11/12	やや粗	内) 暗赤褐 (5YR3/4) 外) にぶい赤 褐 (2.5YR4/4)		信楽	壺棺	
896	陶器	壺	12	S T 54	61.3	73.0	29.8	完形	密	暗赤褐 (2.5YR2/3)		信楽	壺棺	
897	陶器	壺	7	S T 49	62.8	75.5	23.0	6/12	やや粗	暗赤褐 (5YR3/4)		信楽	壺棺	
898	陶器	壺	3	S K 78	55.8	(19.5)	-	12/12	密	明黄褐 (10YR6/8) ～ 黒 (10YR2/1)		信楽	壺棺	
899	陶器	壺	3	S T 354	-	(30.8)	28.5	底) 12/12	密	暗赤褐 (5YR3/3)		信楽	壺棺	
900	陶器	壺	16	S T 240	-	(9.8)	16.1	底) 2/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/2)	暗オリーブ (10YR3/4)	信楽	壺棺	
901	陶器	壺	12	S T 62	-	(14.6)	19.6	底) 12/12	密	暗赤褐 (2.5YR3/4)		信楽	壺棺	
902	陶器	壺	8	S T 41	35.5	40.8	17.3	11/12	密	内) 黒 (7.5YR2/1) 外) 黄褐 (10YR5/8)		信楽	壺棺	
903	土師器	皿	-	S K 80	5.5	1.5	-	11/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
904	土師器	皿	-	S K 80	5.6	1.2	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地		
905	土師器	皿	-	S K 80	5.5	1.3	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
906	土師器	皿	-	S K 80	5.9	1.2	-	ほぼ完形	やや密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地		
907	土師器	皿	-	S K 80	5.3	1.5	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
908	土師器	皿	-	S K 80	5.9	1.6	-	完形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
909	土師器	皿	-	S K 80	5.5	1.3	-	ほぼ完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地		
910	土師器	皿	-	S K 80	5.5	1.2	-	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地		

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			基群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
911	土師器	皿	-	S K 80	(120)	(12)	-	1/12 以下	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
912	土師器	皿	-	S K 80	8.3	1.9	-	9/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
913	土師器	皿	-	S K 80	100	1.9	-	ほぼ完 形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
914	土師器	皿	-	S K 80	10.3	2.1	-	完形	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
915	土師器	皿	-	S K 80	10.1	2.1	-	ほぼ完 形	やや粗	橙 (7.5YR7/6)		在地	
916	土師器	皿	-	S K 80	10.3	2.3	-	ほぼ完 形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
917	土師器	皿	-	S K 80	10.4	2.5	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
918	土師器	皿	-	S K 80	10.4	2.0	-	完形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
919	土師器	皿	-	S K 80	10.3	2.0	-	8/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
920	土師器	皿	-	S K 80	12.4	2.4	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
921	土師器	鉢	-	S K 80	6.2	2.0	4.6	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	底部糸切り
922	土師器	鉢	-	S K 80	6.3	2.1	3.8	完形	密	浅黄 (2.5Y8/3)		在地	底部糸切り
923	土師器	鉢	-	S K 80	6.2	2.2	4.1	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	底部糸切り
924	土師器	鉢	-	S K 80	6.8	2.1	4.2	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	底部糸切り
925	土師器	鉢	-	S K 80	6.4	2.3	4.2	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	底部糸切り
926	土師器	鉢	-	S K 80	9.4	3.0	6.1	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	底部糸切り
927	土師器	鉢	-	S K 80	9.2	3.4	6.6	完形	やや密	淡黄 (2.5Y8/3)		在地	底部糸切り
928	土師器	鉢	-	S K 80	9.7	3.1	6.0	ほぼ完 形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	底部糸切り
929	土師器	鉢	-	S K 80	7.6	3.2	-	12/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
930	土師器	鉢	-	S K 80	9.2	4.8	-	完形	密	淡黄 (2.5Y8/4)		在地	
931	土師器	鉢	-	S K 80	10.2	4.5	-	完形	やや密	内) 浅黄橙 (7.5YR8/4) 外) にぶい黄 橙 (10YR7/3)		在地	
932	陶器	碗	-	S K 80	10.4	5.3	-	7/12	密	灰黄 (2.5Y6/2) (10YR5/4)・ 灰白 (2.5Y8/2)	にぶい黄褐 (10YR5/4)・ 灰白 (2.5Y8/2)	肥前系	瀬戸目
933	陶器	碗	-	S K 80	-	(2.5)	4.3	底) 12/12	精良	灰白 (10YR8/2)		肥前系	唐津、日跡 有
934	陶器	碗	-	S K 80	11.8	7.0	9.2	底) 12/12	精良	灰白 (10YR7/1)		肥前系	京焼風、六 角形
935	染付	碗	-	S K 80	-	(1.9)	2.3	底) 12/12	精良	白		肥前系	
936	土師器	鉢	-	S K 80	8.8	3.6	-	完形	密	浅黄 (2.5Y7/4)		在地	内外面黒書 有
937	土師器	鉢	-	S K 80	9.0	3.4	-	完形	密	内) 明黄褐色 (10YR7/6) 外) 浅黄橙 (10YR8/4)		在地	底面黒書
938	土師器	鉢	-	S K 80	9.2	3.7	-	完形	やや粗	にぶい黄橙 (10YR6/4)		在地	底面黒書
939	土師器	鉢	-	S K 80	8.9	3.4	-	ほぼ完 形	やや密	にぶい黄橙 (10YR6/4)		在地	内外面黒書
940	土師器	鉢	-	S K 80	9.5	3.5	-	8/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	底面黒書、 底部糸切り
941	土師器	鉢	-	S K 80	8.6	3.6	-	10/12	やや密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	内外面黒書
942	土師器	鉢	-	S K 80	8.9	3.4	-	10/12	やや密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	内外面黒書
943	土師器	鉢	-	S K 80	9.5	3.4	-	ほぼ 完形	密	内) 浅黄橙 (10YR8/3) 外) 橙 (7.5YR7/6)		在地	外面黒書
944	土師器	鉢	-	S K 80	9.1	3.4	-	ほぼ 完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考	
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬			
945	土師器	鉢	-	S K 80	90	34	-	11/12	密	内) 浅黄橙 (10YR8/4) 外) にぶい黄 橙 (10YR7/3)		在地	内外面黒書	
946	土師器	鉢	-	S K 80	98	35	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	外面黒書	
947	土師器	鉢	-	S K 80	94	(37)	-	7/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	外面黒書	
948	土師器	皿	-	S K 99	90	17	-	4/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
949	土師器	皿	-	S K 99	(95)	(20)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
950	土師器	皿	-	S K 99	(100)	21	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地		
951	土師器	皿	-	S K 99	(104)	21	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
952	土師器	皿	-	S K 99	(114)	24	-	3/12	密	釉灰 (10YR4/1)		在地		
953	土師器	皿	-	S K 99	(115)	24	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
954	土師器	皿	-	S K 99	(118)	27	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
955	土師器	皿	-	S K 99	(120)	25	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
956	土師器	皿	-	S K 99	121	20	-	5/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
957	土師器	皿	-	S K 99	122	(21)	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
958	土師器	皿	-	S K 99	124	24	-	6/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地		
959	土師器	皿	-	S K 99	125	20	-	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
960	土師器	皿	-	S K 99	(130)	21	-	2/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地		
961	土師器	鉢	-	S K 99	(86)	(44)	-	3/12	密	淡黄 (2.5Y8/3)		在地		
962	土製品	鈴	-	S K 99	長 3.6	幅 3.0	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地		
963	染付	碗	-	S K 99	10.8	(4.3)	-	4/12	精良	灰白 (2.5Y8/1)		肥前系		
964	陶器	碗	-	S K 99	-	(4.6)	4.2	精良	底) 12/12 にぶい褐 (7.5YR7/3)	褐 (7.5YR4/4)		肥前系	唐津	
965	陶器	碗	-	S K 99	(11.2)	7.1	4.5	2/12	精良	浅黄橙 (10YR8/4)	極暗赤褐 (5YR2/3)		美濃・ 瀬戸系	天目碗
966	土師器	皿	-	S K 471	5.4	1.1	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地		
967	土師器	皿	-	S K 471	5.7	1.5	-	完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
968	土師器	皿	-	S K 471	5.9	1.7	-	ほぼ 完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地		
969	土師器	皿	-	S K 471	8.2	1.8	-	完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
970	土師器	皿	-	S K 471	9.7	1.8	-	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
971	土師器	皿	-	S K 471	10.3	2.0	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地		
972	土師器	皿	-	S K 471	10.4	1.9	-	完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
973	土師器	皿	-	S K 471	10.6	1.9	-	完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地		
974	青磁	碗	-	S K 471	12.8	3.4	4.4	4/12	緻密	白 (N9/0)		肥前系		
975	陶器	碗	-	S K 471	13.8	5.0	4.0	4/12	緻密	灰白 (2.5Y7/1)	灰白 (5Y7/2)		肥前系	京焼風、日 跡1か所
976	陶器	碗	-	S K 471	(7.6)	5.2	3.3	3/12	緻密	にぶい黄橙 (10YR6/4)	褐 (10YR4/4)		肥前系	
977	陶器	碗	-	S K 471	(10.0)	6.1	3.8	2/12	緻密	赤褐 (10R4/4)	灰才リーブ (7.5Y6/2)		肥前系	
978	陶器	碗	-	S K 471	11.2	6.6	4.5	4/12	密	灰黄 (2.5Y7/2)	黒 (2.5Y2/1)		肥前系	
979	染付	仏飯器	-	S K 471	(8.8)	6.8	4.2	1/12 以下	密	灰白 (N8/1)			肥前系	
980	土製品	鈴	-	S K 471	長 (4.0)	幅 (4.7)	-	破片	密	浅黄 (2.5Y8/3)		在地		

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(表土)	釉薬		
981	土製品	鈴	-	S K 471	長3.7	幅3.0	厚0.3	ほぼ 完形	密	浅黄 (25Y7/3)		在地	
982	土製品	鈴	-	S K 471	長3.9	幅3.2	厚0.3	ほぼ 完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
983	土製品	鈴	-	S K 471	長3.7	幅3.1	厚0.3	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/2)		在地	
984	土師器	火鉢	-	S K 471	辺28.4	12.6	-	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)			
986	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(5.0)	(1.4)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
987	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(5.0)	(1.2)	-	1/12	密	明黄褐 (10YR7/4)		在地	
988	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	5.0		-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
989	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	5.8	1.1	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
990	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	5.2	2.0	-	6/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
991	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	9.9	2.0	-	5/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
992	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(9.9)	(2.1)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
993	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(9.9)	(2.0)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	灯明皿
994	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	10.2	2.1	-	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
995	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(10.4)	2.3	-	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
996	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(10.4)	(2.2)	-	2/12	密	黒 (7.5YR2/1)		在地	灯明皿
997	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(10.8)	2.1	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	灯明皿
998	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(10.9)	(2.2)	-	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
999	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(10.9)	1.9	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
1000	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	11.0	2.1	-	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
1001	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(11.4)	(1.9)	-	1/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1002	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	11.4	(1.9)	-	5/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
1003	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(11.9)	(1.9)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	
1004	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(11.6)	(2.3)	-	2/12	密	黒褐 (10YR3/1)		在地	
1005	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(11.9)	1.8	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
1006	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(12.0)	(1.9)	-	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1007	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	12.5	2.1	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	灯明皿
1008	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(11.8)	(2.1)	-	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1009	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(12.8)	(2.4)	-	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1010	土師器	皿	-	S E 113 井戸掘形	(13.0)	2.1	-	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1011	陶器	椀	-	S E 113 井戸掘形	-	(5.7)	4.6	底) 4 ほぼ完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰白 (7.5Y7/2)	肥前系	
1012	陶器	椀	-	S E 113 井戸掘形	-	(5.1)	4.9	底) 完形	緻密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰白 (7.5Y7/2)	肥前系	
1013	陶器	椀	-	S E 113 井戸掘形	-	(3.1)	(5.2)	6/12	緻密	灰白 (10YR7/1)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	肥前系	鉄軸椀
1014	陶器	椀	-	S E 113 井戸掘形	(11.1)	6.4	4.7	2/12	密	灰白 (25Y8/2)	黒褐 (5YR2/2)	瀬戸・ 美濃系	天日椀
1015	陶器	椀	-	S E 113 井戸掘形	9.8	(3.5)	-	5/12	緻密	淡黄 (25Y8/3)	灰白 (25Y8/2)	瀬戸・ 美濃系	志野

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1016	土師器	皿	-	SE 113 井戸掘形	-	-	-	不明	密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	穿孔あり
1017	土製品	大形 土製品	-	SE 113 井戸掘形	長 4.9	4.1	幅 2.2	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
1018	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	(5.8)	1.2	-	1/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
1019	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	(5.9)	1.1	-	3/12	密	にぶい黄橙 (75YR7/4)		在地	
1020	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	(9.4)	1.8	-	2/12	密	浅黄橙 (75YR8/3)		在地	
1021	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	9.5	1.8	-	4/12	密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	
1022	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	10.4	1.8	-	5/12	密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	
1023	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	10.9	2.2	-	4/12	密	明黄褐 (10YR7/4)		在地	
1024	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	(12.0)	2.3	-	3/12	密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	
1025	土師器	皿	-	SE 113 井戸内	12.0	(2.3)	-	4/12	密	浅黄橙 (75YR8/3)		在地	
1026	陶器	向付	-	SE 113 井戸内	(9.8)	(5.0)	-	3/12	密	灰白 (25Y8/2) にぶい橙 (75YR7/4)	灰白 (25Y8/1) /オリーブ黄 (75Y6/3)	瀬戸・美濃系	青磁部、口 縁付着
1027	陶器	椀	-	SE 113 井戸内	(10.6)	(5.6)	-	3/12	緻密	灰白 (25Y7/1)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
1028	土師器	塩壺	-	SE 113 井戸内	5.5	9.6	-	ほぼ 完形	密	浅黄橙 (75YR8/3)		泉州	
1029	土師器	皿	-	SE 113 上層	(9.8)	1.7	-	2/12	密	浅黄橙 (75YR8/3)		在地	
1030	土師器	皿	-	SE 113 上層	(11.0)	(2.2)	-	2/12	密	橙 (75YR7/6)		在地	
1031	土師器	皿	-	SE 113 上層	(12.0)	(2.1)	-	2/12	密	橙 (75YR7/6)		在地	
1032	土師器	皿	-	S K 84	(5.1)	1.4	-	3/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1033	土師器	皿	-	S K 84	5.8	1.1	-	5/12	やや密	橙 (25YR6/6)		在地	
1034	土師器	皿	-	S K 84	(9.4)	2.0	-	2/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1035	土師器	皿	-	S K 84	9.9	1.8	-	5/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1036	土師器	皿	-	S K 84	10.0	2.0	-	4/12	やや密	にぶい橙 (75YR7/4)		在地	
1037	土師器	皿	-	S K 84	10.2	2.5	-	4/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1038	土師器	皿	-	S K 84	10.2	1.8	-	4/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1039	土師器	皿	-	S K 84	10.8	2.1	-	5/12	密	浅黄橙 (75YR8/3)		在地	
1040	染付	椀	-	S K 83	(8.8)	(4.4)	-	2/12	精良	灰白 (25Y8/1)		肥前系	
1041	土師器	皿	-	S K 98	9.1	1.8	-	11/12	密	浅黄橙 (75YR8/4)		在地	
1042	土師器	皿	-	S K 98	(9.5)	(1.8)	-	2/12	密	浅黄橙 (75YR8/3)		在地	
1043	土師器	皿	-	S K 98	(10.4)	1.7	-	1/12	やや密	浅黄橙 (75YR8/4)		在地	
1044	土師器	皿	-	S K 98	(10.8)	1.9	-	3/12	やや密	橙 (5YR7/6)		在地	灯明皿
1045	土師器	皿	-	S K 98	(10.8)	(2.5)	-	1/12	やや密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1046	陶器	椀	-	S K 98	(10.2)	(4.3)	-	2/12	やや密	灰黄褐 (10YR6/2)	黒褐 (5YR2/1)	瀬戸・美濃系	天日椀
1047	陶器	椀	-	S K 98	(11.6)	(5.1)	-	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄 (25Y7/2)	肥前系	
1048	陶器	椀	-	S K 98	-	(4.0)	4.7	底) 完形	やや密	灰白 (25Y7/1)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	肥前系	
1049	陶器	椀	-	S K 98	(10.7)	6.2	4.3	1/12 以下	やや密	にぶい橙 (5YR6/3)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
1050	染付	椀	-	S K 98	(9.4)	(5.8)	-	3/12	密	灰白 (N8/0)		肥前系	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	粘土	色調		生産地	備考
			基群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1051	土師器	皿	-	S K 117	58	11	-	5/12	密	内) 細灰色 (5YR5/1) 外) 橙 (5YR6/6)		在地	
1052	土師器	皿	-	S K 117 (60)		11	-	2/12	密	黒 (7.5YR3/1)		在地	
1053	土師器	皿	-	S K 117	94	21	-	ほぼ 完形	やや密	にぶい黄褐 (10YR5/2)		在地	
1054	土師器	皿	-	S K 117	98	21	-	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1055	土師器	皿	-	S K 117 (104)		22	-	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR6/3)		在地	灯明皿
1056	土師器	皿	-	S K 117	110	20	-	4/12	密	内) 細灰 (10YR4/1) 外) 浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
1057	土師器	皿	-	S K 117	110	21	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	灯明皿
1058	土師器	皿	-	S K 117	121	20	-	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
1059	土師器	皿	-	S K 117	124	21	-	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
1060	土師器	皿	-	S K 117 (124)		22	-	2/12	密	内) にぶい橙 (5YR6/4) 外) 細灰 (5YR6/4)		在地	
1061	土師器	皿	-	S K 117 (127)		21	-	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1062	土師器	皿	-	S K 117 (128)		20	-	2/12	密	内) にぶい橙 (7.5YR6/4) 外) 細灰 (7.5YR4/1)		在地	
1063	土師器	焙塔	-	S K 117 (306)	(67)		-	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)			
1064	陶器	椀	-	S K 117	11.5	5.6	4.6	ほぼ 完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	瀬戸・ 美濃系	天目椀
1065	陶器	椀	-	S K 117 (118)	(5.2)			5/12	密	浅黄 (2.5Y8/3)	黒褐 (5YR2/1)	瀬戸・ 美濃系	天目椀
1066	陶器	椀	-	S K 117	120	6.8	5.2	5/12	密	灰オリーブ (7.5Y5/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	肥前系	
1067	土製品	大形 土製品	-	S K 117	幅46	(2.7)	厚さ 2.0	一部欠	密	橙 (7.5YR7/6)			
1068	土製品	大形 土製品	-	S K 117	幅7.1	(3.9)	厚さ 2.6	足欠	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)			
1069	土製品	大形 土製品	-	S K 117	幅6.9		厚さ 3.0	一部欠	密	黒褐 (2.5Y3/1)・浅 黄 (2.5Y8/3)			
1070	土師器	皿	-	S K 139	5.3	1.2	-	11/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1071	土師器	皿	-	S K 139	6.3	1.4	-	10/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1072	土師器	皿	-	S K 139	6.6	1.5	-	完形	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1073	土師器	皿	-	S K 139	6.7	1.6	-	9/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1074	土師器	皿	-	S K 139	9.1	2.0	-	完形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1075	土師器	皿	-	S K 139	9.9	2.0	-	完形	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
1076	土師器	皿	-	S K 139	10.6	2.1	-	6/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
1077	土師器	皿	-	S K 139	10.7	2.3	-	11/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
1078	土師器	皿	-	S K 139	11.0	2.1	-	6/12	密	にぶい黄褐 (10YR5/3)		在地	
1079	土師器	皿	-	S K 139	12.3	2.3	-	8/12	密	橙 (7.5YR6/6)		在地	
1080	土師器	皿	-	S K 139	12.6	2.1	-	4/12	密	橙 (7.5YR6/6)		在地	
1081	土師器	皿	-	S K 139	12.8	2.3	-	11/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1082	土師器	皿	-	S K 139	13.0	2.4	-	5/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
1083	陶器	椀	-	S K 139	11.8	(4.3)		4/12	密	灰黄 (2.5Y6/2)		肥前系	
1084	土師器	皿	-	S K 125	9.8	2.0	-	5/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1085	土師器	皿	-	S K 125	116	25	-	4/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		在地	
1086	土師器	皿	-	S K 125	121	24	-	ほぼ 完形	やや密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1087	土師器	皿	-	S K 125	122	23	-	完形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1088	土師器	皿	-	S K 125	124	23	-	完形	やや密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		在地	
1089	土師器	皿	-	S K 125	127	22	-	完形	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
1090	土師器	皿	-	S K 11	(9.0)	17	-	3/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/3)		在地	
1091	土師器	皿	-	S K 11	100	(21)	-	5/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1092	土師器	皿	-	S K 11	(100)	16	-	3/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/3)		在地	
1093	土師器	皿	-	S K 11	101	21	-	8/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		在地	
1094	土師器	皿	-	S K 11	104	(22)	-	7/12	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1095	土師器	皿	-	S K 11	(104)	(18)	-	3/12	密	明黄釉 (10YR7/6)		在地	
1096	土師器	皿	-	S K 11	106	19	-	8/12	密	内) 浅黄橙 (10YR8/4) 外) 浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
1097	土師器	皿	-	S K 11	106	(1.7)	-	5/12	密	明黄釉 (10YR7/6)		在地	灯明皿
1098	土師器	皿	-	S K 11	109	24	-	10/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	灯明皿
1099	土師器	皿	-	S K 11	(121)	(19)	-	3/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
1100	土師器	皿	-	S K 11	(120)	(1.7)	-	2/12	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1101	土師器	皿	-	S K 11	(124)	2.0	-	3/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/3)		在地	
1102	土師器	皿	-	S K 11	124	(1.9)	-	4/12	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1103	陶器	椀	-	S K 11	(124)	5.9	4.7	4/12	密	黒 (5Y2/1)	釉 (7.5YR4/6)	瀬戸・ 美濃系	天目椀
1104	陶器	皿	-	S K 11	(132)	(29)	(6.2)	2/12	密	浅黄 (2.5Y8/3)	暗オリーブ釉 (2.5Y3/3)・ 灰オリーブ (7.5Y5/3)	瀬戸・ 美濃系	青磁部
1105	土師器	皿	-	S K 111	5.4	1.2	-	完形	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1106	土師器	皿	-	S K 111	6.7	1.5	-	8/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
1107	土師器	皿	-	S K 111	(7.4)	1.5	-	6/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		在地	底部へウ切り
1108	土師器	皿	-	S K 111	9.6	2.2	-	8/12	密	にぶい・橙 (5YR7/4)		在地	
1109	土師器	皿	-	S K 111	9.7	2.1	-	9/12	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1110	土師器	皿	-	S K 111	10.0	2.1	-	10/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
1111	土師器	皿	-	S K 111	10.4	1.9	-	ほぼ 完形	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
1112	土師器	皿	-	S K 111	10.7	2.2	-	8/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	灯明皿
1113	土師器	皿	-	S K 111	10.8	2.2	-	ほぼ 完形	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1114	土師器	皿	-	S K 111	11.1	2.5	-	9/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		在地	灯明皿
1115	土師器	皿	-	S K 111	11.2	2.5	-	ほぼ 完形	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	灯明皿
1116	土師器	皿	-	S K 111	12.4	2.1	-	ほぼ 完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1117	土師器	皿	-	S K 111	12.5	2.5	-	ほぼ 完形	密	橙 (5YR6/6)		在地	
1118	土師器	皿	-	S K 111	12.6	2.5	-	ほぼ 完形	密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	

報告 番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1119	土師器	鉢	-	S K 111	66	20	44	完形	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		在地	
1120	土師器	鉢	-	S K 111	95	34	70	11/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	底部へラ切り
1121	陶器	碗	-	S K 111	117	60	48	9/12	密	褐 (10YR6/4)	灰黄 (2.5Y7/2)	肥前系	皮袖手
1122	陶器	碗	-	S K 111 (110)	56	45	10/12	密	にぶい・赤褐 (5YR5/3)	灰オリーブ (7.5Y5/3)	肥前系		
1123	陶器	碗	-	S K 111	106	57	42	8/12	密	赤褐 (2.5YR4/6)	オリーブ黄 (7.5Y6/3)	肥前系	
1124	陶器	碗	-	S K 111	100	68	40	7/12	密	にぶい・褐 (7.5YR5/3)	浅黄 (5Y7/3)	肥前系	
1125	陶器	碗	-	S K 111	106	68	48	6/12	密	明黄褐 (10YR6/3)	にぶい・黄橙 (10YR6/3)	肥前系	
1126	陶器	杯	-	S K 111	56	54	31	5/12	密	灰白 (7.5Y8/1- 8.2・7/2)		瀬戸・美濃系	目録3か所
1127	陶器	碗	-	S K 111	79	37	34	10/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)	灰白 (10Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野
1128	陶器	向付	-	S K 111	幅9.2	81	72	7/12	密	淡黄 (2.5Y8/3)	灰白 (10YR8/1)	瀬戸・美濃系	志野
1129	土師器	花瓶窓	-	S E 129	(3.6)			6/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/3)			
1130	染付	皿	-	S E 129	100	26	63	8/12	密	灰白 (7.5Y8/1)		肥前系	輪花皿
1131	陶器	皿	-	S E 129 (115)	(1.5)	(1.5)		3/12	密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)		京・信 楽系	灯明皿
1132	陶器	皿	-	S E 129 (128)	(2.8)	2.7		2/12	密	灰白 (10Y9/1)		京・信 楽系	灯明皿
1133	陶器	土瓶	-	S E 129	6.5	119	740	7/12	密	灰黄 (2.5Y6/2)	オリーブ黄 (7.5Y6/3) ~ オリーブ灰 (5Y6/1) より 緑色	京・信 楽系	
1134	土製品	人形	-	S E 129	幅5.6	(7.9)			密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		京・伏 見系	狐
1135	陶器	ミニチュ ニア土 器	-	S E 129	縦83 横4.8	1.4			密	灰白 (5Y8/1)	オリーブ黄 (5Y6/3)		皿
1136	土師器	小壺	-	S K 178	2.7	3.5			密	浅黄 (2.5Y8/3)		在地	
1137	土師器	皿	-	S K 178	5.2	1.4			密	橙 (5YR6/6)		在地	
1138	土師器	皿	-	S K 178	8.4	1.9			密	にぶい・橙 (5YR7/4)		在地	
1139	土師器	皿	-	S K 178	9.9	1.9			密	にぶい・橙 (7.5YR7/3)		在地	
1140	土師器	皿	-	S K 178	10.2	1.8			密	橙 (2.5YR7/6)		在地	
1141	土師器	皿	-	S K 178	10.3	2.1			密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
1142	土師器	皿	-	S K 178 (106)	2.0				密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1143	土師器	皿	-	S K 178	10.5	2.0			密	にぶい・橙 (7.5YR7/4)		在地	
1144	土師器	皿	-	S K 178	10.6	1.9			密	灰白 (10YR8/2)		在地	
1145	土師器	皿	-	S K 178	10.8	2.0			密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1146	土師器	鉢	-	S K 178 (104)	(4.1)				密	灰白 (2.5Y8/2)		在地	
1147	土師器	鉢	-	S K 178	100	(4.4)			密	淡黄 (2.5Y8/3)		在地	
1148	土師器	羽釜	-	S K 178 (256)	(9.5)				密	にぶい・黄橙 (10YR7/4)			
1149	陶器	碗	-	S K 178	6.4	5.5	34	9/12	密	にぶい・赤褐 (5YR5/3)		肥前系	
1150	陶器	碗	-	S K 178	7.3	5.2	34	9/12	密	橙 (5YR6/6)	黒褐 (10YR2/3)	肥前系	
1151	陶器	碗	-	S K 178	7.5	5.2	34	8/12	密	橙 (5YR6/6)	黒褐 (10YR2/3)	肥前系	
1152	陶器	碗	-	S K 178	7.8	9.9	38	5/12	密	にぶい・黄橙 (10YR6/4)	黒褐 (10YR3/2)	肥前系	
1153	陶器	碗	-	S K 178	9.6	6.3 (5.5)	5/12	密	灰白 (5Y8/2)		肥前系	京焼風	
1154	陶器	碗	-	S K 178	8.8	6.4	5.1	7/12	密	灰白 (2.5Y8/1)	浅黄 (2.5Y7/3)	肥前系	京焼風
1155	陶器	碗	-	S K 178	9.8	6.6	4.9	7/12	密	明褐 (7.5YR5/6)		肥前系	京焼風

報告番号	種類	器形	出土地点		法量 (cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1156	染付	碗	-	S K 178	(9/0)	5.0	3.7	2/12	密	白		肥前系	
1157	染付	碗	-	S K 178	9.8	7.0	4.2	5/12	精良	橙 (7.5YR7/6)	明キリーブ灰 (2.5GY7/1)	肥前系	
1158	陶器	碗	-	S K 178	8.3	3.9	3.8	5/12	やや密	浅黄 (2.5Y7/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	瀬戸・美濃系	鉄軸陶
1159	陶器	碗	-	S K 178	11.2	(5.1)	-	8/12	密	浅黄 (2.5Y8/3)	暗褐 (10YR3/3)	瀬戸・美濃系	天日陶

付表8 瓦観察表

(凡例)

・小数字第2位を四捨五入、第1位で表示

・- : 該当なし

報告番号	種類	文様	出土地点		法量 (cm)			残存率	色調	胎土	調整・備考
			地区	遺構名	長さ	幅・径	厚さ				
75	棟飾り	菊花	1トレ	攪乱 8	(5.4)	8.2	1.7	10/12	浅黄 (2.5Y7/4)	密	
76	棟飾り	菊花	1トレ	攪乱 8	(1.5)	(6.8)	1.0	10/12	灰 (N4/0)	密	
77	軒丸	菊花	11トレ	S K 101	(5.1)	13.1	1.7~1.9	8/12	黄灰 (2.5Y5/1)	やや粗	
78	軒丸	三巴	8トレ	S K 99	(2.5)	13.3	1.1~1.7	6/12	にぶい褐 (7.5YR5/3)	やや密	
79	軒丸	三巴	1トレ	S K 04	(6.7)	13.5	2.3	12/12	灰 (N5/0)	密	
80	丸付軒枝	花・唐草	3トレ	景面精査	(2.5)	(14.5)	1.7	-	暗灰 (N3/0)	密	
81	軒平	唐草	1トレ	攪乱 8	(6.0)	(16.5)	1.6	-	灰 (N4/0~5/0)	密	
82	鬼小獅子口	菊	11トレ	S K 101	-	(16.5)	3.1	-	黄褐 (2.5Y5/3)	やや粗	
83	獅子口	-	11トレ	S K 101	(1.9)	(15.8)	7.5	-	内) にぶい黄橙 (10YR7/4) 外) 灰 (5Y6/1)	やや粗	
84	棟飾り	-	11トレ	S K 101	(1.5)	(9.0)	5.4	-	黄灰 (2.5Y4/1)	やや粗	
85	軒丸	複弁蓮華	6トレ	南北断ち割り	(2.1)	(3.9)	1.2~2.0	-	浅黄 (2.5Y7/4)	やや密	
86	軒丸	複弁蓮華	1トレ	攪乱 7	(5.8)	13.1	2.2	6/12	灰 (N6/0)・灰白 (7.5Y7/1)	やや粗	
87	軒平	唐草	6トレ	南北断ち割り	(9.0)	(13.4)	1.9	-	灰 (N6/1)	やや粗	凹面：不明 凸面：ナデか
88	軒平	宝相華	6トレ	S D 18	(10.2)	(11.0)	2.0~4.8	-	灰 (5Y6/1)	やや粗	凹面：布目 凸面：不調整か
89	軒平	半武宝相華	3トレ	北西断ち割り シルト層下礫層	(13.3)	(14.0)	3.3~6.6	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	密	凹面：布目 (摩滅) 凸面：緞目
90	軒平	唐草	3トレ	南東断ち割り シルト層下礫層	(10.6)	(11.7)	2.3	-	灰黄 (2.5Y6/2)	やや密	凹面：布目 凸面：緞目
91	軒平	唐草	3トレ	北東断ち割り シルト層下礫層	(8.4)	(11.5)	2.9	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	やや粗	凹面：布目 凸面：タタキ
92	丸	-	3トレ	南東断ち割り 粗砂	(21.3)	(15.4)	2.8~3.2	-	灰白 (2.5Y8/2)	やや密	凹面：布目 凸面：タタキ
93	平	-	1トレ	攪乱 7 断ち割り 2	(23.5)	26.0	2.4	-	にぶい黄橙 (10YR6/4・7/3)	やや粗	凹面：布目 凸面：緞目
94	平	-	3トレ	南東断ち割り シルト層下礫層	39.5	26.5	2.9~3.4	-	灰 (5Y6/1)	粗	凹面：擦り消しか 凸面：タタキ
95	平	-	3トレ	北東断ち割り シルト層下礫層	(18.0)	30.2	1.7~2.8	-	にぶい橙 (5YR6/4) ~浅黄橙 (10YR8/4)	粗	凹面：布目 凸面：緞目
96	緑釉平	-	3トレ	南断ち割り シルト層下礫層	(13.2)	(14.5)	1.8	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	やや粗	凹面：布目 凸面：緞目 (緑釉)
97	平	-	8トレ	S K 97	(17.0)	15.5	2.4~3.4	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	やや密	凹面：布目 凸面：緞目
98	緑釉平	-	3トレ	南断ち割り シルト層下礫層	(16.9)	(10.9)	1.9~2.3	-	明黄褐 (10YR7/6)	密	凹面：布目 (緑釉少し) 凸面：緞目 (緑釉)

報告 番号	種類	文様	出土地点		法量 (cm)			残存率	色調	胎土	調整・備考
			地区	遺構名	長さ	幅・径	厚さ				
99	平	-	6トレ	S K 10 完掘後精査	(126)	(105)	20～ 23	-	灰黄 (25Y7/2)	やや粗	凹面：布目 凸面：縦目？
100	緑釉平	-	1トレ	東半第2層埋層 上面	(64)	(44)	25	-	素地) におい黄橙 (10YR7/4) 釉) 淡緑	密	凹面：縦目 (施 釉) 凸面：縦目か
101	平	-	8トレ	河川堆積 黄褐色粘土	(204)	(157)	25～ 28	-	におい黄橙 (10YR7/4)	やや粗	凹面：布目 凸面：縦目
102	平	-	3トレ	南東断ち割り シルト層下埋層	(237)	(172)	26～ 28	-	におい黄橙 (10YR7/4)	やや粗	凹面：布目 凸面：縦目
103	平	-	3トレ	北西断ち割り シルト層埋層	(216)	(176)	20～ 36	-	褐灰 (7.5YR6/2)・ におい橙 (7.5YR7/4)	密	凹面：布目 凸面：縦目
104	平	-	1トレ	北区中央整地土 直下層2層	(106)	250	24～ 34	-	灰黄褐 (10YR5/2)・ におい黄橙 (10YR8/4)	やや粗	凹面：布目 凸面：縦目
423	敷	唐草	5トレ	S P 940	(140)	285	31	-	素地) 灰黄 (25Y7/2) 釉) 暗オリーブ (7.5Y7/2)	やや粗	陶質 (瀬戸・美 濃系)
571	模範り	菊花	7トレ	S K 704	(65)	93	-	瓦当 完形	灰 (N4/0)	密	
572	軒平	唐草	7トレ	S K 731	(27)	218	52	瓦当は 不完形	灰白 (5Y7/1)	密	
573	軒平	唐草	2トレ	東半2層以下	(165)	(158)	22～ 25	-	灰白 (5Y7/1)～灰 (5Y4/1)	密	凹面：擦り消し 凸面：工具による ナデ
574	鬼か 獅子口	-	7トレ	S E 703	(200)	(137)	16	-	灰 (N4/0)	やや粗	
575	鬼か 獅子口	-	2トレ	S K 526	(105)	(125)	15～ 43	-	灰 (N5/0)	密	
576	鬼か 獅子口	-	7トレ	S D 744	(195)	(101)	16～ 35	-	灰オリーブ (5Y5/2) 灰黄 (2.5Y7/2)	密	
577	鬼か 獅子口	-	2トレ	S K 526	(203)	(236)	35	-	暗灰 (N3/0)	密	
578	鬼か 獅子口	-	2トレ	S K 526	(256)	(147)	82	-	暗灰 (N4/4)	密	
579	軒丸	複弁蓮華	草群 12	-	-	(97)	18～ 24	-	灰白 (5Y7/1)	やや粗	瓦当のみ
580	軒丸	複弁蓮華	草群 14	S K 256	(39)	(123)	20	4/12	灰白 (2.5Y7/1)	やや粗	瓦当のみ
581	軒丸	複弁蓮華	-	S K 100	-	(135)	17～ 27	5/12	灰白 (N5/0)	密	瓦当のみ
582	緑釉丸	-	2トレ	東半2層以下	(68)	(68)	22～ 24	-	浅黄橙 (10YR8/4)	密	凹面：擦り消し 凸面：縦目 (緑 釉)
583	緑釉丸	-	2トレ	東半3層以下	(83)	(74)	14～ 18	-	褐灰 (10YR6/1)	密	凹面：布目 凸面：縦目後擦 り消し (緑釉)
584	丸	-	4トレ	断ち割り (下層)	(195)	(105)	16～ 32	-	黄灰 (2.5Y5/1)	粗	凹面：布目 凸面：ナデ
585	軒平	唐草	2トレ	東半3層以下	(105)	(202)	38	-	灰白 (2.5Y8/1)	密	凹面：布目 凸面：タタキ (厚 減)
586	軒平	唐草	-	S K 139	(105)	(89)	32～ 63	-	灰白 (10YR8/2)	密	瓦当のみ
587	軒平	唐草	2トレ	東半3層以下	(167)	(138)	30～ 59	-	灰 (N5/0)	密	凹面：厚減 凸面：ケズリか
588	緑釉平	-	2トレ	東半3層以下	(118)	(76)	24～ 26	-	黄橙 (10YR8/6)	密	凹面：布目 凸面：縦目 (緑 釉)
589	緑釉平	-	草群 12	S K 145	(75)	(71)	19	-	素地) におい橙 (7.5YR7/4) 釉) オリーブ黒 (7.5Y3/2)	密	
590	平	-	7トレ	最終断ち割り 上層	(202)	(120)	20～ 29	-	灰白 (N7/0)	やや粗	凹面：布目 凸面：正格子タ タキ
591	平	-	4トレ	断ち割り (旧河道)	(142)	(150)	15～ 22	-	灰白 (5Y7/1)	粗	凹面：ハケのち ナデ 凸面：縦目

報告番号	種類	文様	出土地点		法量 (cm)			残存率	色調	胎土	調整・備考
			地区	遺構名	長さ	幅・径	厚さ				
502	平	-	2トレ	東半5層以下	(14.5)	(17.5)	3.2	-	灰白 (2.5Y8/1)	密	凹面：布目 凸面：鋸歯文タキ
503	平	-	4トレ	断ち割り(下層)	(16.7)	(13.3)	2.1 ~ 2.3	-	灰黄 (2.5Y7/2)	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
504	緑釉平	-	4トレ	断ち割り (旧河道)	(15.7)	(12.8)	1.9 ~ 2.8	-	紫地) 橙 (5YR6/8)	粗	凹面：布目一部 ナデ 凸面：縄目か(厚減)
505	平	-	4トレ	断ち割り(下層)	(19.6)	(10.5)	1.9 ~ 2.2	-	灰 (N4/0)	粗	凹面：布目 凸面：斜格子タキ
506	緑釉平	-	2トレ	東半3層以下	(10.6)	(12.6)	2.0 ~ 2.4	-	黄橙 (10YR8/6)	密	凹面：布目 凸面：縄目
507	平	-	7トレ	最終断ち割り 上層	(22.1)	(23.7)	1.9 ~ 2.7	-	灰 (N6/1)	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
1160	軒丸瓦	複弁蓮華	鴨沂 グラウンド	京都府教委立会 調査	-	(10.3)	1.3 ~ 2.4	-	灰白 (5Y8/1)	やや軟	
1161	緑釉 軒平	半散花	鴨沂 グラウンド	京都府教委立会 調査	(16.7)	(16.0)	2.9 ~ 6	-	灰 (N6/1)	密	凹面：布目(緑 釉) 凸面：縄目
1162	緑釉 軒平	半散花	鴨沂 グラウンド	京都府教委立会 調査	(19.2)	(14.8)	3.0 ~ 5.3	-	浅黄緑 (7.5YR8/4)	密	凹面：布目 凸面：縄目
1163	軒平	唐草	鴨沂 グラウンド	京都府教委立会 調査	(13.8)	(16.7)	2.4 ~ 5.4	-	青灰 (5PB6/1)	密	凹面：布目 凸面：ナデ
1164	緑釉丸	-	鴨沂 グラウンド	京都府教委立会 調査	(18.7)	(13.8)	1.3 ~ 3.8	-	灰白 (7.5YR8/2)		凹面：布目 凸面：ナデ(緑 釉)

付表9 石製品観察表

(凡例)

- ・小数字第2位を四捨五入、第1位で表示
- ・-：該当なし

報告番号	種類	材質	出土地点		法量 (cm)			重量 (g)	色調	調整・備考
			地区	出土遺構	長さ	幅・径	厚さ			
23	硯		北6トレ	S K 00	(8.2)	3.8	6.5	-		
598	砥石	火成岩か	南7トレ	S K 708	8.9	4.4	2.6	161.6		
599	砥石	粘板岩	南7トレ	S K 708	9.4	4.1	1.0	53.9		
985	硯		南4トレ	S K 471	13.2	7.1	1.9	-	黒 (N1.5/0)	

付表10 鉄釘・青銅製品・ガラス製品観察表

(凡例)

- ・小数字第2位を四捨五入、第1位で表示(厚さは小数字第3位を四捨五入、第2位で表示)
- ・-：該当なし

報告番号	種類	材質	出土地点		法量 (cm)			備考	
			地区	遺構名	長さ	幅	厚さ		
釘1	釘	鉄	4トレンチ	墓群2 a	S T 67	10.4	0.3	0.30	
釘2	釘	鉄	4トレンチ	墓群2 a	S T 67	8.9	0.3	0.30	
釘3	釘	鉄	4トレンチ	墓群2 a	S T 67	6.5	0.3	0.30	
釘4	釘	鉄	4トレンチ	墓群4	S T 24	8.0	0.3	0.30	
釘5	釘	鉄	4トレンチ	墓群4	S T 24	(6.2)	0.5	0.30	
釘6	釘	鉄	4トレンチ	墓群4	S T 24	(6.6)	0.3	0.30	
釘7	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a	S T 219	(4.0)	0.2	0.15	
釘8	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a	S T 219	4.2	0.3	0.15	
釘9	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a	S T 219	(3.7)	0.3	0.30	
釘10	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a	S T 219	(3.5)	0.3	0.30	

報告番号	種類	材質	出土地点		法量 (cm)			備考
			地区	遺構名	長さ	幅	厚さ	
釘11	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(30)	0.3	0.30	
釘12	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	4.5	0.2	0.15	
釘13	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(46)	0.5	0.30	
釘14	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(42)	0.3	0.30	
釘15	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(43)	0.2	0.30	
釘16	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	5.6	0.3	0.15	
釘17	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(50)	0.3	0.30	
釘18	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	4.7	0.3	0.30	
釘19	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	4.7	0.3	0.15	固着
釘20	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	4.4	0.3	0.15	固着
釘21	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	6.0	0.3	0.30	
釘22	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(53)	0.5	0.30	
釘23	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(62)	0.3	0.30	
釘24	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	6.5	0.3	0.30	
釘25	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(51)	0.3	0.30	
釘26	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(60)	0.3	0.30	
釘27	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(56)	0.5	0.15	
釘28	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	5.0	0.3	0.30	
釘29	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	(62)	0.3	0.30	
釘30	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	6.0	0.3	0.30	
釘31	釘	鉄	4トレンチ	墓群12 a S T 219	6.0	0.2	0.30	
釘32	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	4.1	0.2	0.15	
釘33	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	4.0	0.3	0.15	
釘34	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	(32)	0.3	0.15	
釘35	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	(32)	0.3	0.30	
釘36	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	3.0	0.3	0.15	
釘37	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	(39)	0.2	0.15	
釘38	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	(40)	0.3	0.30	
釘39	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	4.6	0.3	0.15	
釘40	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	4.2	0.2	0.30	
釘41	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	4.1	0.2	0.15	
釘42	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	3.2	0.3	0.15	
釘43	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b S T 81	(52)	0.5	0.30	
青銅1	煙管	銅	7トレンチ	S X 750	(64)	1.1	0.10	
青銅2	煙管	銅	7トレンチ	S K 712	(47)	1.1	0.50	
青銅3	煙管	銅	7トレンチ	S K 704	(39)	0.7 ~ 1.6	0.50	
青銅4	飾り金具か	銅	7トレンチ	S K 712	(22)	4.9	0.05	
青銅5	煙管	銅	4トレンチ	墓群2 b S T 375	(62)	0.9	0.50	3と同一か
青銅6	煙管	銅	4トレンチ	墓群2 b S T 375	(62)	0.9	0.50	4と同一か
青銅7	留め金具	銅	4トレンチ	墓群3 b	(25)	(30)	0.05	
青銅8	環状製品	銅	4トレンチ	墓群3 a S T 355	4.6	4.6	0.20	
青銅9	座金具	銅	4トレンチ	墓群3 a S T 355	5.5	2.2	0.05 ~ 0.40	
青銅10	座金具	銅	4トレンチ	墓群16 a S T 168	2.0	2.1	0.05	
青銅11	座金具	銅	4トレンチ	墓群16 a S T 168	(21)	(21)	0.04	
青銅12	不明	銅	4トレンチ	墓群17 b S T 199	2.8	2.8	0.20	
青銅13	不明	銅	4トレンチ	墓群16 b S T 247	2.2	2.2	-	
青銅14	棒状製品	銅	4トレンチ	墓群4 a S T 197	(18)	1.9	0.10	
青銅15	座金具	銅	4トレンチ	墓群13 b S T 215	3.6	(34)	0.05	
青銅16	釘隠	銅	4トレンチ	墓群13 b S T 215	3.1	3.1	0.05	
青銅17	鋸	銅	4トレンチ	精査	4.6	0.9	-	
青銅18	鋸	銅	4トレンチ	墓群16 a S T 240	3.1	0.9	0.05 ~ 0.10	
青銅19	鋸	銅	4トレンチ	S K 113	(24)	0.6	-	
青銅20	座金具・鋸	銅	4トレンチ	墓群3 b S T 368	(25)	1.8	0.20	
ガラス1	破片	ガラス	4トレンチ	墓群13 S T 215	(20)	(17)	厚0.14 ~ 0.15	
ガラス2	ホッピンの吹き竿部	ガラス	4トレンチ	S K 82	(40)	0.6	0.05	

付表11 銭観察表

(凡例)

・厚さ欄の*は固着のため全体の数値

報告番号	墓群	通例番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭1	墓群1 a	S T 378	南無阿弥陀佛(念仏銭)	-	-	2.35	0.12	
銭2	墓群1 a	S T 379	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.5	4枚固着
銭3	墓群1 a	S T 379	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭4	墓群1 a	S T 379	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭5	墓群1 a	S T 379	不明	-	-	2.45	-	4枚固着
銭6	墓群1 a	S T 379	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.27	2枚固着
銭7	墓群1 a	S T 379	不明	-	-	2.45	-	2枚固着
銭8	墓群1 a	S T 90	新寛永通寶	日本	1668	2.35	*0.73	6枚固着
銭9	墓群1 a	S T 90	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭10	墓群1 a	S T 90	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭11	墓群1 a	S T 90	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭12	墓群1 a	S T 90	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭13	墓群1 a	S T 90	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭14	墓群1 a	S T 92	寛永通寶	-	-	2.45	0.1	
銭15	墓群1 a	S T 92	□水通寶	-	-	2.5	0.13	
銭16	墓群1 a	S T 92	不明	-	-	2.45	*0.73	6枚固着
銭17	墓群1 a	S T 92	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭18	墓群1 a	S T 92	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭19	墓群1 a	S T 92	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭20	墓群1 a	S T 92	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭21	墓群1 a	S T 92	不明	-	-	2.3	-	6枚固着
銭22	墓群1 a	S T 94	治?平元寶	北宋	1064	2.35	*0.83	4枚固着
銭23	墓群1 a	S T 94	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭24	墓群1 a	S T 94	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭25	墓群1 a	S T 94	□□元寶	-	-	2.35	-	4枚固着
銭26	墓群1 b	S T 382	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.1	
銭27	墓群1 b	S T 382	不明	-	-	2.4	*0.67	6枚固着
銭28	墓群1 b	S T 382	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭29	墓群1 b	S T 382	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭30	墓群1 b	S T 382	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭31	墓群1 b	S T 382	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭32	墓群1 b	S T 382	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭33	墓群2 a	S T 372	南無阿弥陀佛(念仏銭)	-	-	2.4	0.15	
銭34	墓群2 a	S T 372	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.75	6枚固着
銭35	墓群2 a	S T 372	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭36	墓群2 a	S T 372	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭37	墓群2 a	S T 372	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭38	墓群2 a	S T 372	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭39	墓群2 a	S T 372	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚固着
銭40	墓群2 a	S T 372	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭41	墓群2 a	S K 14	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.71	6枚固着
銭42	墓群2 a	S K 14	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭43	墓群2 a	S K 14	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭44	墓群2 a	S K 14	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭45	墓群2 a	S K 14	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭46	墓群2 a	S K 14	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚固着
銭47	墓群2 a	S T 16	□□元寶	-	-	2.45	0.1	
銭48	墓群2 a	S T 47	紹定通寶	南宋	1228	2.4	0.15	
銭49	墓群2 a	S T 47	明道元寶	北宋	1032	2.5	*0.48	4枚固着
銭50	墓群2 a	S T 47	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭51	墓群2 a	S T 47	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭52	墓群2 a	S T 47	不明	-	-	2.45	-	4枚固着
銭53	墓群2 a	S T 47	□□元寶	-	-	2.35	0.11	
銭54	墓群2 a	S T 67	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.75	6枚固着
銭55	墓群2 a	S T 67	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭56	墓群2 a	S T 67	不明	-	-	-	-	6枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭57	墓群2 a	S T 67	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭58	墓群2 a	S T 67	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭59	墓群2 a	S T 67	古寛永通寶	日本	1636	24	-	6枚固着
銭60	墓群2 b	S T 377	古寛永通寶	日本	1636	24	0.17	
銭61	墓群2 b	S T 377	新寛永通寶	日本	1668	25	0.6	5枚固着
銭62	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭63	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭64	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭65	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	2.45	-	5枚固着
銭66	墓群2 b	S T 377	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.68	6枚固着
銭67	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭68	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭69	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭70	墓群2 b	S T 377	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭71	墓群2 b	S T 377	新寛永通寶	日本	1668	2.45	-	6枚固着
銭72	墓群2 b	S T 109	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.51	4枚固着
銭73	墓群2 b	S T 109	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭74	墓群2 b	S T 109	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭75	墓群2 b	S T 109	不明	-	-	2.4	-	4枚固着
銭76	墓群2 b	S T 109	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.11	2枚固着、裏に「文」有り
銭77	墓群2 b	S T 109	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	2枚固着、裏に「文」有り
銭78	墓群2 b	S T 108	朝経通寶	朝鮮	1423	2.35	0.14	
銭79	墓群2 b	S T 108	不明	-	-	2.4	0.25	2枚固着
銭80	墓群2 b	S T 108	不明	-	-	2.4	-	2枚固着
銭81	墓群2 b	S T 108	祥符通寶	北宋	1008	2.35	0.15	割れ
銭82	墓群2 b	S T 108	元二通寶	-	-	2.5	0.11	割れ
銭83	墓群2 b	S T 107	不明	-	-	2.4	0.64	5枚固着
銭84	墓群2 b	S T 107	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭85	墓群2 b	S T 107	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭86	墓群2 b	S T 107	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭87	墓群2 b	S T 107	不明	-	-	2.4	-	5枚固着
銭88	墓群2 b	S T 18	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.74	6枚固着
銭89	墓群2 b	S T 18	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭90	墓群2 b	S T 18	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭91	墓群2 b	S T 18	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭92	墓群2 b	S T 18	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭93	墓群2 b	S T 18	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚固着
銭94	墓群2 b	S T 21	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.85	6枚固着
銭95	墓群2 b	S T 21	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭96	墓群2 b	S T 21	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭97	墓群2 b	S T 21	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭98	墓群2 b	S T 21	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭99	墓群2 b	S T 21	不明	-	-	2.55	-	6枚固着
銭100	墓群2 b	S T 43	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.7	6枚固着
銭101	墓群2 b	S T 43	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭102	墓群2 b	S T 43	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭103	墓群2 b	S T 43	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭104	墓群2 b	S T 43	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭105	墓群2 b	S T 43	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭106	墓群3 a	S T 355	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭107	墓群3 a	S T 355	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.13	
銭108	墓群3 a	S T 355	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭109	墓群3 a	S T 355	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.14	2枚固着
銭110	墓群3 a	S T 355	不明	-	-	2.45	0.14	2枚固着
銭111	墓群3 a	S T 22	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.11	
銭112	墓群3 a	S T 22	新寛永通寶	日本	1668	2.55	0.13	
銭113	墓群3 a	S T 22	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.5	4枚固着
銭114	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭115	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭116	墓群3 a	S T 22	新寛永通寶	日本	1668	2.55	-	裏向きだが「文」確認

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭117	墓群3 a	S T 22	祥符元寶	北宋	1111	24	*069	6枚固着
銭118	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭119	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭120	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭121	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭122	墓群3 a	S T 22	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭123	墓群3 a	S T 360	古寛永通寶	日本	1636	24	*071	6枚固着
銭124	墓群3 a	S T 360	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭125	墓群3 a	S T 360	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭126	墓群3 a	S T 360	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭127	墓群3 a	S T 360	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭128	墓群3 a	S T 360	不明	-	-	245	-	6枚固着
銭129	墓群3 b	S T 362	元祐通寶	北宋	1086	23	*07	6枚固着
銭130	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭131	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭132	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭133	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭134	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭135	墓群3 b	S T 362	新寛永通寶	日本	1688	235	*07	5枚固着
銭136	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭137	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭138	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭139	墓群3 b	S T 362	不明	-	-	25	-	5枚固着
銭140	墓群3 b	S T 362	古寛永通寶	日本	1636	25	011	
銭141	墓群3 b	S T 364	元符通寶	北宋	1098	235	*066	6枚固着
銭142	墓群3 b	S T 364	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭143	墓群3 b	S T 364	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭144	墓群3 b	S T 364	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭145	墓群3 b	S T 364	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭146	墓群3 b	S T 364	不明	-	-	235	-	6枚固着
銭147	墓群3 b	S T 467	古寛永通寶	日本	1636	225	*051	4枚固着
銭148	墓群3 b	S T 467	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭149	墓群3 b	S T 467	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭150	墓群3 b	S T 467	古寛永通寶	日本	1636	24	-	4枚固着
銭151	墓群3 b	S T 467	古寛永通寶	日本	1636	235	014	
銭152	墓群3 b	S T 467	古寛永通寶	日本	1636	24	*022	2枚固着
銭153	墓群3 b	S T 467	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭154	墓群3 b	S T 467	新寛永通寶	日本	1688	25	*051	4枚固着
銭155	墓群3 b	S T 467	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭156	墓群3 b	S T 467	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭157	墓群3 b	S T 467	不明	-	-	245	-	4枚固着、「文」あり
銭158	墓群3 b	S T 366	古寛永通寶	日本	1636	25	*077	6枚固着
銭159	墓群3 b	S T 366	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭160	墓群3 b	S T 366	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭161	墓群3 b	S T 366	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭162	墓群3 b	S T 366	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭163	墓群3 b	S T 366	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭164	墓群3 b	S T 367	宋通元寶	北宋	960	24	*069	6枚固着
銭165	墓群3 b	S T 367	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭166	墓群3 b	S T 367	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭167	墓群3 b	S T 367	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭168	墓群3 b	S T 367	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭169	墓群3 b	S T 367	不明	-	-	245	-	6枚固着
銭170	墓群3 b	S T 190	□木通寶	-	-	245	*075	6枚固着
銭171	墓群3 b	S T 190	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭172	墓群3 b	S T 190	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭173	墓群3 b	S T 190	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭174	墓群3 b	S T 190	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭175	墓群3 b	S T 190	□工口寶	-	-	24	-	6枚固着
銭176	墓群3 b	S T 75	新寛永通寶	日本	1688	25	012	

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭177	墓群3 b	S T 75	□水□□	-	-	-	0.12	破片
銭178	墓群3 b	S T 75	破片	-	-	-	0.12	破片
銭179	墓群3 b	S T 75	古寛永通寶	日本	1636	24	0.12	
銭180	墓群3 b	S T 75	新寛永通寶	日本	1668	23	0.13	
銭181	墓群3 b	S T 75	新寛永通寶	日本	1668	24	0.14	
銭182	墓群3 b	S T 77	□水□□	-	-	2.5	0.12	破片
銭183	墓群3 b	S T 77	新寛永通寶	日本	1668	24	0.1	
銭184	墓群3 b	S T 77	寛水□□	日本	-	-	0.11	破片
銭185	墓群4 a	S T 344	不明	-	-	2.5	*0.7	6枚固着
銭186	墓群4 a	S T 344	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭187	墓群4 a	S T 344	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭188	墓群4 a	S T 344	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭189	墓群4 a	S T 344	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭190	墓群4 a	S T 344	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭191	墓群4 a	S T 343	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.62	4枚固着
銭192	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭193	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭194	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	2.5	-	4枚固着
銭195	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	2.55	0.13	破片
銭196	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	-	0.13	破片
銭197	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	2.45	*0.57	4枚固着
銭198	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭199	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭200	墓群4 a	S T 343	不明	-	-	2.5	-	4枚固着
銭201	墓群4 a	S T 34	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.1	2枚固着
銭202	墓群4 a	S T 34	不明	-	-	2.55	0.15	2枚固着
銭203	墓群4 a	S T 34	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.55	4枚固着
銭204	墓群4 a	S T 34	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭205	墓群4 a	S T 34	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭206	墓群4 a	S T 34	寛永通宝	日本	-	24	-	4枚固着
銭207	墓群4 a	S T 345	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.68	6枚固着
銭208	墓群4 a	S T 345	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭209	墓群4 a	S T 345	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭210	墓群4 a	S T 345	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭211	墓群4 a	S T 345	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭212	墓群4 a	S T 345	古寛永通寶	日本	1636	24.5	-	6枚固着
銭213	墓群4 a	S T 197	古寛永通寶	日本	1636	24.5	*0.7	6枚固着
銭214	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭215	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭216	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭217	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭218	墓群4 a	S T 197	古寛永通寶	日本	1636	24.5	-	6枚固着
銭219	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	2.35	0.13	
銭220	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	2.5	*0.38	3枚固着
銭221	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭222	墓群4 a	S T 197	不明	-	-	2.45	-	3枚固着
銭223	墓群4 b	S T 350	古寛永通寶	日本	1636	24.5	*0.79	6枚固着
銭224	墓群4 b	S T 350	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭225	墓群4 b	S T 350	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭226	墓群4 b	S T 350	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭227	墓群4 b	S T 350	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭228	墓群4 b	S T 350	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭229	墓群4 b	S T 35	不明	-	-	24	*0.82	6枚固着
銭230	墓群4 b	S T 35	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭231	墓群4 b	S T 35	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭232	墓群4 b	S T 35	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭233	墓群4 b	S T 35	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭234	墓群4 b	S T 35	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭235	墓群4 b	S T 36	古寛永通寶	日本	1636	24.5	*0.27	2枚固着
銭236	墓群4 b	S T 36	新寛永通寶	日本	1668	25	-	2枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭237	墓群4 b	S T 36	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.52	4枚固着
銭238	墓群4 b	S T 36	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭239	墓群4 b	S T 36	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭240	墓群4 b	S T 36	不明	-	-	24	-	4枚固着
銭241	墓群4 b	S T 352	元祐通寶	北宋	1066	24	0.11	
銭242	墓群4 b	S T 352	古寛永通寶	日本	1636	1.35	*0.61	5枚固着
銭243	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	5枚固着。裏に「文」有り
銭244	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭245	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭246	墓群4 b	S T 352	新寛永通寶	日本	1668	1.5	-	5枚固着
銭247	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	24	*1.45	12枚固着
銭248	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭249	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭250	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭251	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭252	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭253	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭254	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭255	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭256	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭257	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	-	-	12枚固着
銭258	墓群4 b	S T 352	不明	-	-	24	-	12枚固着
銭259	墓群4 b	S T 353	祥符元寶	北宋	1008	2.45	*0.75	6枚固着
銭260	墓群4 b	S T 353	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭261	墓群4 b	S T 353	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭262	墓群4 b	S T 353	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭263	墓群4 b	S T 353	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭264	墓群4 b	S T 353	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭265	墓群4 b	S T 24	元豊通寶	北宋	1078	2.35	0.14	
銭266	墓群4 b	S T 24	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.39	3枚固着
銭267	墓群4 b	S T 24	不明	-	-	2.45	-	3枚固着
銭268	墓群4 b	S T 24	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭269	墓群4 b	S T 24	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭270	墓群4 b	S T 24	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.16	
銭271	墓群4 b	S T 24 周辺精査	新寛永通寶	日本	1768	2.8	0.13	四文銭
銭272	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.14	
銭273	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭274	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭275	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.1	
銭276	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭277	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.1	
銭278	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭279	墓群5 a	S T 58	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.15	
銭280	墓群5 b	S T 23	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭281	墓群5 b	S T 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.52	4枚固着
銭282	墓群5 b	S T 23	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭283	墓群5 b	S T 23	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭284	墓群5 b	S T 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	-	4枚固着
銭285	墓群5 b	S T 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭286	墓群5 b	S T 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.1	
銭287	墓群5 b	S T 119	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭288	墓群6 a	S T 166	不明	-	-	24	*0.4	3枚固着
銭289	墓群6 a	S T 166	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭290	墓群6 a	S T 166	不明	-	-	2.35	-	3枚固着
銭291	墓群6 a	S T 334	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.81	6枚固着
銭292	墓群6 a	S T 334	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭293	墓群6 a	S T 334	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭294	墓群6 a	S T 334	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭295	墓群6 a	S T 334	不明	-	-	-	-	6枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭296	墓群6 a	S T 334	不明	-	-	23	-	6枚固着
銭297	墓群6 a	S T 48	古寛永通寶	日本	1636	255	0.72	6枚固着
銭298	墓群6 a	S T 48	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭299	墓群6 a	S T 48	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭300	墓群6 a	S T 48	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭301	墓群6 a	S T 48	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭302	墓群6 a	S T 48	古寛永通寶	日本	1636	235	-	6枚固着
銭303	墓群6 b	S T 26	不明	-	-	25	0.12	-
銭304	墓群6 b	d 26 精査	不明	-	-	24	0.66	6枚固着
銭305	墓群6 b	d 26 精査	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭306	墓群6 b	d 26 精査	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭307	墓群6 b	d 26 精査	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭308	墓群6 b	d 26 精査	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭309	墓群6 b	d 26 精査	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭310	墓群7 a	S T 328	新寛永通寶	日本	1668	25	0.76	6枚固着、裏に「文」有り
銭311	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭312	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭313	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭314	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭315	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭316	墓群7 a	S T 328	古寛永通寶	日本	1636	24	0.69	6枚固着
銭317	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭318	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭319	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭320	墓群7 a	S T 328	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭321	墓群7 a	S T 328	古寛永通寶	日本	1636	24	-	6枚固着
銭322	墓群7 a	S T 329	不明	-	-	24	0.8	6枚固着
銭323	墓群7 a	S T 329	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭324	墓群7 a	S T 329	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭325	墓群7 a	S T 329	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭326	墓群7 a	S T 329	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭327	墓群7 a	S T 329	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭328	墓群7 a	S T 330	古寛永通寶	日本	1636	24	0.22	2枚固着
銭329	墓群7 a	S T 330	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭330	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	255	0.15	-
銭331	墓群8 a	S T 322	新寛永通寶	日本	1668	255	0.14	-
銭332	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	245	0.13	-
銭333	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	245	0.37	3枚固着
銭334	墓群8 a	S T 322	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭335	墓群8 a	S T 322	新寛永通寶	日本	1668	25	-	3枚固着、裏に「文」有り
銭336	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	25	0.7	6枚固着
銭337	墓群8 a	S T 322	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭338	墓群8 a	S T 322	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭339	墓群8 a	S T 322	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭340	墓群8 a	S T 322	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭341	墓群8 a	S T 322	不明	-	-	25	-	6枚固着
銭342	墓群8 a	S T 323	古寛永通寶	日本	1636	25	0.24	2枚固着
銭343	墓群8 a	S T 323	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭344	墓群8 a	S T 323	崇祐元寶	北宋	1034	24	0.31	3枚固着
銭345	墓群8 a	S T 323	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭346	墓群8 a	S T 323	不明	-	-	245	-	3枚固着
銭347	墓群8 b	S T 324	不明	-	-	245	0.81	6枚固着
銭348	墓群8 b	S T 324	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭349	墓群8 b	S T 324	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭350	墓群8 b	S T 324	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭351	墓群8 b	S T 324	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭352	墓群8 b	S T 324	不明	-	-	2.55	-	6枚固着
銭353	墓群8 b	S T 326	新寛永通寶	日本	1668	25	0.36	3枚固着
銭354	墓群8 b	S T 326	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭355	墓群8 b	S T 326	新寛永通寶	日本	1668	25	-	3枚固着、裏に「文」有り

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭356	墓群8 b	S T 336	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭357	墓群8 b	S T 336	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭358	墓群8 b	S T 339	元祐通寶	北宋	1086	2.3	*0.29	3枚固着
銭359	墓群8 b	S T 339	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭360	墓群8 b	S T 339	古寛永通寶	日本	1636	2.4	-	3枚固着
銭361	墓群8	S K 40	聖?宋元寶	北宋	1101	2.4	0.13	
銭362	墓群8	S K 40	元豊通寶	北宋	1078	2.4	*0.7	6枚固着
銭363	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭364	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭365	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭366	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭367	墓群8	S K 40	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭368	墓群8	S K 40	熙寧元寶	北宋	1068	2.35	0.1	
銭369	墓群8	S K 40	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.1	
銭370	墓群8	S K 40	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.82	6枚固着
銭371	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭372	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭373	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭374	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭375	墓群8	S K 40	不明	-	-	2.5	-	6枚固着
銭376	墓群8	S K 40	新寛永通寶	日本	1668	2.35	*0.71	6枚固着
銭377	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭378	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭379	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭380	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭381	墓群8	S K 40	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭382	墓群8	S K 40	不明	-	-	2.55	*0.75	6枚固着
銭383	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭384	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭385	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭386	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭387	墓群8	S K 40	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭388	墓群8	S K 40	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭389	墓群8	S K 40	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.52	4枚固着
銭390	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭391	墓群8	S K 40	不明	-	-	2.45	-	4枚固着
銭392	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	-	4枚固着、欠けあり
銭393	墓群8	S K 40	不明	-	-	-	0.14	破片
銭394	墓群8	精査	天聖元寶	北宋	1023	2.4	*0.59	5枚固着
銭395	墓群8	精査	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭396	墓群8	精査	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭397	墓群8	精査	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭398	墓群8	精査	寛永通寶	日本	-	2.45	-	5枚固着
銭399	墓群9 a	S T 315	不明	-	-	2.45	*0.7	5枚固着
銭400	墓群9 a	S T 315	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭401	墓群9 a	S T 315	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭402	墓群9 a	S T 315	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭403	墓群9 a	S T 315	不明	-	-	2.4	-	5枚固着
銭404	墓群9 a	S T 29	紹聖元寶?	北宋	1094	2.35	0.11	
銭405	墓群9 a	S T 29	熙寧元寶	北宋	1008	2.3	0.12	
銭406	墓群9 a	S T 29	熙寧元寶	北宋	1008	2.4	*0.22	2枚固着
銭407	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	2.3	-	2枚固着
銭408	墓群9 a	S T 29	□水滸□	-	-	2.3	*0.85	6枚固着
銭409	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭410	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭411	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭412	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭413	墓群9 a	S T 29	新寛永通寶小	-	-	2.5	-	6枚固着
銭414	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	2.4	*0.43	3枚固着
銭415	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	-	-	3枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭416	墓群9 a	S T 29	不明	-	-	24	-	3枚固着
銭417	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	25.5	0.1	
銭418	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	24.5	0.15	
銭419	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	24	0.14	
銭420	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	24	0.12	
銭421	墓群9 a	S T 317	寛永通寶	日本	-	25.5	0.68	5枚固着
銭422	墓群9 a	S T 317	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭423	墓群9 a	S T 317	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭424	墓群9 a	S T 317	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭425	墓群9 a	S T 317	不明	-	-	24.5	-	5枚固着
銭426	墓群9 a	S T 317	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.14	
銭427	墓群9 b	S T 321	新寛永通寶	日本	1668	24	0.14	
銭428	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	24	0.23	2枚固着
銭429	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	24.5	-	2枚固着
銭430	墓群9 b	S T 321	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.8	6枚固着
銭431	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭432	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭433	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭434	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭435	墓群9 b	S T 321	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚固着、裏に「文」有り
銭436	墓群9 b	S T 321	不明	-	-	24	0.12	
銭437	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	24	0.75	6枚固着
銭438	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭439	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭440	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭441	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭442	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭443	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	24	0.26	2枚固着
銭444	墓群10 a	S T 300	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭445	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	2.35	0.72	6枚固着
銭446	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭447	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭448	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭449	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭450	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭451	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	24.5	0.12	
銭452	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	-	0.13	破片(周囲がない)
銭453	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	24	0.13	
銭454	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	2.35	0.27	2枚固着
銭455	墓群10 a	S T 301	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭456	墓群10 a	S T 303	古寛永通寶	日本	1636	24	0.71	6枚固着
銭457	墓群10 a	S T 303	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭458	墓群10 a	S T 303	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭459	墓群10 a	S T 303	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭460	墓群10 a	S T 303	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭461	墓群10 a	S T 303	古寛永通寶	日本	1636	2.5	-	6枚固着
銭462	墓群10 a	S T 305	新寛永通寶	日本	1668	2.3	0.12	
銭463	墓群10 a	S T 305	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.64	5枚固着
銭464	墓群10 a	S T 305	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭465	墓群10 a	S T 305	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭466	墓群10 a	S T 305	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭467	墓群10 a	S T 305	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	5枚固着、裏に「文」有り
銭468	墓群10 a	S T 306	宣徳通寶	明	1433	2.2	0.11	
銭469	墓群10 a	S T 306	元符?通寶	北宋	1098	24	0.14	
銭470	墓群10 a	S T 306	皇?宋通寶	-	-	24.5	0.1	
銭471	墓群10 a	S T 306	元符?通寶	北宋	1098	2.3	0.1	
銭472	墓群10 a	S T 306	□□元寶	-	-	24	0.13	
銭473	墓群10 a	S T 306	不明	-	-	-	0.12	破片
銭474	墓群10 b	S T 308	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.75	6枚固着
銭475	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭476	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭477	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭478	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭479	墓群10 b	S T 308	新寛永通寶	日本	1668	2.45	-	6枚回着
銭480	墓群10 b	S T 308	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.14	
銭481	墓群10 b	S T 308	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.1	
銭482	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	2.5	*0.7	6枚回着
銭483	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭484	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭485	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭486	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭487	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	2.5	-	6枚回着
銭488	墓群10 b	S T 308	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.7	6枚回着
銭489	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭490	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭491	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭492	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭493	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	2.5	-	6枚回着
銭494	墓群10 b	S T 308	政和通寶	北宋	1111	2.4	0.11	
銭495	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	2.35	*0.51	4枚回着
銭496	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	4枚回着
銭497	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	-	-	4枚回着
銭498	墓群10 b	S T 308	不明	-	-	2.4	-	4枚回着
銭499	墓群10 b	S T 311	□□□□	日本	-	2.3	0.15	
銭500	墓群10 b	S K 50	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.74	6枚回着
銭501	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭502	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭503	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭504	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭505	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	2.35	-	6枚回着
銭506	墓群10 b	S K 50	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.78	6枚回着、裏に「文」有り
銭507	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭508	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭509	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭510	墓群10 b	S K 50	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭511	墓群10 b	S K 50	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚回着、裏に「文」有り
銭512	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	2.4	*0.73	6枚回着
銭513	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭514	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭515	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭516	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭517	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	2.45	-	6枚回着
銭518	墓群10 b	S T 312	熙寧元寶	北宋	1068	2.35	*0.7	6枚回着
銭519	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭520	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭521	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭522	墓群10 b	S T 312	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭523	墓群10 b	S T 312	元豊通寶	北宋	1078	2.35	-	6枚回着
銭524	墓群10 b	S T 313	大観通寶	北宋	1107	2.45	0.12	
銭525	墓群10 a	精査	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.15	
銭526	墓群10 a	精査	寛永通寶	日本	-	2.4	0.11	
銭527	墓群11 a	S T 70	開元通寶	唐	845	2.4	*0.25	2枚回着
銭528	墓群11 a	S T 70	寛永通寶	日本	-	2.45	-	2枚回着
銭529	墓群11 a	S T 70	古寛永通寶	日本	1636	2.3	0.12	
銭530	墓群11 a	S T 70	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.13	
銭531	墓群11 a	S T 70	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.1	
銭532	墓群11 a	S T 70	新寛永通寶	日本	1668	2.35	0.12	
銭533	墓群11 a	S T 74	元豊通寶	北宋	1078	2.3	0.11	
銭534	墓群12 a	S T 406	元豊通寶	北宋	1078	2.4	*0.69	5枚回着
銭535	墓群12 a	S T 406	不明	-	-	-	-	5枚回着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭536	墓群12 a	S T 406	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭537	墓群12 a	S T 406	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭538	墓群12 a	S T 406	不明	-	-	2.45	-	5枚固着
銭539	墓群12 a	S T 470	元祐通寶	北宋	1086	24	0.49	4枚固着
銭540	墓群12 a	S T 470	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭541	墓群12 a	S T 470	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭542	墓群12 a	S T 470	元豊通寶小	北宋	1078	24	-	4枚固着
銭543	墓群12 a	S T 470	元豊通寶	北宋	1078	2.35	0.11	
銭544	墓群12 a	S T 470	開元通寶小	唐	845	2.3	0.1	
銭545	墓群12 a	S T 470	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭546	墓群12 a	S T 470	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.52	4枚固着
銭547	墓群12 a	S T 470	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭548	墓群12 a	S T 470	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭549	墓群12 a	S T 470	古寛永通寶	日本	1636	2.4	-	4枚固着
銭550	墓群12 a	S T 470	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭551	墓群12 a	S T 63	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.27	2枚固着
銭552	墓群12 a	S T 63	不明	-	-	2.5	-	2枚固着
銭553	墓群12 a	S T 63	不明	-	-	2.55	0.6	4枚固着
銭554	墓群12 a	S T 63	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭555	墓群12 a	S T 63	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭556	墓群12 a	S T 63	不明	-	-	2.45	-	4枚固着
銭557	墓群12 a	S T 65	祥符通寶小	北宋	1008	24	0.25	2枚固着
銭558	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.3	-	2枚固着
銭559	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.4	0.27	2枚固着
銭560	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.4	-	2枚固着
銭561	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.35	0.23	2枚固着
銭562	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.3	-	2枚固着
銭563	墓群12 a	S T 65	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.24	2枚固着
銭564	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.45	-	2枚固着
銭565	墓群12 a	S T 65	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.22	2枚固着
銭566	墓群12 a	S T 65	不明	-	-	2.4	-	2枚固着
銭567	墓群12 a	S T 65	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭568	墓群12 a	S T 65	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.15	
銭569	墓群12 a	S T 65	政和通寶	北宋	1111	24	0.22	2枚固着
銭570	墓群12 a	S T 65	元豊通寶小	北宋	1078	24	-	2枚固着
銭571	墓群12 a	S T 65	元豊通寶	北宋	1078	24	0.27	2枚固着
銭572	墓群12 a	S T 65	皇宗通寶	北宋	1038	2.35	-	2枚固着
銭573	墓群12 a	S T 65	大観通寶	北宋	1107	24	0.12	
銭574	墓群12 a	S T 65	至道元寶	北宋	995	2.3	0.1	
銭575	墓群12 a	S T 217	□口寶	-	-	2.35	0.66	6枚固着
銭576	墓群12 a	S T 217	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭577	墓群12 a	S T 217	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭578	墓群12 a	S T 217	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭579	墓群12 a	S T 217	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭580	墓群12 a	S T 217	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭581	墓群12 a	S T 218	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.16	
銭582	墓群12 a	S T 218	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.15	
銭583	墓群12 a	S T 218	寛永通寶(破片)	日本	-	2.5	0.15	破片
銭584	墓群12 a	S T 219	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭585	墓群12 a	S T 219	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭586	墓群12 a	S T 219	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭587	墓群12 a	S T 219	古寛永通寶	日本	1636	2.3	0.11	
銭588	墓群12 a	S T 162	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭589	墓群12 a	S T 164	大観通寶	北宋	1107	2.45	0.14	破片(「大」は欠け)
銭590	墓群12 a	S T 164	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	裏に「文」有り
銭591	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	2.4	0.75	6枚固着
銭592	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭593	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭594	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭595	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	-	-	6枚固着

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭596	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	24	-	6枚回着
銭597	墓群12 b	S T 56	古寛永通寶	日本	1636	25	0.13	
銭598	墓群12 b	S T 56	寛永通寶	日本	-	25	0.15	
銭599	墓群12 b	S T 56	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.58	4枚回着
銭600	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	-	-	4枚回着
銭601	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	-	-	4枚回着
銭602	墓群12 b	S T 56	不明	-	-	25	-	4枚回着
銭603	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	24	*0.65	6枚回着
銭604	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭605	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭606	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭607	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭608	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	24	-	6枚回着
銭609	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	25	*0.63	5枚回着
銭610	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	5枚回着
銭611	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	5枚回着
銭612	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	-	-	5枚回着
銭613	墓群12 b	S T 57	不明	-	-	25	-	5枚回着
銭614	墓群12 b	S T 196	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.82	6枚回着
銭615	墓群12 b	S T 196	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭616	墓群12 b	S T 196	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭617	墓群12 b	S T 196	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭618	墓群12 b	S T 196	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭619	墓群12 b	S T 196	□水□	-	-	25	-	6枚回着
銭620	墓群12 b	S T 401	不明	-	-	23	*0.45	3枚回着
銭621	墓群12 b	S T 401	不明	-	-	-	-	3枚回着
銭622	墓群12 b	S T 401	不明	-	-	24.5	-	3枚回着
銭623	墓群12 b	S T 258	皇宋通寶	北宋	1028	24	*0.74	6枚回着
銭624	墓群12 b	S T 258	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭625	墓群12 b	S T 258	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭626	墓群12 b	S T 258	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭627	墓群12 b	S T 258	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭628	墓群12 b	S T 258	不明	-	-	23	-	6枚回着
銭629	墓群12 b	S T 194	新寛永通寶	日本	1668	24.5	*0.23	2枚回着
銭630	墓群12 b	S T 194	新寛永通寶	日本	1668	24	-	2枚回着
銭631	墓群12 b	S T 195	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.75	6枚回着
銭632	墓群12 b	S T 195	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭633	墓群12 b	S T 195	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭634	墓群12 b	S T 195	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭635	墓群12 b	S T 195	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭636	墓群12 b	S T 195	新寛永通寶	日本	1668	25	-	6枚回着
銭637	墓群12 b	S T 174	新寛永通寶	日本	1668	24	0.11	
銭638	墓群12 b	S T 174	新寛永通寶	日本	1668	24	0.11	
銭639	墓群12 b	S T 174	新寛永通寶	日本	1668	24	0.12	
銭640	墓群13 a	S T 154	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.5	4枚回着
銭641	墓群13 a	S T 154	不明	-	-	-	-	4枚回着
銭642	墓群13 a	S T 154	不明	-	-	-	-	4枚回着
銭643	墓群13 a	S T 154	不明	-	-	24.5	-	4枚回着
銭644	墓群13 a	S T 415	古寛永通寶	日本	1636	23.5	*0.8	6枚回着
銭645	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭646	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭647	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭648	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭649	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	24	-	6枚回着
銭650	墓群13 a	S T 415	古寛永通寶	日本	1636	25.5	*0.79	6枚回着
銭651	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭652	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭653	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭654	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	-	-	6枚回着
銭655	墓群13 a	S T 415	不明	-	-	23.5	-	6枚回着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭656	墓群13 a	S T 417	新寛永通寶	日本	1668	25	0.8	6枚固着
銭657	墓群13 a	S T 417	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭658	墓群13 a	S T 417	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭659	墓群13 a	S T 417	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭660	墓群13 a	S T 417	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭661	墓群13 a	S T 417	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭662	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	2.3	0.76	6枚固着
銭663	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭664	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭665	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭666	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭667	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	2.5	-	6枚固着
銭668	墓群13 a	S T 230	寛永通寶	日本	-	2.3	0.1	
銭669	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	2.3	0.23	2枚固着
銭670	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	2.35	-	2枚固着
銭671	墓群13 a	S T 230	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.35	3枚固着
銭672	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭673	墓群13 a	S T 230	古寛永通寶	日本	1636	2.45	-	3枚固着
銭674	墓群13 a	S T 230	不明	-	-	-	0.1	破片
銭675	墓群13 a	S T 141	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.72	6枚固着
銭676	墓群13 a	S T 141	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭677	墓群13 a	S T 141	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭678	墓群13 a	S T 141	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭679	墓群13 a	S T 141	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭680	墓群13 a	S T 141	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭681	墓群13 a	S T 205	古寛永通寶	日本	1636	2.3	0.5	4枚固着
銭682	墓群13 a	S T 205	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭683	墓群13 a	S T 205	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭684	墓群13 a	S T 205	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	4枚固着、裏に「文」有り
銭685	墓群13 a	S T 205	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.27	2枚固着
銭686	墓群13 a	S T 205	不明	-	-	2.5	-	2枚固着
銭687	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	2.4	0.75	6枚固着
銭688	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭689	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭690	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭691	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭692	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭693	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	2.45	0.69	6枚固着
銭694	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭695	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭696	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭697	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭698	墓群13 a	S T 203	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭699	墓群13 a	S T 204	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.75	6枚固着
銭700	墓群13 a	S T 204	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭701	墓群13 a	S T 204	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭702	墓群13 a	S T 204	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭703	墓群13 a	S T 204	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭704	墓群13 a	S T 204	古寛永通寶	日本	1636	2.35	-	6枚固着
銭705	墓群13 a	S T 242・241	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	0.13	
銭706	墓群13 a	S T 242・241	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.11	
銭707	墓群13 a	S T 242・241	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.16	
銭708	墓群13 a	S T 242・241	元祐通寶	北宋	1086	2.45	0.11	
銭709	墓群13 a	S T 242・241	皇宋通寶	北宋	1038	2.4	0.13	
銭710	墓群13 a	S T 241	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.75	6枚固着
銭711	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭712	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭713	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭714	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭715	墓群13 a	S T 241	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚固着、裏に「文」有り

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭716	墓群13 a	S T 241	新寛永通寶	日本	1668	25	0.52	4枚固着
銭717	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭718	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭719	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	23	-	4枚固着
銭720	墓群13 a	S T 241	古寛永通寶	日本	1636	24.5	0.26	2枚固着
銭721	墓群13 a	S T 241	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭722	墓群13 a	S T 241	□□□寶	-	-	23	0.11	南端の墓の北側、破片
銭723	墓群13 a	S T 158	古寛永通寶	日本	1636	25	-	漆器内より出土、少なくとも6枚固着
銭724	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、少なくとも6枚固着
銭725	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、少なくとも6枚固着
銭726	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、少なくとも6枚固着
銭727	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、少なくとも6枚固着
銭728	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、少なくとも6枚固着
銭729	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	24	-	漆器内より出土、6枚固着
銭730	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、6枚固着
銭731	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、6枚固着
銭732	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、6枚固着
銭733	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、6枚固着
銭734	墓群13 a	S T 158	不明	-	-	-	-	漆器内より出土、6枚固着
銭735	墓群13 b	S T 127	元豊通寶	北宋	1078	24.5	0.11	
銭736	墓群13 b	S T 407	古寛永通寶	日本	1636	24.5	0.72	6枚固着
銭737	墓群13 b	S T 407	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭738	墓群13 b	S T 407	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭739	墓群13 b	S T 407	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭740	墓群13 b	S T 407	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭741	墓群13 b	S T 407	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭742	墓群13 b	S T 408	南無阿弥陀佛(念仏銭)	日本	-	23	0.75	6枚固着
銭743	墓群13 b	S T 408	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭744	墓群13 b	S T 408	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭745	墓群13 b	S T 408	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭746	墓群13 b	S T 408	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭747	墓群13 b	S T 408	新寛永通寶	日本	1668	25	-	6枚固着
銭748	墓群13 b	S T 410	古寛永通寶	日本	1636	24	0.46	4枚固着
銭749	墓群13 b	S T 410	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭750	墓群13 b	S T 410	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭751	墓群13 b	S T 410	古寛永通寶	日本	1636	25	-	4枚固着
銭752	墓群13 b	S T 210	新寛永通寶	日本	1668	24	0.19	2枚固着
銭753	墓群13 b	S T 210	新寛永通寶	日本	1668	24.5	-	2枚固着、裏に「文」有り
銭754	墓群13 b	S T 210	□(寛?)永通□	-	-	24.5	0.11	
銭755	墓群13 b	S T 210	新寛永通寶	日本	1668	24	0.26	2枚固着
銭756	墓群13 b	S T 210	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭757	墓群13 b	S T 210	新寛永通寶	日本	1668	24	0.11	
銭758	墓群13 b	S T 210	新寛永通寶	日本	1668	24	0.12	破片
銭759	墓群13 b	S T 211	古寛永通寶	日本	1636	24	0.11	
銭760	墓群13 b	S T 211	古寛永通寶	日本	1636	24	0.54	4枚固着
銭761	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭762	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭763	墓群13 b	S T 211	古寛永通寶	日本	1636	23.5	-	4枚固着
銭764	墓群13 b	S T 211	順寧元寶	北宋	1068	25	0.7	6枚固着
銭765	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭766	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭767	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭768	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭769	墓群13 b	S T 211	不明	-	-	23	-	6枚固着
銭770	墓群13 b	S T 213	開元通寶	唐	845	23.5	0.11	

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭771	墓群13 b	S T 213	祥符元寶	北宋	1008	24	0.11	
銭772	墓群13 b	S T 213	新甕永通寶	日本	1668	25	0.38	3枚固着
銭773	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭774	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	25	-	3枚固着
銭775	墓群13 b	S T 213	寛永通寶	日本	-	25	0.35	3枚固着
銭776	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭777	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	25	-	3枚固着
銭778	墓群13 b	S T 213	元豊通寶	北宋	1078	23	0.1	
銭779	墓群13 b	S T 213	至道元寶	北宋	996	245	0.12	
銭780	墓群13 b	S T 213	景德元寶	北宋	1004	24	0.15	
銭781	墓群13 b	S T 213	聖宋元寶	北宋	1101	24	0.59	5枚固着
銭782	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭783	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭784	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭785	墓群13 b	S T 213	不明	-	-	245	-	5枚固着
銭786	墓群13 b	S T 215	元祐通寶	北宋	1093	235	0.11	
銭787	墓群13 b	S T 215	□六□	-	-	25	0.21	2枚固着、欠け有り
銭788	墓群13 b	S T 215	不明	-	-	25	-	2枚固着、欠け有り
銭789	墓群13 b	S T 215	古寛永通寶	日本	1636	24	0.12	
銭790	墓群13 b	S T 236	新甕永通寶	日本	1668	25	-	木箱より出土、3枚固着
銭791	墓群13 b	S T 236	不明	-	-	-	-	木箱より出土、3枚固着
銭792	墓群13 b	S T 236	不明	-	-	-	-	木箱より出土、3枚固着
銭793	墓群13 b	S T 411	古寛永通寶	日本	1636	245	0.7	6枚固着
銭794	墓群13 b	S T 411	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭795	墓群13 b	S T 411	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭796	墓群13 b	S T 411	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭797	墓群13 b	S T 411	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭798	墓群13 b	S T 411	不明	-	-	235	-	6枚固着
銭799	墓群13 b	S T 170	古寛永通寶	日本	1636	25	0.15	
銭800	墓群13 b	S T 170	古寛永通寶	日本	1636	24	0.11	
銭801	墓群13 b	S T 170	古寛永通寶	日本	1636	24	0.55	4枚固着
銭802	墓群13 b	S T 170	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭803	墓群13 b	S T 170	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭804	墓群13 b	S T 170	不明	-	-	245	-	4枚固着
銭805	墓群13 b	S T 144	天聖元寶	北宋	1023	24	0.12	欠け有り
銭806	墓群13 b	S T 144	古寛永通寶	日本	1636	245	0.11	
銭807	墓群13 b	S T 144	古寛永通寶	日本	1636	245	0.7	6枚固着
銭808	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭809	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭810	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭811	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭812	墓群13 b	S T 144	古寛永通寶	日本	1636	24	-	6枚固着
銭813	墓群13 b	S T 144	元豊通寶	北宋	1068	24	0.65	5枚固着
銭814	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭815	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭816	墓群13 b	S T 144	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭817	墓群13 b	S T 144	熙寧元寶	北宋	1078	245	-	5枚固着
銭818	墓群13 b	S T 413	元豊通寶	北宋	1078	24	0.28	2枚固着
銭819	墓群13 b	S T 413	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭820	墓群13 b	S T 413	聖宋元寶	北宋	1101	24	0.12	
銭821	墓群13 b	S T 413	景德元寶	南宋	1260	23	0.1	
銭822	墓群13 b	S T 413	皇宋通寶	北宋	1038	24	0.13	
銭823	墓群13 b	S T 413	紹聖元寶	北宋	1094	23	0.15	
銭824	墓群13 a	精査	古寛永通寶	日本	1636	25	0.13	
銭825	墓群14 a	S T 431	古寛永通寶	日本	1636	235	0.27	2枚固着
銭826	墓群14 a	S T 431	不明	-	-	25	-	2枚固着
銭827	墓群14 a	S T 431	古寛永通寶	日本	1636	245	0.54	4枚固着
銭828	墓群14 a	S T 431	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭829	墓群14 a	S T 431	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭830	墓群14 a	S T 431	不明	-	-	24	-	4枚固着

報告番号	墓群	通稱番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭831	墓群14a	S T 432	至道元寶	北宋	995	24	1.13	11枚固着
銭832	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭833	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭834	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭835	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭836	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭837	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭838	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭839	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭840	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	11枚固着
銭841	墓群14a	S T 432	不明	-	-	24	-	11枚固着
銭842	墓群14a	S T 432	熙寧元寶小	北宋	1068	2.35	0.23	2枚固着
銭843	墓群14a	S T 432	元豊通寶	-	-	23	-	2枚固着
銭844	墓群14a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.34	3枚固着
銭845	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭846	墓群14a	S T 432	不明	-	-	24	-	3枚固着
銭847	墓群14a	S T 432	不明	-	-	2.45	0.34	3枚固着
銭848	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭849	墓群14a	S T 432	不明	-	-	25	-	3枚固着
銭850	墓群14a	S T 432	不明	-	-	2.3	0.69	6枚固着
銭851	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭852	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭853	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭854	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭855	墓群14a	S T 432	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭856	墓群14a	S T 432	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.8	6枚固着
銭857	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭858	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭859	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭860	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭861	墓群14a	S T 432	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭862	墓群14a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.7	6枚固着
銭863	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭864	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭865	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭866	墓群14a	S T 432	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭867	墓群14a	S T 432	寛永通寶	日本	-	24	-	6枚固着
銭868	墓群14a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.22	2枚固着
銭869	墓群14a	S T 432	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭870	墓群14a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.11	-
銭871	墓群14a	S T 433	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.35	3枚固着
銭872	墓群14a	S T 433	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭873	墓群14a	S T 433	不明	-	-	24	-	3枚固着
銭874	墓群14a	S T 433	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.35	3枚固着
銭875	墓群14a	S T 433	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭876	墓群14a	S T 433	不明	-	-	24	-	3枚固着
銭877	墓群14a	S T 434	咸平元寶	北宋	998	2.4	0.65	6枚固着
銭878	墓群14a	S T 434	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭879	墓群14a	S T 434	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭880	墓群14a	S T 434	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭881	墓群14a	S T 434	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭882	墓群14a	S T 434	明道元寶	北宋	1032	2.4	-	6枚固着
銭883	墓群14a	S T 227	元豊通寶	北宋	1078	2.4	0.1	破片〔「通」は欠付〕
銭884	墓群14a	S T 227	元豊通寶	北宋	1078	2.3	0.5	5枚固着
銭885	墓群14a	S T 227	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭886	墓群14a	S T 227	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭887	墓群14a	S T 227	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭888	墓群14a	S T 227	不明	-	-	23	-	5枚固着
銭889	墓群14a	S T 227	天聖元寶	北宋	1023	2.45	0.15	-
銭890	墓群14a	S T 227	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.11	-

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭891	墓群14 a	S T 227	天聖元寶	北宋	1023	24	0.14	
銭892	墓群14 a	S T 227	景祐元寶	北宋	1034	2.45	0.1	
銭893	墓群14 a	S T 227	元祐通寶	北宋	1093	24	*0.26	2枚固着
銭894	墓群14 a	S T 227	治平元寶	北宋	1064	2.4	-	2枚固着
銭895	墓群14 a	S T 227	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.71	6枚固着
銭896	墓群14 a	S T 227	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭897	墓群14 a	S T 227	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭898	墓群14 a	S T 227	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭899	墓群14 a	S T 227	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭900	墓群14 a	S T 227	不明	-	-	2.3	-	6枚固着
銭901	墓群14 a	S T 227	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭902	墓群14 a	S T 223	新寛永通寶	日本	1668	24	*0.66	5枚固着
銭903	墓群14 a	S T 223	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭904	墓群14 a	S T 223	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭905	墓群14 a	S T 223	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭906	墓群14 a	S T 223	新寛永通寶	日本	1668	2.35	-	5枚固着
銭907	墓群14 a	S T 223	古寛永通寶	日本	1636	24	0.13	
銭908	墓群14 a	S T 224	天聖元寶	北宋	1023	24	*0.66	6枚固着
銭909	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭910	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭911	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭912	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭913	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭914	墓群14 a	S T 224	古寛永通寶	日本	1636	24	0.1	
銭915	墓群14 a	S T 224	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.63	5枚固着
銭916	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭917	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭918	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭919	墓群14 a	S T 224	不明	-	-	2.3	-	5枚固着
銭920	墓群14 a	S T 238	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.13	
銭921	墓群14 a	S T 253	不明	-	-	2.45	*0.86	6枚固着
銭922	墓群14 a	S T 253	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭923	墓群14 a	S T 253	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭924	墓群14 a	S T 253	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭925	墓群14 a	S T 253	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭926	墓群14 a	S T 253	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭927	墓群14 a	S T 254	至道元寶	北宋	995	24	0.12	□元寶 1点
銭928	墓群14 a	S T 254	治平元寶	北宋	1064	2.3	0.12	
銭929	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.6	5枚固着
銭930	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭931	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭932	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭933	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.4	-	5枚固着
銭934	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	24	0.11	
銭935	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.25	2枚固着
銭936	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.45	-	2枚固着
銭937	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.46	4枚固着
銭938	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭939	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭940	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.45	-	4枚固着
銭941	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.4	*0.48	4枚固着
銭942	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭943	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭944	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.4	-	4枚固着
銭945	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.4	*0.2	2枚固着
銭946	墓群14 a	S T 254	不明	-	-	2.4	-	2枚固着
銭947	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.12	
銭948	墓群14 b	S T 138	不明	-	-	2.5	*0.76	4枚固着
銭949	墓群14 b	S T 138	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭950	墓群14 b	S T 138	不明	-	-	-	-	4枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭951	墓群14b	S T 138	不明	-	-	25	-	4枚固着
銭952	墓群14b	S T 436	古寛永通寶	日本	1636	25	0.48	4枚固着
銭953	墓群14b	S T 436	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭954	墓群14b	S T 436	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭955	墓群14b	S T 436	不明	-	-	25	-	4枚固着
銭956	墓群14b	S T 436	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	-
銭957	墓群14b	S T 436	新寛永通寶	日本	1668	2.55	0.77	6枚固着
銭958	墓群14b	S T 436	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭959	墓群14b	S T 436	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭960	墓群14b	S T 436	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭961	墓群14b	S T 436	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭962	墓群14b	S T 436	寛永通寶	日本	-	2.55	-	6枚固着
銭963	墓群14b	S T 436	寛永通寶	日本	-	2.4	0.12	-
銭964	墓群14b	S T 428	不明	-	-	24	0.54	5枚固着
銭965	墓群14b	S T 428	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭966	墓群14b	S T 428	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭967	墓群14b	S T 428	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭968	墓群14b	S T 428	不明	-	-	24	-	5枚固着
銭969	墓群14b	S T 428	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.14	-
銭970	墓群14b	S T 191	天禧通寶	北宋	1017	2.45	0.12	-
銭971	墓群14b	S T 191	開元通寶	唐	845	2.35	0.12	-
銭972	墓群14b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.13	-
銭973	墓群14b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.12	-
銭974	墓群14b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.12	-
銭975	墓群14b	S T 191	新寛永通寶	日本	1668	2.55	0.14	-
銭976	墓群14b	S T 191	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.12	-
銭977	墓群14b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.75	6枚固着
銭978	墓群14b	S T 191	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭979	墓群14b	S T 191	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭980	墓群14b	S T 191	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭981	墓群14b	S T 191	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭982	墓群14b	S T 191	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭983	墓群14b	S T 191	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.11	-
銭984	墓群14b	S T 221	寛永通寶か	日本	-	2.35	0.81	6枚固着
銭985	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭986	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭987	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭988	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭989	墓群14b	S T 221	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭990	墓群14b	S T 221	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.76	6枚固着
銭991	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭992	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭993	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭994	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭995	墓群14b	S T 221	新寛永通寶	日本	1668	2.5	-	6枚固着
銭996	墓群14b	S T 221	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.73	6枚固着
銭997	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭998	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭999	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1000	墓群14b	S T 221	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1001	墓群14b	S T 221	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭1002	墓群14b	S T 430	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	0.57	5枚固着
銭1003	墓群14b	S T 430	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1004	墓群14b	S T 430	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1005	墓群14b	S T 430	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1006	墓群14b	S T 430	元祐通寶	北宋	1093	2.45	-	5枚固着
銭1007	墓群14b	S T 430	皇宋通寶	北宋	1038	2.45	0.1	-
銭1008	墓群14b	S T 430	不明	-	-	2.5	0.64	5枚固着
銭1009	墓群14b	S T 430	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1010	墓群14b	S T 430	不明	-	-	-	-	5枚固着

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭101	墓群14 b	S T 430	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭102	墓群14 b	S T 430	不明	-	-	2.5	-	5枚固着
銭103	墓群14 b	S T 430	古寛永通寶	日本	1636	24	0.12	
銭104	墓群14 西	精査	古寛永通寶	日本	1636	24	0.36	3枚固着
銭105	墓群14 西	精査	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭106	墓群14 西	精査	新寛永通寶	日本	1668	2.55	-	3枚固着
銭107	墓群14 西	精査	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.38	3枚固着
銭108	墓群14 西	精査	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭109	墓群14 西	精査	新寛永通寶	日本	1668	2.55	-	3枚固着、裏に「文」有り
銭1020	墓群15 a	S T 148	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.8	6枚固着
銭1021	墓群15 a	S T 148	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1022	墓群15 a	S T 148	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1023	墓群15 a	S T 148	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1024	墓群15 a	S T 148	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1025	墓群15 a	S T 148	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1026	墓群15 a	S T 146	不明	-	-	24	0.73	6枚固着
銭1027	墓群15 a	S T 146	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1028	墓群15 a	S T 146	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1029	墓群15 a	S T 146	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1030	墓群15 a	S T 146	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1031	墓群15 a	S T 146	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1032	墓群15 a	S T 179	政和通寶	北宋	1111	2.45	0.11	
銭1033	墓群15 a	S T 179	開元通寶	唐	845	2.5	0.12	
銭1034	墓群15 a	S T 179	開元通寶	唐	845	24	0.13	
銭1035	墓群15 a	S T 179	開元通寶	唐	845	24	0.12	
銭1036	墓群15 a	S T 179	□□□□	-	-	2.45	0.1	
銭1037	墓群15 a	S T 179	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.12	
銭1038	墓群15 a	S T 179	元祐通寶	北宋	1086	24	0.1	
銭1039	墓群15 a	S T 179	皇宋通寶	北宋	1038	24	0.11	
銭1040	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	24	0.33	3枚固着
銭1041	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭1042	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	24	-	3枚固着
銭1043	墓群15 a	S T 179	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.64	5枚固着
銭1044	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1045	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1046	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1047	墓群15 a	S T 179	不明	-	-	2.5	-	5枚固着
銭1048	墓群15 a	S T 179	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.12	
銭1049	墓群15 a	S T 443	至元通寶	元	1285	2.45	0.11	
銭1050	墓群15 a	S T 443	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.15	
銭1051	墓群15 a	S T 445	元祐通寶	北宋	1093	24	0.73	6枚固着
銭1052	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1053	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1054	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1055	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1056	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1057	墓群15 a	S T 445	祥符通寶	北宋	1008	2.45	0.67	6枚固着
銭1058	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1059	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1060	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1061	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1062	墓群15 a	S T 445	景祐元寶	北宋	1034	24	-	6枚固着
銭1063	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	24	0.23	2枚固着
銭1064	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	24	-	2枚固着
銭1065	墓群15 a	S T 445	古寛永通寶	日本	1636	24	0.64	5枚固着
銭1066	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1067	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1068	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1069	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	24	-	5枚固着
銭1070	墓群15 a	S T 445	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	裏に「文」有り

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭1071	墓群15 a	S T 445	皇宋通寶か	北宋	1038	2.35	0.75	6枚固着
銭1072	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1073	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1074	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1075	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1076	墓群15 a	S T 445	不明	-	-	2.5	-	6枚固着
銭1077	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	2.4	0.43	3枚固着
銭1078	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭1079	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	2.4	-	3枚固着
銭1080	墓群15 a	S T 446	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.75	6枚固着
銭1081	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1082	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1083	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1084	墓群15 a	S T 446	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1085	墓群15 a	S T 446	古寛永通寶	日本	1636	2.4	-	6枚固着
銭1086	墓群15 a	S T 446	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.13	
銭1087	墓群15 a	S T 446	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.12	
銭1088	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	2.5	0.5	4枚固着
銭1089	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1090	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1091	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	2.45	-	4枚固着
銭1092	墓群15 a	S T 192	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.75	6枚固着
銭1093	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1094	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1095	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1096	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1097	墓群15 a	S T 192	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭1098	墓群15 b	S T 134	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.15	
銭1099	墓群15 b	S T 134	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭1100	墓群15 b	S T 134	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.52	4枚固着
銭1101	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1102	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1103	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1104	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	2.5	0.72	6枚固着
銭1105	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1106	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1107	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1108	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1109	墓群15 b	S T 134	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭1110	墓群15 b	S T 137	寛永通寶か	日本	-	2.4	0.37	3枚固着
銭1111	墓群15 b	S T 137	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭1112	墓群15 b	S T 137	不明	-	-	2.4	-	3枚固着
銭1113	墓群15 b	S T 137	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.25	2枚固着
銭1114	墓群15 b	S T 137	古寛永通寶	日本	1636	2.45	-	2枚固着
銭1115	墓群15 b	S T 135	祥符通寶	北宋	1008	-	0.1	破片
銭1116	墓群15 b	S T 135	元豊通寶	北宋	1078	2.35	0.1	横跡銭か
銭1117	墓群15 b	S T 135	元祐通寶	北宋	1086	2.35	0.11	横跡銭か
銭1118	墓群15 b	S T 228	南無阿弥陀佛(念仏銭)	-	-	2.35	0.73	6枚固着
銭1119	墓群15 b	S T 228	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1120	墓群15 b	S T 228	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1121	墓群15 b	S T 228	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1122	墓群15 b	S T 228	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1123	墓群15 b	S T 228	不明	-	-	2.4	-	6枚固着
銭1124	墓群15 b	S T 439	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭1125	墓群15 b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.63	5枚固着
銭1126	墓群15 b	S T 163	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1127	墓群15 b	S T 163	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1128	墓群15 b	S T 163	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1129	墓群15 b	S T 163	不明	-	-	2.35	-	5枚固着
銭1130	墓群15 b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭1131	墓群15b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	24	0.11	5枚固着
銭1132	墓群15b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	24	0.11	5枚固着
銭1133	墓群15b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	24	0.15	5枚固着
銭1134	墓群15b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	24	0.12	5枚固着
銭1135	墓群15b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	24	0.14	5枚固着
銭1136	墓群15b	S T 163	新寛永通寶	日本	1668	24	0.07	6枚固着
銭1137	墓群15b	S T 163	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1138	墓群15b	S T 163	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1139	墓群15b	S T 163	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1140	墓群15b	S T 163	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1141	墓群15b	S T 163	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1142	墓群15b	S T 232-233	開元通寶	唐	845	25	0.14	
銭1143	墓群15b	S T 232-233	天聖元寶	北宋	1023	24.5	0.13	
銭1144	墓群15b	S T 232-233	皇宋通寶	北宋	1038	24.5	0.15	4枚固着
銭1145	墓群15b	S T 232-233	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1146	墓群15b	S T 232-233	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1147	墓群15b	S T 232-233	□□元寶	-	-	24.5	-	4枚固着
銭1148	墓群15b	S T 231	新寛永通寶	日本	1668	25	0.26	2枚固着
銭1149	墓群15b	S T 231	新寛永通寶	日本	1668	25	-	2枚固着
銭1150	墓群15b	S T 231 周辺 精査	新寛永通寶	日本	1668	24.5	0.65	5枚固着
銭1151	墓群15b	S T 231 周辺 精査	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1152	墓群15b	S T 231 周辺 精査	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1153	墓群15b	S T 231 周辺 精査	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1154	墓群15b	S T 231 周辺 精査	不明	-	-	24.5	-	5枚固着
銭1155	墓群15b	S T 231 周辺 精査	新寛永通寶	日本	1668	24.5	0.14	
銭1156	墓群15b	S T 235	至道元寶	北宋	995	24.5	0.68	6枚固着
銭1157	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1158	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1159	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1160	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1161	墓群15b	S T 235	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1162	墓群15b	S T 235	新寛永通寶	日本	1668	25	0.71	6枚固着、裏に「文」有り
銭1163	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1164	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1165	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1166	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1167	墓群15b	S T 235	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭1168	墓群15b	S T 235	新寛永通寶	日本	1668	24	0.74	6枚固着
銭1169	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1170	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1171	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1172	墓群15b	S T 235	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1173	墓群15b	S T 235	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭1174	墓群15b	S T 235	新寛永通寶	日本	1668	24	0.14	
銭1175	墓群15b	S T 440	元豊通寶	北宋	1078	24.5	0.1	
銭1176	墓群15b	S T 236	古寛永通寶	日本	1636	25.5	0.68	6枚固着
銭1177	墓群15b	S T 236	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1178	墓群15b	S T 236	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1179	墓群15b	S T 236	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1180	墓群15b	S T 236	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1181	墓群15b	S T 236	古寛永通寶	日本	1636	25	-	6枚固着
銭1182	墓群16a	S T 454	不明	-	-	24	0.8	6枚固着
銭1183	墓群16a	S T 454	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1184	墓群16a	S T 454	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1185	墓群16a	S T 454	不明	-	-	-	-	6枚固着

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭1186	墓群16 a	S T 454	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1187	墓群16 a	S T 454	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1188	墓群16 a	S T 454	熙寧元寶	北宋	1068	23	0.12	-
銭1189	墓群16 a	S T 454	皇宋通寶	北宋	1038	24	0.58	5枚固着
銭1190	墓群16 a	S T 454	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1191	墓群16 a	S T 454	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1192	墓群16 a	S T 454	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1193	墓群16 a	S T 454	皇宋通寶	北宋	1038	24.5	-	5枚固着
銭1194	墓群16 a	S T 455	新寛永通寶	日本	1668	25	0.14	-
銭1195	墓群16 a	S T 455	新寛永通寶	日本	1668	25	0.14	-
銭1196	墓群16 a	S T 460	新寛永通寶	日本	1668	25	0.55	5枚固着
銭1197	墓群16 a	S T 460	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1198	墓群16 a	S T 460	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1199	墓群16 a	S T 460	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1200	墓群16 a	S T 460	新寛永通寶	日本	1668	24.5	-	5枚固着
銭1201	墓群16 a	S T 460	新寛永通寶小	日本	1668	-	0.13	破片
銭1202	墓群16 a	S T 240	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.12	-
銭1203	墓群16 a	S T 240	寛永通寶	-	-	2.55	0.14	-
銭1204	墓群16 a	S T 240	□□通寶	-	-	-	0.12	破片
銭1205	墓群16 a	S T 240	古寛永通寶	日本	1636	24	0.14	-
銭1206	墓群16 a	S T 240	不明	-	-	24	0.75	6枚固着
銭1207	墓群16 a	S T 240	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1208	墓群16 a	S T 240	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1209	墓群16 a	S T 240	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1210	墓群16 a	S T 240	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1211	墓群16 a	S T 240	不明	-	-	25	-	6枚固着
銭1212	墓群16 a	S T 239	新寛永通寶	日本	1668	25	0.15	-
銭1213	墓群16 b	S K 157	元祐通寶	北宋	1098	2.35	0.13	-
銭1214	墓群16 b	S T 447	元豊通寶	北宋	1078	24	0.18	-
銭1215	墓群16 b	S T 447	□和通□	-	-	-	0.13	破片
銭1216	墓群16 b	S T 447	古寛永通寶	日本	1636	24.5	0.1	-
銭1217	墓群16 b	S T 447	新寛永通寶	日本	1668	25	0.76	6枚固着
銭1218	墓群16 b	S T 447	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1219	墓群16 b	S T 447	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1220	墓群16 b	S T 447	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1221	墓群16 b	S T 447	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1222	墓群16 b	S T 447	不明	-	-	23	-	6枚固着
銭1223	墓群16 b	S T 449	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.59	5枚固着
銭1224	墓群16 b	S T 449	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1225	墓群16 b	S T 449	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1226	墓群16 b	S T 449	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1227	墓群16 b	S T 449	古寛永通寶	日本	1636	25	-	5枚固着
銭1228	墓群16 b	S T 450	古寛永通寶	日本	1636	24	0.77	6枚固着
銭1229	墓群16 b	S T 450	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1230	墓群16 b	S T 450	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1231	墓群16 b	S T 450	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1232	墓群16 b	S T 450	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1233	墓群16 b	S T 450	不明	-	-	25	-	6枚固着
銭1234	墓群16 b	S T 245	祥符□□	-	-	24	0.68	6枚固着
銭1235	墓群16 b	S T 245	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1236	墓群16 b	S T 245	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1237	墓群16 b	S T 245	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1238	墓群16 b	S T 245	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1239	墓群16 b	S T 245	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1240	墓群16 b	S T 245	聖宋元寶か?	北宋	1101	24	0.26	2枚固着
銭1241	墓群16 b	S T 245	不明	-	-	25	-	2枚固着
銭1242	墓群16 b	S T 245	古寛永通寶	日本	1636	24	0.15	-
銭1243	墓群16 b	S T 245	古寛永通寶	日本	1636	24	0.12	-
銭1244	墓群16 b	S T 245	古寛永通寶	日本	1636	24	0.11	-
銭1245	墓群16 b	S T 246	新寛永通寶	日本	1668	24.5	0.8	6枚固着

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭1246	墓群16 b	S T 246	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1247	墓群16 b	S T 246	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1248	墓群16 b	S T 246	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1249	墓群16 b	S T 246	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1250	墓群16 b	S T 246	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1251	墓群16 b	S T 247	寛永通寶	日本	1636	24	0.18	
銭1252	墓群16 b	S T 247	新寛永通寶	日本	1668	25	0.86	6枚固着
銭1253	墓群16 b	S T 247	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1254	墓群16 b	S T 247	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1255	墓群16 b	S T 247	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1256	墓群16 b	S T 247	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1257	墓群16 b	S T 247	不明	-	-	24.5	-	6枚固着
銭1258	墓群16 b	S T 250	南無阿弥陀佛(念仏銭)	-	-	25	0.23	
銭1259	墓群16 b	S T 250	南無阿弥陀佛(念仏銭)	-	-	24	0.15	
銭1260	墓群16 b	S T 250	南無阿弥陀佛(念仏銭)	-	-	23	0.15	
銭1261	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	23	0.16	
銭1262	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	23	0.7	6枚固着
銭1263	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1264	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1265	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1266	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1267	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	25	-	6枚固着
銭1268	墓群16 b	S T 250	寛永通寶	日本	-	24.5	0.28	2枚固着
銭1269	墓群16 b	S T 250	不明	-	-	25	-	2枚固着
銭1270	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	23	0.7	6枚固着
銭1271	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1272	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1273	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1274	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1275	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1276	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	25	0.74	6枚固着
銭1277	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1278	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1279	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1280	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1281	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	24.5	-	6枚固着
銭1282	墓群16 b	S T 252	元祐通寶	北宋	1086	24	0.71	6枚固着
銭1283	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1284	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1285	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1286	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1287	墓群16 b	S T 252	不明	-	-	24.5	-	6枚固着
銭1288	墓群16 b	S T 208	新寛永通寶	日本	1668	25	0.25	2枚固着
銭1289	墓群16 b	S T 208	寛永通寶か	日本	-	25	-	2枚固着
銭1290	墓群16 b	S T 208 (451)	不明	-	-	24.5	0.74	6枚固着
銭1291	墓群16 b	S T 208 (451)	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1292	墓群16 b	S T 208 (451)	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1293	墓群16 b	S T 208 (451)	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1294	墓群16 b	S T 208 (451)	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1295	墓群16 b	S T 208 (451)	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1296	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	24.5	0.84	6枚固着
銭1297	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1298	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1299	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1300	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1301	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	24.5	-	6枚固着
銭1302	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	25	0.25	2枚固着
銭1303	墓群16 b	S T 451	不明	-	-	25	-	2枚固着
銭1304	墓群17 a	S T 120	聖元元寶	北宋	1101	24	0.52	5枚固着
銭1305	墓群17 a	S T 120	不明	-	-	-	-	5枚固着

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭1306	墓群17 a	S T 120	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1307	墓群17 a	S T 120	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1308	墓群17 a	S T 120	至道元寶	北宋	965	23	-	5枚固着
銭1309	墓群17 a	S T 120	元豊通寶	北宋	1078	-	0.1	欠け有り
銭1310	墓群17 a	S T 120	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.13	-
銭1311	墓群17 a	S T 120	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.63	5枚固着
銭1312	墓群17 a	S T 120	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1313	墓群17 a	S T 120	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1314	墓群17 a	S T 120	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1315	墓群17 a	S T 120	古寛永通寶	日本	1636	2.4	-	5枚固着
銭1316	墓群17 a	S T 389・390	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.11	-
銭1317	墓群17 a	S T 389・390	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	-
銭1318	墓群17 a	S T 389・390	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.11	-
銭1319	墓群17 a	S T 390	不明	-	-	24	*0.74	6枚固着
銭1320	墓群17 a	S T 390	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1321	墓群17 a	S T 390	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1322	墓群17 a	S T 390	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1323	墓群17 a	S T 390	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1324	墓群17 a	S T 390	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1325	墓群17 a	S T 198	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.7	6枚固着
銭1326	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1327	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1328	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1329	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1330	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	2.5	-	6枚固着
銭1331	墓群17 a	S T 198	皇宋通寶	北宋	1038	2.45	*0.77	6枚固着
銭1332	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1333	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1334	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1335	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1336	墓群17 a	S T 198	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1337	墓群17 a	S T 391	開元通寶	唐	845	2.35	*0.76	6枚固着
銭1338	墓群17 a	S T 391	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1339	墓群17 a	S T 391	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1340	墓群17 a	S T 391	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1341	墓群17 a	S T 391	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1342	墓群17 a	S T 391	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭1343	墓群17 a	S T 392	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.74	5枚固着
銭1344	墓群17 a	S T 392	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1345	墓群17 a	S T 392	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1346	墓群17 a	S T 392	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1347	墓群17 a	S T 392	不明	-	-	24	-	5枚固着
銭1348	墓群17 a	S T 392	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.13	-
銭1349	墓群17 a	S T 395	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.76	6枚固着
銭1350	墓群17 a	S T 395	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1351	墓群17 a	S T 395	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1352	墓群17 a	S T 395	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1353	墓群17 a	S T 395	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1354	墓群17 a	S T 395	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭1355	墓群17 a	S T 399	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.23	2枚固着
銭1356	墓群17 a	S T 399	不明	-	-	2.3	-	2枚固着
銭1357	墓群17 a	S T 399	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.12	-
銭1358	墓群17 a	S T 399	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.5	4枚固着
銭1359	墓群17 a	S T 399	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1360	墓群17 a	S T 399	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1361	墓群17 a	S T 399	古寛永通寶	日本	1636	2.3	-	4枚固着
銭1362	墓群17 a	S T 399	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.22	2枚固着
銭1363	墓群17 a	S T 399	元豊通寶?	北宋	1078	2.4	-	2枚固着
銭1364	墓群17 a	S T 398	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.83	6枚固着
銭1365	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着

報告 番号	墓 群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径 (cm)	厚さ (cm)	備考
銭1366	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1367	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1368	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1369	墓群17 a	S T 398	新寛永通寶	日本	1668	25	-	6枚固着
銭1370	墓群17 a	S T 398	元徳通寶	北宋	1078	24	0.1	-
銭1371	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	24	*0.25	2枚固着
銭1372	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	25	-	2枚固着
銭1373	墓群17 a	S T 398	新寛永通寶	日本	1668	25	*0.25	2枚固着、裏に「文」有り
銭1374	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	245	-	2枚固着
銭1375	墓群17 a	S T 398	古寛永通寶	日本	1636	25	0.12	-
銭1376	墓群17 a	S T 398	熙寧元寶	北宋	1068	24.5	*0.77	6枚固着
銭1377	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1378	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1379	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1380	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1381	墓群17 a	S T 398	不明	-	-	245	-	6枚固着
銭1382	墓群17 b	S T 188	古寛永通寶	日本	1636	25	0.11	-
銭1383	墓群17 b	S T 188	古寛永通寶	日本	1636	25	0.12	2枚固着
銭1384	墓群17 b	S T 188	寛永通寶	日本	-	245	0.14	2枚固着
銭1385	墓群17 b	S T 188	新寛永通寶小	日本	1668	-	0.13	破片、「文」有り
銭1386	墓群17 b	S T 81	新寛永通寶	日本	1668	25.5	*0.58	4枚固着
銭1387	墓群17 b	S T 81	不明	-	-	-	-	4枚固着
銭1388	墓群17 b	S T 81	寛永通寶	-	-	-	-	4枚固着
銭1389	墓群17 b	S T 81	新寛永通寶	日本	1668	25.5	-	4枚固着
銭1390	墓群17 b	S T 81	新寛永通寶	日本	1668	25	*0.31	2枚固着
銭1391	墓群17 b	S T 81	新寛永通寶	日本	1668	25	-	2枚固着
銭1392	墓群17 b	S T 200	不明	-	-	245	*0.81	6枚固着
銭1393	墓群17 b	S T 200	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1394	墓群17 b	S T 200	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1395	墓群17 b	S T 200	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1396	墓群17 b	S T 200	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1397	墓群17 b	S T 200	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1398	墓群17 b	S T 199	新寛永通寶	日本	1668	25	*0.81	6枚固着
銭1399	墓群17 b	S T 199	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1400	墓群17 b	S T 199	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1401	墓群17 b	S T 199	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1402	墓群17 b	S T 199	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1403	墓群17 b	S T 199	不明	-	-	24	-	6枚固着
銭1404	墓群17 b	S T 385	古寛永通寶	日本	1636	25	*0.8	6枚固着
銭1405	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1406	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1407	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1408	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1409	墓群17 b	S T 385	新寛永通寶	日本	1668	25	-	6枚固着
銭1410	墓群17 b	S T 385	□水□□	-	-	245	*0.85	6枚固着
銭1411	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1412	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1413	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1414	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1415	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	255	-	6枚固着
銭1416	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	24	*0.64	5枚固着
銭1417	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1418	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1419	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1420	墓群17 b	S T 385	不明	-	-	24	-	5枚固着
銭1421	墓群17 b	S T 386	古寛永通寶	日本	1636	24	0.14	-
銭1422	墓群17 b	S T 386	古寛永通寶	日本	1636	24	*0.69	5枚固着
銭1423	墓群17 b	S T 386	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1424	墓群17 b	S T 386	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1425	墓群17 b	S T 386	不明	-	-	-	-	5枚固着

報告番号	墓群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭1426	墓群17b	S T 386	古寛永通寶	日本	1636	2.45	-	5枚固着
銭1427	墓群17b	S T 387	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭1428	墓群17b	S T 388	不明	-	-	-	0.11	破片
銭1429	墓群17b	S T 388	不明	-	-	2.45	*0.8	6枚固着
銭1430	墓群17b	S T 388	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1431	墓群17b	S T 388	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1432	墓群17b	S T 388	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1433	墓群17b	S T 388	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1434	墓群17b	S T 388	不明	-	-	2.35	-	6枚固着
銭1435	墓群17b	S T 243	□水滸	-	-	2.55	0.16	破片
銭1436	墓群17b	S T 243	新寛永通寶	日本	1668	2.3	0.15	
銭1437	墓群17b	S T 243	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭1438	墓群17b	S T 243	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.14	
銭1439	墓群17b	S T 243	□水滸	-	-	2.5	*0.93	6枚固着
銭1440	墓群17b	S T 243	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1441	墓群17b	S T 243	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1442	墓群17b	S T 243	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1443	墓群17b	S T 243	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1444	墓群17b	S T 243	不明	-	-	2.55	-	6枚固着
銭1445	墓群17b	S T 397	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.78	6枚固着
銭1446	墓群17b	S T 397	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1447	墓群17b	S T 397	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1448	墓群17b	S T 397	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1449	墓群17b	S T 397	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1450	墓群17b	S T 397	古寛永通寶	日本	1636	2.5	-	6枚固着
銭1451	墓群18b	S T 462	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.13	
銭1452	墓群18b	S T 462	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.13	
銭1453		S K 52	元祐通寶	北宋	1086	2.4	*0.42	3枚固着
銭1454		S K 52	不明	-	-	-	-	3枚固着
銭1455		S K 52	不明	-	-	2.4	-	3枚固着
銭1456		S K 52	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.12	
銭1457		S K 52	不明	-	-	2.4	0.1	
銭1458		S K 52	元祐通寶	北宋	1086	2.4	0.14	
銭1459		S K 52	□元寶	-	-	2.3	*0.61	5枚固着
銭1460		S K 52	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1461		S K 52	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1462		S K 52	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1463		S K 52	不明	-	-	2.45	-	5枚固着
銭1464		S K 52	祥符元寶	北宋	1008	2.45	0.13	
銭1465		S E 100	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.74	6枚固着
銭1466		S E 100	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1467		S E 100	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1468		S E 100	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1469		S E 100	不明	-	-	-	-	6枚固着
銭1470		S E 100	不明	-	-	2.45	-	6枚固着
銭1471		S K 113	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭1472		S K 117	不明	-	-	2.5	*0.73	5枚固着
銭1473		S K 117	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1474		S K 117	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1475		S K 117	不明	-	-	-	-	5枚固着
銭1476		S K 117	不明	-	-	2.35	-	5枚固着

付表12 墓石計測一覧

〈凡例〉

・墓石は各形式に略称をつけ、それぞれ通し番号を付与した。略称は以下の通りである。

- 一石五輪塔・・・・・・・・通し番号のみ
- 組合式五輪塔・・・・・・・・組
- 板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆(体部)・・・・・・・・碑
- 笠塔婆(笠部)・・・・・・・・笠
- 石仏・・・・・・・・仏
- 台座・木鉢・・・・・・・・台

・掲載順は以下の通りである。

- 一石五輪塔
- 板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆(体部)
- 組合式五輪塔
- 台座・木鉢
- 笠塔婆(笠部)
- 石仏

・墓石の計測位置は、本文第143図に基づく。

・墓石の形式は、本文第144・145図に基づく。

・板碑、舟形墓標、櫛形墓標、笠塔婆(体部)は、すべて略称を碑とし、まとめて報告している。

各形式は表中で示した。

・一石五輪塔の多くは、東方発心門「**覆・奇・異・異・洞**」が刻まれる。異なるもののみを記載した。

・一石五輪塔の底部の形状は、刺込・据置に分類し、判別可能なものを表記した。

・出土地点が異なる破片同士が接合したものについては、並べて記載している。紀年銘等については、碑は前掲するものにまとめて記載し、一石五輪塔は地輪塔が残る破片に記載した。高さについては、接合した最大高を前掲するものに記載した。

・寸法記載で、()付は残存値を示す。

・寸法記載で、-は計測値なしを示す。

・寸法記載で、/は該当部位なしを示す。

・舟形墓標の幅は、最小幅を[]で表示した。

・寸法数値は、少数点第2位切り捨て、小数点第1位で表示した。

・紀年銘等で、解説不能なものを□、割れており文字数が不明なものを□で表記した。

・紀年銘等で、草書や異体字については、支障のない範囲で楷書に改めた。

南地区出土一石五輪

報告番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群 2 a S T 371	墓群 2 b S K 66	墓群 2 b S T 377 上面	墓群 2 b S T 377 上面	墓群 2 上層 S T 17	墓群 3 a S K 78	墓群 3 b S T 42	墓群 3 b S T 42	墓群 3 b S T 42	墓群 3 b S T 42	
寸法 (cm)	総高	(204)	35.3	(360)	51.5	(130)	(234)	(188)	(322)	(142)	(302)
	空輪高		7.2		8.0	7.0	5.9		9.5	9.4	
	風輪高		2.8		4.1	2.9	3.5		4.7	4.8	
	高		4.4	(6.3)	6.8	(3.1)	6.9	(8.8)	9.2		
	軋高 1		3.6	4.2	5.0	-	4.8	5.0	6.4		
	軋高 2		2.3	2.7	2.7	-	3.0	2.0	3.8		
	軋		-	-	-	-	-	15.3	14.7		
	裏行		-	-	-	-	-	13.3	14.0		
	水輪高		4.9	7.5	7.8		7.1	10.0	8.8		
	地輪	高	204	160	222	248					302
幅	122	97	124	135						152	
裏行	122	94	120	147						134	
石材	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	閃緑岩 慶長九年 八月廿五日	砂岩 慶長九年 七月廿八日	閃緑岩 慶長二年 十月廿六日	閃緑岩 天正八年 七月十六日	閃緑岩 慶長九年 春佛定門 七月十六日	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩 元和四年 三月十一日	
	刺込	刺込	刺込	刺込							
観察備考											

報告番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群 3 b S T 42	墓群 3 b S T 190	墓群 3 b S T 190	墓群 3 b S T 190	墓群 3 b S T 190	墓群 3 b S T 362	墓群 4 S T 24	墓群 4 S T 343 上面	墓群 5 a S K 30	墓群 5 a S T 58	
寸法 (cm)	総高	520	344	(240)	(465)	615	(82)	(200)	(255)	(217)	504
	空輪高	8.6	5.4		9.0	10.2	5.1		(6.0)	7.6	
	風輪高	3.1	3.6		4.0	4.7	3.1			4.1	4.2
	高	9.0	4.9		9.2	8.2				6.1	6.0
	軋高 1	5.7	3.5		5.8	6.7				4.9	3.7
	軋高 2	3.3	2.0		3.4	3.8				3.1	2.7
	軋	-	-		-	-				8.7	-
	裏行	-	-		-	-				8.3	-
	水輪高	8.7	3.9			9.4				5.5	8.1
	地輪	高	226	166	240	243	290		200	255	245
幅	144	105	138	135	168		133	134	134	127	
裏行	136	97	112	101	131		11.0	12.0	11.5	11.5	
石材	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	
紀年銘等	閃緑岩 長安宮佛定門 八月六日	砂岩 貞慶三年 九月廿八日	閃緑岩 天正十二年 八月十日	閃緑岩 宗喜佛定門 慶長十九年 八月十日	閃緑岩 録聖宗訓佛定門 四月廿七日	閃緑岩 妙慶佛定門 寛永九年 四月廿七日	閃緑岩 寛永九年 四月廿七日	砂岩 寛永六年閏二月	砂岩 中興佛定門 慶長三年 三月廿七日	閃緑岩 妙忠佛定門 慶長八年 八月廿日	
	据置	刺込	刺込	刺込		凸		刺込	刺込	据置	
観察備考						火輪小ノ高 1.4cm		金泥			

報告番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	葛群6 a S T 48	葛群6 a S T 48	葛群6 a S T 48	葛群7 b S T 49	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40
寸法 (m)	総高	36.7 (296)	44.0 (250)		33.4 (254)	34.1 (34.1)	34.5 (34.5)	13.0 (11.8)		
	空輪高		7.0		7.2	6.8			7.4	
	風輪高	3.8	4.0		4.1	4.0			4.4	
	高	6.0 (5.3)	6.8		8.1	7.2 (5.0)	(6.8)	(6.2)		
	軒高1	4.6	4.4	4.9	6.3	5.6	3.5	4.1	3.6	
	軒高2	2.8	2.5	2.6	3.1	3.3	2.1	2.8	2.5	
	輻	-	-	-	-	13.3	-	-	11.4	
火輪	輿行	-	-	-	-	11.9	-	9.4		
	水輪高	5.6	5.0	7.3	5.0	6.8	7.4	6.5	6.5	6.8
	高	21.3	19.3	18.9	20.0	7.2		22.6	21.2	
地輪	輻	10.8	11.0	12.0	14.0	13.6		10.1	12.6	
	輿行	9.0	9.4	10.5	11.0	11.6		9.8	10.3	
石材	砂岩	砂岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	慶應神宮 十月十五日	元禄六年 四月十七日 梅津神宮 四月十七日	慶長十四年 八月一日 大徳寺 八月一日		妙印神宮 八月五日	正保三年 道明神宮 正月十七日 慶安三年 正月十七日	明徳二年 丁酉年 八月廿七日	元禄元年 空明神宮 八月廿四日		
観察備考	刺込	刺込	据置	刺込	据置		据置	据置		

報告番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 S K 40	葛群8 b S T 324 土層	葛群9 b S T 318	葛群10 b S K 50
寸法 (m)	総高	(39.0)	51.8 (25.0)		37.5 (19.8)	(9.6)	(7.7)	36.5 (26.6)	(7.7)	
	空輪高		9.2		6.8		6.3	7.7	5.2	4.7
	風輪高	4.4	3.2		3.5		3.3		3.2	3.0
	高	7.6	6.3		6.0				5.1	5.5
	軒高1	5.1	4.9		4.0				4.6	
	軒高2	2.9	3.0		2.9				2.4	
	輻	-	-		-				-	-
火輪	輿行	-	-		-			-	-	
	水輪高	6.9	8.9		6.0			5.1	5.9	
	高	20.1	24.2	25.0	15.2	19.8		17.9	15.2	
地輪	輻	12.6	13.7	12.1	10.9	11.4		10.2	10.3	
	輿行	11.4	11.9	10.8	11.5	9.9		8.2	9.2	
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	長相聖女 元禄八年六月 □作	元禄八年六月 □日 月形神宮 七月廿八日	慶長二年 六月四日 安永・善徳神宮 六月四日	文禄四年 妙聖聖女 □日	慶長六年 正月廿六日 浄春神宮 正月廿六日			杖明聖子 万治三年 七月七日	天正十六年 妙玉聖女 十二月十九日	
観察備考	据置	据置	刺込	据置	刺込			凸	刺込	4Iと接合

報告番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群 10 b S K 50	墓群 12 a S T 65	墓群 12 b S T 196	墓群 12 b S T 196	墓群 12 b S T 196	墓群 13	墓群 14 S T 79	墓群 14 S T 79	墓群 14 S T 79	墓群 14 S T 79	
火輪 (C) 寸法	総高	(240)	(128)	(385)	327	(330)	319	491	(290)	(337)	426
	空輪高	/	69	/	57	/	50	60	/	/	64
	風輪高	/	35	(50)	26	/	24	33	/	/	36
	高	4.5	(24)	7.5	5.0	(60)	4.4	6.0	(48)	(67)	6.5
	軒高 1	3.5	-	4.5	3.1	4.5	3.1	5.0	(40)	5.4	5.1
	軒高 2	2.2	-	2.6	1.9	2.5	2.0	2.7	2.2	2.9	3.0
	幅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	奥行	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水輪高	4.0	/	6.5	5.0	7.0	4.6	5.5	4.9	6.5	5.3
	高	15.5	/	19.5	14.4	20.0	15.5	28.3	19.3	20.5	20.8
地輪	幅	8.3	/	12.0	9.5	12.0	10.1	10.5	10.5	12.6	11.7
	奥行	6.8	/	11.8	9.2	11.0	9.0	9.6	7.9	10.5	9.3
石材	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	寛永 十月八日 崇文三年 宗永水信女		道 三月三日 慶長十九年 禪定門	文禄四年 六月十日 妙庵禪定尼	慶永十四年 九月十六日 兼残浄可信士	二月廿二日 妙庵禪定尼	法山彌延女 十一月廿日 兼宗女	寛永十年 正保五年 正保四年 正保四年 幻故童女 壬子四月十三日	六月四日 浄光急清信士 承應二年 八月十四日	寛永四年 八月十六日 秋月水雲女	
観察備考	40と接合		刺込	刺込	掘置	刺込	刺込		刺込	刺込	
					津(わずか)						

報告番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群 14 b S K 61	墓群 14 b S T 138	墓群 15 a S K 167	墓群 15 a S K 167	墓群 15 b S T 231	墓群 15 b S T 231	墓群 15 b S T 231	墓群 15 上層 S K 89	墓群 15 上層 S K 89	墓群 16 a S T 460	
火輪 (C) 寸法	総高	337	(198)	(192)	(123)	(200)	43.3	46.7	(34.5)	(28.0)	40.1
	空輪高	66	/	58	72	/	69	59	/	/	60
	風輪高	38	/	24	36	/	31	28	/	/	34
	高	7.2	/	5.1	(15)	/	6.2	7.3	6.4	/	5.5
	軒高 1	4.3	/	3.4	/	/	4.1	4.2	(4.2)	/	/
	軒高 2	2.4	/	2.3	/	/	2.7	2.3	2.6	/	/
	幅	-	/	10.7	-	/	-	-	-	/	-
	奥行	-	/	9.2	-	/	-	-	-	/	-
	水輪高	6.5	(18)	5.9	/	/	7.2	6.0	5.8	/	6.1
	高	9.6	18.0	/	/	20.0	19.9	24.7	22.3	28.0	19.1
地輪	幅	11.8	11.8	/	/	10.9	11.7	12.0	13.3	14.1	10.5
	奥行	11.5	10.6	/	/	8.7	11.0	11.2	11.9	12.0	9.3
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	進 妙善 禪定尼	天正十四年 禪定門 〇月〇七日			元和四年 五月十九日 理誓童女	元和四年 正月十五日 春清禪定門	慶長八年 六月十八日 行保貞心信女	正保四年 三月廿九日 高谷道頼信士	元和二年 十月廿七日 妙 徳禪定尼	元和二年 正月四日 妙 童女	慶長七年 正月四日 妙 童女
観察備考	掘置	刺込			刺込	刺込	掘置	掘置	刺込	刺込	

報告番号	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	墓群 16 a S T 400	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157		
寸法 (C)	火輪	総高	(287)	(183)	43.9	48.6	(31.3)	(41.3)	43.1	37.1	48.0	(20.3)
		空輪高	7.6	7.0	6.4	6.8	/	(7.0)	6.1	5.4	8.8	(5.1)
		風輪高	5.2	4.3	3.2	4.2	/	3.4	3.1	2.5	3.2	3.1
		高	7.6	(7.0)	6.3	7.2	6.8	6.3	5.7	4.3	6.1	5.4
		軒高 1	5.6	-	4.5	5.0	4.6	4.1	4.3	4.3	5.2	3.6
		軒高 2	2.8	(3.0)	2.8	3.1	2.6	3.0	2.3	3.8	2.3	2.3
		幅	14.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		奥行	11.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		水輪高	8.3	/	6.8	7.2	7.8	6.2	6.1	4.5	7.8	6.7
		地輪	高	/	21.2	23.2	16.7	18.4	22.1	20.4	22.1	/
幅	/		10.5	12.2	11.6	10.2	12.0	10.0	12.8	/		
奥行	/		8.8	11.3	10.2	10.2	9.5	7.4	11.0	/		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等												
			妙水押定尼 元基二年 □月□日	元基四年 五月七日	文様二年 三月十二日	慶長十五年 三月十二日	宗室押定門 二月廿二日	寛永二年 三月十二日	茂林通業押定門 元和四年 六月廿一日	善演童子 万治二年 十一月十八日	寛永九年 十一月十八日	
観察備考			掘置	掘置	刺込	刺込	掘置	刺込	掘置			

報告番号	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 17 a S T 198 下層	墓群 17 a S T 198 下層	墓群 17 b S T 122	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層		
寸法 (C)	火輪	総高	(27.0)	43.3	(19.8)	(19.0)	(23.6)	(19.5)	(18.8)	38.7	(19.2)	(27.8)
		空輪高	/	6.7	/	/	/	/	5.3	6.5	/	/
		風輪高	/	3.4	/	/	/	/	2.5	3.0	/	/
		高	/	6.4	/	/	/	/	5.5	4.2	/	(5.5)
		軒高 1	/	4.6	/	/	/	/	3.7	3.1	/	4.3
		軒高 2	/	3.2	/	/	/	/	2.4	1.9	/	2.4
		幅	/	-	/	/	/	/	10.0	-	/	-
		奥行	/	-	/	/	/	/	8.2	-	/	-
		水輪高	/	6.7	/	/	/	4.5	5.5	6.0	6.0	5.0
		地輪	高	27.0	20.1	19.8	19.0	23.6	15.0	/	19.0	19.2
幅	16.5		11.8	11.0	8.7	13.2	9.0	/	10.3	10.0	10.5	
奥行	14.9		9.5	9.9	8.9	12.3	8.0	/	9.0	8.0	9.0	
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等												
		六観 妙水押定尼志修 元基二年 十一月七日	妙玉押定尼 寛永二年 八月廿七日	妙買童女 元和三年 十一月十三日	□善童女 文様二年 十一月朔日	妙西押定尼 慶長五年 三月廿九日	神宗清押定門 慶長五年 三月廿九日	善買童子 元基九年 十一月十一日	妙西押定尼 慶長八年 八月廿七日	善故童子 寛永元年 五月十七日	善秀童子 元和三年 八月六日	
観察備考		掘置	刺込	掘置	刺込	掘置		刺込	刺込	刺込		

報告番号	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 中層	
寸法 (cm)	総高	(9.5)	29.4	37.0	48.0	40.7	42.0	(13.0)	(19.4)	(4.9)	(13.7)	40.4
	空輪高	6.5	6.7	6.0	7.5	6.5	7.0		5.7			
	風輪高	3.0	4.0	2.5	3.5	3.0	4.0		2.6	4.9		
	高		7.0	6.0	7.0	6.2	6.5		5.3			8.5
	軒高1		4.5	3.2	4.1	4.7	5.5		3.7			5.3
	軒高2		2.3	2.6	2.2	2.8	3.0		2.5			3.7
	幅								9.5			
	奥行								8.4			
	水輪高		5.7	5.0	7.5	6.5	5.0		5.8			7.4
	高		6.0	17.5	22.5	18.5	19.5	13.0			13.7	24.5
幅		10.5	10.3	14.0	11.5	12.3	9.5			8.9	12.3	
奥行		9.0	8.5	11.5	9.5	11.5	9.5			7.9	11.4	
石材	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等		道覚神守定門 慶長八年 四月十四日	妙西神守定門 慶長九年 三月八日	林香庵了徹大徳 二月十四日	慶長十一年 八月廿八日	道久大徳 慶長十一年 九月十一日	妙花神尼 天門十年 八月廿七日	文禄二年 妙清童子 八月廿七日		天正十四年 妙願童女 二月五日	正徳宗廟御定門 八月十七日	慶長十二年 八月十七日
観察備考		剥込	剥込	掘置	剥込		剥込			剥込	掘置	

報告番号	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層		
寸法 (cm)	総高	(17.3)	47.9	54.1	38.3	43.1	57.5	51.1	39.5	55.0	49.4	
	空輪高		6.4	8.4	6.2	5.6	8.5	8.8	6.5	9.2	7.7	
	風輪高		3.9	4.4	2.7	3.5	3.6	3.1	3.2	5.0	4.0	
	高		6.2	8.5	6.4	5.5	8.9	7.1	6.2	8.3	8.2	
	軒高1		4.4	6.0	4.6	3.4	-	4.6	4.4	5.5	5.6	
	軒高2		2.5	3.1	2.6	2	-	3.4	2.6	3.4	3.2	
	幅											
	奥行											
	水輪高		8.1	8.9	5.2	6.2	8.5	8.6	6.7	8.2	7.0	
	高	17.3	23.3	23.9	17.8	22.3	28.0	23.5	16.9	24.3	22.5	
幅	10.0	13.4	15.3	11.0	11.0	14.0	12.4	12.1	15.6	13.0		
奥行	8.5	11.5	12.8	9.0	9.2	14.0	12.4	11.4	13.8	12.0		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等	永壽童女 慶長九年 十一月六日	宗天童子 慶長三年 十一月廿五日	徳口法師 十一月五日	元和元年 三月一日	善貞童女 慶長十年 十月三日	妙口童女 慶長九年 十月廿八日	地天神宗空神定門 四月廿八日	修 妙安神定尼 慶長七年	進 十二月廿七日	文禄二年 十二月廿七日	修 花巻永壽神定尼 慶長十一年	進 六月廿八日
観察備考		剥込	掘置	掘置	掘置	剥込	掘置	掘置	掘置	掘置	剥込	

報告番号	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	
寸法 (C)	総高	387	396	(67)	394	(132)	(307)	45.5	39.1	(27.7)	45.5
	空輪高	6.0	7.0	6.7	6.3			8.7	6.4		7.8
	風輪高	3.0	3.1		3.9			2.6	3.0		3.5
	高	5.2	5.2		5.5	4.6	(5.4)	7.3	5.5	(5.6)	7.5
	軒高1	3.5	3.2		3.9	2.8	3.9	3.5	3.7		5.0
	軒高2	2.6	2.1		2.3	1.6	2.0	2.3	2.2	2.3	2.6
	幅	-	-		-	-	-	-	-	-	-
	奥行	-	-		-	-	-	-	-	-	-
	水輪高	5.0	6.4		5.6	4.6	5.5	7.3	5.7	5.7	6.7
	高	19.5	17.9		18.1	(4.0)	19.8	19.6	18.5	16.4	20.0
地輪	幅	10.8	10.7		10.5	(7.0)	11.0	11.8	10.0	10.7	12.5
	奥行	10.4	8.8		8.4	(2.0)	9.8	11.0	8.9	9.1	11.0
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	慶長廿六年 宗達淨水碑定門 壬六月十六日	妙智童女 六月十日	慶長廿六年 六月十日	慶長廿七年 生口童子 三月十四日	慶長廿七年 妙春童女 三月六日	慶長廿七年 妙春童女 七月廿九日	慶長廿七年 三月 豊直口口信士	慶長廿九年 八月十四日	慶長廿九年 九月十四日	慶長廿六年 妙秀童女 二月十八日	慶長十八年 在長春堂 二月十八日
観察備考	刺込	措置		刺込		刺込	刺込	刺込	刺込	刺込	

報告番号	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	
寸法 (C)	総高	44.5	43.7	(23.0)	(26.0)	41.6	(33.9)	(25.6)	38.2	(11.5)	51.3
	空輪高	8.6	7.0			6.8			6.2		6.9
	風輪高	3.6	3.7			3.4			3.1		4.2
	高	6.2	5.2		(5.0)	5.6	(6.8)	(3.8)	6.3	6.6	9.3
	軒高1	4.1	3.6		4.1	2.9	5.0	4.3	4.2	3.7	5.2
	軒高2	2.7	2.1		2.6	1.9	2.3	2.8	2.4	2.4	3.8
	幅	-	-		-	-	-	-	-	9.5	-
	奥行	-	-		-	-	-	-	-	9.5	-
	水輪高	7.6	6.8		6.2	6.5	7.0	8.4	4.6	4.9	8.2
	高	18.5	21.0	23.0	14.8	19.3	20.1	(13.4)	18.0		22.7
地輪	幅	11.7	11.5	10.8	10.0	10.0	12.7	10.6	10.6		13.8
	奥行	9.6	10.3	9.6	7.9	11.1	10.7	8.0	10.0		12.0
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	
紀年銘等	慶長五年 西院浄水碑定門 五月十七日	慶長十五年 二月十五日	慶長十六年 天正十六年 宗達淨水碑定門 四月一日	慶長十四年 宗哲童子 四月一日	慶長七年 妙忠童女 四月二日	慶長五年 實公百尾北正尼 四月二日	慶長十七年 妙清童女 九月十一日	慶長十七年 十月廿四日 遊珠童子	元和三年 十二月四日 望口童子	慶長十四年 宗春宗悦碑定門 一月廿五日	
観察備考	措置	刺込	刺込小	刺込	措置	刺込		措置		措置	

報告番号	122	123	124	125	126	127	128	129	130		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2		
寸法 (C)	火輪	総高	34.2	46.4	37.2	40.3	33.4	43.2	46.3	(11.0)	(24.2)
		空輪高	6.3	6.0	7.7	5.4	5.0	6.4	7.2	7.7	6.5
		風輪高	3.0	3.3	3.9	3.5	3.2	3.0	3.5	3.3	3.5
		高	5.2	7.0	6.0	6.0	5.0	6.6	6.8		7.5
		軒高 1	4.5	4.4	4.4	3.4	3.4	4.2	4.8		5.4
	地輪	軒高 2	2.5	2.6	2.7	1.9	2.2	2.5	2.5		3.5
		幅	-	-	-	-	-	-	-		12.7
		奥行	-	-	-	-	-	-	-		10.4
		水輪高	4.7	6.1	6.4	5.4	5.0	6.2	6.8		6.7
		高	15.0	24.0	13.2	20.0	15.2	23.1	22.0		
石材	幅	9.4	11.1	11.2	13.2	9.3	11.8	12.2			
	奥行	8.7	9.7	12.0	11.9	9.0	10.5	10.7			
石材	砂岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等	水巻童子 妙清童女 慶長 十一月十七日	慶長 五月廿日	慶長 四月廿七日	道徳海門 五月廿二日	天正 十月十五日	天正 三月廿日	宗真童女 四月十五日	慶長 二月十九日	慶長 宗水神定門 十一月十九日	慶長 宗水神定門 十一月十九日	
	据置	据置	据置	据置	据置	据置	据置	刺込			
観察備考											

報告番号	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2	S K 99 中層 2		
寸法 (C)	火輪	総高	(10.4)	41.5	48.3	44.9	37.7	48.0	41.8	(16.5)	46.9	49.2
		空輪高	7.0	6.0	6.5	7.3	5.6	7.5	6.3		7.2	8.0
		風輪高	3.4	4.0	5.0	3.2	3.6	3.7	4.1	3.4	3.3	4.6
		高		6.3	6.5	6.6	5.6	7.8	5.9	7.3	6.7	9.8
		軒高 1		3.2	4.2	4.2	3.1	5.1	3.8	5.1	4.1	6.5
	地輪	軒高 2		2.7	2.0	2.3	1.9	3.1	2.2	2.4	2.3	3.5
		幅		-	-	-	-	-	-	10.4	-	-
		奥行		-	-	-	-	-	-	10.1	-	-
		水輪高		6.8	6.1	7.3	5.9	6.9	6.2	5.8	7.2	7.6
		高		18.4	24.2	20.5	17.0	22.1	19.3		22.5	19.2
石材	幅		11.0	12.7	12.5	10.8	12.5	11.6		13.0	14.4	
	奥行		10.0	12.0	11.0	9.5	11.3	11.0		11.0	12.8	
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等		元和 三月 四月	元和 三月 四月	天正 正月 四月	道源神定門 正月四日	道水信士 壬六月廿四日	慶長 五月廿七日	水願 三月廿日	支接 三月廿日	松林宗昌神定門 十一月十六日	慶長 六月十九日	宗真 六月十九日
	刺込	刺込	据置	据置	据置	据置	据置	据置	据置	据置	据置	
観察備考		金泥			金泥				金泥小			

報告番号	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	
寸法 (口)	総高	(31.2)	41.4	40.7	(45.5)	54.3	(11.4)	43.6	49.8	44.5	(19.7)
	空輪高		5.5	6.8		9.5		6.2	8.0	7.1	
	風輪高	3.2	3.2	2.8	4.0	4.1		4.0	4.0	3.8	
	軒高1	5.3	6.5	6.6	8.5	7.3	5.5	6.2	7.6	6.7	
	軒高2	3.1	3.4	4.4	5.0	5.0	3.1	4.0	6.0	4.1	
	幅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	奥行	-	-	-	-	-	8.2	-	-	-	-
	水輪高	6.0	6.2	5.5	8.5	8.4	5.9	5.5	7.1	6.6	
	高	16.7	20.0	19.0	24.5	25.0		21.7	23.1	20.3	19.7
	幅	10.0	10.0	11.2	13.6	14.2		12.0	12.9	12.0	11.9
奥行	9.0	8.0	10.5	11.7	13.0		10.5	11.9	11.5	10.8	
石材	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	慶長十一年 妙智禪定尼 二月廿七日	慶長十一年 妙智禪定尼 十二月四日	文禄二年 妙法禪定尼 六月廿八日	慶長二年 道要禪定門 三月十一日	慶長七年 月忍清藤菓子 三月十一日	妙慶禪定尼 十二月十七日	道水禪定門 慶長三年 十一月十七日	妙存重女 八月九日	修宗意禪定門 慶長七年	天正十五年 妙慶重女 三月廿五日	慶長十四年 春口重子 四月十五日
観察備考	判込	判込	判込	判込	据置		判込	据置	判込	据置か	金泥か

報告番号	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 中層2	SK 99 最下層	SK 99	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	
寸法 (口)	総高	46.3	44.4	(17.4)	(21.6)	35.6	34.7	(10.0)	(11.0)	(6.0)	55.3	49.1
	空輪高	7.6	6.8	3.9		5.5	5.0	6.4	6.0	6.0	8.8	7.4
	風輪高	4.3	3.7	7.2		2.8	2.8	3.0	3.5		4.0	4.1
	軒高1	6.3	7.8	6.3		5.5	4.9	(0.6)	(1.5)		6.6	7.3
	軒高2	4.8	5.5	4.2		3.4	3.5				4.4	4.5
	幅	2.2	2.6	2.2		1.9	2.0				2.5	2.9
	奥行	-	-	11.5		-	-	8.0	-	-	-	-
	水輪高	7.1	6.7			5.3	5.6				9.6	6.7
	高	21.0	19.4		21.6	16.5	16.4				26.3	23.6
	幅	12.8	12.5		11.0	9.8	10.0				15.3	14.1
奥行	10.9	10.0		9.0	8.0	9.0				14.0	12.4	
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	慶長九年 妙智禪定尼 壬八月十六日	慶長十一年 春口重子 十一月九日	慶長十五年 明譽宗原大徳 十一月十三日	慶長五年 妙原菓子 六月十九日	文禄四年 妙原菓子 三月十五日	文禄二年 宗見菓子 三月十五日				慶長五年 道訓禪定門 即月十六日	慶長九年 春禪定門 七月十九日	
観察備考	据置	判込		判込	判込	判込			摩滅著しい		金泥	

報告番号	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層		
寸法 (cm)	火輪	総高	(25.0)	38.2	(31.3)	45.8	36.3	(8.5)	38.3	(10.4)	37.6	
		空輪高	8.6	7.8	/	5.9	6.3	(8.5)	5.8	5.7	5.6	
		風輪高	3.1	4.0	/	3.8	2.9	/	3.3	3.1	3.0	
		高	6.2	6.5	(6.7)	6.5	5.5	/	6.7	(1.6)	5.4	
		軒高1	4.1	2.9	4.1	4.2	3.9	/	4.5	/	4.5	
		軒高2	2.9	2.5	3.6	2.4	2.0	/	2.8	/	3.0	
		幅	10.4	-	-	-	-	/	-	-	-	
		奥行	9.6	-	-	-	-	/	-	-	-	
		地輪	水輪高	7.1	5.6	7.4	6.5	5.8	/	5.9	/	5.3
			高	/	14.3	17.2	23.1	15.8	/	16.6	/	18.3
幅	/		11.9	10.8	13.4	11.3	/	10.7	/	10.0		
奥行	/	11.8	9.6	10.3	9.2	/	8.8	/	9.0			
石材	閃緑岩	砂岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	粉谷石		
紀年銘等		妙清重女 文禄二年 三月十日	慶長四年 正月四日	妙春重女 七月十六日	妙口押定尼 元和二年 四月八日	天正十二年 西月童子 四月八日	露信重女 慶長八年 九月廿日		秋月宗徳重女 文禄三年 八月十二日	幻心重女 十二月廿日	慶長十五年 十一月廿日	
		措置	刺込	刺込	刺込		刺込		刺込か	刺込		
観察備考												

報告番号	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層		
寸法 (cm)	火輪	総高	(9.7)	45.5	(17.1)	41.3	(21.2)	(19.8)	39.0	(17.6)	48.4	
		空輪高	5.1	8.1	/	7.4	/	/	5.8	5.2	6.8	
		風輪高	(4.6)	4.9	/	3.9	/	/	3.2	3.2	3.8	
		高	/	6.4	/	8.0	/	/	5.2	4.7	7.9	
		軒高1	/	4.0	/	5.7	/	/	3.5	3.5	5.2	
		軒高2	/	2.1	/	3.9	/	/	2.1	1.9	3.1	
		幅	/	-	/	-	/	/	-	9.4	-	
		奥行	/	-	/	-	/	/	-	9.3	-	
		地輪	水輪高	7.0	/	6.6	/	/	6.3	4.5	7.8	/
			高	19.1	17.1	15.5	21.2	19.8	18.6	/	22.1	22.2
幅	13.3		10.4	10.1	10.5	10.1	9.5	/	12.3	13.3		
奥行	11.1	9.4	10.3	11.2	8.6	9.5	10.6	10.8	/			
石材	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	粉谷石	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等		幻水重女 慶長六年 九月廿九日	妙順重女 慶長十二年 七月一日	幸圓重女 六月十七日	天正廿年 正月朔日	元和二年 妙性押定尼 十二月三日	慶長五年 香月芳重重女 正月四日	慶長三年 妙春重女 正月四日	西教妙徳重女 慶長十年 二月七日	林清重女 八月十一日	慶長十四年 八月十一日	
		措置	措置	凹	刺込	刺込	刺込か		刺込	刺込		
観察備考		金泥										

報告番号	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SE 100 上層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層		
寸法 (C)	大輪	総高	(307)	508	460	(208)	555	(152)	(240)	(134)	(128)	(111)	(345)
		空輪高	(05)	87	72	59	78	53	62	70	52	63	86
		風輪高	30	36	41	32	47	29	28	37	33	29	40
		高	57	74	59	51	80	56	57	(27)	(43)	(19)	91
		軒高1	3.5	4.8	4.0	3.2	6.1	3.1	4.0	-	-	-	5.6
		軒高2	2.4	3.1	2.5	2.0	3.1	2.2	2.4	-	-	-	3.3
		幅	-	-	-	10.7	-	(38)	5.8	-	-	-	-
		奥行	-	-	-	8.5	-	8.3	11.0	-	-	-	-
		水輪高	4.9	8.0	7.1	6.6	7.6	(1.4)	9.3	-	-	-	8.8
		高	16.6	23.1	21.7	/	27.4	/	/	/	/	/	(4.0)
地輪	幅	9.9	15.0	11.8	/	13.5	/	/	/	/	14.0		
	奥行	8.9	15.0	10.0	/	11.4	/	/	/	/	13.5		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	-	砂岩		
紀年銘等	慶長十一年 宗清童子 六月八日		慶長四年 芳月道祐 二月十二日		慶安 正月四日		元禄二年 元禄三年 六月十五日						
	欠損		損置		損置		剥込						
観察備考										(金泥 わづか)			

報告番号	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層		
寸法 (C)	大輪	総高	(69)	(155)	(99)	(210)	(127)	(216)	(162)	(358)	(128)	(62)	(166)	(120)
		空輪高	6.9	/	9.9	8.2	8.6	6.8	/	9.5	/	/	(10)	(72)
		風輪高	/	3.2	/	3.8	4.1	3.7	/	4.9	/	6.2	3.5	3.7
		高	/	5.6	/	9.0	/	6.3	8.8	9.4	6.6	/	5.5	(11)
		軒高1	/	3.2	/	5.3	/	4.1	5.5	5.3	5.5	/	3.8	-
		軒高2	/	2.6	/	3.0	/	2.3	3.2	3.0	2.7	/	2.5	-
		幅	/	10.8	/	12.8	/	-	13.5	16.8	12.3	/	-	-
		奥行	/	8.9	/	10.0	/	-	11.2	15.5	10.2	/	-	-
		水輪高	/	6.7	/	/	/	4.8	7.4	12.0	6.2	/	6.6	/
		高	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
地輪	幅	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	奥行	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等														
観察備考	194と接合		193と接合											

報告番号	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	
寸法 (cm)	総高	(18.2)	(14.9)	26.2	(27.2)	(12.3)	(20.0)	(21.5)	(18.3)	38.9	(18.7)	(15.5)
	空輪高	7.4	9.9	6.3	8.8	6.7				7.2		
	風輪高	4.0	3.8	3.2	4.0	3.8				3.6		
	火輪	高	6.8	(1.2)	5.8	6.8	(1.8)				5.5	(7.0)
		軒高1	4.5	-	4.8	4.6	-				3.6	5.6
		軒高2	2.1	-	2.7	3.1	-				2.5	3.1
		幅	9.4	-	-	11.8	-				-	14.5
	奥行	9.4	-	-	11.0	-				-	(6.7)	
	地輪	水輪高			5.0	7.6		(1.2)		5.6		8.5
		高			5.9		20.0	20.3	18.3	17.0	18.7	
幅				9.5		10.8	11.1	10.2	10.1	9.1		
奥行			8.7		10.6	9.5	8.4	10.3	9.4			
石材	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	
紀年銘等			寅 口 童 女 十 二 月 十 二 日 慶 長 六 年			心 西 堂 子 十 月 十 日	道 西 禪 定 門 八 月 十 六 日	天 正 十 八 年 八 月 十 六 日	妙 玉 童 女 七 月 廿 日	法 悦 童 子 四 月 七 日	文 棟 四 年 五 月 廿 七 日	慶 長 三 年 妙 安 禪 定 尼 五 月 廿 七 日
観察備考	金泥		刺込	金泥		刺込	刺込	刺込	刺込	措置		

報告番号	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 100	SE 100	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 最下層		
寸法 (cm)	総高	(19.1)	(17.3)	(20.3)	(14.0)	(25.0)	(15.7)	(23.9)	(22.6)	(28.1)	(20.3)	
	空輪高	5.3		7.9				5.5	6.0			
	風輪高	2.6		3.3				3.2	3.2		3.3	
	火輪	高	6.0	(7.2)	5.5	(6.7)			9.0	8.0		9.2
		軒高1	3.7	(5.2)	3.8	(4.1)			3.9			5.3
		軒高2	2.7	3.4	2.4	2.8			2.4	2.7		3.2
		幅	10.0	13.2	8.1	-			9.7	-		-
	奥行	8.3	(11.5)	10.2	-			-	-		-	
	地輪	水輪高	5.2	10.1		7.3	(2.3)	(1.3)	6.2	5.4	(1.6)	(7.8)
		高					22.7	14.4			26.5	
幅						12.1	11.0			14.0		
奥行					11.1	10.5			13.9			
石材	砂岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等					妙 善 禪 定 尼 八 月 廿 六 日 慶 長 六 年	芳 原 秋 頼 信 士 七 月 十 六 日	寛 永 十 三 年		心 覺 清 通 禪 定 尼 位 十 月 廿 六 日	慶 長 十 三 年		
観察備考	金泥				刺込	刺込	漆(わずか)		措置	225と接合	224と接合	

報告番号	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層		
寸法 (C)	火輪	総高	(35.6)	(24.8)	(8.7)	(39.9)	(13.7)	(24.8)	(13.2)	(36.0)	(25.5)	27.8	35.7
		空輪高	/	7.8	/	/	7.4	/	/	/	/	8.8	6.4
		風輪高	/	4.0	/	/	2.8	/	/	/	/	4.3	3.2
		高	(7.6)	7.1	(7.5)	8.0	(3.5)	(5.8)	/	/	/	6.7	5.5
		軒高1	3.7	5.5	6.0	5.2	-	(3.6)	/	/	/	4.0	3.5
		軒高2	3.0	2.8	3.2	2.7	-	(2.7)	/	/	/	2.5	1.8
		幅	-	-	-	-	-	-	/	/	/	13.5	-
		奥行	-	-	-	-	-	-	/	/	/	12.5	-
		水輪高	7.8	5.9	(1.2)	8.2	/	5.0	/	/	(5.0)	8.0	5.6
		高	21.2	/	/	23.7	/	14.0	(13.2)	26.0	20.5	/	15.0
地輪	幅	13.2	/	/	14.5	/	10.5	12.5	13.0	12.4	/	10.3	
	奥行	11.6	/	/	12.7	/	10.0	9.5	10.4	11.5	/	8.9	
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
記事銘等	六月初八日 宗立御定門 文禄五年			十一月廿九日 寶登宗御信士	慶長五年	十一月廿九日 宗立御定門	慶長二年	八月廿七日 月神宛尼	元和八年 北山新心信女	九月廿六日 行堂御定門	慶長十八年	三月十二日 寿水御門	天正十八年
	判込			据置			判込	据置	判込			据置	
観察備考	金泥				漆(少)			地輪上部 欠損					

報告番号	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113	SE 113 中層	SE 113 最下層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 最下層		
寸法 (C)	火輪	総高	(34.6)	(36.9)	(18.0)	(29.6)	(12.0)	(23.3)	(21.0)	19.9	6.1	7.5
		空輪高	/	/	/	/	7.8	6.7	/	4.4	/	7.5
		風輪高	/	/	/	/	4.2	3.2	/	3.0	3.7	/
		高	7.8	(7.0)	/	(7.8)	/	6.4	/	6.4	(2.4)	/
		軒高1	4.5	(4.1)	/	4.5	/	4.0	/	4.5	-	/
		軒高2	2.4	2.9	/	3.1	/	2.5	/	2.5	-	/
		幅	-	-	/	-	/	-	/	-	-	/
		奥行	-	-	/	-	/	-	/	-	-	/
		水輪高	5.8	6.9	(1.5)	6.6	/	7.0	/	6.1	/	/
		高	21.0	23.0	16.5	15.2	/	/	21.0	/	/	/
地輪	幅	11.5	13.2	10.5	12.5	/	11.8	/	/	/	/	
	奥行	11.0	11.8	10.0	11.7	/	10.3	/	/	/	/	
石材	-	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
記事銘等	八月初十日 西徳早御定門 天正十九年	十月十五日 道言御門 天正十五年	四月十七日 貞徳童女 天正十八年	正月十六日 照源御定門	天正二年		八月四日 妙金御尼	天正十九年				
	据置	判込	据置				判込					
観察備考	金泥			241と接合	240と接合	243と接合	242と接合		246と接合	245と接合		

報告番号	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256			
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
出土地点	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 最下層	SE 113 中層	SE 113	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113	SE 113 中層			
寸法 (C)	火輪	総高	(15.5)	39.3	(36.5)	(9.3)	33.0 (30.1)	(14.1)	(37.1)	(27.9)	(9.4)	(21.3)	
		空輪高	5.5	/	/	(5.8)	/	6.3	/	/	6.0	/	
		風輪高	3.5	4.4	/	3.5	/	2.7	/	/	3.4	/	
		高	6.5	7.4	(4.8)	/	/	5.1	9.0	(5.5)	/	/	
		軒高1	5.0	5.0	3.8	/	/	3.9	(5.8)	3.0	/	/	
		軒高2	2.6	3.1	2.0	/	/	1.8	3.3	1.9	/	/	
		幅	-	-	-	/	/	-	-	-	/	/	
		奥行	-	-	-	/	/	-	-	-	/	/	
		地輪	水輪高	/	6.5	5.8	/	6.3	/	7.1	6.0	/	(0.8)
			高	/	21.0	15.9	/	13.8	/	21.0	16.4	/	(20.5)
幅	/		13.2	10.2	/	9.9	/	13.2	10.9	/	12.3		
奥行	/	12.2	11.0	/	8.5	/	13.0	9.0	/	12.0			
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩			
紀年銘等		善良童子 二月廿八日 置	淨室道祖 二月十日 置	妙通重女 慶長六年 二月十日 刺込	妙通重女 三月三日 刺込	八月 刺込	淨室 八月 欠損	慶長二年 七月廿一日 刺込	慶長三年 十一月十六日 刺込	天正十五年 十一月十六日 刺込			
	観察備考	金泥	250と接合	249と接合	252と接合	251と接合	地輪全面火を受け割れる	255と接合	254と接合				

報告番号	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266			
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
出土地点	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113	SE 113 中層2			
寸法 (C)	火輪	総高	(12.3)	(18.5)	(16.7)	(15.0)	(35.5)	(21.6)	(13.4)	(28.1)	(8.0)	(17.7)	
		空輪高	/	/	/	/	(3.5)	/	5.2	/	5.0	5.2	
		風輪高	/	/	/	/	2.8	/	2.8	/	3.0	2.2	
		高	6.8	/	9.2	/	7.3	7.1	(6.2)	5.5	/	4.7	
		軒高1	4.3	/	5.4	/	(4.6)	(4.4)	4.7	3.1	/	3.2	
		軒高2	2.4	/	3.0	/	3.0	2.3	2.7	2.0	/	1.7	
		幅	-	/	14.5	/	-	11.0	12.7	-	/	-	
		奥行	-	/	11.2	/	-	9.5	12.3	-	/	-	
		地輪	水輪高	5.5	/	7.5	/	6.9	6.5	7.2	5.2	/	5.6
			高	/	18.5	/	15.0	17.8	/	17.4	/	17.4	
幅	/		10.5	/	10.5	11.0	/	10.5	/	10.5			
奥行	/	9.9	/	9.4	9.8	/	10.5	/	10.5				
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	砂岩			
紀年銘等		元禄五年 三月七日 刺込	慶長十一年 三月廿二日 刺込	王貞童子 慶長十一年 十月十六日 置	妙悦信女 慶長十一年 十月十六日 置			徳福童子 七月十九日 刺込	慶長十八年 七月十九日 刺込				
	観察備考	金泥、258と接合	金泥、257と接合					265と接合	264と接合	267と接合			

報告番号	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 113	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113 最下層		
寸法 (C)	総高	(185)	(142)	(197)	(191)	(293)	(129)	(102)	(124)	(297)	(114)	(277)	
	空輪高		85		59		(85)	(68)			75		
	風輪高		40		34		44	34			39		
	高		(17)	5.4	6.1	4.9			6.7	6.7		5.9	
	軒高1		-	3.5	3.8	3.2			4.2	3.4		3.5	
	軒高2		-	2.0	2.2	1.8			2.5	2.3		2.0	
	幅		-	-	10.5	-			12.0	-		-	
	奥行		-	-	9.8	-			10.7	-		-	
	水輪高			6.2	(37)	5.9			5.7	4.2		5.6	
	高	18.5		8.1		18.5				18.8		16.2	
幅	9.4		10.5		10.5				10.7		11.0		
奥行	8.8				8.5				9.3		9.3		
石材	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩		
紀年銘等	道林榑定門 三月七日		天正十二年 三月十七日		慶長七年 妙蓮榑定尼 正月十七日	慶長十二年 妙蓮重女 八月十六日			妙蓮榑定 三月七日	慶長六年 道林榑尼 三月七日	慶長七年 妙蓮重女 六月七日		
	刺込		据置		据置				刺込		刺込		
観察備考	266と接合				遺少		274と接合		273と接合		276と接合	275と接合	278と接合

報告番号	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113 最下層		
寸法 (C)	総高	(96)	(185)	(104)	(92)	(106)	(235)	(149)	426	(117)	(304)	
	空輪高	6.4	7.8		5.4				6.2	6.5		
	風輪高	3.2	3.7		3.8				3.4	3.0		
	高		7.0	5.4				7.2	6.5	(22)	5.8	
	軒高1		4.1	4.6				4.9			5.4	
	軒高2		2.9	2.2				2.9			2.3	
	幅		12.2	-				-	-	-	-	
	奥行		11.6	-				-	-	-	-	
	水輪高			5.0				7.7	6.0		6.6	
	高					10.6	23.5		20.5		18.0	
幅					10.5	12.2		11.0		11.2		
奥行					9.2	11.7		9.7		10.5		
石材	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等					天正十六年 妙蓮榑尼 七月十四日	天正十六年 二月五日	文禄四年未 ⁺ 法開大徳 二月五日		妙蓮榑定尼 霜月晦日	天正十年六月 ⁺ 道清榑定門 寛永六年	天正十年六月 ⁺ 道清榑定門 寛永六年	
					据置				刺込		刺込	
観察備考	277と接合		281・282と接合		280・282と接合		284と接合		283と接合		金泥	288と接合

報告番号	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	
寸法 (C)	総高	40.8 (10.8)	(11.2)	(8.3)	(28.5)	(7.2)	(7.8)	(10.6)	13.2	29.1	36.8 (17.3)
	空輪高	6.8	/	5.5	/	(7.2)	(7.8)	/	7.2	4.8	/
	風輪高	4.0	/	2.8	/	/	/	/	4.3	3.1	/
	火輪	高	/	5.7	/	5.5	/	/	5.4 (1.7)	4.6	/
		軒高1	/	3.5	/	3.2	/	/	2.8	-	3.4
		軒高2	/	2.3	/	2.0	/	/	1.8	-	1.9
		幅	/	9.9	/	-	/	/	9.5	-	-
		奥行	/	8.9	/	-	/	/	8.9	-	-
	地輪	水輪高	/	5.5	/	5.2	/	/	5.2	4.6	/
		高	/	/	/	17.8	/	/	/	12.0	17.3
幅		/	/	/	9.8	/	/	/	9.0	10.3	
奥行	/	/	/	10.0	/	/	/	7.8	8.0		
石材	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等				文禄五年 九月八日 宮月童子					天正九年 慶玉童口 十一月十日	慶長十五年 七月十七日 妙祐童女	慶長十五年 七月十七日 妙祐童女
観察備考	287と接合		291と接合	金泥、地輪台形、290と接合		金泥			刺込か	298と接合	

報告番号	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113		
寸法 (C)	総高	(18.9)	36.4	36.0 (15.6)	(20.5)	(21.2)	37.3 (18.0)	(19.5)	(18.2)	(6.8)	(23.4)	
	空輪高	5.4	4.5	4.6	/	5.3	/	5.6	5.0	/	/	
	風輪高	2.8	3.3	2.8	/	3.1	/	2.6	3.3	/	/	
	火輪	高	5.3	5.5	4.5	/	6.7	/	6.1	4.9	/	/
		軒高1	/	3.8	2.7	/	4.1	/	4.4	3.4	/	/
		軒高2	2.6	2.2	1.8	/	2.5	/	2.4	1.7	/	/
		幅	-	-	-	/	10.3	/	-	-	-	/
		奥行	-	-	-	/	9.2	/	-	-	-	/
	地輪	水輪高	5.4	7.3	3.7	/	6.1	/	5.2	5.0	/	(4.6)
		高	/	15.8	/	20.5	/	18.0	/	/	6.8	18.8
幅		/	11.0	/	8.2	/	9.7	/	10.7	11.3	/	
奥行	/	12.0	/	7.3	/	9.2	/	10.0	10.2	/		
石材	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩		
紀年銘等		天正六年 三月一日 妙福海尼		慶長三年 二月十八日 宮口童子			寛永三年 十一月十六日 妙金假女		慶長二年 八月十九日 妙祐童女	寛永十五年 十月十三日 林月慶保假女		
観察備考	297と接合	刺込	301と接合	金泥、300と接合		304と接合	303と接合	306と接合	305と接合	措置		

報告番号	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	
大輪 (口)	総高	(286)	(236)	(17.3)	(25.8)	(226)	(18.7)	(88)	(22.1)	(16.5)	(10.5)	(120)
	空輪高	/	/	5.5	/	/	/	/	60	/	7.0	/
	風輪高	/	/	2.5	/	/	/	/	3.4	/	3.5	/
	高	(6.0)	/	4.7	/	/	/	(4.7)	6.5	8.2	/	6.0
	軒高1	(3.7)	/	3.2	4.2	/	/	4.5	4.3	6.3	/	3.7
	軒高2	2.0	/	1.8	2.0	/	/	2.3	2.5	3.3	/	2.5
	幅	-	/	9.1	/	/	/	9.2	12.0	15.1	/	11.0
奥行	-	/	8.7	/	/	/	9.0	10.0	13.1	/	9.0	
水輪高	高	5.6	/	4.6	6.8	/	/	4.1	6.2	8.3	/	6.0
	高	17.0	23.6	/	19.0	22.6	18.7	/	/	/	/	/
	幅	10.5	13.6	/	13.5	12.5	11.7	/	/	/	/	/
奥行	8.5	12.1	/	10.4	10.5	9.5	/	/	/	/	/	
石材	砂岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	二月廿二日 清存童子 慶長六年	六月十一日 心光清安 慶長九年		六月十七日 花鎮通春 慶長十五年		三月朔日 智徳禪定門 元和三年	十一月十四日 寶宗徳信土 慶長七年					
	刺込	掘置		掘置			掘置					
観察備考												

報告番号	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
大輪 (口)	総高	(121)	(106)	(118)	(14.3)	51.9	(31.0)	44.8	(26.1)	41.4	(31.7)	(16.0)
	空輪高	/	5.6	6.8	/	8.4	8.4	7.0	7.4	6.8	/	/
	風輪高	/	3.0	3.6	/	3.1	4.1	3.1	3.7	3.4	/	/
	高	(6.4)	2.0	(1.4)	6.3	6.4	8.4	5.9	8.2	5.5	(6.5)	(8.0)
	軒高1	5.0	-	-	4.0	4.2	5.1	4.0	5.9	4.0	(3.9)	6.0
	軒高2	3.1	-	-	2.2	2.7	3.1	2.5	3.0	2.4	2.5	3.2
	幅	11.0	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	15.4
奥行	9.5	-	-	8.7	-	-	-	-	-	-	13.0	
水輪高	高	5.7	/	/	5.0	8.3	10.1	6.8	6.8	6.0	6.2	(8.0)
	高	/	/	/	(3.0)	25.7	/	22.0	/	19.7	19.0	/
	幅	/	/	/	/	13.6	/	12.3	/	10.9	11.0	/
奥行	/	/	/	/	13.2	/	9.9	/	9.9	10.0	/	
石材	閃緑岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等				遺修妙祐禪定尼 十月廿八日	正阿弥院傳 文祿三年		六月十一日 妙玉切女 寛永五年		修宗水輪定門 十月十五日	遺 道善禪門 正月十三日	天正十七年	
					刺込		掘置		刺込	刺込		
観察備考												

報告番号	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削		
寸法 (C)	火輪	総高	(194)	334	(297)	(323)	(127)	(209)	(277)	(259)	(195)	(198)	
		空輪高	/	45	/	/	/	/	/	60	60	51	
		風輪高	/	27	/	/	/	/	/	42	23	33	
		高	(56)	55	/	(66)	67	/	(62)	85	47	54	
		軒高1	37	42	/	(38)	42	/	(43)	(50)	32	(35)	
		軒高2	23	22	/	27	26	/	21	30	17	20	
		幅	-	-	/	-	111	/	-	-	-	95	-
		奥行	-	-	/	-	91	/	-	-	-	83	-
		地輪	水輪高	65	45	80	64	60	/	65	72	65	60
			高	73	162	217	193	/	209	(150)	/	/	/
幅	114		94	126	112	/	112	125	/	/	/		
奥行	88	64	117	100	/	93	95	/	/	/	/		
石材	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等	妙貞禪定尼 壬正月廿八日		妙教童女 壬正月十三日	梅室宗徳禪定門 十二月五日	修宗林禪定門 慶長七年	進 宗林禪定門	妙貞禪定尼 六月廿日	天正十八年 寛水					
	刺込	刺込	掘置	刺込									
観察備考					漆、335と接合	334と接合	地輪下半欠損						

報告番号	341	342	343	344	345	346	347	348	349		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削		
寸法 (C)	火輪	総高	(283)	(219)	341	(298)	(395)	(354)	(281)	(229)	
		空輪高	/	/	/	88	/	/	85	62	
		風輪高	/	(13)	/	38	(35)	/	39	38	
		高	(40)	63	56	75	75	(62)	80	60	
		軒高1	(33)	(33)	36	(62)	55	44	50	40	
		軒高2	26	24	23	30	24	24	30	23	
		幅	-	-	-	155	-	-	150	122	
		奥行	-	-	-	120	-	-	126	122	
		地輪	水輪高	68	48	67	70	65	60	77	69
			高	(175)	95	218	(27)	220	232	/	/
幅	120		97	100	-	118	123	/	/		
奥行	100	90	90	-	110	112	/	/			
石材	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等	秀正童子 七月四日		妙安禪尼 十一月廿七日	秀貞童子 九月四日	寛水三年 秀貞童子	慶長十五年 禪托禪定門 十二月十一日	元相元年 幸登妙安信女 十月十日	慶長八年 八月五日			
	刺込	刺込	刺込		刺込	刺込					
観察備考											

報告番号	350	351	352	353	354	355	356	357	358	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
火輪 (口)	総高	(25.6)	(22.3)	(21.4)	(14.0)	(25.0)	(24.0)	(24.0)	(17.5)	(18.0)
	空輪高	8.0	6.7	6.0						
	風輪高	4.1	3.6	3.4						
	高	7.5	6.4	6.6	(7.8)					
	軒高1	6.0	4.2	(4.5)	5.0					
	軒高2	3.3	2.1	2.4	2.7					
	幅	12.2	10.3	12.9	11.2					
	奥行	8.9	9.5	11.5	8.1					
	水輪高	6.0	5.6	5.4	6.2					
	地輪	高				25.0	24.0	24.0	17.5	18.0
	幅				14.1	13.6	13.4	11.4	11.3	
	奥行				13.3	13.5	11.6	10.0	10.0	
石材	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	砂岩	閃緑岩	-	-	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等					善西押定門 慶長十五年 七月十五日	妙口押定尼 妙往大姉 棟少僧都 慶長元年	修口押定尼 妙樹引女 寛永元年 七月四日	寶見善押定門 清原連口押定門 元和五年 十月十二日	妙仁重女 慶長五年 八月七日	
観察備考			摩滅著しい		剥込	掘置	掘置	剥込	剥込	

報告番号	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
火輪 (口)	総高	(20.4)	(14.0)	(20.0)	(23.0)	(35.0)	33.7	(17.4)	(27.2)	(26.0)	31.9
	空輪高					9.2	7.1	4.9	8.5		7.0
	風輪高					5.5	3.5	2.8	4.4		3.6
	高					9.3	6.2	5.7	7.4		7.2
	軒高1					7.6	4.3	3.5	4.5		4.0
	軒高2					4.3	2.7	2.0	2.5		2.3
	幅					16.7	-	8.9	13.5		-
	奥行					14.8	-	7.2	11.5		-
	水輪高					11.0	7.5	4.0	6.9		6.4
	地輪	高	20.4	(14.0)	(20.0)	(23.0)	9.4			26.0	7.7
	幅	11.2	12.5	13.2	13.5	11.3			12.3	13.1	
	奥行	8.3	10.5	10.7	12.5	10.7			10.8	12.3	
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
紀年銘等	寛文三年 十一月十日 寛文三年 十月一日	宗慶氏口 十一月十日	月卅日 押定尼 慶長口	和三年 七月廿九日 見屋善清大童	慶長十七年 七月廿九日	妙願押定尼 妙林大姉 慶長六年 五月九日			松山妙林大姉 開二月廿九日 慶長七年	修妙水押定尼 押定門 慶長十五年 八月廿七日	
観察備考	剥込	地輪下部欠損	地輪上部欠損	地輪上部下部欠損		掘置				掘置	

報告番号	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削		
方法 (C)	火輪	総高	(341)	428	454	386	611	(280)	471	(122)	150	(166)
		空輪高	/	6.5	6.0	5.8	12.7	/	7.0	6.8	/	/
		風輪高	/	4.0	3.7	3.1	5.3	/	3.1	3.5	/	/
		高	(72)	6.5	7.2	4.8	7.7	/	7.0	(1.9)	8.2	(3.6)
		軒高1	4.6	4.9	5.0	3.5	-	/	4.0	-	4.7	-
		軒高2	2.5	2.6	2.3	2.0	-	/	2.4	-	3.1	-
		幅	-	-	-	-	-	/	-	-	11.9	-
		奥行	-	-	-	-	-	/	-	-	10.1	-
		水輪高	6.5	5.8	6.3	5.5	7.5	/	7.7	-	6.8	6.0
		高	20.4	20.0	22.2	19.4	27.9	28.0	22.3	-	-	7.0
幅	12.5	12.2	11.9	10.3	15.2	15.0	13.8	-	-	11.7		
奥行	11.0	11.0	10.8	8.5	14.5	12.2	12.8	-	-	10.5		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩		
紀年銘等	元和四年 七月五日 月保妙正禪定尼	慶長九年 八月十二日 妙正禪定尼	元和七年 五月十八日 道雲母高門聖位	万女	天正十七年 十月朔日 文禄五年 九月廿一日 妙正禪定尼	元和元年 十月十四日 妙通信女	修驗堂開土 元和元年 九月廿一日	文禄五年 九月廿一日 長山浄法禪定門	-	-	天正十八年 三月三日 妙淨月活西禪定門	
観察備考	掘置	刺込	朱入り	刺込		刺込	掘置			掘置		

報告番号	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389		
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削		
方法 (C)	火輪	総高	(223)	(220)	(229)	(16.8)	(21.0)	(14.8)	(13.6)	(11.2)	(11.4)	(9.4)	(15.7)
		空輪高	/	/	/	/	/	/	/	/	7.8	6.4	/
		風輪高	/	/	/	/	/	/	/	/	(3.6)	3.0	/
		高	/	/	/	/	/	/	(6.2)	(5.4)	/	/	(8.0)
		軒高1	/	/	/	/	/	/	4.3	(4.3)	/	/	5.8
		軒高2	/	/	/	/	/	/	2.6	2.3	/	/	3.0
		幅	/	/	/	/	/	/	11.0	(10.9)	/	/	13.5
		奥行	/	/	/	/	/	/	9.8	(9.0)	/	/	11.8
		水輪高	/	/	/	/	/	5.8	(7.4)	(5.8)	/	/	7.7
		高	22.3	22.0	22.9	16.8	(21.0)	(9.0)	/	/	/	/	/
幅	13.0	13.2	11.9	10.3	12.7	(9.1)	/	/	/	/	/		
奥行	12.0	11.4	9.5	9.5	11.0	(11.0)	/	/	/	/	/		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	-	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩		
紀年銘等	慶長十七年 七月四日 道春禪定門	慶長六年 八月廿日 月心道性禪定門	修驗堂奉信女 三月十四日 花巻榮春信女	明暦二年 九月一日 道雲母高門聖位	文禄五年 九月廿一日 法理定尼	西禪定門 四月廿三日 法理定尼	寛永四年 西禪定門	-	-	-	-		
観察備考	刺込	掘置	掘置	刺込	刺込	地輪上半穴損							

報告番号	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
寸法 (m)	総高	(90)	(125)	(60)	360	(130)	(85)	(132)	(13.8)	(6.2)	33.1	(16.5)	(14.4)	(11.3)
	空輪高				4.5	8.5			9.5		5.2	5.5	7.7	7.3
	風輪高				2.5	(4.5)			4.3		2.2	3.6	4.2	(4.0)
	高		7.5	(6.0)	6.5		(8.5)			(6.2)	4.9	6.0	(2.5)	
	軒高1		4.9	4.0	3.5		5.5			(4.2)	4.4	3.5	-	
	軒高2		2.0	2.2	2.5		3.5			2.7	2.2	2.9		
	幅		-	11.0	-		13.0			8.8	-	10.3		
	奥行		-	10.0	-		12.0			-	-	10.2		
	水輪高		5.0		6.0						4.8	(1.4)		
	地輪		高 190 幅 120 奥行 10.5		16.5		11.0		132 9.5 7.7		16.0 9.2 8.4			
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩石	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等				掘置			砂 壺 重 女 用 日	七 月			貞 雲 重 女 西 七 月 一 日	寛 永 十 一 年		
観察備考							刺込				金泥			

北地区ほか出土一石五輪

報告番号	403	404	405	406	407	408	
トレンチ	6	6	6	3トレンチ東側	3トレンチ東側	3トレンチ東側	
出土地点	SK 10	SK 10	SK 10	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
寸法 (m)	総高	(180)	(25.5)	(30.4)	(290)	(260)	(140)
	空輪高		8.2	8.3		6.5	7.0
	風輪高		4.3	4.6		4.0	4.0
	高		6.0	9.0		6.5	(30)
	軒高1		3.9	5.4		4.0	
	軒高2		2.4	3.3		3.0	
	幅		11.0	14.4		-	(10.0)
	奥行		10.4	12.3		-	-
	水輪高		7.0	8.5		9.0	
	地輪		高 180 幅 110 奥行 11.0		290 170 160		
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	-	-	-	
紀年銘等		天正十一年 寛永御仙尊定記 壬五月十日		慶安五年 光輝權大僧都法印大和尚 五月二十八日			
観察備考		刺込					

南地区出土石碑

報告番号	碑1	碑2	碑3	碑4	碑5	碑6	碑7
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群1 a S T 97	墓群2 b S K 66	墓群3 a S K 78	墓群3 a S T 193	墓群3 b S T 42	墓群3 b S T 42	重複掘削
形式	板碑	舟形	舟形	鐫形	板碑	鐫形	鐫形
顔型式							
状態	完存	破片	上半分	完存	完存	下半分	上半分
高	(46.5)	(160)	(235)	60.5	36.8	107.0 (46.5)	(60.5)
幅	25.0	(24.9)	25.0	24.5	18.0	36.3	36.0
奥行	12.4	(9.1)	(11.0)	14.5	8.7	22.0	18.5
石材	四緑岩	花崗岩	-	花崗岩	-	花崗岩	花崗岩
	六観音塚等 追廻碑定門 八月廿七日 歳長三年		道輝定 十一月 元 砂教碑定 二月	慶長 道輝定 十一月 元 砂教碑定 二月	光豊 西心信女 四月廿九日 寛永十一年	明豐 御年 三月二日 一人淨遊信士 万治元戌年 五月廿八日	
縦割	二条線	-	-	-	底部に凸	-	-
備考						碑7と接合	碑6と接合

報告番号	碑8	碑9	碑10	碑11	碑12	碑13	碑14
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群3 b S T 42	墓群3 b S T 104	墓群3 b S T 190	墓群4 S T 24	墓群5 a S K 30	墓群5 a S K 30	墓群5 a S K 30
形式	鐫形	板碑	舟形	舟形	板碑	舟形	舟形
顔型式							
状態	完存	上半分	上端のみ	破片	上端・下部欠	左上端欠	完存
高	45.1	63.0	(15.2)	(6.0)	(20.5)	(58.5)	64.2
幅	20.5	41.0	(23.0)	(9.5)	14.6	26.0 (22.0)	30.5
奥行	11.0	17.0	(7.9)	(9.0)	8.5	19.0	13.0
石材	四緑岩	花崗岩	四緑岩	四緑岩	四緑岩	花崗岩	花崗岩
	砂安信女 浄真信女 春清信女 善正信女 砂春信女	六観音塚 四月十七日 元和九年 元和九年 十一月三日			天正 砂春信女 七月十日	秋國信士 豊貞本信女 三年五月八日 正保三年九月十一日	明豐四戌年五月廿二日 崇寧止春信士 明豐六〇年五月廿二日
縦割	-	なし	-	-	-	底部に凸	底部に凸
備考							

報告番号	碑15	碑16	碑17	碑18	碑19	碑20	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群5 a S K 30	墓群5 a S K 30	墓群5 a S T 58	墓群5 a S T 58	墓群5 a S T 58	墓群7 b S T 49	
形式	佛形	笠塔婆	舟形	舟形	板碑	舟形	
顔型式	┌───┐						
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存	
高	56.8	34.3	58.4	54.2	35.6	39.0	
幅	24.0	33.4	25.0 [19.1]	26.4 [20.1]	17.0	21.8 [15.5]	
奥行	17.7	15.5	10.2	12.0	6.5	11.0	
石材	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	
縦刻	-	南無阿弥陀佛 法堂宗介領士 拾月二日 慶安四年 南無阿弥陀佛 松岳善信女 十一月廿八日 妙徳 元和元年	心覚妙善信女 六月廿二日 寛永十年戊七月十五日	寛永十六年卯九月晦日 認養行高僧士 賀満重子 承應二年	性善宗法領女 十二月廿三日 万治元年	道春神定門 元和二年 八月廿六日 元和二年 妙春神定尼 七月十五日	寛文十二年壬子夫 川業神轉領女 七月廿九日
備考	-	頭頂・底部に凸	底部に凸	底部に凸	一条線	底部に凸	

報告番号	碑21	碑22	碑23	碑24	碑25	碑26	碑27
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40
形式	笠塔婆	舟形	笠塔婆	板碑	舟形	笠塔婆	笠塔婆
顔型式	┌───┐						
状態	完存	完存	上縁のみ	完存	完存	完存	完存
高	44.2	40.2	8.7	40.5	45.4	36.6	26.0
幅	23.2	21.5	6.2	18.1	23.0 [15.2]	20.0	12.3
奥行	13.2	10.2	8.5	8.7	9.4	9.0	10.1
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩
縦刻	正徳 宗理神定門 寛文五年己巳年二月二日 元和元年 智光妙善信女	宗理神定門 六月九日 元和二年 妙理神定尼 九月廿日		寛永十三年 妙善神定尼 十月六日	元和七年 清善神定門 九月四日 □廣妙圓神定尼	明暦四年 廣見石庵領 淨地幻清妻女 四月廿七日 おかめ三さい	元禄五年申 春部宗延領士 三月十一日
備考	-	-	頭頂部に凸	なし	-	頭頂・底部に凸	-

報告番号	碑 28	碑 29	碑 30	碑 31	碑 32	碑 33
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群 8 S K 40	墓群 8 S K 40	墓群 8 S T 324 上面	墓群 9 b S K 38	墓群 10 b S K 50	墓群 10 b S K 50
形式	笠塔婆	笠塔婆	板碑	舟形	舟形	舟形
顔型式	┌───┐	┌───┐				
状態	完存	完存	完存	完存	右半分	左半分
高	60	51.6	46.0	40.5	(44.0)	62.9
幅	33.5	59.2	22.4	20.8	(11.8)	(12.8)
奥行	16.6	21.2	7.5	8.3	(10.5)	(8.6)
石材	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
	<p>療 疾</p> <p>方善寺西信士 惠正浄照信士 栗家周佛 浄譽秋夏信女 西日妙法信女</p> <p>六月六日</p>	<p>惠永十七年三月六日 慶安二年七月十六日 春花童子 曹巖妙壽信女 惠永元年二月六日 心徹妙善信女 陽月春清信士 ○慶安元年 ○安道庵信女 三月四日 四月四日 ○安道庵信士 正月七日 三界万六觀尊眞 池修 願譽妙慶信女 池修 安宗宗壽信女 正保三年 智清東女 六月六日</p> <p>昌安浄照信士 六月十九日 心懸妙意信女 十月八日</p>	<p>療 疾</p> <p>道忠 十二月廿一日 天正十五年 妙性 七月廿八日</p>	<p>天正八年 十二月十二日</p> <p>惠文六年 為六観尊眞等法旨道業位</p>	<p>惠文七年 ○妙智信女</p>	<p>療 疾</p> <p>未七月八日</p>
縦割	頭頂・底部に凸	頭頂・底部に凸	一条線	底部に凸	底部に凸	-
備考	-	台 14・笠 4 とセット	-	-	碑 33 と同一か	碑 32 と同一か

報告番号	碑 34	碑 35	碑 36	碑 37	碑 38	碑 39	碑 40
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群 10 b S K 50	墓群 10 b S K 50	墓群 13 b S T 127	墓群 13 b S T 144	墓群 13 b S T 144	墓群 13 b S T 144	墓群 13 b S T 144
形式	舟形	舟形	板碑	舟形	舟形	舟形	笠塔婆
顔型式		┌───┐					┌───┐
状態	完存	完存	完存	完存	完存	上部のみ	完存
高	36.3	50.0	47.8	39.9	32.6	(20.2)	34.5
幅	22.0 [13.4]	22.0	22.0	24.7 [18.0]	16.0 [13.1]	(17.4)	17.7
奥行	12.7	11.0	7.0	12.4	8.0	(4.4)	11.7
石材	花崗岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
	<p>療 疾</p> <p>延宝三年即一月十四日 春季東子</p>	<p>石鏡面 延宝□巳年 十月十四日 正面 療 疾 西根宗貞信士 松原貞壽信女 惠正東女</p>	<p>療 疾</p> <p>惠宗貞神定門 妙善神守尼 文徳二年 十月十七日</p>	<p>療 疾</p> <p>○宗信信士 ○宗信信士 ○宗信信士</p>	<p>療 疾</p> <p>惠文十年 還雪東女 戌十一月廿九日</p>	<p>妙法</p>	<p>療 疾</p> <p>惠文十二年 露幻東女 子六月廿七日</p>
縦割	-	-	一条線	-	底部に凸	-	-
備考	-	-	-	-	-	-	-

報告番号	碑41	碑42	碑43	碑44	碑45	碑46	碑47
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群14b S K 61	墓群14b S K 61	墓群14b S K 61	墓群14b S T 138	墓群15b S T 231	墓群16b S K 157	墓群16b S K 157
形式	圓形	舟形	舟形		板碑	舟形	舟形
顔形式	┌───┐						
状態	完存	完存	ほぼ完存	破片	完存	完存	完存
高	290	435	(425)	(124)	484	421	719
幅	335	195 [160]	238 [171]	(230)	234	249 [212]	382
奥行	185	125	111	(83)	142	130	164
石材	花崗岩	砂岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等	<p>左(額内)</p> <p>正(面) 癸 三界万葉我心豊満比呂尼 淨清信士 高受信女 元禄三年庚子八月十九日</p>	<p>右(額内)</p> <p>癸 寛永十三年 緑月癸三拜定門 二月十五日</p> <p>妻字寶樹 謹 修</p>	<p>癸</p> <p>晴 寛文元年 □ 尾 信士 正月十八日 寛文元年 □ 基 妙忠信女 六月廿三日</p> <p>底部に凸</p>		<p>癸</p> <p>文禄三年 □ 徳宗水梅定門 九月二日</p> <p>□ 豊妙清蓮修</p> <p>二条線</p>	<p>癸</p> <p>寛文元年 光緒 快貞妻女 八月十日</p>	<p>癸</p> <p>寛永七年 一 豊道清信士 □ 妙安信女</p> <p>底部に凸</p>
線刻	-	-	-	-	-	-	-
備考							

報告番号	碑48	碑49	碑50	碑51	碑52	碑53
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群17 S T 122	墓群17 S T 122	墓群17 S T 122	墓群17 S T 122	墓群17 S T 188	墓群17b S T 200
形式	舟形	板碑	笠塔婆	笠塔婆	笠塔婆	板碑
顔形式			┌───┐		┌───┐	
状態	下半分 (170)	完存	完存	完存	完存	上半分
高		459	255	343	441	(212)
幅	231	214	140	135	279	196
奥行	117	105	92	85	131	72
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	-
紀年銘等	<p>┌───┐ ├───┤ └───┘ 三 日</p> <p>┌───┐ ├───┤ └───┘ 八 日</p> <p>┌───┐ ├───┤ └───┘ 三 年</p> <p>底部に凸</p>	<p>癸</p> <p>宗林梅門 正月九日</p> <p>妙善蓮修</p> <p>一条線</p>	<p>左(額内) 延宝三年 即四月七日</p> <p>正(面) 圓室道和信士 瑞雲夢の京女</p> <p>右(額内) 延宝元年 五月廿九日</p>	<p>万治二年 子十二月十二日</p> <p>淨定周清信女</p> <p>笠 巾 195cm 笠 奥行 112cm</p> <p>底部に凸</p>	<p>南無妙法蓮華經 文明 六月六日 妙 位 修蓮</p> <p>南無妙法蓮華經 □ 故法羅覺位</p> <p>南無妙法蓮華經</p> <p>頭頂・底部に凸</p>	<p>癸</p> <p>妙</p> <p>一条線</p>
線刻	-	-	-	-	-	-
備考						

報告番号	碑54	碑55	碑56	碑57	碑58	碑59	碑60
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	S K 99	S K 99	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層
形式	板碑	舟形	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑
顔型式							
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	46.5	45.2	42.5	47.1	43.0	38.9	43.0
幅	21.1	24.3 [20.0]	20.0	22.6	19.8	18.0	21.0
奥行	9.5	11.6	10.0	10.0	13.8	7.8	10.0
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	南無阿弥陀仏 永保九年 妙念庵尼 五月七日	南無阿弥陀仏 文禄四年 四月十一日 道泉進修	宗室+神定門 二月七日 妙春庵定尼 天正五年 五月廿三日	宗祐庵定門 六月廿日 進修妙念信女	慶長十六年 道西庵門 文禄二年 二月廿日 慶長十一年 妙庵庵尼 十月八日	水教童子 文禄四年 九月廿九日	元亀元年 道西庵定門 九月廿日 妙祐庵定尼
線刻	一条線	-	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線
備考							

報告番号	碑61	碑62	碑63	碑64	碑65	碑66	碑67
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層
形式	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑
顔型式							
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	47.0	44.8	53.0	42.8	34.5	41.0	49.5
幅	20.8	21.0	23.0	17.1	18.0	20.5	21.5
奥行	10.5	10.7	15.5	10.2	8.0	11.0	8.5
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	道西庵定門 四月十八日 妙口庵定尼	清雲寺高庵定門 四月九日 清月妙高庵定尼	西西庵定門 十二月廿八日 妙入庵定尼 天正四丙子十二月四日	天正七巳卯六月廿九日 宗水庵定門 □月十八日	文禄五年 妙祐庵定尼 六月五日	道西庵定門 天正十六年 妙庵庵定尼 卯月廿日	文禄四年 四月廿五日 文禄四年 妙祐庵定尼 七月十八日
線刻	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線
備考		朱入り					

報告番号	碑68	碑69	碑70	碑71	碑72	碑73	碑74
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層	S K 99 中層2	S K 99 中層2
形式	板碑		板碑	板碑	板碑	舟形	板碑
顔型式							
状態	完存	顔のみ	完存	完存	完存	完存	完存
高	51.6	(9.0)	41.5	45.2	50.3	43.6	41.5
幅	22.8	(3.0)	16.2	20.1 [18.5]	23.0	20.8 [16.2]	16.8
奥行	10.4	(6.0)	9.6	9.7	12.7	11.0	10.3
石材	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
線刻	一条線	-	一条線	一条線	一条線	-	一条線
備考	紀年銘等 宗祐禪定門 遺 文徳四年 修 妙薬禪定尼 二月四日		文徳二年 宗水童子 七月十八日	道普禪門 永禄十一年 五月〇五日 元龜三年 妙正禪尼 八月六日	六観尊属等進入禪定門 慶長二年 修 遺見禪定門 修 遺 妙口禪定尼 五月廿一日	重水五年 妙薫信女 五月十五日	道心禪定門 文徳五年 十月廿日 妙蓮禪定尼

報告番号	碑75	碑76	碑77	碑78	碑79	碑80
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	S K 99 中層2	S K 99 中層2	S K 99 中層2	S K 99 中層2	S K 99 最下層	S K 99 最下層
形式	舟形	板碑	板碑	板碑	舟形	板碑
顔型式						
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	41.3	46.0	39.3	42.9	48.6	50.1
幅	24.1 [15.6]	20.3	19.8	19.6	24.2 [15.6]	21.7
奥行	11.6	12.6	12.6	10.6	11.3	12.4
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
線刻	一条線	-	一条線	一条線	-	一条線
備考	紀年銘等 妙薫信女 十月十九日 慶長十六年 妙薫信女 十月十九日 底部に凸	妙薬禪尼 八月 遺修 廿七日	道海禪定門 九月廿日 慶長七年 妙加禪定尼 即月廿三日	天正廿年 妙心童女 六月十九日	慶長十六年 長光 〇月〇日 宗心 春花	西月追水信士 慶長八年 十二月廿三日 妙祐遺修

報告番号	碑 81	碑 82	碑 83	碑 84	碑 85	碑 86	碑 87
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	S K 99 最下層	S K 99 最下層	S K 99 最下層	S K 99 最下層	S K 99 最下層	S K 99 最下層	S K 99 最下層
形式	板碑	舟形	舟形	板碑	板碑	板碑	舟形五輪塔
顔型式							
状態	完存	上端欠損 (41.4)	完存	ほぼ完存	完存	完存	完存
高	41.7		42.1	40.4	52.4	49.9	52.6
幅	16.4	22.4	22.5	20.3	24.4	22.1	23.9
奥行	12.8	10.1	11.4	12.3	15.8	15.3	15.7
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	-	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	<p>宗祐童子 八月廿日 天正十八年</p> <p>徳善童子 文禄四年 三月廿四日</p>	<p>道心押定門 慶長八年 十月十一日</p> <p>妙長押定門 慶長二年 三月十三日</p>	<p>道西押門 天正十八年 七月十四日</p> <p>妙善母尼 天正十九年 正月十六日</p>	<p>〇年 〇子 三月六日</p>	<p>道西押門 天正十四年 二月十二日</p> <p>妙福 修進 六月廿日</p>	<p>善智押定門修進 天正九年 天正十九年</p> <p>妙善押定門 六月廿日</p>	<p>文禄二年 二月二十五日</p> <p>妙正母尼 修進</p> <p>宗善大徳 修進</p> <p>高さ(cm) 空輪 4.0 風輪 2.4 火輪 4.7 水輪 4.0 地輪 1.39</p>
線別	一条線	-	-	一条線	二条線	二条線	二条線
備考							五輪塔2体、金泥か






報告番号	碑 88	碑 89	碑 90	碑 91	碑 92	碑 93	碑 94	碑 95	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	S E 100 下層	S E 100 下層	S E 113 上層	S E 113 最下層	S E 113 上層	S E 113 上層	S E 113 上層	S E 113 上層	
形式	板碑	板碑小	舟形	舟形	笠塔婆	笠塔婆	板碑	舟形	
顔型式									
状態	完存	下半分	下半分	上半分	上半分	下半分	上半分	上半分	
高	43.5	(21.0)	46.1 (23.6)	(22.5)	37.5	-	(19.0)	(30.5)	
幅	23.0	22.0	22.5 (-)	24.2	23.0	-	23.0	23.8	
奥行	6.6	8.5	11.6	11.6	11.5	-	10.0	11.5	
石材	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	
紀年銘等	<p>清國押定門 四月廿四日 文禄三年</p> <p>宗善押定門 四月廿四日 文禄三年</p>	<p>押門 天正十七年 八月廿六日</p>	<p>月光部押定門 七月先六日</p> <p>寛永五年</p>		<p>心月妙智信女 六月廿八日</p> <p>寛永九年</p> <p>月休了無信士</p>				<p>元 〇</p> <p>光善如善信女 〇</p> <p>〇押定門 〇</p> <p>〇</p> <p>五月〇</p>
線別	一条線	-	-	-	頭頂に凸	底部に凸	-	-	
備考		金泥	碑 91 と接合	碑 90 と接合	碑 93 と接合	碑 92 と接合	なし	金泥、概取 3 小所	





報告番号	碑111	碑112	碑113	碑114	碑115	碑116	碑117
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SE 113 中層	SE 113 中層2	SE 113 中層	SE 113 中層2	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層2
形式	舟形	舟形	板碑	板碑	不明	舟形	舟形
顔形式							
状態	下半分	上半分	上半分	下半分	下半分	下半分	上半分
高	45.4 (22.4)	(23.0)	49.1 (29.3)	(31.1)	31.9	44.5 (24.5)	(21.1)
幅	21.3 [17.9]	23.6	20.6	20.6	20.7	19.1 [17.9]	20.3
奥行	8.8	8.8	6.0	7.4	11.7	7.0	6.5
石材	四緑岩	四緑岩	砂岩	砂岩	四緑岩	砂岩	砂岩
備考	<p>修 葺 済</p> <p>浄浄水碑定門 八月十五日 慶長九年</p> <p>修 葺 済</p> <p>妙福輝定尼 □月廿九日</p> <p>紀年銘等</p>		<p>修 葺 済</p> <p>天正元年 六月一日 文禄二年 □月廿九日</p>		<p>修 葺 済</p> <p>天正十四年 卯月廿七日 修 葺 済</p> <p>追廻輝定門</p>	<p>修 葺 済</p> <p>花林宗水碑定門 慶長十一年七月十九日 慶長十二年□月十九日</p>	
縦割	-	-	一条縦	-	-	-	-
備考	碑112と接合	碑111と接合	碑114と接合	碑113と接合	横痕1か所	碑117と接合	碑116と接合

報告番号	碑118	碑119	碑120	碑121	碑122	碑123	碑124
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	重機掘削	SE 113 中層	SE 113 中層2
形式	舟形	舟形	舟形	板碑	板碑	舟形	舟形
顔形式							
状態	上半分	下半分	上端欠損	下半分	上半分	下半分	上半分
高	53.2 (28.0)	(27.8)	(34.0)	(23.5)	54.5(31.0)	47.8 (20.0)	(27.8)
幅	22.5 [14.5]	19.0 [14.5]	20.5 [13.5]	25.5	25.8	[20.0]	24.8
奥行	11.5	10.5	8.0	9.0	8.6	13.0	13.0
石材	四緑岩	四緑岩	四緑岩	四緑岩	砂岩	四緑岩	四緑岩
備考	<p>修 葺 済</p> <p>浄浄水碑定門 六月廿八日 慶長十一年</p> <p>修 葺 済</p> <p>妙水碑定尼</p> <p>紀年銘等</p>		<p>修 葺 済</p> <p>清輝妙水碑定尼 三月十日 慶長三年</p> <p>底面に凸</p>	<p>修 葺 済</p> <p>宗清輝定 正元□</p>		<p>修 葺 済</p> <p>真斗信士 天正十七年 妙正輝定尼 八月八日</p>	
縦割	-	-	-	-	なし	-	-
備考	碑119と接合	碑118と接合	横痕2か所	碑122と接合、朱入り、横痕3か所	碑121と接合、朱入り	碑124と接合、横痕2か所	碑123と接合

報告番号	碑125	碑126	碑127	碑128	碑129	碑130	碑131
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 最下層	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2
形式	角形	不明	板碑	板碑	不明	不明	角形
前形式							
状態	上半部	破片	上半分	下半分	下半分	中央右半分	下半分
高	29	(15.0)	426 (30.0)	(22.6)	(41.3)	(26.8)	427 (20.0)
幅	30.4	(13.5)	124	21.6	32.9	(25.5)	7.3
奥行	12.2	(7.0)	8.8	14.8	15.5	(11.6)	9.3
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	南無阿弥陀仏 修造妙道 釋尊正 寛 宗源母定門 天正十九 八月十二日 浄春母定門 七月朔日 天正十八 林孝重女 重女 重女 松比呂尼 常胤法師 重女 重女 重女 浄圓母定門 要納母定門 寛永二年 妙蓮母定門 六月十日 六月十八						
線刻	-	-	一条線	-	-	摩滅著しい	底部に凸
備考	横痕4か所		碑128と接合	碑127と接合			碑132と接合、金泥

報告番号	碑132	碑133	碑134	碑135	碑136	碑137	碑138	碑139
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113
形式	角形	不明	不明	不明	不明	佛形	不明	不明
前形式								
状態	上半分	左下半分	破片	破片	上端左半分	上半分	上部右半分	下半分
高	(22.7)	(16.8)	(16.9)	(27.8)	(11.8)	(18.8)	(10.6)	(17.3)
幅	9.3	(17.4)	(22.0)	(15.6)	(11.4)	(28.0)	(11.5)	18.0 [13.5]
奥行	9.3	12.4	-	(8.5)	(9.6)	12.5	8.7	7.3
石材	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	砂岩	花崗岩	閃緑岩
紀年銘等			安+			元和+		
線刻								
備考	碑131と接合、金泥							

報告番号	碑140	碑141	碑142	碑143	碑144	碑145
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	S E 113	S E 113 最下層	S E 113	S E 113 最下層	S E 113	S E 113
形式	板碑	板碑	舟形	舟形	舟形五輪塔	不明
顔形式						
状態	上半分	下半分	下半分	上半分	下半分	下半分
高	51.4 (26.4)	(26.8)	48.4 (26.0)	(24.8)	(28.4)	(33.9)
幅	23.5	23.4	[21.3]	29.9	15.9 [14.4]	23.5
奥行	13.9	13.9	11.1	10.4	8.9	12.2
石材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
	<p>紀年銘等</p> <p>  道□神室門  慶長二年 二月六日 慶長八年 八月廿七日 </p>		<p>  照月妙慶信女 八月朔日 寛永十六年 除屋近願信士 十二月十七日 </p>		<p>  元和三年 春貞童子 十二月五日 </p>	<p>  寛永十三年 澄雲淨西神室門 □月七日 慶安四年 春貞信女靈位 正月廿七日 </p>
縦刻	一条線	-	-	-	-	-
備考	碑141と接合	碑140と接合	碑143と接合、横根 2か所	碑142と接合、 金泥		

報告番号	碑146	碑147	碑148	碑149	碑150	碑151
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	S E 113 最下層	S E 113	S E 113 最下層	S E 113	S E 113 最下層	S E 113 井戸堀形内
形式	板碑	板碑	板碑	板碑	不明	舟形五輪塔
顔形式						
状態	上半分	下半分	下半分	上半分	下半分	頂部のみ
高	32.4 (16.1)	(20.8)	47.0 (22.3)	(24.5)	(29.0)	(6.8)
幅	18.9	18.9	20.8	20.4	19.5	14.0
奥行	10.4	10.4	13.7	14.2	11.7	6.5
石材	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
	<p>紀年銘等</p> <p>  道祐神門 天正七年 十月廿八日 妙雲神尼 天正十年 二月十二日 </p>		<p>  淨本神室門 天正十年 十月廿日 天正十一年 七月四日 </p>		<p>  善故童子 文禄五年 九月十九日 天正十八年 幻光童女 八月九日 </p>	<p>  (H) </p>
縦刻	-	-	-	一条線	-	-
備考	碑147と接合、横 根3か所	碑146と接合	碑149と接合	碑148と接合		高さ (cm) 空輪 (3.7)

北地区ほか出土石碑

報告番号	碑 215	碑 216	碑 217	碑 218	碑 219	碑 220	碑 221
トレンチ	3トレンチ東側	3トレンチ東側	3トレンチ東側	3トレンチ東側	6	不明	不明
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	S K 10	不明	不明
形式	舟形	笠塔婆	舟形	舟形	灯籠か	板碑	板碑
彫形式							
状態	完存	完存	上端欠損	完存		完存	完存
高	45.0	1000	48.0	45.0		54.0	54.0
幅	(17.5)	53.0	25.0 [21.0]	20.0		24.3	24.7
奥行	11.9	25.0	9.5	13.0		12.0	13.0
石材	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	-	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
	<p>紀年銘等</p> <p>嘉永元年 六月二日</p> <p>文種三年 二月廿一日</p> <p>天正十二年 二月廿一日</p> <p>法成寺 建立宗月梅定門</p> <p>峯庵廣秀梅定尼</p>	<p>寛永廿一年甲午 九月廿一日</p> <p>取[院]法</p> <p>高徳院殿前影[石]善源了居士</p>	<p>源修</p> <p>妙願梅定尼</p> <p>周西家女</p> <p>底部に凸</p>	<p>(左側面) 天和二戊七年十八日</p> <p>(正面) 開聖冷室墓</p> <p>(右側面) 俗名 中村氏三良兵衛</p>	<p>元和七年 三月七日</p> <p>逆修妙教信女</p> <p>寶豐[石]安信士</p>	<p>寛永四年 正月六日</p> <p>春忍淨拓信士</p> <p>源在屋定春信士</p>	
縦割	-	-	-	-	-	なし	-
備考				成形なし	火袋か		

南地区出土組合式五輪塔

報告番号	組1	組2	組3	組4	組5	組6	組7	組8	組9
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群2 a S K 14	墓群2 a S K 14	墓群2 a S K 14	墓群2 b S K 66	墓群2 b S K 66	墓群2 b S K 66	墓群2 b S K 66	墓群5 a S K 30	墓群8 S K 40
総高	(248)	195	249	(328)	361	278	205	269	(252)
空輪	高	(158)		226	242				(130)
	先端高	(40)		180	95				(05)
風輪	幅	165		215	201				165
	高	9.0		(10.2)	11.9				12.2
火輪	高	0.8		(1.0)	(1.8)				1.0
	幅	16.0		19.8	21.4				19.4
火輪	高		195				205		
	軒高1		(104)				125		
火輪	軒高2		6.4				6.4		
	幅		130				150		
火輪	奥行		128				14.6		
	幅		31.9				36.6		
火輪	奥行		32.0				36.5		
	高			249			278		
火輪	幅			30.2			36.7		
	接地幅			155			170		
地輪	接地幅			150			16.7		
	高							269	
地輪	幅							332	
	奥行							341	
梵字(面)	1	1		1	4	1	1	1	1
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等								大きく於うい 慶長十九年 寒秀院休運遷葬居士 七月十三日	
観察備考								上面わずかに影らむ	

報告番号	組 10	組 11	組 12	組 13	組 14	組 15	組 16	組 17	組 18	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群 10 b S K 50	墓群 16 S K 157	墓群 17 S T 122	S K 12	S E 100 中層	S E 100 中層	S E 113 中層	S E 113 中層 2	重機掘削	
総高	(193)	127	(237)	(273)	(166)	(148)	122	(192)	(278)	
(B) 階→	空輪	高	(110)	(150)	(135)	(90)			(192)	
		先端高	(21)	(55)	(63)	-			(68)	
		幅	125	172	145	(120)			182	
	風輪	高	83	87	138	7.6			(86)	
		ホソ高	15	(04)	14	0.2			(09)	
		幅	121	(160)	183	127			188	
	火輪	高		127				122		
		軒高 1		70				65		
		軒高 2		43				40		
		上面	幅		112				83	
			奥行		113				90	
		下面	幅		226				163	
	奥行			226				168		
	水輪	高					(148)		(192)	
		幅					(230)		245	
		接地幅					-		(176)	
		接地幅					-		130	
	地輪	高								
幅										
奥行										
梵字 (面)	1	なし	不明瞭	1	1	なし	不明瞭	なし	不明瞭	
石材	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	
記念銘等										
		下面凸	上面凹	下面凸	下面凸	下面凸		上・下面凸		
観察備考			下面やや影らむ	摩滅著しく梵字不明瞭						

報告番号	組 19	組 20	組 21	
トレンチ	4	4	4	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
総高	308	325	247	
(B) 寸法	空輪	高		
		先端高		
		幅		
	風輪	高		
		ホノ高		
		幅		
	火輪	高		
		軒高1		
		軒高2		
		上面	幅	
		奥行		
		下面	幅	
	水輪	高		
		幅		
		次	接地幅	
		地	接地幅	
地輪	高	308	325	
	幅	360	395	
	奥行	360	395	
梵字(面)	1	1	1	
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	
紀年跡等	<p>元和三年 正保三年 久貞信士 生屋櫻枝信女 七月二日 正月九日 三聖万葉六親眷属等 正保二年 妙貞信女 栗屋砂間信女 十一月廿七日 道春信士</p>	<p>寛永十三年 宗祐信士 妙慶信□ 逆 生譽宗得信士 休意信□ 三聖萬葉六親眷属 寛永十九年 得勢妙福信女 心覚妙□信□ 淨安信士 妙支信女 三月六日 五月六日</p>	<p>長十二年 春□信士 二月六日 親眷属等 妙栄信尼</p>	
観察備考			上面わずかに影らむ、 前面上半割断	

報告番号	組 22	組 23	組 24	組 25	組 26	組 27	組 28	組 29	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
総高	23.1	26.2	26.0	17.8	18.5	34.2	19.0	27.0	
寸法 (cm)	空輪	高							
		先端高							
		幅							
	風輪	高							
		ホゾ高							
		幅							
	火輪	高	23.1		17.8	18.5		19.0	
		軒高1	(10.9)		7.6	11.5		12.5	
		軒高2	7.8		4.6	5.8		7.3	
		幅	16.2		16.1	14.3		15.0	
		上面	奥行	16.1		16.2	14.2		15.2
		幅	39.2		43.4	32.0		34.5	
		下面	奥行	39.4		43.4	31.0		34.5
		高						34.2	27.0
		幅						38.1	35.0
		火	接地幅					19.5	16.0
	地	接地幅					19.3	15.5	
	地輪	高		26.2	26.0				
		幅		31.4	33.9				
		奥行		30.4	32.4				
梵字 (面)	4	1	1	なし	1	4	1	なし	
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	
紀年銘等		月 山 英 信 女	元和六年 月 七 日	寛永十三年 二月十九日					
					上面凹	上面凹		上面凹	
観察備考		上面わずかに 影らむ	上面わずかに 影らむ		下面やや影ら む		下面中央わ ずかに影ら み、ホゾ状 になる		

北地区ほか出土組合式五輪塔

報告番号	組30	組31	組32	組33	組34	組35	組36	組37
トレンチ	4	2	6	6	6	8	不明	不明
出土地点	重機掘削	重機掘削	S K 10	S K 10	重機掘削	河川堆積	不明	不明
総高	235	133	(201)	(267)	143	240	(369)	(396)
空輪	高		(106)	(149)		150	245	(253)
	先端高		(20)	(19)		-	99	(49)
風輪	高		9.5	(11.8)		90	(124)	(143)
	ホゾ高		1.4	(1.9)		1.0	(1.5)	(0.9)
火輪 (口) 法字	高		133		143			
	軒高1		80		55			
	軒高2		50		35			
	幅		240		90			
	奥行		228		94			
	幅		-		21.0			
	奥行		-		21.6			
	高							
	幅							
	接地面積							
水輪	高							
	幅							
地輪	高	235						
	幅	289						
梵字(面)	1	1	なし	4	不明	不明	1	4
石材	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年跡等	釋 念 妙 字 信 女	一 法 清 正 信 土 長 山 清 休 信 土 正 尊 道 本 信 土 西 摩 方 堂 信 土 花 林 妙 春 信 女 念 芽 淨 信 土						
観察備考		上面凹	下面凸	下面凸	上面凹	下面凸	下面凸	下面凸
					下面わずかに影らむ			梵字四面全てに漆残る

南地区出土台座

報告番号	台1	台2	台3	台4	台5	台6	台7	台8	台9	台10	台11	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群3 a S K 78	墓群3 a S K 78	墓群3 b S T 55	墓群3 b S T 55	墓群3 b S T 190	墓群3 b S T 190	墓群3 b S X 363	墓群4 S T 24	墓群4 S T 24	墓群4 S T 24	墓群5 a S K 30	
型式	-	-	C-b	Fか	-	-	A-a	B-a	F-a	G	B or D	
水鉢・花生 タイプ	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	
寸法 (cm)	総奥行	(11.5)	12.7	20.6	34.5	7.9	(26.6)	41.7	38.1	42.5	20.9	(18.6)
	総幅	(28.8)	33.0	32.2	49.8	10.5	(26.4)	43.6	46.9	42.8	29.5	(11.5)
	総高	(16.8)	9.5	15.1	(19.0)	16.1	(12.2)	11.4	25.4	19.1	7.6	-
	下高	-	-	10.7	-	-	-	7.6	20.2	-	3.7	13.0
	上奥行	-	-	15.9	-	-	-	29.8	17.0	-	15.2	-
	上幅	-	-	22.0	-	-	-	32.0	31.0	-	20.5	(5.0)
前部高	-	-	-	-	-	-	-	19.7	-	-	11.2	
ホゾ	-	-	凹	-	-	-	-	-	-	-	-	
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	-	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	
観察備考	加工痕あり (9.1× 5.4)			風化激し v)		1か所横 痕あり(7.3 ×4.1)			痕あり (計測不 可)			

報告番号	台12	台13	台14	台15	台16	台17	台18	台19	台20	台21	台22	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群5 a S T 58	墓群7 b S T 49	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群9 b S K 38	墓群10 b S K 50	墓群11 a S T 74	墓群12 S T 196	墓群12 a	墓群13 b S T 144	墓群13 b S T 144	
型式	F-b	F-b	D-a	-	E-b	F-b	F-a	-	I	F-a	-	
水鉢・花生 タイプ	1	3	1	-	-	3	3	-	1	3	-	
寸法 (cm)	総奥行	33.2	26.0	56.8	(9.5)	21.2	24.8	25.4	(9.5)	18.2	28.4	(11.0)
	総幅	35.5	27.4	77.0	(139)	22.7	27.2	32.4	(17.1)	34.2	31.7	(24.0)
	総高	13.1	9.2	28.6	(14.5)	10.5	10.8	10.8	(18.7)	15.2	11.5	(8.0)
	下高	-	-	23.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	上奥行	-	-	26.5	-	-	-	-	-	-	-	-
	上幅	-	-	61.5	-	-	-	-	-	-	-	-
前部高	-	-	21.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
ホゾ	凹	凹	-	-	凹	凹	-	-	-	-	-	
石材	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	-	閃緑岩	花崗岩	鳥島石	
観察備考			碑29・墓 4とセット	花生一部 残る				2か所横 痕あり (5.3×3.6)			台座でない 可能性 有	

報告番号	台23	台24	台25	台26	台27	台28	台29	台30	台31	台32	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群14 b S K 61	墓群14 b S K 61	墓群14 b S K 61	墓群14 b S K 61	墓群14 b S K 61	墓群14 b S T 138	墓群14 S T 138・424	墓群15 S K 89	墓群15 S K 89	墓群15 b S T 231	
型式	F-b	F-b	D-a	C-a	B-b	I	A or C	F-a	A or C	A-a	
水鉢・花生 タイプ	3	3	1	-	1	1	-	1	-	-	
寸法 (cm)	総奥行	23.5	32.8	30.5	20.2	61.5	22.5	(10.1)	33.5	(16.2)	19.3
	総幅	28.6	26.4	35.0	23.6	52.5	45.6	(19.2)	38.5	22.0	20.8
	総高	17.7	15.7	21.2	8.0	-	16.5	7.3	18.0	9.5	12.9
	下高	-	-	18.4	5.5	-	-	5.7	-	6.4	11.6
	上奥行	-	-	14.4	14.2	25.0	-	(9.7)	-	(12.2)	13.8
	上幅	-	-	26.5	14.5	47.3	-	12.0	-	14.0	12.4
前部高	-	-	13.3	-	-	-	-	-	-	-	
ホゾ	凹	凹	-	-	凹	-	-	-	-	-	
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	砂岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	
観察備考							2辺に反花残る				

報告番号	台33	台34	台35	台36	台37	台38	台39	台40	台41	台42	台43	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群15b S T 231	墓群16 S K 157	墓群16 S K 157	墓群16 S K 157	墓群16 S K 157	墓群17 S T 188	墓群17 S T 188	墓群17 a S T 198 下層	S K 99 中層	S K 99 中層2	S K 99 中層2	
型式	F-b	I	I	-	-	-	C-a	C-b	C-a	C-e	C-a	
水鉢・花生 タイプ	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
寸法 (cm)	総奥行	29.9	(13.9)	130	(18.6)	(14.1)	(11.0)	30.8	22.6	20.5	19.0	20.0
	総幅	34.9	(33.8)	(18.0)	(26.1)	(28.4)	(15.0)	36.8	33.7	22.4	27.3	19.4
	総高	14.9	(14.8)	150	(26.3)	(11.0)	(7.0)	9.3	15.2	8.9	12.3	8.6
	下高	-	-	-	-	-	-	6.1	11.1	7.4	9.3	5.8
	上奥行	-	-	-	-	-	-	24.9	22.5	13.5	13.3	13.5
	上幅	-	-	-	-	-	-	24.8	-	15.7	18.1	13.5
	前部高	-	-	-	-	-	-	-	16.4	-	-	-
ホゾ	凹	-	-	-	-	-	-	凹	-	凹	-	
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	豊島産 閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	
観察備考				1号所機 痕あり(5.6 × 4.1)						A-cの 可能性有		

報告番号	台44	台45	台46	台47	台48	台49	台50	台51	台52	台53	台54	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	S E 100 下層并戸	S E 113 上層	S E 113 上層	S E 113 中層2	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
型式	C-a	-	-	C-a	A-a	C-c	F-b	Ⅱ	B-b	D-a	A-a	
水鉢・花生 タイプ	-	-	花人有	-	-	-	1	1	1	3	-	
寸法 (cm)	総奥行	19.8	(14.9)	(10.0)	17.0	32.5	39.7	34.7	26.1	50.6	31.1	49.5
	総幅	22.9	(18.3)	(20.6)	16.5	35.0	44.9	(29.0)	82.0	53.5	34.9	52.3
	総高	9.7	(10.4)	(14.7)	13.3	16.4	14.7	20.1	19.2	24.5	15.0	15.8
	下高	7.0	-	-	11.5	12.2	9.8	-	-	19.2	13.0	11.0
	上奥行	15.2	-	-	10.2	40.6	31.5	-	-	23.4	12.0	36.0
	上幅	16.0	-	-	10.3	41.0	31.0	-	-	37.9	23.2	47.2
	前部高	-	-	-	-	-	-	-	-	18.0	12.7	-
ホゾ	-	-	-	凹	-	凹	凹	-	凹	-	凹	
石材	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	
観察備考		風化激し い				ホゾ穴背 面に寄る						

報告番号	台55	台56	台57	台58	台59	台60	台61	台62	台63	台64	台65	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
型式	C-c	D-b	F-a	F-a	C-a	F-a	D-b	D-b	C-b	C-a	F-b	
水鉢・花生 タイプ	-	1	3	3	-	3	2	2	-	-	1	
寸法 (cm)	総奥行	35.0	45.3	20.0	23.3	24.6	23.8	41.2	50.3	16.2	13.8	35.8
	総幅	54.4	55.0	22.5	30.9	25.1	30.1	48.4	60.4	30.0	21.4	42.0
	総高	22.0	23.0	8.5	14.9	7.4	13.0	26.7	33.4	9.0	1.7	11.1
	下高	20.8	18.3	-	-	5.1	-	22.5	28.1	6.3	11.2	-
	上奥行	25.4	21.1	-	-	19.3	-	20.5	25.0	12.7	10.4	-
	上幅	42.6	40.6	-	-	16.8	-	35.5	47.8	22.2	13.2	-
	前部高	-	14.7	-	-	-	-	15.5	24.2	-	-	-
ホゾ	凹	凹	-	-	-	-	凹	凹	凹	-	凹	
石材	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	
観察備考												

北地区ほか出土台座

報告番号	台66	台67
トレンチ	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削
型式	F	-
水鉢・花生タイプ	1	-
寸法 (cm)	総奥行	32.0 (33.2)
	総幅	(21.5) (20.2)
	総高	13.7 (9.2)
	下高	-
	上奥行	-
	上幅	-
前部高	-	
ホゾ	-	-
石材	花崗岩	閃緑岩
観察備考		

報告番号	台68	台69	台70	台71	
トレンチ	3トレンチ東側	3トレンチ東側	3トレンチ東側	3トレンチ東側	
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
型式	F-b	D-b	F-b	F-b	
水鉢・花生タイプ	1	1	3	3	
寸法 (cm)	総奥行	32.0	-	24.0	-
	総幅	40.0	-	-	-
	総高	19.0	34.0	12.0	11.0
	下高	-	-	-	-
	上奥行	-	30.0	-	-
	上幅	-	44.0	-	-
前部高	-	-	-	-	
ホゾ	凹	凹	凹	凹	
石材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	
観察備考					

南地区出土笠塔婆(笠部)

報告番号	笠1	笠2	笠3	笠4	笠5	笠6	笠7	笠8	笠9	笠10	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群4 S T 24	墓群4 S T 24	墓群5 a S K 30	墓群8 S K 40	墓群8 S K 40	墓群10 b S K 50	墓群13 S T 144	墓群15 a S K 167	墓群15 a S K 167	墓群16 b S K 157	
寸法 (cm)	幅	52.2	47.3	45.6	76	66.1	21.2	28.9	33.1	34.3	33.2
	高	20.6	15.9	22	18.2	25.9	7	9.2	12.9	13.6	12.0
	奥行	33.3	22	24.5	34.6	37.6	14.9	15.8	18.3	21.4	18.7
	a	8.7	8.5	8.5	10.9	9.2	1.8	2.6	6.1	6.4	7.3
	b	6.0	4.5	4.7	5.9	6.1	1.8	2.6	5.0	3.5	5.2
c	-	-	-	-	-	-	-	2.6	-	2.6	
ホゾ		凹	凹	凹	凹	凹	凹	凹	凹	凹	
観察備考		一部未調整		碑29・台14とセット				背面調整跡			

報告番号	笠11	笠12	笠13	笠14	笠15	笠16	笠17	
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	
出土地点	墓群16 b S K 157	墓群16 a S T 240	墓群16 S T 460	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	
寸法 (cm)	幅	37.2	31.3	49	34	32.9	48.3	62.8
	高	13.5	11.2	21.1	15	11	17.5	28.2
	奥行	23.9	17.9	33.9	22.5	21.5	37.9	36.6
	a	2.3	7.3	8.1	7.7	2.3	6.5	12.2
	b	2.3	4.7	4.3	5.7	2.3	4.5	7.3
c	-	2.3	-	3.1	-	-	-	
ホゾ	-	凹	-	-	凹	-	-	
観察備考	背面調整跡、一部欠損	側面に溝無				一部未調整		

南地区出土石仏

元番号	仏1	仏2	仏3	仏4	
トレンチ	4	4	4	4	
出土地点	S E 113	重機掘削	重機掘削	-	
寸法 (cm)	幅	36.8	31.1	38.4	38.1
	高	31.9	43.6	58.8	24.1
	仏高	20.5	21.6	52.5	19.8
	奥行	17	17.6	21.5	19.5
	仏奥行	3.6	計測無	6.9	8.7
観察備考	口に紅あり				

北地区出土石仏

元番号	仏5	
トレンチ	6	
出土地点	S X 10	
寸法 (cm)	幅	12.8
	高	14.9
	仏高	9.7
	奥行	12.6
仏奥行	1.1	
観察備考		

圖 版

図版第1 寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区北西部(6トレンチ)全景(北西から)



(2)北地区北西部(6トレンチ)全景(南西から)



(1)北地区北西部(6トレンチ)全景(南東から)



(2)北地区中央部(1トレンチ)全景(北から)



(1)北地区溝S D18(南から)



(2)北地区溝S D18(北から)



(1)北地区溝 S D 18断面(北から)



(2)北地区溝 S D 18(南西から)



(1)北地区土坑S K20(東から)



(2)北地区土坑S K20(北から)



(1)北地区土坑S K01・02(東から)



(2)北地区土坑S K03(西から)



(1)北地区柱穴S P13～17、土坑S K10(西から)



(2)北地区土坑S K10断面(南から)



(1)北地区土坑S K09・21(南から)



(2)北地区土坑S K21断面(南から)



(1)北地区土坑S K08断面(南から)



(2)北地区土坑S K08(南から)



(1)北地区井戸S E 29(南から)



(2)北地区井戸S E 29(北西から)



(1)北地区溝 S D 12・23(西から)



(2)北地区土坑 S K 19断面(西から)



(1)北地区土坑S K04(南から)



(2)北地区土坑S K04(北西から)



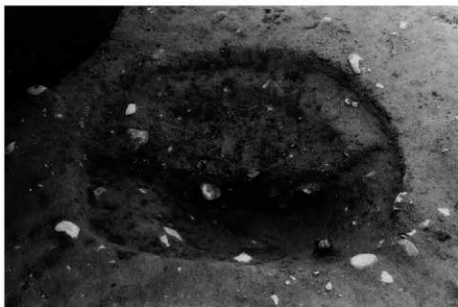
(1)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)



(2)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)



(1)北地区土坑 S K01(南から)



(2)北地区柱穴 S P15(南から)



(3)北地区柱穴 S P11(南から)

(1)北地区柱穴 S P 06(南から)



(2)北地区柱穴 S P 06(東から)



(3)北地区柱穴 S P 07(北から)

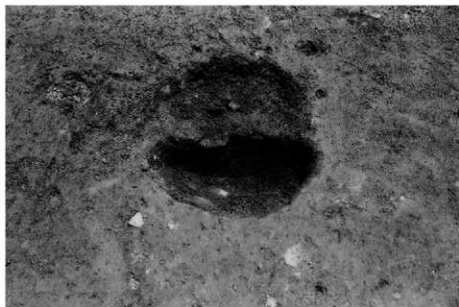




(1)北地区柱穴 S P17(南から)



(2)北地区柱穴 S P51(西から)



(3)北地区柱穴 S P54(西から)



(1)北地区北東部(3トレンチ)全景(北西から)



(2)北地区北東部(3トレンチ)全景(南東から)



(1)北地区柱穴S P 31 ~ 33・土坑S K 30・34・35検出状況(西から)



(2)北地区土坑S K 36(南西から)



(1)北地区溝 S D 37(南から)



(2)北地区土坑 S K 42・43、柱穴 S P 44・45(南東から)



(1)北地区溝 S D91、柱穴 S P92・93(南東から)



(2)北地区土坑 S K97・99、溝 S D100(北西から)



(1) 北地区土坑 S K 96 (南から)



(2) 北地区土坑 S K 96 断面 (西から)



(1)北地区土坑S K96礎石(南東から)



(2)北地区土坑S K96(西から)



(1)北地区土坑S K96(南から)



(2)北地区土坑S K97・99(西から)



(1)北地区土坑S K 99断面(西から)



(2)北地区土坑S K 97(西から)



(1)北地区溝 S D 100(東から)



(2)北地区溝 S D 100断面(東から)



(1)北地区土坑S K 101(東から)



(2)北地区土坑S K 101断面(東から)



(1)北地区北西部(6トレンチ)断ち割り状況(南東から)



(2)北地区北西部(6トレンチ)断ち割り断面(東から)



(1)北地区中央部(3トレンチ)断面(東から)



(2)北地区北東部(3トレンチ)断ち割り状況(西から)



(1)北地区南部(8トレンチ)断ち割り状況(北西から)



(2)北地区西部(11トレンチ)断面(南から)



(1)南地区北部(5トレンチ)全景(北から)



(2)南地区北部(5トレンチ)全景(東から)



(1)南地区中央部(2トレンチ西半) (南から)



(2)南地区中央部(2トレンチ東半) (南から)



(1)南地区横列S A01(東から)



(2)南地区中央部(2トレンチ東半)柱穴群(東から)



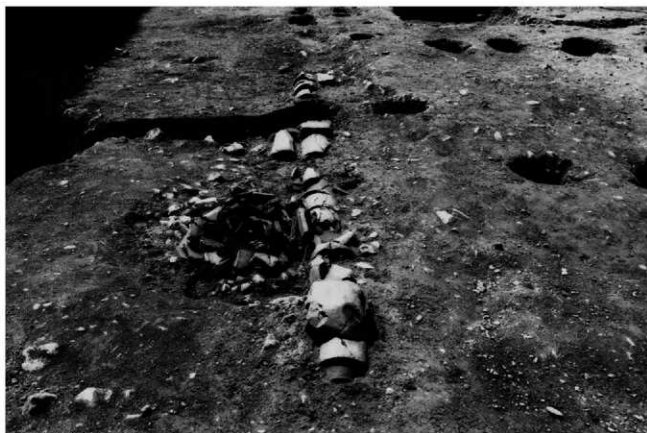
(1)南地区建物S B01(西から)



(2)南地区瓦敷S X529(東から)



(1) 南地区瓦列 S X 629(西から)



(2) 南地区瓦列 S X 629(東から)



(1)南地区瓦列 S X 630(南から)



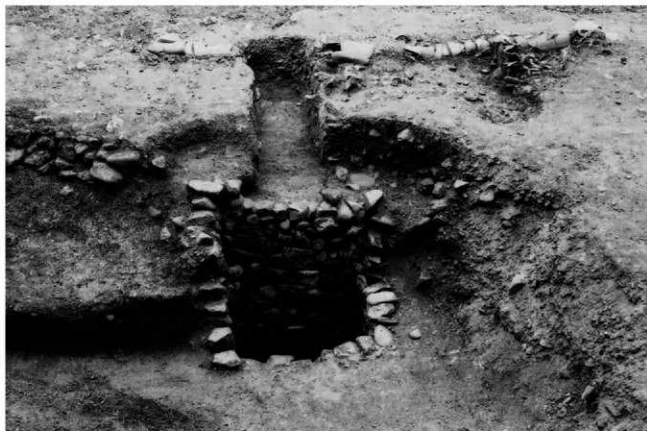
(2)南地区瓦列 S X 630(北から)



(1)南地区瓦列 S X 630(西から)



(2)南地区石室 S K 628断面(南から)



(1)南地区石室 S K 628、瓦列 S X 629(南から)



(2)南地区石室 S K 628(南から)



(1) 南地区石室 S K 628(東から)



(2) 南地区不明遺構 S X 609(南から)



(1)南地区不明遺構 S X631(西から)



(2)南地区土坑 S K526東半(西から)



(1)南地区土坑S K 526東半(東から)



(2)南地区土坑S K 526断面(東から)



(1)南地区南西部(7トレンチ) (東から)



(2)南地区南西部(7トレンチ) (東から)



(1)南地区溝 S D 738、碟敷 S X 739、溝 S D 741(南東から)



(2)南地区溝 S D 738、碟敷 S X 739(南東から)



(1)南地区溝 S D741(東から)



(2)南地区溝 S D741(南東から)



(1) 南地区溝 S D738断面
(第42図 a - a'・西から)



(2) 南地区溝 S D741断面
(第43図 b - b'・東から)



(3) 南地区溝 S D741断面
(第43図 a - a'・東から)

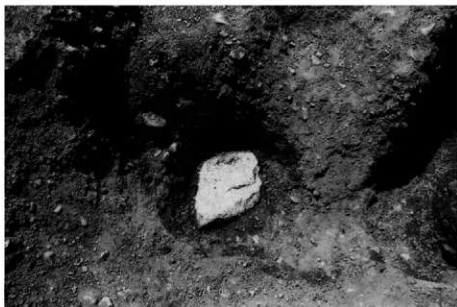
(1)南地区柱穴 S P714、溝 S D817
(南東から)



(2)南地区溝 S D817
(南東から)



(3)南地区柱穴 S P714
(南東から)





(1)南地区井戸 S E 711(南東から)



(2)南地区井戸 S E 711(南東から)



(1) 南地区井戸 S E 706・707 (東から)



(2) 南地区井戸 S E 706 (西から)



(1)南地区溝 S D124(北から)



(2)南地区溝 S D124(北東から)



(1)南地区溝 S D124(北から)



(2)南地区南西部(7トレンチ)断面(南東から)



(1) 南地区北部(9トレンチ)全景
(北西から)



(2) 南地区北部(9トレンチ)断面
(北西から)



(3) 南地区北部(10トレンチ)断面
(東から)



(1)南地区北東部(4トレンチ)検出状況(南西から)



(2)墓地完掘状況(北から)



(1) 墓地完掘状況(西から)



(2) 墓地完掘状況(北西から)



(1) 墓地東壁断面(南西から)



(2) 墓地東壁断面(西から)



(1) 墓地墓群 2 検出状況(北から)



(2) 墓地墓群 2 墓穴 S T 87 付近断面(北東から)



(1) 墓地墓群 2 墓穴 S T 85 (北西から)



(2) 墓地墓群 2 墓穴 S T 85 (北西から)



(1) 墓地墓群 2 墓穴 S T 85 遺物出土状況(北から)



(2) 墓地墓群 2 墓穴 S T 21 人骨・遺物出土状況(北から)



(1) 墓地墓群 2 墓穴 S T 47 銭貨出土状況(北西から)



(2) 墓地墓群 2 土坑 S K 66 墓石出土状況(北から)



(1) 墓地墓群 3 不明土坑 S X363 断面 (西から)



(2) 墓地墓群 3 墓穴 S T55 墓石出土状況 (東から)



(1) 墓地墓群 3 墓穴 S T55 甕棺出土状況(東から)



(2) 墓地墓群 3 墓穴 S T55 甕棺内墓石出土状況(東から)



(1) 墓地墓群 3 墓穴 S T55 甕棺完掘状況(東から)



(2) 墓地墓群 3 墓穴 S T355 遺物出土状況(西から)



(1) 墓地墓群 3 墓穴 S T 190 墓石出土状況(西から)



(2) 墓地墓群 3 土坑 S K 78 遺物出土状況(北から)



(1) 墓地墓群 4 墓穴 S T24 墓石出土状況(東から)



(2) 墓地墓群 4 墓穴 S T24 断面(南から)



(1) 墓地墓群 4 墓穴 S T24 断面(南から)



(2) 墓地墓群 4 墓穴 S T24 棺痕跡(南から)



(1) 墓地墓群 4 墓穴 S T 197 遺物出土状況 (南から)



(2) 墓地墓群 4 墓穴 S T 197 遺物出土状況 (南から)



(1) 墓地墓群 5 土坑 S K 30 上層墓石出土状況(南から)



(2) 墓地墓群 5 土坑 S K 30 下層墓石出土状況(東から)



(1) 墓地墓群 5 墓穴 S T31 人骨出土状況(西から)



(2) 墓地墓群 5 墓穴 S T31 木質断面(北西から)



(1) 墓地墓群 6・7 墓穴 S T 48・49 断面(北から)



(2) 墓地墓群 7 墓穴 S T 49 甕棺検出状況(北から)



(1) 墓地墓群 7 墓穴 S T 49 甕棺内断面(北から)



(2) 墓地墓群 7 墓穴 S T 49 甕棺完掘状況(北から)



(1) 墓地墓群 8 土坑 S K 40 墓石出土状況(北から)



(2) 墓地墓群 9 墓穴 S T 29 断面(北から)



(1) 墓地墓群 9 墓穴 S T 29 甕棺内断面(北から)



(2) 墓地墓群 9 墓穴 S T 29 甕棺完掘状況(北から)



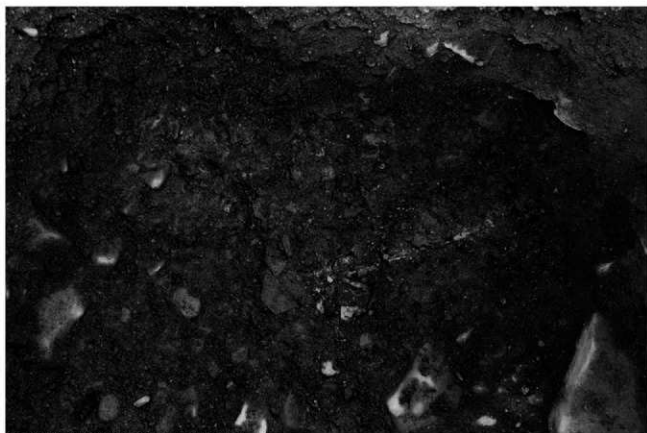
(1) 墓地墓群10墓穴S T50断面(西から)



(2) 墓地墓群10墓穴S T50磁骨器出土状況(西から)



(1) 墓地墓群11墓穴S T69木質出土状況(東から)



(2) 墓地墓群11墓穴S T69漆器出土状況(東から)



(1) 墓地墓群11墓穴S T70木質・遺物出土状況(東から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T62付近断面(北東から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T62人骨出土状況(東から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T54(東から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T 54甕棺検出状況(東から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T 54甕棺内人骨出土状況(東から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T54甕棺完掘状況(東から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T54断面(東から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T 63人骨出土状況(東から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T 56・57断面(東から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T56人骨・遺物出土状況(西から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T196付近断面(北西から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T218人骨出土状況(西から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T219人骨・遺物出土状況(西から)



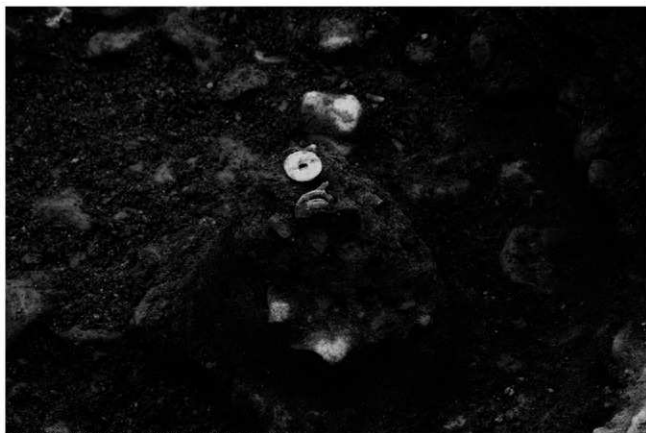
(1) 墓地墓群12墓穴S T162人骨出土状況(西から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T162人骨出土状況(西から)



(1) 墓地墓群12墓穴S T162人骨・遺物出土状況(西から)



(2) 墓地墓群12墓穴S T174銭貨出土状況(南西から)



(1) 墓地基群12墓穴S T164木質出土状況(東から)



(2) 墓地基群13墓穴S T414付近断面(北東から)



(1) 墓地墓群13墓穴S T144墓石出土状況(西から)



(2) 墓地墓群13墓穴S T215・226遺物出土状況(西から)



(1) 墓地墓群13墓穴S T215断面(西から)



(2) 墓地墓群13墓穴S T215遺物出土状況(西から)



(1) 墓地墓群13墓穴S T215遺物出土状況(北から)



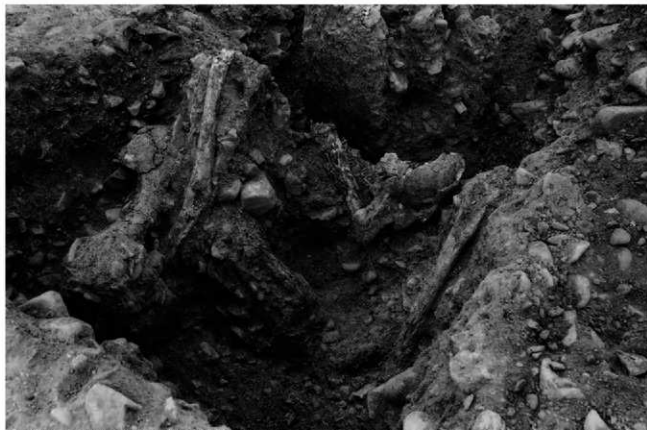
(2) 墓地墓群13墓穴S T226遺物出土状況(西から)



(1) 墓地墓群13墓穴S T 140・141人骨出土状況(北から)



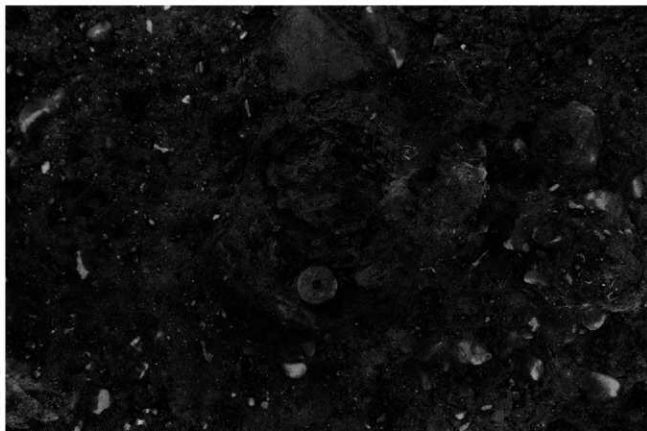
(2) 墓地墓群13墓穴S T 140人骨出土状況(東から)



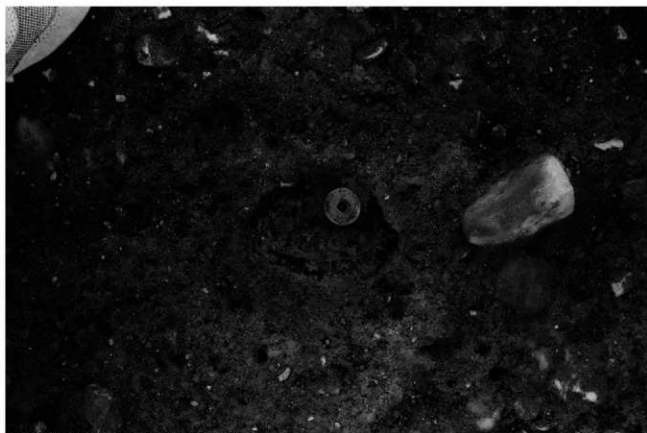
(1) 墓地墓群13墓穴S T141人骨出土状況(南東から)



(2) 墓地墓群13墓穴S T158遺物出土状況(東から)



(1) 墓地墓群13墓穴S T 158南側出土漆器碗(東から)



(2) 墓地墓群13墓穴S T 158北側出土漆器碗(東から)



(1) 墓地墓群14土坑S K61上層墓石出土状況(北から)



(2) 墓地墓群14土坑S K61下層墓石出土状況(南から)



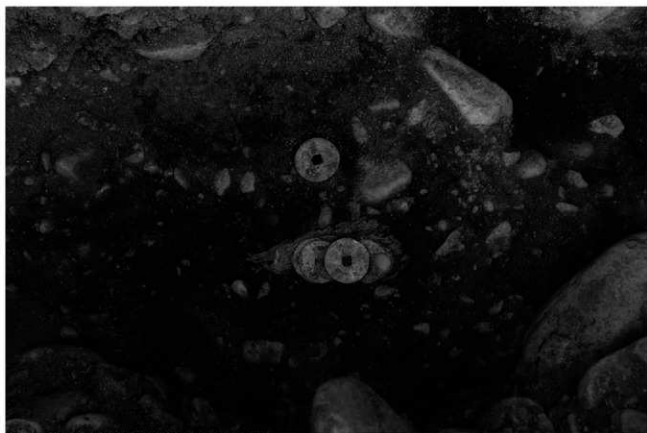
(1) 墓地墓群14墓穴S T 424遺物出土状況(西から)



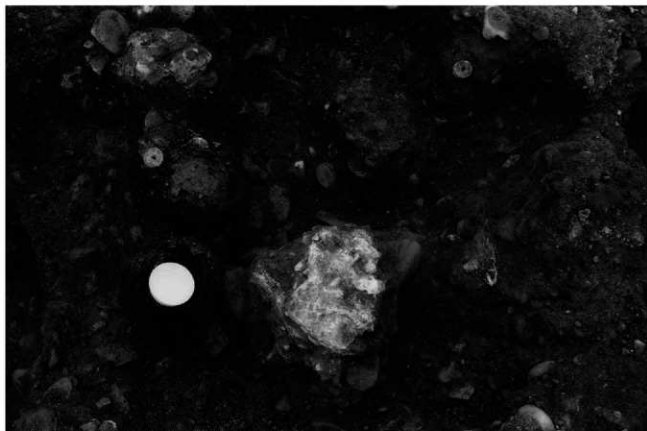
(2) 墓地墓群14墓穴S T 191遺物出土状況(西から)



(1) 墓地墓群14墓穴S T238蔵骨器出土状況(南から)



(2) 墓地墓群14墓穴S T224銭貨出土状況(東から)



(1) 墓地墓群14墓穴S T 221人骨・遺物出土状況(西から)



(2) 墓地墓群14墓穴S T 207人骨・遺物出土状況(北東から)



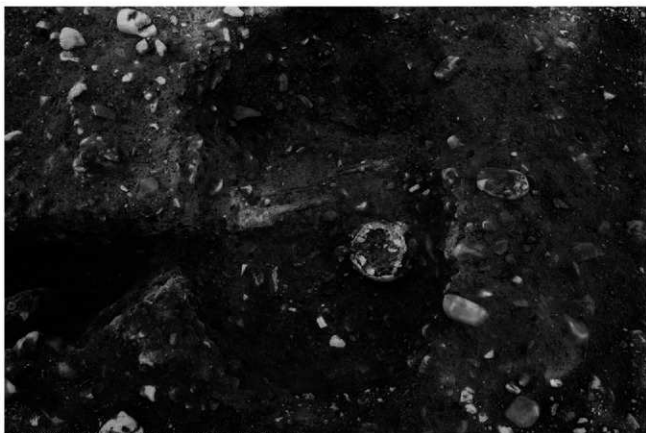
(1) 墓地墓群14墓穴S T 201・202人骨・遺物出土状況(東から)



(2) 墓地墓群14墓穴S T 201人骨出土状況(東から)



(1) 墓地墓群14墓穴S T 201人骨出土状況(北から)



(2) 墓地墓群14墓穴S T 189人骨・木質出土状況(西から)



(1) 墓地墓群15土坑S K89墓石出土状況(南から)



(2) 墓地墓群15墓穴S T148付近断面(北東から)



(1) 墓地墓群15墓穴S T 180人骨出土状況(西から)



(2) 墓地墓群15墓穴S T 179断面(東から)



(1) 墓地墓群15墓穴S T179蔵骨器出土状況(東から)



(2) 墓地墓群15墓穴S T179人骨出土状況(西から)



(1) 墓地墓群15墓穴S T 179南側人骨出土状況(西から)



(2) 墓地墓群15墓穴S T 179北側人骨出土状況(西から)



(1) 墓地墓群15墓穴 S T 231・232・234・235人骨出土状況(南西から)



(2) 墓地墓群15土坑 S K 167断面(南から)



(1) 墓地墓群15墓穴S T 192人骨出土状況(南から)



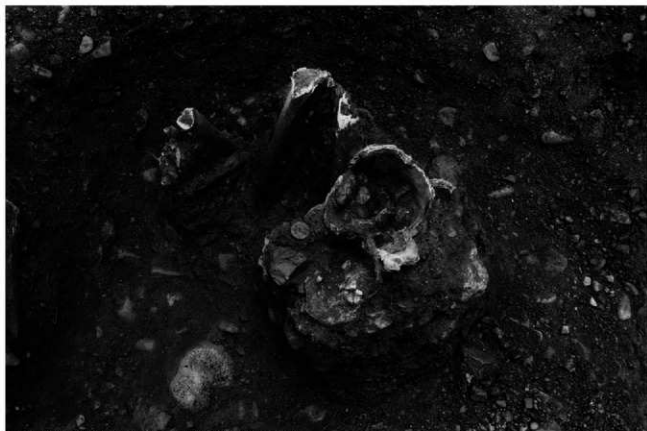
(2) 墓地墓群16土坑S K 157墓石出土状況(北から)



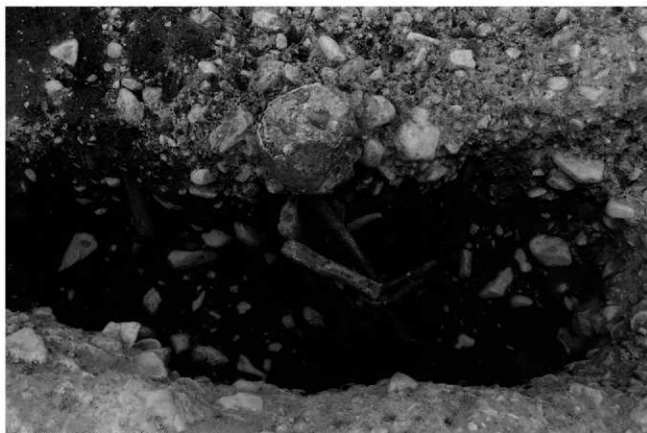
(1) 墓地墓群16土坑S K 157下層断面(南西から)



(2) 墓地墓群16墓穴S T 239・240人骨出土状況(西から)



(1) 墓地墓群16墓穴S T 239・240人骨出土状況(西から)



(2) 墓地墓群16墓穴S T 208断面(東から)



(1) 墓地墓群16墓穴S T208人骨出土状況(東から)



(2) 墓地墓群16墓穴S T456胎衣壺出土状況(西から)



(1) 墓地墓群17墓穴S T81・469断面(南から)



(2) 墓地墓群17墓穴S T81・469人骨出土状況(西から)



(1) 墓地墓群17墓穴S T81人骨出土状況(南から)



(2) 墓地墓群17墓穴S T81木質出土状況(西から)



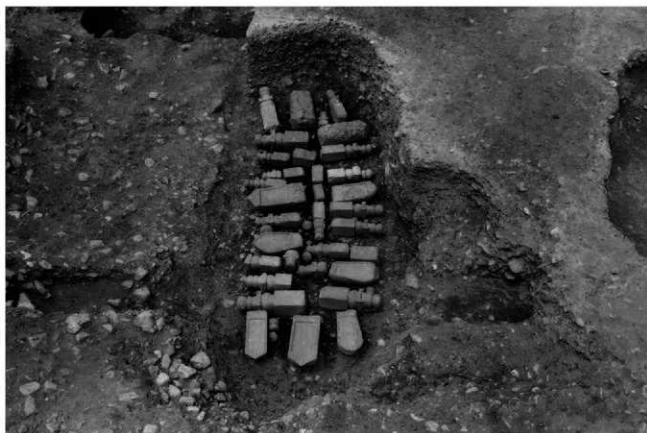
(1) 墓地土坑 S K 99 上層 (東から)



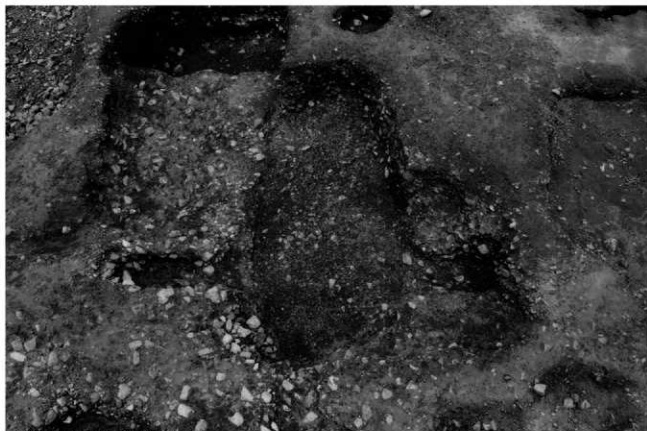
(2) 墓地土坑 S K 99 中層 (東から)



(1) 墓地土坑 S K 99 中層 2 (東から)



(2) 墓地土坑 S K 99 下層 (東から)



(1) 墓地土坑 S K 99 完掘状況 (東から)



(2) 墓地井戸 S E 113 上層 (東から)



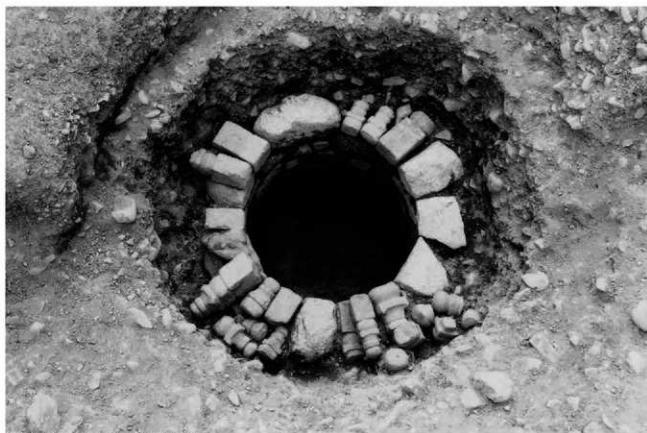
(1) 墓地井戸 S E 113 中層 (東から)



(2) 墓地井戸 S E 113 中層 2 (東から)



(1) 墓地井戸 S E 113 断面 (東から)



(2) 墓地井戸 S E 113 最下層 (東から)



(1) 墓地井戸 S E 113 完掘状況 (東から)



(2) 墓地土坑 S K 471・井戸 S E 100 断面 (西から)



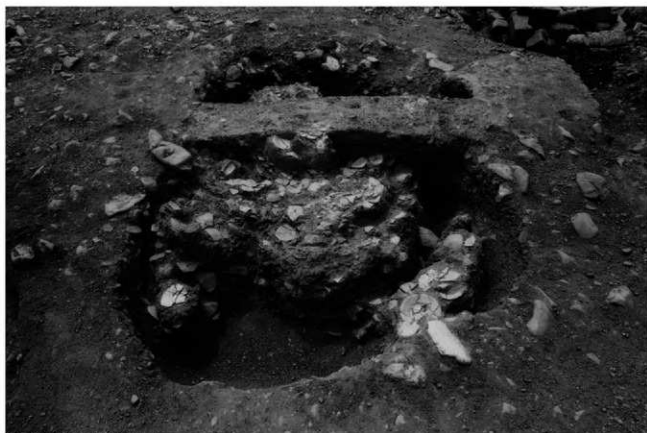
(1) 墓地土坑 S K 471・井戸 S E 100 断面(西から)



(2) 墓地井戸 S E 100 上層墓石出土状況(北から)



(1) 墓地井戸 S E 100(北から)



(2) 墓地土坑 S K 139(西から)



(1) 墓地土坑 S K 80 断面(西から)



(2) 墓地土坑 S K 80 遺物出土状況(東から)



(1) 墓地土坑 S K 80 遺物出土状況(西から)



(2) 墓地土坑 S K 111 断面(東から)



(1)南地区(4・7トレンチ)断ち割り状況(東から)



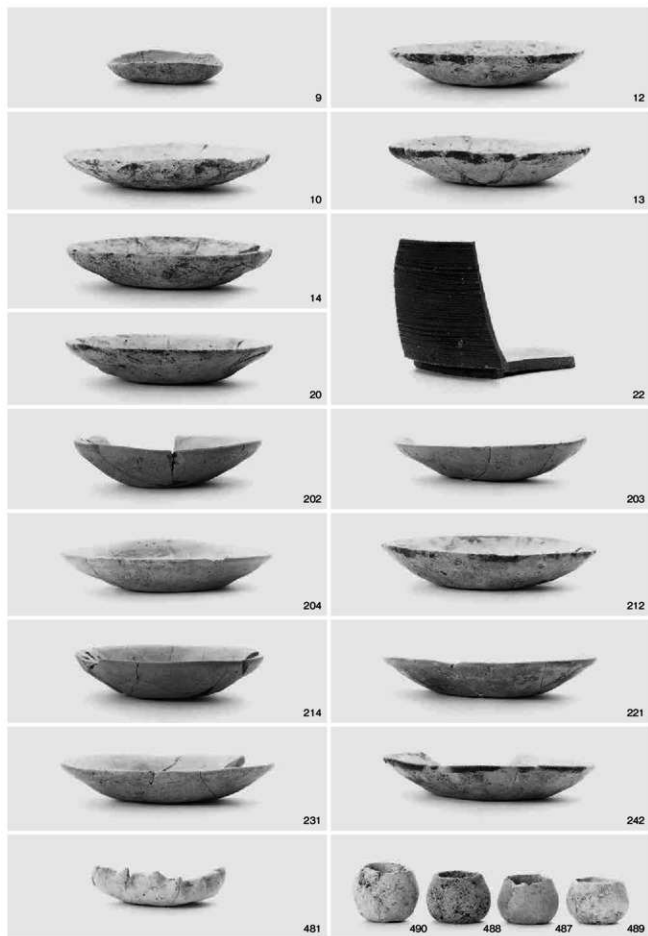
(2)南地区(4・7トレンチ)断ち割り状況(南西から)



(1)南地区中央部(2トレンチ東半)断ち割り断面(東から)



(2)南地区中央部(2トレンチ西半)断ち割り断面(東から)





252



255



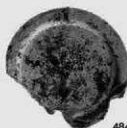
499



484



482



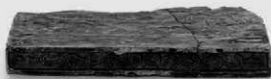
484



482



500



423



483



485



青銅 1



青銅 2



青銅 3



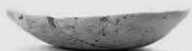
青銅 4



620



621



693



701



770



771



677



720



707



712



820



711



882



884



889



887



885



フタ
890

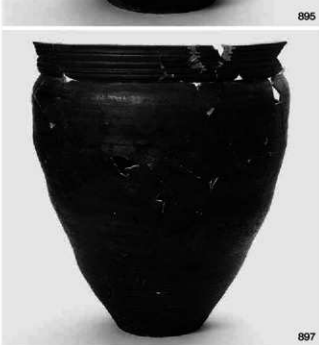
891

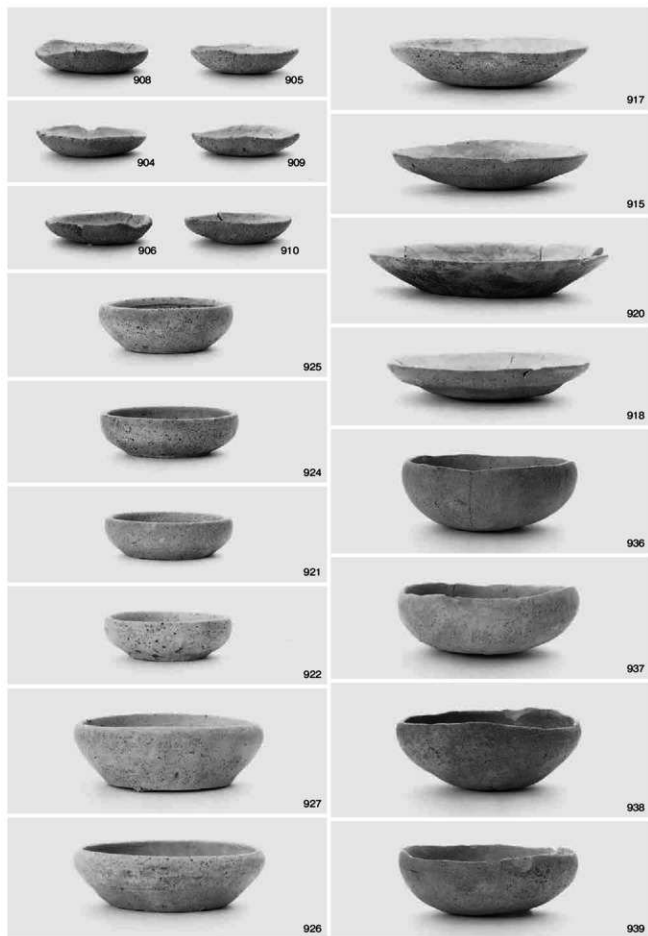


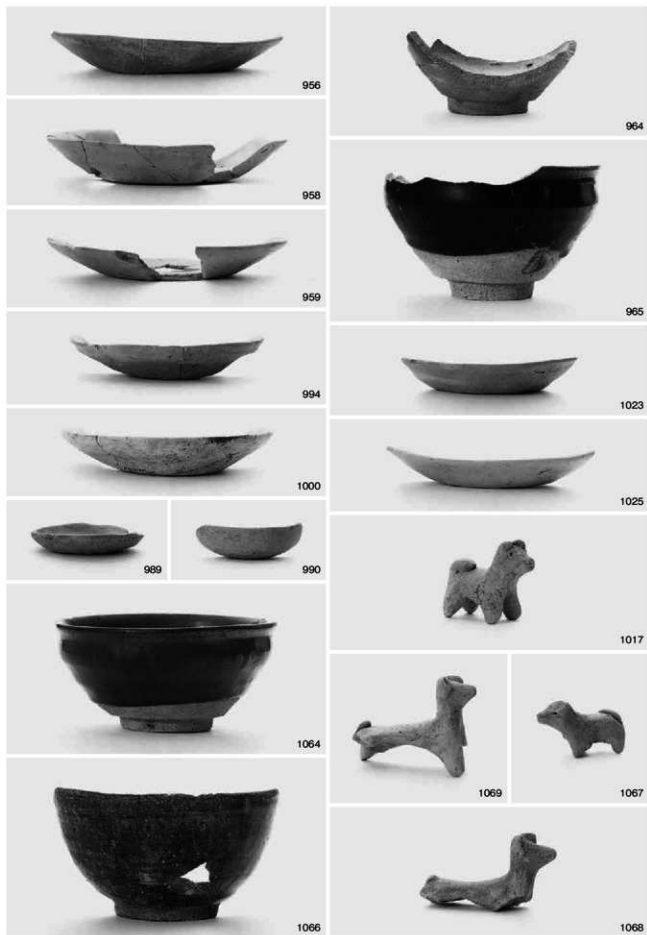
893

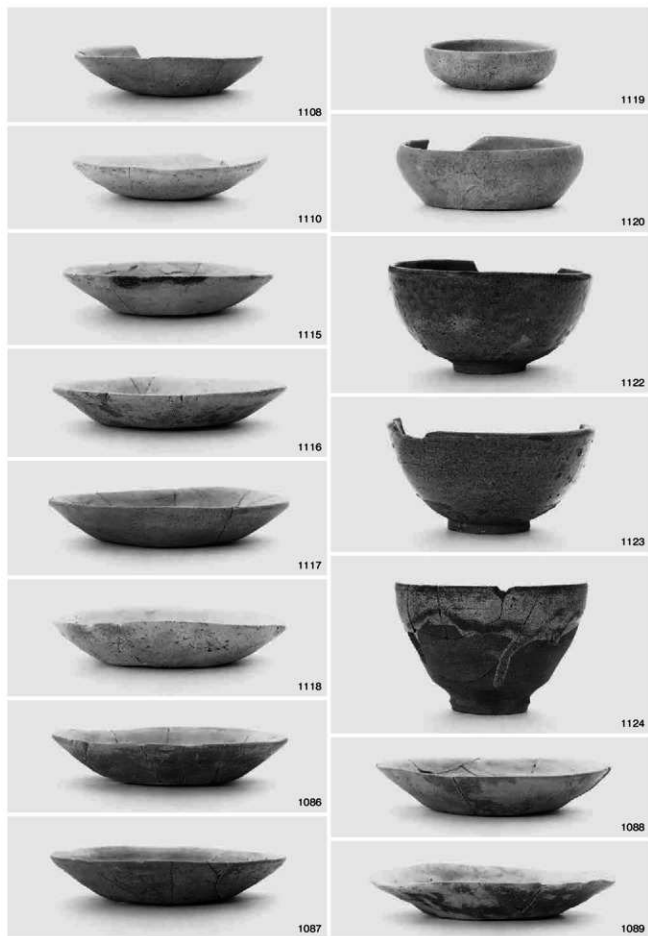


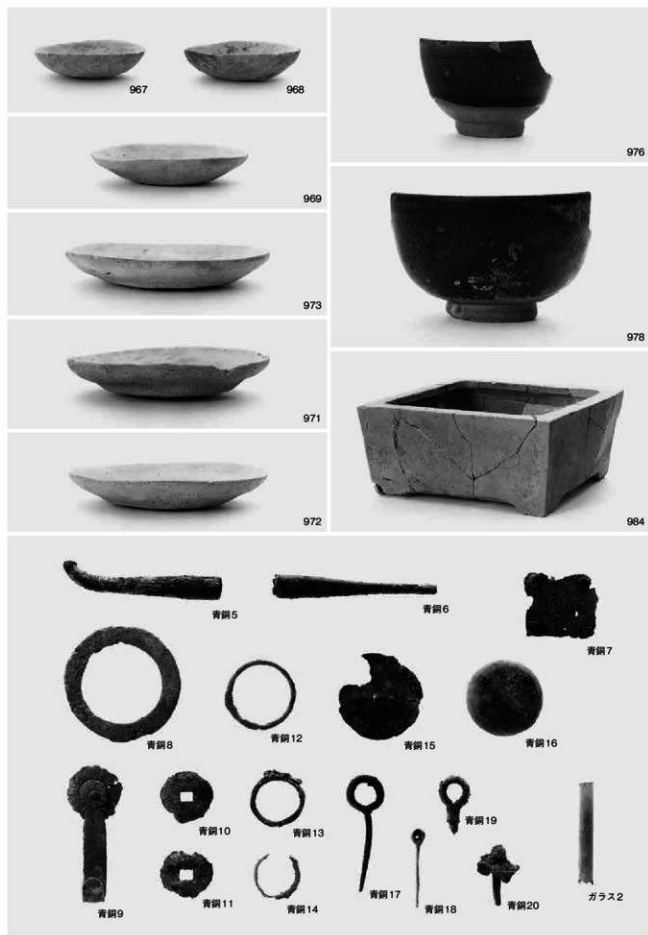
892













62



64



63



65



61



66



60



67





86



581



579



89



91



89



91



90



585



100



98



103



94



94



104



104



1160



1161



1163



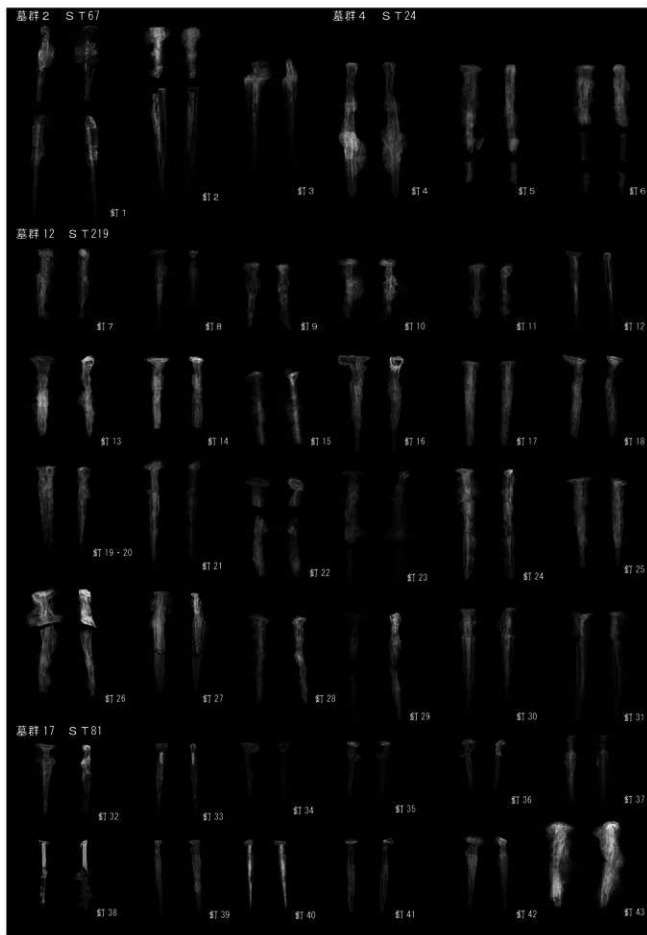
1162

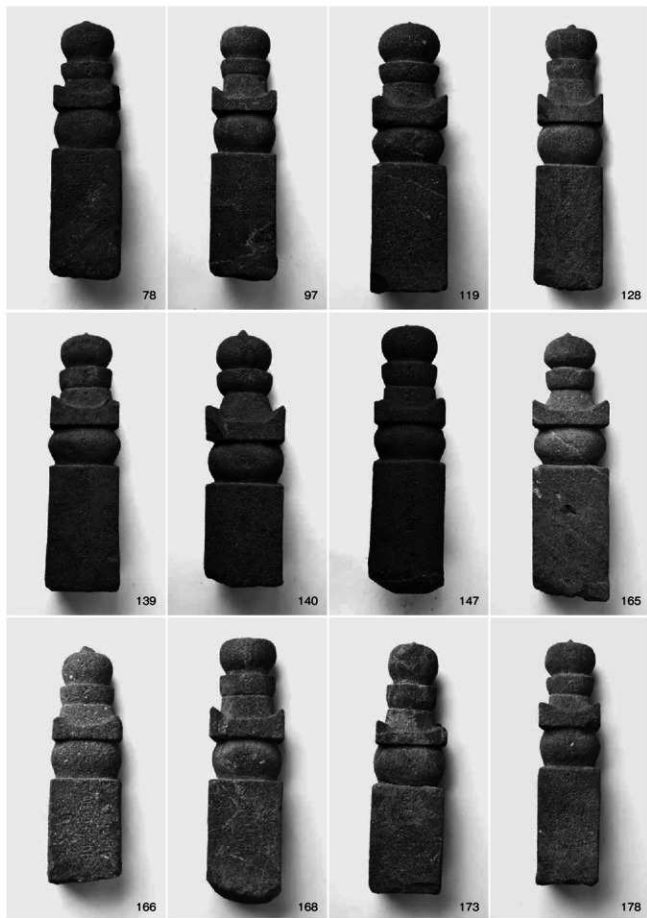


1164

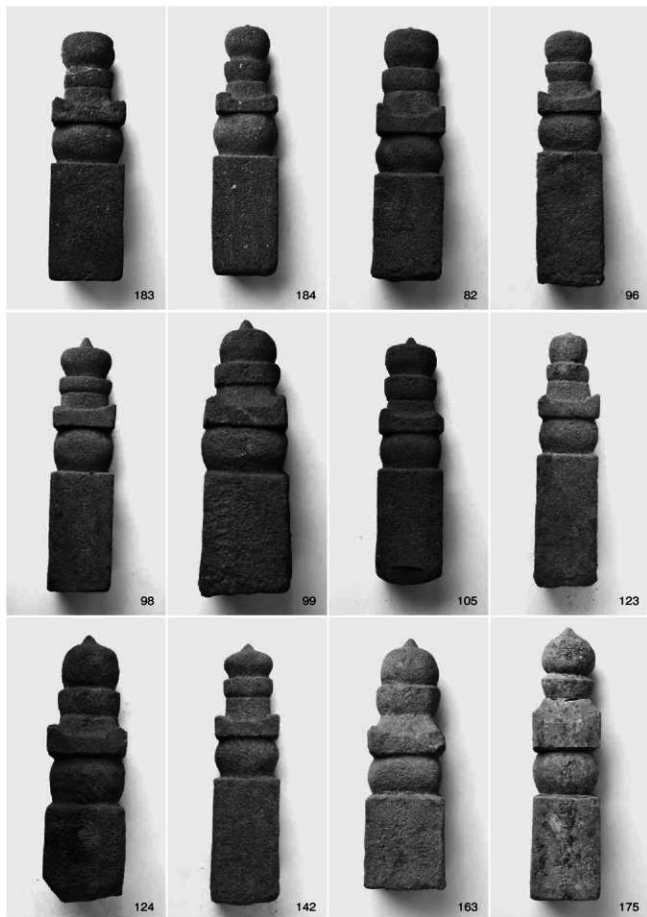


1164





S K99 一石五輪塔 1





碑 57



碑 63



碑 74



碑 80



碑 85



碑 87



碑 55



碑 73



碑 83



240・241



251



254・255



275・276



277・278



285



296



297・298



299



303・304



300・301



碑 113・114



碑 127・128



碑 148



碑 90・91



碑 111・112



碑 116
・117



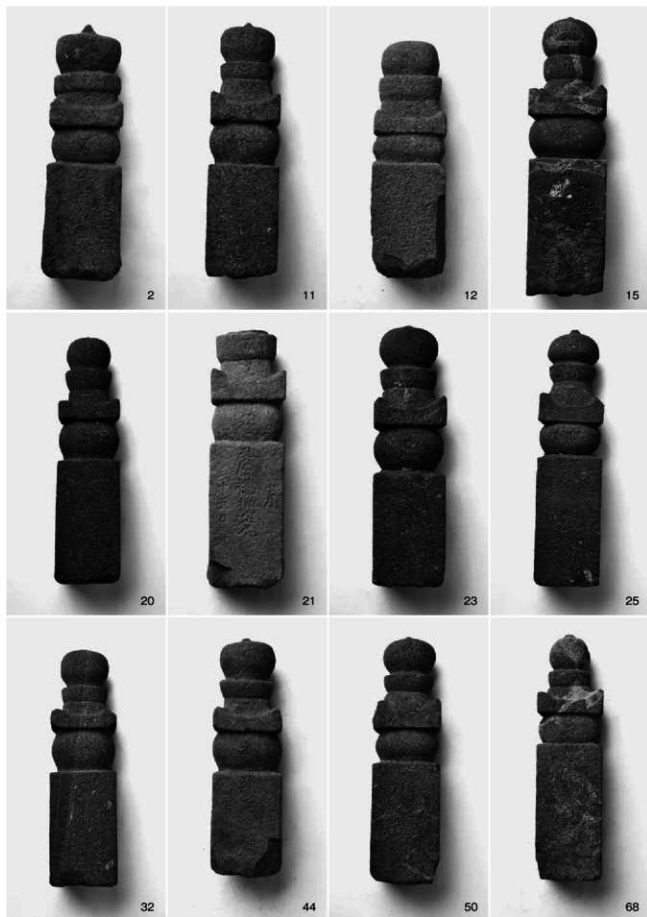
碑 118
・119



碑 131・132



碑 92・93



その他 一石五輪塔



碑 1



碑 5



碑 24



碑 30



碑 36



碑 86



碑 17



碑 18



碑 20



碑 22



碑 25



碑 38



碑 42



碑 43



碑 8



碑 51



碑 51



碑 26



碑 154



仏 1



仏 4



仏 2



仏 3



笠 14



笠 14



台 32



台 13

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第172冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第172冊
編著者名	中川和哉・綾部侑真・引原茂治・岡崎研一・清水早織
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺町南垣内40番の3 ☎075(933)3877
発行年月日	西暦2018年3月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
てらまちきゅういき・ ほうじょうじあと 寺町旧城・法成 寺跡	きょうとしかみぎよ うくてらまちこうじ んぐちさがるまつか げちょう 京都市上京区寺 町荒神口下ル松 蔭町131他	26102	170 242	35° 01' 14"	135° 46' 04"	20140609 ～ 20160802	5,210	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺町旧城・法成寺跡	寺院跡	安土桃山～江戸	柱穴・溝・土坑・井戸・墓	土師器・須恵器・陶磁器・漆器・瓦・銭貨・石製品・鉄製品・銅製品	

所収遺跡名	要 約
寺町旧城・法成寺跡	<p>藤原道長が寛仁4(1020)年に創建した法成寺跡の境内付近にあたるが、寺に関連する遺構の検出には至らなかった。寺町旧城の基盤となる鴨川の河川堆積土内から緑釉瓦片が出土した。豊臣秀吉は、天正18(1590)年に京都の町割りを再編成し、京都市中に散在していた寺院を加茂川西岸に移転させて形成した寺町の一面にもあたる。寛永14(1637)年の「洛中絵図」には、行願寺(革堂)・専念寺・常念寺・三福寺が描かれる。今回の調査で、これらの寺境がわかるとともに、常念寺の本堂と墓域などの配置が明らかになるなど、秀吉が形成した寺町の土地利用や、安土桃山時代から近世にかけての葬墓制の実態がわかる貴重な調査事例となった。</p>

京都府遺跡調査報告集 第172冊

平成30年3月30日

発行 公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Phone (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Phone (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141